

# 大宰府条坊跡 VII

1995

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡Ⅶ 正誤表

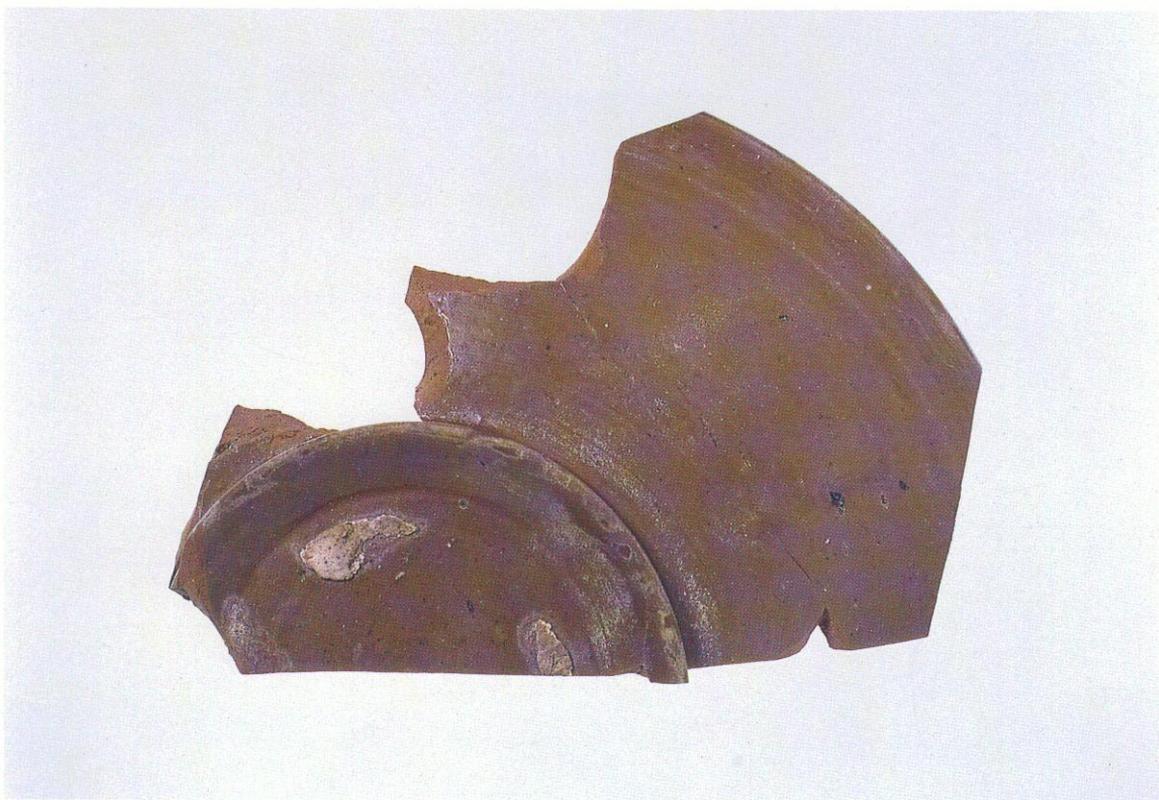
ページ	誤	正
167	最終行が欠落	28.5mであり、この高さで湧水していたと考えられる。 81次調査の井戸底はおよそ27m台で今

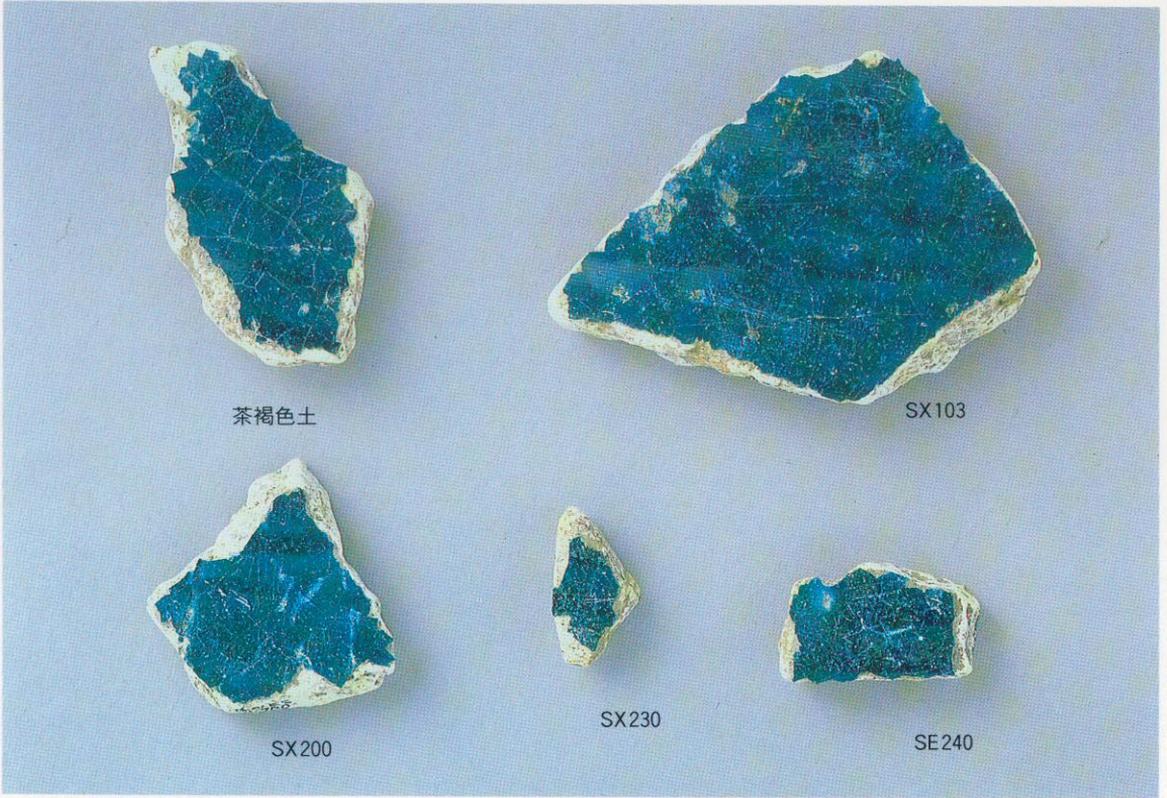
# 大宰府条坊跡 VII

1995

太宰府市教育委員会









81SK170出土緑釉陶器碗



第89次調査出土分銅

# 序

本書は、昭和58年度から平成元年度までに発掘調査をおこなないました大宰府条坊跡の埋蔵文化財の報告書であります。大宰府条坊跡は市域を広く覆う広大な遺跡であります。発掘調査が開始された昭和54年度から平成6年度までで調査地点は160ヶ所を越えております。その中で今回は条坊の一区画を推定できる地域をまとめて報告することとしました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用されることを願います。

本書の発刊にあたっては多くの方々のご理解とご協力をいただきました。特に地権者の皆様、調査に参加された作業員の方々に感謝いたします。

平成7年3月

大宰府市教育委員会

教育長 長野治己

# 例 言

1. 本書は太宰府市教育委員会が1983年から1990年までにおこなった大宰府条坊跡第44・65・81・89次調査の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は上記の主体によりおこなわれ、調査組織は本文の「はじめに」のなかで示している。
3. 遺構実測は主に調査担当者がおこなった。第81・89次調査の上層遺構面は(有)空中写真企画(代表 壇 睦夫)による空中写真を使用し、アジア航測(株)が図化をおこなった。遺物の実測と浄書は、調査担当者の中島恒次郎・田中克子・森田レイ子・境一美・鶴味加代子・秋吉由紀子・永田佳子・山本かおる・松隈里恵子・白水文恵がおこなった。
4. 遺構の写真撮影は調査担当者がおこない空中写真は(有)空中写真企画がおこなった。遺物の写真撮影は狭川真一(第44・65次)とフォトハウスおか(代表 岡 紀久夫)(第81・89次)がおこなった。
5. 遺構実測図および遺構配置図はすべて国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。よって図中に示される方位は特に注記のないかぎり座標北(G. N.)を指している。磁北の座標北との偏差は西偏6° 30′(1992年)である。
6. 本書に掲載される遺構番号は、以下のように理解される。



7. 本書に使用した分類は以下のものによっている。

陶磁器	『大宰府条坊跡Ⅱ付編』	太宰府市教育委員会	1983
瓦	『太宰府天満宮』	太宰府天満宮	1988
	石松好雄・高橋章「大宰府出土瓦について(二)」	『研究論集』4	
		九州歴史資料館	1978
硯	横田賢次郎「福岡県内出土の硯について」	『研究論集』9	
		九州歴史資料館	1983
焼塩壺	森田勉「焼塩壺考」	『大宰府古文化論叢』	
		九州歴史資料館	1983
8. 残存脂肪分析については中野益男先生(帯広畜産大学生物資源化学科)のご指導のもと、(株)ズコーシャ総合科学研究所に委託した。その成果は付編に示されている。ご指導いただきました先生には、深く謝意を表します。
9. 執筆は目次に示したとおりである。他は城戸康利がおこなった。
10. 本書の編集は城戸康利がおこなった。
11. 出土遺物および図面、写真等の記録類は太宰府市教育委員会が保管し、公開・活用していく。

# 目 次

I	はじめに	(城戸康利)	1
II	調査の概要		
1	第44次調査		7
	1) はじめに	(狭川真一)	7
	2) 層 位	( 〃 )	7
	3) 検出遺構	( 〃 )	8
	4) 出土遺物	(中島恒次郎)	10
	5) 小 結	(狭川真一)	18
2	第65次調査		21
	1) はじめに	(狭川真一)	21
	2) 層 位	( 〃 )	22
	3) 検出遺構	( 〃 )	22
	4) 出土遺物	(中島恒次郎)	26
	5) 小 結	(狭川真一)	49
3	第81次調査	(城戸康利)	51
	1) はじめに		51
	2) 層 位		51
	3) 検出遺構		51
	4) 出土遺物		61
	5) 小 結		121
4	第89次調査	(城戸康利)	123
	1) はじめに		123
	2) 層 位		123
	3) 検出遺構		123
	4) 出土遺物		131
	5) 小 結		167
III	調査のまとめ	(城戸康利・狭川真一)	169
	別 表		
	第44次調査略測図・遺構番号対照表・計測表・出土遺物一覧		181
	第65次調査略測図・遺構番号対照表・計測表・出土遺物一覧		187
	第81次調査遺構番号対照表・計測表・出土遺物一覧		201
	第89次調査略測図・遺構番号対照表・計測表・出土遺物一覧		231
	付 編		247

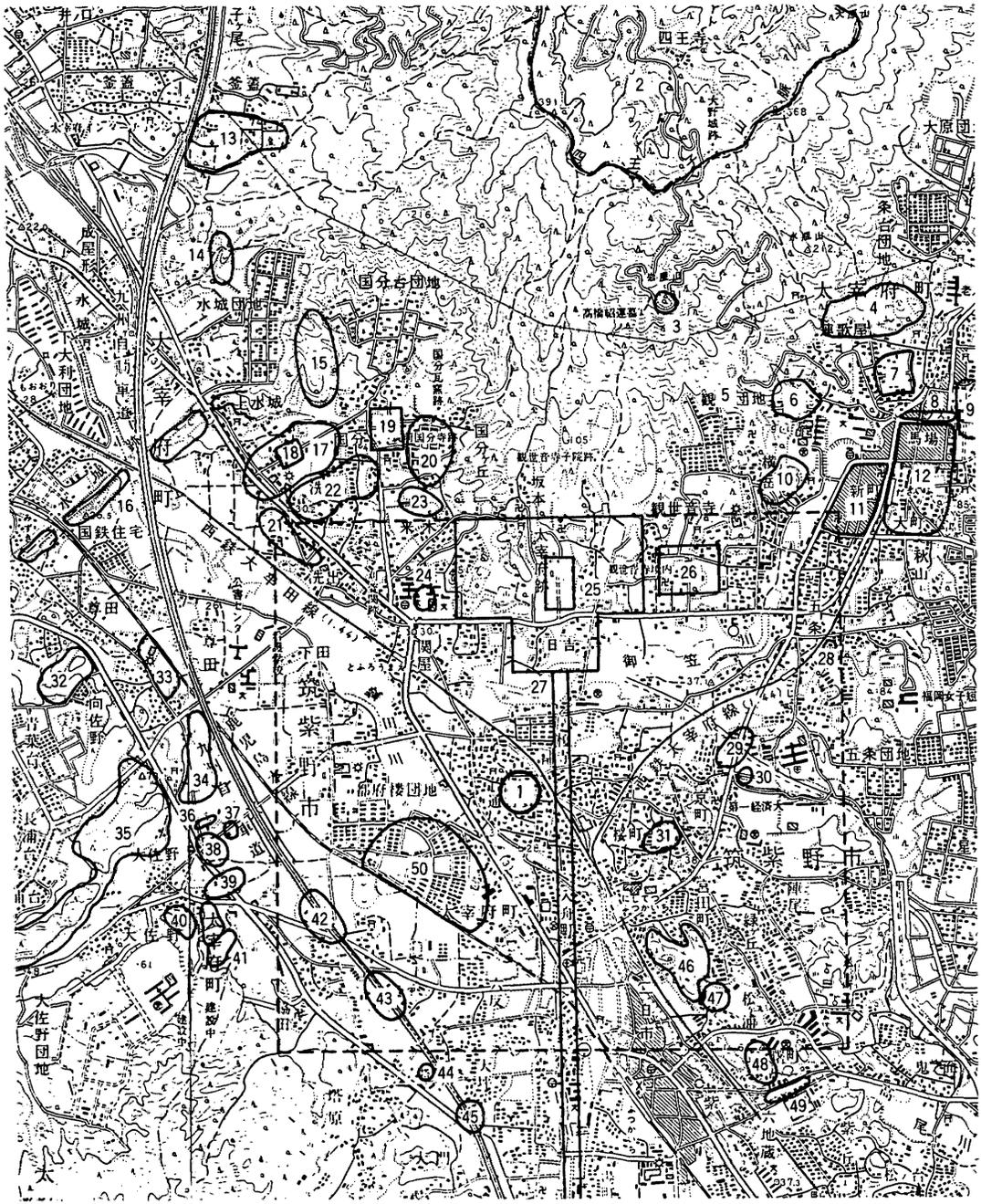


Fig. 1 太宰府市周辺の遺跡分布図(1/30,000)

- |                  |            |                 |           |             |
|------------------|------------|-----------------|-----------|-------------|
| 1.本報告調査地点        | 11.新町遺跡    | 21.正尻遺跡         | 31.般若寺跡   | 41.脇道遺跡     |
| 2.大野城跡           | 12.馬場遺跡    | 22.千足町遺跡        | 32.篠振遺跡   | 42.剱塚遺跡     |
| 3.岩屋城跡           | 13.釜蓋原遺跡   | 23.御笠軍団印出土地周辺遺跡 | 33.原口遺跡   | 43.唐人塚遺跡    |
| 4.原遺跡(原山無量寺・原経塚) | 14.釜ノ田遺跡   | 24.遺賢軍団印出土地周辺遺跡 | 34.前田遺跡   | 44.塔原廃寺     |
| 5.四王子D経塚         | 15.陣ノ尾遺跡   | 25.大宰府政庁跡       | 35.宮ノ本遺跡  | 45.桶田山遺跡    |
| 6.醍醐遺跡           | 16.水城跡     | 26.観世音寺         | 36.川上久保遺跡 | 46.臺遺跡      |
| 7.浦ノ城            | 17.松本遺跡    | 27.大宰府条坊跡(破線内)  | 37.難川遺跡   | 47.二日市中学校遺跡 |
| 8.太宰府天満宮参道遺跡     | 18.筑前国分尼寺跡 | 28.銚ノ浦遺跡        | 38.フケ遺跡   | 48.通り浦遺跡    |
| 9.安楽寺(太宰府天満宮)    | 19.筑前国分寺跡  | 29.御笠川南条坊遺跡     | 39.尾崎遺跡   | 49.五穀神社遺跡   |
| 10.横岳遺跡          | 20.辻遺跡     | 30.君畑遺跡         | 40.殿城戸遺跡  | 50.市ノ上遺跡    |

# I はじめに

太宰府市の所在する福岡平野の南深部は、西から脊振山地、東から三郡山地という比較的急峻な山々が迫り会合する部分であり、福岡平野の中でも袋状の小平野を形成し盆地的様相を示している。この小平野を貫流する河川は西から大佐野川、鷺田川、御笠川であり合流して御笠川となり北流し、さらにいくつかの河川と合流しながら博多湾に注ぐ。この小平野はまた福岡平野と筑紫平野を結ぶ地峡部にあたり交通の要衝の地となっている。

大宰府条坊跡はこの小平野にひろがる遺跡で、鏡山猛氏の『大宰府都城の研究』（1968）によって、存在が指摘され復原案が提示された。それによると大宰府政庁を北辺中央に置き、南北二十二条（2.4km）、東西各（左・右郭）十二坊（2.6km）におよび、太宰府市と筑紫野市にまたがる。

鏡山氏推定条坊案を手がかりに太宰府市域の調査は長年にわたって行われてきたが、近年の調査件数・調査面積の急増により遺跡の破壊が進むのとは裏腹に多くの所見を得ることとなった。その結果、鏡山氏の案はそのままの形では調査成果と整合しなくなっている。本報告も鏡山氏案の右郭十一・十二条二坊の範囲に入るものを取り扱っているが、既報告の第16次調査とあわせると新たな条坊の一区画が遺構から推定することが可能となった地域である。

またこの地域は長沼賢海氏の『邪馬台と大宰府』（1968）により筑前国府の推定地にあてられている。文献上では筑前国府と大宰府政庁は相互に数度にわたり改廃されており、特に国府の実体については不明な部分が多く、その所在も政庁と一体とする見解もある。今回報告する調査地点から国府関連の遺構が検出される期待がもたれていた。

Tab. 1 調査地点一覧

次数	鏡山氏推定条坊	地番	対象面積㎡	調査面積㎡	調査期間	調査原因
16	右郭十三条二坊	大字通古賀字鶴畑1818-1・8	575	107	1981. 6. 9 ~ 7. 21	住宅建築
34	右郭十一条一坊	大字通古賀字鶴畑1088-1	935	570	1982. 5. 19 ~ 9. 9	共同住宅建築
43	右郭十条一坊	大字太宰府字榎寺2578-1	465	298	1983. 7. 1 ~ 9. 16	駐車場用地
44	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1087	358	97	1983. 8. 5 ~ 9. 14	駐車場用地
49	右郭十四条三坊	大字通古賀字立明寺967-1	200		1984	宗教施設建築
53	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1071	645	137	1985. 8. 1 ~ 9. 14	住宅建築
54	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1072-1	634	140	1985. 7. 29 ~ 11. 8	住宅建築
65	右郭十一条二坊	大字通古賀字鶴畑1091-2	234	100	1987. 5. 6 ~ 6. 23	住宅建築
74	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1083-4	218	50	1988. 7. 5 ~ 7. 15	共同住宅建築
81	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1088-3他	1000	580	1989. 5. 25 ~ 8. 10	住宅建築
89	右郭十二条二坊	大字通古賀字鶴畑1061-1他	500	230	1990. 1. 9 ~ 2. 10	共同住宅建築
91	右郭十一・十二条一坊	大字太宰府字御垣野2590-7	380	90	1990. 1. 17 ~ 2. 1	共同住宅建築
115	右郭十二条三坊	大字通古賀字鶴畑1049-4他	1306	440	1991. 9. 9 ~ 12. 6	共同住宅建築
121	右郭十一条一坊	大字太宰府字御垣野2591-6	236	37	1992. 3. 7 ~ 3. 8	共同住宅建築
133	右郭十三条二坊	大字南字芝原323	550	120	1992. 10. 5 ~ 10. 27	専用住宅建築
153	右郭十一条四坊	大字通古賀字扇屋敷1204-1	495	300	1994. 6. 3 ~ 7. 15	専用住宅建築

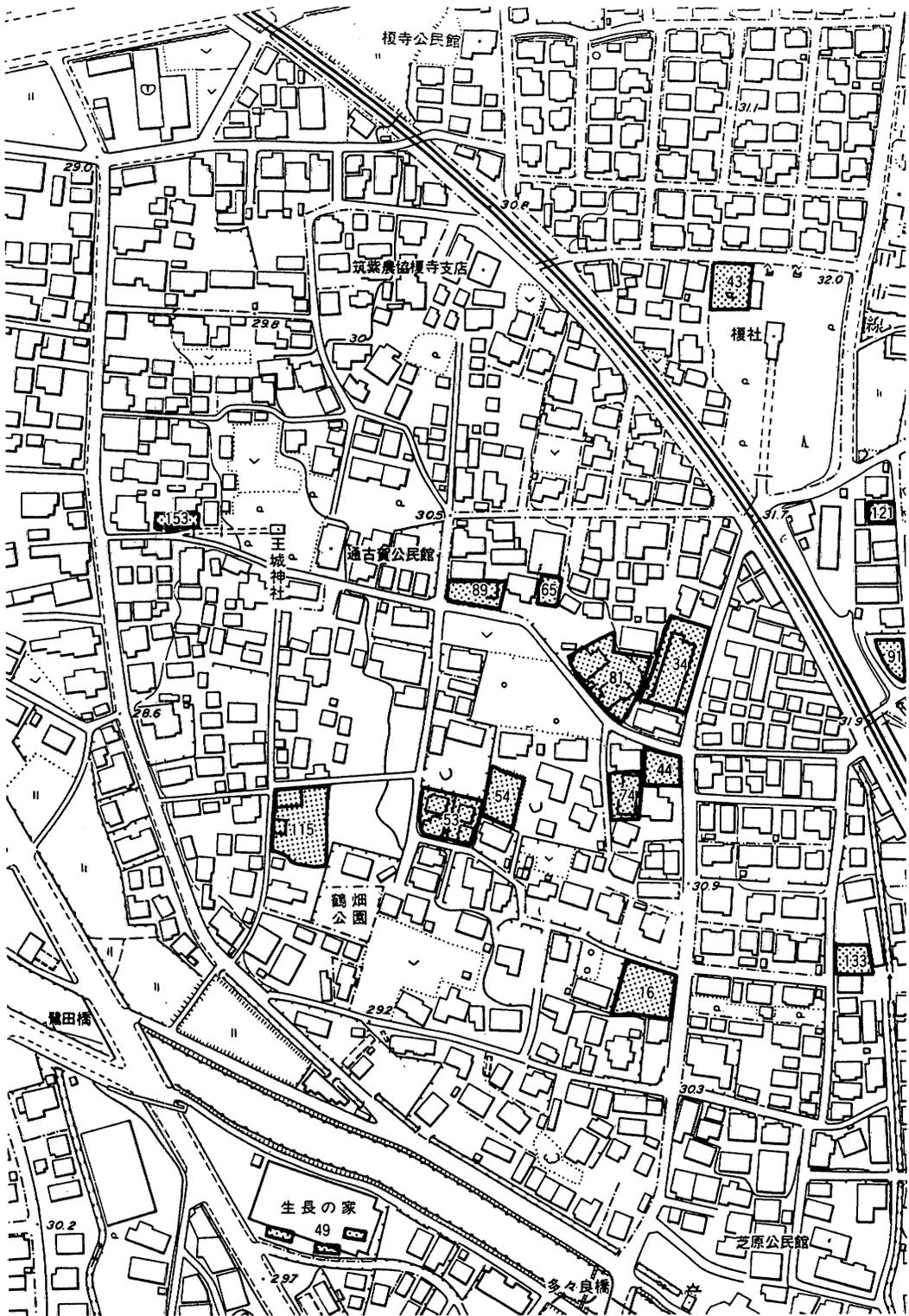


Fig. 2 調査地と周辺の既調査地位置図 (1/3,000)

## 調査組織

各遺跡に関する調査経過は、個別に各遺跡報告中に掲載した。本報告書掲載の調査報告遺跡は4遺跡で、昭和58年度の第44次調査から平成元年度の第89次調査までである。調査主体はいずれも太宰府市教育委員会である。

### 第44次調査（昭和58年度）

総括	教 育 長	陶山直次郎
庶務	社会教育課長	西山義則
	文化財係長	黑板 力
	主 事	岡部大治
調査	技 師	山本信夫
		狭川真一（調査担当）

### 第65次調査（昭和62年度）

総括	教 育 長	藤 寿人
庶務	社会教育課長	花田勝彦
	文化財係長	鬼木富士夫
	主 事	岡部大治
		白水伸司
調査	技 師	山本信夫
		狭川真一
		緒方俊輔（調査担当）
	技師（囑託）	山村信榮（昭和62年9月1日～）

### 第81・89次調査（平成元年度）

総括	教 育 長	藤 寿人（～平成元年6月）
		長野治己（平成元年8月～）
庶務	教 育 部 長	西山義則
	社会教育課長	関岡 勉
	文化財係長	鬼木富士夫
	主 事	岡部大治
		白水伸司
調査	技 師	山本信夫
		狭川真一
		城戸康利（調査担当）

		緒方俊輔（調査担当）
		山村信榮
技師（囑託）		中島恒次郎
		狭川麻子（2年1月5日～）

整理組織（平成5年度）

総括	教 育 長	長野治己
庶務	教 育 部 長	中川シゲ子
	文 化 課 長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主 任 主 事	岡部大治
		川谷豊
調査	技 術 主 査	山本信夫（5年10月1日～）
	主 任 技 師	山本信夫（～5年9月30日）
		狭川真一
		城戸康利
		緒方俊輔
		山村信榮
		中島恒次郎
	技 師	塩地潤一
	技師（囑託）	田中克子
		重松麻里子（5年6月1日～）
		井上信正（5年7月1日～）

整理組織（平成6年度）

総括	教 育 長	長野治己
庶務	教 育 部 長	白木三男
	文 化 課 長	花田勝彦
	文化財保護係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主 任 主 事	岡部大治
		川谷 豊
	主 事	今村江利子

調査	技術主査	山本信夫
	主任技師	狭川真一
		城戸康利
		山村信榮
		中島恒次郎
		重松麻里子
	技師	井上信正
	技師（嘱託）	田中克子（～6年5月31日）
		下川可容子

### 調査および整理の方法

太宰府市では、調査・整理の方法はほぼ統一されており、調査担当者以外の者が生の資料をみても理解できるように努めている。ここではその概略を述べる。詳細については『佐野地区遺跡群Ⅰ』（太宰府市の文化財 第14集 1989年）、山本信夫「太宰府市における情報整理」（『第2回考古学におけるパーソナルコンピューター利用の現状』1989年 帝塚山考古学研究所）を参照されたい。

**試掘調査** 対象地にトレンチを設定し、重機を用いて遺構面もしくは地山を検出するまで掘削を慎重におこなう。場合によっては人力で掘削をおこなう。遺構面が複数予測される場合は遺構面の状態を観察しながら一部分だけ地山に達するまで掘り下げる。これにより遺構面のおおよその数を確認する。記録はトレンチの位置、トレンチ壁面の土層堆積状態、遺構検出状態を略測メモをとり、トレンチ壁面と床面の写真撮影をおこなう。出土遺物はメモを取り、基本的に持ち帰っていない。

**発掘調査** 調査区を設定し、重機で表土を除去し遺構面を出していく。その後測量をおこない国土座標を基準にした3m間隔の方眼を組み、以降この方眼を使用して図面を作成する。実測図は1/100の略測図と1/20の調査区平面図を基本とし、随時個別遺構実測図・土層断面図、壁面土層断面図を、さらに必要な調査地では平板実測図、周辺地形測量図などを作成する。遺物取り上げは略測図と遺構番号台帳を使用しておこなう。これらには遺構の所見や切り合い関係、土層模式図などの情報を記入する。写真撮影は『佐野地区遺跡群Ⅰ』に同じである。遺構面毎にこの作業を繰り返していく。調査後は重機で埋め戻しをおこなう。

**遺物整理** 遺構略号等は『佐野地区遺跡群Ⅰ』に準じる。調査時点での遺構番号は、S-○で記録するが、整理段階で遺構種別を入れSD○○○と表示する。番号自体は遺構の統廃合・所見の変更がないかぎり、共通の番号を使用する。遺物の年代観は大宰府の土器型式と年代に（Tab. 2）示している。

Tab. 2 大宰府の土器型式と年代

(森田・横田) 年代観		①大 森田 横田 1978	③南 前川 1980	③森田 1983 大宰府	④森田・横田 型式の移動に 伴う年代の動 く可能性	⑤糸 山本 1986 北部九州	
大85 SD2340 734「天平6」	700	(98 SX2480)		A		I	
	725	〔85・87・90 SD2340〕		B	1 2	A	
	750					B	
		45 SK1280・1285				II	…*④
		43 SE1081				III	
	18 SE400		C		IV		
大74 SD205 A 927「延長5」	825	70 SK1800	I	A		V	
	850	35 SK678	1	B	D	VI	
	900	34 SK674		A	E	VII	
	927	65-2 SE1558		B	F	VIII	…*①
平安京左京4条 1坊 SE8 1091「寛治5」	950	43 SE1083	2	C	G	IX	
	1000	38 SK802		A	H	X	
	1050	46 SD1330	I	B		X I	
	1100		3	C		X II	A B
	1150	43 SK1204		D		X III	
大33 SD605 1224「貞応3」	1150		4			X IV	
	1200	43 SK1085		1		X V	
	1225	33 SK 38 SK835		2		X VI	…*②
	1250	601		3		X VII	
大109、111 SD3200 1304「嘉元2」 大45 SX1200 1330「元徳2」	1250		4			X VIII	
	1300	38 SK830	II	5 A		X IX	…*③
	1330	45 SX1200 新		5 B		X X	
	1350	(33 SK624)		6			
大70 SD1805 1501「文亀元年」	1500	70 SD1805					

①大宰府史跡関係

②南条坊関係

③森川勉「大宰府の出土品③土器、陶磁器」  
「仏教芸術」1983

[ ] は後日追加された標式遺構

( ) は②で前川氏が比定した遺構

\*①大74 SD205 A はⅧとⅨを含む

\*②大33 SD605 はⅩⅥとⅩⅦを含む

\*③大45 SX1200 はⅩⅨとⅩⅩを含む

\*④大85 SD2340 はⅡとⅢを含む。Ⅲは少ない

## II 調査の概要

### 1 第44次調査

#### 1) はじめに

調査地は太宰府市大字通古賀字鶴畑1087に所在する。当該地において住宅建設の話が持ち上がり、協議の結果、発掘調査を実施することとなった。現地での調査は、断続的な大雨に見舞われたこともあり、昭和58年8月5日から9月14日までを要した。調査対象面積は358㎡、調査面積は97㎡で、現地での調査は狭川真一が担当したが、測量及び実測にあたっては岡部大治の協力を得た。

#### 2) 層位

現在の盛り土を除去すると、厚さ約40cmの茶褐色土が遺構の全面を覆っていた。これを除去すると調査地の東側で暗灰色土、黄褐色土が遺構の上面を約20cmの厚さで覆っていた。ここで報告する遺構の一部はこの層の上位から穿たれるものも含まれるが、その多くは攪乱状の遺構である。したがって安定した包含層は暗灰色土、黄褐色土等である。しかしながら、調査（遺物取り上げ）段階で明確な区分はできなかった。地山は黄褐色粘質土でこれに直接切り込む遺

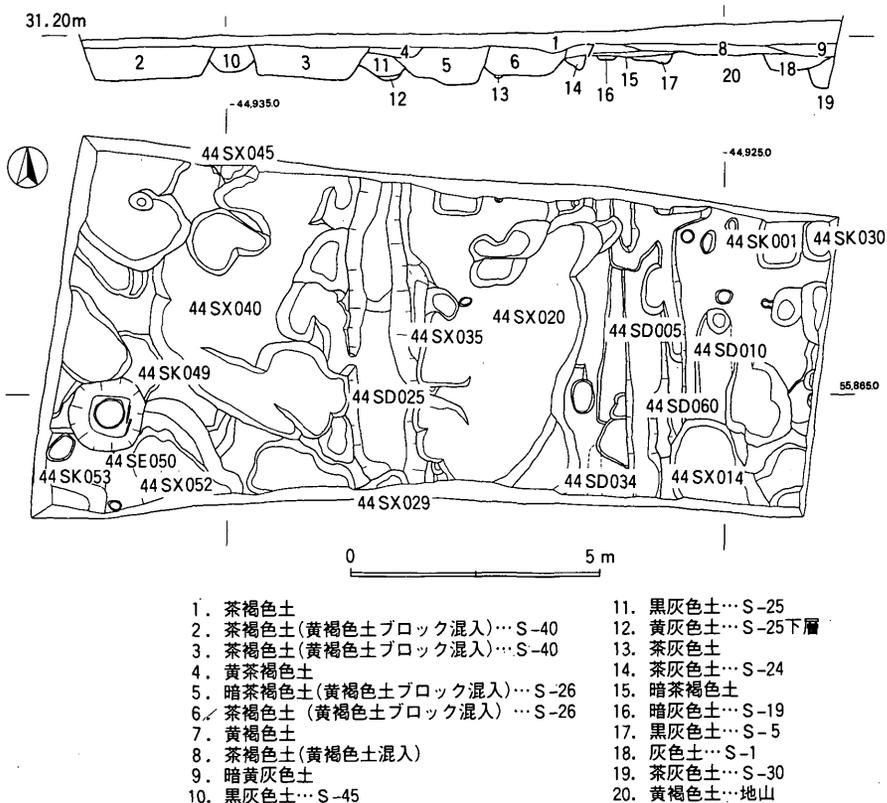


Fig. 3 第44次調査遺構実測図(1/150)

構は、平安時代以前のものが多く (Fig. 3)。

### 3) 検出遺構

調査地の中央及び西半分に大きな攪乱状遺構があり、大半の古い遺構はこれによって失われたとみられるが、平安時代を主体とする溝、土壙、井戸などが検出された (Fig. 3)。

#### 溝

**44SD005** 調査地を南北に貫通する溝で、検出長5.75m、幅0.6~1.10m、深さ0.2~0.5mで、埋土は黒灰色土の単一層で流水や耐水の形跡は認められない。検出した段階では一条のものとして判断されたが、下層では南側の一部で二条になる部分があった。これを便宜的に44SD060として分けて報告する。ただし前後関係は明らかにできていない。また調査地の北側でもL字状に分岐する部分があったが、この部分からは遺物の出土もなく、ここでは特に分けることはしなかった。

**44SD010** 44SD005の東側に平行して穿たれた浅い溝である。調査地の中程から南側に延びている。検出長3.1m、幅約0.7m、深さ約0.05mを測る。埋土は暗灰色土である。

**44SD025** 調査地を南北に貫通する溝であるが、東西両肩のすべてを攪乱状遺構の44SX020・44SX040で破壊されている。検出長6.0m、残存幅0.7~1.4m、深さ0.1~0.25mで、埋土は上下2層に分けられ、上層は黒灰色土で埋土の主体を成し、下層として底付近に厚さ5cm強の黄灰色土が堆積していた。

**44SD034** 小溝で44SD005の西側で検出された。調査地の中程から南側に延びている。検出長0.9m、幅約0.3mでごく浅いものである (全景写真及び実測段階では消滅してしまった)。埋土は暗灰色土である。他の条坊遺跡で検出される平安時代後期の区画溝の検出状況から、この遺構もそうした溝の可能性があると考え、ここで報告した。

**44SD060** 44SD005下層で分岐した溝である。44SD005の東側肩に寄った状況で検出されたが埋土も等しく、前後関係を明確にはできなかった。便宜上番号を分けたが、同一の溝内における流れの違いである可能性も考えられる。検出長約3m、幅約0.4m、深さ約0.05mを測る。

#### 土壙

**44SK001** 調査地の北東隅で検出した土壙である。検出長0.95m、幅1.0m、深さ0.30mで、埋土は灰色粘質土である。44SK030より新しい。

**44SK030** 44SK001より古い土壙であるが、遺物は全く出土しなかった。遺構の大半は調査区の外に延びている。深さ0.60mで、埋土は茶灰色土である。

**44SK049** 44SE050よりも古い土壙である。遺構の大半を他の遺構に切られているので全貌は明らかではない。形状は不定形で推定長1.4m以上、幅0.9m以上、深さ0.1mで、埋土は暗灰色土である。出土遺物に図示できる資料はなかったが、すべて奈良時代のものであった。

**44SK053** 長さ0.63m、幅0.45m、深さ0.07mの小土壙で、埋土は暗灰色粘質土である。

#### 井戸

**44SE050** (Fig. 4) 掘り方の平面形は略円形を呈し、その規模は南北1.45m、東西1.50mで、深さは約2.0mを測る。下位に至るまで枠のプランは確認されず、最下位で円形のプランを確認した。曲物を収めていたとみられるその痕跡は、直径0.6m、深さ0.38mであった。この直上に木製の枠の痕跡を一部であるが確認した。幅約0.35mの板材を使用した枠で、微かに残る痕跡から、一辺0.70～0.75mの方形のものであったことが知られた。なお、埋土の主体は黒灰色土である。

#### 攪乱状遺構

**44SX020** 44SD005と44SD025に挟まれた空間をあたかも利用したかのように穿たれた幅約3m、深さ0.2～0.5mで調査区南北幅よりも大きな攪乱状遺構である。埋土の異なりで分層され、個々に遺構仮番号を付したが、調査中における初見および整理の初見に基づいて、同一のものであると判断した。主たる埋土は茶褐色土の中に地山である黄褐色土のブロックが混入するものである。

**44SX040** 44SD025を辛うじて避けるかのように穿たれた幅約4.5m、深さ0.25～0.35mで調査区南北幅よりも大きな攪乱状遺構である。主たる埋土を除去すると下層にはいくつかの窪み状遺構が展開し個々に遺構仮番号を付したが、調査中における初見および整理の初見に基づけば同一のものである可能性が高い。主たる埋土は暗茶褐色土の中に地山である黄褐色土のブロックが混入するものである。

**44SX052** 調査区南西隅に検出されたもので、調査区外の南西方向に大きく広がっている様相を呈している。先の44SX020・44SX040などと同じような性格が考えられる。

#### その他の遺構

**44SX014** 44SD005の上に被る窪み状の遺構である。検出長約1.6m、幅約2m、深さ0.25mでさらに南へ延びている。埋土は茶褐色土である。

**44SX022** 44SD005の上に被る帯状を呈する窪み状遺構である。検出長約4.3m、幅約1.3mでさらに南へ延びている。埋土は淡茶色土である。44SX014よりも古い。

**44SX029** 44SX020よりも新しい円形の窪み状遺構である。埋土は暗灰色土である。

**44SX035** 44SD025よりも新しく、44SX020よりも古い遺構であるが、長さ約1.7m分しか残存しておらず、本来の形状や性格は明らかにはできていない。残存する幅は約0.3m、深さは約0.2

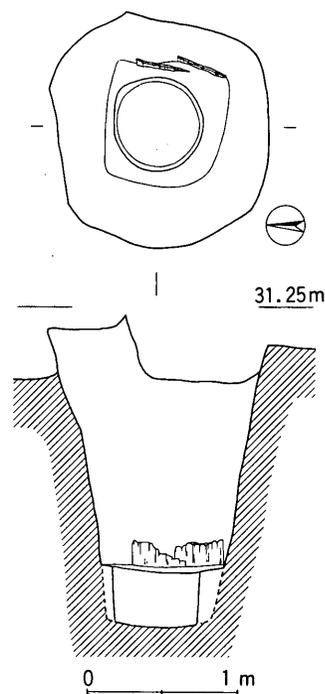


Fig. 4 44SE050実測図(1/50)

mである。出土遺物の示す年代は隣接する44SD025に近似し、条坊区画遺構のこれまでの検出状況を考えると、44SD025と関連する溝状遺構の残欠である可能性が高い。

**44SX045** 44SX040の隙間に残った遺構で、本来の形状はまったく分からない。検出幅は約0.45m、深さ0.47mを測るが、これよりも大きなものであったことは確実である。埋土は黒灰色土で構成される。

#### 4) 出土遺物

##### 溝出土遺物

##### 44SD005出土遺物 (Fig. 5)

白磁

皿(1) 皿Ⅱ-1a類。高台部分を欠損する破片。やや黄色味があった淡青灰色の光沢を有する釉調を持ち、灰白色できめの細かい精製された素地。体部外面下半は露胎。

土師器

丸底坏a(2) ヘラ切りによって底部処理を行い、口径16.0cm、器高3.5cmを測る。内外面ともに器面磨耗のため、調整痕跡は確認できない。

石製品 (Fig. 12)

砥石(1・2) いづれも細粒砂岩製で、1は4面、2は3面を砥石面として使用している。

##### 44SD025出土土器 (Fig. 5)

土師器

小皿a1(3・4) 全てヘラ切りによって底部処理を行う。法量は、口径10.0・10.4cm、器高1.0・1.3cm、底径7.0・7.3cmをそれぞれ測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

小皿a2(5) ヘラ切りによって底部処理を行い、法量は推定口径10.0cm、器高0.8cm、底径7.8cmをそれぞれ測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

碗c2(6) 口径15.3cm、器高5.7cm、高台径8.4cmを測り、内外面ともにヨコナデによって仕上げている。底部外面において板状圧痕が残存している。

黒色土器B類

小皿a(7) 口径11.2cm、残存器高1.7cmを測り、内外面ともにミガキcによって仕上げている。

越州窯系青磁

碗(8・9) 8は、碗Ⅰ-2類。畳付け部分に目跡があり部分的に釉が落ちているが、全面に施釉している。釉調は、光沢がほとんど無い淡青緑色を呈し、素地は灰白色で精選されている。

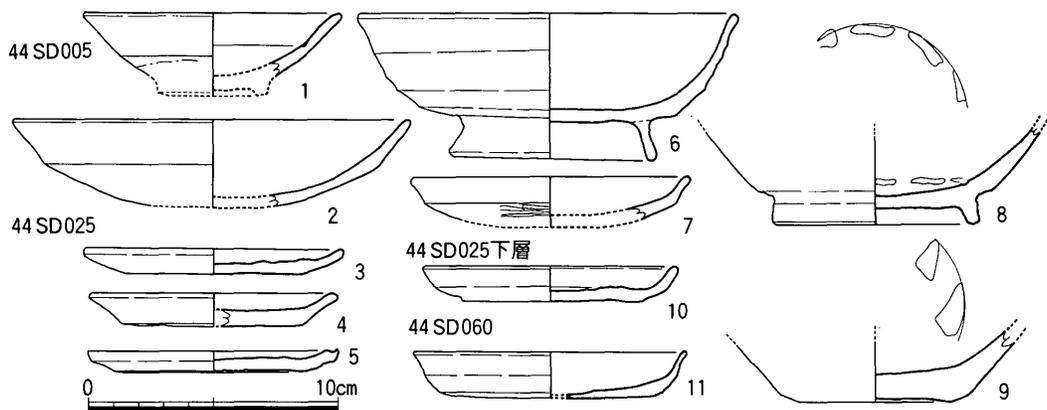


Fig. 5 第44次調査溝出土遺物実測図(1/3)

底部内外面に目跡が残る。9は、椀Ⅱ-3類。内面のみ施釉し、釉調は光沢のあまり無い淡灰緑色を呈し、素地は灰白色で精選されている。底部内外面に目跡が残る。

**44SD025下層出土土器 (Fig. 5)**

土師器

小皿 a 1 (10) ヘラ切りによって底部処理を行う。法量は、口径10.2cm、器高1.4cm、底径7.2cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

**44SD060出土土器 (Fig. 5)**

土師器

小皿 a 1 (11) ヘラ切りによって底部処理を行う。法量は、口径11.0cm、器高1.8cm、底径9.0cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

**土壙出土土器**

**44SK053出土土器 (Fig. 6)**

土師器

蓋 c 3 (1) 口径13.0cm、器高2.2cmを測り、器面磨耗のため調整痕跡は不明。ややボタン状を呈するつまみを貼付する。

須恵器

蓋 3 (2) 口縁部のみ残存する破片で、天井部外面はヘラ切り未調整、天井部内面はヨコナデの後、不定方向のナデによって仕上げる。他の部位はヨコナデ。

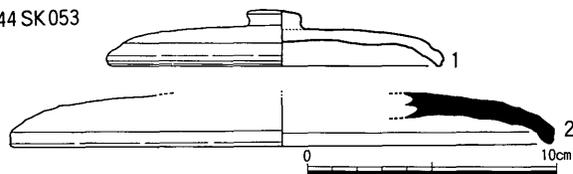


Fig. 6 第44次調査土壙出土遺物実測図(1/3)

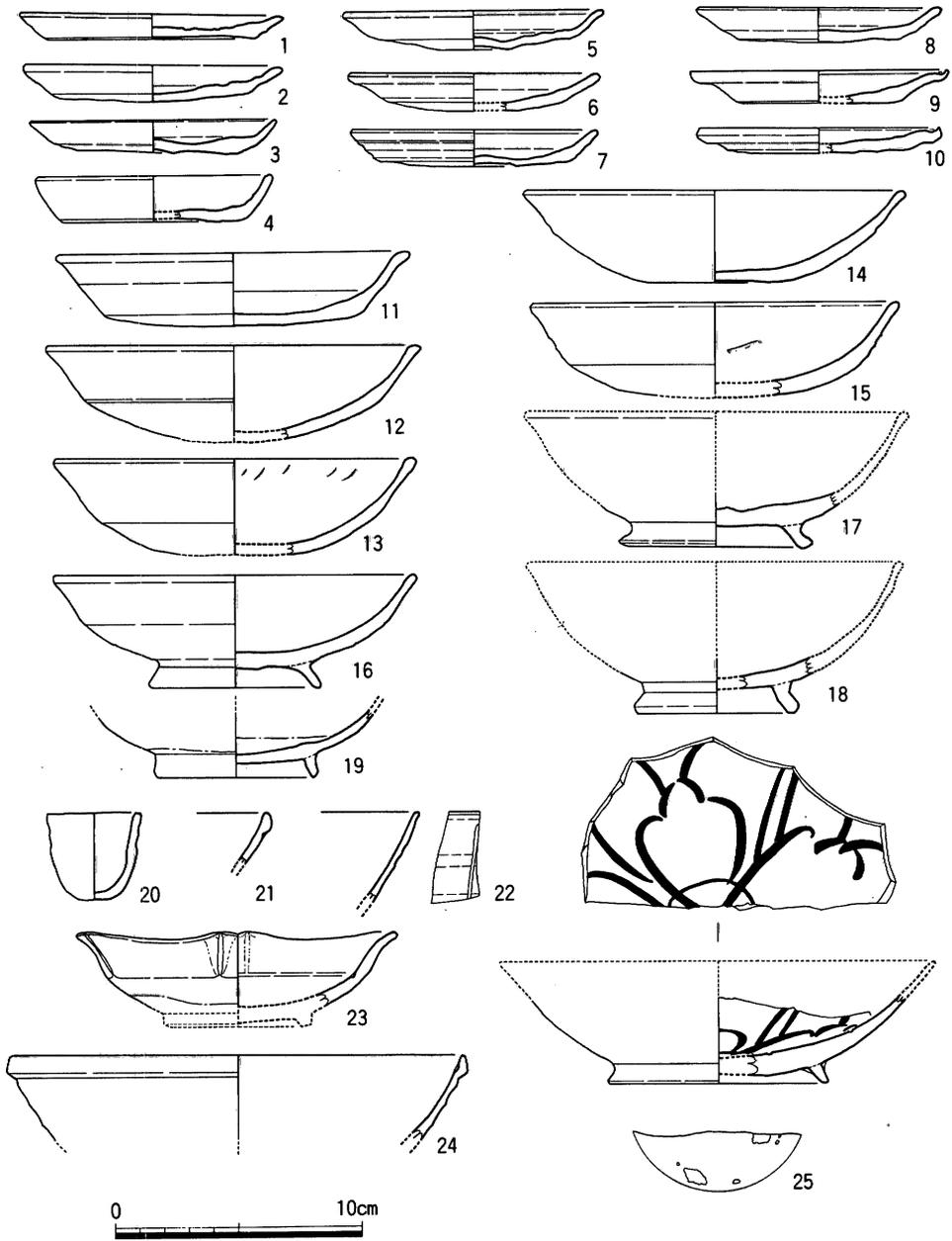


Fig. 7 44 SE050出土遺物実測図(1)(1/3)

井戸出土土器

44 SE050出土土器 (Fig. 7・8、Pl. 2)

土師器

小皿 a1 (1～8) 全てヘラ切りによって底部処理を行う。法量は1～3、5～8の口径が10.0～10.6cm、器高1.0～1.5cm、底径6.6～8.8cmをそれぞれ測る。4については、口径9.8cm、器高1.8cm、底径7.6cmを測り、他の小皿 a とはやや異なる形態ならびに法量をとる。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては不定方向のナデによって仕上げている。

小皿 a 2 (9・10) 両者ともヘラ切りによって底部処理を行い、法量は口径9.8～10.4cm、器高1.0～1.3cm、底径6.8～7.5cmをそれぞれ測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

杯 a (11) 全てヘラ切りによって底部処理を行い、法量は、口径14.4cm、器高2.9cm、底径10.4cmを測り、内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

丸底杯 a (12～15) 両者ともヘラ切りによって底部処理を行い、法量は口径14.4～15.6cm、器高2.9～3.7cm、をそれぞれ測る。内外面ともにヨコナデによって調整し、内面はミガキbの痕跡をとどめるものもある。また14の内面には煤状炭化物が付着している。

丸底杯 c (16・17) 17は高台のみ残存する破片であるが、16同様の体部形態を呈するものと推定できる。16の法量は、口径14.9cm、器高4.5cm、高台径7.0cmを測り、内面の調整はやや不明確であるが、ミガキbの痕跡をわずかにとどめる。外面はヨコナデによって仕上げ、丸底杯形成時のヘラ切り痕跡をとどめている。

ミニチュア土器 (20) 手持ちによって成形されたミニチュア土器で、法量は口径3.6cm、器高3.5cmを測る。

甕 b (26) 口径30.4cm、残存器高16.2cmをそれぞれ測り、底部付近に外面格子叩き、内面に丸い平滑な当て具痕跡をとどめている。体部中位は磨耗しているため内外面ともに不明確であるが、口縁部は内外面ともにヨコナデによって仕上げる。外面頸部下位が黒変しており、一部に煤状炭化物が付着している。

#### 黒色土器B類

碗 c 2 (18) 高台のみの破片で、土師器・丸底杯 c と同様の高台形状を呈するが、器面磨耗のため内面の調整痕跡は不明、外面は高台貼付の際のヨコナデ痕跡が残る。

#### 灰釉陶器

碗 c 2 (19) 高台のみの破片で、内外面ともに体部のみに暗緑灰色の釉を施しており、他の部分は露胎。内外面ともにヨコナデによって仕上げ、胎土は白色の鉱物を若干含んでいるが精製されており、暗灰色を呈す。

#### 白磁

碗 (21・22・24) 21は、碗 XI-1 ないしは IV 類。口縁部のみの破片で、灰緑白色の釉で貫入



Fig. 8 44 SE050出土遺物実測図(2)(1/3)

が入る。素地は灰白色でやや粗雑な印象を受ける質を有している。22は、碗XI-5類。口縁部のみ破片で、青白色で透明感のある釉をかけ、素地は灰白色でやや粗雑な印

象を受ける質を有している。24は、碗IV類。口縁部のみ破片で、黄灰色で透明感のある釉をかけ、素地は乳白色でやや粗雑な印象を受ける質を有している。推定口径18.2cmを測る。

皿(23) XI-3類。体部下位より口縁部まで残存する破片で、推定口径13.0cmを測る。灰緑色で透明感のある釉がかかり、素地は微細な黑色粒子を含み、粗雑な印象を受ける。外面をヘラによって縦方向に沈線を描き、輪花状の口縁形態を作り出している。

#### 越州窯系青磁

坏(25) III類。内面にヘラによる花文を描き、貼り付け高台を有するもので、淡茶緑色の色調を有し気泡を含む発色の悪い釉調を示す。素地はやや砂質で淡茶色を呈しており、気泡を含む。外底高台内に白色砂粒の目跡が残る。

#### 攪乱状遺構出土土器

##### 44 SX040出土土器 (Fig. 9)

小皿 a 1 (7・8) ヘラ切りによって底部処理を行い、法量は、口径が8.9・8.7cm、器高1.4・1.2cm、底径6.1・6.6cmをそれぞれ測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、見込み部分に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

丸底坏 a (9~11) ヘラ切りによって底部処理を行い、法量は口径13.0~16.1cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整し、内面はミガキbの痕跡をとどめるものもある。9については他の二者に比して法量が異なっている。

脚(12) 鼎状の煮沸形態の脚と推定され、指頭圧によって成形されている。断面円柱状の形状を示すが、端部において外方へはねあげる形態をとる。

#### その他の遺構出土土器

##### 44 S X 022出土土器 (Fig. 9)

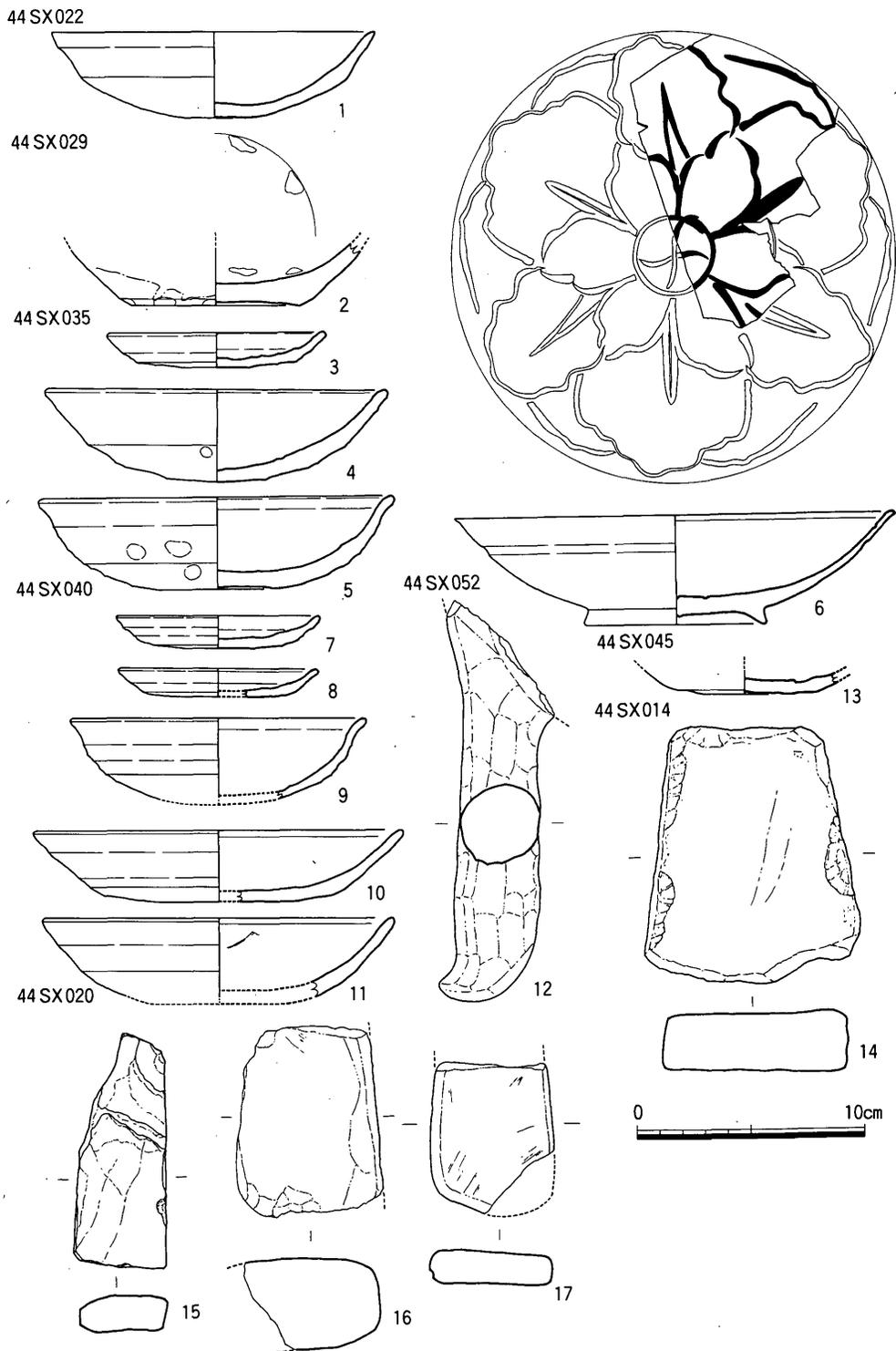


Fig. 9 その他の遺構出土遺物実測図(1/3)

#### 土師器

丸底坏 a (1) ヘラ切りによって底部処理を行い、法量は口径14.0cm、器高3.7cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整し、内面はミガキbの痕跡をわずかにとどめている。

#### 44 SX029出土土器 (Fig. 9)

##### 越州窯系青磁

碗(2) II-3類。底部外面に露胎を残すもので、他の部位に施釉する。釉調は白濁した黄色味の強い淡褐色を示し、素地は灰白色の精選された素地特徴を有している。

#### 44 SX035出土土器 (Fig. 9)

##### 土師器

小皿 a 1 (3) ヘラ切りによって底部処理を行い、法量は、口径が9.6cm、器高1.5cm、底径6.9cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整しているが、底部内面に関しては、不定方向のナデによって仕上げている。

丸底坏 a (4・5) ヘラ切りによって底部処理を行い、口径15.0・15.5cm、器高4.0・3.9cmを測る。内外面ともにヨコナデによって調整し、内面はミガキbによって仕上げる。

##### 越州窯系青磁

坏(6) III類。口径19.4cm、器高4.7cm、高台径8.1cmを測る。内面にヘラによる花文を描き、貼り付け高台を有するもので、淡茶緑色の色調を有し気泡を含む発色の悪い釉調を示す。素地はやや砂質で淡褐色を呈しており気泡を含む。外底高台内に白色砂粒の目跡が4ヶ所残る。

#### 44 SX045出土土器 (Fig. 9)

##### 土師器

坏 a (13) 底部のみ残存する。底部外面はヘラ切りによって処理している。底径6.3cmを測り、小破片であることから、小皿になる可能性もある。

#### 茶褐色土層出土遺物 (Fig.10, Pl.2)

##### 緑釉陶器

1は、高台部分のみ残存する破片で、皿または碗の一部分とみられる。暗黄緑色の釉を内面および蛇の目高台の端部付近から体部にかけて施釉している。胎土は灰色で精選されている。蛇の目状の削り出し高台で、内面は手持ちによるミガキ痕跡が観察できる。

小碗(3) 高台部分のみ残存する破片で、暗緑色の釉を内外面に施釉する。高台内面端部がやや凹む形状をとり、胎土は白色の微細な鉾物をやや含む赤褐色の精選された特徴を示す。見込みおよび高台内にハリの痕跡が残る。

##### 白磁

皿(2) IV-2類。体部下位より口縁部まで残存する破片で、推定口径11.6cmを測る。やや黄色味があった灰白色で透明感のある釉がかかり、口縁部付近に垂下する釉垂れが観察できる。

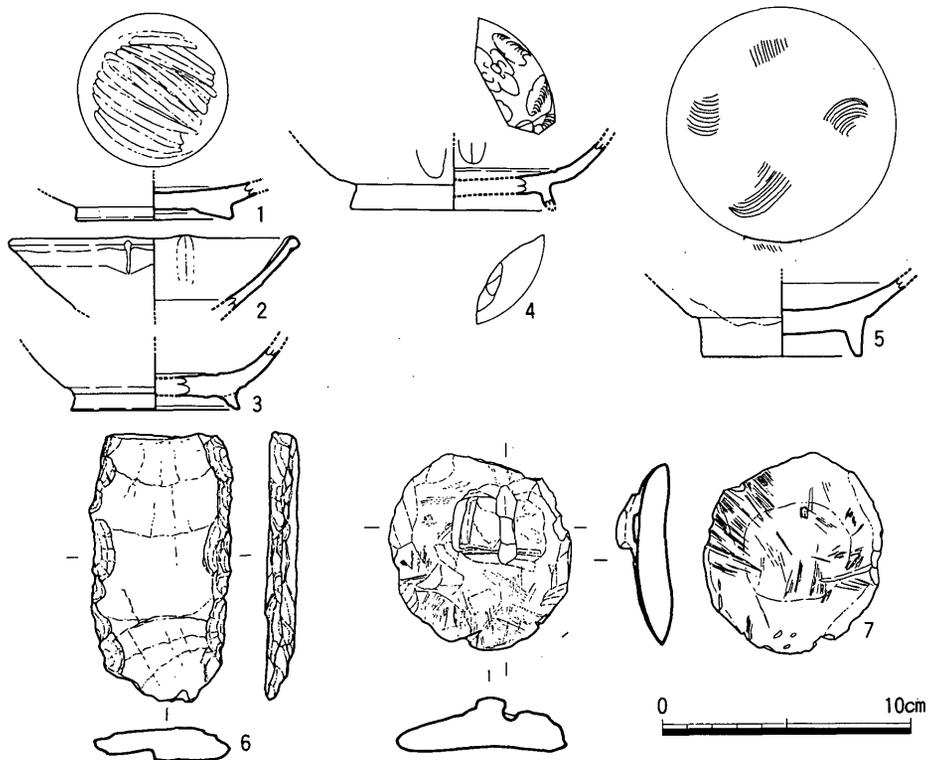


Fig.10 第44次調査各層位出土遺物実測図(1/3)

素地は暗白色で微細な黒色物質が極微量ながら含まれるものの比較的よく精選されている。外面をヘラによって縦方向に沈線を描き、輪花状の口縁形態を作り出している。

#### 越州窯系青磁

皿(4) III類。内面に毛彫草花文を描き、やや高い貼り付け高台を有している。淡青緑色の透明感のある釉を内外面にかけ、やや褐色がかった灰白色を呈し精選され、気泡をやや含む素地特徴を有する。体部外面に縦方向のヘラ押しの痕跡があり、輪花状の口縁部形態を有するものと推定できる。

#### 石器

偏平打製石斧(6) 安山岩製で、剥片縁辺部分に粗い打ち割調整を施す。残存長10.4cm、幅5.7cm、厚さ1.3cmを測る。

#### 排土出土遺物 (Fig.10)

#### 白磁

碗(5) V-4b類。高台のみ残存するもので、わずかに黄色味がかった青灰色の光沢の無い釉を内面および外面の高台脇まで施釉する。削り出し高台で、灰白色の精選された素地特徴を有する。

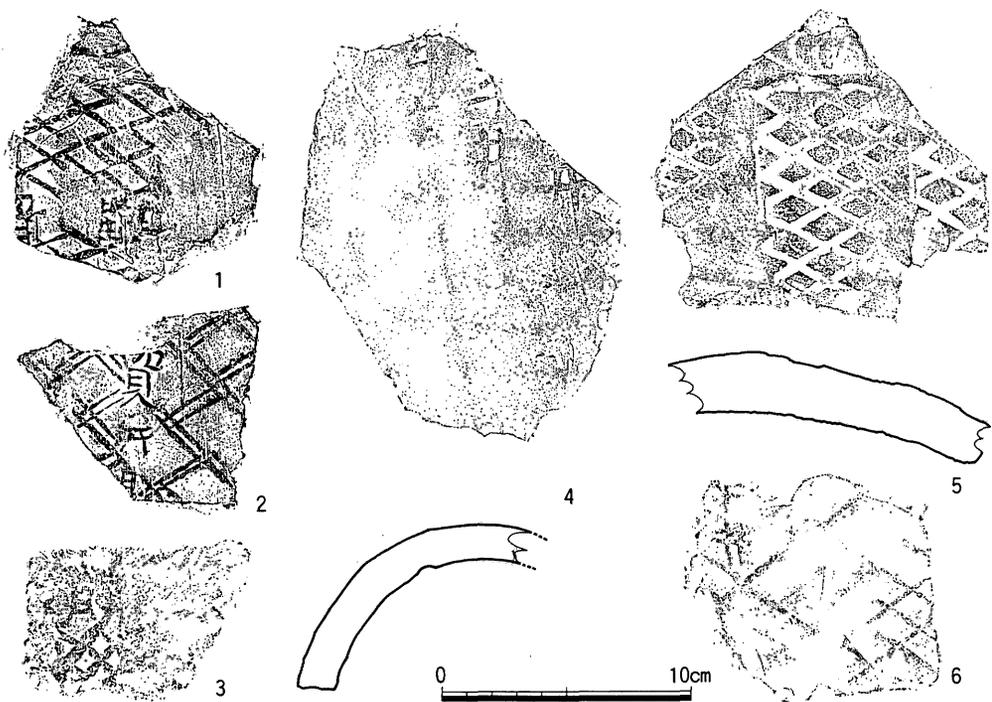


Fig.11 第44次調査出土瓦実測図(1/3)

#### 石製品

7は滑石製で、偏平な板状のものに長方形の鈕を削り出している。鈕は一部欠損しているが、穴の部分に鉄分が付着している。

#### その他の遺物

##### 瓦類 (Fig.11)

各遺構から破片資料として出土している。ここでは、文字瓦のみを取り上げる。

1は「前」とみられVI-5ないしはVI-6類。44SD025出土。2は「賀茂瓦」でⅢ-2a類。44SD025出土。3は「賀茂瓦」でⅢ-3類。44SX014出土。4は「平井」でI-6類。44SX020出土。5は「平井」とみられI-5ないしはI-6類。茶褐色土層出土。6は「平井」でI-13類。44SX035出土。

##### 石製品 (Fig.9)

砥石(14~17) 15は黒色片岩製。他のものは細粒砂岩製。出土遺構は14が44SX014である他は、44SX020出土。

#### 5) 小結

主要遺構を個別に取り上げ、その年代を中心に記載することでまとめとする。ただし溝遺構

は、大宰府条坊跡を復原するために重要な所見をもたらすものであるため、必要部分の座標値と大宰府政庁南門からの距離を表にして記載しておく(Tab.3)。なお、溝の詳細な検討は終章で行うのでここでは記さない。

**溝**

**44 SD 005** 出土遺物の主体は、大宰府土器編年のⅫ期に相当する。

**44 SD 010** 顕著な出土遺物はないが、埋土の状況を含めて他の溝と同時期頃のものと考えられる。

**44 SD 025** 出土遺物の主体は、大宰府土器編年のⅫ期に相当する。

**44 SD 034** 顕著な出土遺物はないが、埋土の状況を含めて他の溝と同時期頃のものと考えられる。

**44 SX 035** 出土遺物の主体は、大宰府土器編年のⅫ期に相当する。

**44 SD 060** 図示した資料はやや古いものであるが、出土遺物の主体は、大宰府土器編年のⅫ期に相当する。

検出された溝遺構の内、ある程度様相を知り得たのは44SD005と44SD025である。この両者を仮に対であるものと見なした場合、心々距離は平均で5.284mを測り、両溝の中心地点までの距離は中軸線から99.992mである。平安時代の条坊区画の一点が把握される。

**土壌**

**44 SK 049・44 SK 053** とともに遺物の出土量は少ないが、44SK053は8世紀中頃のもの为主体を占めている。44SK049に関しては緑釉陶器、灰釉陶器が微量ながら含まれており、やや下らせて捉える必要があるだろう。

**井戸**

**44 SE 050** 出土遺物の主体は、大宰府Ⅺ～Ⅻ期とする資料であるが、白磁碗Ⅳ類の出土などから、Ⅻ期として捉えるのが妥当であり、したがって遺構の埋没年代は11世紀後半から12世紀

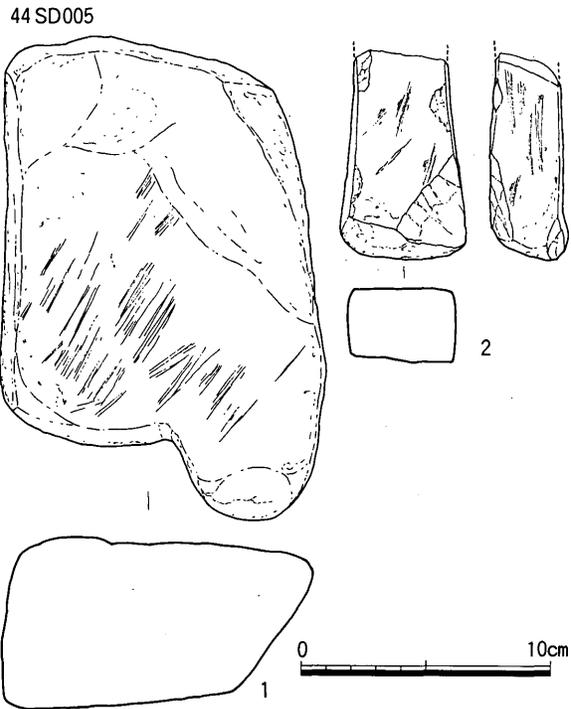


Fig.12 第44次調査出土石器実測図(1/3)

初頭と考えられる。

### 攪乱状遺構

いずれも同じ頃の年代に掘削されたものとみられる。図示して報告した資料はほとんどが古いものであるが、出土した遺物の中には近世にくだる染付や陶器が出土しており、掘削年代もその頃までくだらせて差し支えなさそうである。ただし、条坊痕跡が避けられたように残存しているのが偶然でなければ、これらの遺構が掘削される直前まで何らかの痕跡を残していたことも窺われる。しかしながら今次の調査のみでは資料不足であり、明言はできない。

以上のように、今回の調査では条坊痕跡と思われる溝遺構を確認できたほか、奈良時代から平安時代の生活痕跡の一端を調査することができた。近世における大きな攪乱状遺構が存在していたにもかかわらず、こうした重要な資料が得られたことは大きな成果であった。

Tab. 3 第44次調査検出溝任意中点座標値

遺構番号	P* 位置	遺構中点座標値		方位	南門からの距離	
		X	Y		X方向 (m) **	Y方向 (m) **
44SD005	北P	55,868.70	-44,926.57	N-1° 02' 30" -W	-840.998	-97.426
	南P	55,863.20	-44,926.47		-846.495	-97.273
44SD010	北P	55,866.20	-44,925.12	N-2° 49' 38" -W	-843.483	-95.954
	南P	55,864.58	-44,925.04		-845.102	-95.860
44SD025	北P	55,869.16	-44,931.85	N-1° 11' 12" -W	-840.590	-102.715
	南P	55,863.85	-44,931.74		-845.898	-102.552
44SD034	中P	55,863.50	-44,927.60	—	-846.207	-98.408
44SX035	中P	55,866.60	-44,931.05	—	-843.142	-101.890
44SD060	中P	55,864.50	-44,925.87	—	-845.190	-96.687

\* 北Pは溝検出北端に近い位置の任意中点

南Pは溝検出南端に近い位置の任意中点

中Pは溝検出長が短いため中央に近い位置の任意中点

\*\* X方向の-値は政庁から南へ移動したことを示す

Y方向の-値は中軸線から西へ移動したことを示す



## 2) 層位

現在の表土を除去すると明褐色土が顔をだすが、これは表土の一部として理解され、明確な包含層とは言えない。その直下は多くの部分で砂質分の強い明茶色土の地山が検出された。ただし、調査地の北半分及び南側の一部分で、淡褐色土、褐灰色土、淡褐灰色土とされる層が検出され、その下層から若干の遺構が検出された。これらの層は当初は同一のものであった可能性が強く、本来は相当規模の整地ではなかったかと思われる。

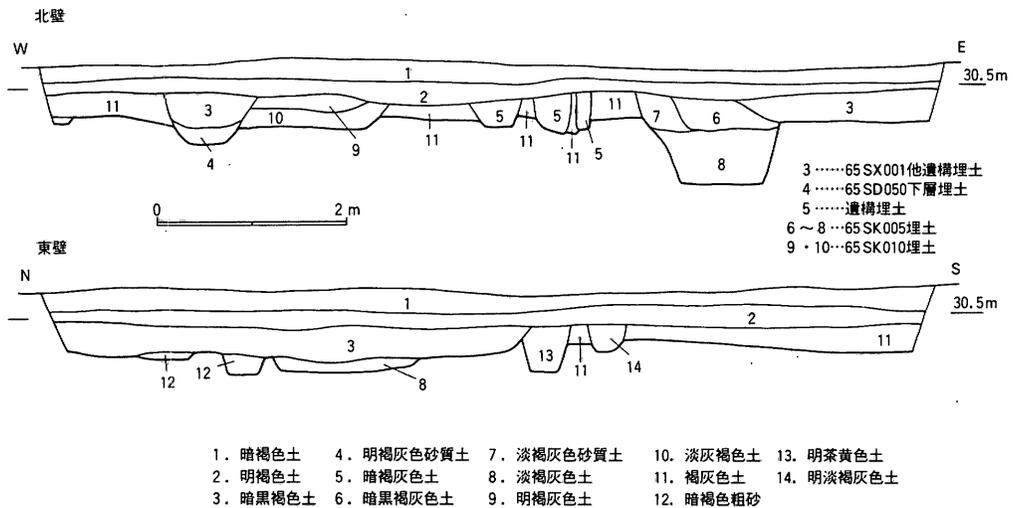


Fig. 14 第65次調査調査区土層観察図(1/80)

## 3) 検出遺構

### 掘立柱建物

調査範囲が狭いため全体の規模を確認できた例はない。また、後述する柱掘り方状の遺構もいくつか確認されているので、ここに報告した分がすべてではあるまい。また、ここに掲げたとおりの復原で全てが正しいかどうか、やや不安な要素を残していることを付記しておく。

Tab. 4 掘立柱建物座標値

遺構番号	掘り方番号	遺構中点座標値		方位 (計測振れ)	方位 (南北軸換算)
		X	Y		
65SB065	a	55,949.38	-44,982.10	N-9° 10' 25" -W	N-9° 10' 25" -W
	c	55,944.55	-44,981.32		
65SB070	b	55,949.82	-44,987.82	N-102° 54' 00" -E	N-12° 54' 00" -E
	d	55,948.40	-44,981.62		
65SB100	b	55,948.83	-44,988.20	N-98° 58' 37" -W	N-8° 58' 37" -W
	e	55,949.92	-44,981.30		

65SB065

南北2間以上の規模を有するが、東側が65SX001による破壊と、西側に関

連する掘  
り方がな  
いことか  
ら柵列の  
可能性も  
残されて  
いる。検  
出された  
分の柱間  
は、北か  
ら2.6、  
2.3 mで  
柱掘り方

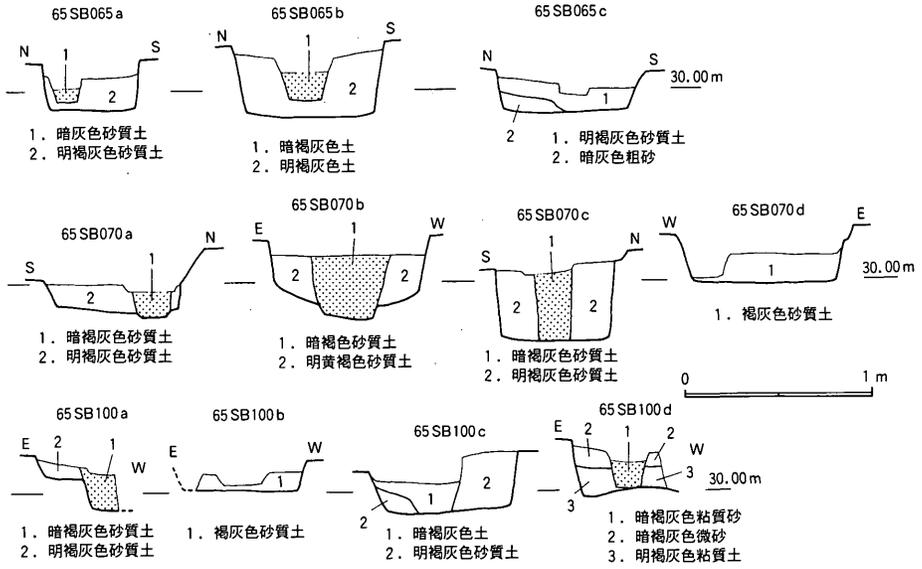


Fig. 15 掘立柱建物柱掘り方土層観察図 (1/40)

は0.55~  
0.95mで、

柱痕は直径0.17~0.25m程度である。埋土は単純に埋め戻された程度のもので、特に丁寧な積み方は行っていない。推定される建物主軸の振れは、N-9° 10' - W前後である。

**65SB070** 東西2間以上、南北1間以上で、L字状に検出された。検出された分の柱間は、a~dへ順に2.5・3.3・3.4 mで、柱掘り方は0.6~0.75 m、柱痕は直径0.2 m程度である。埋土は単純に埋め戻された程度のもので、特に丁寧な積み方は行っていない。推定される建物主軸の振れは、北を基準に換算して、N-12° 50' - E前後である。

**65SB100** 東西3間以上、南北1間以上で、L字状に検出された。検出された分の柱間は、a~eへ順に2.3・2.3・2.4・2.5 mで、柱掘り方は0.5~0.75 m、柱痕は直径0.2 m程度である。埋土は単純に埋め戻された程度のもので、特に丁寧な積み方は行っていない。推定される建物主軸の振れは、北を基準に換算して、N-9° - W前後であり、65SB065に近似する。

#### 土壌

**65SK005** 東西1.28 m、南北0.65 m以上、深さ0.60 m内外を測る。東側半分程度を65SX001に切られる。埋土は上層が淡褐灰色砂質土、下層が淡褐灰色土であるが、上層の一部に黒色系の土の堆積がある。遺物は65SX001の遺物が混入している可能性が高い最上層と、上記した各層から出土している。黒色土層は別の遺構の可能性も考えられるがここでは同一のものとして報告しておく。

**65SK010** 東西1.8 m以上、南北1.42 m以上、深さ0.25 m前後を測る。堆積土は上層と下層に大きく分層される。上層では平安期の遺物を含んでいるが、下層では全く含まず、上下別の遺構

であった可能性が強い。

**65SK060** 東側は調査区の外に延びている。東西1.0m以上、南北0.5m、深さ0.3m程度の土壌である。明茶黄色土の埋土である。

**65SK083** 東側を65SB070の柱掘り方aに切られ、西側は調査区外に延びるため詳細は不明。南北0.93m、深さ0.1mを測る。

**65SK085** 淡褐色土上面から切り込み、65SX015に切られている。楕円形を呈し、東西1.28m、南北0.98m、深さ0.1mを測る。

**65SK086** 遺構の中央付近を65SD050に切られ、淡褐色土層に切り込む。東西1.19m、南北1.10m、深さ0.5mで、隅丸方形を呈する。出土遺物の主体は9世紀代である。

**65SK095** 65SE040に切られ、65SK110を切る土壌である。南側が調査区の外に延びているが、南北1.45m以上、東西2.3m以上、深さ0.2mを測るかなり大きな遺構である。上下2層に大きく分層して調査されたが、下層では奈良時代の資料を主体にするが、上層ではかなり平安期の遺物が混じっている。65SE040の遺物が調査中に混じり込んだ可能性が高い。下層の遺物から9世紀前半以前の遺構として捉えておきたい。

**65SK110** 65SB070a及び65SK095に切られている。南北2.2m以上、東西0.9m、深さ0.3mで、調査区外に延びている。溝状遺構の可能性もある。

**65SK150** 淡褐色土層の下層で検出したもので、今次の調査では最も古いものである。東側を65SK005及び65SX001に切られ、南北1.22m、東西1.60m以上、深さ0.7mを測る。大宰府成立期に近い時期の遺物を出土しており重要である。

#### 溝

**65SD050** 調査区中程から北側調査区外に延びる遺構で、検出長5.5m、幅0.6～0.79m、深さ0.25m程度である。ほとんどの遺構を切っており、今次の調査では最も新しい時期の遺構のひとつである。

#### 井戸

**65SE040** 東西1.80m、南北1.61m、深さ0.7mを測る略方形プランを呈する井戸と考えられる。調査過程で最深部近くに円形のプランを検出しており、それが曲物を埋置した痕跡と考えられる。

#### その他の遺構

##### 段落ちあるいは大土壌

**65SX001** 調査区の北東隅部分で検出した南北4.4m以上、東西2.3m以上、深さ0.15m内外の遺構である。多くの部分が調査区の外に広がっており、全体が把握できないためその性格を明らかにできない。埋土は暗黒褐色土が主体である。ほとんどの遺構を切っており、今次の調査では最も新しい時期の遺構のひとつである。

**窪み状遺構**

**65SX030** 略円形を呈する浅い窪み状遺構である。南北1.75m、東西1.60m、深さ0.05m程度を測る。

**柱掘り方状遺構**

**65SX020** 65SB070、65SD050に切られ、65SX125を切っている。65SD050による破壊のため全体は知り得ない。東西0.6m以上、深さ0.18mを測るもので、中央とみられる付近に直径0.2m程度の柱痕跡を確認した。

**65SX025** 略隅丸方形のプランを有するもので、一辺約0.7m、深さ0.45mを測る。中央付近に直径0.25m程度の柱痕跡を確認した。

**65SX087** 65SX030を除去後に検出された。隅丸長方形を呈し、南北0.72m、東西0.54m、深さ0.45mを測る。掘り方の隅に片寄って直径0.2mほどの柱痕跡が確認された。柱の先端は尖ったように検出されているが土層観察用壁面の傾斜によるものと考えられる。

**65SX112** 調査区南隅で確認された遺構で、一部が調査区の外に延びている。楕円形を呈し、南北0.55m以上、東西0.92m、深さ0.25mで、直径0.2m程度の柱痕跡が確認された。

**65SX115** ピット群に切られるが、淡褐色土より新しい。南北0.65m、東西0.7m、深さ0.45mを測る。直径0.2m程の柱痕跡が確認された。なお、下層に検出されているピットは別遺構と判断している。

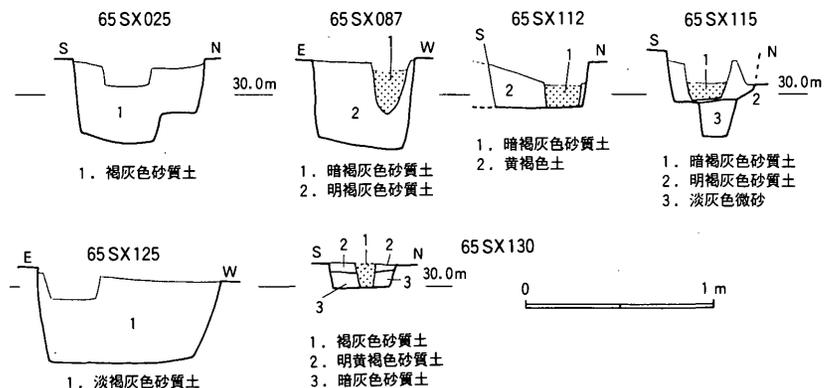
**65SX125** 65SX020、65SB100等に切られる。この付近の切り合い関係では最も古いものである。東西0.96m以上、南北0.83m、深さ0.45mを測り、プランは楕円形を呈している。底まで行き着かないが、直径0.25m程度のピット(S-97)が埋土の上面から穿たれており、柱痕跡と推定される。

**65SX127** 65SB065やその他のピットに切られる。東西0.6m前後、南北0.80m、深さ0.45mを測る。掘り方の隅に片寄って直径0.17m程の柱痕跡が認められる。

**65SX130 東西**

0.42m、南北0.37m、深さ0.12mで、直径0.1m程の柱痕跡が確認された。

これらの柱掘り方群は、今回の調査地内において建物を構成する要素に不足していたた



**Fig. 16** 掘り方状遺構土層観察図(1/40)

めこの項で紹介した。調査段階では、案として65SX025、65SX087、S-90、65SX112、65SX115でひとつ、及びS-16、S-53、S-62、S-73、65SX102、65SX130、65SX139でひとつの纏まりを持つのではないかと考えていたが、前者は柱筋の不均一、後者は掘り方形状の異なりと出土遺物の年代差などから、積極的にひとつの建物として把握することにためらいを覚えたため、正式に建物として報告することは避けた。他のピット群の検討を含めて、周辺の調査成果に期待したい。

#### 甕埋納遺構

**65SX135** 土師器の甕を合わせ口にして埋納した遺構である。遺構の一部は65SE040に切られる。南北0.5m以上、東西0.61m、深さ約0.15m以上を呈する。甕は両者とも底部が穿孔されていることから、埋葬あるいは祭祀に関係する遺構の可能性が考えられる。

#### ピットなど

**65SX007** 北半分は調査区外である。南北0.25m以上、東西0.3m、深さ0.16mを測る。暗褐灰色土埋土。

**65SX093** 南北0.50m、東西0.71m、深さ0.20mを測る。楕円形を呈している。

**65SX108** 径0.2m、深さ0.24mで周辺の遺構との切り合い関係では最も新しい。

**65SX121** G5区で検出したピット群で、いずれも深さ0.1m内外の浅いものである。

**65SX134** 南北0.35m、東西0.30m、深さ0.25mを測るピットである。

**65SX137** 深さ0.1mのピットであるが、65SE040に切られる他、調査区外に遺構の大半が埋もれており詳細は明らかにできなかった。

## 4) 出土遺物

### 掘立柱建物出土土器

#### 65SB065出土土器 (Fig.17)

##### (柱掘り方a)

##### 須恵器

小蓋3(1) 推定口径10.8cmを測り、口縁端部は断面三角形を呈し、天井部外面は、回転ヘラ切り後ナデによって仕上げている。他の部位については内外面共に回転ナデによって仕上げている。また天井部内面は滑らかに磨滅しており、転用硯の可能性もある。色調は、内外面共に暗茶灰色を呈し、焼成は良好。

皿a(2) 小破片のため、口径は定かではないが、推定口径は16.2cm、残存器高2.1cm、推定底径13.3cmをそれぞれ測る。底部外面は回転ヘラ切り後、回転ナデによって仕上げている。色調は内外面共に暗茶灰色を呈し、焼成は良好。

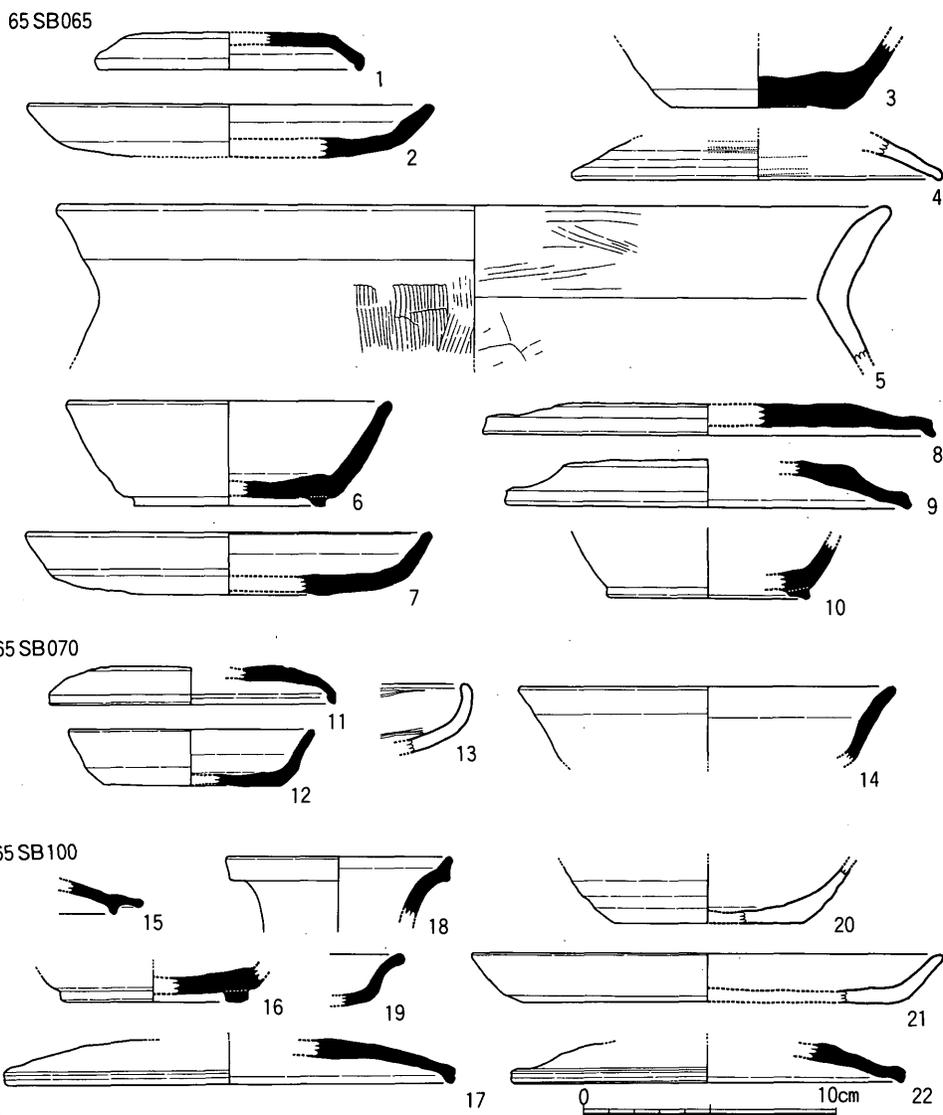


Fig.17 掘立柱建物出土遺物実測図(1/3)

壺(3) 底部のみ残存している小破片で、器形に関しては詳細不明。体部下位より底部外面に関しては、回転ヘラ削りによって仕上げられており、他の部位は回転ナデによって仕上げている。底部内面についてはその後不定方向のナデを行っている。色調は茶灰色を呈し、焼成は良好。

土師器

蓋4(4) 口縁部のみ残存する資料で、推定口径14.8cmを測り、口縁部内面に浅い沈線を巡らせている。内外面共に磨耗しており調整痕跡は定かではないが、内外面ともにミガキaの痕

跡が僅かに残存している。

甕 a (5) 口縁部から頸部にかけて残存している。推定口径33.2cmを測り、内面の調整は、頸部より下位については、右斜め上方へのヘラ削りによって仕上げ、口縁部はハケ調整の後ヨコナデによって仕上げている。外面は口縁端部をヨコナデ、頸部より下位を縦方向のハケによって仕上げている。

**(柱掘り方 b)**

須恵器

坏 c (6) 推定口径13.0cm、器高4.1cm、高台径7.6cmを測り、底部外面の処理は回転ヘラ切り後回転ナデによって仕上げ、底部内面については、回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。他の部位は回転ナデによって仕上げている。色調は青灰色。焼成は良好。

皿 a (7) 推定口径16.2cm、器高2.4cm、推定底径14.2cmを測り、底部外面は、回転ヘラ切り後回転ナデによって仕上げ、底部内面については、回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。他の部位は回転ナデによって仕上げている。色調は淡茶灰色。焼成は良好。口縁部内外面に自然釉がかかる。

**(柱掘り方 c)**

須恵器

蓋 3 (8・9) 両者とも口縁部のみ残存する破片で、いずれも口縁端部形状が断面三角形を呈している。推定口径は18.0cm・16.2cmをそれぞれ測る。天井部外面の処理は、(8)が回転ヘラ削りによって仕上げ、(9)は回転ヘラ切りのみで再処理を行っていない。天井部内面は回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。他の部位は回転ナデによって仕上げている。色調は、暗青灰色および淡灰色を呈する。焼成は両者とも良好。

坏 c (10) 底部のみ残存しており、正確な形状に関しては不明確。推定高台径8.1cmを測る。内外面共に回転ナデによって仕上げ、色調は灰色。焼成は良好。

**65SB070出土土器 (Fig.17)**

**(柱掘り方 a)**

須恵器

小蓋 3 (11) 推定口径11.4cmを測り、天井部外面は回転ヘラ切り後未調整。天井部内面は回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。他の部位は回転ナデ。色調は青灰色。焼成は良好。

**(柱掘り方 c)**

須恵器

小坏 a (12) 推定口径9.8cm、器高2.2cm、推定底径7.1cmを測る。底部外面は回転ヘラ切り後未調整で、底部内面は回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。他の部位は回転ナ

デによって仕上げている。色調は灰色。焼成は良好。

**(柱掘り方 d)**

土師器

13は、皿bまたは高坏とみられる口縁部のみの破片である。内外面ともに手持ちによるミガキで、色調は橙茶灰色を呈している。焼成はやや良好。

須恵器

坏(14) 口縁部のみの破片で、推定口径15.0cmを測る。内外面ともに回転ナデによって仕上げており、色調は灰白色。焼成は良好。

**65SB100出土土器 (Fig.17)**

**(柱掘り方 a)**

須恵器

蓋1(15) 口縁端部のみの破片で、内外面ともに回転ナデによって仕上げている。色調は明茶褐色を呈し、焼成は良好。周辺遺構からの混入の可能性あり。

坏c(16) 高台部分のみの破片で、底部外面は回転ヘラ切り後未調整、他の部位は回転ナデによって仕上げている。推定高台径7.4cmを測る。

**(柱掘り方 b)**

須恵器

壺f(18) 口縁部のみの破片で、推定口径9.0cmを測る。内外面ともに回転ナデによって仕上げる。色調は暗灰色を呈し、焼成は良好。

**(柱掘り方 c)**

土師器

坏d(20) 底部のみの破片で、底部外面の処理は回転ヘラ切り後未調整、他の部位は内外面ともに回転ナデによって仕上げる。色調は橙茶灰色を呈し、焼成はやや不良。

皿a(21) 推定口径18.8cm、器高1.9cm、推定底径16.0cmを測り、底部外面は回転ヘラ削りによって仕上げ、他の部位は回転ナデによって仕上げている。ただし内面に関しては、器面が磨耗していることから判然としない。色調は橙茶灰色を呈し、焼成はやや不良。

**(柱掘り方 d)**

須恵器

皿(19) 口縁部のみの破片で、内外面ともに回転ナデによって仕上げる。色調は暗灰色を呈し、焼成は良好。

蓋3(17) 推定口径17.8cmを測り、口縁端部形状が断面三角形を呈している。天井部外面は回転ヘラ削りによって仕上げており、天井部内面は回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。色調は灰色を呈し、焼成はやや不良。

(柱掘り方 e)

須恵器

蓋 3 (22) 推定口径15.6cmを測り、口縁端部形状がやや上部へ屈曲気味に断面三角形を呈している。天井部外面は回転ヘラ切り未調整で、天井部内面は回転ナデの後不定方向のナデによって仕上げている。色調は外面が明灰色、内面は暗灰色を呈しており、焼成は良好。口縁部内面に墨痕跡が残存している。

土壙出土土器

65 SK 005最上層出土土器 (Fig.18、Pl. 5)

須恵器

蓋 3 (1・2) 推定口径14.2・17.3cmをそれぞれ測り、天井部外面は回転ヘラ削りにより仕上げている。色調はそれぞれ暗灰色・淡青灰色を呈しており、焼成は良好。

土師器

坏 d (3) 口径15.0cm、器高3.2cm、底径6.7cmをそれぞれ測り、体部外面下位より底部外面は回転ヘラ削りによって仕上げる。内外面ともに器面磨耗が著しい。色調は明茶橙色、焼成は不良。

坏 e (4) 底部のみの破片で、底部は回転ヘラ切り未調整。色調は明茶橙色を呈し、焼成は良好。

65 SK 005黒色土層出土土器 (Fig.18、Pl. 5)

須恵器

蓋 3 (5) 口縁端部のみ残存する。

坏 c (6・8) 6は高台のみ残存する破片資料。底部外面の処理は回転ヘラ切り後、未調整。8は推定口径15.6cm、器高5.5cm、推定高台径9.5cmを測り、底部外面の処理は回転ヘラ切り後ナデによって仕上げている。

大皿 a (7) 推定口径は18.7cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り未調整。

65 SK 005淡褐灰色土層出土土器 (Fig.18、Pl. 5)

須恵器

皿 a (10) 推定口径は8.4cm、器高2.1cm、底径11.2cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り未調整。

坏 a (11) 推定口径は12.2cm、器高3.35cm、底径8.4cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り未調整。火禱あり。

碗 a (12) 推定口径17.5cm、器高8.25cm、底径10.0cmをそれぞれ測り、口縁部外面より底部外面にかけて回転ヘラ削りによって仕上げている。やや歪みがある。遺構の切り合いから、下位の遺構である65 SK 150からの混入の可能性がある。

土師器

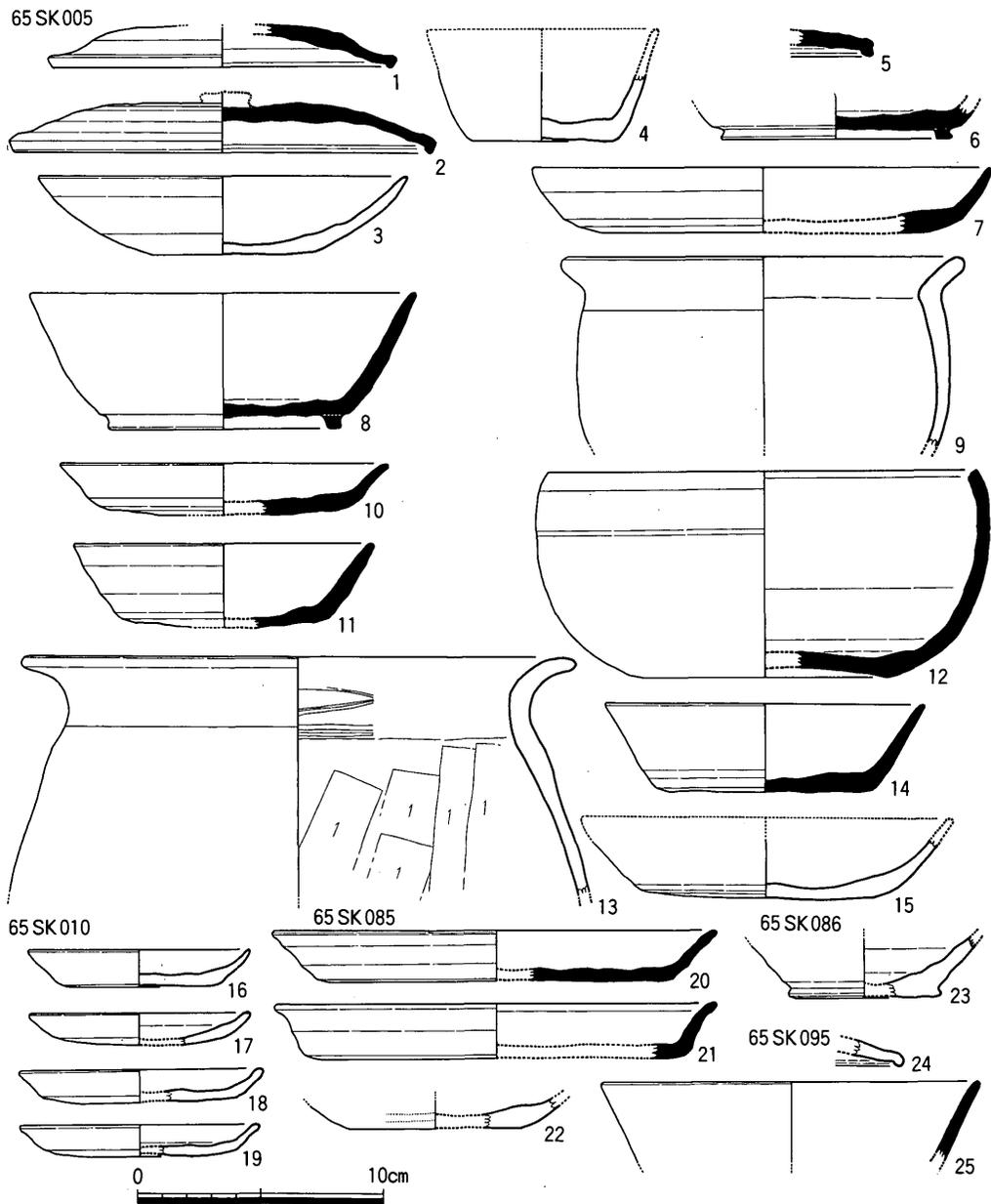


Fig. 18 第65次調査土壙出土遺物実測図(1)(1/3)

甕 a (13) 推定口径22.6cmを測り、体部より緩やかに外反しつつ口縁部へ至る形状を示す。頸部内面および体部外面はハケによって調整し、口縁部内外面ともにヨコナデによって仕上げている。胎土中に角閃石を少量混入している。また口縁部外面に煤状炭化物が付着している。遺構の切り合いから、下位の遺構である65 SK 150からの混入の可能性はある。

65 SK 005 褐色土層出土土器 (Fig. 18)

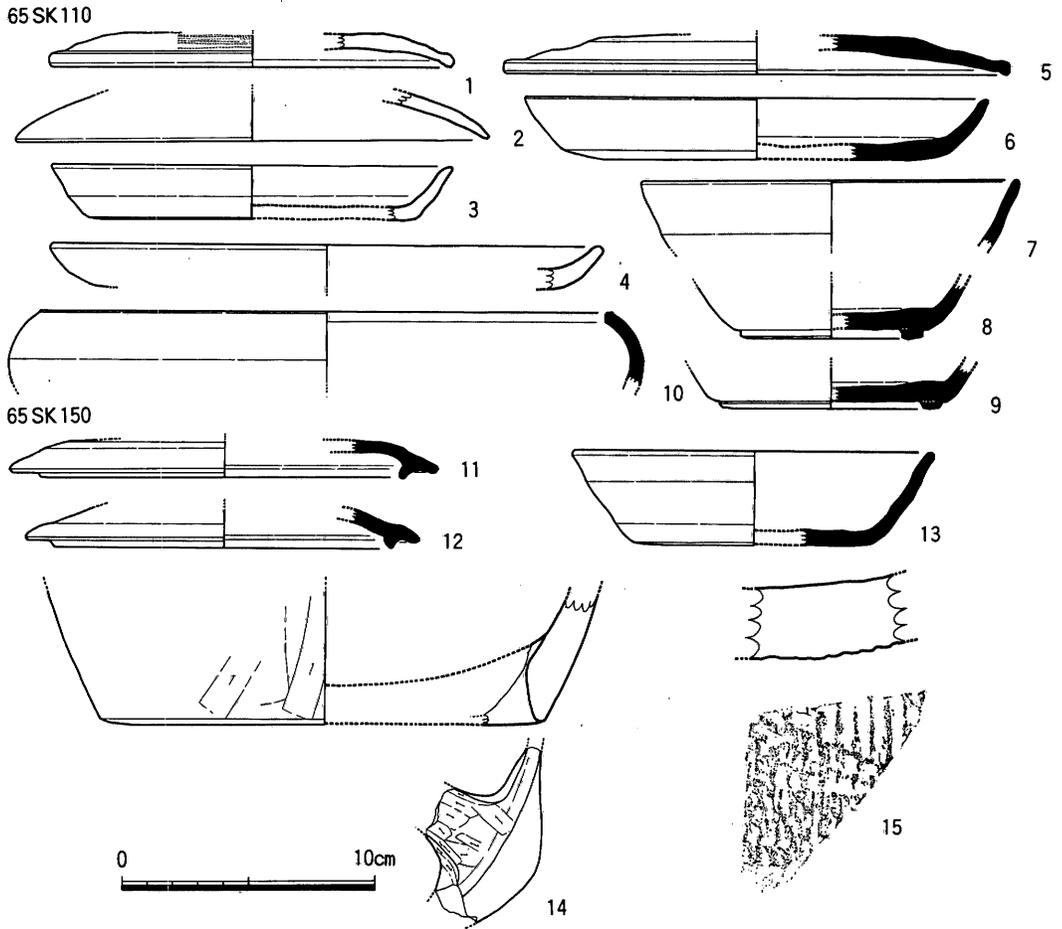


Fig. 19 第65次調査土壙出土遺物実測図(2) (1/3)

須恵器

坏 a (14) 推定口径13.0cm、器高3.5cm、底径8.8cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り後粗いナデによって仕上げている。色調は淡灰色を呈している。

土師器

坏 d (15) 推定底径9.2cmを測り、体部下端より底部外面にかけて回転ヘラ削りによって仕上げている。色調は内面明茶橙色、外面淡茶橙色から淡黄茶白色を呈している。

65 SK 010出土土器 (Fig.18)

土師器

小皿 a (16~19) 口径9.0~10.0cm、器高1.3~1.5cm、底径6.4~8.4cmをそれぞれ測り、底部外面は回転ヘラ切りによって処理されている。

65 SK 085出土土器 (Fig.18)

須恵器

大皿 a (20・21) 推定口径18.2・18.0cm、器高2.1・2.2cm、推定底径14.5・15.4cmをそれぞれ測り、底部外面は回転ヘラ切りによって仕上げている。

土師器

坏 d (22) 底部のみの破片で、推定底径7.1cmを測る。体部外面にミガキa痕跡が残る。

**65SK086出土土器 (Fig.18)**

土師器

坏 a (23) 底部のみの破片で、やや高い底部形状を示す。底部外面は回転ヘラ切りによって処理されており、色調は灰色、焼成はやや良好。内外面ともに回転ナデによって調整されている。

**65SK095出土土器 (Fig.18)**

須恵器

坏 (25) 推定口径15.4cmを測る口縁部のみの破片で、内外面ともに回転ナデによって調整している。

土師器

蓋 3 (24) 口縁端部のみ残存する。端部はやや丸みをおびているが、断面三角形の形状をとどめている。

**65SK110出土土器 (Fig.19)**

土師器

蓋 3 (1) 推定口径16.1cmを測り、内外面をミガキaによって仕上げている。

蓋 4 (2) 推定口径18.8cmを測り、器面磨耗が著しいが磨き痕跡をわずかに確認できる。

皿 a (3) 推定口径16.0cm、器高2.1cm、推定底径12.9cmを測る。器面磨耗のため調整痕跡は不明確。

大皿 a (4) 推定口径22.0cmを測り、器面磨耗のため調整痕跡は不明確。

須恵器

蓋 3 (5) 推定口径20.1cmを測り、天井部外面は回転ヘラ削りによって仕上げている。色調は灰白色、焼成は良好。

皿 a (6) 推定口径18.4cm、器高2.4cm、推定底径15.5cmを測る。底部は回転ヘラ切りによって処理されており、色調は明灰色。焼成は良好。

坏 (7) 推定口径15.0cmを測り、内外面ともに回転ナデによって仕上げられている。

坏 c (8・9) 高台のみの破片で、底部外面は回転ヘラ切り後未調整。

鉢 a (10) 推定口径22.7cmを測り、内外面ともに回転ナデによって仕上げている。色調は青灰色を呈し、焼成は良好。

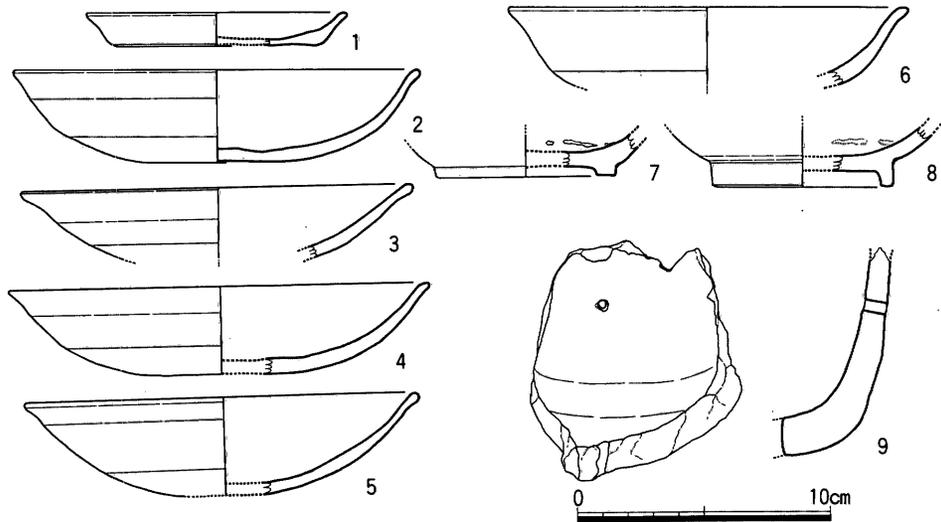


Fig. 20 第65次調査溝出土遺物実測図(1/3)

### 65SK150出土土器 (Fig.19)

#### 須恵器

蓋 1 (11・12) かえりのある蓋で、推定口径は17.0・15.6cmをそれぞれ測る。11の天井部外面には回転ヘラ削り痕跡をとどめている。

坏 a (13) 推定口径14.4cm、器高3.7cm、推定底径9.1cmを測る。底部外面は回転ヘラ切り後、回転ヘラ削りによって仕上げられる。遺構の切り合いから、上位の遺構である65SK005からの混入の可能性がある。

甌 (14) 底部のみ残存するもので、内外面をヘラ状の工具によって削っている。推定底径17.8cmを測る。色調は赤みのある橙茶灰色を呈している。

平瓦 (15) 乱れた斜格子叩きによってつくられた瓦で、色調は明茶灰色を呈している。遺構の切り合いから、上位の遺構である65SK005からの混入の可能性がある。

#### 溝出土遺物

### 65SD050出土遺物 (Fig.20)

#### 土師器

小皿 a (1) 推定口径10.4cm、器高1.3cm、推定底径8.5cmを測り、底部外面の処理は磨耗のため不明確。

丸底坏 a (2～6) 推定口径15.6～16.7cmを測り、底部外面の処理は全て回転ヘラ切りの痕跡をとどめる。

#### 越州窯系青磁

碗 (7・8) 7はI-2・イ類、8はI-2・ア類。見込み部分および畳付け部分に目跡が残る。

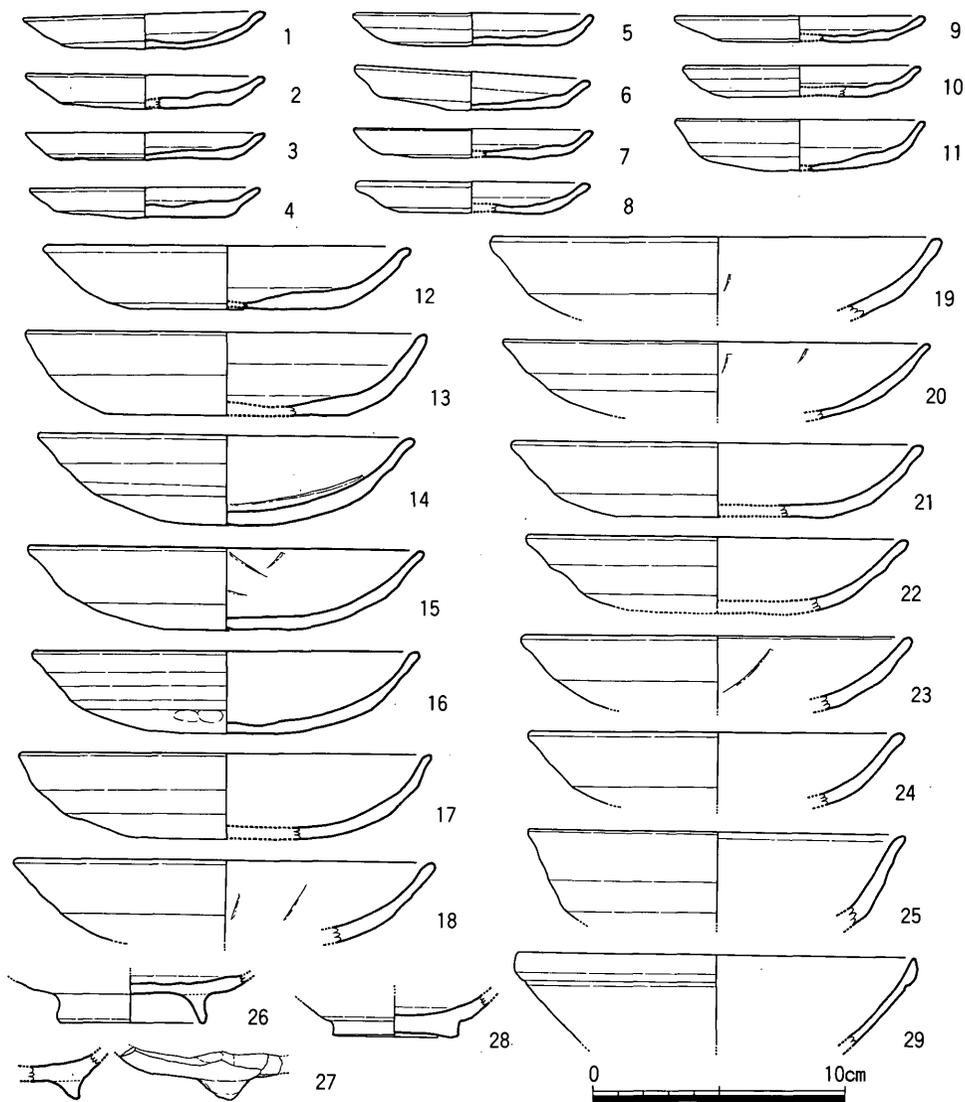


Fig.21 65SE040出土遺物実測図(1/3)

石製品

石鍋転用品(9) 滑石製石鍋の転用加工品で1箇所穿孔している。外面は鍋として利用されていたことを示す煤が付着している。

井戸出土土器

65SE040出土土器 (Fig.21、Pl. 5)

土師器

小皿a(1~11) 口径9.2~10.0cm、器高1.0~2.0cm、底径7.0~8.0cmをそれぞれ測る。口径

平均は9.59cmを測る。11のみ他のものと異なり、法量がやや大きい。底部外面の処理は、全て回転ヘラ切りである。

丸底坏 a (12~24) 口径14.6~18.0cm、器高2.5~3.5cmを測る。底部外面の処理はいずれも回転ヘラ切り。

小椀 c (26) 高台のみの破片であるため、小皿 c になる可能性もある。推定高台径6.0cmを測り、色調は茶白色を呈し、焼成はやや良好。

脚付坏(27) 脚部のみの破片資料で、三角形の形状を持つ脚が貼付されている。色調は褐茶灰色を呈している。

#### 山茶碗

碗(25) 口縁部のみ破片で、推定口径15.0cmを測る。素地特徴が、暗灰白色を呈し、微細な黒色物質を少量含んでいる。焼成はやや良好で、口縁端部に緑灰色の釉がかかる。

#### 緑釉陶器

小椀(28) 高台のみの破片資料。推定高台径は5.0cmを測り、円盤状の高台形状をとる。高台外面の処理は回転糸切りによって仕上げられており、高台外面を除く他の部分を全面施釉している。釉調は淡緑色の色調で、素地特徴は明灰色を呈し微細な砂粒を若干混入するものの硬質である。混入の可能性あり。

#### 白磁

碗(29) II-5類。推定口径16.0cmを測る。内面および口縁部外面付近まで施釉し、釉調はやや灰色をおびた半透明釉で、柔らかな光沢がある。素地特徴は明灰白色で精選されている。

#### その他の遺構出土土器

##### 段落ちあるいは大土壇出土土器

##### 65 SX001上層出土土器 (Fig.22~24、Pl.4・5)

#### 土師器

小皿 a 1 (1~65・67) 口径9.6~11.2cm、器高0.9~2.1cm、底径6.3~9.0cmを測り、口径平均値は10.35cmを測るが、分布状況は前述した口径の範囲内に平均的に分布している。底部外面の処理は、全て回転ヘラ切り。67のみ器高が高く、他の資料に比して法量が大きい。

小皿 a 2 (66) 推定口径10.4cm、器高0.9cm、底径8.0cmを測り、口縁端部内面に沈線が1条巡る。底部外面の処理は、回転ヘラ切り。

丸底坏 a (68~89) 口径14.5~16.8cm、器高3.6~4.95cmを測り、口径平均は15.52cmを測る。全て回転ヘラ切りによって、底部切り離し処理が行われている。

小椀 c 2 (90・91) 口径11.2・12.3cm、器高4.5・4.75cm、高台径5.4・6.5cmをそれぞれ測る。色調は淡白茶色および淡橙茶色を呈する。

碗 c 2 (92) 推定口径14.8cmを測り、高台が欠損している。色調は内面淡茶灰色、外面淡黄

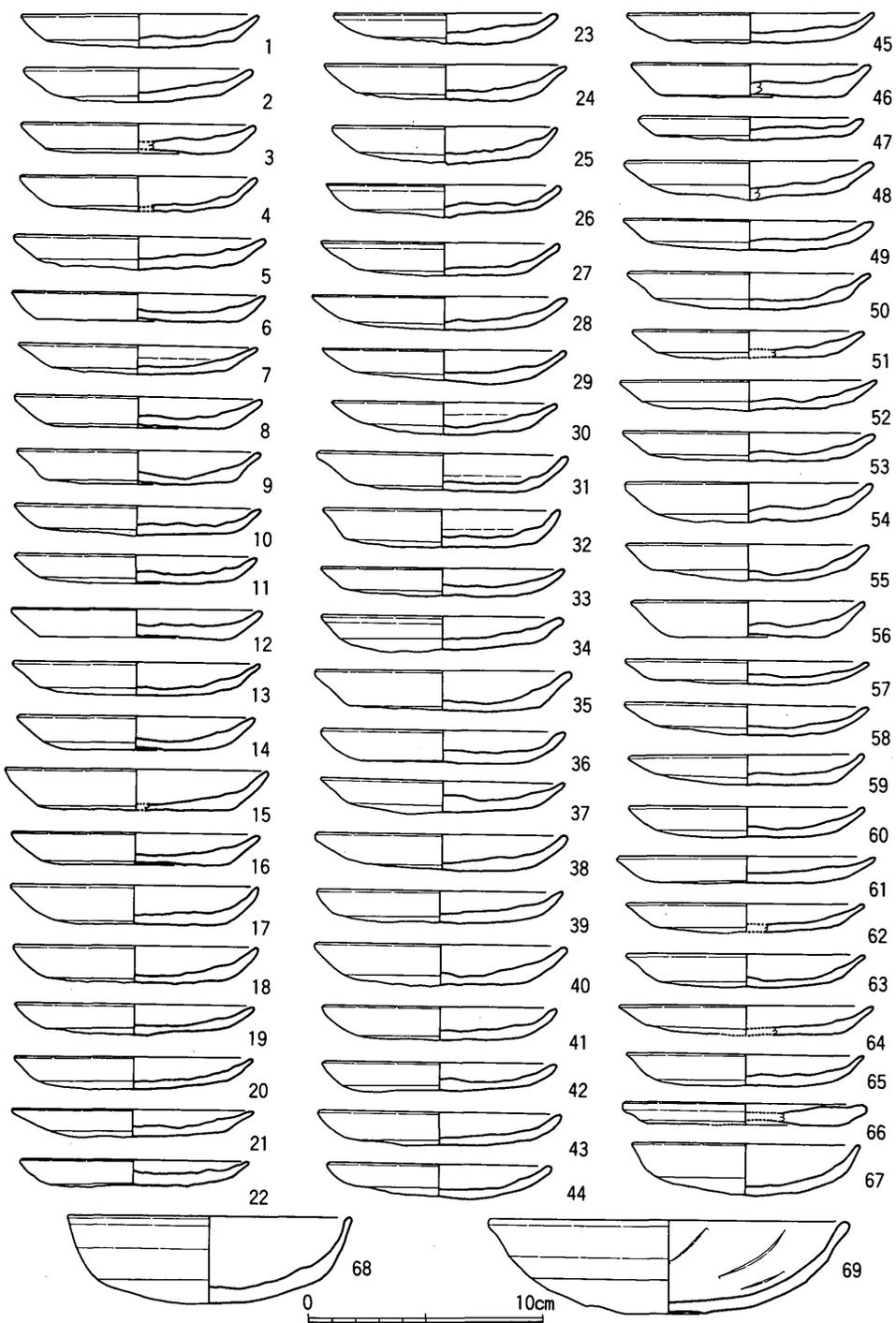


Fig. 22 65SX001出土遺物実測図(1)(1/3)

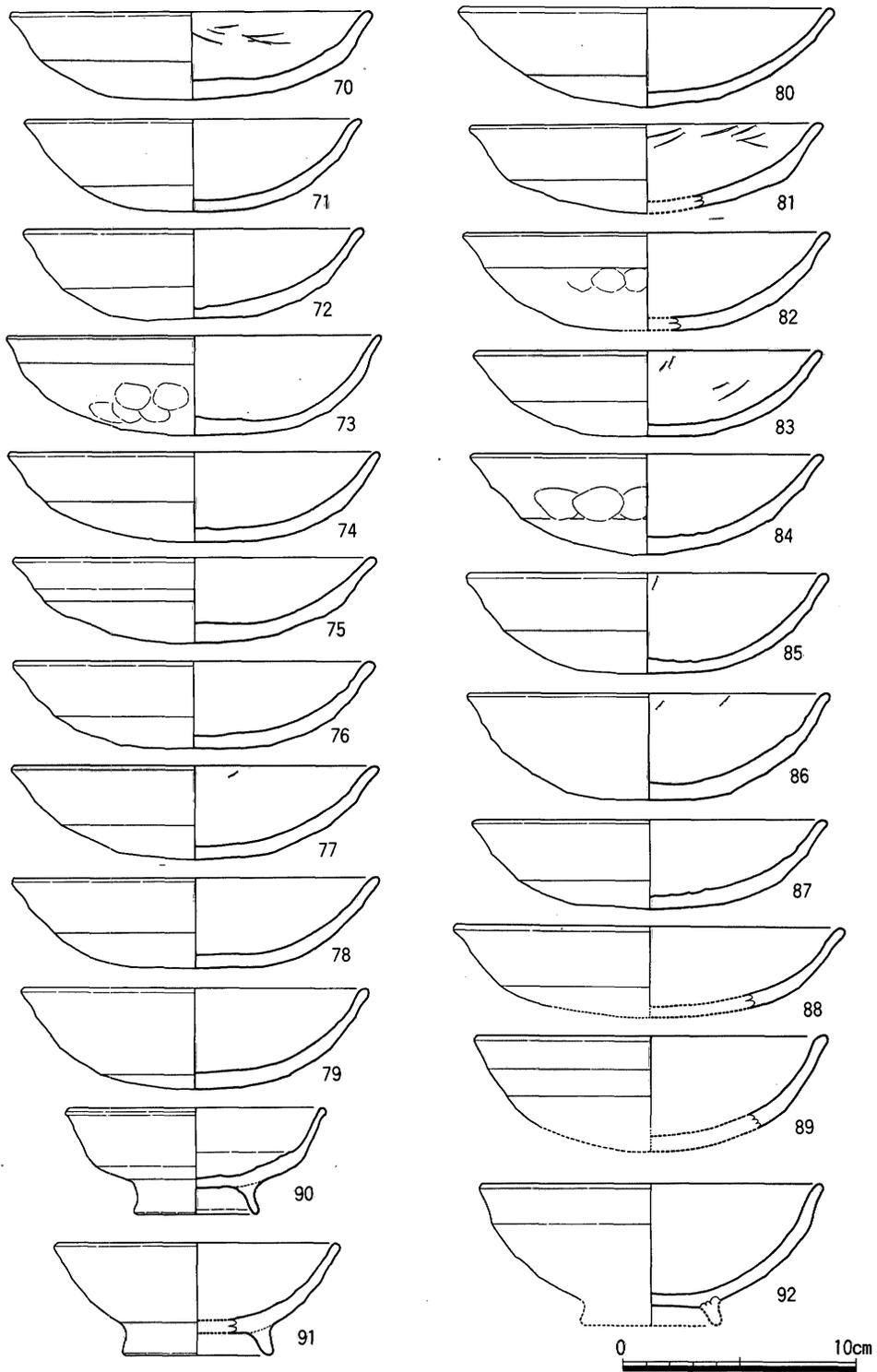


Fig. 23 65SX001出土遺物実測図(2)(1/3)

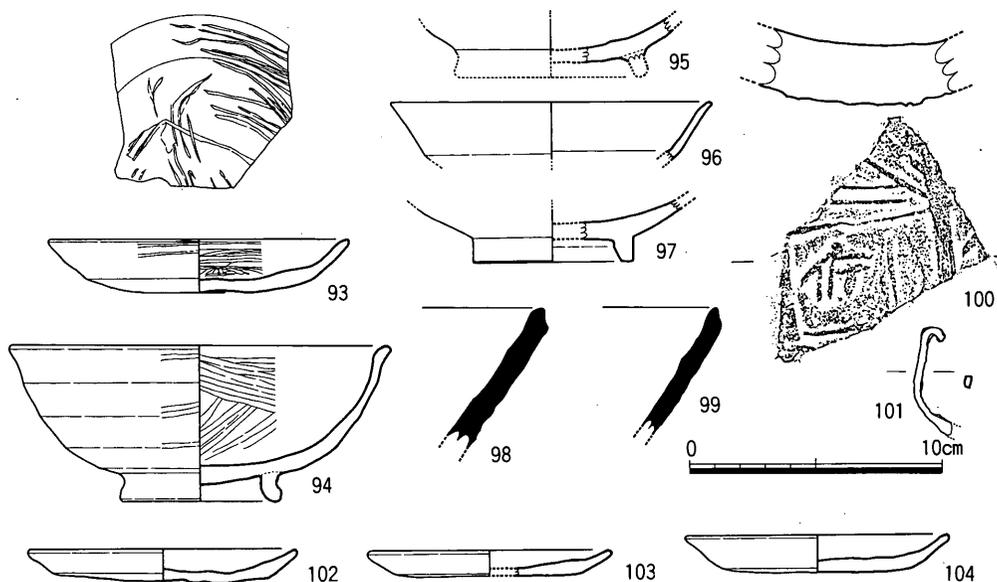


Fig.24 65SX001出土遺物実測図(3)(1/3)

茶色を呈し、焼成は不良。

黒色土器A類

碗c(95) 底部のみ残存する破片で器形の詳細については不明確。内面にミガキcの痕跡をわずかにとどめる。

黒色土器B類

皿a(93) 推定口径12.0cm、器高2.1cm、推定底径9.0cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り。内面および体部外面をミガキcによって仕上げ、精選された胎土特徴を有する。内面に光沢あり。

碗c2(94) 推定口径15.2cm、器高6.1cm、推定高台径6.4cmを測る。内面から体部外面にかけてミガキcによって仕上げられており、精選された胎土特徴を有する。高台は粘土紐を巻き付けたような形状を示す。体部内外面に光沢がある。

白磁

皿(96) XI-3類。推定口径12.8cmを測り、精選された白色の素地特徴を有している。釉調はわずかに褐色がかかった白色釉で、透明かつ光沢がある。

碗(97) V類。推定高台径6.4cmを測り、精選された灰白色の素地特徴を有している。釉調は、青色味がかかった透明な白色釉で、貫入が入る。

須恵器

鉢(98・99) いずれも口縁部のみ残存する破片で、口縁端部がややつまみ出された形状をとる。焼成は良好。

瓦

丸瓦(100) 大宰府分類II-5類。「佐」の文字を記す。

鉄製品

釘(101) 現存長4.2cmを測り、断面長方形を呈している。

#### 65SX001下層出土土器 (Fig.24, Pl.4)

土師器

小皿 a (102~104) 推定口径9.8~10.8cm、器高1.0~1.45cm、推定底径7.4~8.8cmをそれぞれ測る。全て回転ヘラ切りによって切り離し処理を行う。

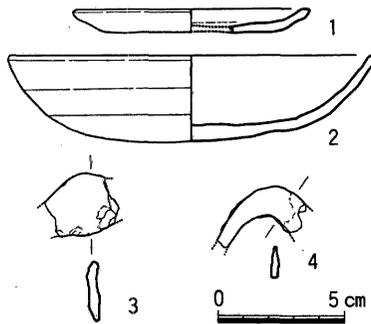


Fig.25 65SX030出土  
遺物実測図(1/3)

#### 窪み状遺構出土遺物

#### 65SX030出土遺物 (Fig.25)

土師器

小皿 a (1) 推定口径9.4cm、器高0.9cm、推定底径7.0cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り。

丸底坏 a (2) 推定口径14.2cm、器高3.4cmを測り、底部外面は回転ヘラ切り。色調は、淡茶白色を呈する。鉄製品(3・4) いずれも小破片であるため器種の限定はできなかった。

#### 柱掘り方状遺構出土遺物

#### 65SX020出土遺物 (Fig.26, Pl.5)

土師器

蓋 3 (1・2) 推定口径14.0・14.1cmを測り、ミガキ a によって器面調整を行っている。色調は両者とも淡茶灰色を呈している。

須恵器

蓋 3 (3) 推定口径14.2cmを測り、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデによって仕上げている。体部と口縁部の色調が重ね焼きのためか、わずかに異なっている。

皿 a (4・5) 口径15.0・18.2cm、器高2.1・2.4cm、底径12.0・15.0cmを測り、両者とも底部外面の処理は、回転ヘラ切り後ナデによって仕上げている。色調は灰白色・暗灰色を呈している。

大甕(6) 口縁部の破片資料で、外面に櫛状原体を上下に動かして描く波状文が残る。内面および外面に自然釉がかかる。

石器

石斧(7) 残存長11.6cmをはかり、刃部を欠損している。表面全体に敲打痕跡が残存している。材質は変質はんれい岩。

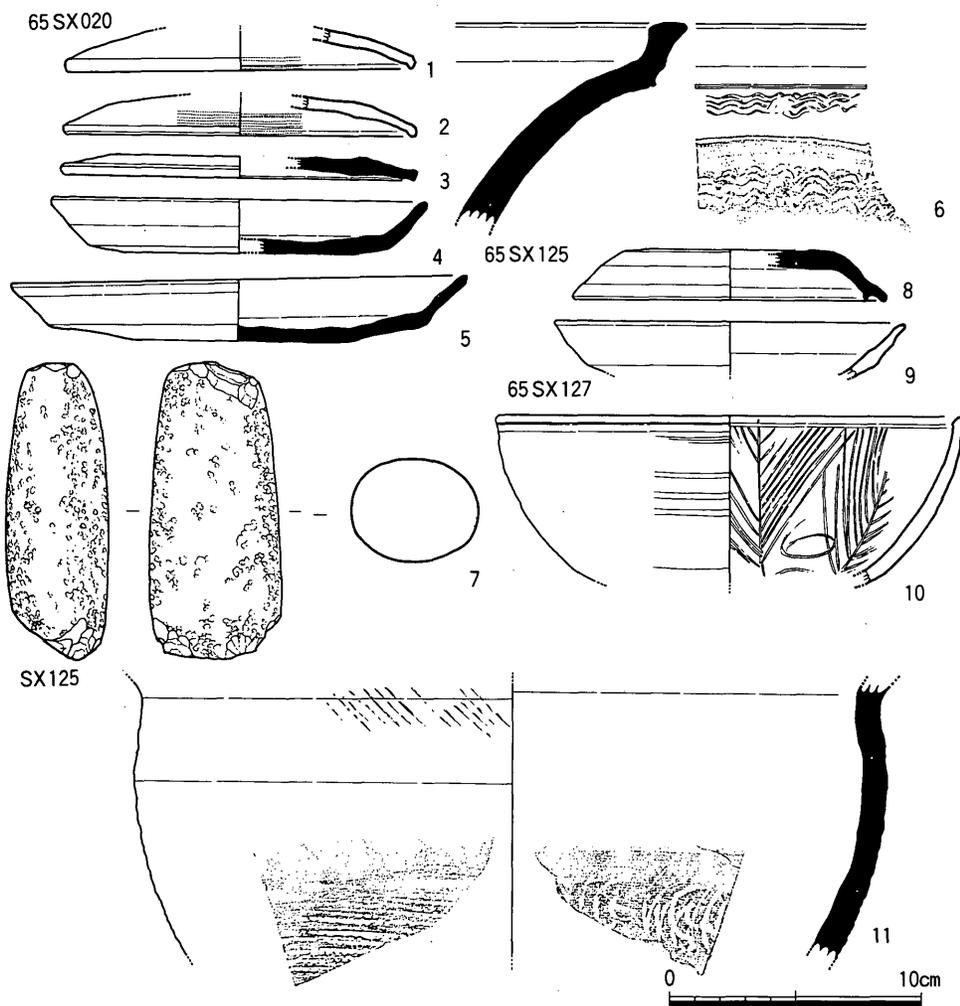


Fig. 26 第65次調査掘り方状遺構出土遺物実測図(1/3)

65 SX 125出土土器 (Fig.26)

須恵器

蓋 1 (8) 推定口径は12.6cmを測り、天井部外面は回転ヘラ削りによって仕上げている。色調は明青灰色を呈している。

甕(11) 頸部から体部にかけての破片資料。叩き締めによって器面調整がなされているが、体部中位から頸部にかけて回転ナデによって再調整がなされている。色調は灰白色を呈している。

土師器

皿(9) 推定口径14.0cmを測り、内外面回転ナデによって仕上げている。色調は茶灰色を呈する。

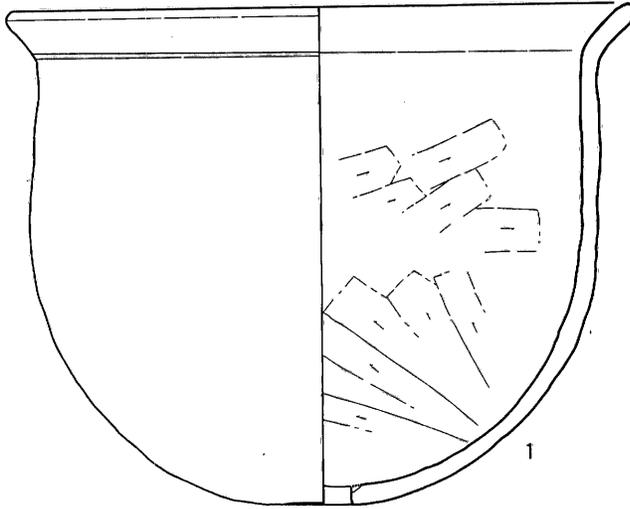
65SX127出土土器 (Fig.26, Pl. 6)

土師器

碗(10) 推定口径18.6cmを測り、口縁部内面に1条の沈線を巡らす。外面はミガキによって仕上げられており、内面に暗文が描かれている。色調は橙茶灰色で、雲母片を少量含む胎土特徴を有している。

甕埋納遺構

65SX135出土土器 (Fig.27, Pl. 6)



土師器

甕b(1・2) 口径24.8・27.9cm、器高19.5・21.2cmを測り、両者とも底部を穿孔している。体部内面は両者ともヘラ削りによって調整しており、体部外面は、格子叩きの痕跡をとどめている。色調は茶白色を呈している。

ピットなど出土土器

65SX007出土土器

(Fig.28)

土師器

坏c(1) 推定口径14.4cm、器高4.1cm、推定高台径9.0cmを測り、底部外面の処理は回転ヘラ切り後未調整。内外面ともに器表面が磨耗しているため調整痕跡の詳細について不明確。

65SX093出土土器

(Fig.28)

土師器

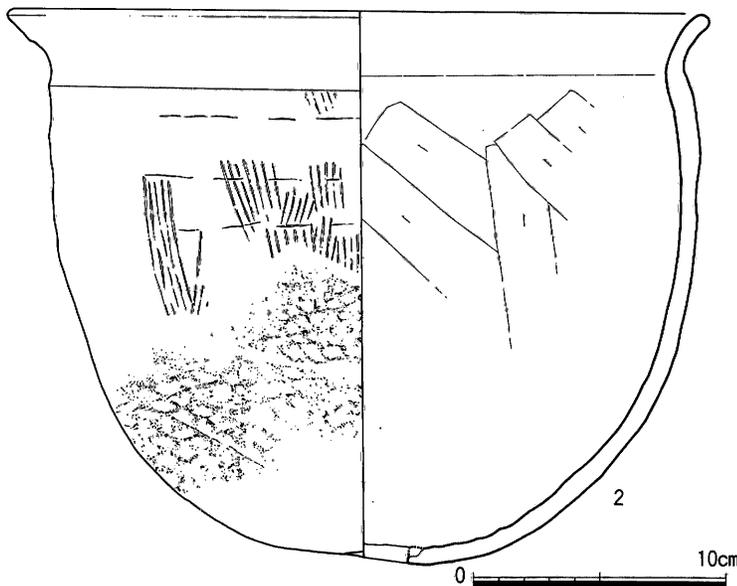


Fig. 27 第65次調査甕埋納遺構出土遺物実測図(1/3)

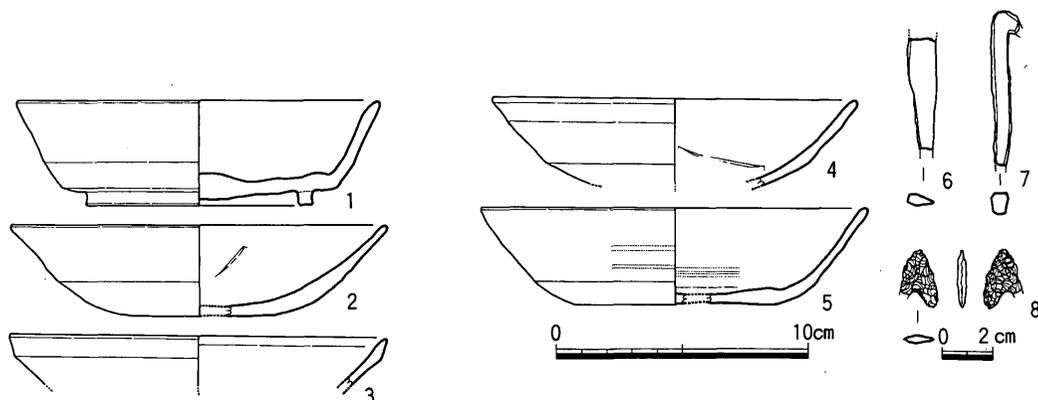


Fig. 28 第65次調査その他の遺構(SX007・093・108・121・134・137・141)出土遺物実測図(1/3)

丸底坏a(2) 推定口径15.0cm、器高3.6cmを測り、回転ヘラ切りによって切り離し処理を行っている。

坏(3) 口縁端部を面取りするもので、一見玉縁状の形状を示す。色調は明茶灰色を呈しているが、焼成は不良。

**65 SX108出土鉄製品 (Fig.28)**

鉄製品

刀子(6) 現存長4.5cmを測るが、大半を欠損しているため、器形の詳細に関しては不明確。

**65 SX121出土土器 (Fig.28)**

土師器

丸底坏a(4) 推定口径14.6cmを測り、内面にミガキb痕跡をとどめる。色調は茶白色を呈している。

**65 SX134出土鉄製品 (Fig.28)**

鉄製品

釘(7) 残存長6.0cmを測り、断面形状は正方形を呈している。

**65 SX137出土土器 (Fig.28)**

土師器

坏d(5) 推定口径15.4cm、器高3.8cm、推定底径8.1cmを測り、体部下端外面より底部外面にかけて回転ヘラ削りによって調整している。また内面および体部下端外面までをミガキaによって仕上げている。色調は、赤茶灰色を呈する。

**65 SX141出土石器 (Fig.28)**

石器

石鏃(8) 残存長2.25cmを測り、材質は黒曜石。

**各土層出土遺物**

表土出土遺物 (Fig.29~31、Pl.6)

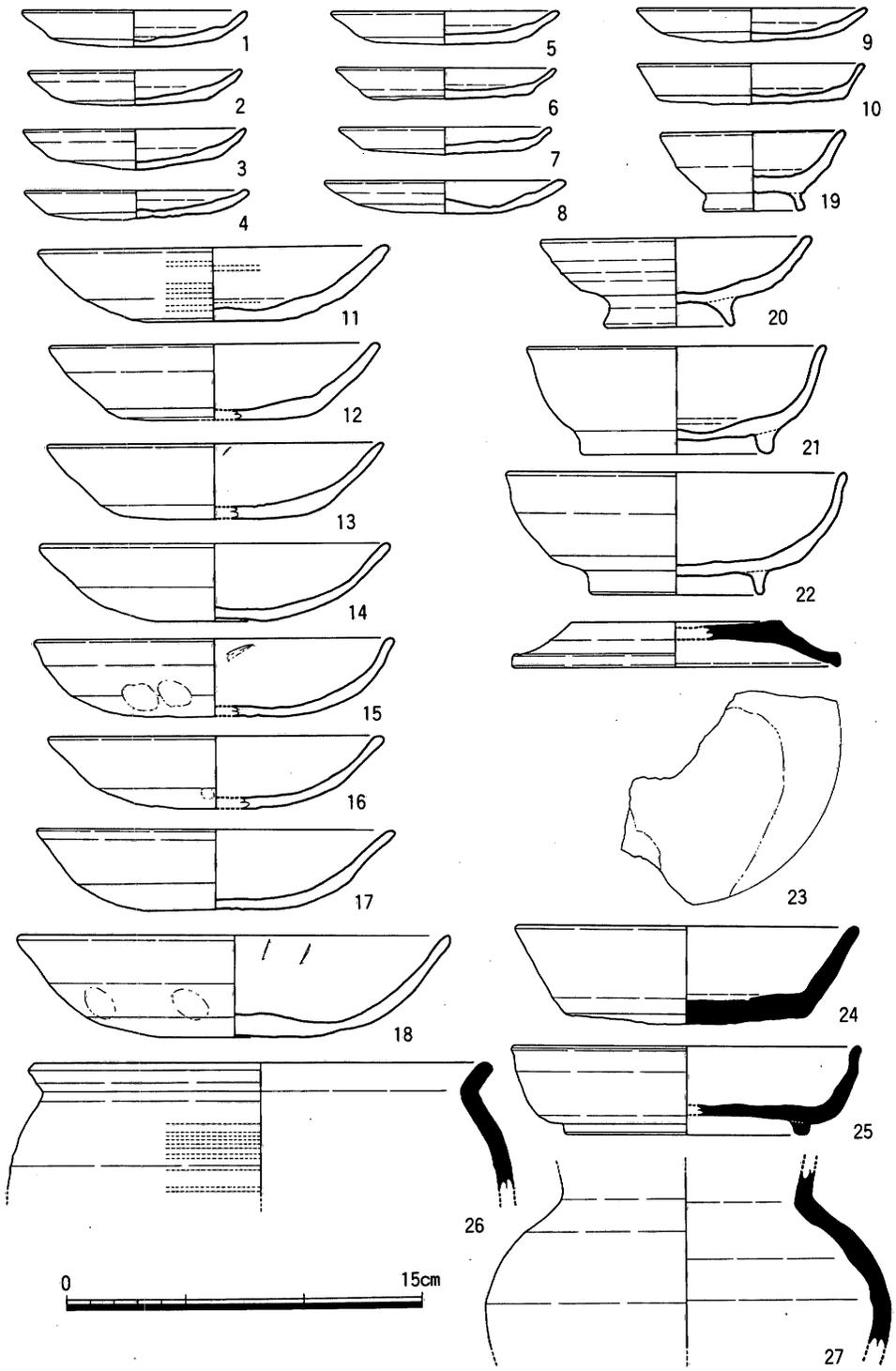


Fig. 29 第65次調査表土出土遺物実測図(1)(1/3)

## 土師器

小皿 a (1～10) 口径9.0～10.2cm、器高1.2～1.7cm、底径6.0～8.1cmを測り、全て底部回転ヘラ切り。10は他の資料と異なり、やや器高が高い。

坏 d (11・12) 推定口径14.8・14.0cm、器高3.05・3.15cm、推定底径7.1・7.8cmを測り、両者とも体部外面下位より底部外面にかけて回転ヘラ削りによって再処理を行っている。12は器面磨耗が著しく調整痕跡の詳細は不明確であるが、11は内面および体部外面をミガキ a によって仕上げている。

丸底坏 a (13～18) 口径14.2～18.4cm、器高3.0～4.2cmをそれぞれ測り、全て底部回転ヘラ切り。

碗 c 2 (20～22) 推定口径11.4～14.4cm、器高3.7～5.1cm、推定高台径5.6～8.2cmを測る。20は丸底坏に高台を貼付した形状を示し、他の二者は丸碗に高台を貼付している。

## 須恵器

蓋 3 (23) 推定口径13.8cm、器高1.9cmを測り、天井部外面は回転ヘラ切りの後粗いナデによって再調整している。天井部内面は極めて滑らかになっており、硯に転用されていたと考えられる。

坏 a (24) 推定口径14.5cm、器高4.05cm、推定底径10.2cmを測り、底部は回転ヘラ切り未調整。

坏 c (25) 推定口径14.8cm、器高3.7cm、推定高台径10.4cmを測り、底部は回転ヘラ切り後粗いナデによって再調整している。

壺 (26・27) 26は「く」の字状に屈曲する頸部形態を有し、内外面ともに回転ナデの後体部外面上半部分をミガキ a によって仕上げている。法量は、推定口径19.6cmを測る。色調は淡橙灰色を呈している。27は、体部上半から頸部にかけて残存する破片で、内外面ともに回転ナデによって仕上げている。色調は淡灰褐色を呈している。

## 灰釉陶器

小碗 (19) 推定口径7.8cm、器高3.3cm、推定高台径4.3cmを測り、色調は内面淡褐灰色、外面淡黄灰色を呈している。口縁部のみ施釉している。釉調については、内面に煤状のものが付着しているため不明確である。

皿 (29) 高台部分のみ残存しており、推定高台径8.6cmを測る。素地は精選された淡茶灰色の特徴を示し、内面に明緑灰色の硝子質の光沢ある釉がかけられている。

## 越州窯系青磁

碗 (30～36) 30は、I-1a類。31は、I-1a類。32は、I-1b類。33は、I-2類。34は、II-1b類。35は、II-3類。36は、II類。

壺 (37) 壺 I 類。素地特徴は、明白色で精選されており、黒斑および空隙が若干ある。釉調

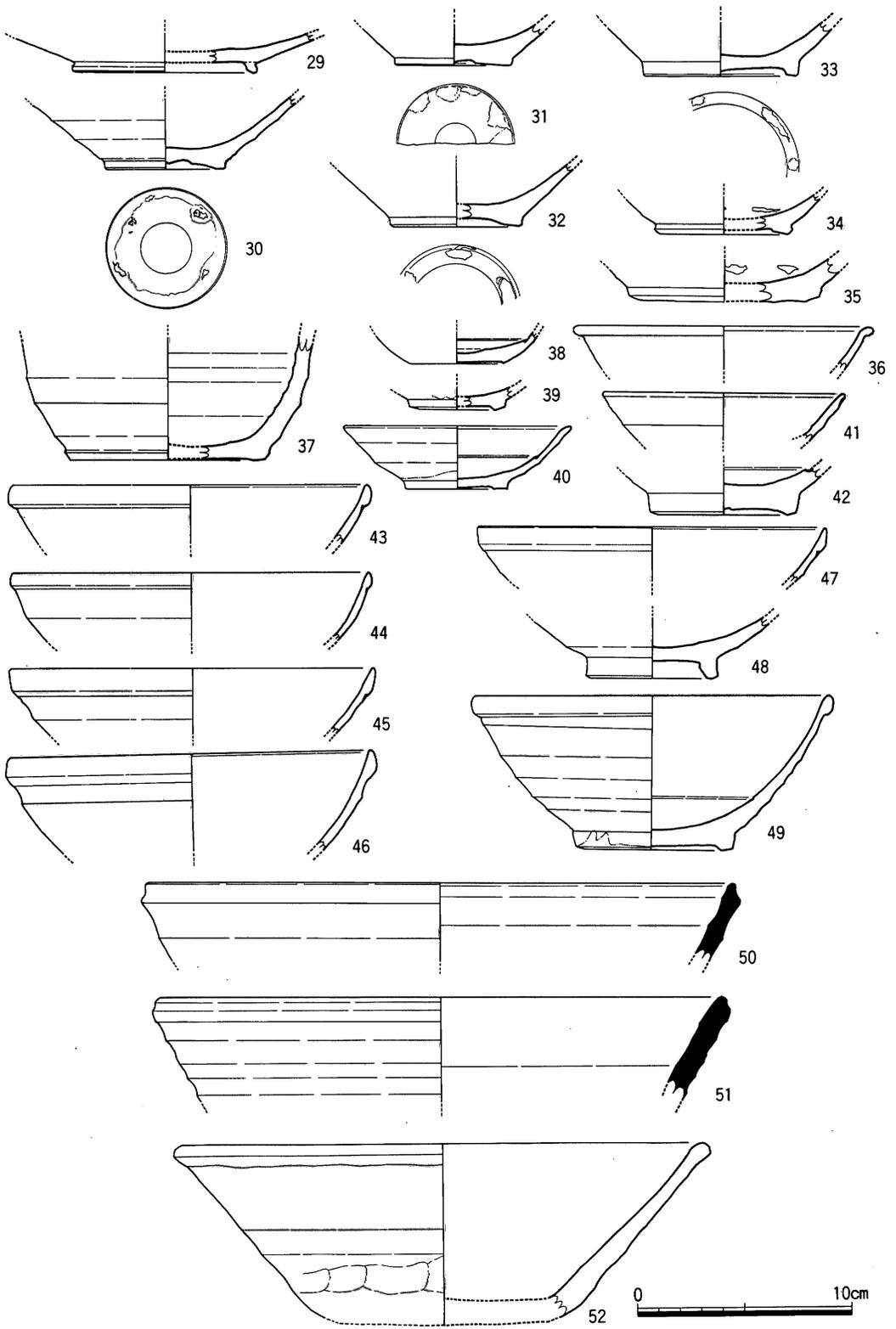


Fig. 30 第65次調査表土出土遺物実測図(2)(1/3)

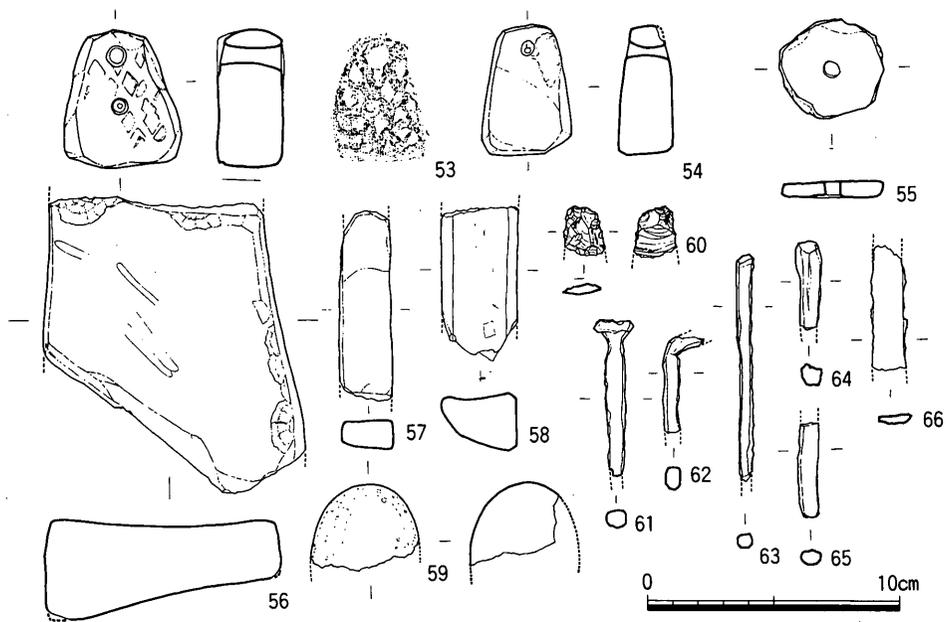


Fig. 31 第65次調査表土出土遺物実測図(3)(1/3)

は体部外面下位まで褐釉がかかり、内面は褐斑が多く浮き出る黄緑釉を施釉している。推定直径は9.6cmを測る。

#### 白磁

皿(38~40) 分類は38が、V×VII類。39が、II類。40が、II-1a類。41が、II-1a類。

碗(42~49) 分類は、42・43・46が、IV類。49が、IV-1a類。44が、II-1類。45・47が、II-5類。48が、V類。

#### 須恵器

鉢(50・51) 推定口径28.0・27.0cmを測り、色調はそれぞれ明灰色・灰色を呈している。

#### 土師器

鉢(52) 推定口径25.0cmを測り、内外面ともに回転ナデによって調整している。体部外面下位に指頭圧痕跡が残る。また体部外面には、煤状炭化物が付着し、内面は口縁部~底部にかけて調整痕跡が磨耗しており、使用に伴う磨耗痕跡である可能性がある。色調は淡黄灰色を呈している。

#### 土製品 (Pl. 6)

権(53・54) いづれも瓦の再加工品で、台形の形状をとり1箇所穿孔している。それぞれの重さは、53が69.1g、54が45.1gを測る。

紡錘車(55) 土師器の底部を再加工したもので、4.1cm×3.9cmの大略円形を形づくる。

#### 石製品

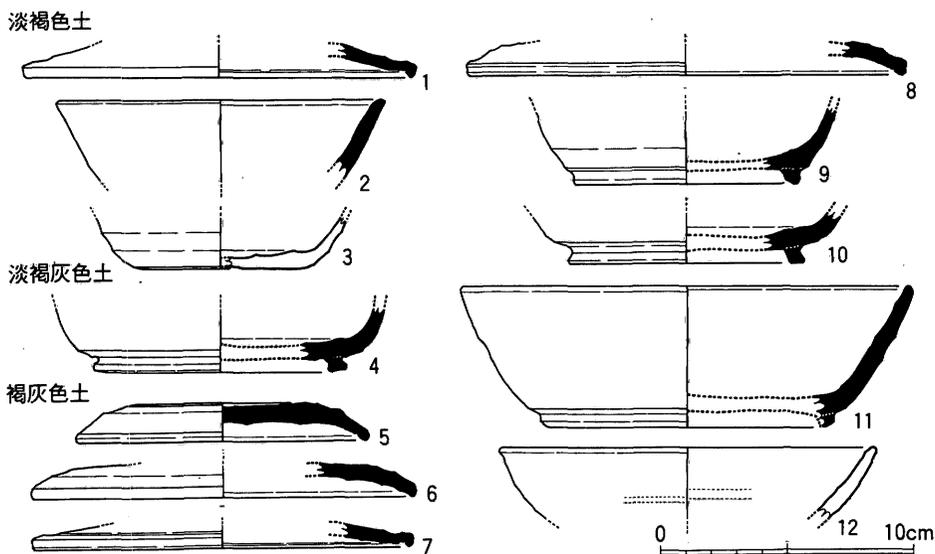


Fig. 32 第65次調査各層出土遺物実測図(1/3)

砥石(56~59) それぞれの材質は、56は細粒砂岩。57は泥岩。58は粘板岩。59は花崗岩。

矧片(60) 材質は黒曜石。残存長1.9cm×1.6cm×0.4cmを測る。

鉄製品

釘(61~65) いずれも欠損した資料であるが、断面形状は正方形を呈している。

刀子(66) 欠損しており全体にわたる詳細な特徴は不明である。残存長4.9cmを測る。

**淡褐色土出土土器 (Fig.32)**

須恵器

蓋3(1) 推定口径15.6cmを測り、色調は灰色を呈する。

坏(2) 推定口径13.0cmを測り、色調は灰色を呈する。

土師器

坏a(3) 底部のみの破片で、推定底径7.0cmを測る。底部外面は回転ヘラ切り未調整。

**淡褐灰色土出土土器 (Fig.32)**

須恵器

坏c(4) 推定高台径10.0cmを測り、色調は内面灰色、外面茶灰色を呈する。

**褐灰色土出土土器 (Fig.32)**

須恵器

小蓋3(5) 推定口径11.6cmを測り、天井部外面は回転ヘラ切り後未調整。色調は青灰色を呈する。

蓋3(6~8) いずれも口縁部のみの破片資料。推定口径15.1~17.4cmを測る。

坏c(9・10) 推定高台径8.9・9.4cmを測り、色調は灰色を呈している。

大坏c(11) 推定口径17.9cm、器高5.5cm、推定高台径11.6cmを測る。色調は暗灰色を呈しており、外面の方がやや白色味をおびている。焼成はやや良好。

#### 土師器

坏d(12) 推定口径15.0cmを測り、内外面にミガキaの痕跡をわずかにとどめる。色調は橙茶灰色を呈する。

### 5) 小結

各遺構の年代を出土遺物から検討できるものについて以下に列記する。

#### 掘立柱建物

65SB065・100は、8世紀後半の範囲内で捉えられ、65SB070は8世紀第Ⅱ四半期頃と考えられる。振れの点から見ても前二者は近似している。

#### 土壌

65SK005・085・095・110は出土遺物から8世紀後半のものともみられ、65SK010最上層の遺物については、大宰府編年Ⅻ期の範囲内で捉えられる。65SK150は混入品と判断される一部の資料を除くと7世紀後半のものである。

#### 溝

65SD050出土遺物は、大宰府編年のⅫ期のものであり、11世紀後半頃のものと考えられる。

#### 井戸

65SE040出土遺物は、大宰府編年のⅫ期のものであり、11世紀後半頃のものと考えられる。

#### 柱掘り方状遺構

年代を押さえられるものは少ないが列記すると、65SX020は8世紀後半、65SX125は7世紀後半～8世紀代のもの、65SX127は特殊な遺物ながら7世紀後半の範囲で捉えられる資料である。ただし、これらの遺物の年代が直接この遺構の年代の決め手になるかは、遺物の出土量の点から不安な要素を含んでいる。

#### 甕埋置遺構

65SX135とした合口スタイルで甕を埋納した遺構は、土師器甕の年代から大宰府編年のⅧ～Ⅹ期に相当するものである。この時期の顕著な遺構は今次の調査区内からは確認できていないが、ここではこの範囲に収まる遺構として捉えておきたい。

#### その他の遺構

段落ちあるいは大土壌とした65SX001は上層で安定した資料群を提示しているが、下層の資料も時期的な差異は認められない。いずれも大宰府編年のⅫ期に該当するものである。また、窪み状遺構とした65SX030もⅫ期に考えることができる。

ピットでは65SX007・137が8世紀後半、65SX093・121がⅫ期前後の資料を出土した。他のも

のは小片しか出土しておらず年代の決定は難しい。

今回は調査面積も狭く、検出した主要な遺構の多くは調査区外に延びており、全体を把握するに至らなかった遺構や遺物群が多い。しかしながら、奈良時代後半と平安時代後期に遺構造営の主体があることは確認できた。また奈良時代に属すると考えられる掘立柱建物を部分的ながらも確認したことは重要な所見と言える。さらに部分的に残存していた8世紀後半頃と見られる整地層（淡褐色土層、褐色土層、褐灰色土層）の存在は、類似の整地が周辺のエリアで確認されることと併せて、その年代の問題や広がりについて十分な検討を必要とするものである。それは、大宰府都市のある部分が、奈良時代後半から平安時代前半の間に大規模な整地によって様相を一変させている可能性が考えられるからである。

今次の調査成果は、問題点の抽出を行ったにすぎず、今後に残された課題や周辺の調査に期待する部分がかかなり多いものの、拙いながらもこの時期の大宰府都市の様相を解明する手掛かりは得られたものと考えている。

### 3 第81次調査

#### 1) はじめに

調査地は太宰府市大字通古賀1088-3・1089-1に所在し、対象面積は1000㎡である。昭和63年9月21日に住宅建築に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて宗教法人正行寺から住友林業㈱を通して照会があった。対象地は鏡山猛氏推定条坊案右郭12条2坊の北端に位置しており、北側に条坊の区画が検出されることが予測されたため、発掘調査を行う協議にはいった。その結果、太宰府市教育委員会が受託事業として発掘調査をおこなうこととなった。調査期間は平成元年5月25日から8月10日までおこなった。調査面積は580㎡である。緒方俊輔・城戸康利が調査を担当した。

#### 2) 層位

遺構面の上層には茶褐色の包含層が存在する。12世紀までの遺物を含んでいる。その上は暗茶色土で表土に続く。遺物は古代から近世までのものを含む。地表面から遺構面までは約0.5mである。遺構面は2面あり、上層遺構面が11世紀後半まで、下層遺構面が8世紀代の遺構群と考えられる。上層遺構面は起伏があり上層遺構面と下層遺構面の間の層（明灰色土）は部分的にしか存在しない。明灰色土は本来全面に存在していて削平されたのか、はじめから部分的に堆積していたのかは不明である。このため上層遺構では8世紀代のものも検出された。

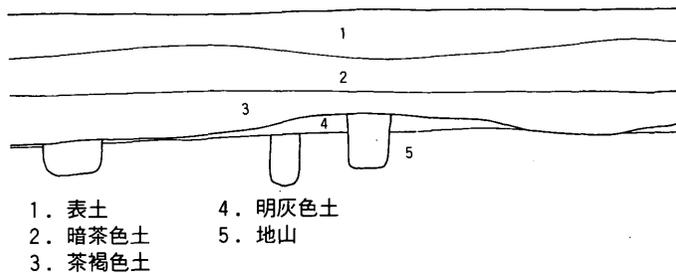


Fig. 33 第81次調査区土層模式図

#### 3) 検出遺構

土壙 (Fig.34・35)

##### 81 SK 025

調査区の北西に位置し、調査区外にのびる長円形の土壙である。長辺3.5m以上、短辺2.5m、深さ0.8mを測る。埋土は暗茶褐色土の単一層である。遺物を多く出土した。Ⅺ期の遺物を含む。

#### 81 SK061

81SK025に切られている略円形の土壌である。径約1.9mと考えられる。深さは約0.8mを測る。埋土は上層から灰褐色土、黄褐色土、暗褐色土の順で、それぞれの層間に薄い炭化物の層がある。遺物は灰褐色土はⅥ期、暗褐色土はⅤ期を中心とする。

#### 81 SK064

略楕円形をした浅い土器溜まりである。長辺3.6m、短辺1.8m、深さ0.2m程である。埋土は炭化物を多く含む黒灰色土である。Ⅻ期の遺物を含む。

#### 81 SK070

調査区南西で検出した略円形の土壌で2段になっている。長軸2.2m、短軸1.7m、深さは一段目が0.15m、二段目が0.35m程を測る。埋土は暗灰色土で炭化物を多く含む。遺物は土師器<sup>a</sup>が重なった状態で出土している。Ⅵ期の一括遺物と考えられる。

#### 81 SK120

楕円形の浅い土器溜まりである。長軸2.1m、短軸1.8m、深さ0.4mを測る。埋土は上層が黒灰色土で炭化物が多く、下層は暗茶灰色土である。Ⅻ期の遺物を中心とする。

#### 81 SK130

調査区北側端で検出した楕円形の土壌である。長軸3.0m、短軸2.0m、深さ0.6mを測る。炭化物を少し含む明灰色土とともに須恵器を中心に遺物を多量に出土した。遺物はⅢ・Ⅳ期のものを中心とする。一括廃棄の土壌か。

#### 81 SK135

81SK130の東に並ぶように位置する。81SK130に似た形状の土壌である。長軸2.6m、短軸1.4m、深さ0.8m程を測る。埋土は明灰色土である。Ⅴ・Ⅵ期の遺物を多く出土した。81SK130に比べ土師器が多くなっている。一括廃棄の土壌か。

#### 81 SK170

81SK130・81SK135の南に位置する楕円形で二段掘りの土壌である。長軸2.7m、短軸2.1m、深さは一段目が0.6m、二段目が1.2m程を測る。埋土は一段目までが上から茶灰色土、黒灰色土、二段目が暗灰色土である。東側では一部に地山の崩落が認められる。遺物はⅥ期のものを中心とする。

#### 81 SK315

円形の土壌である。底は平坦で井戸の掘り方を思わせる。長軸2.3m、短軸2.1m、深さ1.4mを測る。埋土は上から暗茶色土、黄色細粒砂、黒灰色土の順である。暗茶色土、黒灰色土は同じくらいの厚さで堆積し、黄色細粒砂はその間に薄く堆積する。遺物はⅪ・Ⅻ期のものを中心とする。

井戸 (Fig.36・37)

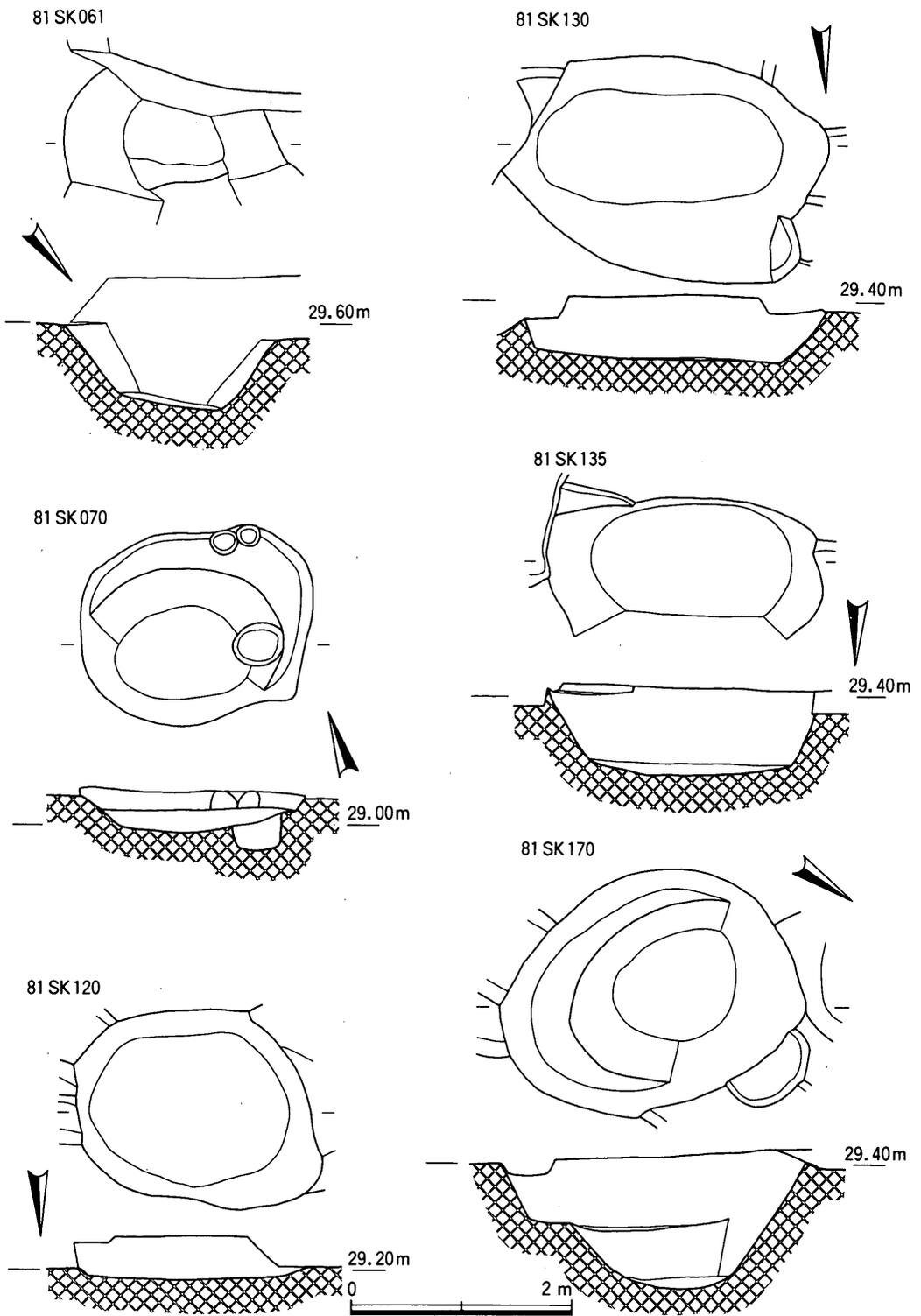
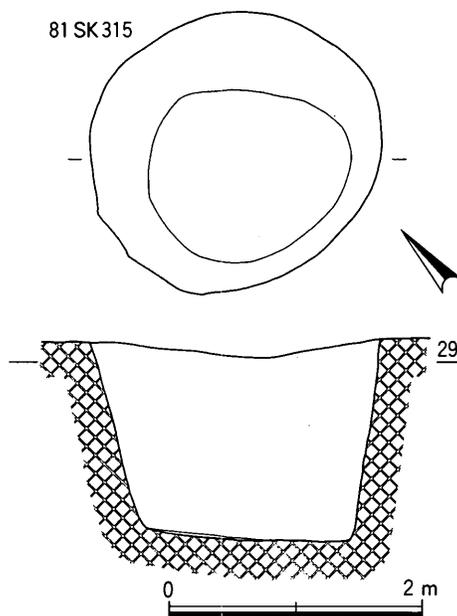


Fig. 34 第81次調査土城実測図(1) (1/60)

81 SK315

**81 SE001**

楕円形の掘り方をもつ井戸である。掘り方は段を3段持ち、楕円形から円形に近くなる。長軸3.5m、短軸2.4m、深さ一段目までが0.55m、二段目が2.0m、底までが2.45mを測る。二段目の径は1.0m、底は0.8mである。埋土は上から暗茶灰色土、暗灰色土で、これを除去した段階で井戸枠の痕跡を確認した。ほぼ一段目に等しい。井戸枠内は暗灰色粘質土である。掘り方は灰茶色粘質土と灰色砂の大きな互層である。木質は全く残存していない。枠の痕跡から桶の枠だったと推定される。現在では全く湧水せず、水位が下がっていることがわかる。底の標高は27.8mである。Ⅻ期に埋没したと考えられる。

Fig. 35 第81次調査土壌実測図(2)(1/60)

**81 SE060**

掘り方がほぼ円形を呈する。井戸枠は残っていないがⅥ期の遺物を出土することから方形と考えられる。掘り方は二段になっており、上段が深さ0.4m、底までが深さ2.0mである。掘り方の径は上面で2.7m、底で0.7mである。埋土は一段目までが暗灰色土、以下が茶灰色土であるが、暗灰色土と茶灰色土のあいだに窪みに溜まるような状態で黒灰色土がある。枠の痕跡は確認できなかった。上面をⅫ期の遺構で切られている。湧水はない。底の標高は27.8mである。

**81 SE066**

掘り方は略円形を呈する。二段掘りになっている。径は上面が1.4m、一段目が0.9m、底が0.6mである。深さは一段目までが1.05m、底までが2.1mを測る。埋土は上面から黒褐色土、黒褐色粘質土、黒灰色土、底の曲げ物跡に黒灰色粘質土という順である。井戸枠の痕跡は不明だが、底の部分にある曲げ物跡から井戸とした。上面をⅫ期の遺構で切られている。Ⅺ期埋没か。湧水はない。底の標高は27.0mである。

**81 SE105**

円形の掘り方をもつ。径は1.4mで、底のほぼ中央に径0.3mの曲げ物を設置する。深さは1.0mで曲げ物の深さは0.3mである。埋土は上層から下層へ、暗灰色土から灰色土へ漸移する。井戸枠は不明。底の曲げ物は腐って少しだけ遺存する。遺物はⅫ期のものを中心に出土した。湧水はない。底の標高は28.2mである。

**81 SE140**

調査区の北東隅に位置する。遺構番号をS-125と重複して付けていたため、S-140に統合してい

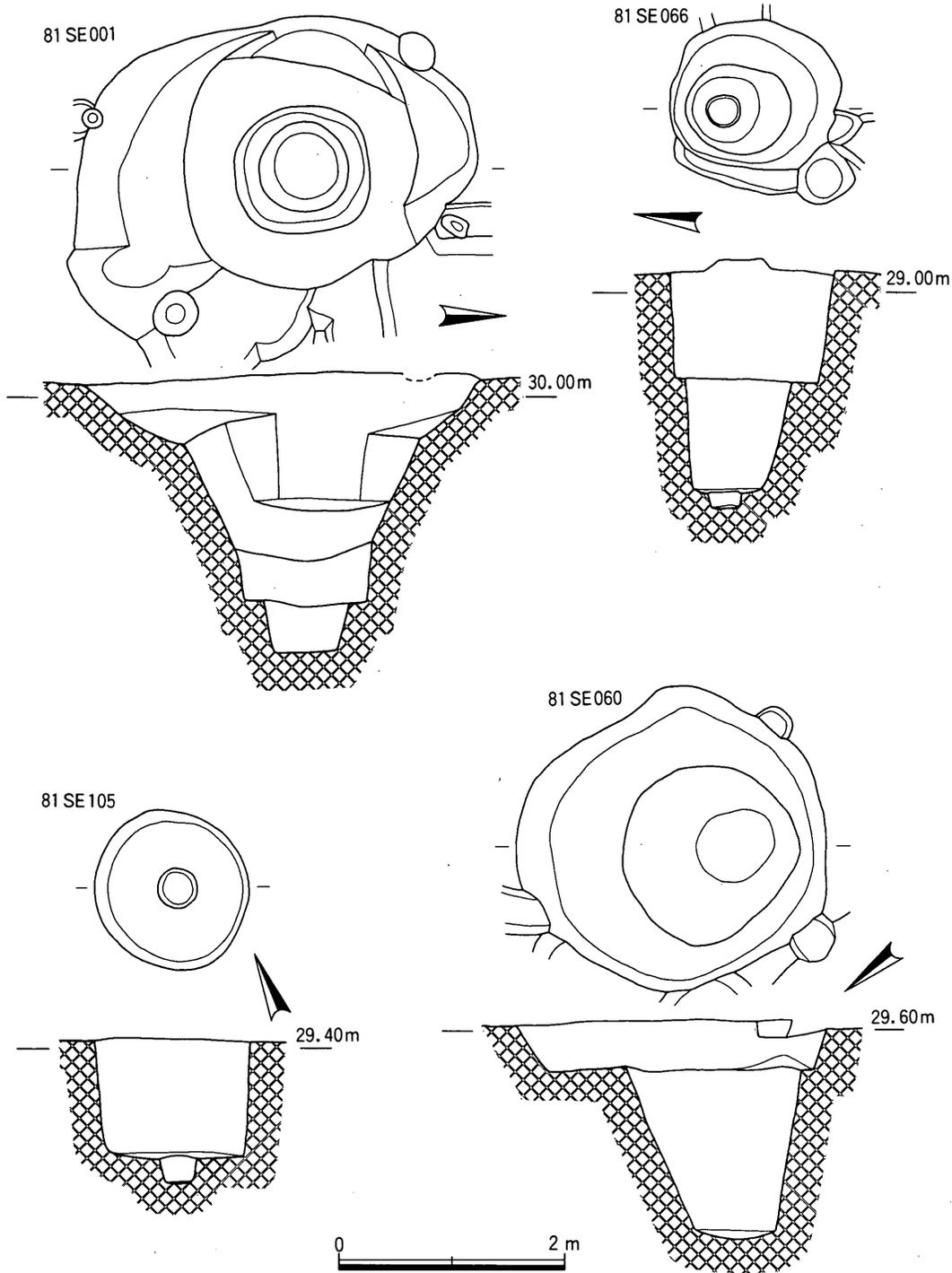


Fig. 36 第81次調査井戸実測図(1) (1/60)

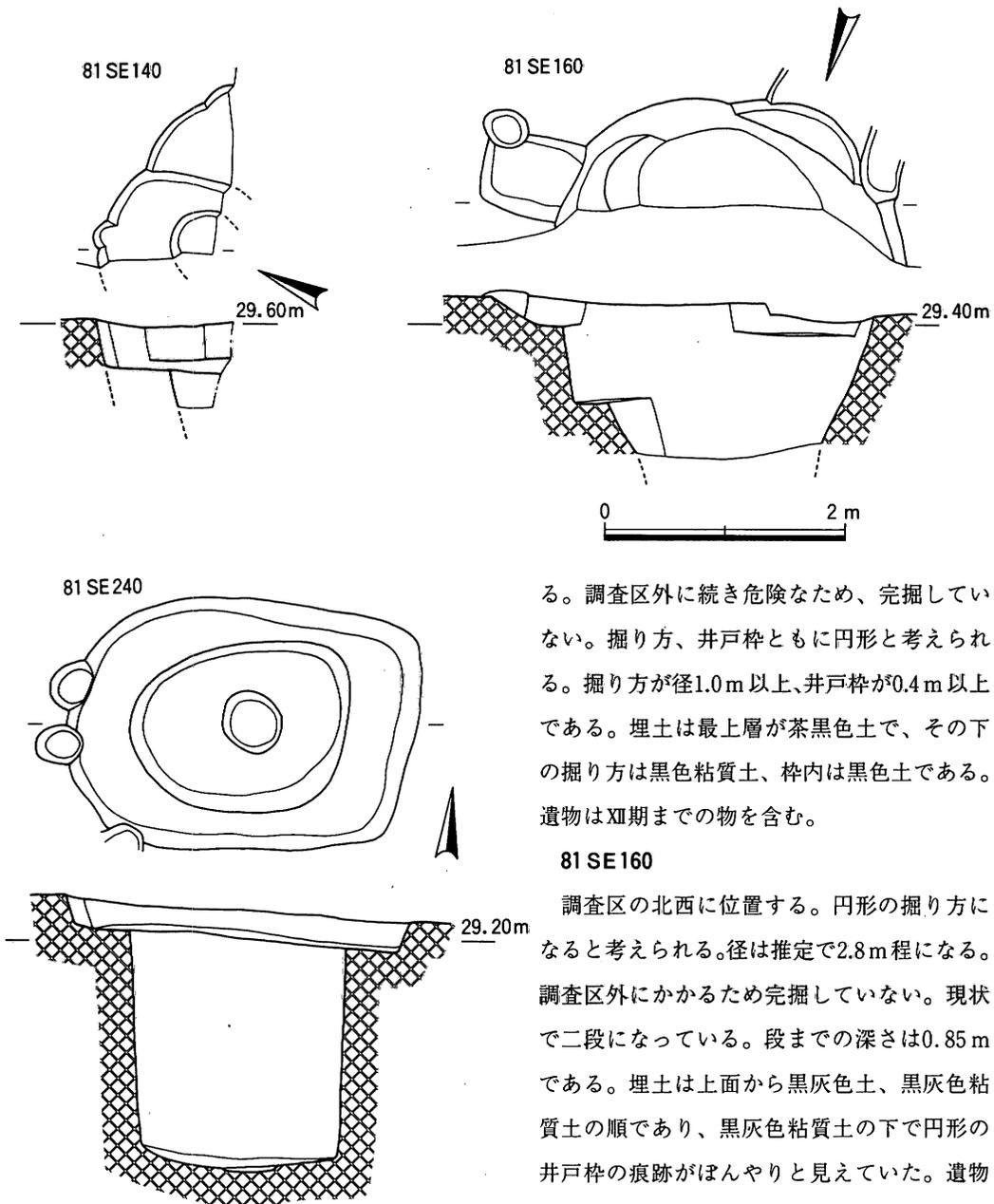


Fig. 37 第81次調査井戸実測図(2)(1/60)

調査区の南東部に位置する。略長方形の平面形をもち、二段掘りになっている。上面で長辺2.9m、短辺2.1m、一段目が長辺1.8m、短辺1.4m、深さが一段目まで0.2m、底まで2.0mを測る。底には曲げ物を据えた跡が窪み状に残り、径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は最上層に黒茶色土があり、これを除去すると円形の井戸枠跡があらわれる。径は0.8m程である。井戸枠内埋土は

る。調査区外に続き危険なため、完掘していない。掘り方、井戸枠ともに円形と考えられる。掘り方が径1.0m以上、井戸枠が0.4m以上である。埋土は最上層が茶黒色土で、その下の掘り方は黒色粘質土、枠内は黒色土である。遺物はⅫ期までの物を含む。

#### 81 SE160

調査区の北西に位置する。円形の掘り方になると考えられる。径は推定で2.8m程になる。調査区外にかかるため完掘していない。現状で二段になっている。段までの深さは0.85mである。埋土は上面から黒灰色土、黒灰色粘質土の順であり、黒灰色粘質土の下で円形の井戸枠の痕跡がぼんやりと見えていた。遺物はⅫ期までの物を含む。

#### 81 SE240

上から暗茶色砂、茶黒色土、暗灰色粘質土、明灰色粘質土と黄色土の混合層の順である。その下に曲げ物跡があり灰白色砂質土が詰まる。掘り方は二層に分かれ、上層は黒色粘質土に黄色土ブロックが混じる。下層は灰茶色の粗い砂である。湧水はない。底の標高は27.3mを測る。Ⅻ期までの遺物を含む。

#### 溝

##### 81 SD030

調査区西側で幅0.6mで長さ約5m分を検出した。深さは約0.15mである。埋土は暗褐色土の単一層である。振れはN-26° 34' -W前後である。Ⅻ期までの遺物を含む。

##### 81 SD100

調査区中央をほぼ東西にのびる溝である。81 SK 130・135を切っている。約12m分を検出した。幅0.85mで深さは0.2mである。振れはN-79° 30' -W前後である。Ⅵ期までの遺物を中心とする。

##### 81 SD110

81 SD100の南で方向を少し違えてのびる溝である。約12m分を検出した。81 SK170を切っている。幅約0.9m、深さ約0.2mを測る。振れはN-88° 45' -E前後である。Ⅻ期までの遺物を含む。Ⅵ期の遺物は81 SK170のものか。

##### 81 SD165

調査区の東側に位置する南北方向の溝である。少し湾曲している。約4.5m分を検出した。81 SD100を切り、81 SD110に切られている。幅は約0.6m、深さ約0.4mである。埋土は淡褐色土を呈する。Ⅹ期までの遺物を含む。

##### 81 SD245

調査区南端で約5.5m分を検出した。幅約0.8m、深さ約0.5mを測る。埋土は上から暗茶色土、暗茶色土に黄色の地山ブロックを含むもの、炭化物を含んだ黒灰色土、暗黒灰色砂の順に堆積する。下の二層は溝の自然堆積で、上二層は人為的埋土と考えられる。振れはN-88° 45' -W前後である。Ⅹ期までの遺物を含んでいる。

##### 81 SD275

調査区南側で約2.5m分を検出した。溝としては短いがここで報告する。幅約0.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は黄灰色土で地山に類似している。遺物は9世紀代のものを少量出土した。81 SK315に切られている。

##### 81 SD285

81 SD275に直交するように約7.5m分を検出した。81 SD275に切られる。幅約0.4m、深さ約0.3mを測る。埋土は黄灰色土で地山に類似している。遺物はごく少量で須恵器の蓋と土師器片が出土している。切りあいから8～9世紀代のものと思われる。振れはN-88° 05' -W前後である。

その他の遺構 (Fig.38・39)

**81 SX017**

81SE001の東に位置する浅い楕円形を呈する遺構である。長軸2.8m、短軸1.5m、深さ0.05m程である。Ⅻ～ⅩⅢ期の遺物を含む。埋土には炭化物が多く含まれる。

**81 SX023**

81SE001を切っている円形の遺構である。径約1.0mを測る。81SE001の井戸枠にはほぼ重なることから、井戸枠の窪みに堆積したものと考えられる。ⅩⅢ期までの遺物を含む。

**81 SX042**

調査区北西隅で検出した略円形の遺構である。径は約1.0m、深さ約0.3mを測る。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX047**

81SE001を切っている略方形の遺構である。一辺約1.9m、深さ0.4m程である。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX053**

不整形の遺構である。長辺4.5m、短片2.6m、深さ0.2m程である。溜まりか。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX059**

81 SX 053の西隣に位置し、81 SX 053に切られている楕円形の遺構である。長軸3.2m、短軸2.1m、深さ0.4m程である。埋土は黒灰色粘質土である。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX069**

略方形をした遺構である。一辺約1.2mである。埋土は灰褐色土である。Ⅺ期までの遺物を含む。

**81 SX081**

略円形の浅い溜まりである。径約2.0m、深さ約0.25mを測る。Ⅹ期くらいまでの遺物を含む。

**81 SX091**

長軸0.8m、短軸0.6mのピットである。Ⅵ期の遺物を含む。

**81 SX102**

81 SX 053の東に位置する不整形の遺構である。一辺約2.1m。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX103**

81 SX 102の東に位置する。変形した瓢箪形をしている。長軸3.5m、短軸2.0m程である。埋土は暗茶灰色土をしている。Ⅻ期までの遺物を含む。

**81 SX104**

いびつな円形をしている。径約2.5m、深さ1.9mを測る。二段掘りになっている。埋土は褐色の粗砂であり、人為的に埋めたと考えられる。近世以降のものと考えられる。

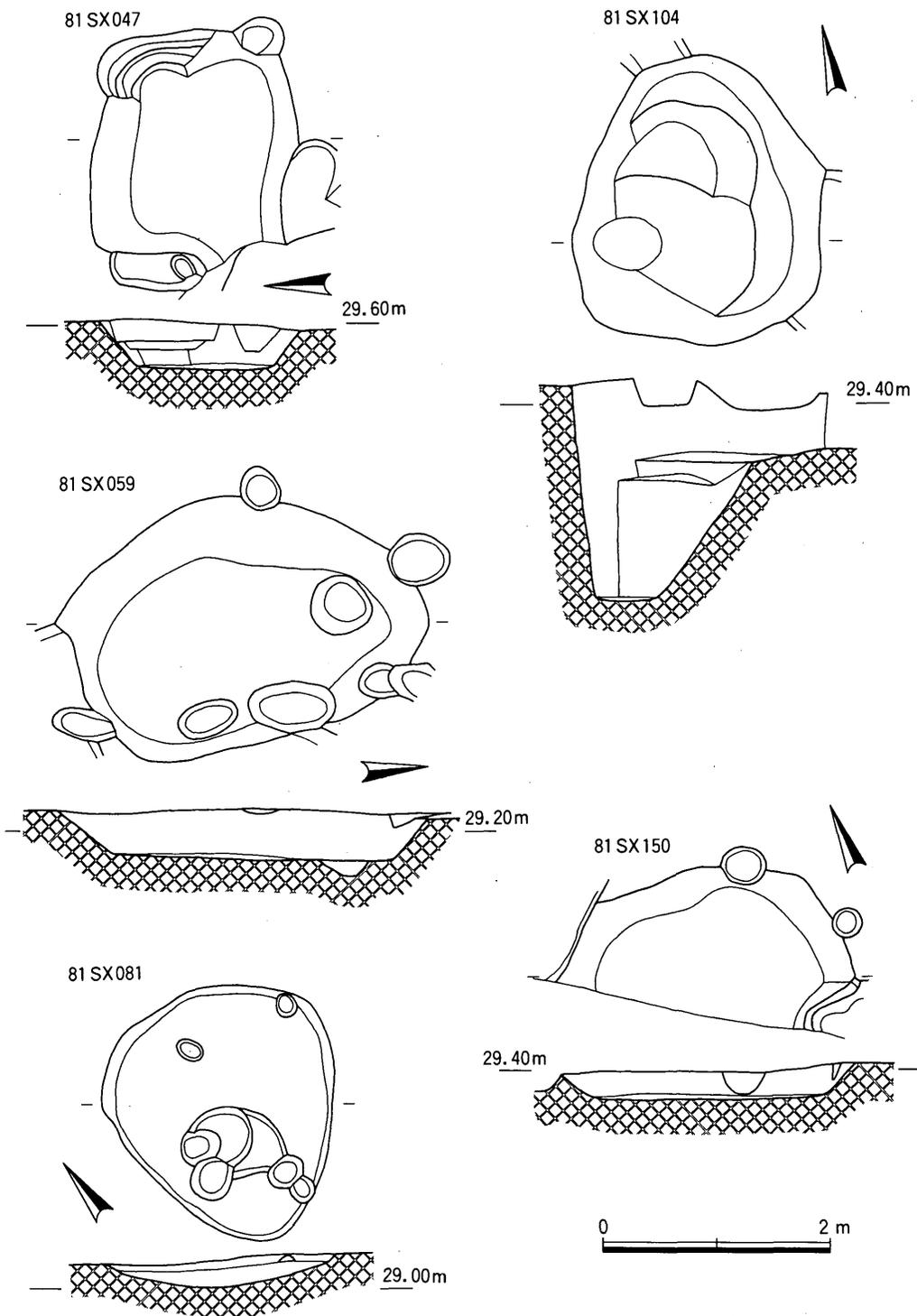


Fig. 38 第81次調査その他の遺構実測図(1) (1/60)

#### 81 SX117

81SD100の南に位置する楕円形の遺構である。長軸約1.4m、短軸約1.0mを測る。V～VI期の遺物を含む。形態は81SK130・135に類似している。

#### 81 SX129

調査区北東側に位置するピットである。

#### 81 SX150

調査区東端で検出した遺構である。調査区外にのびるため形状は不明であるが、おおよそ長円形を呈すると思われる。VII期までの遺物を出土した。

#### 81 SX175

81SK170の南に位置する楕円形の遺構である。長軸1.5m、短軸1.0m程である。XII期までの遺物を含む。

#### 81 SX180

略長方形の遺構である。長辺2.8m、短辺1.4m、深さ0.3m程を測る。埋土は上層から黒灰色土、灰褐色土、明灰色土の順である。遺構の先後関係は81SD110に切られ、81SD165・81SK170を切っている。遺構の時期はX～XII期である。

#### 81 SX200

略長方形の遺構である。長辺2.5m、短辺1.3m、深さ0.2m程を測る。浅い溜まりと考えられる。埋土は暗灰色土である。XII期までの遺物を出土した。

#### 81 SX204

径1.0m程の略円形をした遺構である。深さ0.4mを測る。埋土は黒灰色土である。XII期までの遺物を出土した。

#### 81 SX220

調査区南側に位置する大きな溜まり状の遺構である。不整形をしており、長軸約4.0m、短軸約2.0m、深さ0.2～0.4m程である。埋土は黒色土である。81SX225を切っている。XII期までの遺物を出土した。

#### 81 SX212

不整形の溜まり状の遺構である。長軸約1.0m、短軸約0.8m、深さ0.1m程を測る。埋土は暗灰色土で地山に似ている。8世紀代の遺物が出土した。

#### 81 SX217

調査区東端で検出した。多くは調査区外にのびる。現状で長軸約1.5m、短軸約0.8m、深さ約0.3mである。埋土は暗茶色土である。XII期までの遺物を出土した。

#### 81 SX225

81SX220に切られる南北に長い不整形の遺構である。長軸約5.5m以上、短軸約2.0m以上、深

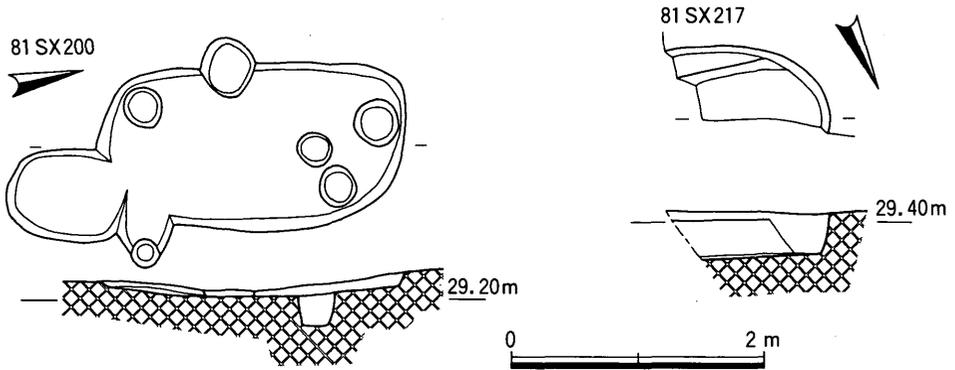


Fig.39 第8次調査その他の遺構実測図(2)(1/60)

さ約0.4~0.5mである。埋土は81SX220に類似した黒色土に、地山の黄色土ブロックを含んだものである。南端は81SD245を切っている。Ⅻ期までの遺物を出土した。

#### 81SX230

浅い不整形の溜まり状遺構である。長軸約2.0m、短軸約1.0m、深さ約0.1mを測る。下層に大小のピットがあることから包含層（茶褐色土）の残存部分とも考えられる。Ⅻ期までの遺物を含む。

#### 81SX235

径1.2m程の略円形をした遺構である。深さは約0.1mである。81SD285を切っている。9世紀代の遺構と考えられる。

#### 81SX243

調査区南端で検出した楕円形の遺構である。長軸約2.0m、短軸約1.1m、深さ約0.2mを測る。Ⅸ期までの遺物を含む。

#### 81SX244

81SX243の床面で確認した楕円形の遺構である。長軸約1.4m、短軸約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は上層が黒灰色土、下層が赤茶色粘質土である。遺物はⅦ期までのものを含む。

#### 81SX263

調査区南端で検出した径約1.0mの円形と思われる遺構である。81SD245に切られている。深さは約0.5mを測る。9世紀代の遺構と考えられる。

## 4) 出土遺物

### 81SK025出土遺物 (Fig.40)

須恵器

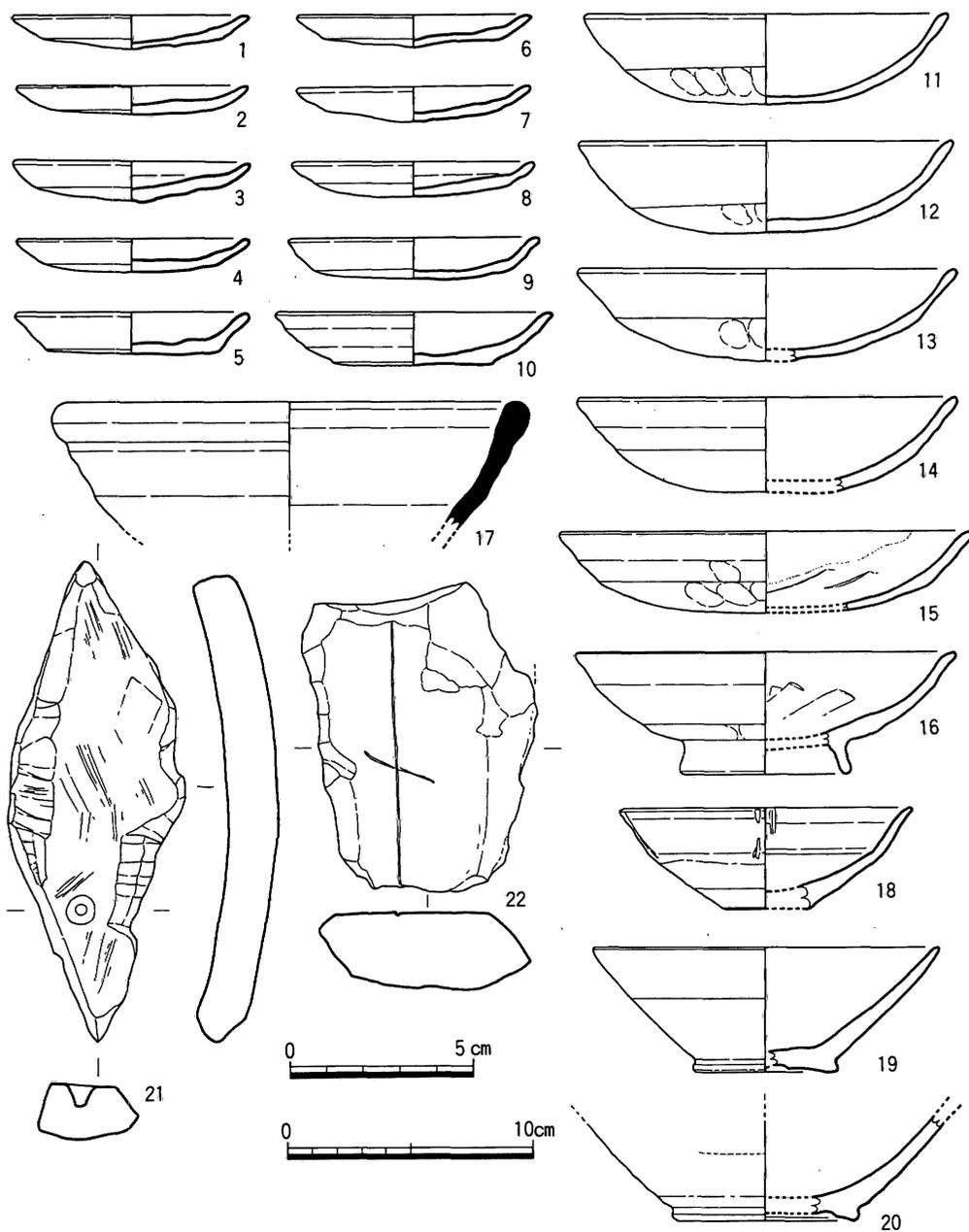


Fig. 40 81SK025出土遺物実測図(1/3・1/2)

鉢(17) 口径18.4cm。丸く肥厚した口縁をもつ。篠窯系と考えられる。

土師器

小皿 a (1~10) ヘラ切り。1~9は口径9.5~10.4cm。10はやや大きく口径11.4cm。

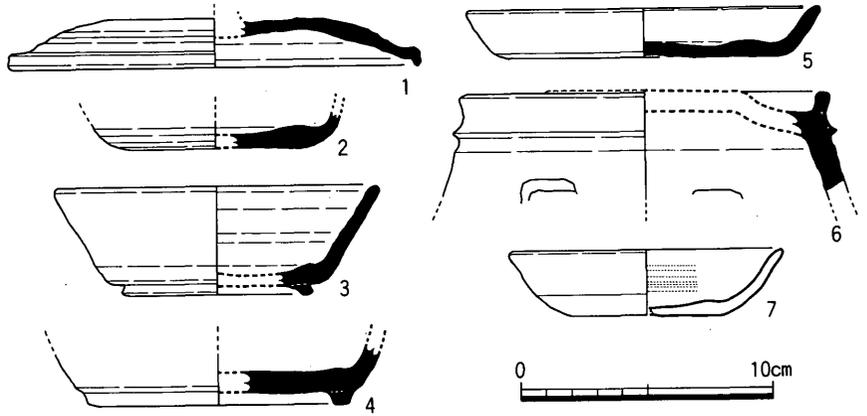
丸底杯 a (11~15) ヘラ切り。口径15.0~17.0cm。15の内面には炭化物が付着している。

丸底坏c(16) ヘラ切り。口径15.7cm。

白磁

皿(18)

口径12.0cm、  
器高4.0cm。  
外面に5ヶ所  
の縦ヘラがは  
いり、口縁は  
外反する。底  
部は平底にな  
ると思われ  
る。XI-3類か。

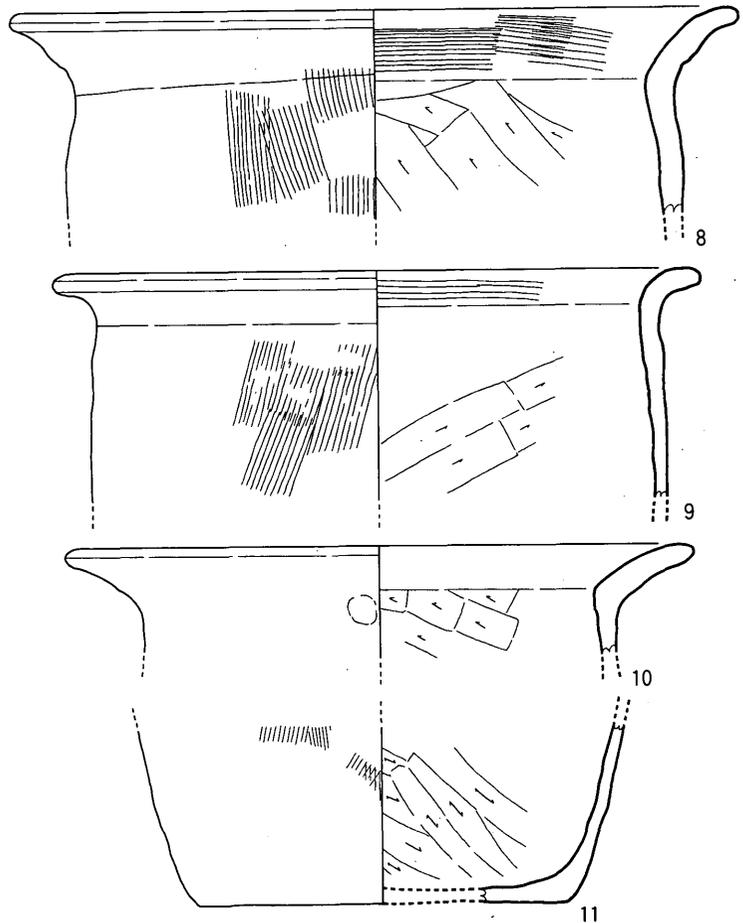


越州窯系青

磁

椀(19・20)

19はI-1a類。  
口径14.2cm、  
器高5.0cm。  
全面施釉後、  
畳付端部のみ  
をかきとる。  
目土は5ヶ所  
に残ると考え  
られる。20は  
II-1b類。見  
込みに白色の  
目土が残る。  
焼成不良。



石製品

滑石製品

(21) 石鍋を  
転用したもの  
で擦り切って

Fig. 41 81SK061出土遺物実測図(1/3)

菱形に整形し、一部に抉りを入れている。また凹面には途中まで穿孔がある。長さ12.9cm、幅4.8cm、厚さ1.5cm。用途は不明。

砥石(22) 砂岩製。2面に使用面がある。他は欠損し不明。平滑面には細い沈線がある。現存長8.4cm、幅6.7cm。

**81 SK061出土遺物 (Fig.41)**

須恵器

蓋c3(1) 口径16.5cm。天井部に回転ヘラ削りを施す。つまみは欠損する。

坏c(3・4) 3は口径13.0cm、器高4.2cm、高台径7.6cm。底部と体部の境はまるい。4は断面台形の高台がつく。高台径10.4cmを測る。

坏d(2) 底部の破片である。外面はヘラ削りを施す。底部径6.8cm。

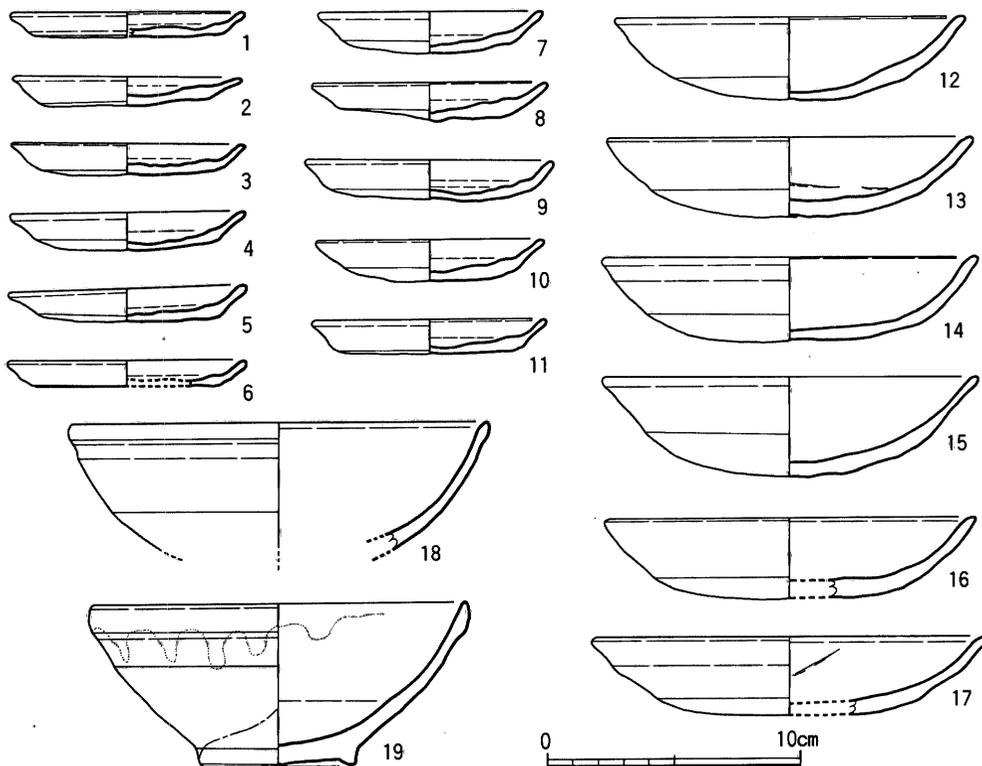
皿a(5) 口径14.2cm。外底部はヘラ切り後ナデを施す。

硯(6) 円面硯の小破片である。口径14.8cm。脚の透かしは方形のものが一つ残っている。

I-C-b類。

土師器

坏d(7) 口径11.0cm。外底部と体部下半は回転ヘラ削り、内面にはミガキaを施す。



**Fig. 42** 81 SK064出土遺物実測図(1/3)

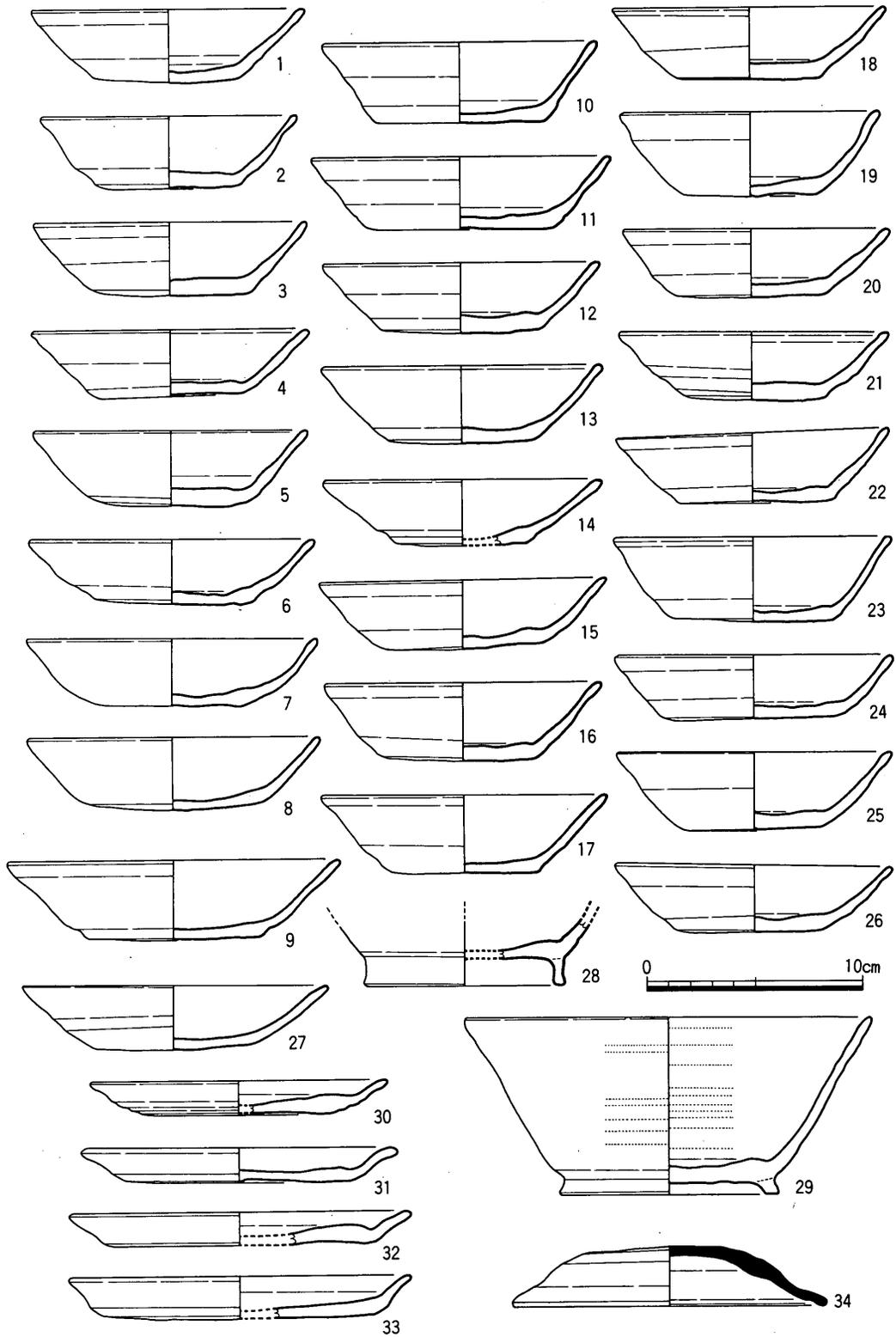


Fig. 43 81SK070出土遺物実測図(1)(1/3)

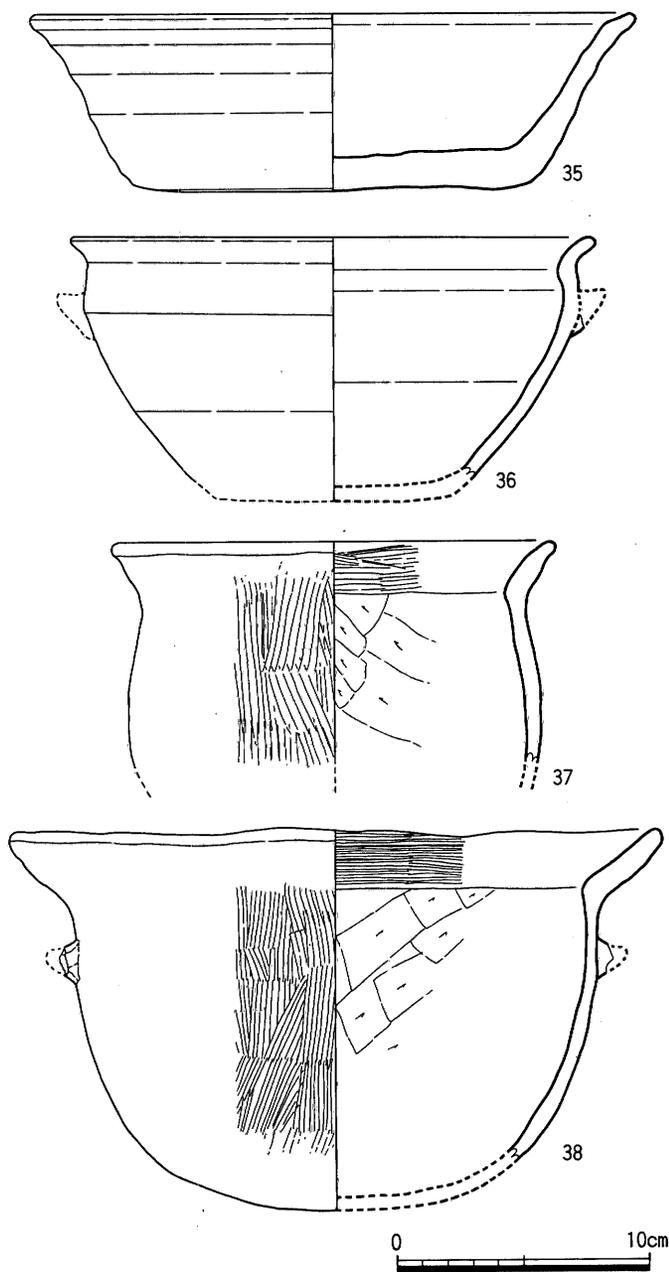


Fig.44 81SK070出土遺物実測図(2)(1/3)

土師器

坏 a (1~26) ヘラ切り。口径12.0~14.0cm、器高2.9~3.9cmを測る。体部は直線的に立ち上がる。体部と底部の境は明瞭である。

坏 d (27) 口径14.3cm、器高3.9cmを測る。外底部と体部下半は回転ヘラ削り、他はミガキ a を施すと考えられる。

鉢(11) 底部径14.7cm。外面にはハケ目が残る。

甕(8~10) 口径25.2~29.2cmを測る。8・10は内面に口縁部と体部の境に稜線をもつ。

2・4・10は黄褐色土出土で、他は暗褐色土出土である。

81SK064出土遺物

(Fig.42、Pl.12)

土師器

小皿 a (1~11) ヘラ切り。口径9.0~10.0cm。器高1.0~1.6cm。

丸底坏 a (12~17) 口径14.0~15.8cm。

白磁

碗(18・19) 18はⅡ-1類。口径16.8cm。釉は灰色味をおびた白色で不透明。19はⅣ-1a類。口径15.1cm、器高6.3cm、高台径6.3cm。釉は厚い。内面と外面体部下半まで施釉し、一部は高台までかかる。

81SK070出土遺物

(Fig.43~45、Pl.12・13)

須恵器

蓋 a 4 (34) 口径14.7cm。天井部はヘラ切り後、板状工具によるナデを施す。

椀 c (28) 高台径9.4cm。直線的な高台が体部と底部の境につく。外底部と体部下半は回転ヘラ削りを施す。

大椀 c (29) 口径19.0cm、器高8.0cm、高台径10.2cm。底部はヘラ切り後、板状圧痕がつく。また「+」字状のヘラ記号がある。体部と内面は幅が広く、雑なミガキaが施される。

皿 a (30~33) 口径14.4~16.0cm。底部はヘラ切り、未調整。体部はナデで外反する。

鉢 (35・36) 35は口径24.2cm、器高6.9cm、底部径14.8cmを測る。口縁端部が外反する。器壁は厚い。底部はヘラ切り、他はナデを施す。36は口径21.0cm。底部を意図的に円形に抜いている。体部上半に2ヶ所耳がついていた痕跡がある。体部外面耳から下は回転ヘラ削りを、他は横ナデを施す。

甕 (37~40) 38は体部に耳がつき、浅い形態を示す。口縁端部はゆがみがあり、なみうっている。体部との境にはゆるい稜を形成する。外面には煤が付着している。口径26.0cm。37・39・40は体部と口縁部の境に稜がある。40は口縁が長く外反する。口径は37が17.6cm、39が28.0cm、40が27.5cmである。

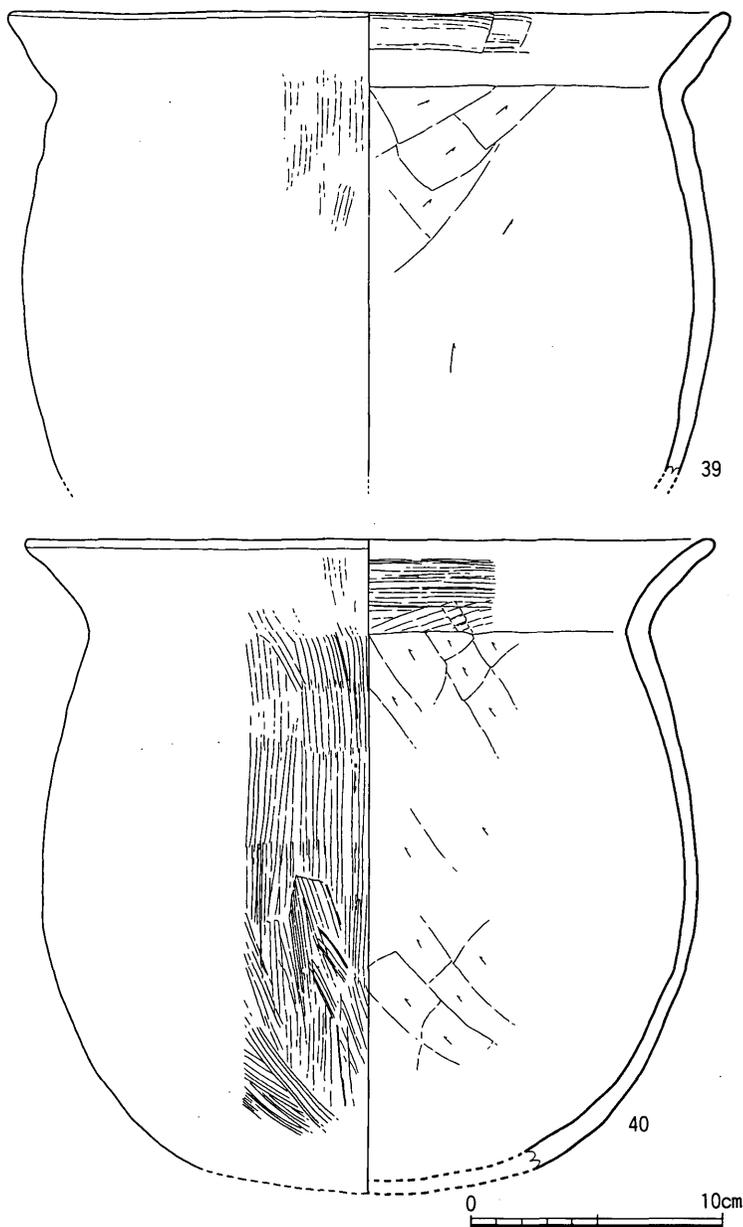


Fig.45 81SK.070出土遺物実測図(3)(1/3)

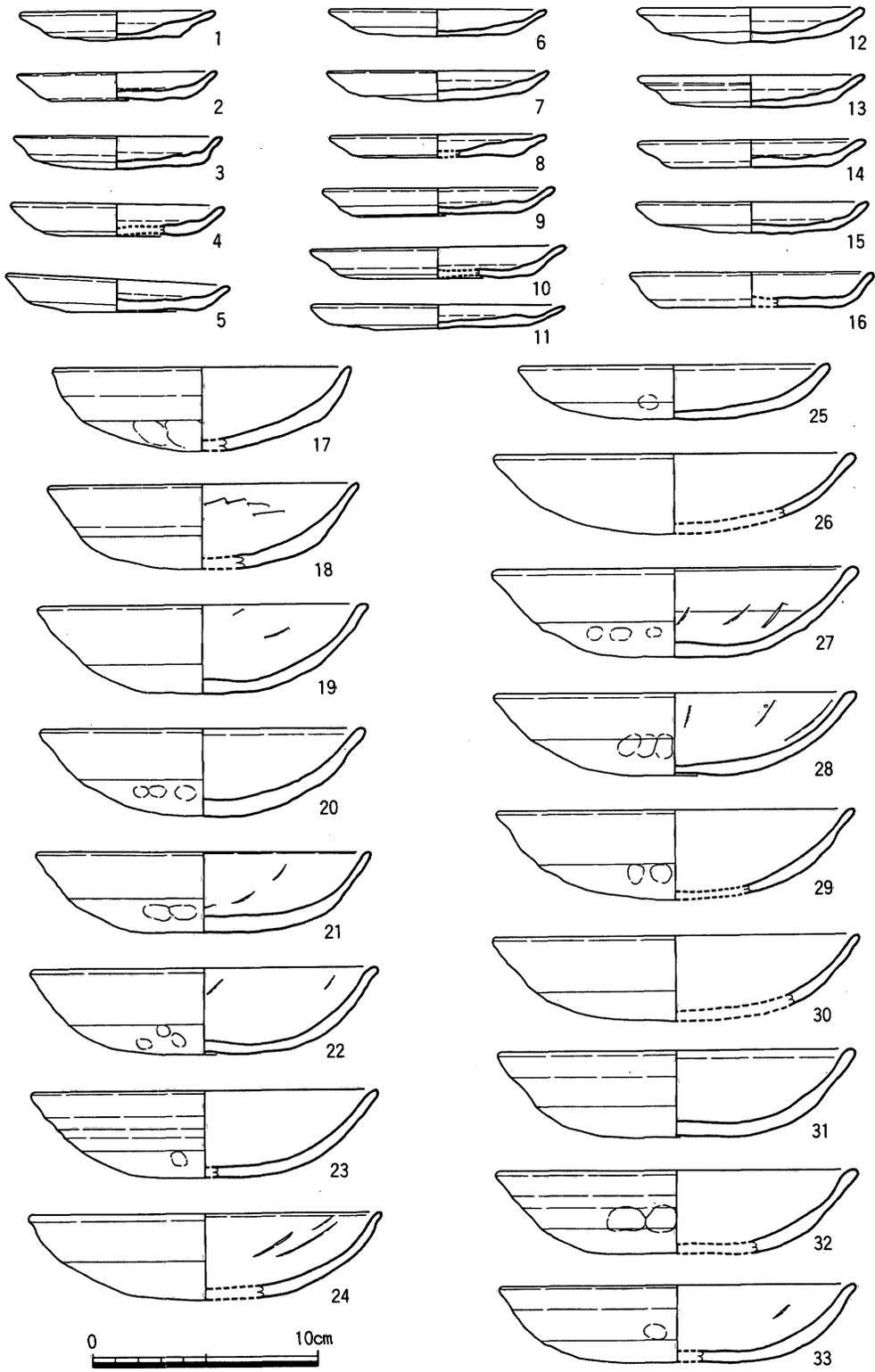


Fig. 46 81 SK120出土遺物実測図(1) (1/3)

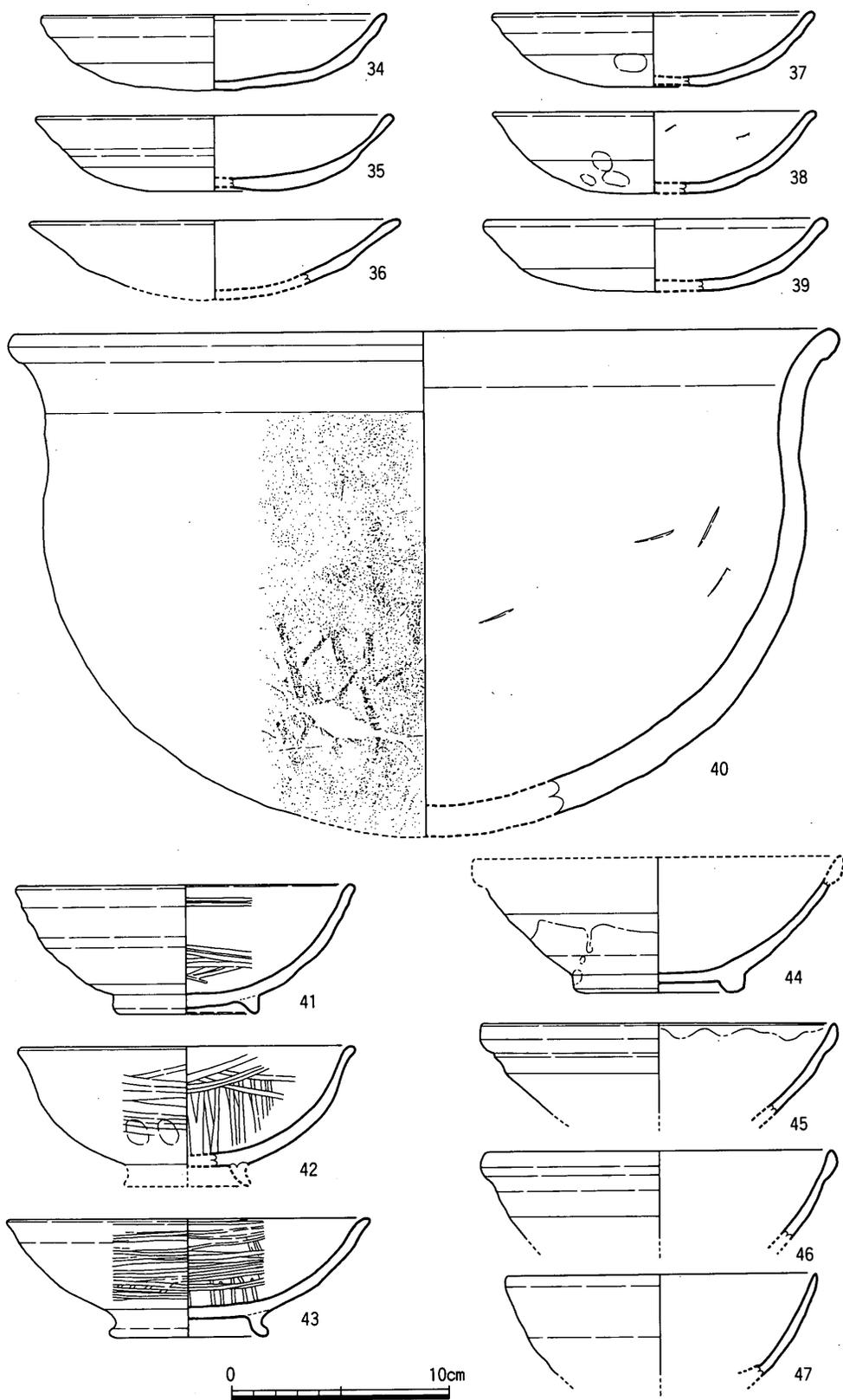


Fig.47 81 SK120出土遺物実測図(2)(1/3)

これらの遺物は出土状態からも一括遺物と考えられ、時期はVI期である。

### 81 SK120出土遺物 (Fig.46・47、Pl.13)

#### 土師器

小皿 a (1～16) すべてヘラ切り。口径8.8～11.4cm、器高1.0～1.5cmを測る。6の外底部は草などで編んだ筵の圧痕がある。すべて黒灰色土出土である。

丸底坏 a (17～39) 口径13.4～17.2cm。口縁端部は丸くなっている。34のミガキ b は粗い。17は小型の中丸底坏 a にはいるか。17～19・26・28・32・35・36・38は暗茶灰色土出土。他は黒灰色土出土である。

甕 (40) 口径38.4cmの扁平な甕である。外面下半は粗い斜格子叩き痕を残し、上半は縦方向のハケ目をおもに横方向のナデで消している。内面の当て具痕は丸いくぼみ状になっている。上半はヘラ状工具によるナデが施されている。また外面下半には煤の付着が顕著であり、底部は赤変していることから、煮沸具に使われたことがわかる。黒灰色土出土。

#### 黒色土器

碗 c (41～43) 口径15.6～16.8cm。いずれも B類。41は体部下半から底部に回転ヘラ削りが施される。内面と体部上半はミガキ c 。黒灰色土出土。42・43は内外とも粗いミガキ c 。暗茶灰色土出土。

#### 白磁

碗 (44～47) 45・46はIV類。黒灰色土出土。44はIV-1 a類。黒灰色土出土。47は暗茶灰色土出土でV-1 a類。

### 81 SK130出土遺物 (Fig.48～51、Pl.14)

#### 須恵器

小蓋 c 3 (1) 口径10.6cm。天井部はヘラ切りのまま、つまみをつける。

中蓋 c 2 (3) 口径14.6cm、器高2.8cm。天井部は回転ヘラ削りを施す。扁平なつまみは中心からずれてつく。

中蓋 c 3 (2・6) 2は口径14.2cm、器高1.8cm。ひずみが大きい。6は口径16.5cm、器高1.8cm。天井部は回転ヘラ削りを施す。扁平なつまみがつく。

中蓋 3 (4・5・7・8) 口径15.2～20.0cm。天井部は5がヘラ切り、他は回転ヘラ削りを施す。

小坏 a (9) 口径10.6cm、器高4.0cm。底部は回転ヘラ削りを施す。

小坏 c (16) 口径10.4cm、器高4.1cm。少し張り出す四角形の高台をもつ。底部は回転ヘラ削りを施す。

中坏 c (10～15・17～22) 口径12.0～14.0cm、器高3.4～5.1cmを測る。底部はヘラ切り後、ナデまたは未調整である。11には外底部にヘラ記号がある。

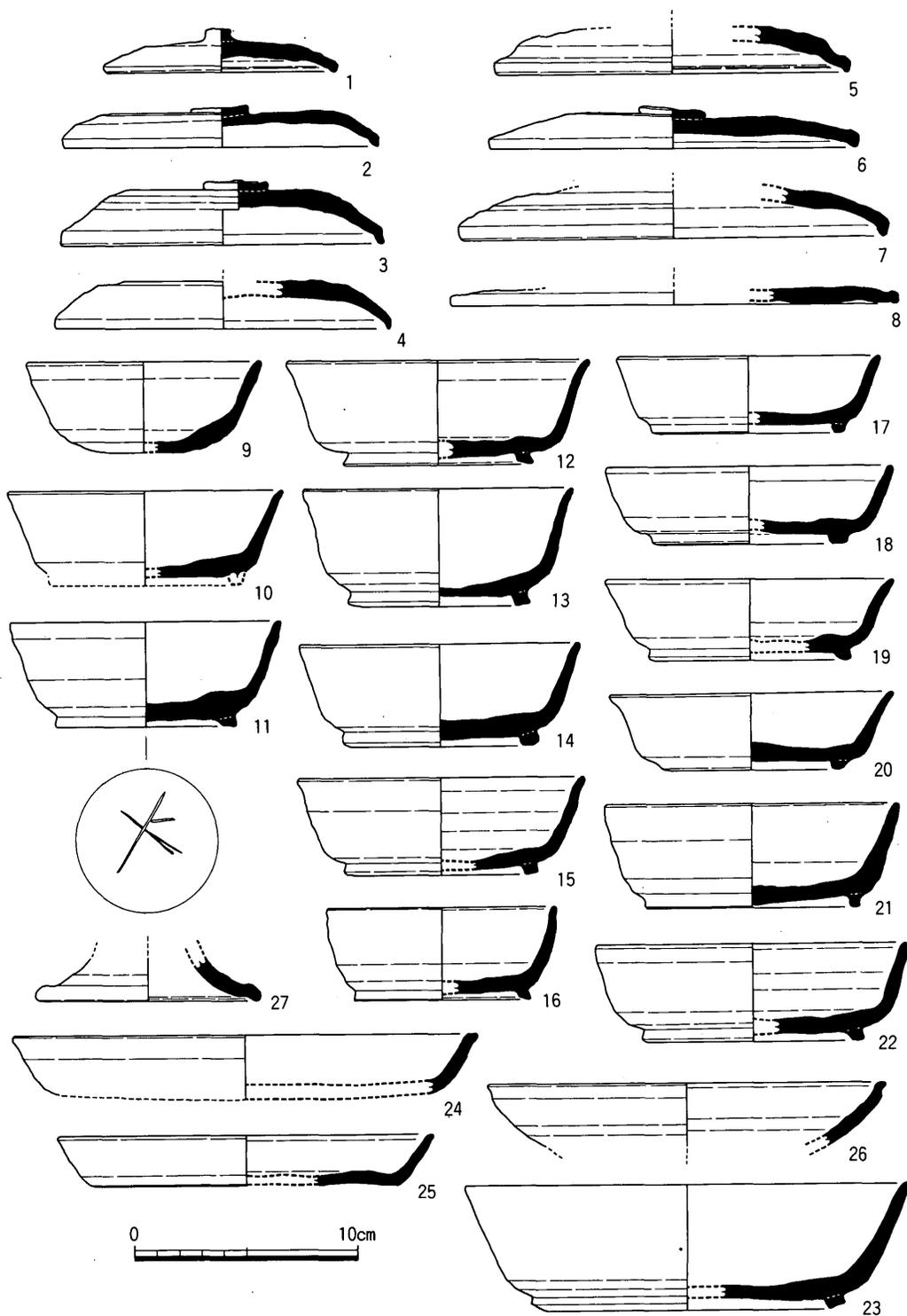


Fig. 48 · 81SK130出土遺物実測図(1) (1/3)

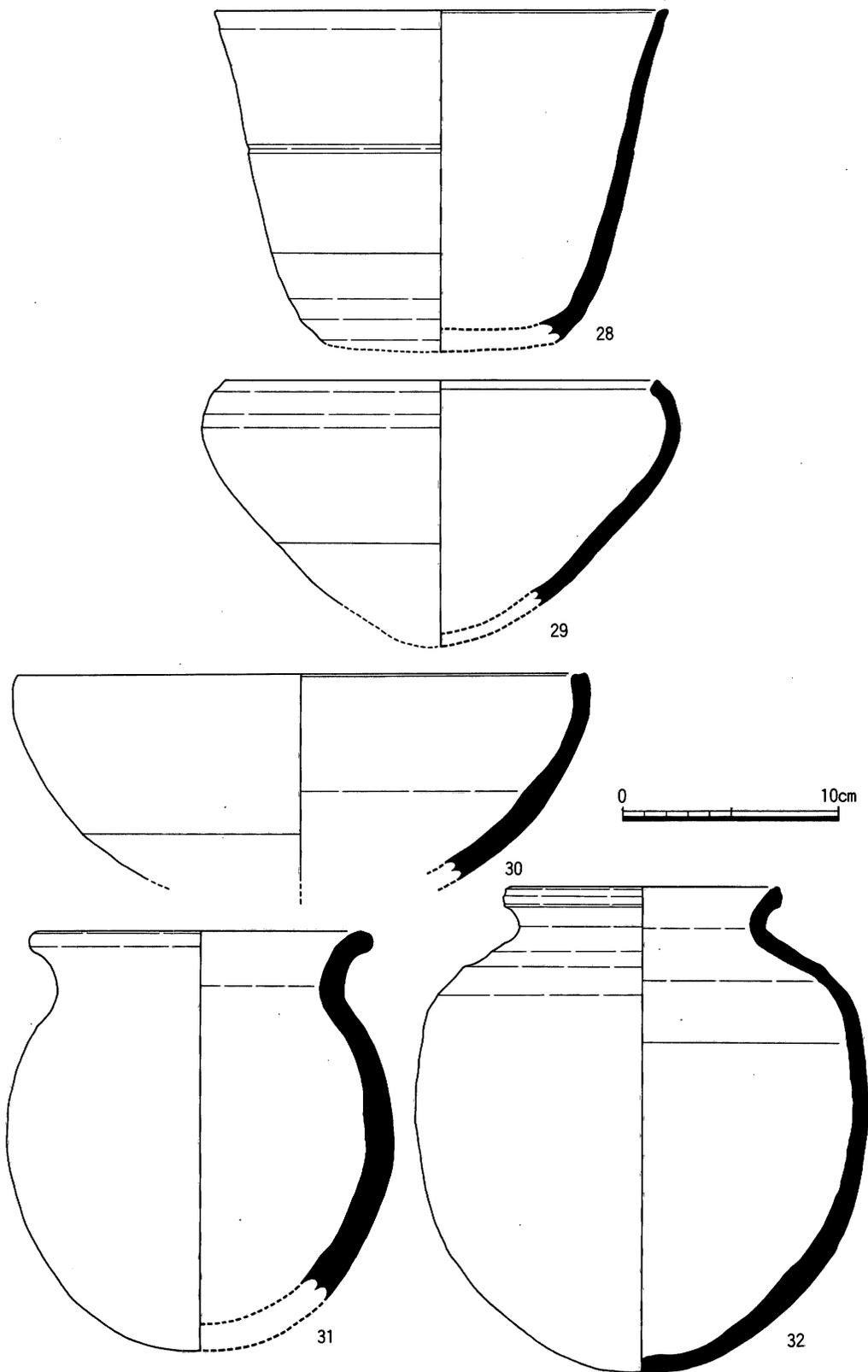


Fig. 49 81SK130出土遺物実測図(2)(1/3)

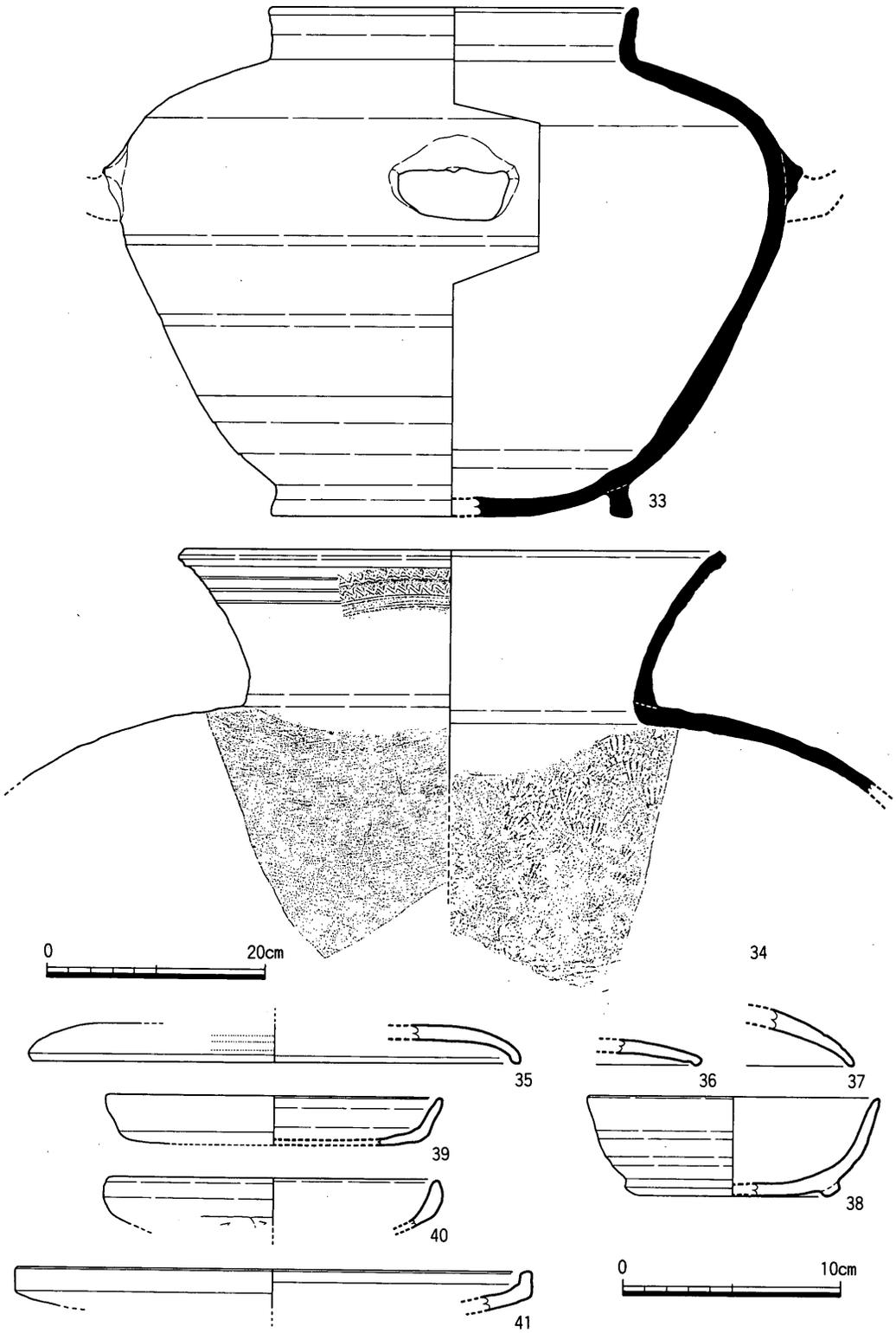


Fig. 50 81 SK 130出土遺物実測図(3)(1/3・1/6)

大坏 c (23) 口径20.0cm、器高5.5cm。底部には回転ヘラ削りを施す。

高坏(26・27) 26は高坏の坏部と考えられる。口径18.0cm。27は脚部で径10.2cm。

皿 a (25) 口径17.0cm、器高2.2cm。底部はヘラ切り未調整。

皿(24) 口径21.0cm。口縁端部に平坦面をつくる。

鉢 a (29・30) 29は口径20.0cm。鉄鉢型。30は口径21.4cm。鉄鉢型か平底か不明。どちらも外面下半を回転ヘラ削りし、上半を横ナデしている。

鉢 b (28) 口径21.2cm。平底でバケツ状を示すと考えられる。外面下半を回転ヘラ削りし、上半を横ナデしている。体部中位に沈線状のものが1条めぐることが、意図的なものか不明。

壺 c (33) 口径17.6cm、器高22.9cm、高台径16.7cm。最大径付近に把手が2ヶ所に付いていたと考えられる。底部と外面下半を回転ヘラ削りし、上半を横ナデしている。口縁はほぼ直立し、端部は丸みをおびる。

小甕 a (31・32) 31は口径16.0cm、最大径18.0cmを測る。なで肩で口縁端部は丸い。体部下半に格子叩き、上半は横ナデをおこなう。内面の当て具痕は同心円。また外面叩きの後から櫛目状の調整を施す。32は口径12.9cm、器高22.4cm、最大径20.9cmを測る。肩部に明瞭な稜をもつ。口縁端部はシャープにできている。外面は格子叩き後、ナデ消している。内面は同心円の叩きの当て具痕が残るが、上半部はナデ消されている。内面下半と外面肩部に自然釉がかかる。

大甕 a (34) 口径50.4cm。口縁端部近くに3条の凹線と2条の波状文が施される。体部は細かい平行叩きをナデ消している。内面の叩きの当て具痕は放射状の文様を示す。

#### 土師器

大蓋 3 (35・36) 35は口径22.4cm。調整は内外面ともミガキ a。36は口径30cmを超えると考えられる。調整は外面ミガキ c、内面横ナデである。

大蓋 4 (37) 口径は30cmを超えると考えられる。

中坏 c (38) 口径13.5cm。底部はヘラ切り後、ナデをおこなう。外面はミガキ a か。

高坏(41) 口径24.0cm。内外面ともミガキ a を施す。蓋の可能性もある。

皿 a (39) 口径15.6cm。底部はヘラ切り。

皿 b (40) 口径15.0cm。底部は手持ちヘラ削りをおこなう。

短頸壺(42) 口径11.6cm。口縁端部はまるい。内面口縁部から外面にかけて赤色顔料を塗布している。調整は横ナデ。内面に粘土屑が付着する。

中甕 a (44) 口径21.0cm。口縁部は短く、外反する。内面はヘラ削り。外面はナデと思われるが不明瞭である。また煤が付着している。

焼塩壺(45・46) 円錐状をなす。口径は45が10.4cm、46が12.0cmを測る。いびつなため正確ではない。いずれも外面は指の圧痕がのこり、内面は工具によるナデをおこなう。布の圧痕はみられない。45は黄白色を呈する。46は2次焼成を受けていて、黄橙色をしており部分的に白

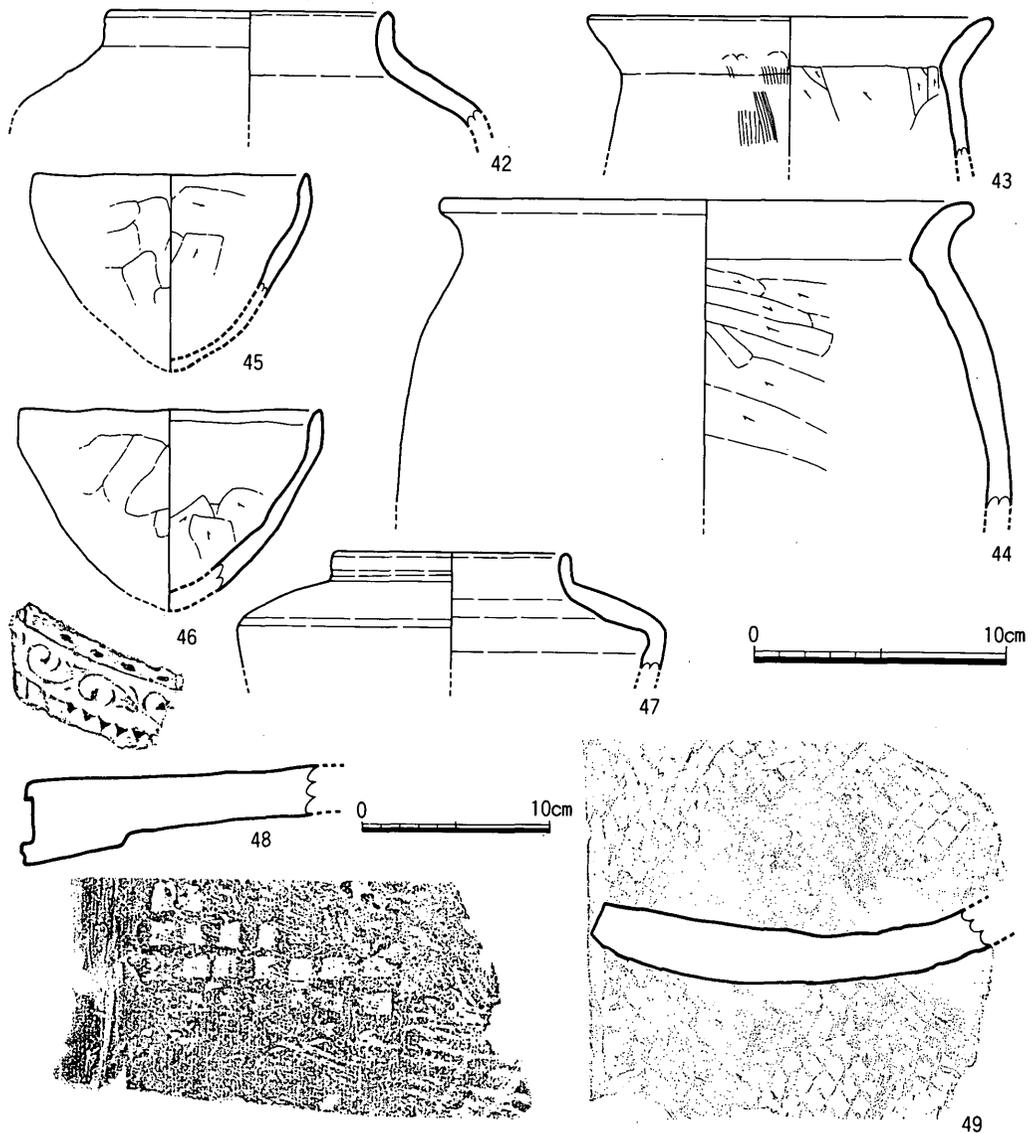


Fig.51 81SK130出土遺物実測図(4)(1/3・1/4)

い粉をふいている。Ⅱ-b類。

灰釉陶器

短頸壺(47) 口径9.6cm。口縁は直立し、肩が張っている。口縁直下から施釉している。釉は暗緑色を呈する。

瓦

軒平瓦(48) 唐草文をもち、正格子と縄目の叩きを施す。

平瓦(49) 斜格子の叩きを施す。端面付近はヘラ削りをしている。

81 SK135出土遺物 (Fig.52~54、Pl.15)

須恵器

蓋 c3(1~4) 口径12.6~17.8cm。つまみはどれも欠損している。天井部はすべてヘラ切り。2の外面にはハケ目様の圧痕がつく。

大蓋 c3(5) 口径19.0cm。天井部はヘラ切り。

中坏 a(6~12) 口径12.4~13.7cm、器高3.0~4.1cmを測る。底部はすべてヘラ切り。8・9・11は体部と底部の境が明瞭で、体部は直線的のびている。8はゆがみが激しい。

中坏 c(13~23) 口径12.0~17.6cm、器高3.5~5.8cm、高台径7.3~10.1cmを測る。底部は16が回転ヘラ削り、18が不明で、他はヘラ切りである。14の外底部にはヘラ記号の一部と考えられるものがある。18・21の内底面は平滑になっており、転用碗の可能性もある。22には内外に赤色顔料を塗布していると考えられる。23は大坏cにしたほうが良いかもしれない。

高坏(36) 坏部外面は回転ヘラ削りをおこなう。内面は平滑になっている。脚径9.6cmを測る。

中皿 a(24・25) 口径は24が14.4cm、25が14.6cmである。底部はどちらもヘラ切り。

皿 a(26~30) 口径17.0~19.6cmである。底部はすべてヘラ切り。30の内底面は削りに近いナデ。

鉢 b(34・35) 口径は34が24.0cm、35が23.0cmである。調整はどちらも外面が横ナデと回転ヘラ削り、内面が横ナデであるが、回転ヘラ削りの範囲が34は体部下半のに対し、35は口縁部直下から底部にかけて施されている。22と同様全面に赤色顔料を塗布していると思われる。

土師器

蓋 c3(37) 口径15.2cm。退化した扁平なつまみがつく。天井部の調整は不明。内面と体部外面はミガキ a と考えられる。

大蓋 3(38) 口径26.6cm。全体にミガキ a を施す。

坏 d(39・40) 口径は39が14.6cm、40が14.0cmである。外面と体部下半が回転ヘラ削り、他にはミガキ a を施す。

皿 a(31~33) 口径18.0~20.4cm。底部はすべてヘラ切り。

鉢(41・42) 41は口径15.6cmを測る。底部はヘラ切り、外面体部底部近くは回転ヘラ削り、他にはナデを施す。42は口径22.5cm。底部はヘラ切りと考えられる。口縁は外反する。底部と体部の境に細い高台がつく。口縁から体部の調整はミガキ a である。

小甕 a(43) 口径20.0cm、器高14.0cmを測る。外面体部に一部横方向のハケ目が残る。内面はヘラ削り。外面は口縁部まで煤が付着している。内面は底部のみである。

甕 a(44・45) 口径は44が17.2cm、45が26.8cmである。内面はどちらもヘラ削りである。外面は44は不明、45が縦方向のハケ目を施す。44の外面には煤が付着している。

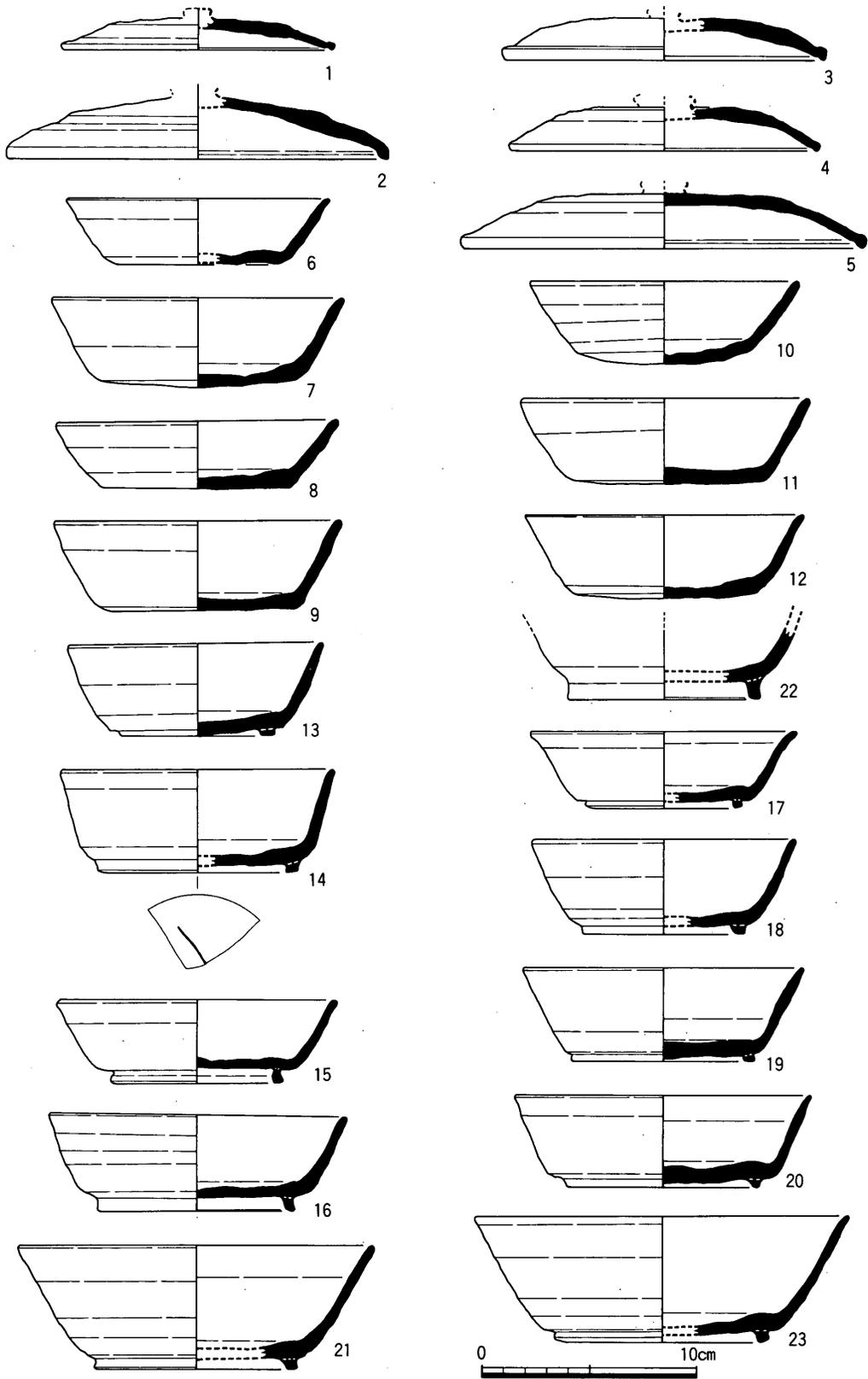


Fig. 52 81SK135出土遺物実測図(1)(1/3)

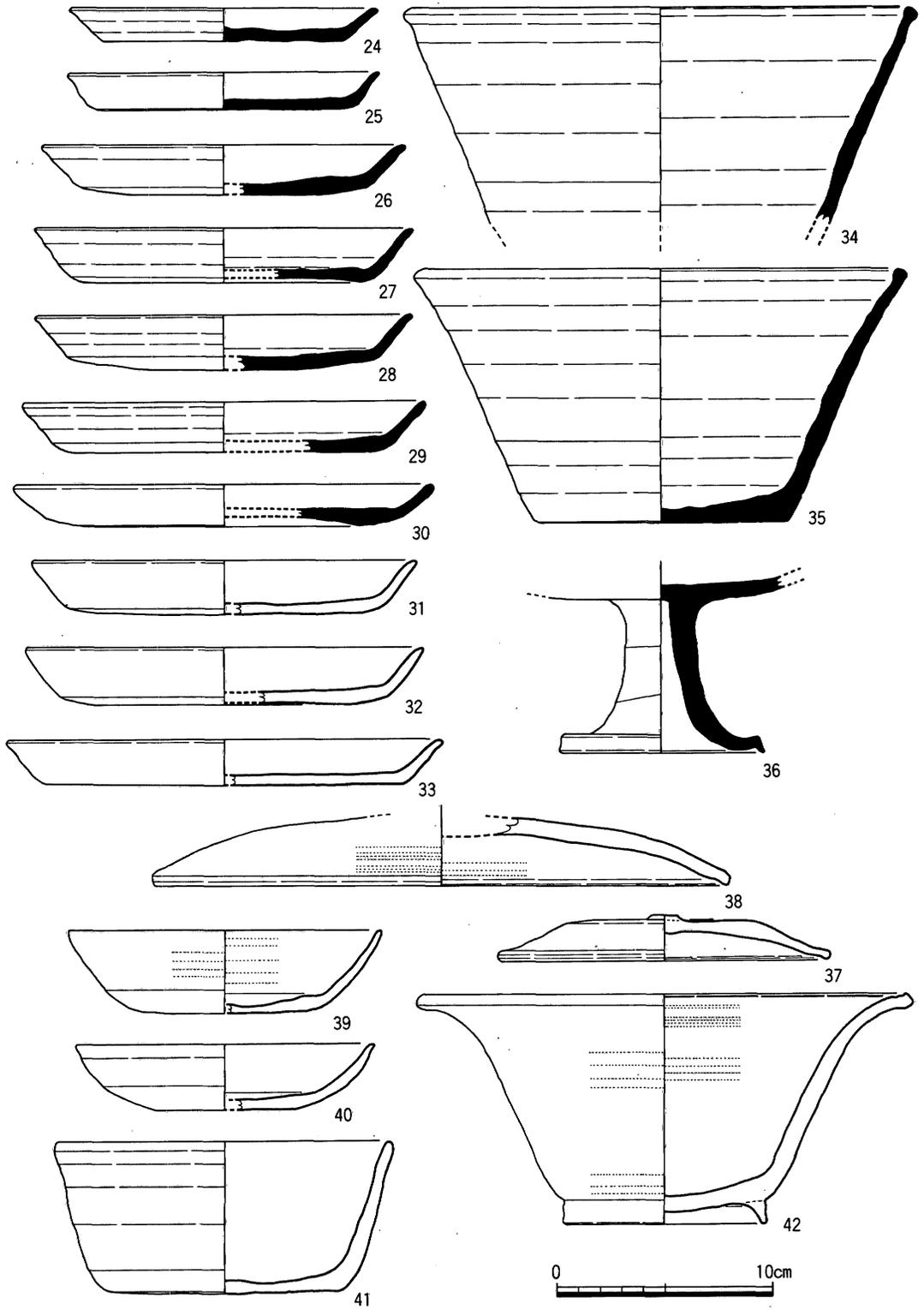


Fig. 53 81 SK 135出土遺物実測図(2)(1/3)

### 81 SK170出土遺物

(Fig.55~57、Pl.15・16)

#### 須恵器

蓋4(1) 口径14.4cm。  
天井部は扁平でヘラ切りする。黒灰色土出土。

蓋c3(2) 口径14.1cm。  
天井部は横ナデされる。つまみは欠損するが、その痕跡から中心からずれて付いていたことがわかる。暗灰色土出土。

坏a(8) 底部の小破片である。外底部に判読できないが、墨書が残る。底部はヘラ切り、体部はナデを施す。暗灰色土出土。

坏c(3~5) 口径12.5~13.8cm、器高4.7~5.6cm、高台径8.2~8.5cmを測る。直線的な体部をもち、4は体部と底部の境に高台がつく。3・4は茶灰色土出土、5は暗灰色土出土である。

碗c(6) 口径14.0cm、器高5.6cm、高台径9.8cmを測る。直線的に立ち上がる体部は口縁付近で内湾する。高台は体部と底部の境につ

く。体部外面はミガキa、内面は横ナデを施す。茶灰色土出土。

皿c(7) 高台径7.0cmを測る。底部から丸く開き、端部近くで外反している。緑釉陶器の形態に似ている。体部下半は回転ヘラ削り、上半と内面はミガキaを施す。茶灰色土出土。

#### 土師器

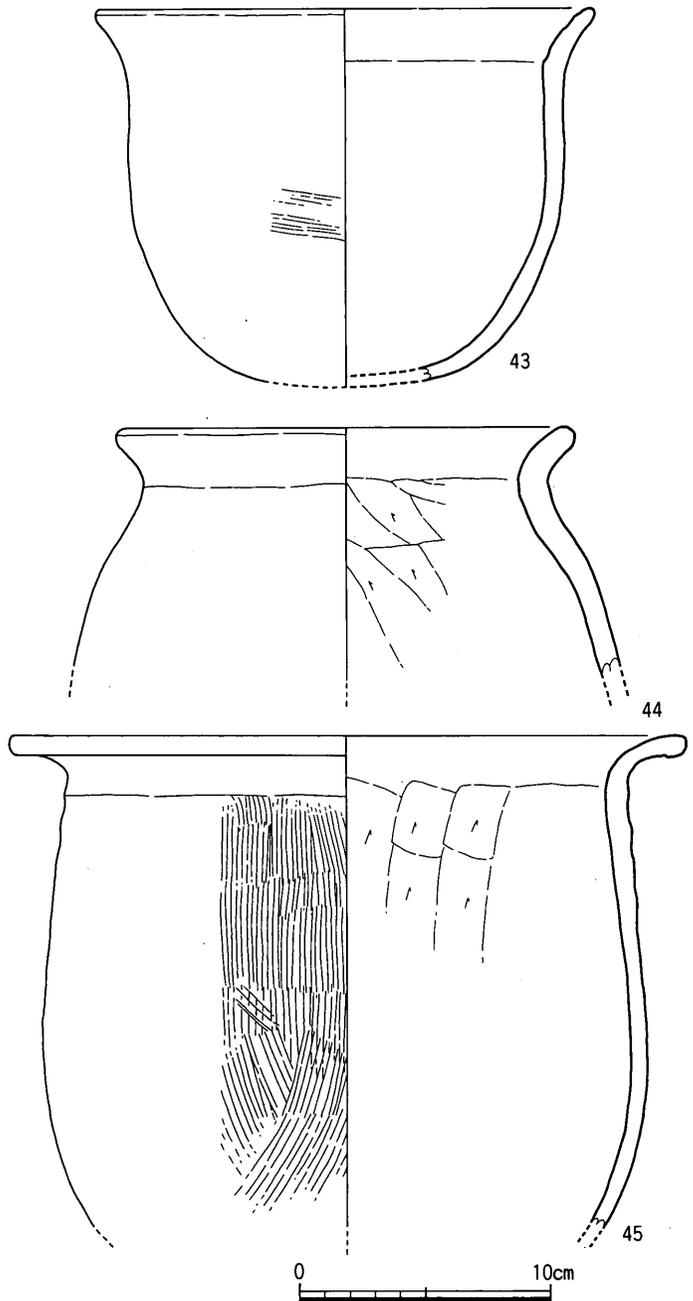


Fig.54 81 SK135出土遺物実測図(3)(1/3)

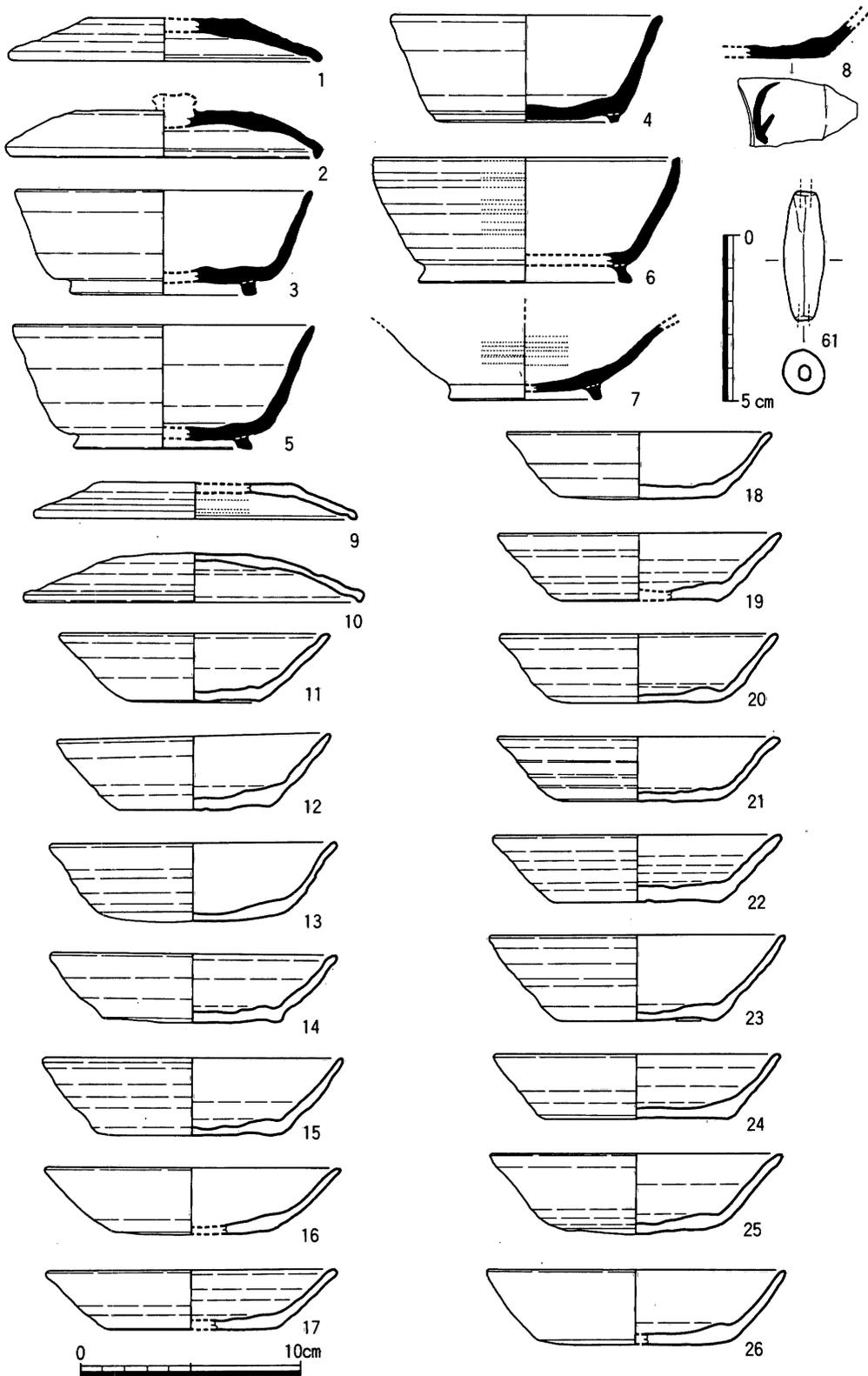


Fig. 55 81SK170出土遺物実測図(1)(1/3・1/2)

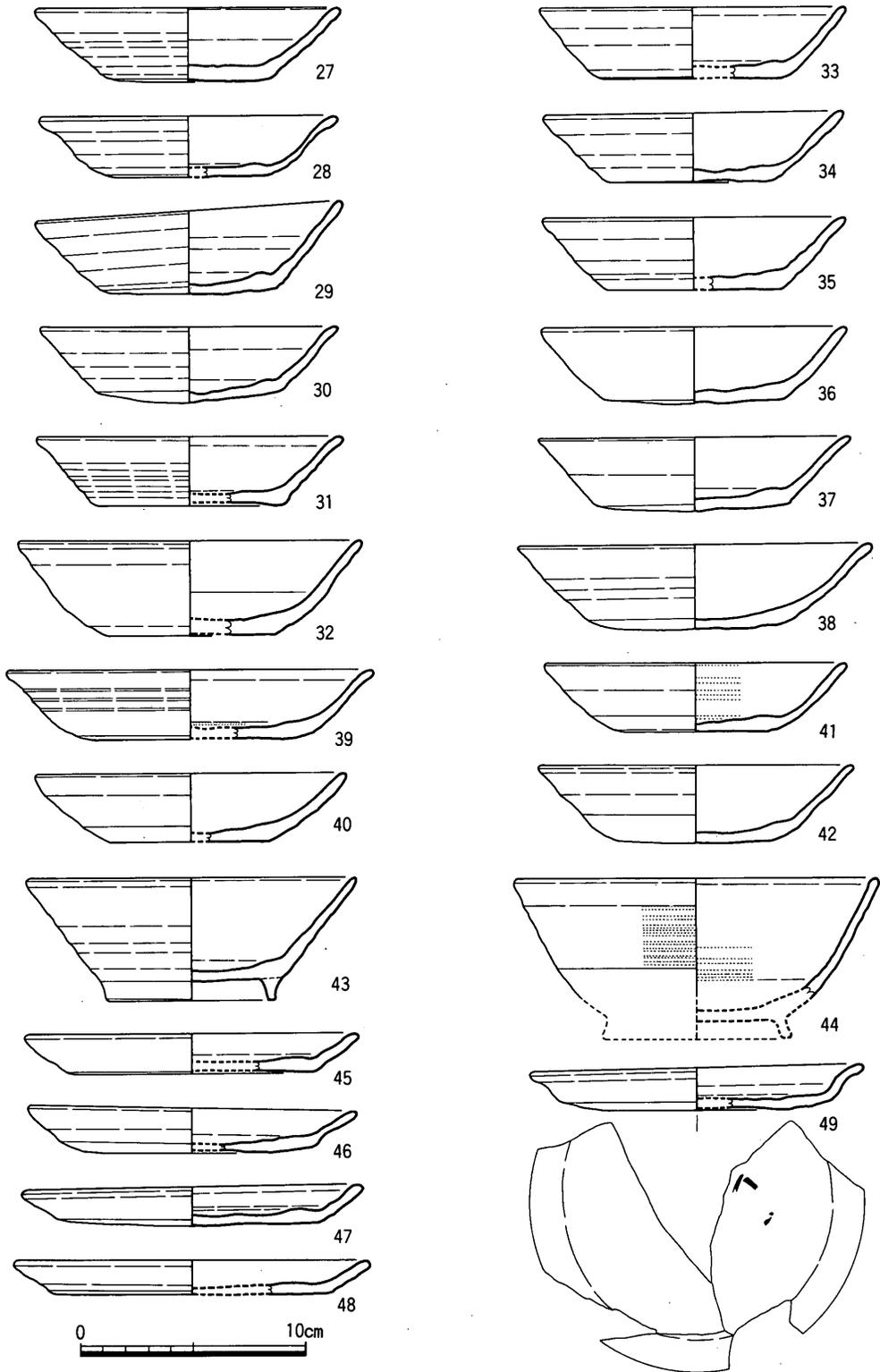


Fig. 56 81SK170出土遺物実測図(2)(1/3)

## 土師器

蓋 a 3 (10) 口径15.6cm。天井部は回転ヘラ削りをされる。内面は横ナデを施す。黒灰色土出土。

蓋 4 (9) 口径14.8cm。扁平な天井部は回転ヘラ削りをされる。内面はミガキ a を施す。黒灰色土出土。

坏 a (11~38) 口径12.2~16.0cmを測る。外底部はすべてヘラ切り、体部は横ナデ、内底部はナデを施す。28・35は内底部に板状工具によると思われるナデの痕跡がある。一部を除いて底部と体部の境は明瞭で、体部は直線的にのびる。28は体部が外反する。38は大型で底部に丸みをもっている。26の内面には煤が付着する。13・17・18・23・28・35~37は茶灰色土、19は暗灰色土、他は黒灰色土からの出土である。

坏 d (39~42) 39は口径16.6cm、器高3.0cmと扁平である。口縁端部はやや外反し、底部と体部の境は丸い。体部下半から底部には回転ヘラ削り、他はミガキ a を施す。皿に分類されるかもしれない。40~42は口径13.6~14.2cmをはかる。体部下半と底部を回転ヘラ削り、他はミガキ a を施す。39・40は黒灰色土、41・42は茶灰色土からの出土である。

碗 c (43・44) 43は器高14.8cm、器高5.3cmを測る。長めの高台は体部と底部の境につき、体部は直線的にのびている。底部と体部下半には回転ヘラ削り、他はナデ調整が施される。黒灰色土出土。44は口径16.4cmを測るやや大型の碗である。体部下半に回転ヘラ削りをもち、他はミガキ a が施される。底部は丸みをもつと考えられる。黒灰色土出土。

皿 a (45~51) 口径14.8~16.0cmを測る。底部はすべてヘラ切り、体部と内面はナデを施す。49は外反する。49~51は外底部に墨書がある。51は底部径が9.6cmとやや小さいことから坏 a に復原されるかもしれない。45・48・51は茶灰色土、46・47・50は黒灰色土、49は暗灰色土からの出土である。

小甕 a (52・53) 口径は52が18.2cm、53が19.4cmである。調整は外面体部と口縁部はハケ目、内面はヘラ削りである。52は口縁と体部の境のくびれは緩い。53は締まっている。52の外面体部には煤が付着している。

甕 a (54・55) 口径は54が26.0cm、55が27.0cmを測る。54は体部と口縁の境はくびれず、口縁端部でわずかに外反する。茶灰色土出土。55は体部と口縁の境が明瞭で、内面には稜線をもち、口縁は極端に外反する。黒灰色土出土。

## 黒色土器

碗 c (56・57) どちらも A 類である。56は口径19.1cm。外面体部中位まで回転ヘラ削りをおこない、その上からミガキ a を施す。内面はミガキ c である。57は小さい断面三角形の高台をもつ底部片である。内面はミガキ c を施す。外面は磨滅のため不明である。2点とも黒灰色土出土。

## 緑釉陶器

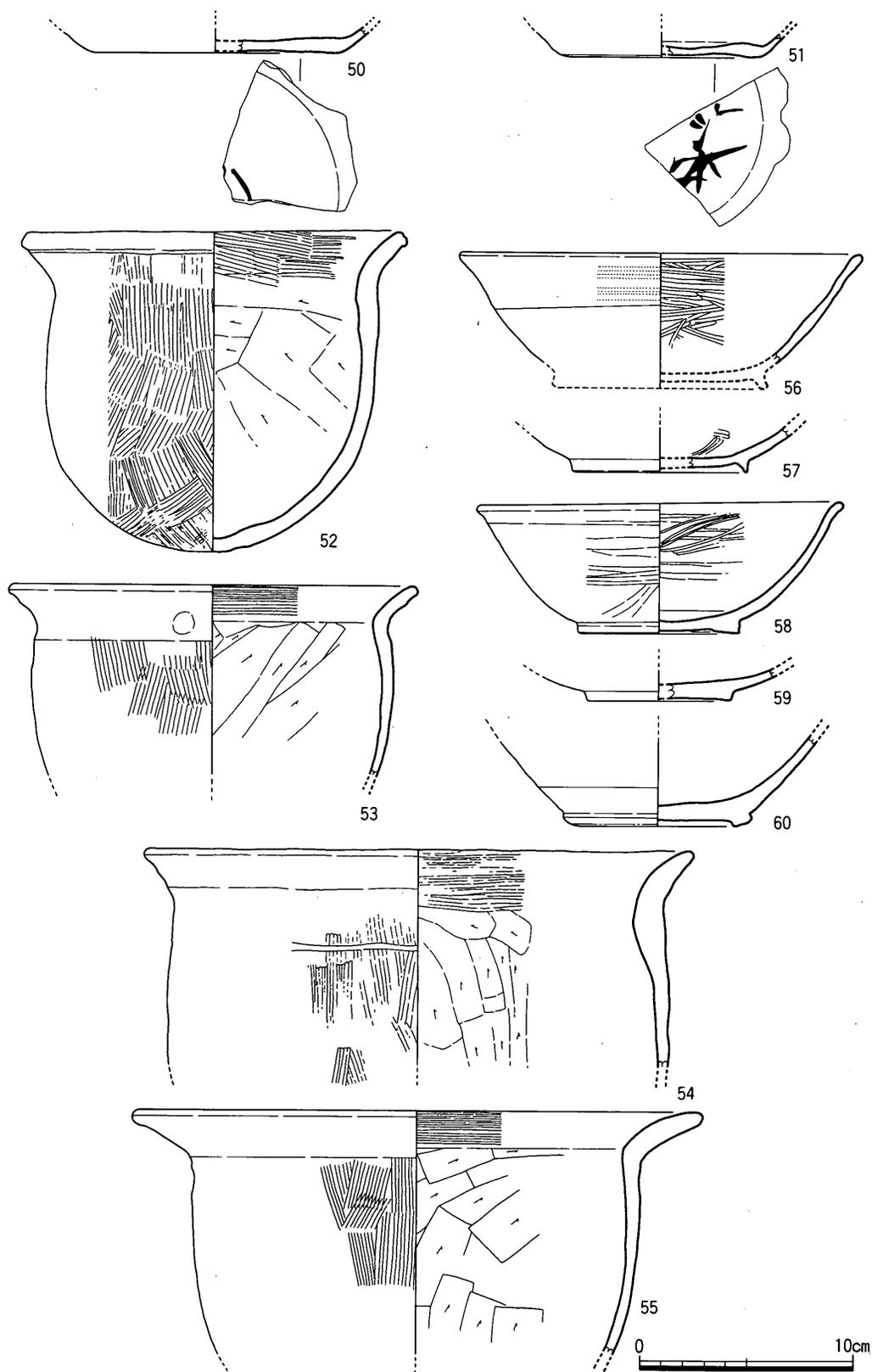


Fig.57 81SK170出土遺物実測図(3)(1/3)

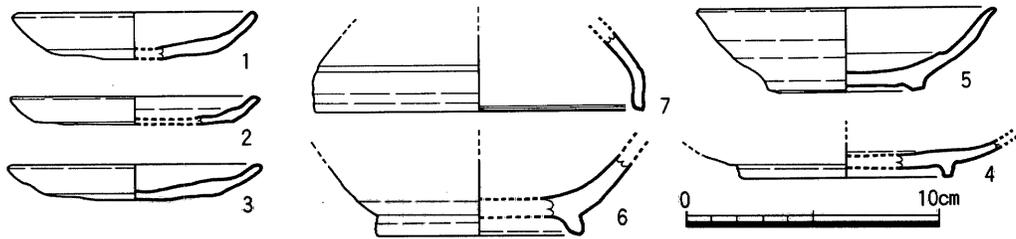


Fig.58 81SK315出土遺物実測図(1/3)

碗(58・59) 58は口径17.4cm、器高6.0cm、高台径7.8cmを測る。まるく立ち上がる体部にわずかに外反する口縁をもつ。高台は大きな蛇の目高台である。内外面ともヘラミガキを施し、全面に施釉している。見込みに浅い段がある。胎土は黄白色で軟質、焼成は良好。釉は淡黄緑色で光沢があり、薄くむらがある。ハケで塗られたと考えられる。59は底部径6.8cmの破片である。高台風に削りだし、回転ヘラ削りを施す。胎土は淡黄白色で軟質。釉は淡緑色で光沢がある。ともに茶灰色土出土。

越州窯系青磁

碗(60) I-2類。施釉後高台畳付き部分のみかきとる。高台と見込みに推定15個の目跡が残る。

土製品

管状土錘(61) 長さ3.9cm、最大径1.4cm、穴径0.5cm。茶灰色土出土。

以上の出土遺物はVI期のもと考えられる。

81 SK315出土遺物 (Fig.58)

土師器

小皿a(1~3) 口径9.8~10.2cm。底部はヘラ切り。

緑釉陶器

皿(4) 高台径8.5cm。体部は内外ともヘラミガキをおこなう。断面台形の高台は張り付けである。胎土は明黄灰色で軟質、釉は全面にかけられ、淡緑黄色を呈する。

白磁

皿(5) II-1類。口径11.9cm。胎土はきめ細かい白色。釉は青味をおびた白色半透明。外底部にハマの跡がのこる。

越州窯系青磁

蓋(7) I類。口径13.1cm。施釉後口縁端部をかきとる。合子の蓋と考えられる。

碗(6) II類。高台径8.3cm。高台は輪高台状をなす。見込みに目跡がつく。

81 SE001出土遺物 (Fig.59)

土師器

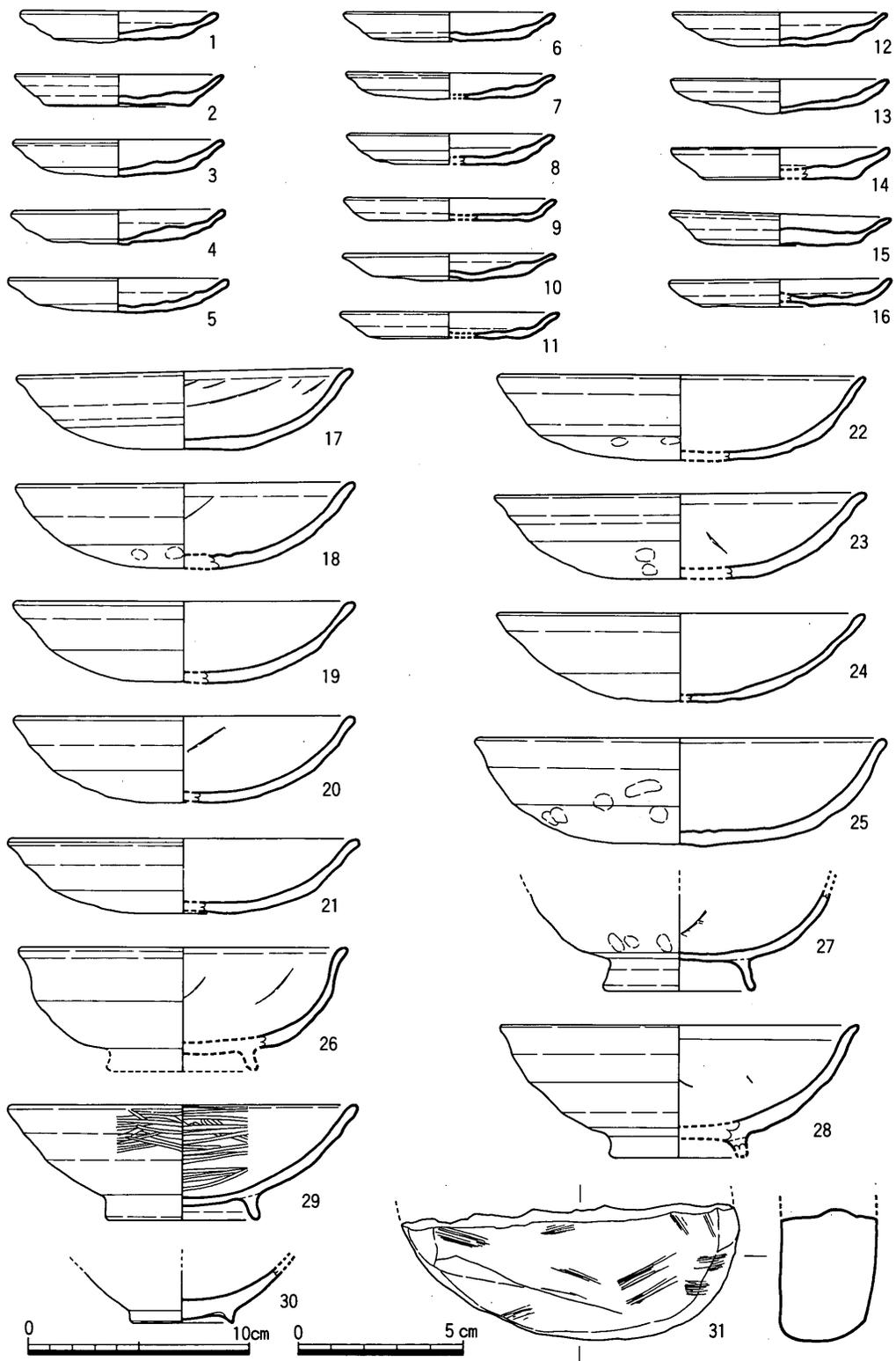


Fig. 59 81SE001出土遺物実測図(1/3・1/2)

小皿 a (1~16) 口径9.1~10.2cmを測る。すべてヘラ切り。7・9は暗茶灰色土、11・14は灰茶色粘質土、他は暗灰色土からの出土である。

丸底坏 a (17~25) 口径15.4~18.8cmを測る。内面はミガキ b、外面には指頭圧痕がのこる。体部は全体に開き気味で浅い。すべて暗灰色土出土である。

丸底坏 c (26) 口径15.0cm。内面はミガキ b、外面には指頭圧痕がのこる。体部は深く、口縁端部はわずかに外反する。底部近くには高台接合のナデがみられる。暗灰色土出土。

椀 c (27・28) 28は口径16.8cmを測る。わずかに外反する口縁端部と太い高台をもつ。内面はミガキ b、外面体部下半に回転ヘラ削りがみえる。回転ヘラ削りは器壁が厚くなりすぎたために削ったものと思われる。暗灰色土出土。27は細く高い高台をもつ。高台径7.0cm。内面はミガキ b、外面には指頭圧痕がのこる。丸底坏 c に分類されるかもしれない。灰茶色粘質土出土。

#### 黒色土器

椀 c (29) 口径16.0cm、器高5.1cm、高台径7.0cmを測る。丸く開く体部には粗いミガキ c が施される。底部はヘラ切り。B類。暗灰色土出土。

#### 越州窯系青磁

椀 (30) III類。高台径4.8cm。細い輪高台をもつ。外底には白色の目跡がつく。釉は暗緑灰色を呈する。81SK025出土の破片と接合した。暗灰色土出土。

#### 石製品

滑石製品 (31) 楕円形または円形をした円盤状のものと考えられる。凹面と凸面がある。現存長10.3cm、現存幅4.0cm、厚さ3.0cm。石鍋の2次加工品か。暗灰色土出土。

### 81 SE060出土遺物 (Fig.60・61、Pl.16)

#### 須恵器

坏 a (1) 口径12.8cm、器高3.6cm、底部径8.2cm。底部はヘラ切り、他はナデを施す。茶灰色土出土。

小坏 c (2) 高台径は6.8cm。底部はヘラ切り。暗灰色土出土。

皿 a (3) 口径14.0cm、器高1.7cm、底部径11.3cm。底部はヘラ切り。茶灰色土出土。

壺 d (4) 扁平な耳をもつ双耳壺である。調整は内外面とも横ナデである。最大径18.8cmを測る。茶灰色土出土。

鉢 (5) 口径18.5cm。口縁端部は薄くなる。内外面とも横ナデ調整。暗灰色土出土。

#### 土師器

蓋 c 4 (6) 口径16.6cm。緩いドーム状をしている。調整は内外面ともミガキ a。つまみを欠損する。茶灰色土出土。

大蓋 3 (7) 口径20.6cm。天井部を回転ヘラ削りする。茶灰色土出土。

坏 a (8) 口径13.6cm。調整は磨滅がはげしく不明である。茶灰色土出土。

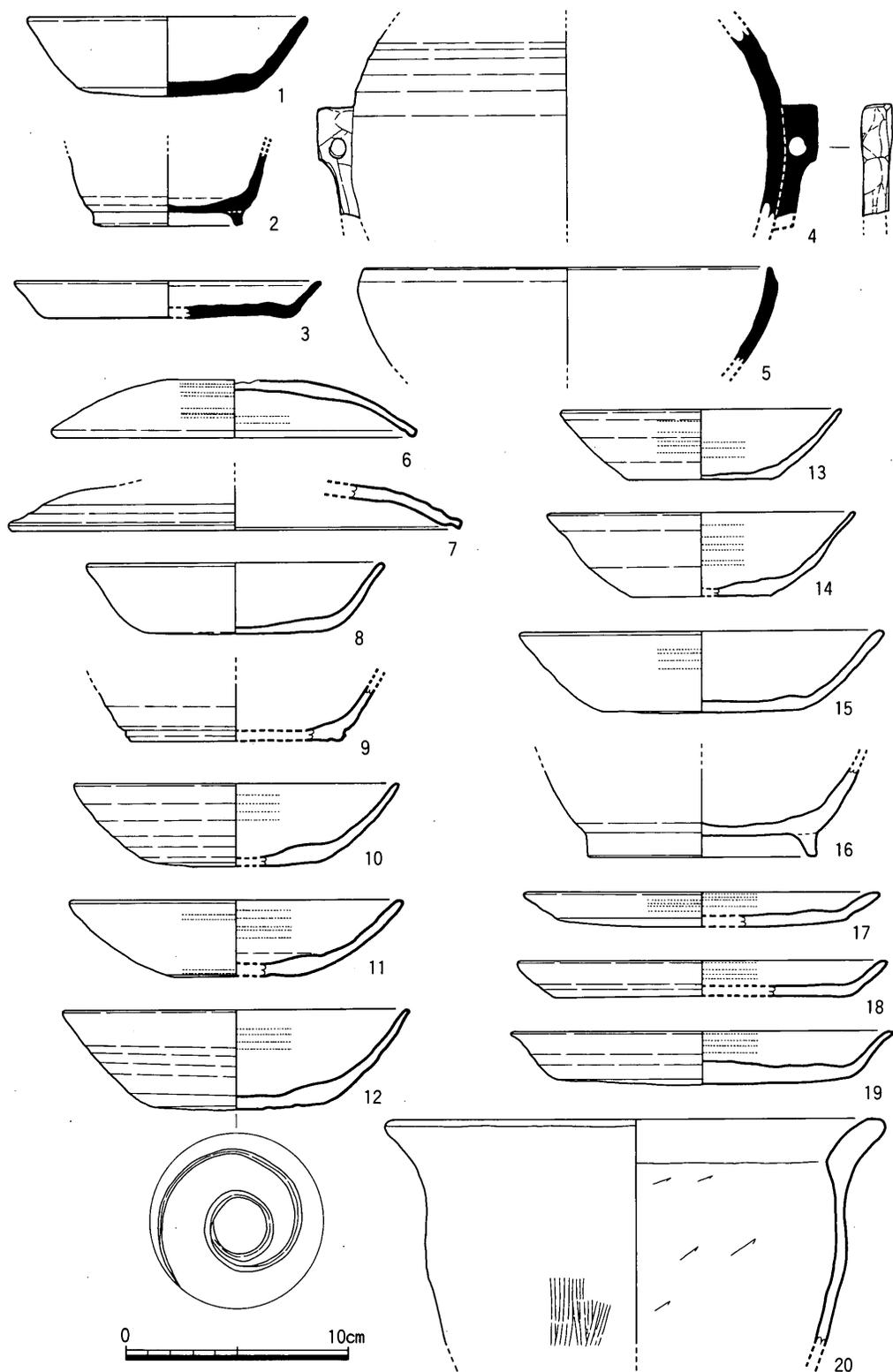


Fig. 60 81 SE060出土遺物実測図(1)(1/3)

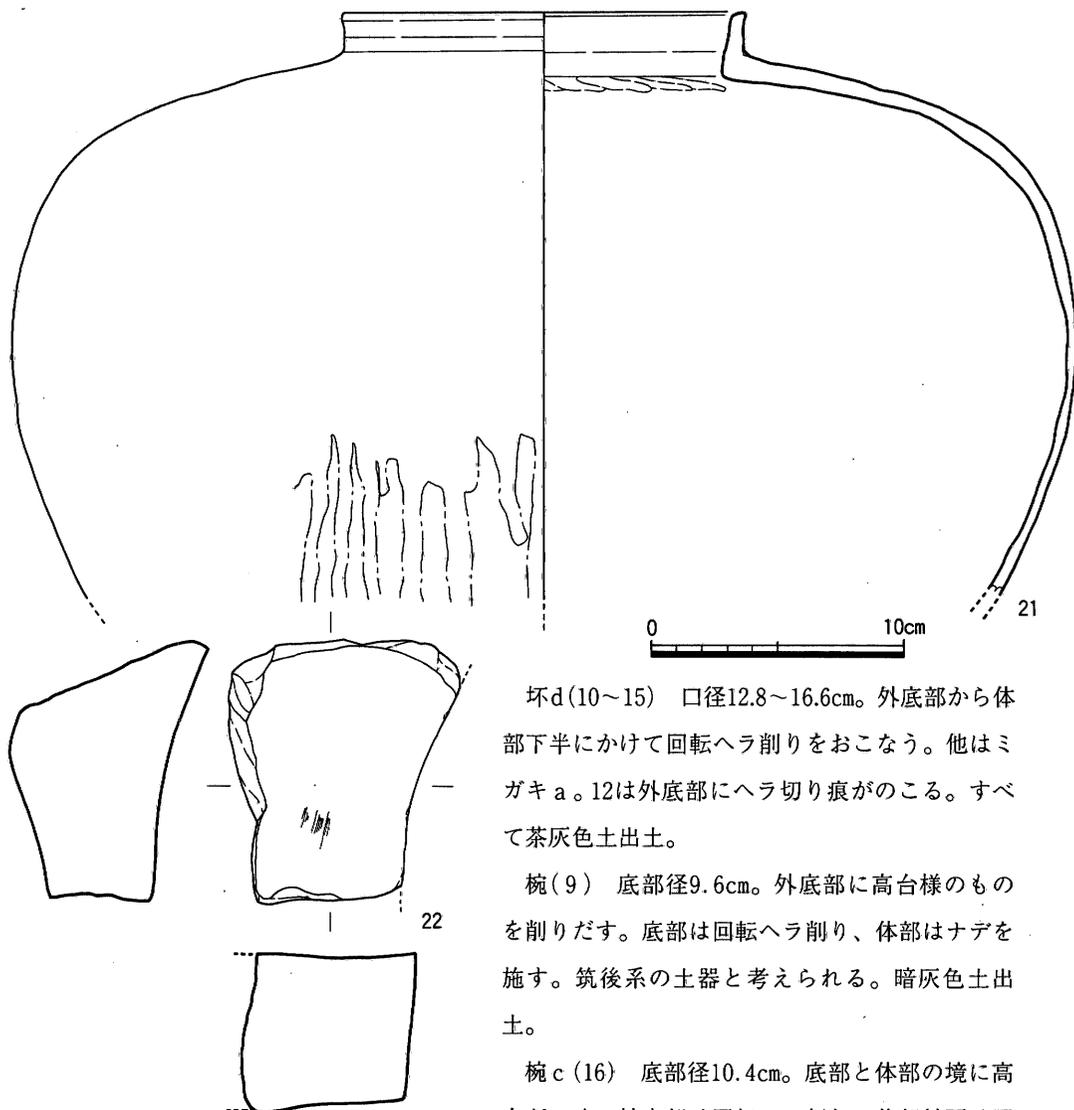


Fig. 61 81 SE060出土  
遺物実測図(2)(1/3)

坏d(10~15) 口径12.8~16.6cm。外底部から体部下半にかけて回転ヘラ削りをおこなう。他はミガキa。12は外底部にヘラ切り痕がのこる。すべて茶灰色土出土。

碗(9) 底部径9.6cm。外底部に高台様のものを削りだす。底部は回転ヘラ削り、体部はナデを施す。筑後系の土器と考えられる。暗灰色土出土。

碗c(16) 底部径10.4cm。底部と体部の境に高台がつく。外底部は回転ヘラ削り、体部外面は回転ヘラ削り後ミガキa、内面にミガキaを施す。茶灰色土出土。

皿a(17~19) 口径16.2~17.4cm、器高1.6~2.4cmを測る。底部は回転ヘラ削り、他はミガキaを施す。17・18は茶灰色土出土。19は暗灰色土出土。

中甕a(20) 口径22.6cm。口縁はあまり外反しない。内面口縁と体部の境は、体部のヘラ削りで明瞭な稜を形成する。外面にハケ目が残る。暗灰色土出土。

#### 灰釉陶器

短頸壺(21) 口径16.0cm、最大径42.4cmを測る。直立した短い口縁部がつく。肩が大きく張り最大径は胸部上半にくる。内面は同心円の叩き当て具痕がのこり、上から横ナデを施す。特

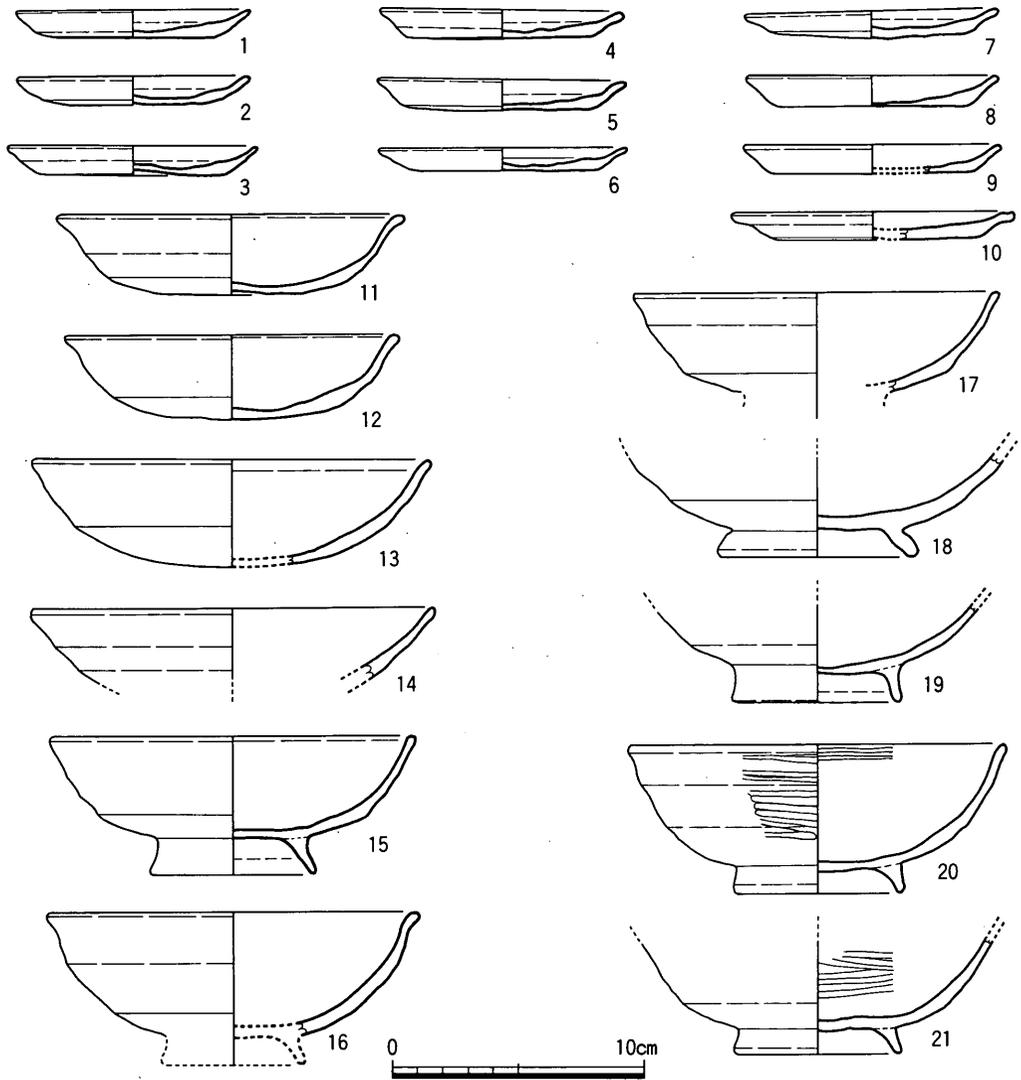


Fig.62 81SE066出土遺物実測図(1/3)

に頸部近くは横ナデが顕著で、当て具痕は残らない。外面は胴部以下を回転ヘラ削りを施し、あとで口縁から胴部中位まで横ナデをおこなう。胴部中位は器壁が薄くなっている。釉は淡青緑色で光沢、透明感がある。肩部は一部白濁している。内面頸部から外面胴部中位までかけられ、釉だれがはげしい。施釉されていない部分も自然釉のためか、表面に光沢がある。胎土はきめのやや粗い灰白色をしている。いくつかの遺構から胴部以上が出土した。茶灰色土・暗灰色土出土。81SX048・102、S-36・37・39・44・58出土破片と接合した。

石製品

砥石(22) 砂岩製の砥石である。現存長10.4cm。3面を使用しており、かなり使い込んでいて

中央が窪んでいる。

**81 SE066出土遺物 (Fig.62、Pl.17)**

土師器

小皿 a (1~9) 口径9.4~10.9cm。底部はヘラ切り。1~6は黒褐色土、7は黒灰色土、8・9は黒褐色粘質土出土である。

小皿 a2 (10) 口径11.4cm、器高1.0cm。底部はヘラ切りと思われる。黒褐色粘質土出土。

中丸底坏 a (11・12) 11は口径14.0cm、12が13.3cmである。内面はミガキbがみえる。ともに黒褐色土出土。

丸底坏 a (13・14) 13が口径16.0cm。黒褐色土出土。14が口径16.2cm。黒褐色粘質土出土。

丸底坏 c (15~18) 口径14.7~15.6cm。内面はミガキb、外面はヘラ切り、指頭圧痕、ナデがみえる。16・17には高台接合の跡が残る。15・16は黒褐色土、17は黒褐色粘質土、18は黒灰色土出土。

黒色土器

碗 c (19~21) 口径は15.2cm、高台径6.7~6.9cm。内面はミガキc、外面は19がナデ、20・21にはミガキcを施す。19・20には外面に押し出しによる指頭圧痕が残る。底部はすべてヘラ切り。19・20は黒灰色土、21は黒褐色土出土である。19はA類、他はB類である。

**81 SE140出土遺物 (Fig.63)**

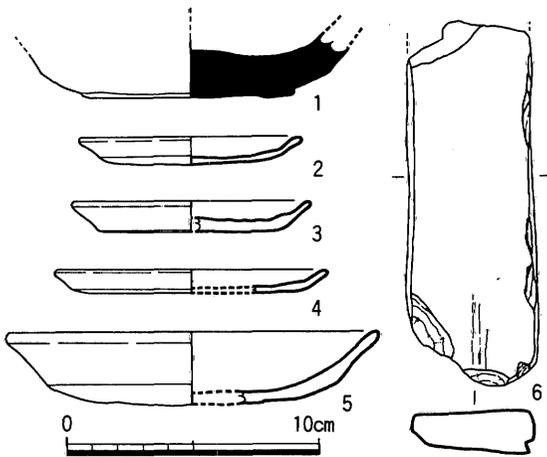


Fig.63 81 SE140出土遺物実測図(1/3)

須恵器

壺(1) 底部径8.5cm。底部はナデ調整をおこない、高台風に少し削りだしている。体部はヘラ削り、内面はナデである。調整はかなり粗い。胎土には白色粒がはいり目立つ。鉢の可能性もある。黒茶色土出土。

土師器

小皿 a (2~4) 口径9.0~11.0cm。3点ともヘラ切り。2は黒茶色土、3・4は黒色土出土。

丸底坏 a (5) 口径15.0cm。内面はミガキb、底部ヘラ切り。黒色土出土。

石製品

砥石(6) 砂岩製である。現存長14.5cm、幅4.9cm、厚さ1.8cm。4面とも使用している。黒茶色土出土。

**81 SE160出土遺物 (Fig.64)**

須恵器

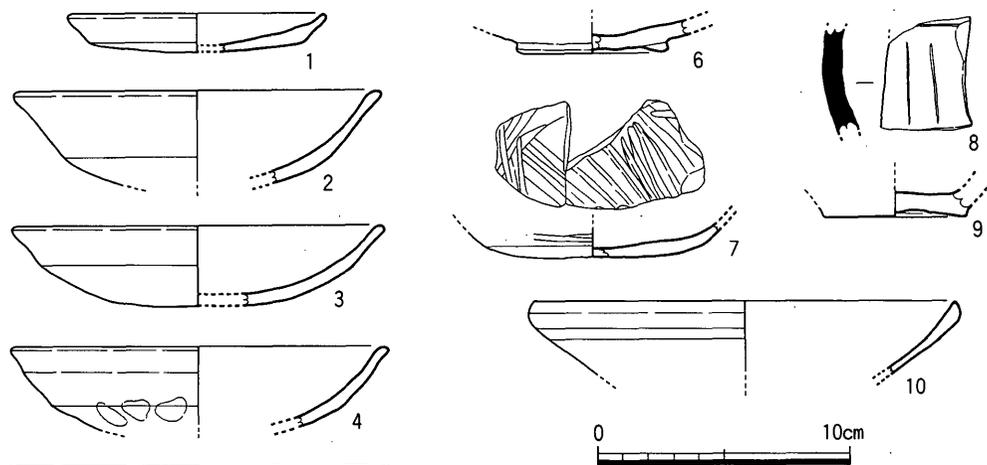


Fig.64 81SE160出土遺物実測図(1/3)

硯(8) 円面硯の脚の破片である。破片の両側は透かし窓になっている。外面に篋で2条、縦方向に沈線をいれる。高さ約4cm分のこる。窓と窓のあいだはおよそ3.5cmである。黒灰色土出土。

土師器

小皿a(1) 口径10.4cm。底部はヘラ切り。黒灰色粘質土出土。

丸底坏a(2~5) 口径14.8~15.4cm。内面はミガキb、外面はヘラ切り、一部に押し出しの指頭圧痕が残る。3は黒灰色土出土。他は黒灰色粘質土出土。

6は器形不明の高台部分である。扁平な高台風のものを底部に貼り付けている。底部径6.2cm。底部の切り放し法は不明。内面はミガキの可能性はある。搬入品か、特殊品と考えられる。黒灰色土出土。

黒色土器

7はB類である。底部径8.8cmである。体部は内外ともミガキcを施す。外底部にはナデをおこなう。坏aに分類されるか。黒灰色粘質土出土。

白磁

椀(10) 口径17.3cm。IV類。釉は透明で、やや青みがかり光沢がある。黒灰色土出土。

越州窯系青磁

椀(9) 底部径5.8cm。I類。全面施釉後、底部端のみかきとる。緑がかった淡青灰色を呈する。黒灰色粘質土出土。

#### 81SE240出土遺物 (Fig.65)

土師器

小皿a(1~11) 口径8.8cm。すべてヘラ切りされる。1・4~6が黒茶色土、9が暗茶色砂、他は暗灰色粘質土出土である。

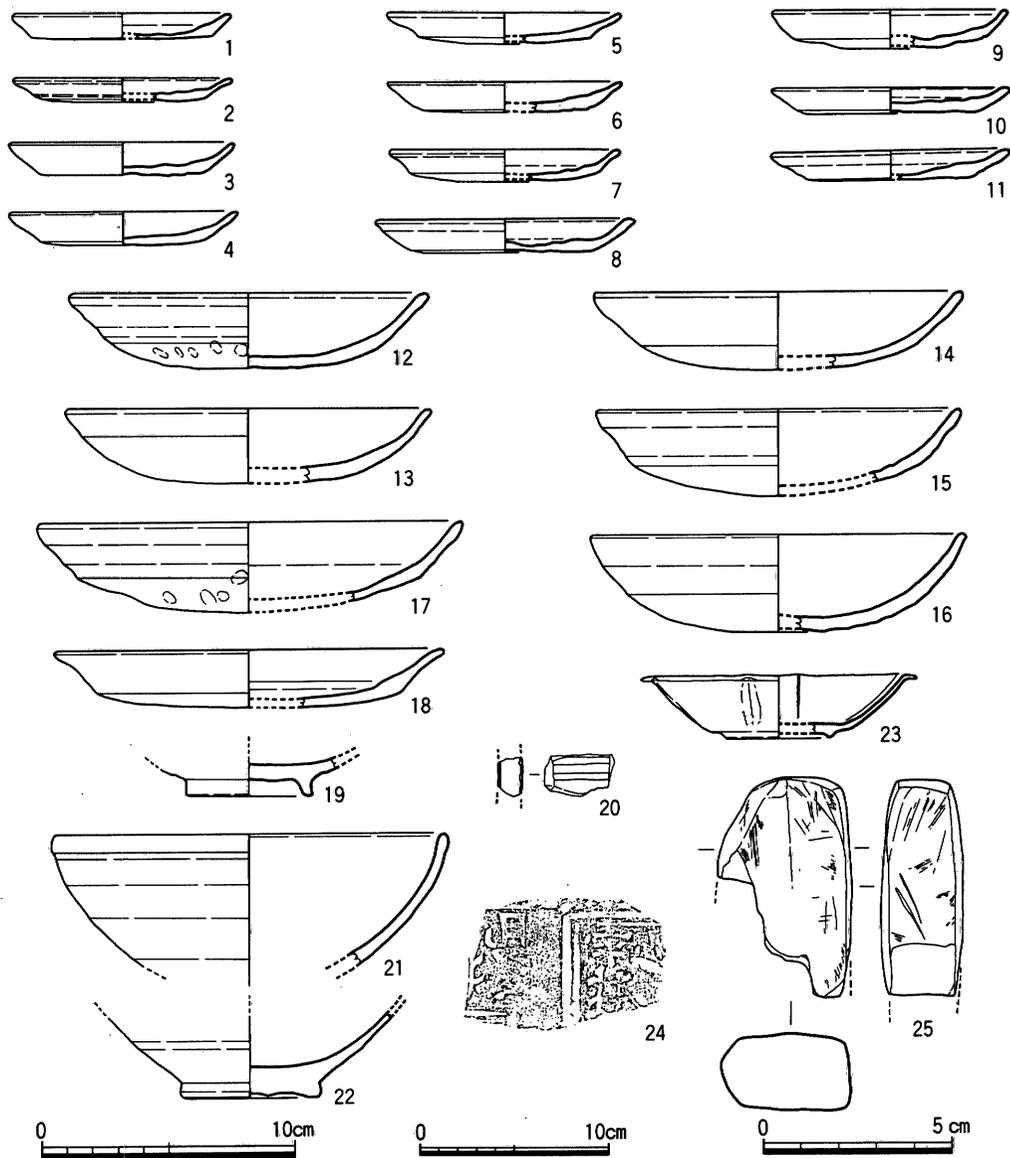


Fig. 65 81SE240出土遺物実測図(1/3・1/4・1/2)

丸底坏 a (12~17) 口径14.4~17.0cmを測る。12はやや小ぶりで中丸底坏aに分類されるかもしれない。内面はミガキbをほどこす。外面はヘラ切り後、押し出しの指頭圧痕がのこるものもある。17はヘラ切りの段が完全には消えておらず、体部に屈曲がのこる。14が黒茶色土、13が暗茶色砂、他は暗灰色粘質土出土である。

皿 a (18) 口径15.6cm。かなり外反する体部とやや凸状の底部をもつ。底部はヘラ切りと思われる。他はナデ調整である。黒茶色土出土。

緑釉陶器

皿(19) 径5.0cmの貼り付け高台をもつ。内外ともナデ調整である。釉は灰色をおびた緑黄色である。全面に施釉される。胎土は灰色で硬質である。暗灰色粘質土出土。

#### イスラム陶器

20は大型の壺の破片と考えられる。2.5×1.0cm程の小片である。器壁は約1cmで、0.1cm程の釉がかかっている。体部中位くらいにあたるか。外面に2条の浅い凹線がみられる。胎土はきめ細かく軟質で、黄白色を呈す。釉は深い青緑色で光沢があり、剥落しやすい。黒茶色土出土。

#### 白磁

碗(21・22) 21はⅡ-1類。口径15.5cmを測る。体部下半に回転ヘラ削りがこのる。胎土はややくすんだ黄白色。釉はわずかに黄色味をおびた透明釉で光沢がある。暗灰色粘質土出土。22はⅣ類。高台径は5.4cmを測る。暗茶色砂出土。

#### 青白磁

皿(23) 口径11.0cm、器高2.5cm、高台径3.9cmを測る。体部は緩く開き、口縁部が外に屈曲する。高台は低い輪高台。外底部は露胎でハマ痕跡が残る。輪花は6ヶ所と思われる。口縁端部に刻み目をいれ、これと対応する位置の体部外面に縦方向のヘラ押しをおこない、体部内面にできた凸部分に白色土による堆線をいれる。見込みには浅い段がある。11世紀後半以降に出現するタイプである。黒茶色土出土。

#### 瓦

平瓦(24) Ⅰ-1類。「平井瓦屋」の銘が左字ではいる。小片のため銘部分以外の叩き文様は不明である。暗茶色砂出土。

#### 石製品

砥石(25) 頁岩製。4面を使用している。幅広の面は特に平滑になっていて、凸面になっている。手持ちの砥石と考えられる。現存長5.8cm、幅3.5cm、厚さ2.2cmを測る。

#### 81SD030出土遺物 (Fig.66)

#### 土師器

小皿a(13・14) 口径は13が10.0cm、14が10.6cmを測る。底部はヘラ切りされる。

#### 白磁

皿(15) 口径9.6cm。Ⅴ-2類。口縁端部に平坦面をもつ。釉は青色味をおびた乳白色で光沢がある。

#### 81SD100出土遺物 (Fig.66, Pl.17)

#### 須恵器

大蓋c3(1) 口径24.0cm、器高5.0cmを測る。扁平なドーム状の体部に、鋭角的な三角形の口縁がつく。つまみはおおきい擬宝珠状である。天井部は回転ヘラ削りをされている。

坏c(2~4) 口径12.0~13.0cm、器高3.9~4.4cm、高台径9.0~9.4cmを測る。底部はヘラ切り

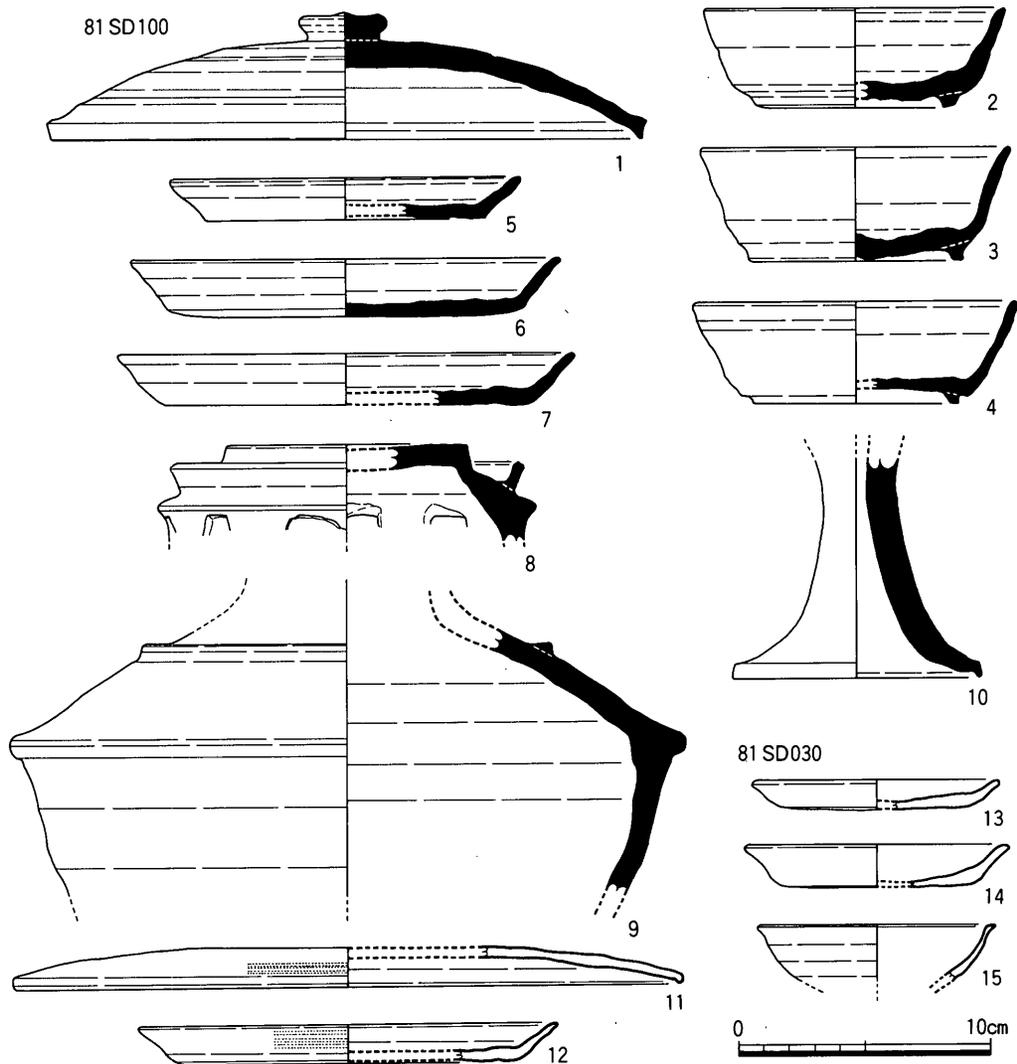


Fig.66 81SD030・100出土遺物実測図(1/3)

される。

高坏(10) 脚部径10.0cmを測る。軸部の器壁は厚い。

皿 a (5~7) 口径14.0~18.2cm、器高1.6~2.2cm、底部径11.1~14.4cmを測る。底部はヘラ切りされる。5・6は内底部が平滑であり、硯に用いられた可能性がある。

壺 e (9) 最大径27.2cmを測る。肩部上方に鈍い凸帯を貼り付ける。肩部と胴部の境は丸く突出している。二重口縁がつくと考えられる。外面は横ナデ、内面も横ナデが施されるが、わずかに叩き当て具痕が残る。

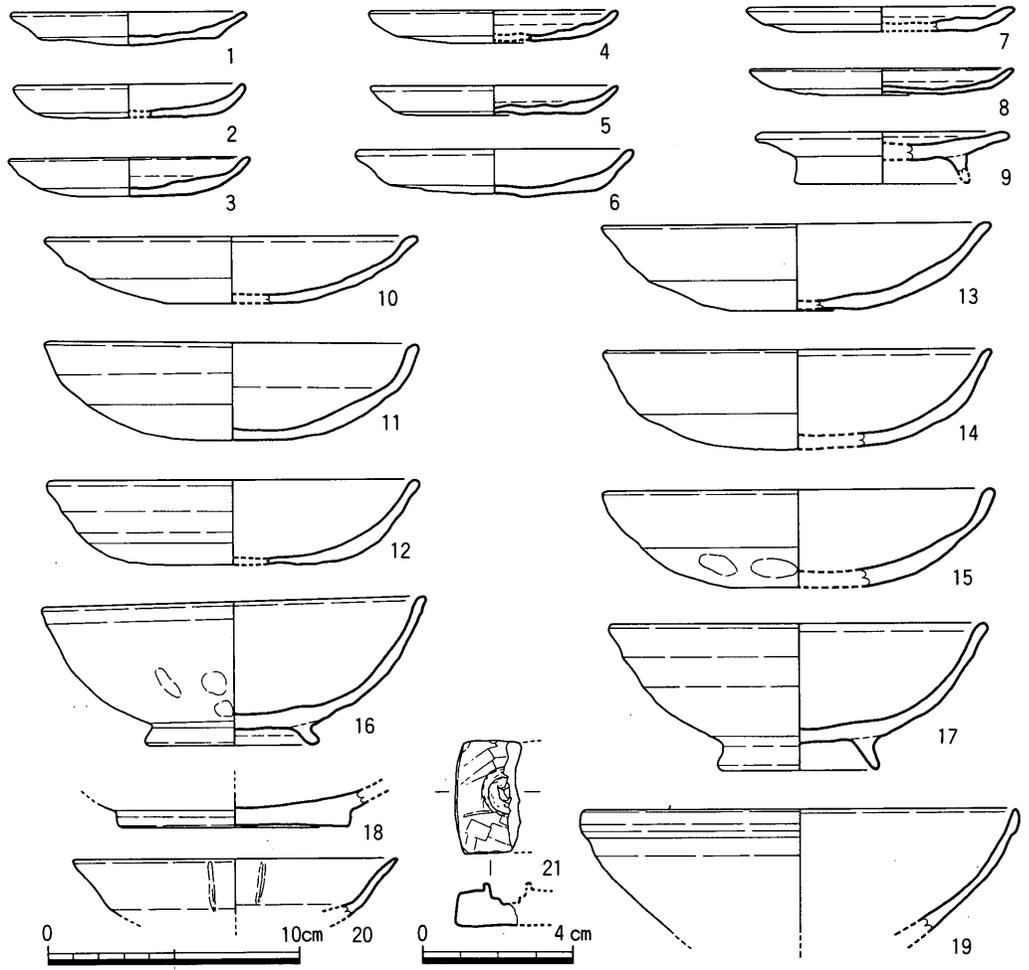


Fig.67 81SD110出土遺物実測図(1/3・1/2)

硯(8) 円面硯である。陸部径9.6cm、海部径14.2cm、最大径15.2cmを測る。脚部には透かし窓があり、その数は10ヶ所に復原される。陸部は使用されて平滑になっているが、墨痕は残らない。

土師器

大蓋3(11) 口径26.8cmを測るかなり扁平な蓋である。内外面ともミガキaを施すが、外面には一部ミガキcもみられる。

皿a(12) 口径16.8cmである。内外面さらに外底部にまでミガキaを施す。

81SD110出土遺物 (Fig.67, Pl.18)

土師器

小皿a(1~8) 口径9.6~10.8cmを測る。底部はヘラ切り。

小皿c(9) 口径10.2cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (10~15) 口径15.0~15.8cmを測る。10は器高2.6cmと浅い。

丸底坏 c (16) 口径15.4cm。内面はミガキbと思われる。外面には指頭圧痕が残る。坏にするには深く、碗 c とも考えられる。

黒色土器

碗 c (17) 口径15.2cm。A類。内面はミガキ c、外面には指頭圧痕が残る。

緑釉陶器

18は高台径9.4cmの底部片である。底部は回転ヘラ削り、見込みにはヘラミガキを施す。全面に淡緑黄色の釉がかかる。胎土は明茶白色で軟質である。碗または皿と考えられる。

白磁

碗 (19) 口径17.6cm。II-1類。外面下半まで横ナデをおこなう。内面と外面下半まで淡緑灰色の透明釉がかかる。

皿 (20) 口径13.0cm。XI-3類。外面から縦方向のヘラ押しをする。見込みに段がある。青色味をおびた淡灰色の透明釉がかかる。

石製品

滑石製品 (21) 方形の台に鐙を持った円形の穴を穿っている。穴は二段になり底は平坦である。径は上段が1.0cm、下段が0.4cmを測る。穴の深さは上端から0.6cmを測る。鐙の高さは0.2cm。現存する一辺は3.0cmで、高さは1.0cmである。

図示していないが他に文字瓦が1点ある。平瓦で「□井」の正字がある。I-8-b類である。

#### 81 SD165出土遺物 (Fig.68, Pl.18)

須恵器

坏 c (1) 高台径7.2cm。底部はヘラ切り後ナデを施す。

土師器

碗 c (2) 高台径7.6cm。細く高い高台がつく。内面はミガキ c を施す。

灰釉陶器

皿 (3) 口径10.0cm、器高3.3cm、高台径5.6cmを測る。口縁端部は小さな玉縁状に丸くなっている。体部外面は回転ヘラ削り後ナデを施す。くすんだ緑白色の釉は内外体部に薄くかかる。見込みには施釉しておらず、また重ね焼きの溶着痕がある。IX~X期のものと考えられる。

#### 81 SD245出土遺物 (Fig.68, Pl.18)

土師器

小皿 a (4~7) 口径10.3~11.0cmを測る。底部はヘラ切り。7は器高2.0cmと高く、坏 a に分類される可能性がある。IX~X期。4~6は黒灰色土出土。

小皿 c (8~10) 口径10.9~11.2cmを測る。底部はヘラ切り。8・10は暗茶色土出土。

坏 a (11) 口径10.7cm。底部はヘラ切り。混入品か。

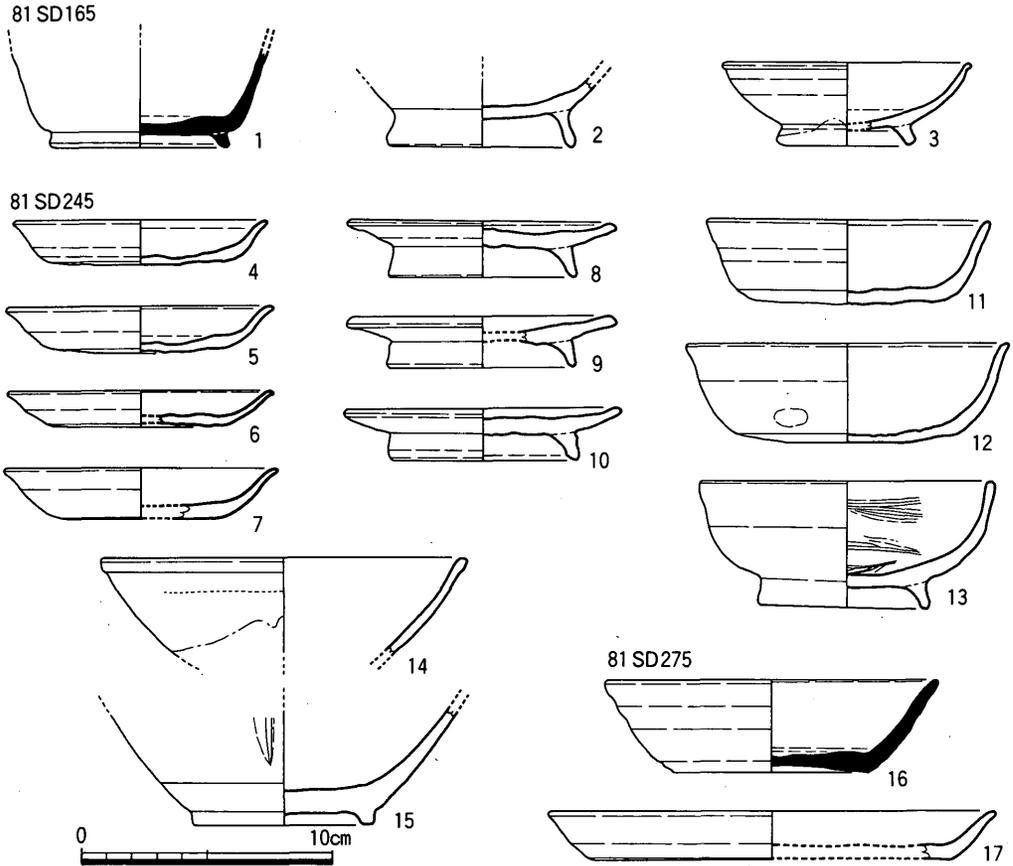


Fig. 68 81 SD165・245・275出土遺物実測図(1/3)

中碗 a (12) 口径13.0cm。底部はヘラ切り。内面はミガキbと思われる。口縁端部はわずかに外反する。暗茶色土出土。

黒色土器

碗 c (13) A類。口径11.9cm、器高4.9cm、高台径6.7cmを測る。内面にミガキcを施す。十分に黒化していない。黒灰色土出土。

越州窯系青磁

碗(14・15) 14はII-2f類。口径14.7cm。化粧土が内面から外面口縁部下までかけてある。施釉は外面体部下までおこなう。黄色味がかかったオリーブ色の半透明釉である。暗茶色土出土。15は高台径7.2cm。I-2b類。体部下位にヘラ削りが残る。体部外面に縦方向のヘラ押さえがはいる。見込みに9ヶ所に復原される白色の目土が残る。高台にも目跡がある。釉は褐色味がかかった淡オリーブ色が全面にかかる。黒灰色土出土。

81 SD275出土遺物 (Fig.68)

須恵器

坏 a (16) 口径13.4cm、器高3.6cm、底部径7.8cmを測る。底部はヘラ切り、他はナデ調整である。

土師器

皿 a (17) 口径18.0cm、器高1.9cm、底部径14.8cmを測る。体部外面にはミガキaが施されていると考えられる。他は調整不明。

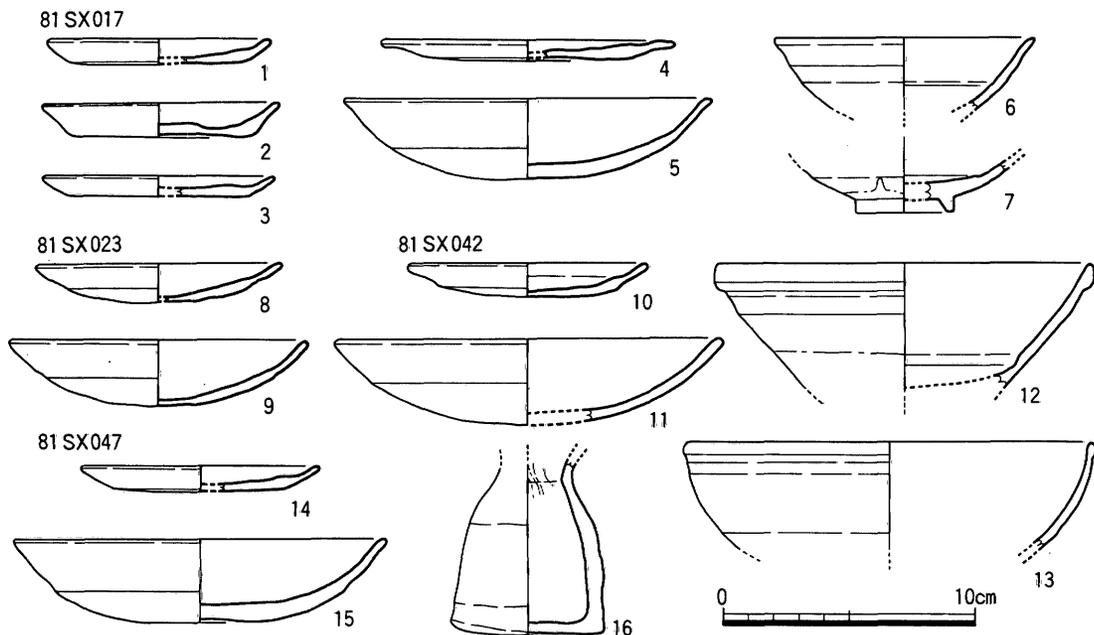


Fig. 69 81 SX017・023・042・047出土遺物実測図(1/3)

81 SX017出土遺物 (Fig.69)

土師器

小皿 a (1~3) 口径9.0~9.6cm。底部は1・2はヘラ切り、3は糸切り。2の内面には煤様のものが付着する。

小皿 a 2 (4) 口径11.8cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (5) 口径14.8cm。内面はミガキbを施す。

白磁

小椀(7) 高台径4.0cm。II類。釉は青色味のある乳白色の不透明のものが高台近くまでかかる。化粧土がかけられていると思われる。見込みに段がある。

皿(6) 口径10.4cm。II-1 a類。外面は口縁近くまで回転ヘラ削りが残る。見込みに浅い段がある。釉は灰色がかった透明釉。

81SX023出土遺物 (Fig.69)

土師器

小皿 a (8) 口径10.0cm。底部はヘラ切り。

中丸底坏 a (9) 口径12.0cm。内面はミガキ b。

81SX042出土遺物 (Fig.69)

土師器

小皿 a (10) 口径9.6cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (11) 口径15.6cm。内面にミガキ b を施す。

白磁

椀 (12・13) 12は口径14.8cm。IV-1 b 類。大きな玉縁の下まで回転ヘラ削りが残る。釉は黄色味がかかった透明釉。13は口径16.5cm。II-1 類。釉は色青味がかかった乳白色である。

81SX047出土遺物

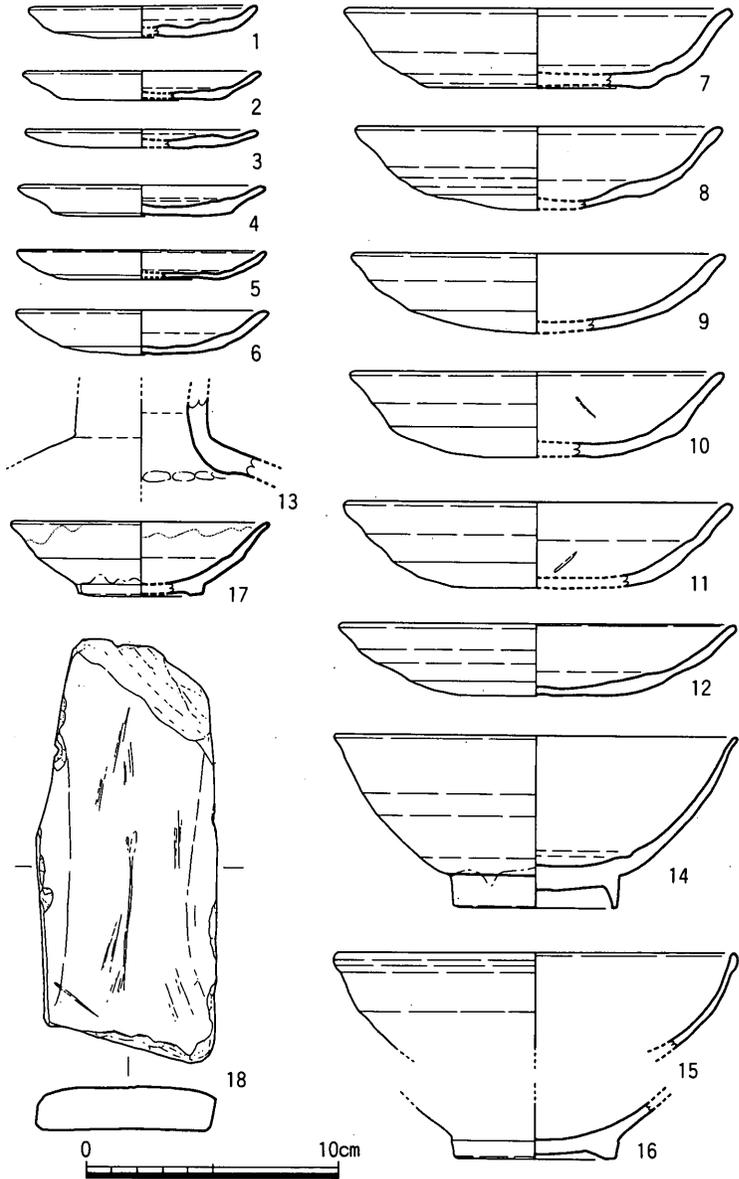
(Fig.69)

土師器

小皿 a (14) 口径9.6cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (15) 口径15.0cm。

小壺 (16) 底部径6.2cm。体部は横ナデ、底部には板状圧痕が残る。



81SX053出土遺物

(Fig.70)

Fig. 70 81SX053出土遺物実測図 (1/3)

## 土師器

小皿 a (1～6) 口径9.2～10.2cm。底部はすべてヘラ切り。

坏 a (7・8) 7が口径15.4cm、8が14.8cmを測る。底部はヘラ切り。体部に屈曲がある。8には強い板状圧痕があり、凹凸がはげしい。

丸底坏 a (9～12) 口径15.0～16.0cmを測る。いずれも内面にはミガキ b を施す。

## 緑釉陶器

壺(13) 頸部の破片で、全体の器形は不明。胎土は茶色味のある灰色を呈し硬質。釉は茶色味の強い緑色をしている。

## 白磁

椀(14～16) 14は口径16.2cm、器高6.7cm、高台径6.6cmを測る。V-1 a類。外面は口縁直下まで回転ヘラ削りが残る。見込みには段がつく。高台以下は露胎。15は口径16.2cm。II-1類。釉は青色味のある透明釉。16は高台径6.5cm。IV-1 a類。

皿(17) 口径10.4cm、器高2.9cm、高台径5.0cm。II-2 a類。外面屈曲部以下には回転ヘラ削りが残る。内面見込みには段がある。口縁部付近には釉だれがある。乳白色の半透明釉である。

## 石製品

砥石(18) 片岩製の砥石片である。4面とも加工してあるが、使用痕は1面に顕著である。現存長16.8cm、幅7.2cm、厚さ1.75cmである。

## 81 SX059出土遺物 (Fig.71)

### 土師器

小皿 a (1・2) 口径は1が10.4cm、2が10.6cmを測る。底部はヘラ切り。

小皿 a 2 (3) 口径11.8cm。底部はヘラ切り。

### 土師質土器

火舎(4) 口径24.5cmを測る。内面口縁付近に突起が貼り付けてある。他の遺物からみて混入の可能性も考えられる。

## 白磁

椀(5) 高台径6.8cm。XI×V×VI類。VI類の可能性が強い。高台外面まで施釉している。釉は青色味のある乳白色を呈し半透明で光沢がある。

## 越州窯系青磁

壺(6) 底部径5.4cmを測る。外面体部最下位は回転ヘラ削り、他はナデを施す。目跡が外面底部と体部最下位に5ヶ所つく。全面に淡緑灰色の釉がかかる。

## 81 SX069出土遺物 (Fig.71、Pl.19)

### 土師器

小皿 a (7) 口径10.2cm。底部はヘラ切り。

### 越州窯系青磁

小蓋(8) 小壺の蓋と考えられる。口径3.0cm、最大径4.8cm、器高2.3cmを測る。内面天井部は露胎。口縁端部の平坦面は釉をかきとる。目跡が3ないし4ヶ所あると考えられる。釉は明るいオリーブ色を呈し柔らかな光沢がある。

#### 81 SX081出土遺物

(Fig.71)

須恵器

小壺(9) 口径9.8cm、最大径11.7cm。口縁端部は尖る。

土師器

皿a(10) 口径13.2cm。底部はヘラ切り。体部は大きく開く。

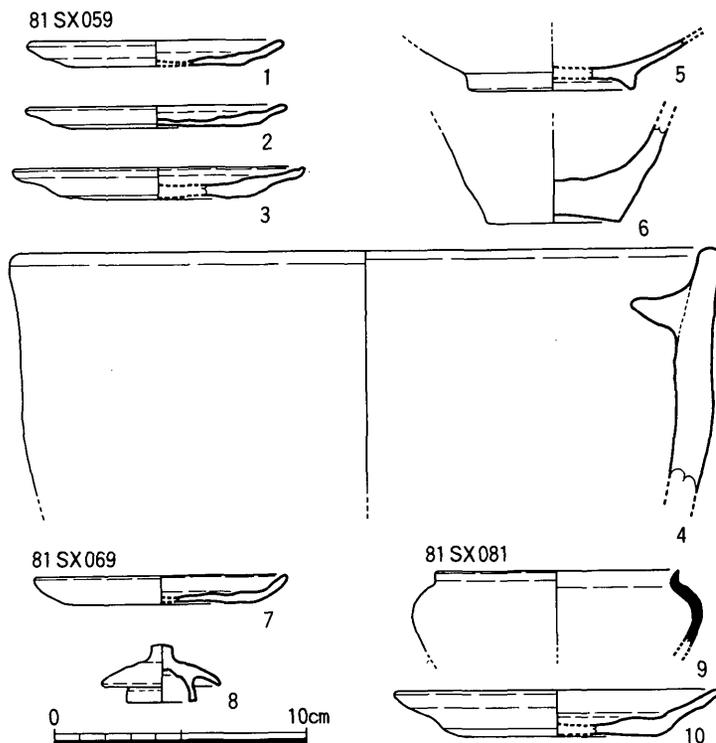


Fig.71 81 SX059・069・081出土遺物実測図(1/3)

#### 81 SX091出土遺物 (Fig.72)

須恵器

坏a(1) 口径14.2cm、器高3.3cm、底部径11.3cm。底部はヘラ切り。

坏c(2) 高台径9.1cm。底部はヘラ切り。内底部に焼成後線刻をおこなう。

椀(3) 口径18.6cm。

壺e(4) 肩部に小さな突帯をつける。二重口縁をもつと考えられる。

#### 81 SX102出土遺物 (Fig.73)

土師器

小皿a(1~3) 口径8.8~10.4cm。底部はヘラ切り。

丸底坏a(4~7) 口径14.8~15.9cm。

### 越州窯系青磁

皿(8) 高台径6.8cm。Ⅲ類。輪高台は貼り付けと思われる。見込みに毛彫りがある。全面に施釉され、淡いオリーブ色で光沢がある透明釉である。

#### 81 SX103出土遺物 (Fig.73)

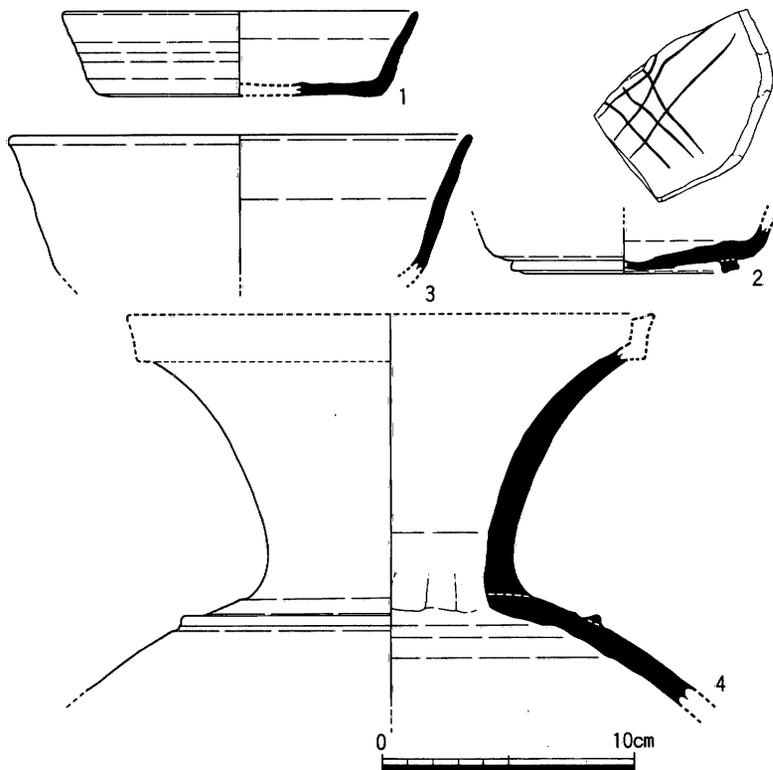


Fig. 72 81 SX091出土遺物実測図(1/3)

土師器  
小皿 a (9) 口径  
9.8cm。底部はヘラ  
切り。

イスラム陶器  
10は6×4.5cmほ  
どの小破片である。2  
条の緩い沈線がはい  
る。胎土は軟質で黄  
白色を呈する。釉は  
0.1cmの厚さで、外  
面は深い青緑色、内  
面は濁った空色をし  
ている。大壺の胴部  
と考えられる。

81 SX104出土遺物  
(Fig.73)

土師器

丸底坏 a (11) 口径14.2cm。

灰釉陶器

碗 (12) 高台径7.2cm。底部は糸切りで高台を貼り付けている。体部下半までまだらに釉がかかり、灰白色を呈する。見込みは使用のため平滑になっている。また赤色顔料が付着している。他に図示していないが、近世までの遺物を含んでいる。

81 SX117出土遺物 (Fig.73)

須恵器

坏 c (13) 口径12.6cm、器高4.7cm、高台径8.8cm。底部はヘラ切り後、細いハケ目状の痕が残る。

壺 b (14) 高台径11.0cm、最大径18.8cmを測る。底部はヘラ切り後ナデ、外面体部下半は回転ヘラ削り、他は横ナデを施す。

81 SX129出土遺物 (Fig.74、Pl.19)

土師器

1は托状の製品と考えられる。最大径は16.2cmである。皿状に成形したものに外面屈曲部と内面に円筒形のをを接合していた痕跡が残る。

81 SX150出土

遺物 (Fig.74)

須恵器

皿 a (2) 口径17.6cm、器高1.7cm、底部径14.1cmを測る。底部はヘラ切りと考えられる。

壺 (3) 底部径6.7cm、最大径10.8cmを測る。肩部が張り体部との境で屈曲し、小さな突帯がめぐる。体部は手持ちのヘラ削りを行い、その後丁寧にナデをおこなう。底部はナデ調整。内面底部には叩きの当て具痕がある。古墳時代の遺物か。

緑釉陶器

椀 (4) 口径21.0cm。内面はミガキaと考えられる。外面は体部中位まで回転ヘラ削りが残る。胎土は黄白色で軟質。釉は淡い黄緑色で光沢がある。

土製品

紡錘車 (5) 直径7.2cmに復原される。中央の穴は直径1.4cmと推定される。厚さは端部が0.8cm、中心が0.5cmである。片面が窪んでいる。

81SX175出土遺物 (Fig.74)

土師器

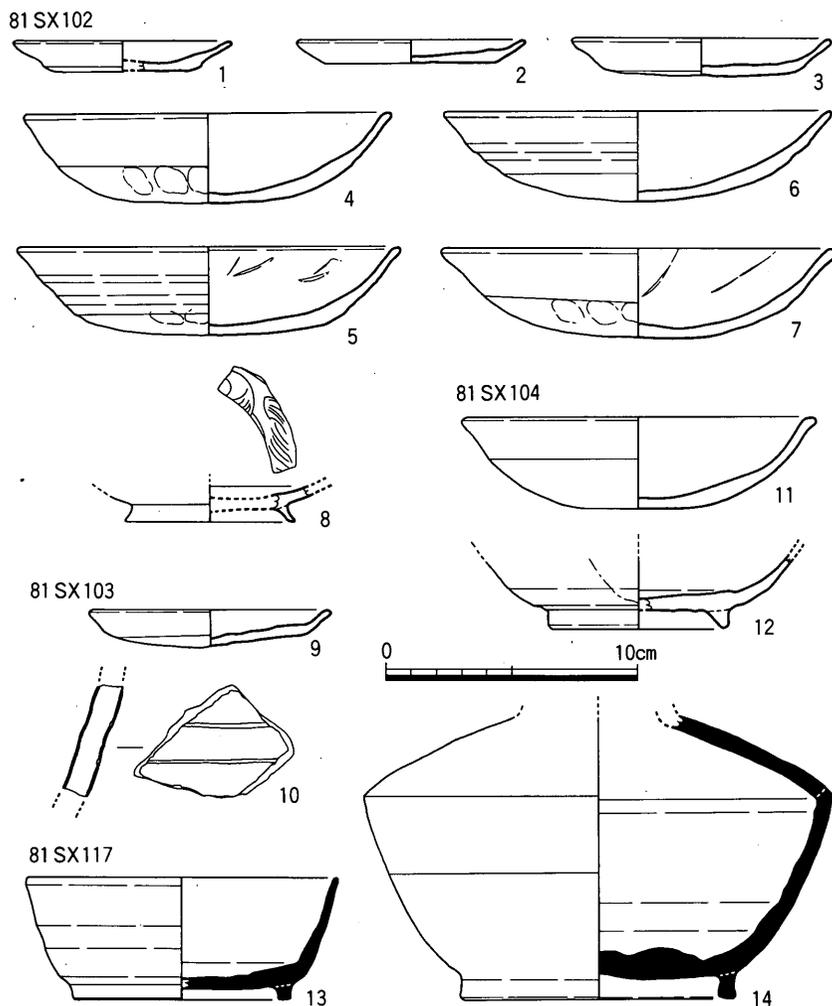


Fig. 73 81 SX102・103・104・117出土遺物実測図(1/3)

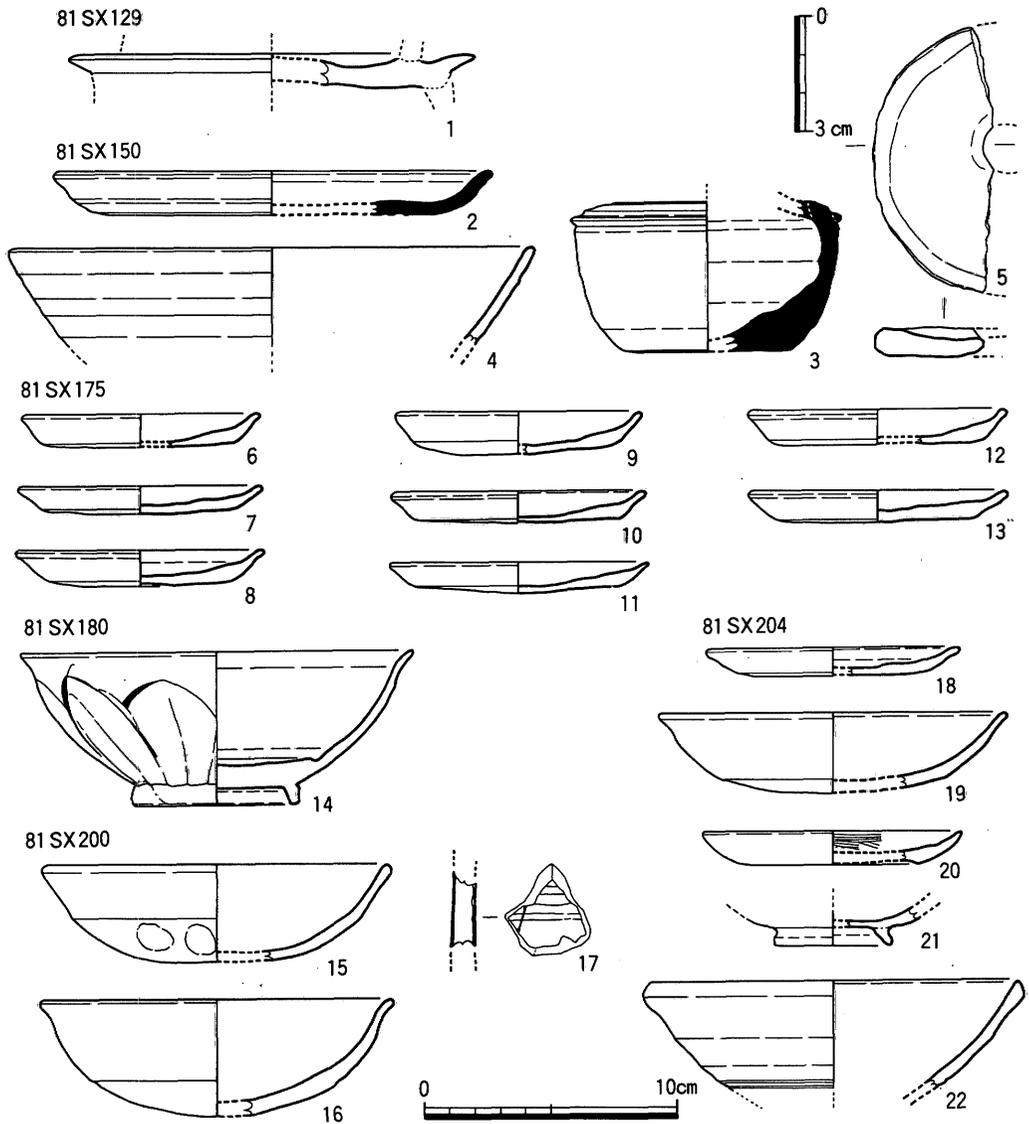


Fig. 74 81 SX129・150・175・180・200・204出土遺物実測図(1/3・1/2)

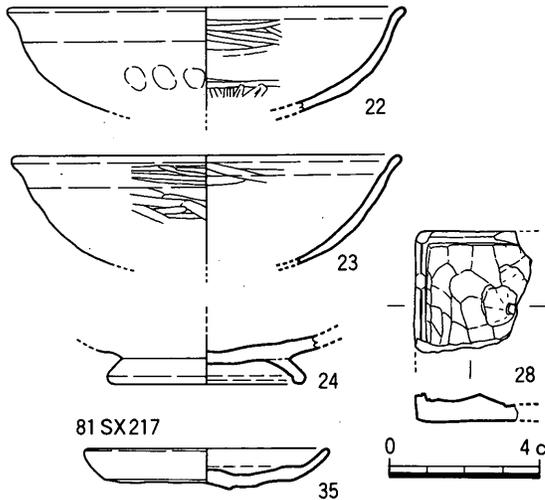
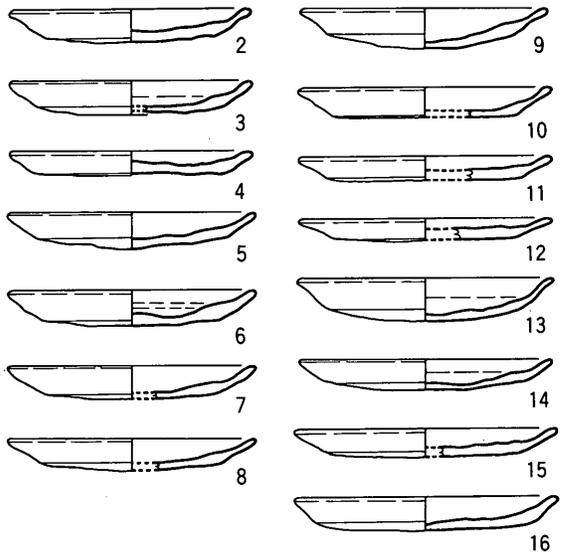
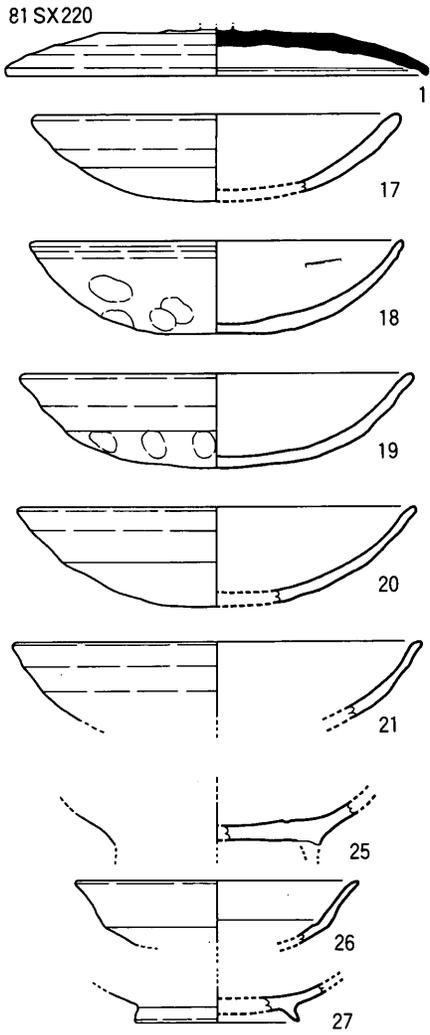
小皿 a (6~13) 口径9.6~10.4cmを測る。底部はすべてヘラ切り。

81 SX180出土遺物 (Fig.74, Pl.19)

白磁

碗(14) 口径15.7cm、器高6.0cm、高台径6.7cmを測る。XI-4類。外面体部口縁部下から高台際にかけて蓮弁を11枚削りだしている。高台は内側が少し内湾し、外面は直立する。畳付外側は面取りがしてある。見込みにはやや大きな段がある。施釉は高台と底部以外におこなう。釉は黄色味をおびた透明釉で光沢がある。

81 SX220



81 SX217



81 SX212

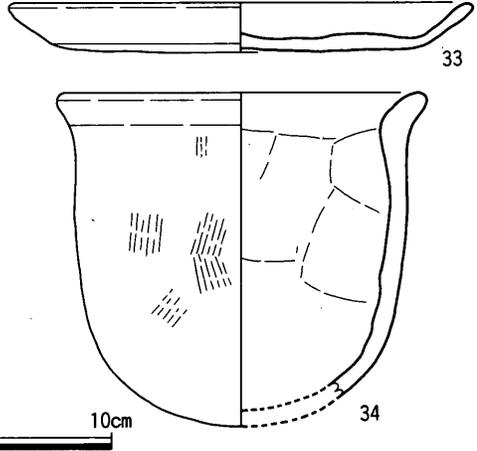
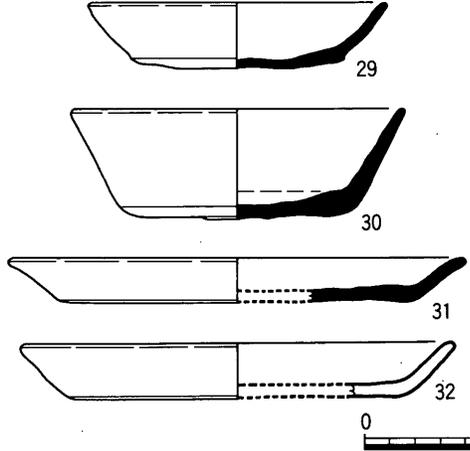


Fig. 75 81 SX212·217·220出土遺物実測図(1/3·1/2)

**81 SX200出土遺物 (Fig.74)**

土師器

丸底坏 a (15・16) 15は口径14.0cm、16は14.1cmを測る。どちらもやや深く、16は体部は緩くのび、口縁部は外反する。

イスラム陶器

17は大壺体部の破片と考えられる。外面に3条の凹線が認められる。これに直交するようにヘラ描きの一部と考えられるものがみられる。胎土は黄白色できめ細かく軟質である。釉の厚さ0.1cm程で外面は深い青緑色、内面は空色を呈する。

**81 SX204出土遺物 (Fig.74)**

土師器

小皿 a (18) 口径10.2cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (19) 口径14.0cm。内面はミガキ b。

黒色土器

小皿 a (20) B類。口径10.4cm、器高1.3cm、底部径7.4cmを測る。底部はヘラ切り。他はミガキ c を施す。

椀 c (21) B類。高台径4.7cm。内面はミガキ c が施される。内底部にはミガキ b の痕跡と考えられる放射状の傷が残る。

白磁

椀 (22) IV類。口径15.2cmを測る。少し緑色ががる透明釉で光沢がある。外面体部上半まで回転ヘラ削りが残る。

**81 SX212出土遺物 (Fig.75)**

須恵器

坏 a (29・30) 29は口径12.0cm、器高2.6cm、底部径8.6cm。底部はヘラ切り。30は口径13.4cm、器高4.3cm、底部径7.2cm。底部はヘラ切り。

皿 a (31) 31は口径18.4cm、器高1.8cm、底部径13.4cm。底部はヘラ切り後ナデ。

土師器

皿 a (32・33) 32は口径17.4cm、器高2.2cm、底部径13.7cm。底部はヘラ切り。33は口径18.6cm、器高2.0cm、底部径15.0cm。底部はヘラ切り。

小甕 a (34) 口径14.8cm。口縁は緩く外反する。外面はハケ目が残る。内面はヘラ削りを施す。

**81 SX217出土遺物 (Fig.75)**

土師器

小皿 a (35) 口径9.9cm。底部はヘラ切り。

## 81 SX220出土遺物 (Fig.75)

### 須恵器

蓋c 3 (1) 口径17.6cm。天井部はヘラ切り後ナデをおこなう。つまみは剥離している。内面はナデ調整で平滑になっている。

### 土師器

小皿a (2~16) 口径9.8~10.6cmを測る。底部はすべてヘラ切り。

丸底坏a (17~21) 口径14.8~16.4cm。

### 黒色土器

椀(22・23) 22は口径16.0cm。A類。内面にミガキcを施す。外面には指頭圧痕が残る。23は口径15.6cm。B類。内外ともミガキcを施す。

椀c (24) 高台径8.0cm。底部はヘラ切りで内面にはミガキcを施す。B類。

### 緑釉陶器

皿(25) 高台部を欠損する底部片である。見込みに段がある。胎土は淡茶灰色で軟質。釉はほとんど剥落するが、濃緑色で光沢があるものが部分的に残る。

### 白磁

皿(26) 口径11.4cmを測る。II-1a類。少し緑色味のある透明釉がかかる。

### 越州窯系青磁

皿(27) 高台径6.6cmを測る。III類。外底部には目跡がある。釉は緑灰色を呈する。坏になる可能性もある。

### 石製品

滑石製品(28) 現存長3.2cm、現存幅3.1cm、高さ1.25cmを測る。周囲に段を設け、その上に浅い沈線をめぐらす。段の下は周囲を1.5cm程平坦にし、中心にむかい、抉りをいれている。

## 81 SX225出土遺物 (Fig.76・77)

### 須恵器

甕(1) 口径17.0cm、最大径36cmを測る。なで肩で長胴と思われる。外面は平行叩き、内面は叩きの当て具痕を丁寧にナデ消している。

### 土師器

小皿a (2~13) 口径9.9~10.6cm。底部はすべてヘラ切り。

小皿c (22) 口径11.1cm。大きく開いた皿部に太い高台がつく。

丸底坏a (14~21) 口径15.3~15.8cm。内面にミガキb、外面には押出しの指頭圧痕がつく。

丸底坏c (24) 口径15.0cm。内面はミガキb、外面下半には指頭圧痕がつく。さらに最下部には高台接合の痕跡が残る。

坏(26) 口径17.0cm。内外面ともミガキcを施す。口縁端部は上方に尖る。

椀c (25) 高台径7.7cm。内面はミガキc。

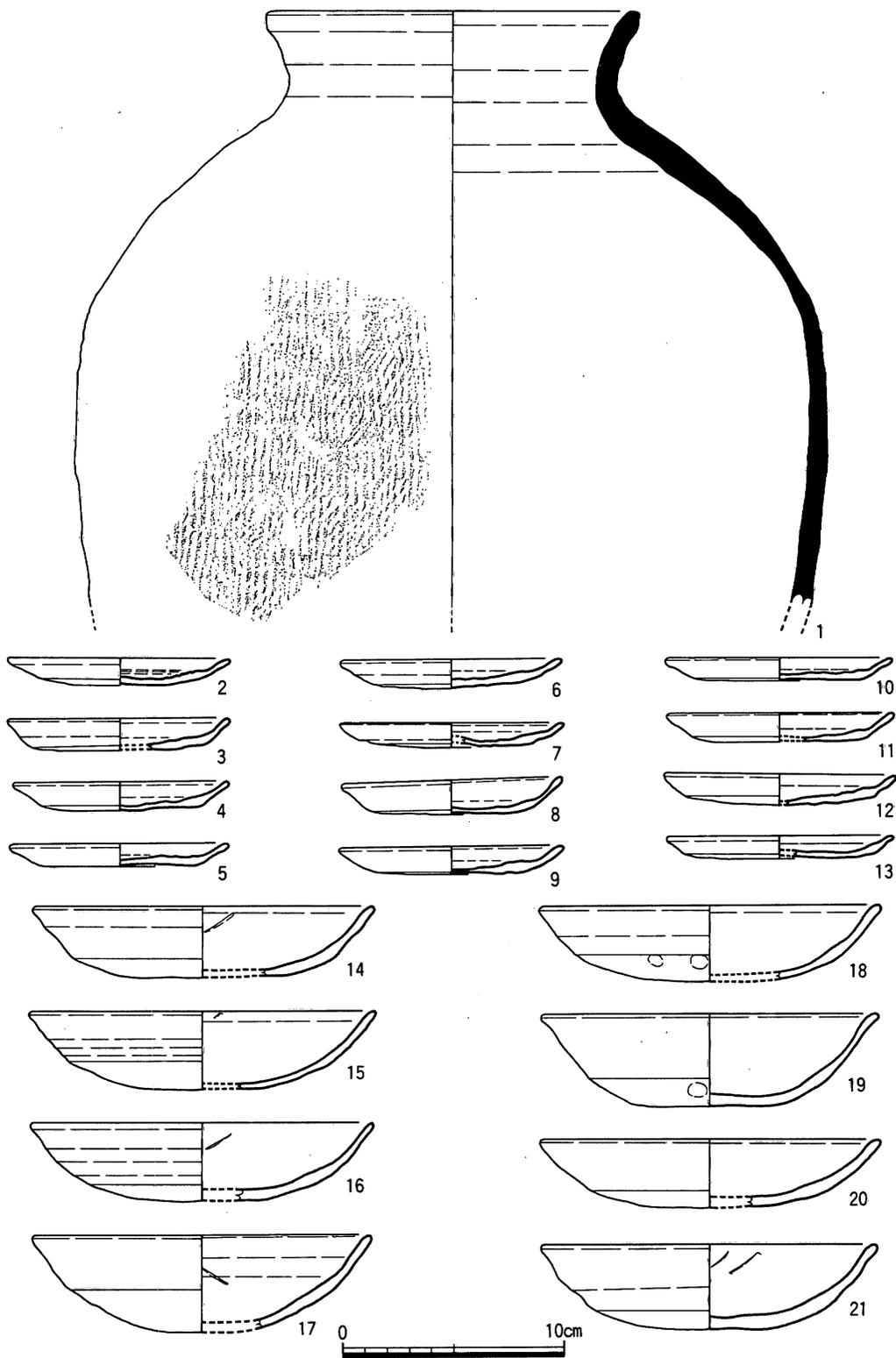


Fig. 76 81 SX 225出土遺物実測図(1)(1/3)

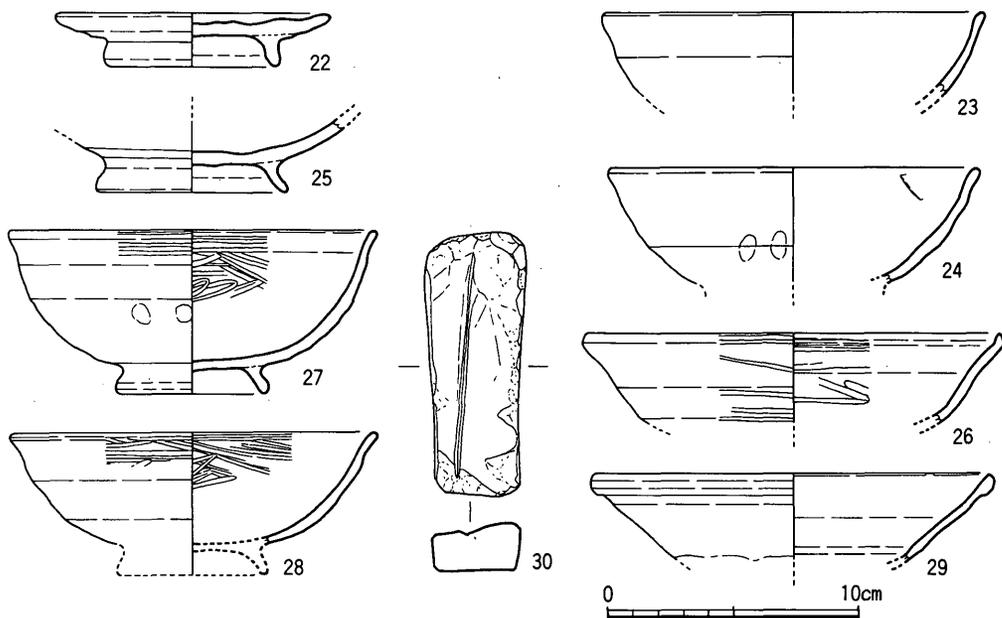


Fig.77 81SX225出土遺物実測図(2)(1/3)

碗(23) 口径15.4cm。内面はナデを施す。

黒色土器

碗c(27・28) ともにB類。27は口径14.8cm、器高6.3cm、高台径6.2cmをはかる。内面と体部外面中位までミガキcを施す。28は口径14.8cm。内面と体部外面下半までミガキcをおこなう。

白磁

碗(29) 口径16.2cm。IV-1b類。口縁部に大きな玉縁をもつ。施釉は内面と外面体部下半までおこなう。釉は淡灰緑色をおびた透明釉で光沢がある。XI-1類の可能性もあるか。

石製品

砥石(30) 砂岩製。3面を使用しており、1面は割れ面である。幅広の使用面には幅0.2cm前後の条痕がつく。

#### 81SX230出土遺物(原色図版3)

図示していないがイスラム陶器の小片が出土した。大型の壺片と考えられる。凹線が2条認められる。厚さ1cm程で淡黄灰色の軟質の胎土である。濃青緑色の半透明釉がかかる。

#### 81SX243出土遺物(Fig.78)

土師器

中碗a(1) 口径13.4cm。

黒色土器

碗c(2) 高台径7.1cm。内外面ともミガキcを施す。とくに外面は高台際までおこなう。外

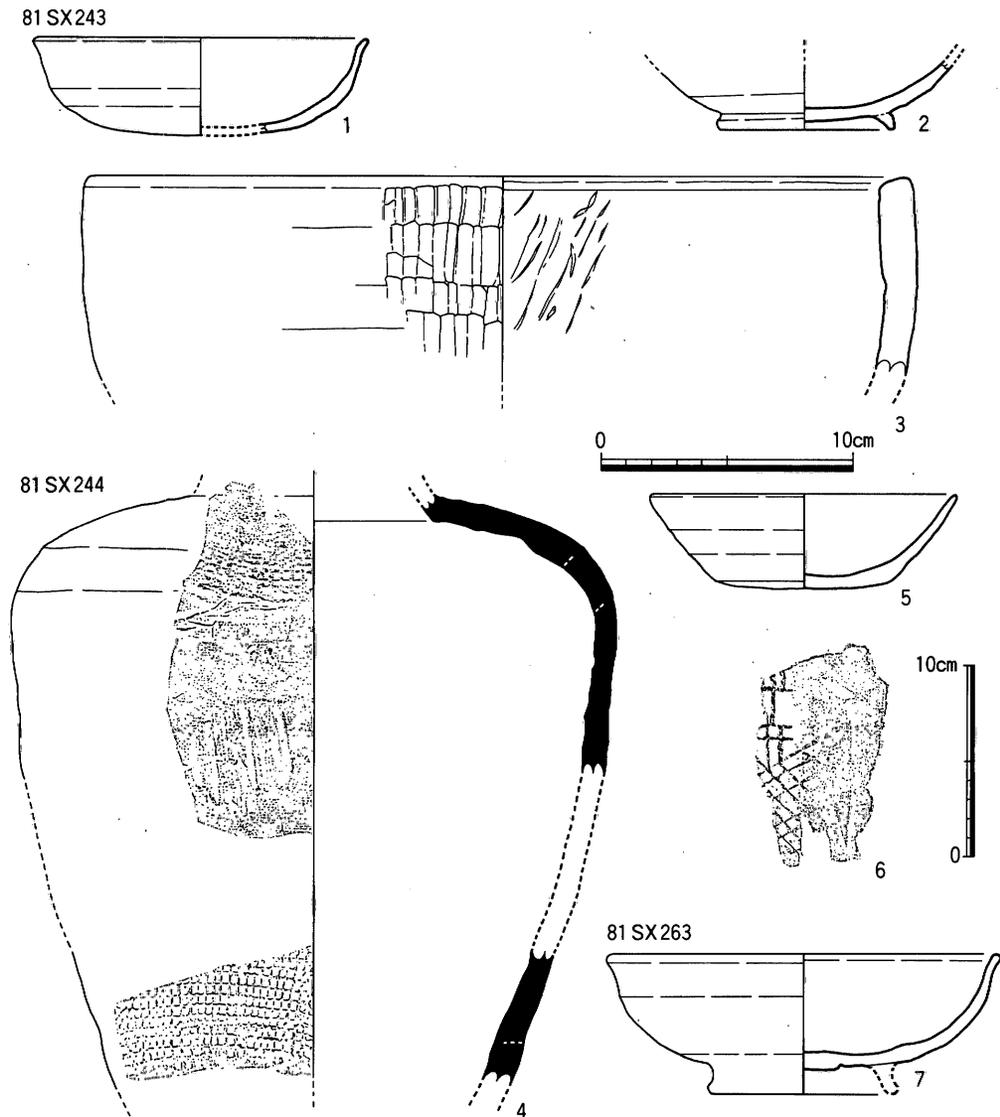


Fig.78 81SX243・244・263出土遺物実測図(1/3・1/4)

底部は横ナデ。

石製品

石鍋(3) 滑石製。口径32.8cmと推定される。外面は規則的な鑿痕があり、内面には平滑にしているが斜めの傷跡が残っている。

81SX244出土遺物 (Fig.78、Pl.19)

須恵器

壺f(4) 最大径24.2cm。長胴で、二重口縁になると考えられる。外面は格子叩きの後、ナ

ナデ消し、部分的に叩き文様を残す。内面は叩きの当て具痕を丁寧にナデ消している。内面には全面に白色の石灰状のものが付着してる。壺の内容物であった可能性が高い。

土師器

坏 a(5) 口径12.4cm。底部はヘラ切り。

瓦

平瓦(6) I-8-b類。凸面に「平井」の文字が正字ではいる。凹面は布目がつく。

### 81 SX263出土遺物 (Fig.78)

土師器

碗 c(7) 口径15.8cm。丸い体部に少し外反する口縁がつく。調整は内外面ともナデ。底部には高台が剥離した痕が残る。

### 茶褐色土出土遺物 (Fig.79~82)

須恵器

坏 c(1) 口径13.9cm、器高3.8cm、高台径8.9cm。底部はヘラ切り。体部は直立にちかい。

高台付浅鉢(2) 口径17.4cm、器高3.2cm、高台径10.8cm。底部はヘラ切り。他はナデを施す。体部は開き、口縁部で屈曲する。口縁端部は平坦になる。

鉢 b(4) 口径28.2cm。外面は口縁部から下を回転ヘラ削りをおこなう。内面はナデ。口縁端部は平坦でやや窪む。

鉢(48・49・51・52) 48・49は口縁部である。ナデ調整。51は底部径8.5cmを測る。糸切り。内面は使用で平滑になっている。52は底部径11.5cm。底部はヘラ切りと考えられる。体部は内外ともナデを施す。すべて篠窯系と考えられる。

壺(3) 底部径6.2cm。最大径9.6cm。底部はナデ、体部最下部はヘラ削り、他はナデをおこなう。外底部に「+」字と思われるヘラ記号がある。

土師器

小皿 a(5~27・77) 7は特殊な形態を示す。口径6.6cm。底部は糸切りと思われる。8~27・77は口径8.6~11.5cmを測る。すべてヘラ切り。6はヘラ切り後指押さえをおこなう。

坏 a(29・30) 29は口径12.8cm。底部はヘラ切り。器壁は薄い。口縁部は少し外反しながら肥厚する。30は底部径5.8cm。底部は高台状につくられ、ヘラ切りされる。搬入品か。

中丸底坏 a(35) 口径12.8cm。内面はミガキb。口縁部付近に油煙が付着する。

丸底坏 a(36) 口径14.8cm。外面には指頭圧痕が残る。

皿 b(33・34) 33は口径13.0cm。体部下半から底部は手持ちのヘラ削り。他はナデ。器壁はやや厚く、底部は平坦である。34は口径16.0cm。口縁部より下は手持ちのヘラ削りをおこなう。

碗 c(31・32) 31は、口径11.8cm。底部はヘラ切り。直線的に開く体部の下に高台が接続する。32は高台径9.0cm。体部外面と内面はミガキaと考えられる。底部はヘラ切り後ナデ。外

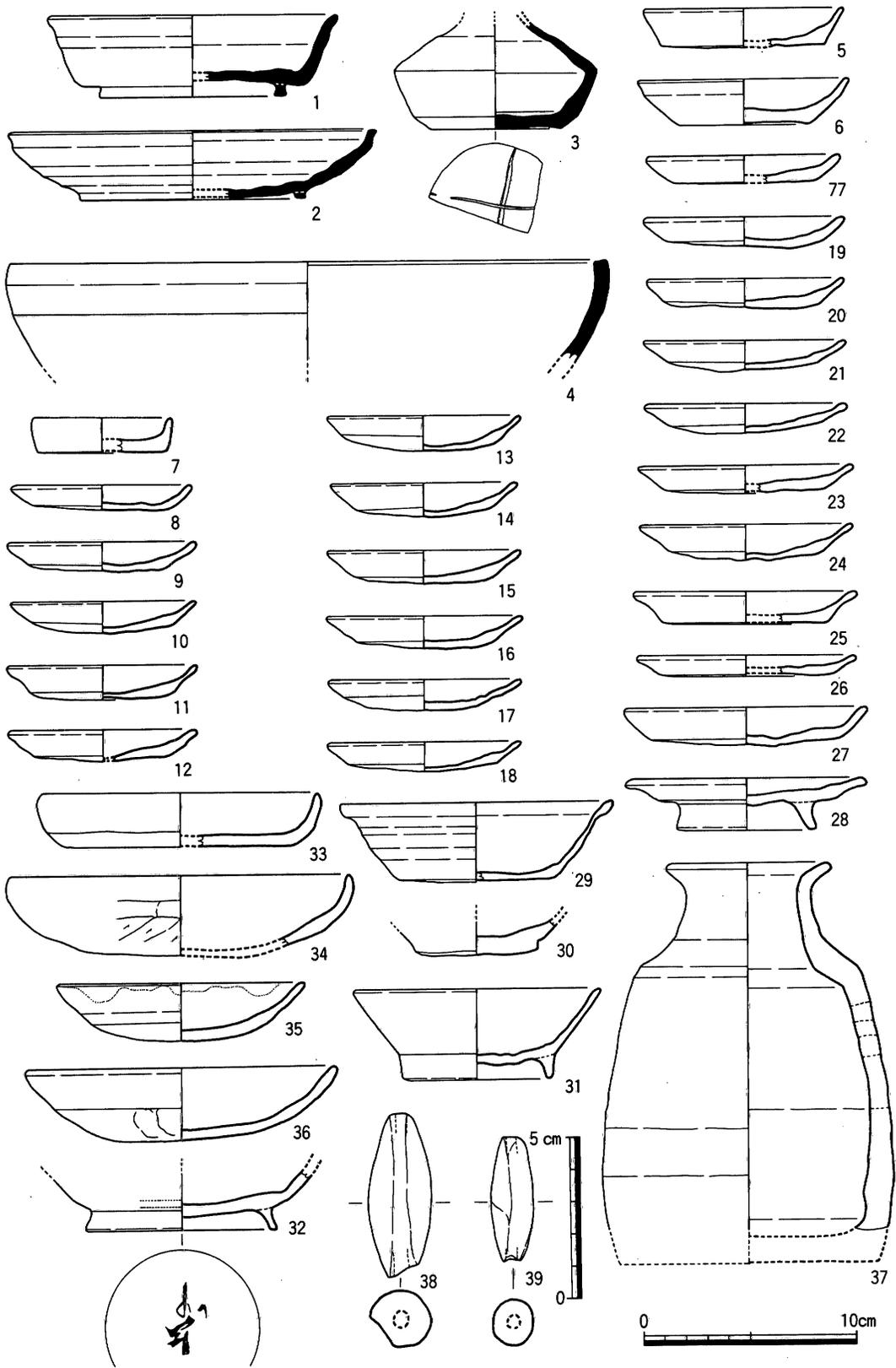


Fig. 79 茶褐色土出土遺物実測図(1)(1/3・1/2)

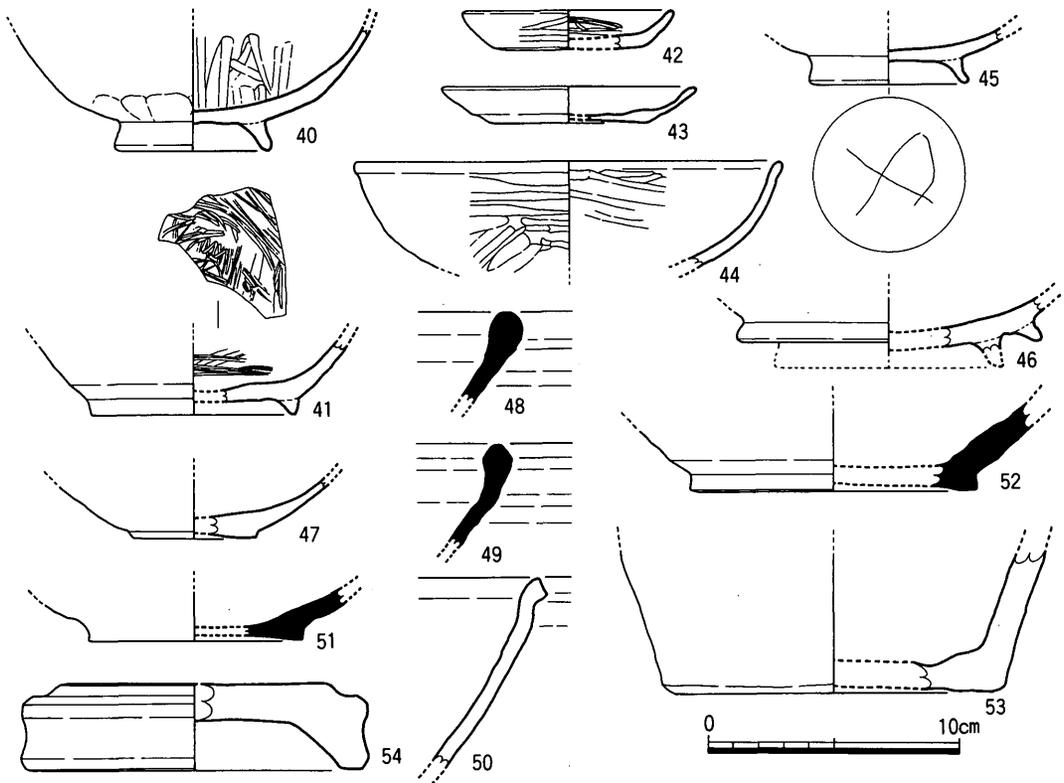


Fig. 80 茶褐色土出土遺物実測図(2)(1/3)

底部に墨書があるが、判読できない。

壺(37) 口径7.9cm。内外ともナデ。底部は粘土の接合部で剥離している。

#### 黒色土器

小皿 a (42・43) 42は口径8.6cm、器高1.5cm、底部径6.0cmを測る。調整はすべてミガキc。  
43は口径10.2cm、器高1.4cm、底部径6.2cmを測る。底部は回転ヘラ削り。他はミガキを施す。  
どちらもB類。

碗 c (40・41・45) 40は高台径6.3cm。内面に粗いミガキcをおこなう。外面高台際には指頭  
圧痕が残る。A類。41は高台径8.2cm。底部はナデ、外面体部は回転ヘラ削り、内面には細かい  
ミガキcをおこなう。A類。45は高台径6.4cm。内外面ともミガキcを施す。外底部にはヘラ記号  
風の文様がつく。B類。

碗(44) 口径17.2cm。全体にミガキcを施す。B類。

鐙付碗(46) 鐙部径12.4cmを測る。内面、外面鐙部先端まではミガキc、以下は横ナデをおこ  
なう。

#### 須恵質土器

碗(47) 底部径5.0cm。底部は糸切り。内外ともナデ。東播系と考えられる。

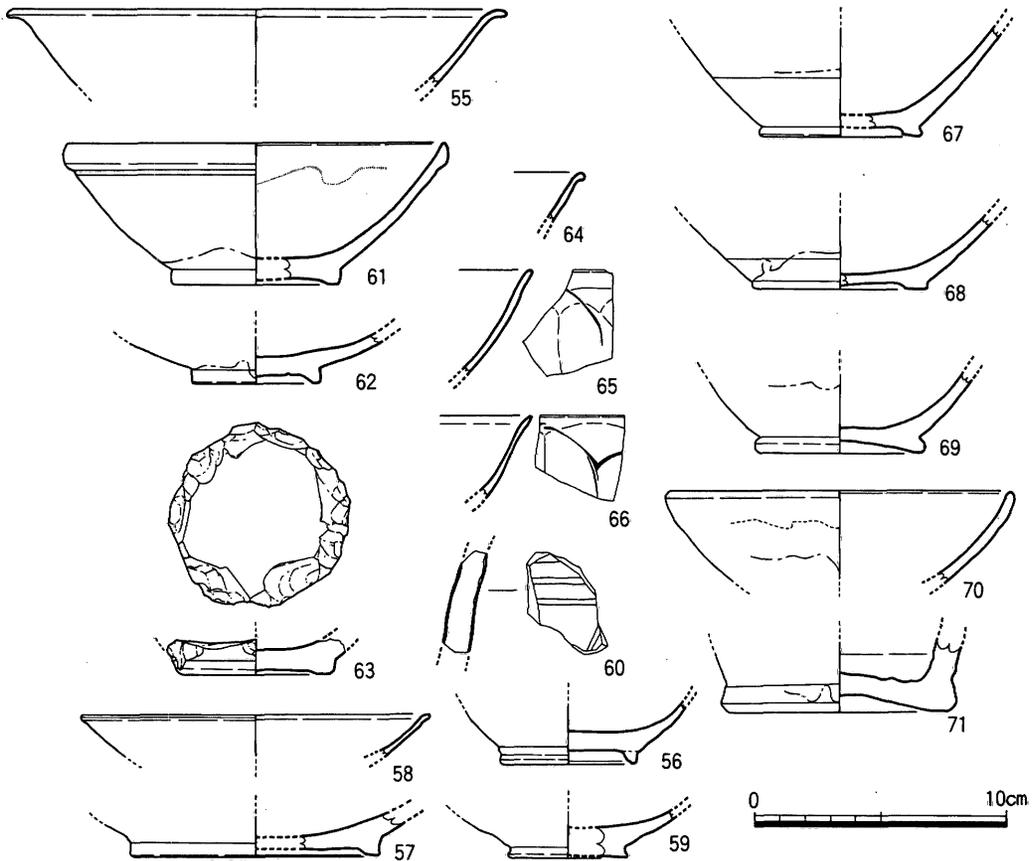


Fig. 81 茶褐色土出土遺物実測図(3)(1/3)

鉢(50) 口縁部の破片である。調整はナデ。東播系と考えられる。

53は底部径12.7cm。調整はすべてナデ。鉢の底部か。

#### 瓦質土器

54は形態は円面硯に似るが、海にあたる部分が機能を果たさず、硯としては使用できないと考える。上部の口径10.9cm。最大径は肩部と底部直上にあり、14.0cmを測る。上面と凹面はミガキcが施される。

#### 灰釉陶器

碗(55) 口径20.0cm。緩く開く体部に外反する口縁部がつく。調整は横ナデ。釉は少し緑色味があった灰色で、柔らかい光沢がある。

#### 緑釉陶器

碗(56・57) 56は高台径5.4cm。丸い体部をもつ。底部は糸切り。体部はナデ。高台は貼り付けである。胎土は灰白色で軟質。濃緑色をした釉が薄くかかっている。近江系と考えられる。57は高台径10.0cm。底部は回転ヘラ削りを施し、体部は横ナデ。削り出しの高台をもつ。胎土

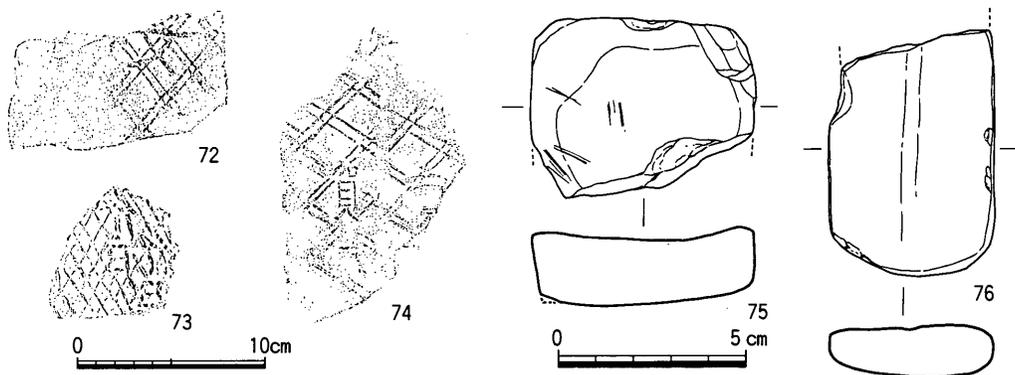


Fig. 82 茶褐色土出土遺物実測図(4)(1/4・1/2)

は明茶灰色で軟質。釉は淡緑黄色である。

皿(58) 口径14.0cm。調整は横ナデ。胎土は明灰色で硬質。釉は緑黄色を呈する。

耳皿(59) 高台径4.8cm。口縁部を欠損するが、体部のゆがみから耳皿と考えられる。底部は糸切り。体部外面はナデ、内面はミガキと思われる。胎土は茶色味のある灰色で硬質。釉は茶色味をおびた緑色である。

白磁

椀(61・63~66) 61は口径15.4cm、器高5.5cm、高台径6.6cmを測る。IV-1 a類。外面は口縁直下まで回転ヘラ削りが残る。青色味のある半透明釉がかかる。63は高台径6.4cm。IV類と考えられる。体部を打ち欠き円盤状に二次加工をおこなう。64はXI-3類。65・66はXI-4類で蓮弁を削りだしている。

皿(62) XI類。高台径5.2cm。体部外面は回転ヘラ削り。施釉は一部高台までおよぶ。青白色の半透明釉である。底部にはハマの痕が残る。

越州窯系青磁

椀(67~69) 67・68はI-1b類。高台と見込みに目跡がある。外面体部下半は回転ヘラ削りを施す。69は高台径6.6cm。II-2類である。円盤状の高台をもつ。見込みに目跡が残る。

壺(71) 底部径8.8cm。外面体部は回転ヘラ削り。底部は上げ底ぎみになっている。釉はわずかに黄色味のある灰白色で不透明。胎土は赤褐色を呈し、白色の細かい粒子を多く含む。磁器質と言うより陶器質に焼けていると思われる。壺で掲げたが水注の可能性もある。また、越州窯系青磁でない可能性もある。

長沙窯系青磁

椀(70) 口径14.0cmを測る。外面体部下半は回転ヘラ削りを施す。外面口縁下まで厚い化粧土がかかる。釉は外面体部中位までかかる。釉色は緑灰色の透明釉で光沢がある。

イスラム陶器

60は4×3cmほどの小片である。外面に3条の凹線がみえる。また斜めのヘラ描と思われるものが一部みえる。胎土は黄白色できめ細かく軟質である。釉は外面は深い青緑色で、内面は濁った空色をしている。大壺の体部中位から下半にあたると考えられる。

#### 瓦

丸瓦(74) 凸面に二重斜格子で「賀茂」の正字をもつ文字瓦である。Ⅲ-5類。

平瓦(72・73) 72は二重斜格子に安楽寺の「安」字をもつ。左字である。Ⅳ-4類。73は斜格子に「佐瓦」の左字をもつ。Ⅱ-7aまたはb類。凹面は布目をナデ消している。

#### 土製品

管状土錘(38・39) とともに紡錘形をしている。38が5.1×2.0×1.8cm、39が3.9×1.5×1.4cmを測る。

#### 石製品

砥石(75・76) 75は砂岩製で4面に使用痕がある。とくに一面は凹んでいる。現存長4.7cm、幅6.1cm、厚さ1.2cmを測る。76は全面を使用している。現存長6.4cm、幅4.5cm、厚さ1.3cmを測る。

### 明灰色土出土遺物 (Fig.83)

#### 須恵器

蓋c3(1) 口径12.1cm、器高2.0cm。天井部は回転ヘラ削りをおこなう。

蓋3(2) 口径14.8cm。天井部はヘラ切り。

大蓋c3(3) 口径20.8cm、器高2.7cm。天井部はヘラ切り後、横ナデをおこなう。ボタン状のつまみがつく。

皿a(4) 口径14.2cm。器高1.8cm、底部径12.1cm。底部はヘラ切りと思われる。

壺(5) 口縁が短く直立する、広口の壺である。口径10.0cm。

高坏(6) 口径16.8cm。坏部が深い高坏と考えられる。外底部は回転ヘラ削りされる。

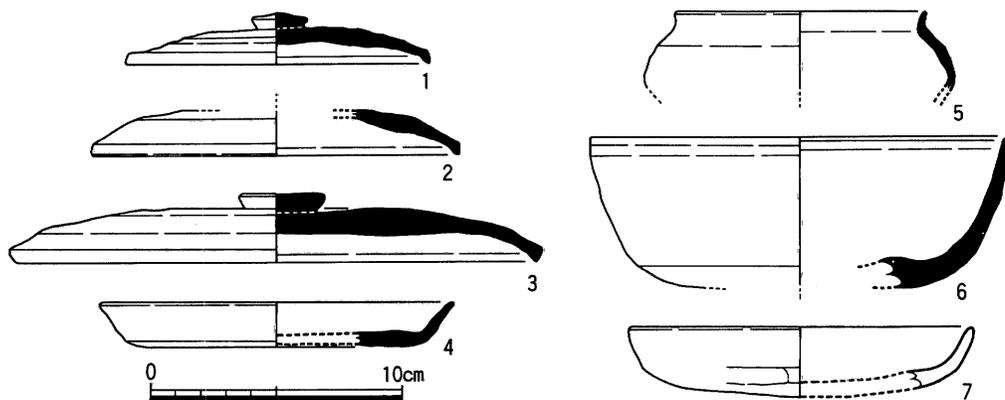


Fig. 83 明灰色土出土遺物実測図(1/3)

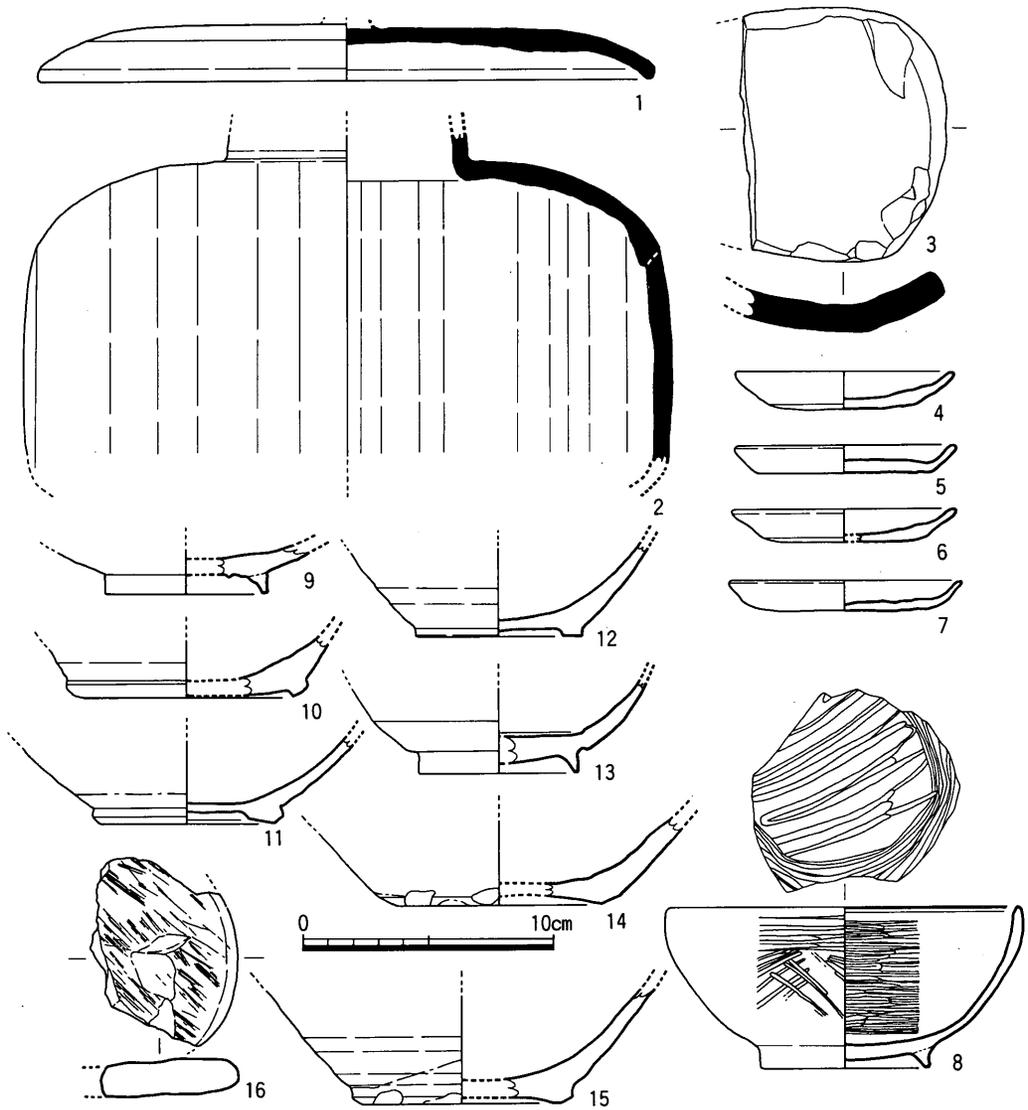


Fig.84 暗茶色土・表土出土遺物実測図(1)(1/3)

土師器

皿b(7) 口径13.8cm。底部を手持ちヘラ削りする。内面は横ナデをおこなう。

暗茶色土・表土出土遺物 (Fig.84~86、Pl.21)

ここで言う表土は、重機による表土剥ぎの際に出土したもの、排土のなかから検出したものを含んでいる。

須恵器

大蓋c3(1) 口径24.2cm。天井部は回転ヘラ削り。つまみは欠損する。口縁端部はかなりま

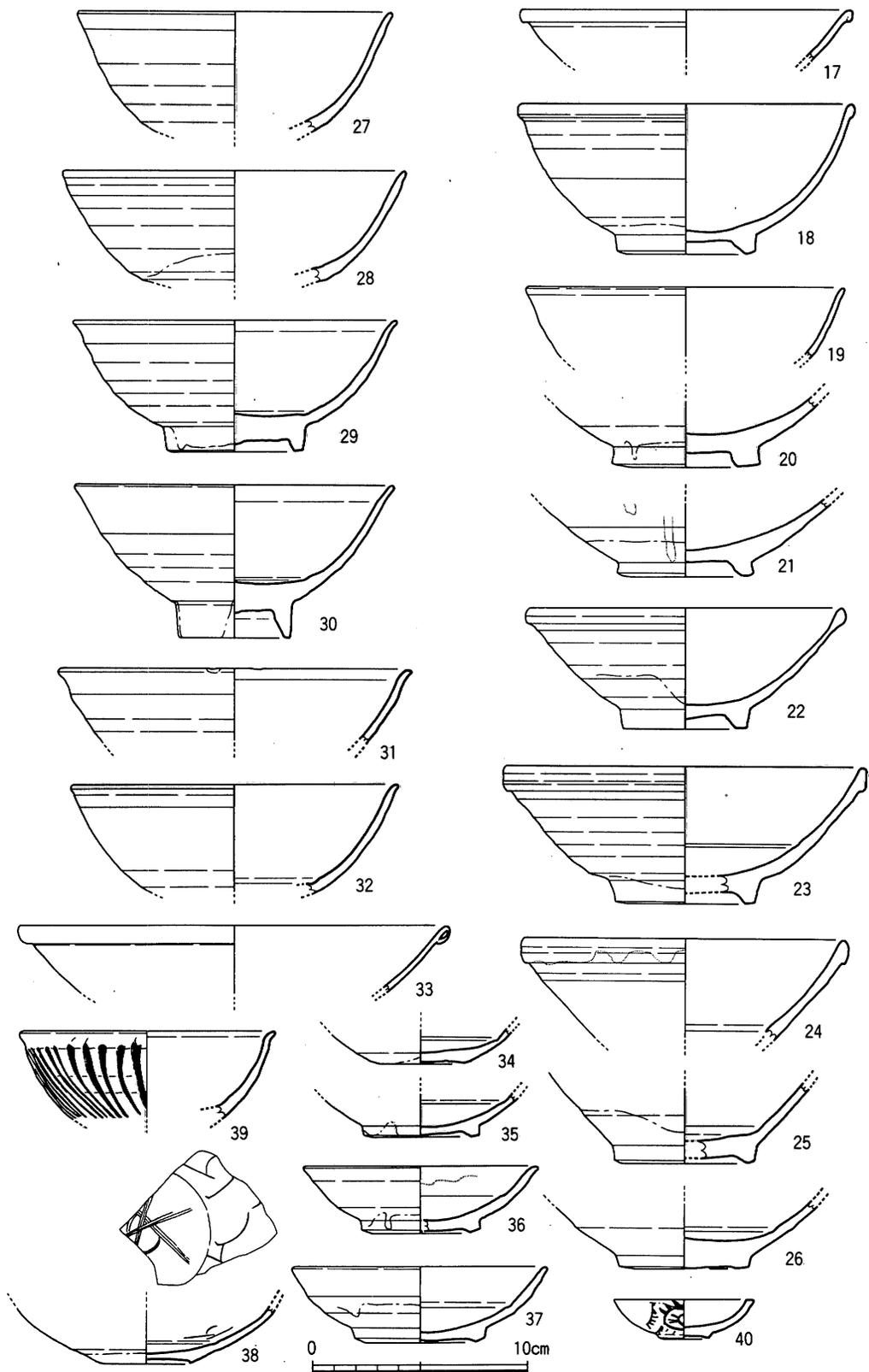


Fig. 85 暗茶色土・表土出土遺物実測図(2)(1/3)

るくなっている。

横瓶(2) 胴部は円筒形を呈し、回転ヘラ削りをおこなう。

硯(3) 壺eの肩部を転用したと考えられる。猿面硯に復原される。側面は擦って形を整えている。底面には、凸帯を削った跡が残る。内面は使用により平滑になっている。残存長8.3cm、幅10.0cm、厚さ1.2cmを測る。

土師器

小皿a(4~7) 口径8.8~9.4cmを測る。4・6はヘラ切り、5・7は糸切り。

瓦器

椀(8) 口径14.0cm、器高6.3cm、高台径6.8cm。口縁端部内側に沈線がはいる。内外面ともミガキcを施す。楠葉型か。

灰釉陶器

椀(9) 高台径6.6cm。高台は貼り付け高台。釉は灰色で不透明。

越州窯系青磁

椀(10~15) 高台径6.4~9.7cm。10・12がI-2類。11がII-1b類。14がII-3類。15がII-3a類。13がIII類。

白磁

椀(17~33・39) 17はI-1類。口径15.4cm。口縁端部を折り曲げている。18~21はII類。18はII-1類で口径15.4cm。19はII-3類で口径15.4cm。22~26はIV類。22・23はIV-2類で口径はそれぞれ14.6・16.7cm。24は口径15.0cm。25はIV-1b類で見込みは一部釉がかかっている。27~32はV類。27・28はV-1類で口径はそれぞれ14.8・16.0cm。29・30はV-2a類で口径はそれぞれ15.2・15.0cm。31はV-2c類で口径は16.6cm。32はV-3a類で口径15.4cm。33はXI-1類。口縁は折り曲げて玉縁をつくる。口径は20.2cmに復原されるが、少し大きすぎるかもしれない。39はXII-1類で口径12.0cmを測る。小椀に入るか。

皿(34~38) 34はXI-4類。35~37はII-1a類。38は内面に文様のあるVII-2b類。

40は近世の紅皿と考えられる。外面に型押しによる唐草文が施される。

石製品

滑石製品(16) 直径11.6cm程に復原される円盤状の加工品である。表面には全体に擦痕がある。厚さ1.5cm。蓋に使用されたか。

その他の石製品 (Fig.86、Pl.21)

1は安山岩の縦長剥片を利用した剥片尖頭器である。剥離面のバルブは意図的に除去されている。旧石器時代後期の所産と考えられる。長さ8.8cm、幅2.9cm、厚さ1.1cm。81SK070出土。

2は安山岩の石核である。上下から打面調整をおこないながら横長の剥片を取り出したと考えられる。弥生時代の所産か。長さ3.0cm、幅6.3cm、厚さ1.9cm。茶褐色土出土。3は黒曜石製の剥

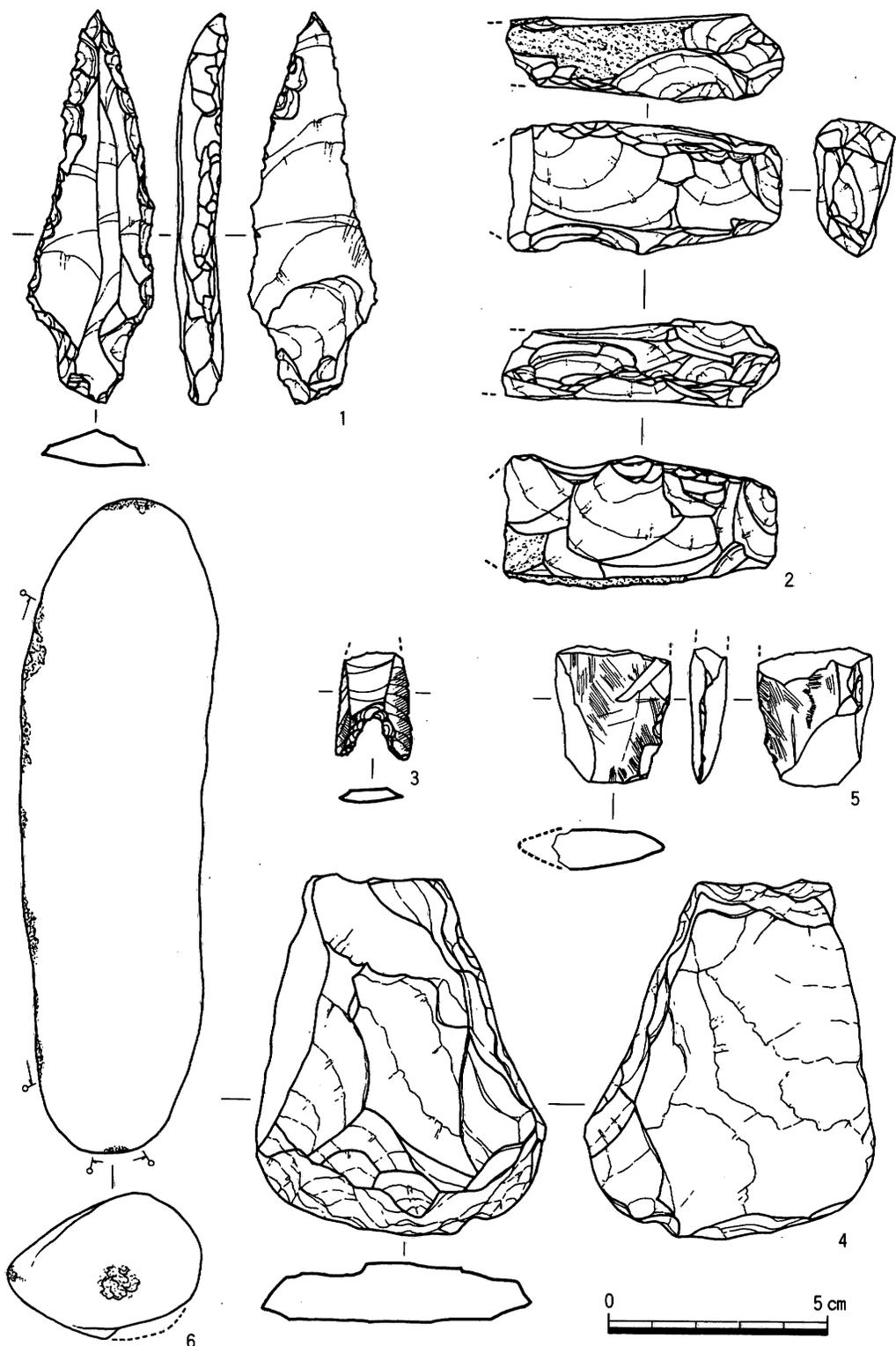


Fig. 86 石器实测图(2/3)

片鋸である。縦長剥片を素材とする。基部の抉り部分のみに二次加工を施す。両辺縁は素材剥片の縁辺をそのまま使用している。大剥離面は上下二方向からの剥離をおこなう。81SX300出土。4は緑色片岩製の石鋸である。片縁の二面に二次加工が施される。長さ8.1cm、幅6.6cm、厚さ1.8cm。81SX261出土。5は泥岩製の石剣である。基部の部分と考えられる。81SE066出土。6は敲石である。角閃石と白色の結晶を含むヒン岩と考えられる。先端部に敲打痕がある。長さ14.8cm。81SE060暗灰色土出土。

## 5) 小結

本次調査地での遺構の時期は8世紀第Ⅱ四半期から11世紀末までである。それ以降は近世の遺物が存在するのみで、遺構は展開しない。特に8世紀代後半から9世紀代前半と11世紀代後半にそのピークがある。遺物は旧石器時代後期からあり、周辺に古い時期の遺跡の存在が示唆される。

遺構群は、東西方向の溝が方向をわずかに変えながら各時期にわたり存在している。81SD100から81SD245までがそれである。区画溝の可能性はあるが、いずれも検出距離が短い、調査区の中で完結しており、広域の区画ではなく、ごく狭い範囲を区画するものかもしれない。

81SK130・81SK135・81SK170はⅢ～Ⅵ期の土壌であるが、隣接して位置し、形状、埋土、遺物の多さが類似していることから相互に関連があり、順に形成されていったと考えられる。廃棄土壌か。

XII期の大型の遺構が調査区西側に約10mの幅で南北方向で集中している。これはこのような大きな掘削をおこなえる土地がこの範囲にしかなかったという物理的規制があったことを示唆している。特に土壌に顕著である。

明灰色土の整地層は8世紀代のもので、広域に存在していると考えられるものの一部であろう。

今回の調査では筑前国府に直接関連する遺構は検出されなかった。しかし国外からのものを含め豊富な搬入品の存在が、本次調査地が一般的な集落とは性格を異にするものであることを示していると考えられる。

Tab. 6 溝任意中点座標値

遺構番号	P* 位置	遺構中点座標値		方位	南門からの距離**	
		X	Y		X方向 (m)	Y方向 (m)
81SD245	西P	55,891.35	-44,954.60	N-91° 52' 04" -E	-818.629	-125.686
	東P	55,891.20	-44,950.00		-818.733	-121.082

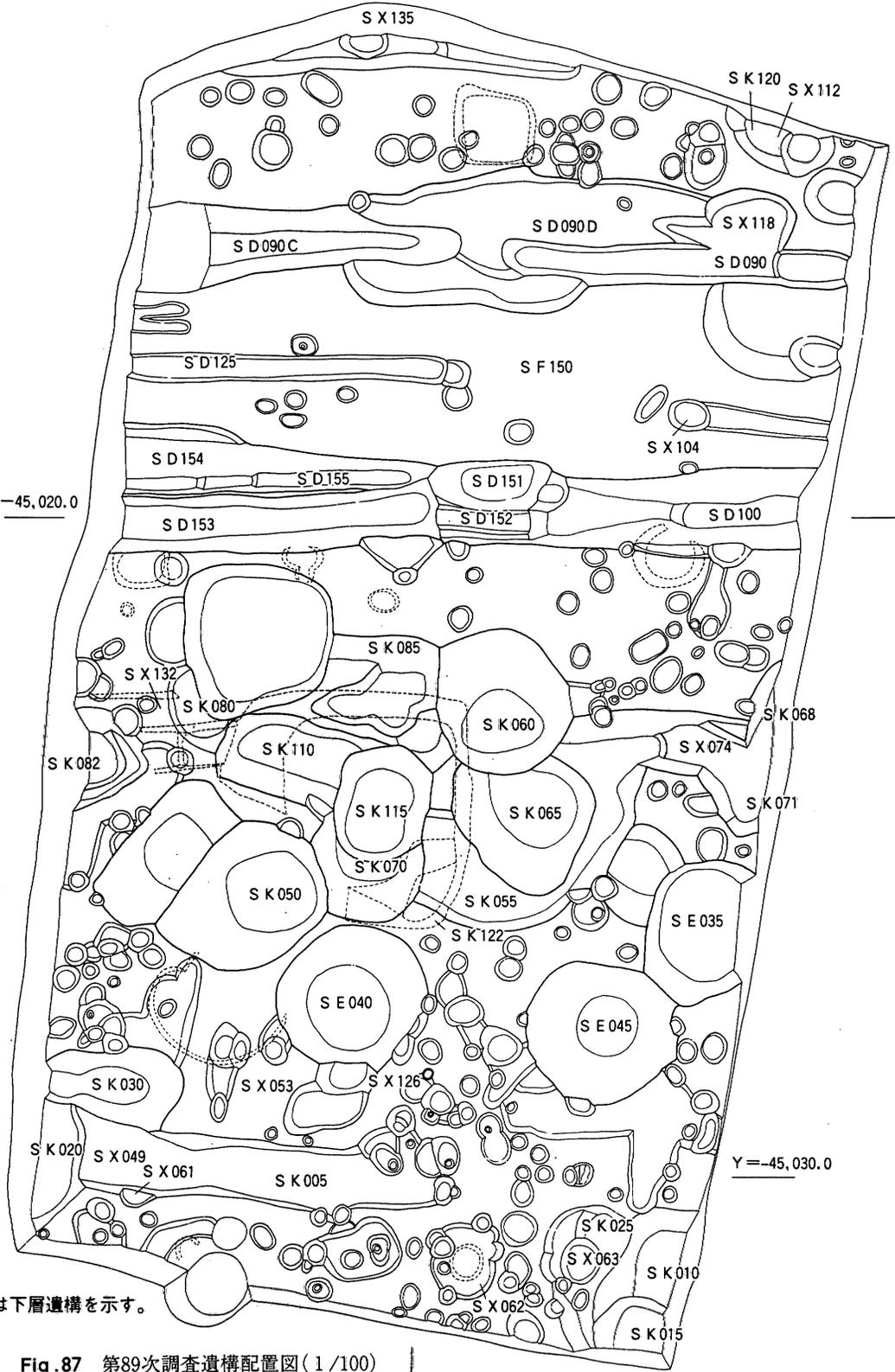
\* 西Pは溝検出西端に近い位置の任意中点  
東Pは溝検出東端に近い位置の任意中点

\*\* X方向の-値は政庁から南へ移動したことを示す  
Y方向の-値は中軸線から西へ移動したことを示す

X = 55, 948.0

Y = -45,020.0

Y = -45,030.0



※破線は下層遺構を示す。

Fig. 87 第89次調査遺構配置図(1/100)

## 4 第89次調査

### 1) はじめに

調査地は太宰府市大字通古賀1061-1・4に所在する。対象面積は500㎡である。昭和63年3月19日に地権者本村キヌヨ氏から埋蔵文化財の有無について照会があった。調査地は鏡山猛氏推定条坊案右郭11条2坊にあたり、国府推定地であることから発掘調査の必要を伝えた。その後共同住宅建築の計画が進み、同時に埋蔵文化財の取り扱いについて協議をすすめ太宰府市教育委員会が受託事業として発掘調査をおこなった。協議にあたっては三興住宅企業(株)に窓口としてご協力いただいた。調査期間は平成2年1月8日から2月10日までである。調査面積は230㎡である。調査は緒方俊輔・城戸康利が担当した。

### 2) 層位

現地表面から遺構面までは約0.8mである。最上層はガラ等の入った客土で、その下に畑の旧耕作土がある。以下は暗黒茶色土の遺物包含層である。包含層の厚さは0.3~0.4mである。遺構面は部分的に上下二層存在する。特に調査区中央部で顕著である。東西端では検出されず、下層遺構面が露出していた。下層遺構面を覆う層は淡灰色砂質土の均一な層である。厚さは約0.1~0.3mである。地山は黄色の砂質または粘質土で、水性堆積により形成されたと考えられる。

### 3) 検出遺構

#### 道路状遺構

#### 89 SF150

調査区東側で検出した南北方向の遺構である。89SD090、89SD100・151~155が側溝と考えられる。路面幅は約3.0mを測る。任意中点での振れはN-1°04'-E前後を測る。側溝は下層遺構

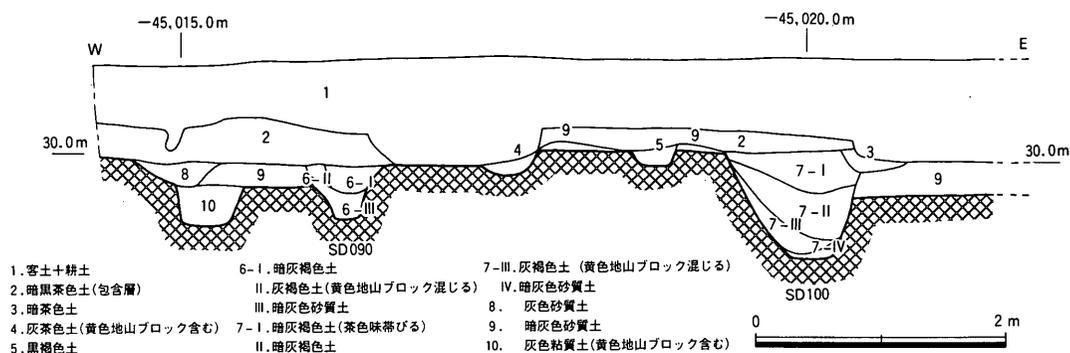


Fig. 88 89 S F 150南壁土層観察図(1/60)

を覆う淡灰色砂質土に掘り込まれており9世紀以降の所産と考えられる。地山は路面部分だけ高くなっており淡灰色砂質土を除去すると路面だけが盛り上がり、削りだしているようにみえる。その際の比高差は0.2~0.3mである。このことは淡灰色砂質土が堆積する以前にも路面として使用していたことが考えられる。ただ古い路面が盛り上がった状態で存在したかは疑問である。硬化面は淡灰色砂質土上でも地山面でも確認できなかった。

## 土壌

### 89SK001

調査区の南西隅で、調査区外にのびる土壌である。略方形をしていると考えられる。一辺約2.5m以上、深さ0.1m程である。下層に遺構が切りあっており(89SK010・015・025)、その遺物を多く含む。下層遺構の窪みに包含層が溜まっていたとも考えられる。Ⅻ期までの遺物を含む。

### 89SK005

南北方向の長土壌である。溝になる可能性もある。長さ5.5m分を検出した。幅は約1.0m、深さ0.2mを測る。底はほぼ平坦である。振れはN-5°45'-E前後である。遺物はⅤ期のものを中心とする。Ⅻ期のものをわずかに含むが混入と考えられる。

### 89SK010

89SK001の底で検出した土壌である。現状で長さ2.2m以上、幅1.2m以上、深さ0.5mを測る。底は平坦である。Ⅳ期までの遺物を含む。

### 89SK015

89SK010の底で検出した土壌である。現状で一辺1m以上、深さ1.2mを測る。Ⅵ期までの遺物を含む。

### 89SK020

調査区北西隅で検出した略円形と思われる土壌である。径約2.2m、深さ約0.4mである。焼塩壺を多量に出土した。Ⅴ期までの遺物を含む。

### 89SK025

89SK001の下層で89SK010・015に切られていた。したがって平面形は一部しか残っていなかった。深さ0.2m程である。Ⅴ期までの遺物を含む。

### 89SK030

89SK020に切られている。調査区外にのびるため全体の平面形は不明であるが、長土壌になる可能性がある。現状で長さ2.1m以上、幅約1.2m、深さ約0.5mを測る。Ⅴ期までの遺物を含む。

### 89SK050

調査区中央北寄りで検出した。一部を攪乱されているが、略円形を呈する。長軸2.7m、短軸2.2m、深さ2.0mを測る。底は南に寄っており、径1.3m程の略円形を呈する。井戸の可能性も考えられる。下層遺構の89SK122を切っていて、その遺物を含んでいる。Ⅻ期までの遺物を含む。

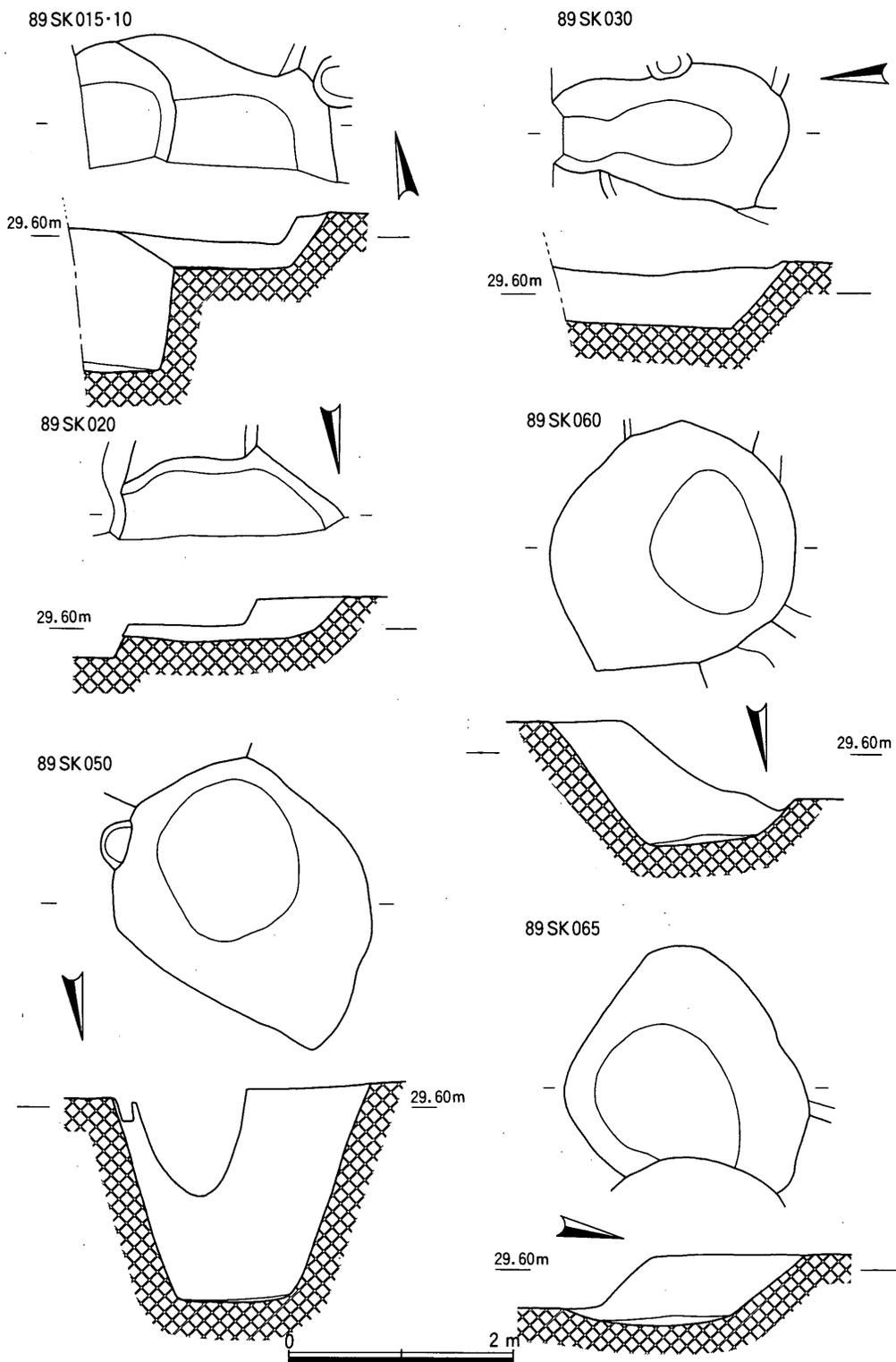


Fig. 89 第89次調査土壙実測図(1) (1/60)

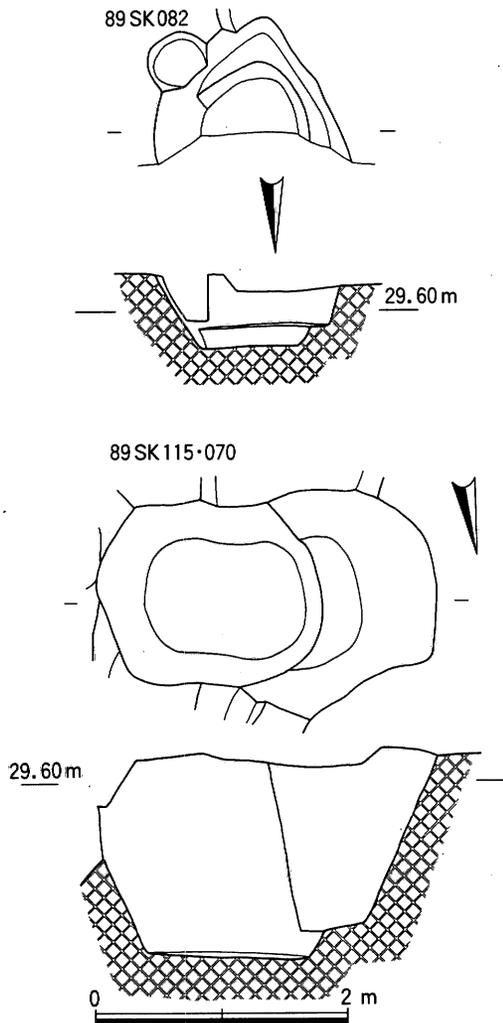


Fig. 90 第89次調査土壌実測図(2) (1/60)

#### 89SK055

調査区中央で検出した楕円形の土壌である。底は浅く平坦である。長軸3.2m、短軸2.3m、深さ0.2mを測る。89SK065・070を切っている。Ⅻ期までの遺物を含む。

#### 89SK060

調査区中央で検出した略円形の土壌である。底は楕円形を呈し、断面は播り鉢状になっている。89SK065・085を切っている。径2.1m、深さ1.0mを測る。黒茶色の埋土である。廃棄土壌か。Ⅺ期までの遺物を含む。

#### 89SK065

89SK055・060に切られる略円形の土壌である。底は平坦で、断面播り鉢状を呈する。径は約2.0m、深さ約0.8mを測る。円柱状の底部を持つ椀は底近くでまとまって出土した。Ⅷ期までの遺物を出土した。

#### 89SK068

調査区南端にかかる略円形の土壌と思われる。89SK071を切っている。径2.0m以上、深さ0.5mを測る。Ⅻ期までの遺物を出土した。

#### 89SK070

89SK050・055に切られている略円形の土壌である。径約1.8m、深さ1.4mを測る。断面は底に向かってすぼまっている。埋土は黒茶色土である。

一部89SK115を誤って掘っている。Ⅺ期までの遺物を出土した。Ⅴ期の遺物は89SK115に帰属すると思われる。

#### 89SK071

89SK068に切られている略方形と考えられる土壌である。一辺は約1.7mと思われる。深さは約0.4mを測る。Ⅻ期までの遺物を含む。

#### 89SK080

調査区北よりで検出した長円形の土壌である。長軸約2.7m、短軸約1.8m、深さ0.4mを測る。埋土は黒茶色土である。Ⅺ期までの遺物を出土した。

### 89 SK082

調査区北端で検出した二段掘りの土壌である。調査区外にのびるが平面形は方形と思われる。現状では一辺1.5m以上である。深さは一段目が0.4m、二段目が0.6mを測る。Ⅶ期を中心とした遺物を出土した。

### 89 SK085

89SK060・080に切られている長円形の土壌である。長軸約2.5m、短軸約2.0m、深さ約0.7mを測る。底は不整形をしている。埋土は黒茶色土である。Ⅺ期までの遺物を出土した。

### 89 SK110

調査区中央で他の土壌群に切られている不整形の土壌である。現状で長辺約2.0m、短辺約1.2m、深さ約0.7mを測る。Ⅵ期を中心とした遺物を出土した。

### 89 SK115

89SK070に切られている長円形の土壌である。長軸1.8m、短軸1.4m、深さ1.6mを測る。埋土は灰白色砂質土である。Ⅴ期までの遺物を出土した。

### 89 SK120

調査区南東端で検出した土壌である。土壌内には土師器の甕が床面からわずかに浮いた状態で、正位置で据えてあり、土師器の皿aが蓋として使用されていた。切りあいがあり、埋納された甕の上半部まで検出した段階で、平面形を確認できた。平面形は径0.37mの円形を呈する。埋土は茶色砂質土である。土壌のサンプルをとり残存脂肪分析をおこなった。結果は甕内から検出された脂肪酸からヒトの遺体を納めたものと判定された。また、掘り方の埋土からも同様の結果がでており、分析者は掘り方にも直接ヒトの遺体を納めた可能性があることを指摘している。調査担当者は甕はヒトがそのまま収まる大きさでないことから、その一部の可能性が強いと考える。ただ胎盤を埋納した場合に特徴的にあらわれる高級脂肪酸が一般的遺跡の数値の範囲内にあり、胞衣壺と考えるには疑問が残る。また掘り方に直接ヒトの遺体を埋納した可能性については、痕跡が確認できず

89 SK120

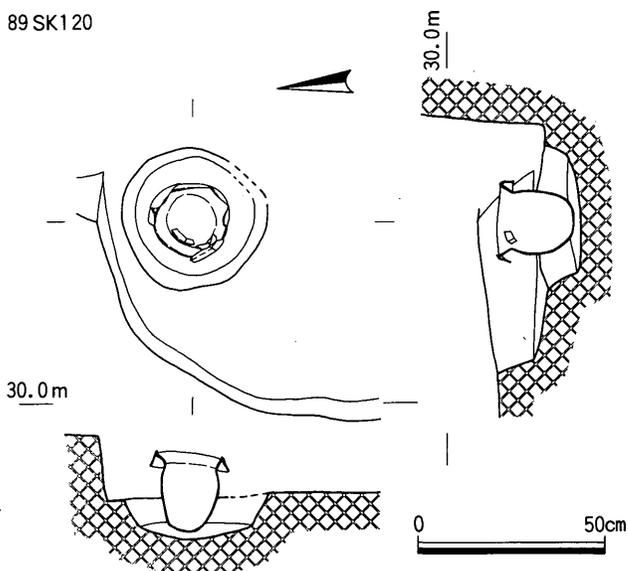


Fig. 91 第89次調査土壌実測図(3)(1/20)

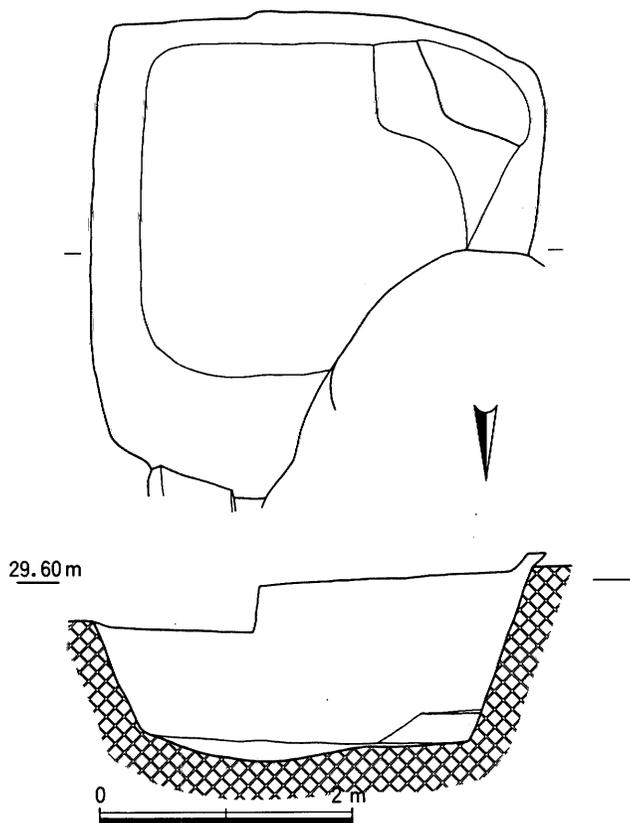


Fig. 92 第89次調査土壌実測図(4) (1/60)

物を出土した。

#### 89 SE 045

89 SE 035に切られる円形の掘り方をもつ井戸と考えられる。径2.2m、深さ1.4mを測る。井戸枠は検出できなかった。XI期までの遺物を出土した。

#### 溝

#### 89 SD 090

89 SD 100、151～155と対をなして、道路状遺構の側溝になると考えられる。A～Dの掘り直しがあっている。古い方から090 C→090 D→090 B→090 Aの順になっている。幅は合わせて約1.0 m。それぞれで約0.3～0.5 mを測る。AとBは南側では判別できなくなっている。深さは路面と考えられる所から約0.6 mを測る。溝の断面形は逆台形状をしている。振れはN-0° 35′ -E前後である。埋土は090 A・Bが暗灰褐色土、090 Dが地山の黄色土のブロックを含む灰褐色土、090 Cが暗灰色砂質土である。遺物はXI期のものまでを出土した。一方量的にはV・VI期の遺物が多い。

不明である。

#### 89 SK 122

下層面で検出した隅丸長方形の土壌である。調査区中央で上層の土壌群に切られていた。長辺約4.0 m、短辺約3.0 m、深さ約1.6 mを測る。埋土は暗灰色砂質土である。遺物はV期のものを出土した。

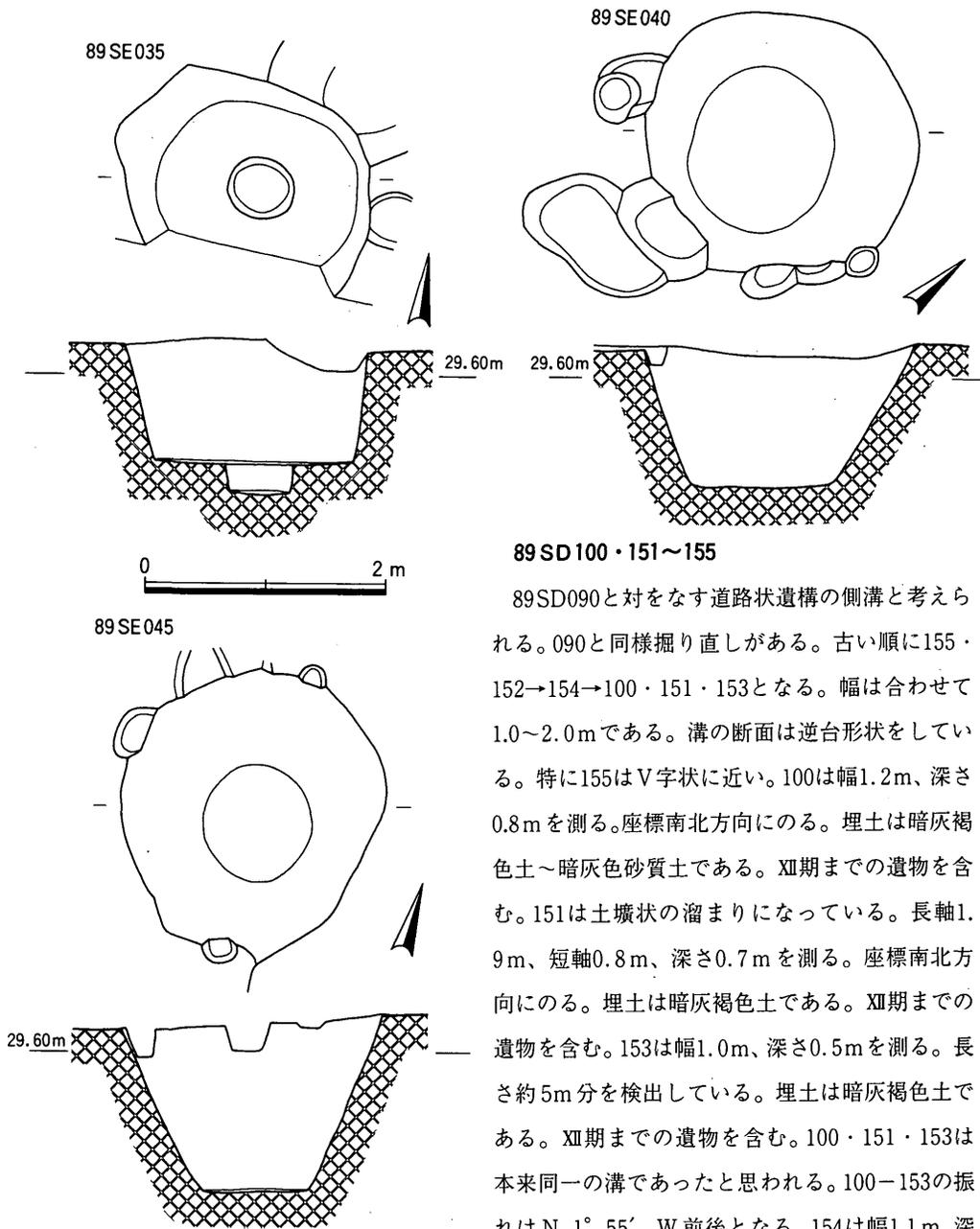
#### 井戸

#### 89 SE 035

調査区南端で検出した円形の掘り方をもつ井戸である。掘り方の径は約2.1 mで深さは約1.3 mである。井戸枠は残っていなかったが、底で曲げ物の痕跡を検出した。XII期までの遺物を出土した。

#### 89 SE 040

円形の掘り方をもつ井戸である。井戸枠は確認されなかった。土壌の可能性もある。径2.2 m、深さ1.15 mを測る。IX期を中心とした遺物



**89SD 100・151～155**

89SD090と対をなす道路状遺構の側溝と考えられる。090と同様掘り直しがある。古い順に155・152→154→100・151・153となる。幅は合わせて1.0～2.0mである。溝の断面は逆台形状をしている。特に155はV字状に近い。100は幅1.2m、深さ0.8mを測る。座標南北方向にのる。埋土は暗灰褐色土～暗灰色砂質土である。Ⅻ期までの遺物を含む。151は土壇状の溜まりになっている。長軸1.9m、短軸0.8m、深さ0.7mを測る。座標南北方向にのる。埋土は暗灰褐色土である。Ⅻ期までの遺物を含む。153は幅1.0m、深さ0.5mを測る。長さ約5m分を検出している。埋土は暗灰褐色土である。Ⅻ期までの遺物を含む。100・151・153は本来同一の溝であったと思われる。100-153の振れはN-1° 55' -W前後となる。154は幅1.1m、深さ0.1～0.3mを測る。振れはN-7° 25' -E前後である。埋土は暗灰茶色土である。Ⅻ期までの遺物

**Fig. 93** 第89次調査井戸実測図(1/60)

を含む。152は154の底面で検出した。幅0.3m、深さ0.2mを測る。振れはN-4° 25' -E前後である。暗灰色砂質土の埋土である。遺物は出土していない。155は幅0.5m、深さ0.7mを測る。振

れはN-1° 25' - W前後である。埋土は灰褐色砂である。XI期までの遺物を出土した。

#### 89SD125

南北方向の溝である。道路上遺構を切っている。幅0.4m、深さ0.2~0.3mを測り、約5m分を検出した。XIII期までの遺物を出土した。

#### その他の遺構

#### 89SX049

89SK020 に切られている遺構である。不整形であるが、掘り上がりからみると89SK005に連続していた可能性が高い。遺物はV期に収まると考えられる。焼塩壺片が多く出土した。

#### 89SX074

89SK065に切られる「L」字状の遺構である。幅は約0.9m、深さ約0.35mを測る。溝になる可能性もある。遺物はVII期のものを中心とする。

#### 89SX075

89SK080・085の上層部を掘っている。埋土は黒茶色土である。土色名の黒茶色土で取り上げた遺物もこの中に含まれる。XII期までの遺物を含む。

#### 89SX076

調査区南西側に位置する溝状の遺構である。幅約0.5m、深さ約0.1mで約1.0m分を検出した。

#### 89SX101

路上と推定される部分に切り込むピットである。遺物が少なく時期の判定は難しいが、およそXII期以降と考えられる。

#### 89SX104

89SX101と同様路上と推定される部分に切り込むピットである。XII期以降の所産と考えられる。

#### 89SX105

路上と推定される部分に側溝と似た方向で存在する溝状遺構である。振れはN-4° 25' - E前後である。XVI期の所産と考えられる。

#### 89SX112

調査区南東隅で検出した略円形と思われる遺構である。径約1.5m、深さ約0.2mを測る。89SK120を切っている。89SK120に埋納している甕も当初は89SX112に帰属すると思われていた。甕の上半部ほどまで掘り下げて89SK120の掘り方を検出している。したがって89SX112の深さは0.2mより浅い可能性が高い。

#### 89SX132

下層で検出した溝状の遺構である。幅約1.2m、深さ約0.2~0.4mを測る。89SK122に切られている。遺物はV期までのものを出土した。

## 89 SX135

調査区東端で検出した遺構である。大半が調査区外にあると考えられ、規模、性格は不明である。溝の可能性がある。現状で長さ5.5m、深さ0.3~0.7mを測る。北側に低くなっている。埋土は黒色土である。Ⅶ・Ⅷ期の遺物を中心に出土した。

### 4) 出土遺物

#### 89 SK001出土遺物 (Fig.94・95, Pl.28・29)

##### 須恵器

蓋c4(1・2) 1は口径14.15cm、器高1.35cm。天井部はヘラ切り後ナデ。内面に少量の赤色顔料が付着する。2は口径17.4cm、器高2.8cmを測る。天井部はヘラ切り。

大蓋c4(3) 口径20.4cm。天井部はヘラ切り後ナデ。口縁部を一部焼成前に補修している。つまみは欠損している。

坏a(4~7) 口径12.0~14.3cm、器高3.5~4.1cm、底部径6.8~9.3cmを測る。底部はすべてヘラ切り後ナデを施す。

小坏c(8) 口径9.2cm、器高4.8cm、底部径6.8cm。底部はヘラ切り後粗いナデ。体部はほとんど直立し、高台は底部と体部の境につく。

坏c(9・10) 9は口径12.5cm、器高5.4cm、高台径6.9cm。底部はヘラ切り後ナデを施す。深い体部に小さめの高台がつく。10は口径12.7cm、器高4.55cm、高台径8.0cm。ヘラ切り後丁寧なナデをおこなう。

皿a(11・12) 11は口径16.2cm、器高1.75cm、底部径13.2cm。底部はヘラ切り後ナデをおこなう。12は口径17.3cm、器高2.25cm、底部径13.9cm。底部はヘラ切り後ナデ、一部にはハケ目らしきものがある。

鉢(13) 底部径16.0cmを測る鉢と考えられる。外面は回転ヘラ削り、内面は丁寧なナデをおこなう。

壺a(14) 高台径12.4cmを測る。胴膨らみの短頸壺に復原されると考えられる。体部は内外ともナデ。底部はヘラ切り後ナデをおこなう。

硯(15) 口径9.6cmを測る円面硯である。圈台は故意に打ち欠かれたか。透かし窓は9ヶ所程と思われる。墨痕が残っており実際に使用されていたことがわかる。I-C-b・イ類。

以上の須恵器はⅥ期までのものと考えられる。

##### 土師器

蓋c3(16) 口径13.0cmを測る。天井部は回転ヘラ削り後、他の部分と共にミガキaを施される。つまみは剥離した跡がある。

大蓋3(17) 口径20.0cmを測る。外面にはミガキa、内面にはナデを施す。

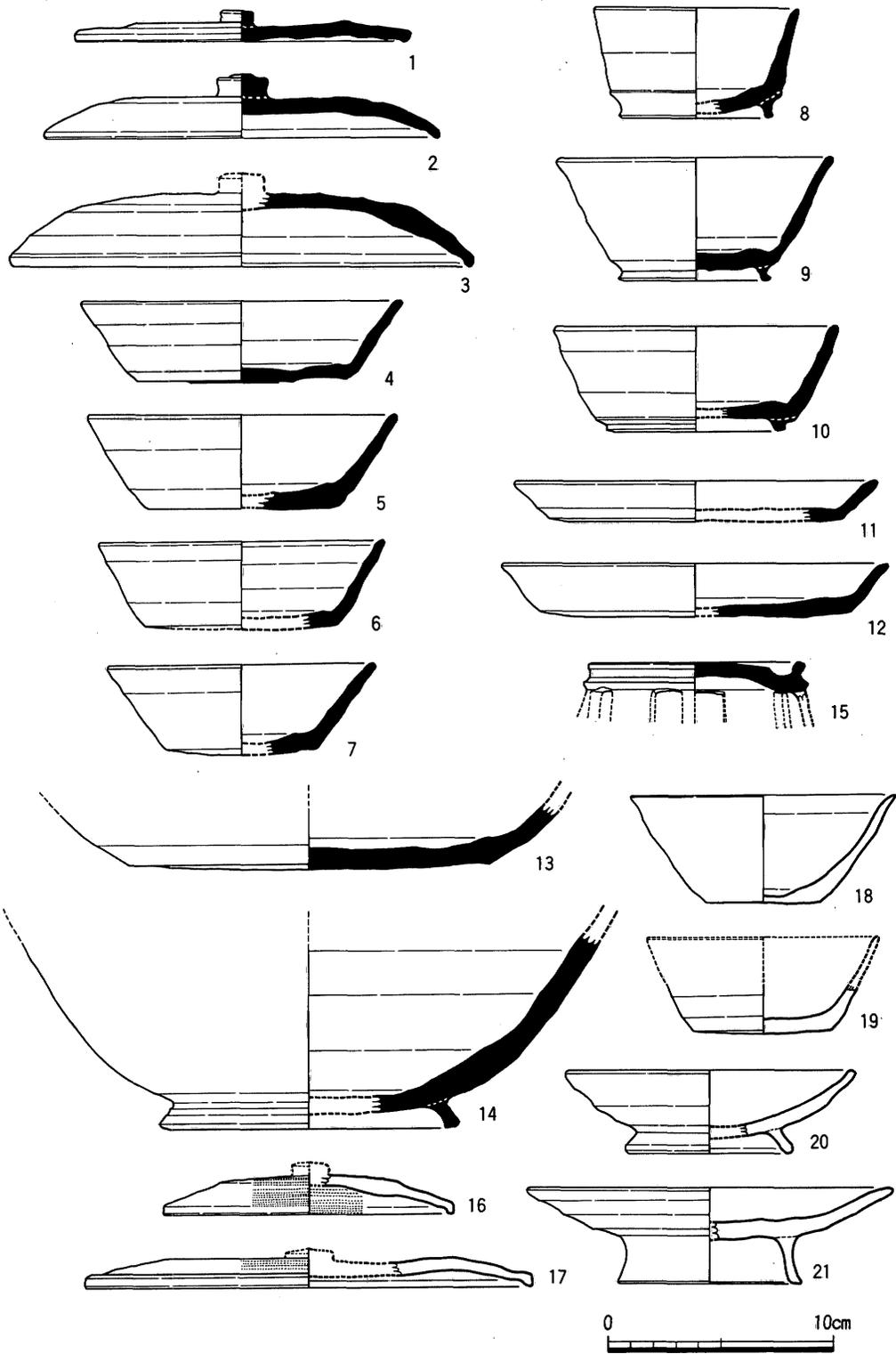


Fig.94 89SK001出土遺物実測図(1)(1/3)

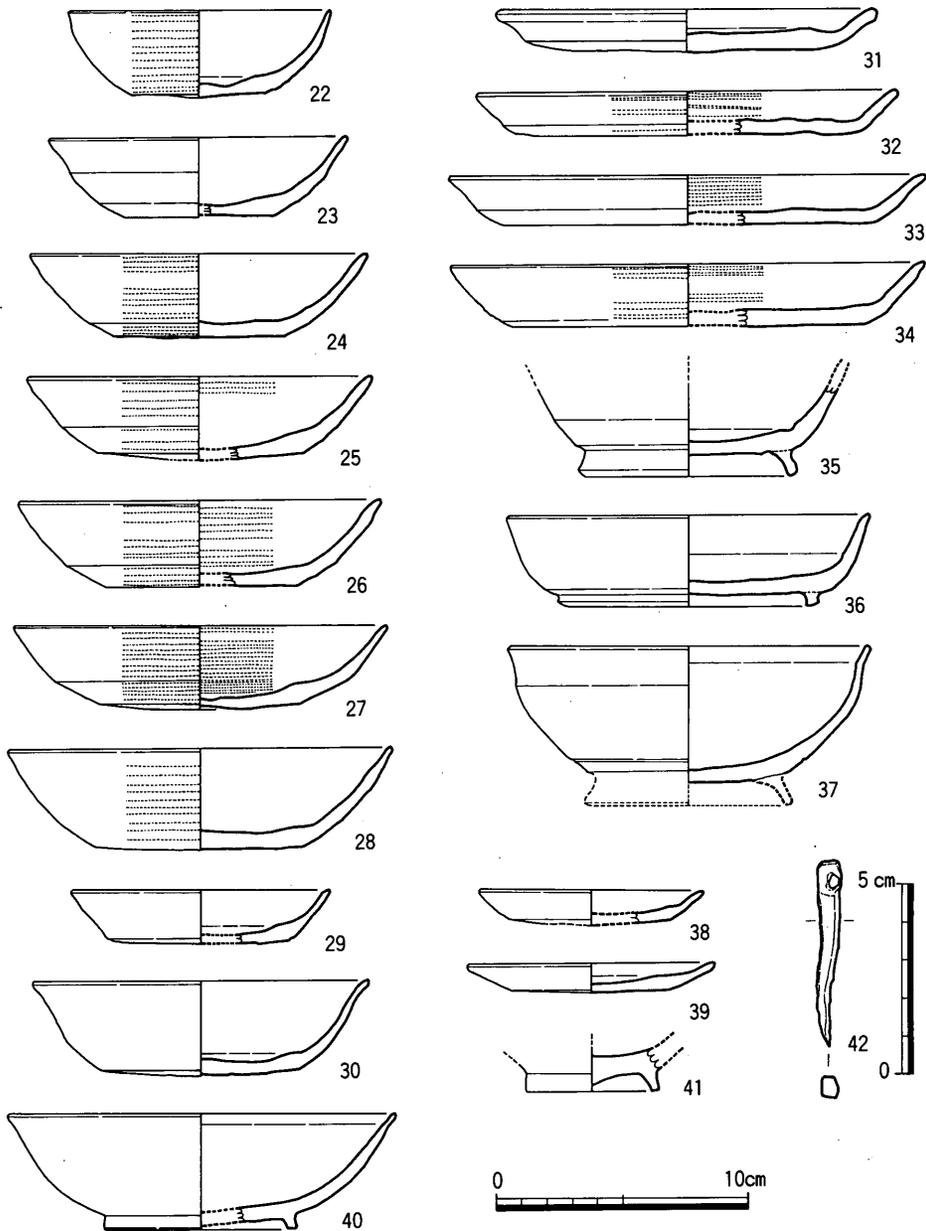


Fig.95 89SK001出土遺物実測図(2)(1/3・1/2)

坏 a (30) 口径13.4cm。底部はヘラ切り後ナデ。

坏 c (36) 口径14.6cm。底部は回転ヘラ削りをおこなう。

坏 d (22~28) 口径10.6~15.4cmを測る。底部または底部から体部中位にかけて回転ヘラ削りを施し、他はミガキ a をおこなう。

坏 e (18・19) 18は口径11.8cmを測る。底部はどちらもヘラ切り。

中丸底坏 c (20) 口径13.0cm。開いた坏部に中央寄りに高台がつく。Ⅻ期。

碗 c (35・37) 37は口径14.6cmを測る。体部は丸みをもつ。X期。35は体部は直線的に立ち上がっていると考えられる。底部は回転ヘラ削りをおこなう。体部にはミガキ a があるか。

皿 a (31~34) 口径15.4~19.0cmを測る。31は底部をヘラ切り後ナデ調整をおこない、体部はナデを施す。32~34は底部を回転ヘラ削り、体部にミガキ a をおこなっている。

皿 c (21) 口径16.4cm。開いた皿部に高めの高台がつく。Ⅷ期のものか。

皿 (29) 口径10.4cm。底部はヘラ切りと考えられる。体部はナデ。

小皿 a (38・39) 口径9.0・10.0cm。底部はヘラ切り。

#### 緑釉陶器

碗 (40) 口径15.6cm、器高4.5cm、高台径9.8cmを測る。高台は削りだし、見込みはミガキ、体部内外面はナデをおこなう。胎土は淡褐色で硬質。施釉は淡緑色の釉が全面に薄くかかる。

#### 高麗青磁

碗 (41) Ⅲ-1 a 類。高台径5.2cm。見込みに目跡が残る。全面施釉をおこない、釉はくすんだオリーブ色をしている。

#### 金属器

42は鉛製と考えられる。長さ4.9cm、根本で幅0.7cm。口径0.3cm程の穴があいている。形状から針と考えられる。

遺物は時期幅が広く混乱しているが、89SK001自体は小皿 a などのⅫ期と考えられる。V・Ⅵ期の遺物が多いのは下層にある89SK010・015・025の遺物を含むためと考えられる。従って89SK001での古期の遺物は89SK010以下のものと理解される。

#### 89SK005出土遺物 (Fig.96、Pl.29)

##### 須恵器

蓋 c (1) 天井部は回転ヘラ削りをする。

蓋 3 (2) 口径14.9cm。回転ヘラ削りの有無は不明。

坏 c (3) 口径12.0cm、器高3.9cm、高台径9.5cmを測る。底部はヘラ切り。

鉢 (4) 口径16.6cmを測る。口縁端部は平坦面を持ち、丸く深い体部へは一段段をつけている。全面にナデを施す。硬質に焼け、外面には薄い自然釉がかかり光沢がある。搬入品と考えられる。器形も鉢以外のものも考えられる。

壺 (5) 頸部から肩部の破片である。外面に縦方向のハケ目後ナデ、内面にヘラ削りを施している。

##### 土師器

焼塩壺 (6~9) 6・7はどちらも口径12.0cm、口縁部はうねっている。外面は指頭圧痕で凹凸

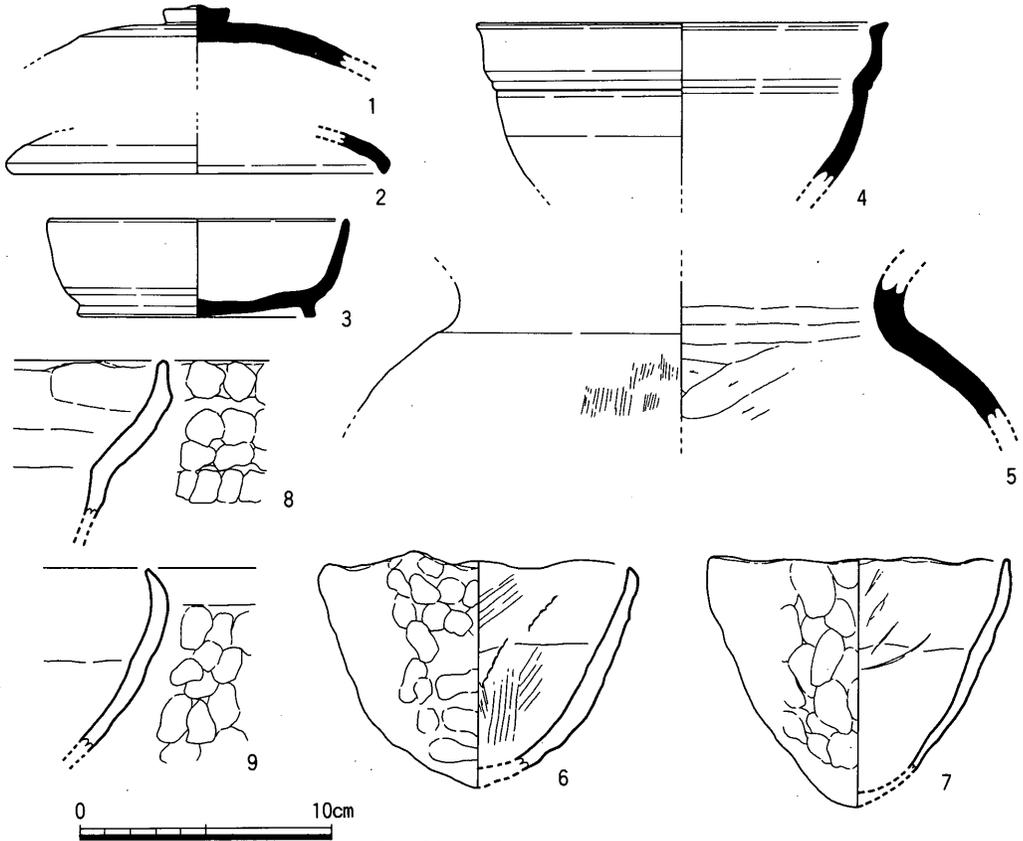


Fig.96 89SK005出土遺物実測図(1/3)

がはげしい。内面は型抜きと思われる、6はナデと貝殻条痕がつく。7は布圧痕をわずかに残し、ヘラ状工具によるナデをおこなう。8はナデである。9は不明。すべてⅡ類に分類される。二次焼成が明瞭なのは7～9である。

**89SK010出土遺物** (Fig.97・98、Pl.29・30)

須恵器

皿 a (1) 口径13.7cm、器高1.3cm、底部径10.9cm。底部はヘラ切り。

硯 (5) 円面硯。最大径15.6cm。浅い海部から緩く立ち上がる陸部がある。陸部は平滑になっている。I-C-b・イ類と考えられる。

壺 (2～4) 2は長頸壺の口縁と思われる。口径9.5cmを測る。器壁は薄い。3は底部径7.0cmの小壺である。底部調整は不明であるが、体部下端は回転ヘラ削りを施す。体部下半にヘラ記号がある。4は底部径9.8cm。長頸壺になると思われる。体部下半は回転ヘラ削りをおこなう。

土師器

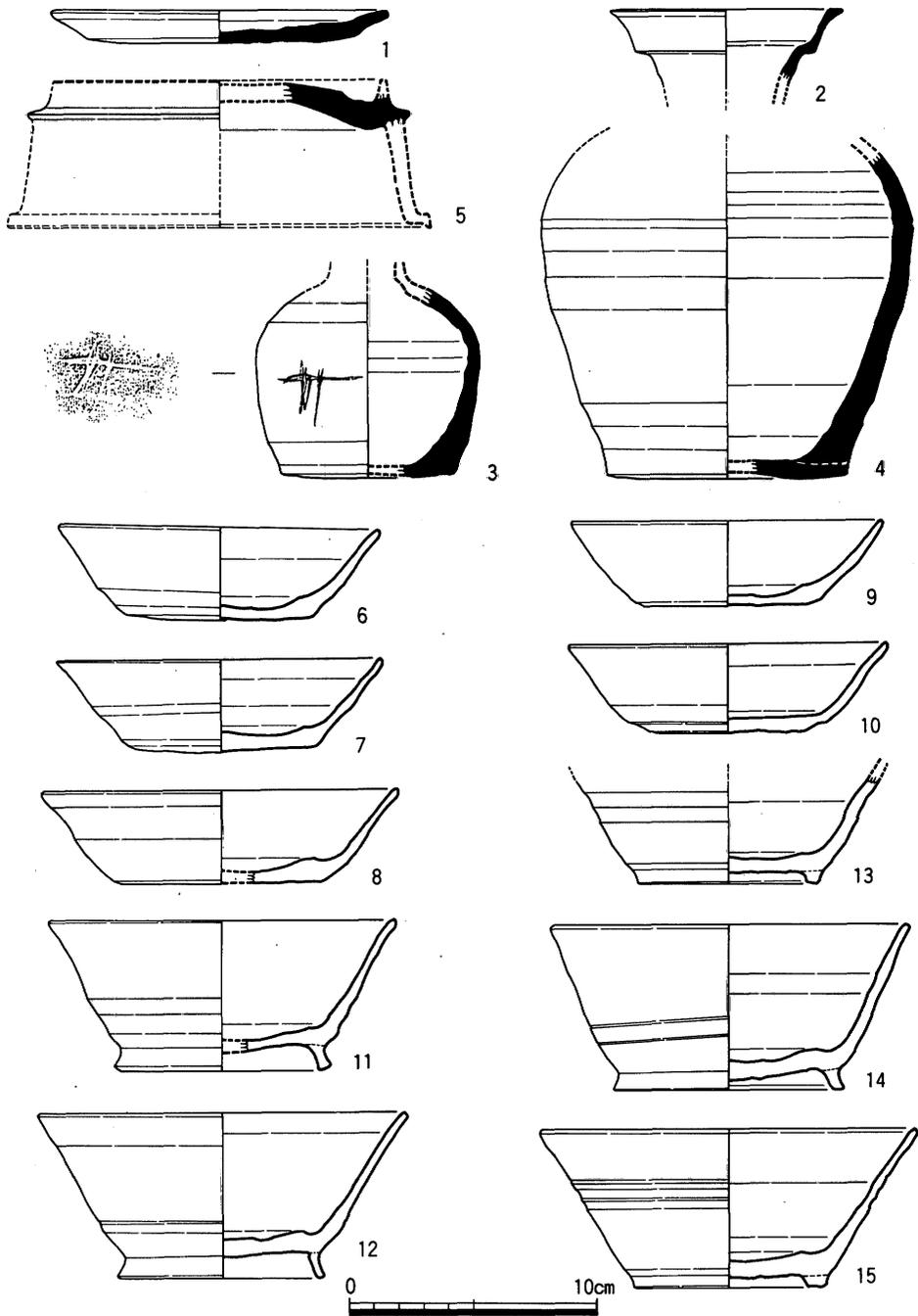


Fig. 97 89SK010出土遺物実測図(1)(1/3)

坏 a (6~10) 口径12.8~14.6cm、器高3.4~3.9cm、底部径6.4~8.6cmを測る。底部はヘラ切り。10は外面に炭化物が付着する。

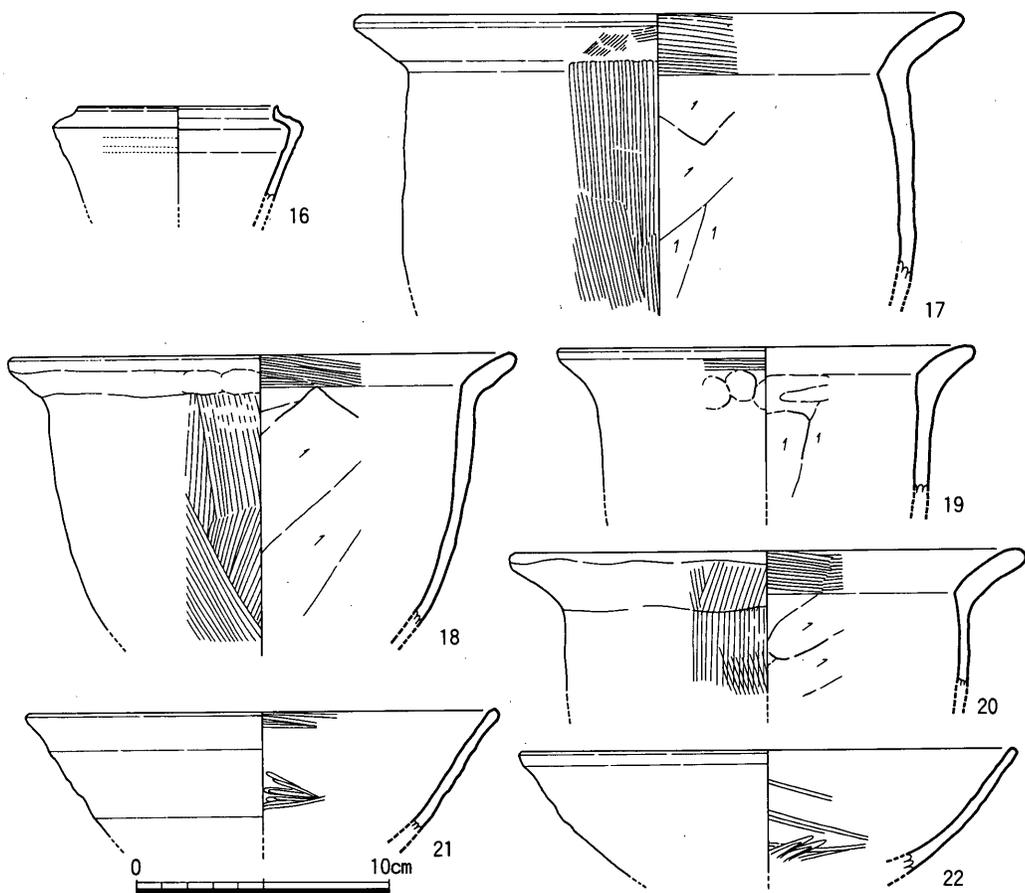


Fig.98 89SK010出土遺物実測図(2)(1/3)

碗c(11~15) 口径14.2~15.2cm、器高6.0~6.6cm、高台径7.2~9.4cmを測る。底部はヘラ切り。12はヘラ切り後ナデをおこなう。体部外面に12は1条、14には2条の沈線がめぐる。13の内面には油煙が付着する。

小壺(16) 口径7.9cm、最大径10.0cmを測る。体部外面には部分的にミガキaを施す。

中甕a(17) 口径24.4cm。外面は縦方向のハケ目後ナデ、内面はヘラ削りをおこなう。口縁部と体部の境は稜をなす。

小甕a(18~20) 口径16.7~20.6cm。内面はヘラ削り、外面は19がナデ、18・20がハケ目を施す。19は口縁部内面と体部内外面の一部に黒変部分がある。

黒色土器

碗(21・22) 口径は21が19.0cm、22が20.0cmを測る。どちらも内面をミガキc、外面上半をミガキa、下半を回転ヘラ削りしている。両者ともA類。

89SK015出土遺物 (Fig.99)

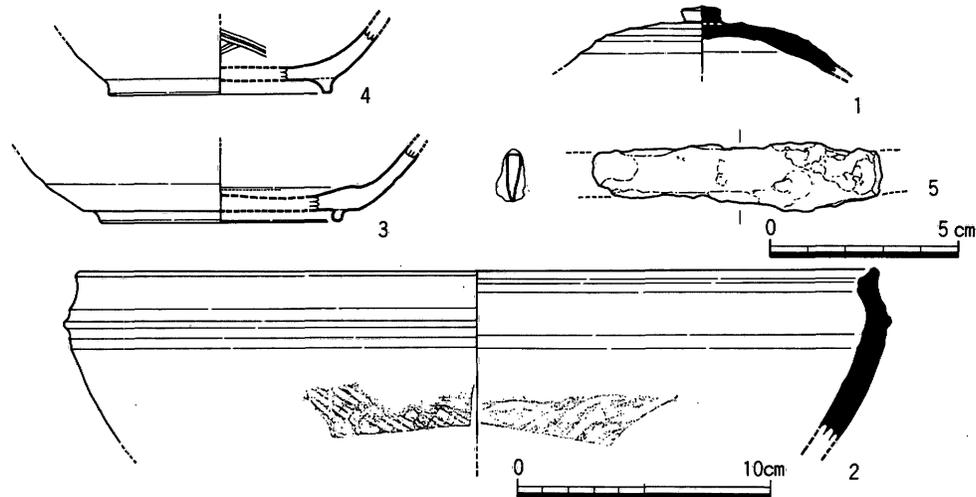


Fig. 99 89SK015出土遺物実測図(1/3・1/2)

須恵器

蓋 c (1) 天井部を回転ヘラ削りする。体部はドーム状を呈する。

鉢(2) 口径32.0cmを測る。口縁部で屈曲し内湾する。外面格子叩き、内面同心円の当て具痕が残る。

土師器

椀 c (3) 高台径9.8cm。内面はミガキ a、外面体部下半と底部には回転ヘラ削りを施す。坏 d に小さい高台がついたような形状をしている。

黒色土器

椀 c (4) A類。高台径9.0cm。内面はミガキ c を外面体部は横ナデを施す。

金属器

刀子(5) 関から刃部にかけての部分と考えられる。現存長7.7cm、幅1.8cm、厚さ0.8cmを測る。

89SK020出土遺物 (Fig.100・101、Pl.30・31)

須恵器

蓋 c 3 (1~3) 口径14.7~18.0cm。1・2は天井部ヘラ切り後ナデ。3は回転ヘラ削りをおこなう。2・3はつまみを付けていた痕跡が残る。1は器高が低く扁平であるが、口縁端部を短く折り曲げ、断面三角形にする。

大蓋 c 3 (6) 口径21.2cm。天井部は回転ヘラ削りを施す。

大蓋 3 (4・5) 口径19.2・20.2cmを測る。天井部は雑な回転ヘラ削りをおこなう。

坏 c (7~10) 口径12.3~17.7cm、器高3.4~6.2cm、高台径8.0~11.2cmを測る。底部はすべてヘラ切り。7は大坏cに入れられるか。

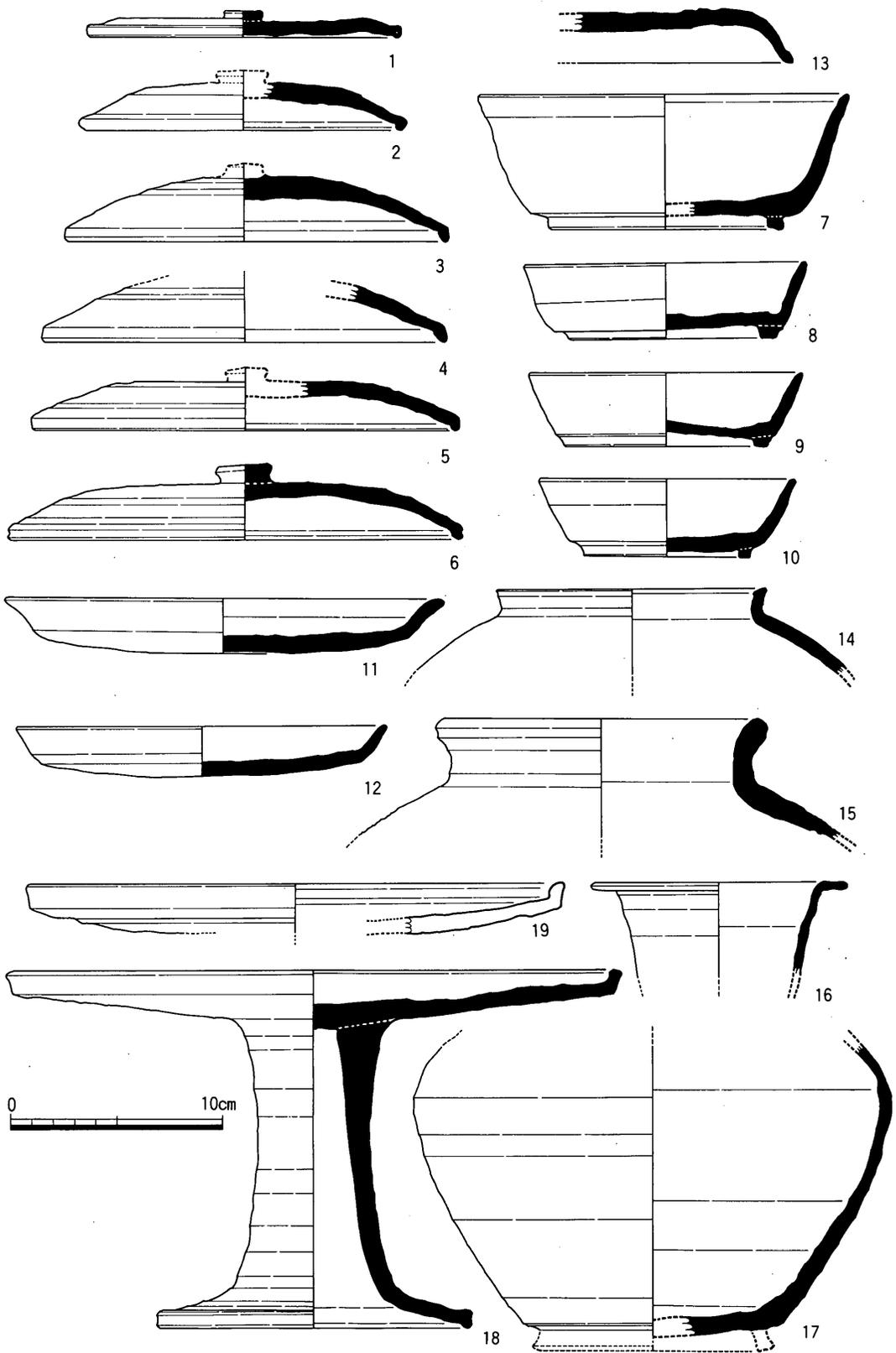


Fig. 100 89SK020出土遺物実測図(1)(1/3)

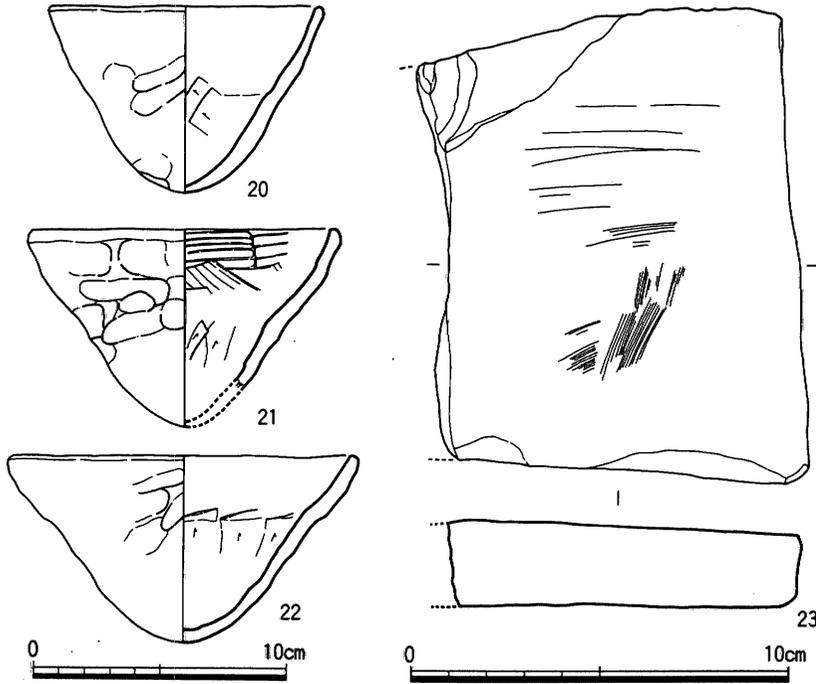


Fig.101 89SK020出土遺物実測図(2)(1/3・1/2)

高坏 b (18)

口径28.6cm、器高16.7cm、脚部径14.7cmを測る。坏部外面は回転ヘラ削り、内面はナデ。脚部内面は先の細いヘラ状工具で回転削りをおこなう。脚部にはしほり痕も残る。

皿 a (11・12)

口径17.6~20.9cm、器高2.3~2.5cm、底部径15.2~18.0cmを測る。底部は11

が回転ヘラ削り、12がヘラ切り後ナデをおこなう。体部は12が内湾ぎみに立ち上がるのに対し、11は外反している。

壺蓋(13) 天井部はヘラ切り後ナデ。つまみが付かず、天井部にヘラ削りをおこなわないことから、皿 a の可能性もある。

壺 a (17) 胴部最大径22.8cmを測る。高台は剥離している。内底部は自然釉がかかる。

壺 b (16) 口縁部の破片である。口径12.2cmを測る。

壺(14) 口径12.8cmを測る、短頸壺である。外面には自然釉がかかる。肩部に他の器物との溶着痕が残る。

甕(15) 口径14.9cm。口縁端部はまるい。外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕が残る。

土師器

高坏 b (19) 口径25.6cm。内面はミガキ a、外面は回転ヘラ削りを施す。

焼塩壺(20~22) 口径11.0~14.0cm。円錐状を呈する。外面は粗雑な指頭圧痕が残る。内面はヘラ削りをおもにおこない、21は上半にハケ目を施す。すべて二次焼成をうけ赤変している。口縁端部は薄く丸く仕上げている。II-b類。

石製品

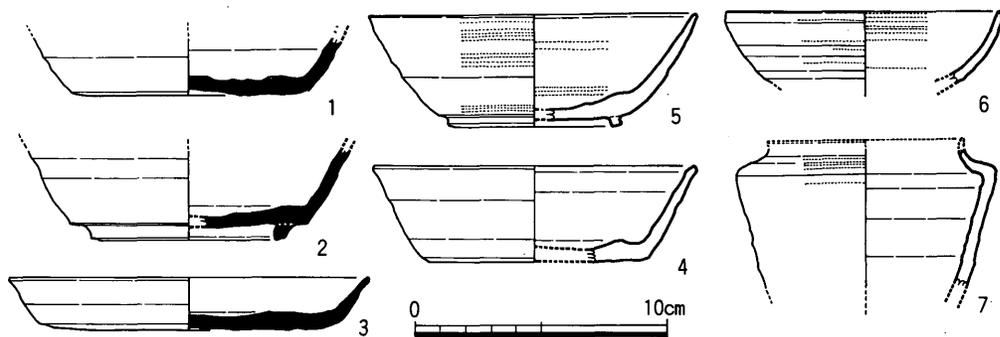


Fig. 102 89SK025出土遺物実測図(1/3)

砥石(23) 砂岩製。欠損していない4面はすべて使用されている。広い面の片側には部分的に敲打痕が残る。現存長12.4cm、幅9.9cm、厚さ2.3cm。

**89SK025出土遺物 (Fig.102)**

須恵器

坏 a (1) 底部径9.5cm。底部はヘラ切り後、ナデ。

坏 c (2) 高台径7.7cm。底部はヘラ切り後、ナデ。

皿 a (3) 口径14.4cm、器高2.0cm、底部径11.9cm。底部はヘラ切り。

土師器

坏 a (4) 口径13.3cm。底部はヘラ切り後、ナデ。内面には煤が付着する。

坏 c (5) 口径13.1cm。底部は回転ヘラ削り、他はミガキaを施す。口縁部から体部下位にかけて煤が付着する。

坏 d (6) 口径11.0cm。外面体部上半まで回転ヘラ削りをおこない、その上からミガキaを施す。内面はミガキa。

小壺(7) 最大径10.4cm。外面はミガキa。

**89SK030出土遺物 (Fig.103、Pl.31・32)**

須恵器

坏 a (1・2) 口径13.0cm、器高3.4~3.5cm、底部径8.9~9.0cm。底部はヘラ切り。

坏 c (3) 口径14.5cm、器高4.6cm、高台径9.4cm。底部はヘラ切り。

皿 a (4~6) 口径14.8~18.0cm、器高1.9~2.0cm、底部径12.1~15.4cm。底部はすべてヘラ切り。

土師器

蓋 b (7) つまみ径4.5cmを測る。天井部および内面はミガキaを施す。

坏 d (8) 底部径8.4cm。底部を回転ヘラ削り、他はミガキaを施す。外底部に墨書がある。

甕 a (9) 口径28.0cm。薄い口縁は大きく外反する。外面体部と口縁部内面にはハケ目があ

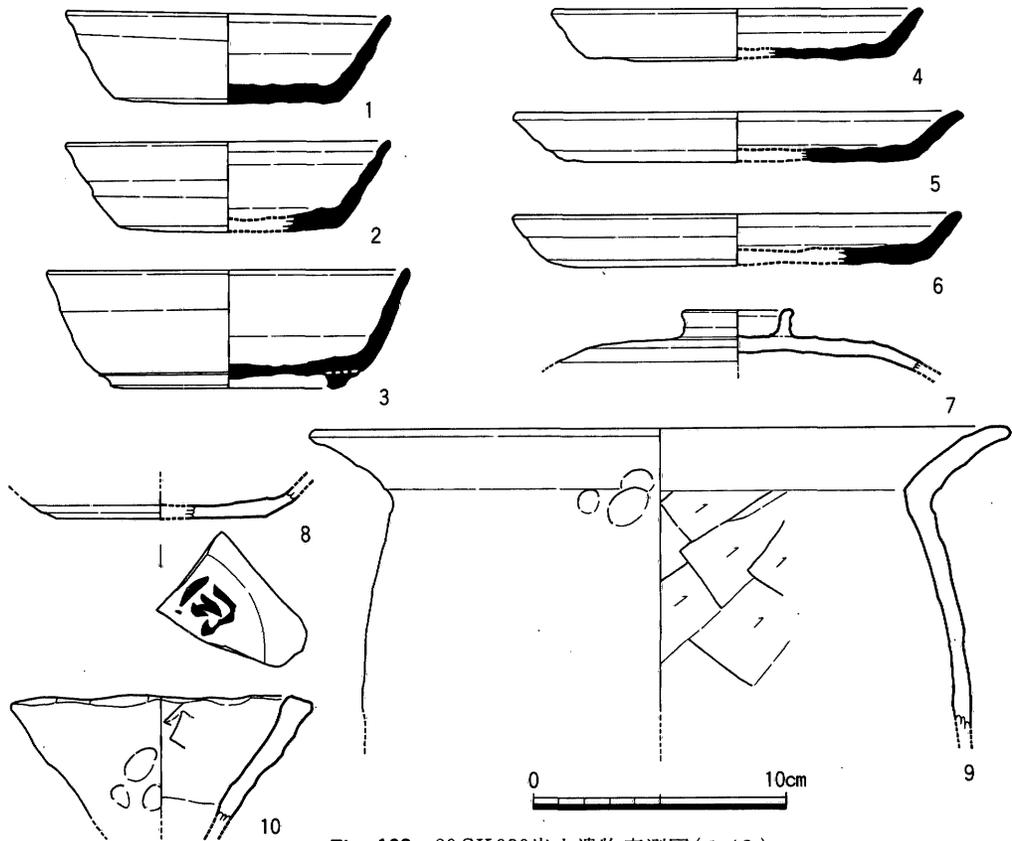


Fig.103 89SK030出土遺物実測図(1/3)

ったと考えられる。体部内面はヘラ削りをおこない、口縁部と体部の境には稜ができる。

焼塩壺(10) 口径12.0cm。円錐形状をする。外面は指頭圧痕が残る。内面はヘラ削りをおこなう。口縁部は厚い。二次焼成を受ける。器壁には白い斑点状のものが付着する。II-b類。

#### 89SK050出土遺物 (Fig.104・105、Pl.32)

##### 土師器

小皿 a (1~9) 口径9.6~11.75cm。底部はすべてヘラ切り。4は外面体部に黒斑がある。

小皿 a 2(10・11) 口径11.0cm。口縁端部に沈線がめぐる。底部はヘラ切り。

小皿 c (12) 口径11.6cm。底部はヘラ切り。細く高い高台がつく。

中椀 a (13~16) 口径12.3~13.0cm。外面はナデと指頭圧痕が残る。内面はナデ。底部はヘラ切り。13は中丸底坏 a にはいるかもしれない。

中椀 c (17) 口径12.8cm。器壁はやや厚く、尖った高台がつく。底部はヘラ切り。

丸底坏 c (18・19・22) 口径15.0~15.4cm。内面はミガキ b。

椀 c (20・21・23) 口径15.4・15.6cm。20は体部に屈曲をもつ。

##### 黒色土器

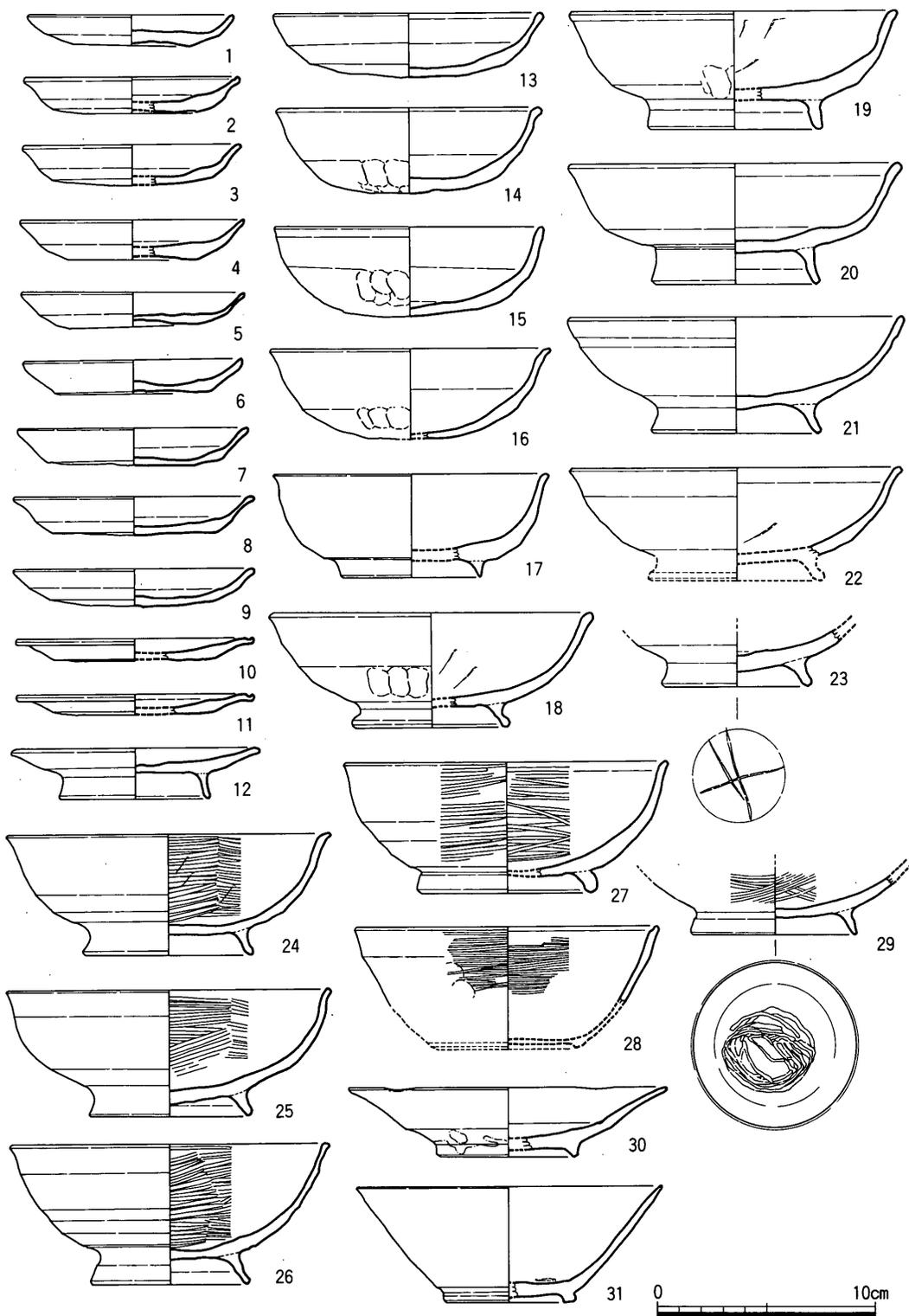


Fig. 104 89SK050出土遺物実測図(1)(1/3)

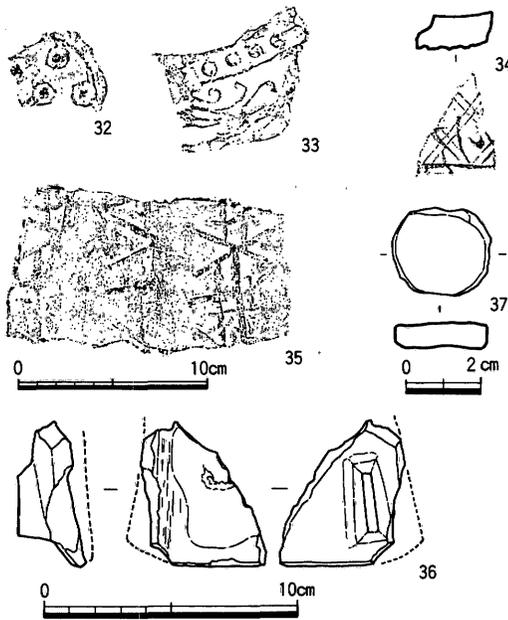


Fig. 105 89SK050出土遺物実測図(2)

(1/4・1/3・1/2)

までおこなう。畳付は釉を削り取っている。胎土は白色、釉は灰色味のある透明釉である。北宋系の白磁と思われる。

#### 越州窯系青磁

椀(31) 口径14.2cm、器高5.2cm、高台径6.1cm。高台は輪状高台を削りだす。体部は直線的にのびる。見込みと畳付に目跡がある。施釉はオリーブ色の釉が全面にかかるが、畳付はふき取る。I-2 a類。

#### 瓦

軒丸瓦(32) 中房部分の破片である。蓮子は1+6と考えられる。蓮子は周囲に段をもっている。

軒平瓦(33) 左から右に流れる偏行唐草文である。上外区に珠文を配する。I類。

平瓦(34・35) 34は凸面に「安」の左字をもつ。二重斜格子。IV-4類。35は「安楽之寺」を2本の縦線で消している。大きな斜格子目である。IV-1-b類。

#### 石製品

硯(36) 滑石製の風字硯片である。残存長5.7cm、高さ2.7cm、幅5.2cmを測る。内面は平滑になっており、使用したと考えられる。

#### 金属製品

37は用途不明の鉄製品である。略円形で扁平である。長辺2.6cm、短辺2.3cm、厚さ0.7cmを測る。

椀(24~29) 口径14.1~15.1cm、器高5.45~6.35cm、高台径7.3~8.35cmを測る。24~26はA類。底部はヘラ切りで、外面はナデと回転ヘラ削り、内面はミガキcをおこなう。27~29はB類。内外面ともにミガキcをおこなう。27には回転ヘラ削り、28には指頭圧痕が残る。29は外底部にもミガキcを施す。28は口縁端部に沈線がめぐり、畿内からの搬入品と考えられる。

#### 白磁

皿(30) 口径14.8cm、器高3.1cm、高台径6.6cm。体部は大きく開き、下位に屈曲がある。口縁端部には輪花があり復原すると5ヶ所になる。見込みには段が1段ある。外底部には焼台の跡がある。施釉は高台外側

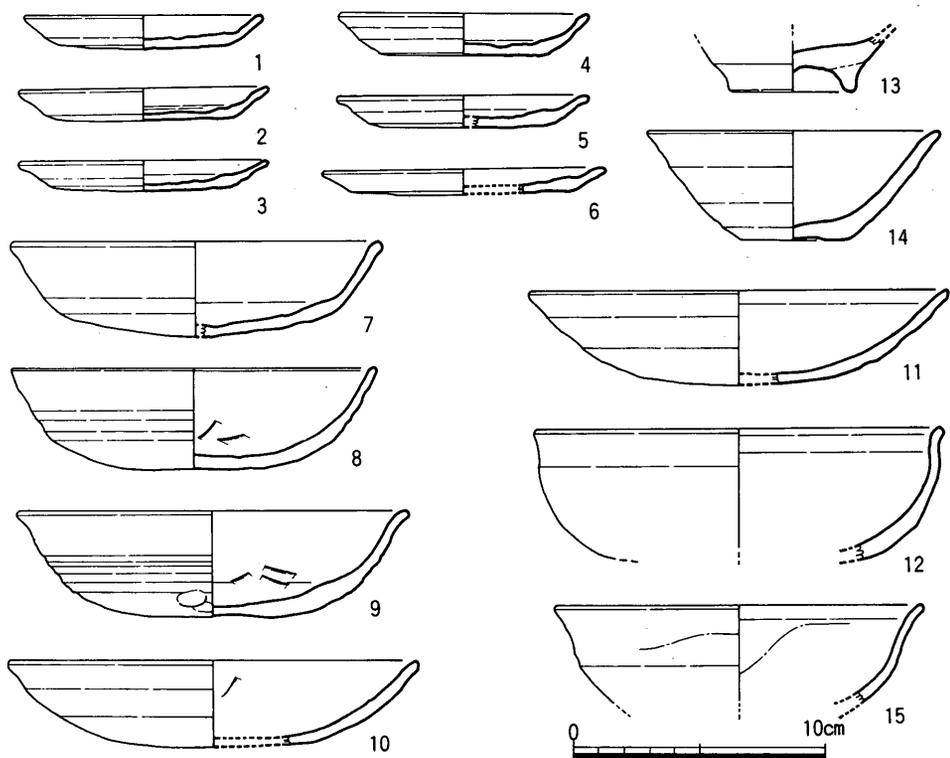


Fig.106 89SK055出土遺物実測図(1/3)

89SK055出土遺物 (Fig.106)

土師器

小皿 a (1～6) 口径9.6～11.4cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (7～11) 口径14.8～16.8cm。内面はミガキ b、7は不明。

坏(14) 口径11.8cm。底部はヘラ切り。他は横ナデをおこなう。外面口縁端部以下に赤色顔料がつく。搬入品と考えられる。

椀(12・13) 12は口径16.4cm。内面はナデもしくはミガキ bを施している。外面はナデ。口縁端部が外反する。

灰釉陶器

椀(15) 口径14.8cm。釉は口縁部を中心に体部中位程までかかる。浸け掛けと思われる。黄色味をおびた灰色の釉で、口縁部付近は褐色味がかかる。

その他、図示していないが平瓦で「平井」字を持つものがある。I-8-b類である。

89SK060出土遺物 (Fig.107, Pl.33)

土師器

小皿 a (1～3) 口径9.6～10.6cm。底部はヘラ切り。

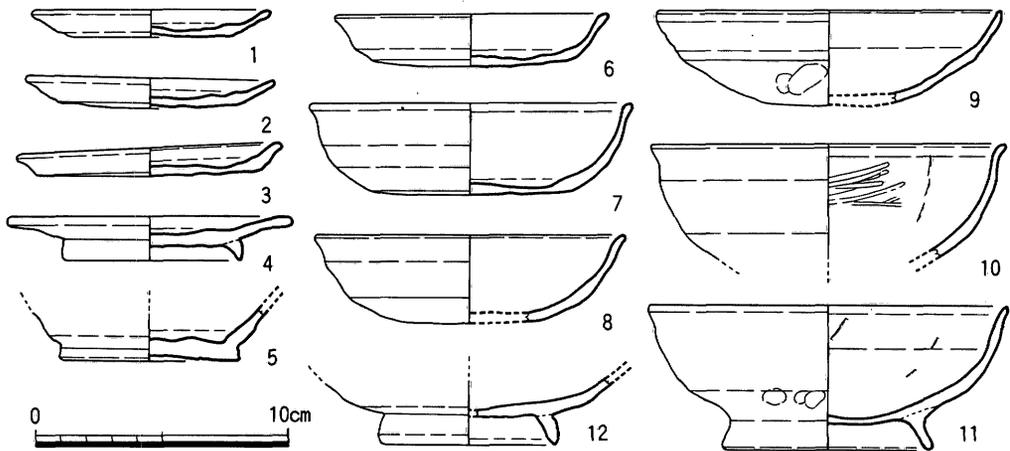


Fig.107 89SK060出土遺物実測図(1/3)

小皿c(4) 口径11.4cm。底部はヘラ切り。扁平な皿部に尖った高台がつく。

坏a(6) 口径11.0cm。底部はヘラ切り。

中丸底坏a(8) 口径12.4cm。内面はミガキb。

丸底坏a(9) 口径13.8cm。外面に指頭圧痕が残る。

丸底坏c(11) 口径14.4cm。底部はヘラ切り。内面はミガキb。体部下半に屈曲がある。

中碗a(7) 口径13.0cm。底部はヘラ切り、体部は横ナデを施す。口縁端部が少し外反する。

碗(5・10) 5は底部径7.2cm。底部はヘラ切り、外面は段を作り、高台風にしている。他は横ナデ。搬入品と考えられる。10は口径14.2cmを測る。内面にミガキc、外面は横ナデを施す。

#### 灰釉陶器

碗(12) 高台径7.0cm。内面は平滑になっているが調整は不明。外面は横ナデ。高台は少し湾曲するものを貼り付ける。

他に使用痕のあるフイゴの羽口が出土しており89SK055出土のものと同接合した。

#### 89SK065出土遺物 (Fig.108、Pl.33)

##### 土師器

坏a(1～5) 口径11.2～13.1cm。底部はヘラ切り。

碗c(6) 高台径8.5cm。体部は直線的にのびる。

碗(7～20) 7は口径13.7cm。直線的な体部に少し外反する口縁部がつく。8～20は円柱状の底部をもち、ややまるい体部に外反ぎみの口縁がつく。底部は高台風に見え、外面は指頭圧痕や上下からの押さえつけで段になっているものがある。底部処理はヘラ切りである。体部から口縁部にかけては非常に丁寧なナデを施している。14の底部にはヘラ記号様のものがある。薩摩からの搬入品の可能性が高い。

##### 黒色土器

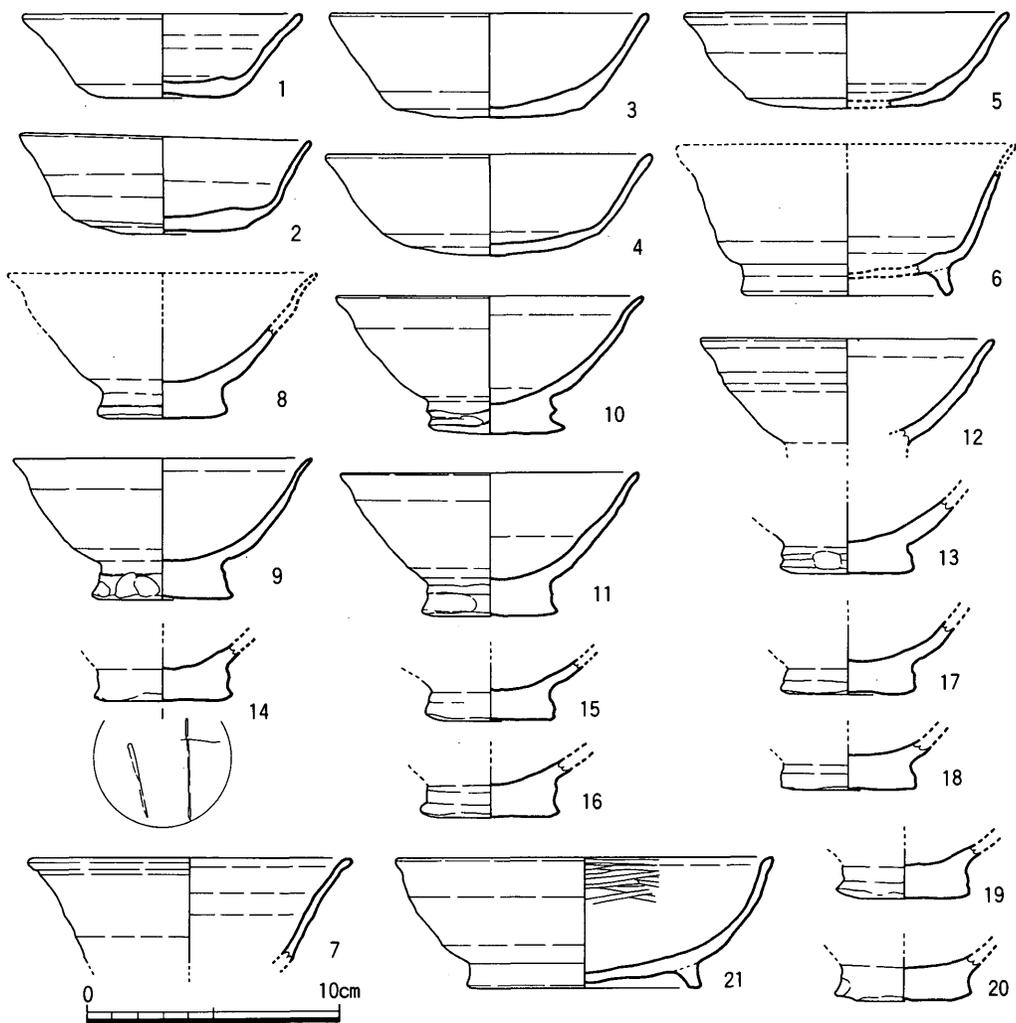


Fig.108 89SK065出土遺物実測図(1/3)

碗c(21) 口径15.2cm、器高5.1cm、高台径9.4cm。A類。底部はヘラ切り。内面はミガキcを外面体部は横ナデをおこなう。

他に図示しなかったが平瓦がある。凹面は布目、凸面に不規則な斜格子目のなかに左字で「小□瓦」の叩きがはいる。X類。

**89SK068出土遺物 (Fig.109)**

土師器

丸底坏a(1) 口径16.0cm。内面はミガキbをおこなう。

**89SK070出土遺物 (Fig.109)**

須恵器

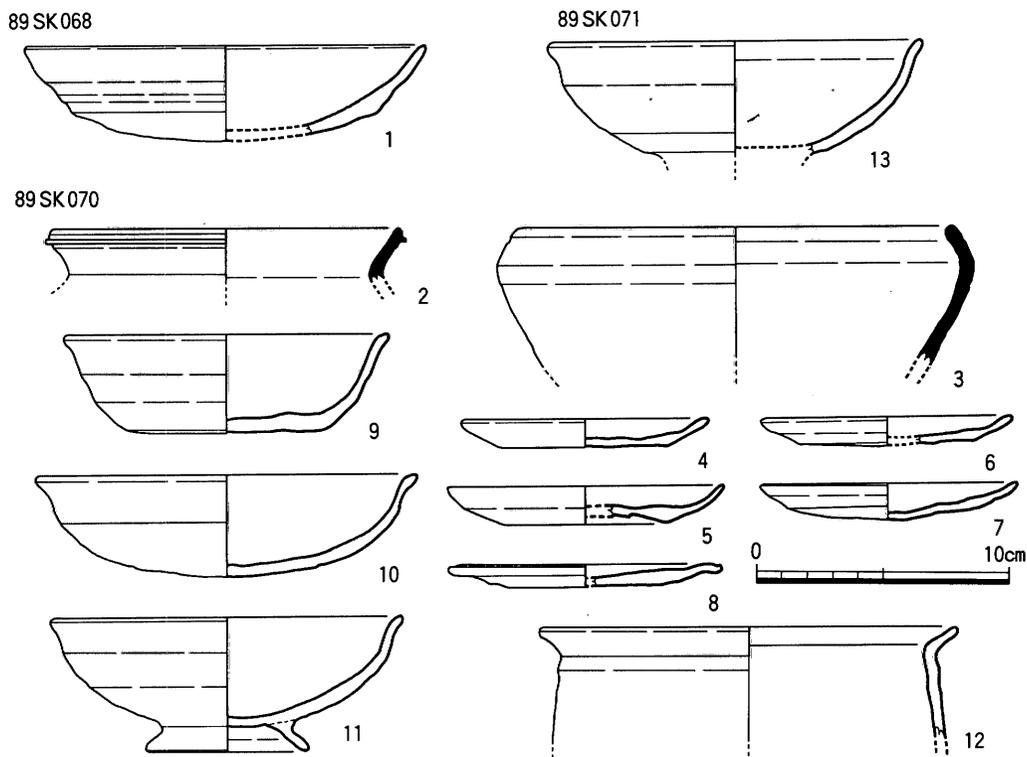


Fig.109 89SK068・070・071出土遺物実測図(1/3)

小甕 a (2) 口径13.7cm。口縁端部には沈線がめぐる。内外面とも自然釉がかかる。

鉢 a 3 (3) 口径17.0cm。内外面ともナデ。鉄鉢型と思われる。

土師器

小皿 a (4～7) 口径10.0～11.0cm。底部はヘラ切り。

小皿 a 2 (8) 口径11.0cm。底部はヘラ切り。

坏 a (9) 口径13.0cm。底部を糸切りする。搬入品と考えられる。

丸底坏 a (10) 口径15.3cm。内面はミガキ b。口縁端部が外反する。

丸底坏 c (11) 口径14.1cm。底部中央寄りに高台がつく。口縁部は少し外反する。

黒色土器

甕 (12) 口径16.7cm。外面は横ナデをおこない、煤が付着している。内面は磨滅して不明。A類。

89SK071出土遺物 (Fig.109)

土師器

碗 c (13) 口径15.0cm。内面はミガキ bと思われる。体部最下端には高台を接合した跡が残る。

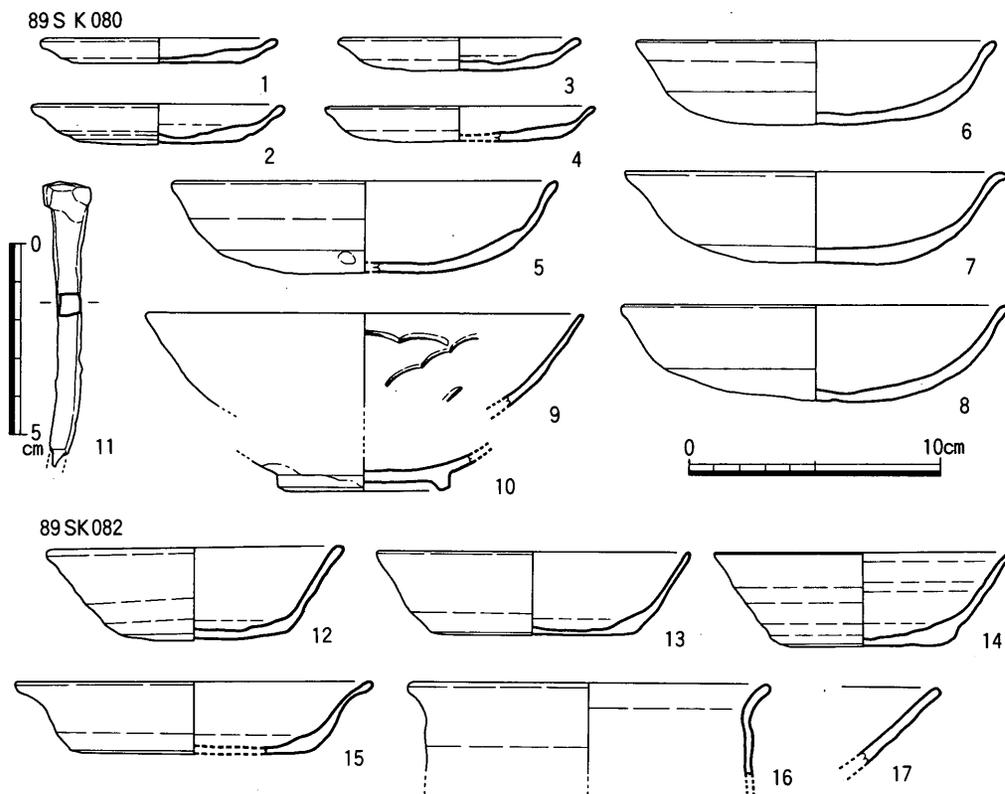


Fig.110 89SK080・082出土遺物実測図(1/3・1/2)

**89SK080出土遺物 (Fig.110)**

土師器

小皿 a (1～4) 口径9.6～10.9cm。底部はヘラ切り。

丸底杯 a (5～8) 口径14.5～15.5cm。内面のミガキ b はあまりはっきりしない。

越州窯系青磁

碗(9) 口径17.6cm。Ⅲ-b類。内面にヘラによる片彫りで花文を施す。釉は灰色をおびた淡緑色で全面に施釉する。

白磁

碗(10) 高台径7.0cm。高台外面まで施釉。黄灰色味をおびた透明釉。

金属製品

釘(11) 鉄製。断面四角形をなし、頭部を折り曲げている。現存長7.5cm。

**89SK082出土遺物 (Fig.110)**

土師器

杯 a (12～15) 口径は12～14が12.0～12.6cm。15は14.4cmとやや大きい。底部はすべてヘラ

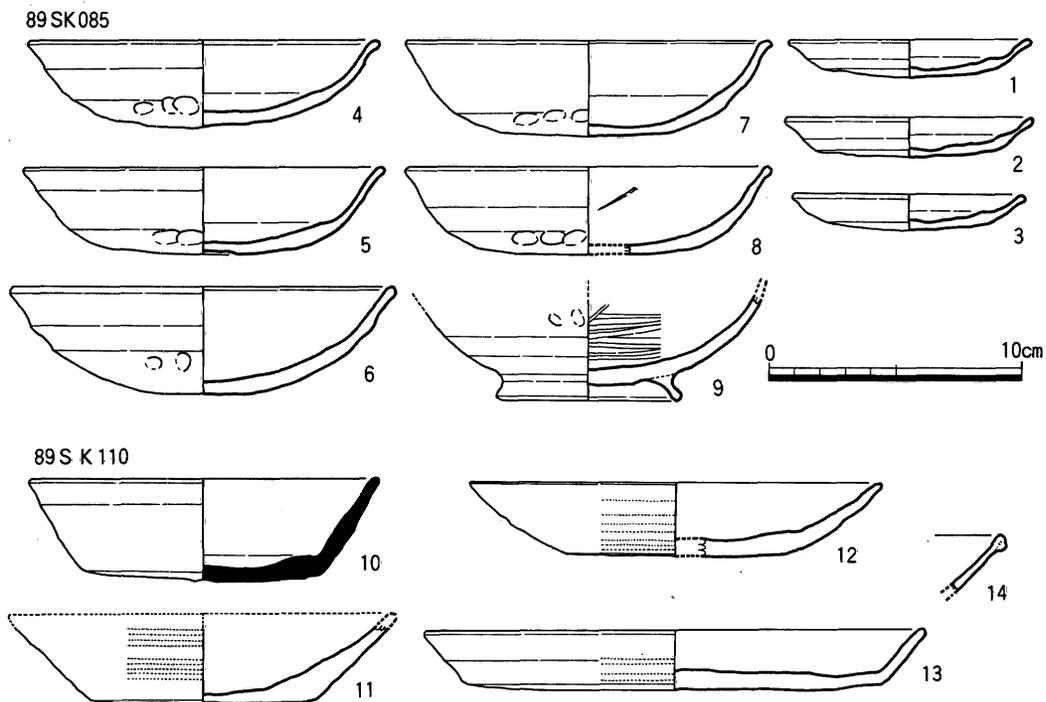


Fig.111 89SK085・110出土遺物実測図(1/3)

切り。体部は直線的に開くが、15だけ体部上半から口縁部を大きく外反させる。

黒色土器

小甕(16) 口径14.6cm。外面は横ナデ、内面はミガキcと思われる。外面には煤が付着する。

A類。

越州窯系青磁

17はI類で、大型の椀と考えられる。灰色味のある暗黄緑色で不透明の釉がかかる。

**89SK085出土遺物 (Fig.111)**

土師器

小皿 a (1～3) 口径9.4～10.0cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (4～8) 口径14.0～15.4cm。内面はミガキbを施す。

黒色土器

椀 c (9) 高台径7.4cm。内面はミガキcをおこない、外面は粗雑なミガキcで指頭圧痕がよく残っている。B類。

**89SK110出土遺物 (Fig.111)**

須恵器

坏 a (10) 口径14.0cm、器高4.0cm、底部径9.4cm。底部はヘラ切り。体部を横ナデする。

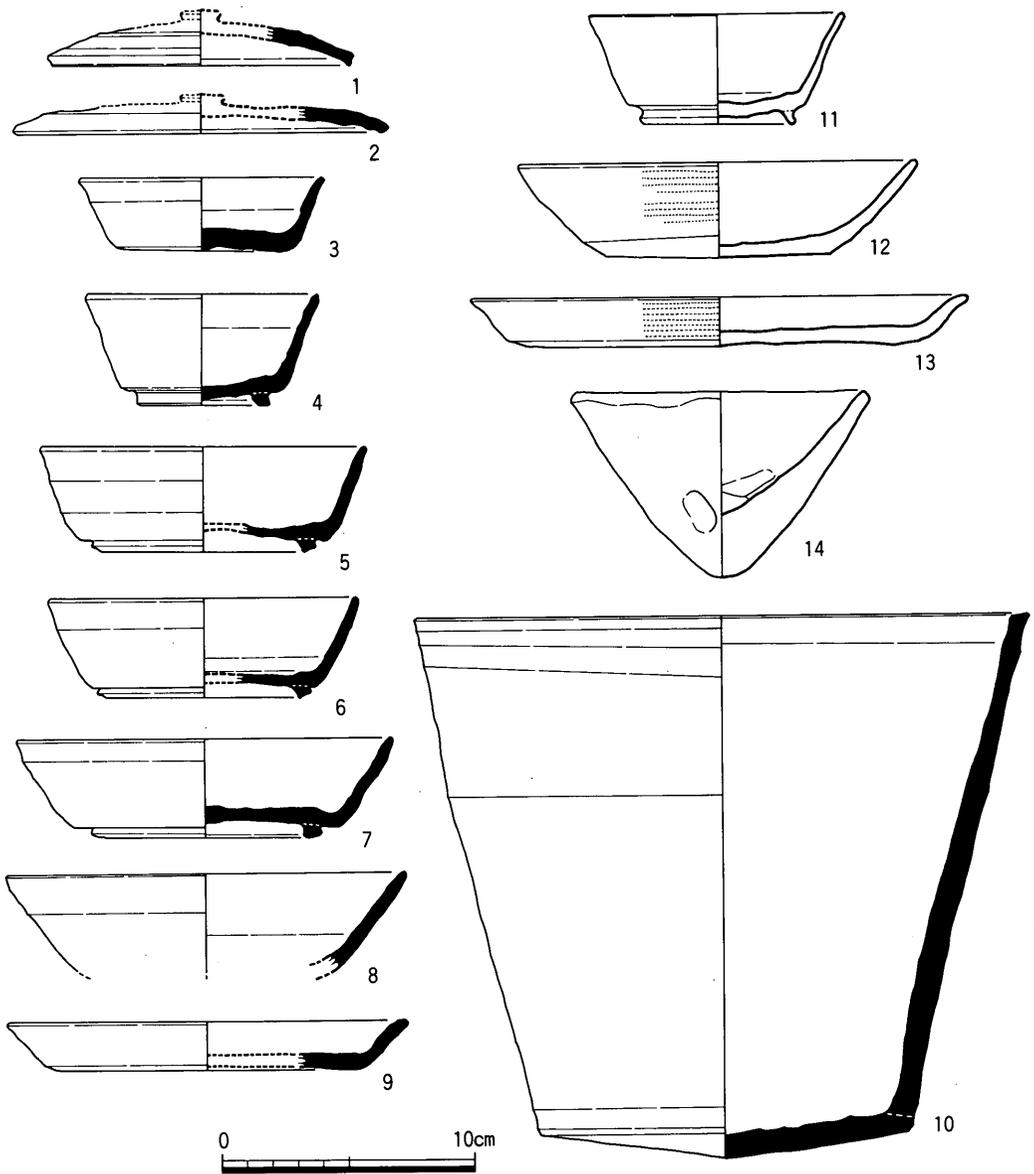


Fig.112 89SK115出土遺物実測図(1/3)

土師器

坏 d (11・12) 11は底部径9.0cm。底部を回転ヘラ削り、体部外面はミガキ a を施す。坏 d とするには体部の湾曲がなく、器壁が厚い。12は口径16.5cm。回転ヘラ削りは底部のみに施す。他はミガキ a。

皿 a (13) 口径20.0cm。底部は回転ヘラ削り、他はミガキ a をおこなう。

白磁

碗(14) I-1類。口縁部を折り曲げ玉縁にしている。わずかに空色をおびた透明釉がかかる。

**89SK115出土遺物 (Fig.112, Pl.34)**

須恵器

蓋3(1) 口径11.8cm。天井部を回転ヘラ削りする。

蓋4(2) 口径15.0cm。天井部はヘラ切り。

小坏a(3) 口径9.3cm、器高2.9cm、底部径6.3cm。底部はヘラ切り。

小坏c(4) 口径9.3cm、器高4.3cm、高台径5.4cm。底部はヘラ切り後ナデ。体部と底部の境は明瞭な稜をなす。

坏c(5~7) 口径12.4~15.1cm、器高3.9~4.1cm、高台径8.55~9.3cm。底部はヘラ切り。

碗(8) 口径16.0cm。体部外面下部は回転ヘラ削りを施す。他は横ナデ。

皿a(9) 口径16.1cm、器高1.9cm、底部径13.0cm。底部はヘラ切り。他はナデをおこなう。

鉢b(10) 口径24.6cm、器高21.1cm、底部径14.8cm。底部は平底であるが、少し尖っている。体部外面上位から底部にかけては回転ヘラ削りを施す。残りの体部と内面は横ナデ。口縁端部は平坦につくる。

土師器

小坏c(11) 口径10.2cm。底部は回転ヘラ削りをおこなう。底部と体部の境は明瞭である。

坏d(12) 口径16.0cm。底部から体部外面下位までは回転ヘラ削り、他はミガキaをおこな

う。

皿a(13) 口径20.0cm。底部は回転ヘラ削り、他はミガキaを施す。

焼塩壺(14) 口径12.2cm。円錐状をしている。器壁が厚く底部では2.5cmを測る。外面は指頭圧痕が残るが、凹凸は少ない。内面はヘラ削りをおこなう。二次焼成の跡ははっきりしない。II-b類。

**89SK120出土遺物 (Fig.113, Pl.34)**

土師器

皿a(1) 口径20.8cm。底部は回転ヘラ削りを施す。他はミガキaと考えられる。伏せて甕の蓋として使用していた。

小甕a(2) 口径17.6cm。外面は縦方向のハケ目、内面はヘラ削りをおこない、内

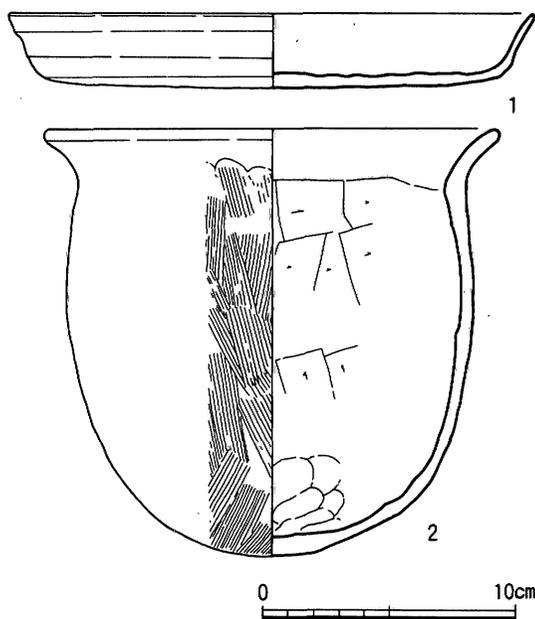


Fig.113 89SK120出土遺物実測図(1/3)

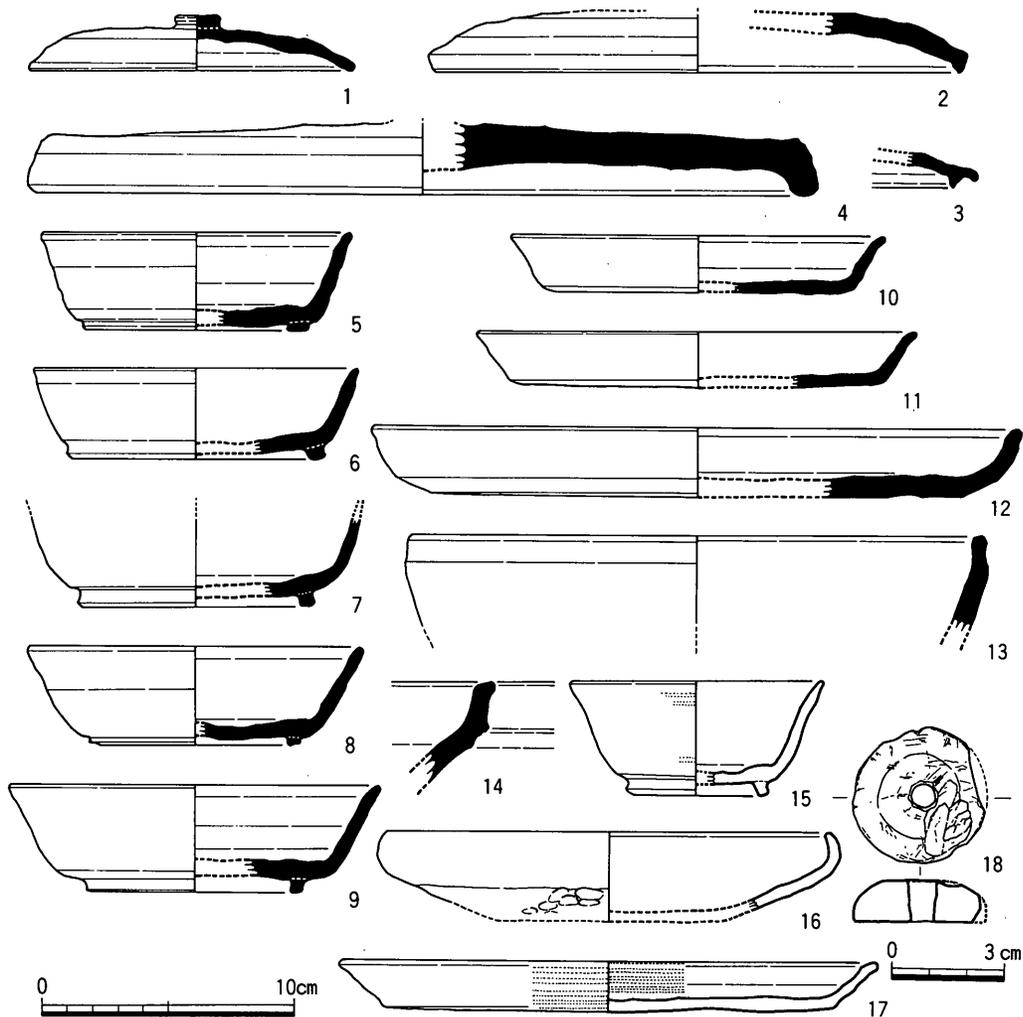


Fig.114 89SK122出土遺物実測図(1/3・1/2)

底部には指頭圧痕が残る。口縁部は横ナデ。

**89SK122出土遺物 (Fig.114, Pl.35)**

須恵器

蓋c4(1) 口径13.0cm、器高2.1cm。天井部はヘラ切り。口縁端部内面の窪みは目立たない。

大蓋3(2) 口径21.0cm。天井部は回転ヘラ削りを施す。

蓋(3) 小さな三角形のかえりがつく。

大蓋(4) 口径32.5cm。天井部は口縁近くまで回転ヘラ削りをおこなう。器壁は厚く重量感がある。身になる可能性もあり、天井部にはつまみ、または軸がつくと考えられる。

坏c(5~9) 口径12.4~14.8cm、器高3.5~4.2cm、高台径8.2~9.8cm。底部はヘラ切り、また

はヘラ切り後ナデを施す。7は外面体部から底部まで自然釉がかかる。

皿 a (10・11) 10は口径15.0cm、器高2.2cm、底部径12.5cm。11は口径17.7cm、器高2.15cm、底部径15.0cm。どちらも底部はヘラ切り後ナデ。口縁端部を少し外反させる。

大皿 a (12) 口径26.0cm、器高2.7cm、底部径21.1cm。底部から体部へ丸みをもって立ち上がる。口縁端部は丸い。底部は手持ちヘラ削り、底部と体部の境付近は回転ヘラ削り、他はナデを施す。高坏となる可能性もある。

鉢 (13) 口径23.3cm。口縁はわずかに内湾し、端部は平坦につくる。調整は横ナデ。

大甕 (14) 口縁の破片である。口径は20cm以上と考えられる。外反した頸部から上方にのびる口縁部がついている。端部は平坦につくる。

#### 土師器

小坏 c (15) 口径10.2cm。体部と内底部はミガキ a。外底部は不明。

皿 a (17) 口径21.6cm。底部は回転ヘラ削り、他はミガキ a を施す。

皿 b (16) 口径17.7cm。外面体部上半から内面は横ナデ、外面体部下半から底部には指頭圧痕が残る。

#### 石製品

紡錘車 (18) 滑石製。直径3.5cmで断面蒲鉾状をしている。中央の穴は上面で0.8cm、下面で0.6cmを測る。厚さは1.1cmである。

#### 89 SE 035 出土遺物 (Fig.115)

##### 土師器

小皿 a (1~12) 口径9.0~10.4cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (13~16) 口径14.6~15.4cm。内面はミガキ c。13・14は口縁端部を少し外反させる。

##### 黒色土器

碗 c (17) A類。口径は15.4cm。内面はミガキ c。外面は横ナデをおこなうが、指頭圧痕が残る。高台は剥離している。

##### 瓦器

碗 c (18) 口径15.0cm、器高5.7cm、高台径6.2cm。内底部から体部外面までミガキ c をおこなう。底部はナデを施す。

##### 瓦

軒丸瓦 (19) 複弁蓮華文である。中房の蓮子は1+6で、外区には珠文を配する。顎の部分はヘラ削りがおこなわれる。直径15.0cmを測る。

#### 89 SE 040 出土遺物 (Fig.116、Pl.35・36)

##### 土師器

坏 a (1~8) 口径10.8~11.4cm。底部はヘラ切り。4~6は底部と体部の境が明瞭。5は体

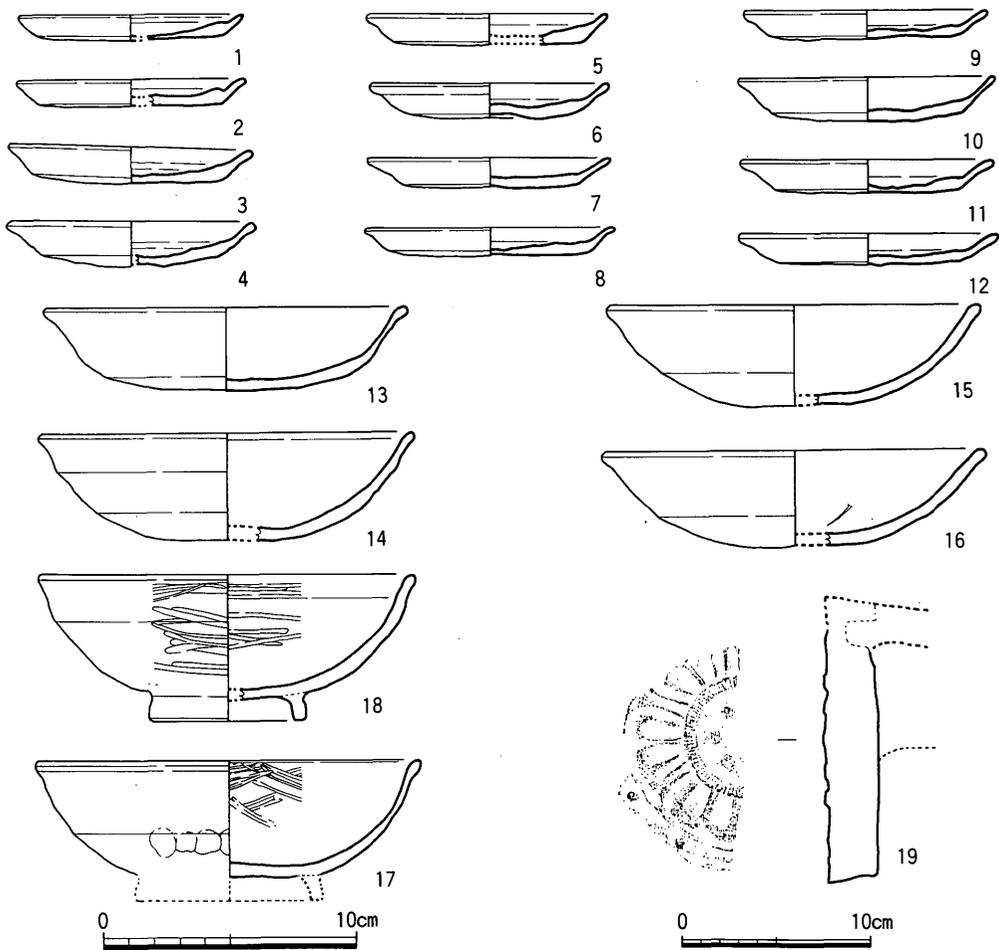


Fig.115 89SE035出土遺物実測図(1/3・1/4)

が直線的に立つ。4は器壁を薄く仕上げる。1は焼成前に外底から穿孔をおこなっている。

椀c(11~15) 13・15の口径は15.3cm。14・15の高台は細く高い。13の体部外面下端には黒色の漆様のものが付着する。

皿c(9・10) 口径12.0・12.4cm。底部はヘラ切り。10は円盤状の皿部に細い高台がつく。9は高台が剥落する。

鉢(16) 高台径18.0cmを測る。体部から底部の境に太い高台がつく。底部の処理は磨滅して不明。大椀の可能性もある。

#### 黒色土器

椀c(18) 口径15.3cm、器高5.9cm、高台径9.2cm。B類。外底部はナデ、他はミガキcと思われる。外底部には焼成後、線刻でヘラ記号様のものを入れる。

小壺(17) 口径14.3cm。A類。内面はミガキc、外面口縁部はミガキ、以下は横ナデをおこ

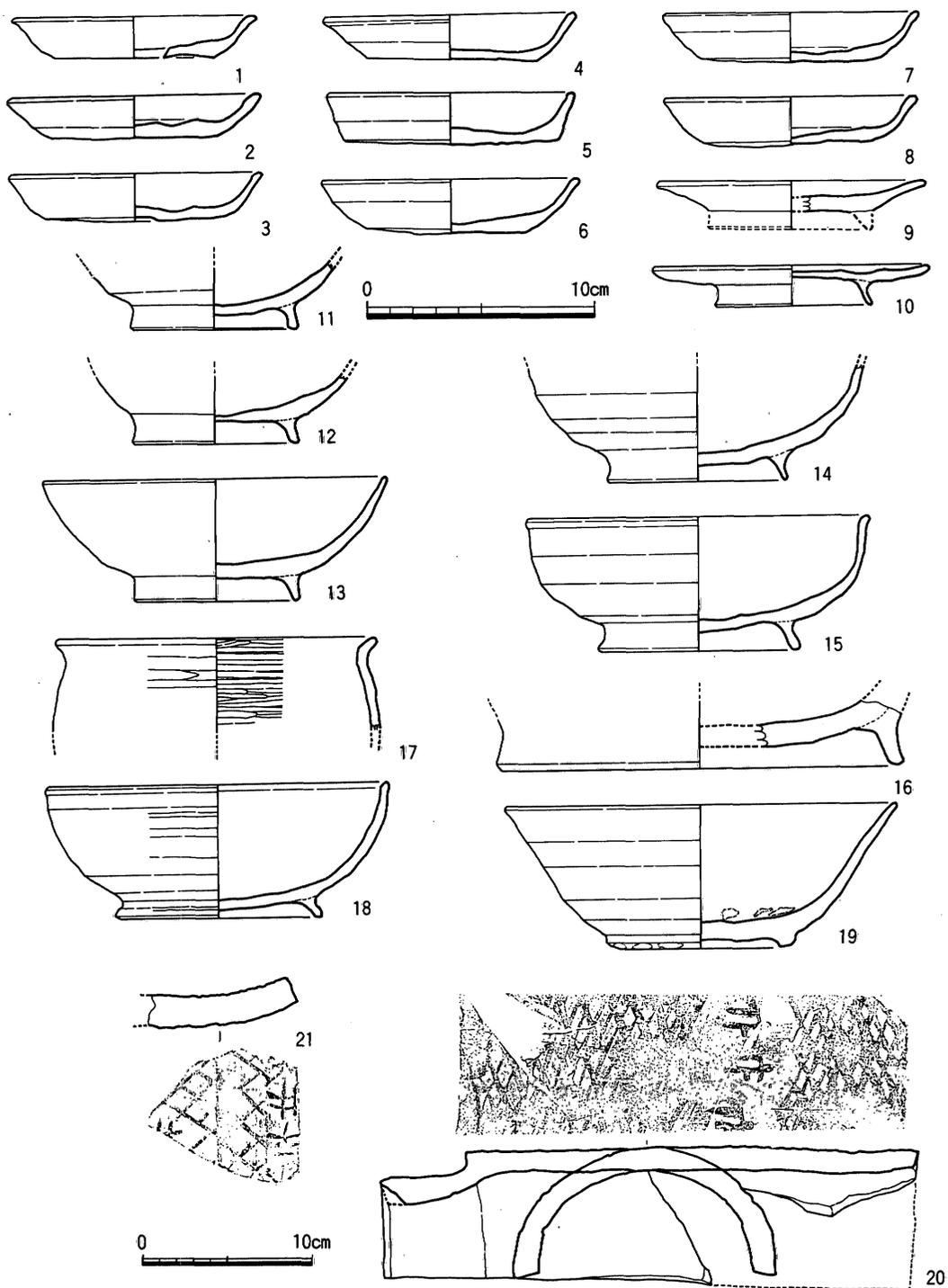


Fig. 116 89SE040出土遺物実測図(1/3・1/4)

なう。

越州窯系青磁

碗(19) 口径17.4cm、器高6.3cm、高台径8.4cm。I-2 a類。全面施釉後、高台畳付の釉を掻き取る。見込みには16ヶ所に目土が残る。釉は淡青灰色を呈する。

瓦

丸瓦(20) 文字瓦である。凸面の太い斜格子目のなかに「佐」字がはいる。II類。字体はII-8類に類似している。凹面は布目。

平瓦(21) 文字瓦である。斜格子目に「平井」字がはいる。I-7-a類。凹面は粗い布目。

89 SE 045出土遺物 (Fig.117、Pl.37)

須恵器

壺(7) 口径17.5cm。調整は横ナデ。

土師器

坏a(5) 口径10.4cm。底部はヘラ切り。小皿とするには体部が高く直立する。

丸底坏a(1・2) 口径13.4・15.6cm。内面はミガキb。口縁端部がわずかに外反する。

碗c(3・4) 3は口径13.8cm。体部内外ともナデ。4は口径14.0cm。体部は内外ともナデをおこなう。外面には2ヶ所に屈曲がある。細く高い高台がつく。

緑釉陶器

耳皿(6) 口径10.5cm、器高2.3cm、高台径5.6cm。底部は糸切り。高台畳付に段がある。口縁端部は外反している。釉は緑色をしており、ほとんど剥落している。胎土は須恵質である。

瓦

丸瓦(8) 文字瓦である。凸面に斜格子目と「平井」字がはいる。I-8-b類にはいるか。

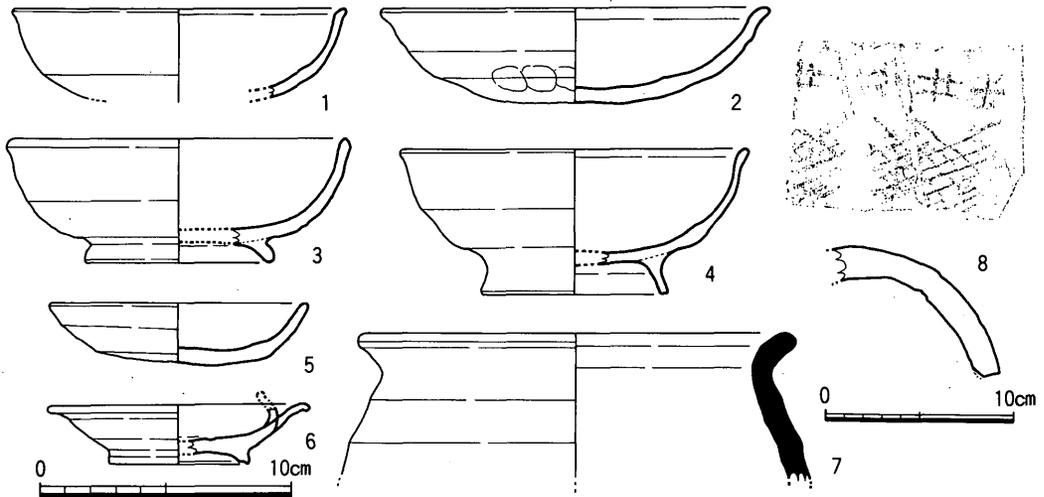


Fig. 117 89 SE 045出土遺物実測図(1/3・1/4)

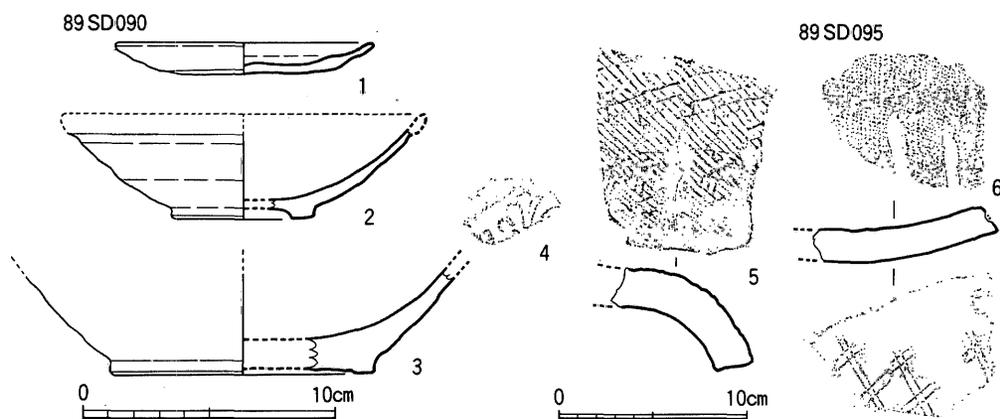


Fig.118 89SD090・095出土遺物実測図(1/3・1/4)

**89SD090出土遺物 (Fig.118、Pl.37)**

土師器

小皿 a (1) 口径10.4cm。底部はヘラ切り。

白磁

椀(2) 高台径5.7cm。I類。口縁端部の肥厚の具合から玉縁になると考えられる。全面施釉後畳付のみ釉を掻き取る。釉は淡い青色味をおびて透明。

越州窯系青磁

椀(3) 高台径10.6cm。I-2類。大型である。見込みと高台畳付に白色の目土が残る。釉は全面施釉後畳付のみ掻き取る。釉はオリーブ色で白濁する。

瓦

軒平瓦(4) 唐草文をもつ小片である。

丸瓦(5) 凸面に密な斜格子目を施す。文字があるように見えるが判読できない。凹面は粗い布目である。

**89SD095出土遺物 (Fig.118)**

瓦

平瓦(6) 凸面は細い二重斜格子、凹面は粗い布目がつく。

**89SD100出土遺物 (Fig.119、Pl.37)**

土師器

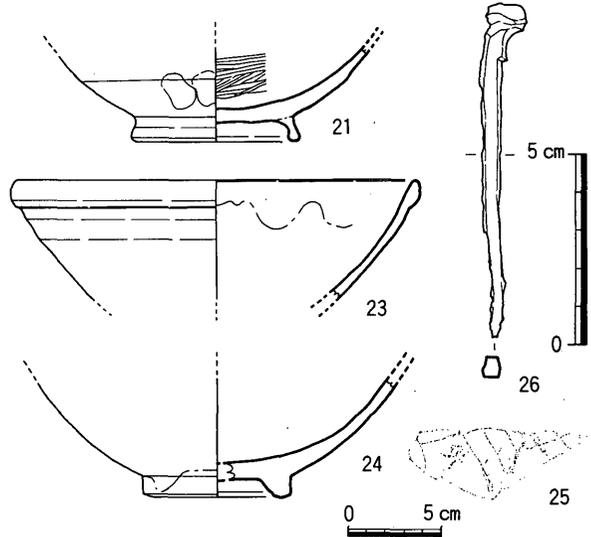
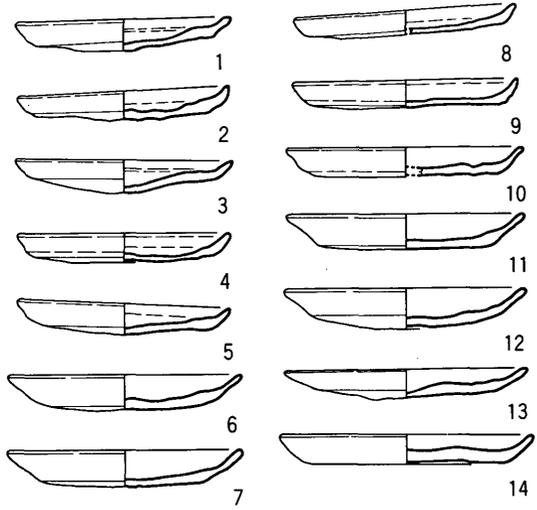
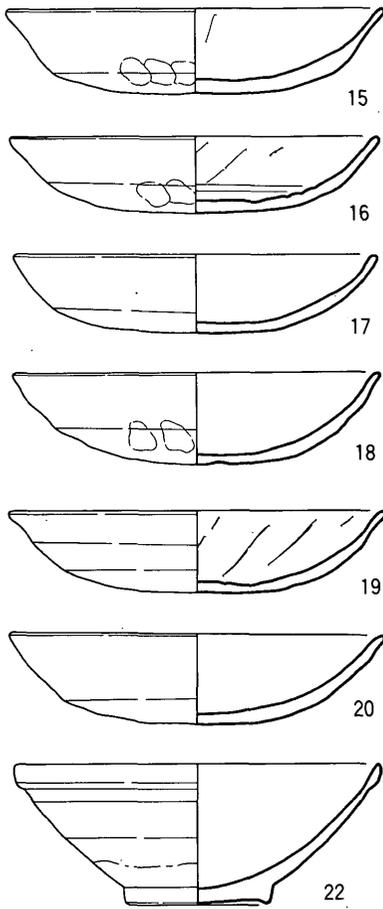
小皿 a (1~14) 口径8.6~10.2cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (15~20) 口径14.6~15.2cm。内面はミガキ b。

黒色土器

椀 c (21) 高台径6.8cm。体部外面下半には指頭圧痕が残る。内面はミガキ c をおこなう。

89SD100



89SD151

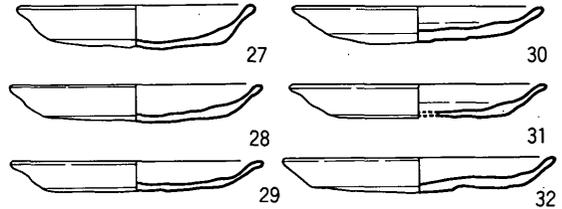
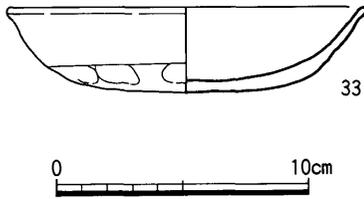
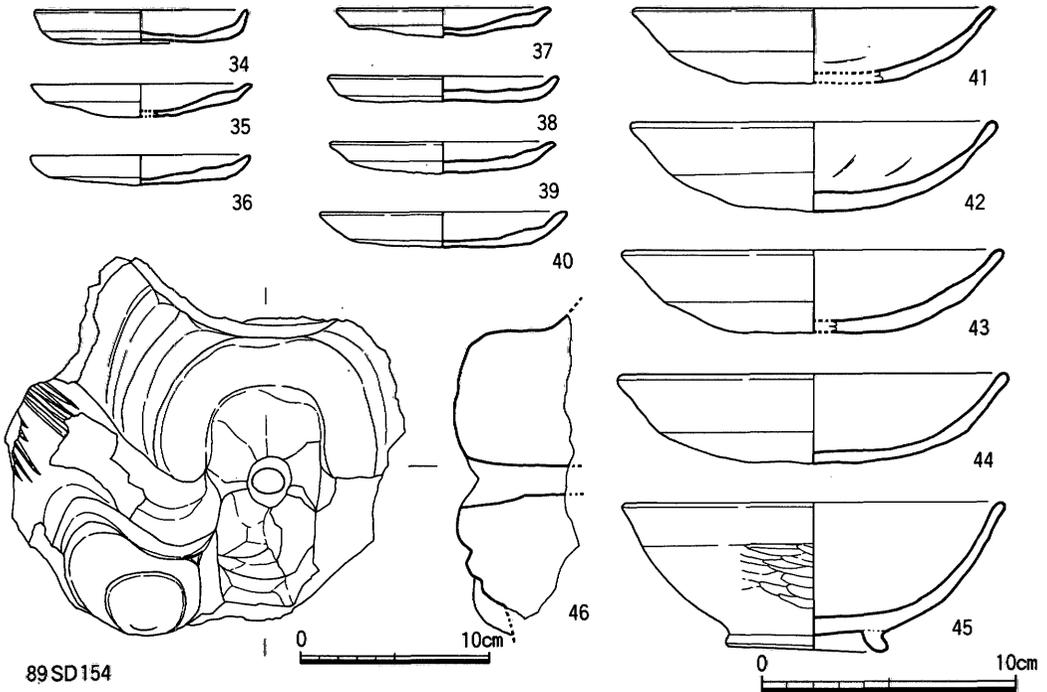


Fig.119 89SD100・151出土遺物実測図(1/3・1/2・1/4)

白磁

碗(22~24) 22は口径14.8cm。IV-1a類。やや扁平な玉縁がつく。体部下半まで施釉する。釉は灰色をおびた透明釉である。23は口径16.4cm。IV類。内面口縁付近に釉ダレがある。24は

89SD153



89SD154

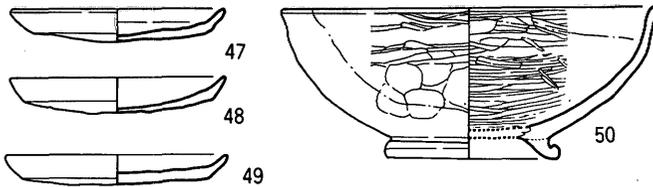


Fig. 120 89SD153・154出土遺物実測図(1/3・1/4)

高台径6.0cm。II類。施釉は高台際までおこなう。緑色味のある灰色の不透明釉である。

瓦

平瓦(25) 文字瓦である。

斜格子目のなかに「平」字がみえる。I-8類か。

金属製品

釘(26) 鉄製である。断面四角形で頭部は折り曲げる。現存長8.8cm。

89SD151出土遺物 (Fig.119)

土師器

小皿 a (27~32) 口径9.6~11.0cm。底部はヘラ切り。

丸底坏 a (33) 口径14.4cm。内面は磨滅して調整不明。体部外面には指頭圧痕が残る。

89SD153出土遺物 (Fig.120、Pl.37)

土師器

小皿 a (34~40) 口径8.6~9.9cm。底部はヘラ切り。底部が平坦なものや尖るものがある。

丸底坏 a (41~44) 口径14.1~15.7cm。内面はミガキb。

碗c (45) 口径15.3cm。内面から体部外面は幅の太いミガキcをおこなう。

瓦

鬼瓦(46) 大宰府政庁跡で出土した鬼面文鬼瓦と同系統のものと考えられる。額から右眼付近が残存する。力瘤のついた額と眉間、つり上がった眉、空豆状の眼をもつ。眉間には口径2.6cmの釘穴があけられ、裏面にむかって細くなっている。裏面は指頭圧痕が残るが、剝離面であることから、范型に粘土を押しつけた際のもと考えられる。したがって粘土を范型に継ぎ足していったことがわかる。鬼面文は范型によるが、細部はヘラ状工具を用いて調整している。残存するのは厚6.6cm、幅20.8cm、長さ19.8cmである。

**89SD154出土遺物 (Fig.120, Pl.37)**

土師器

小皿a (47~49) 口径8.6~8.9cm。底部はヘラ切り。

黒色土器

碗c (50) 口径15.1cm、器高5.9cm、高台径7.0cm。高台は外側に張り出す。口縁部で少し外反する。内外面ともにミガキcを施すが、体部外面下半と内底部は粗雑である。内面口縁付近から外面体部へかけての一部分に黒色の顔料（漆か）が塗布されている。

**89SD125出土遺物 (Fig.121)**

土師器

小皿a (1  
~3) 口径  
8.9~9.8cm。  
底部はヘラ切  
り。

丸底坏a(4  
~6) 口径  
14.3~15.7cm。  
内面はミガキ

bを施す。

黒色土器

碗c (7) 口径15.8cm、器高5.4cm、高台径6.5cm。外面体部上半から内面にかけてはミガキcをおこなう。A類。

**89SX049出土遺物 (Fig.122)**

須恵器

蓋c 3 (1) 口径20.2cm、器高3.2cmを測る。天井部は回転ヘラ削り。

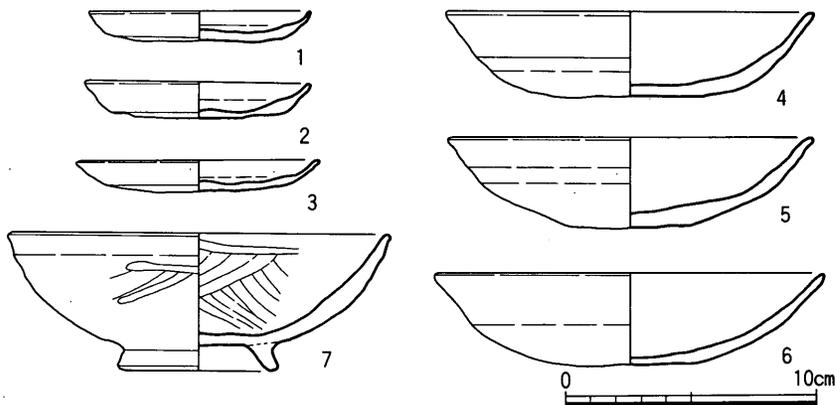


Fig.121 89SD125出土遺物実測図(1/3)

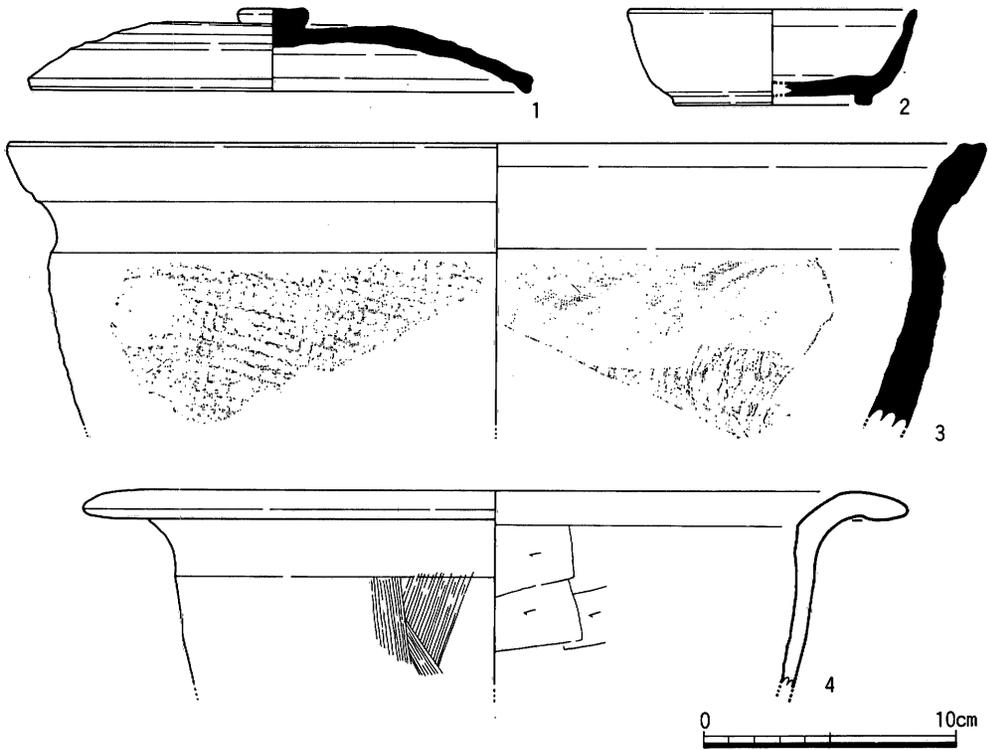


Fig.122 89SX049出土遺物実測図(1/3)

坏c(2) 口径11.6cm、器高3.8cm、高台径7.9cm。底部はヘラ切り後ナデを施す。

鉢(3) 口径39.8cmと大型である。口縁部と体部の境がくびれる。くびれ以下に外面は格子目叩き、内面は同心円の叩き当て具痕がある。

土師器

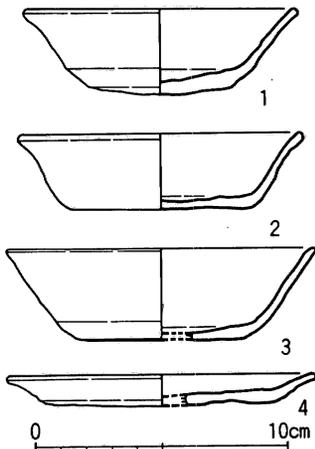


Fig.123 89SX074出土遺物実測図(1/3)

甕a(4) 口径33.0cm。体部外面は縦方向のハケ目、内面は横方向のヘラ削りをおこなう。口縁部内面には横方向のハケ目があったと考えられる。口縁部は強く外反しており、煤が付着している。

その他、焼塩壺片(Ⅱ類)が多く出土している。

89SX074出土遺物 (Fig.123)

土師器

坏a(1~3) 口径11.4~12.4cm。底部はヘラ切り。1は底部と体部の境が緩くなり始める。Ⅶ期のものか。

皿a(4) 口径12.4cm。底部はヘラ切り。体部は大きく開き、器高が低い。

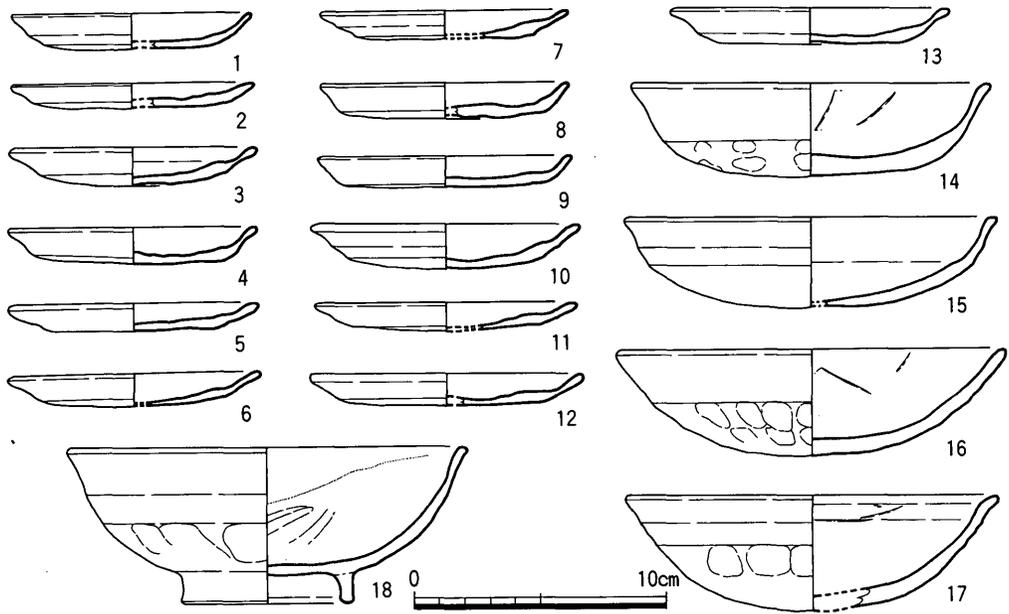


Fig.124 89SX075出土遺物実測図(1/3)

その他、瓦質の鉢、白磁碗(V類またはXII・XIII類と考えられる)があるが、混入の可能性が高い。

**89SX075出土遺物 (Fig.124)**

土師器

小皿 a (1~13) 口径は9.6~11.2cm。底部はすべてヘラ切り。

丸底杯 a (14~17) 口径14.4~15.7cm。内面はミガキbを施す。15は内面上部に段状のものがああり、口縁端部はわずかに平坦面を形成する。17は口縁端部を少し外反させる。

黒色土器

碗 c (18) 口径16.0cm、器高6.1cm、高台径6.9cm。A類。内面を黒化させるが口縁付近は十分に黒化されていない。内面はミガキc。外面体部上半は横ナデ、下半には指頭圧痕が残る。底部の処理はヘラ切りと考えられる。

**89SX076出土遺物 (Fig.125、Pl.37)**

土製品

1は埴塙又は取瓶の口縁部と考えられる。器壁は厚く2.5cmを測る。作りは粗く粘土の接ぎ目がわかる。内外面ともヘラ削りを施すと思われる。口縁端部は平坦につくる。内面は熱を受けて灰色に還元され、硬質になっている。外面は茶灰色で軟質である。口径は20cm以上と思われる。

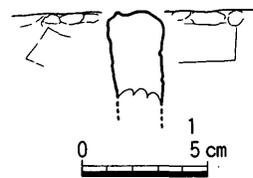


Fig.125 89SX076  
出土遺物実測図(1/3)

**89SX104出土遺物 (Fig.126)**

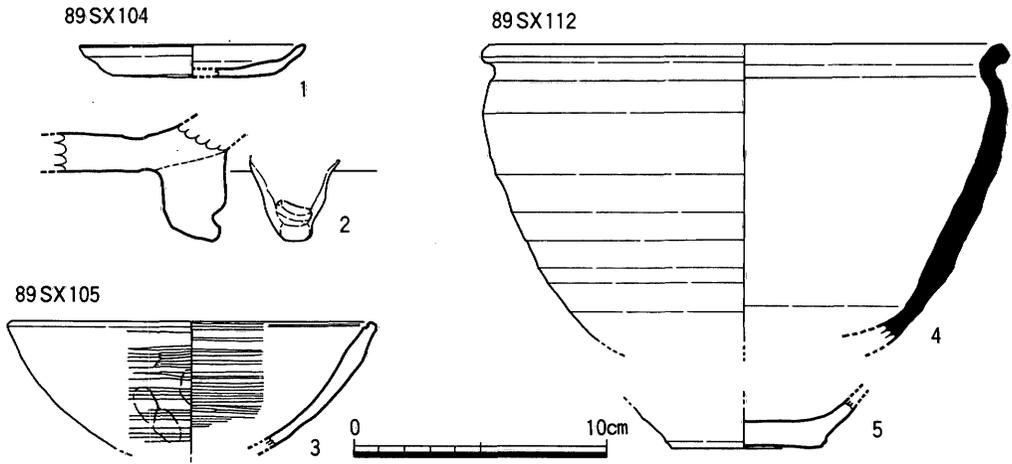


Fig.126 89SX104・105・112出土遺物実測図(1/3)

土師器

小皿 a (1) 口径9.0cm。底部はヘラ切り。

脚付鉢(2) 脚部分の破片である。調整はヘラ削りとナデでおこなう。外面下部に窪みを削り出す。獣脚を意識したと思われる。

89SX105出土遺物 (Fig.127)

瓦器

椀(3) 口径14.6cm。内外面ともミガキcを施すが、外面には指頭圧痕が残る。口縁端部内側に沈線が一条めぐる。内外とも灰色を呈する。畿内産か。

その他に図示していないが龍泉窯系青磁椀 I-5 b 類の小片が出土している。

89SX112出土遺物 (Fig.126, Pl.37)

須恵器

鉢(4) 口径20.3cm。口縁部と体部の境がくびれ、短い口縁がつく。体部外面下半には回転ヘラ削り、他はナデを用いる。

土師器

坏 a (5) 底部径6.2cm。底部は糸切り。体部と内面はナデ。搬入品と考えられる。豊前系のものか。

89SX135出土遺物 (Fig.127)

須恵器

皿 a (1) 口径12.0cm、器高1.4cm、底部径8.8

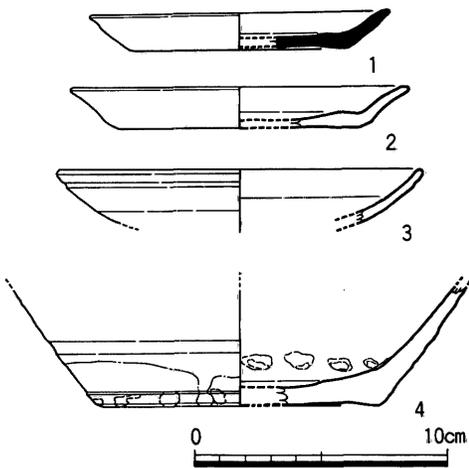


Fig.127 89SX135出土遺物実測図(1/3)

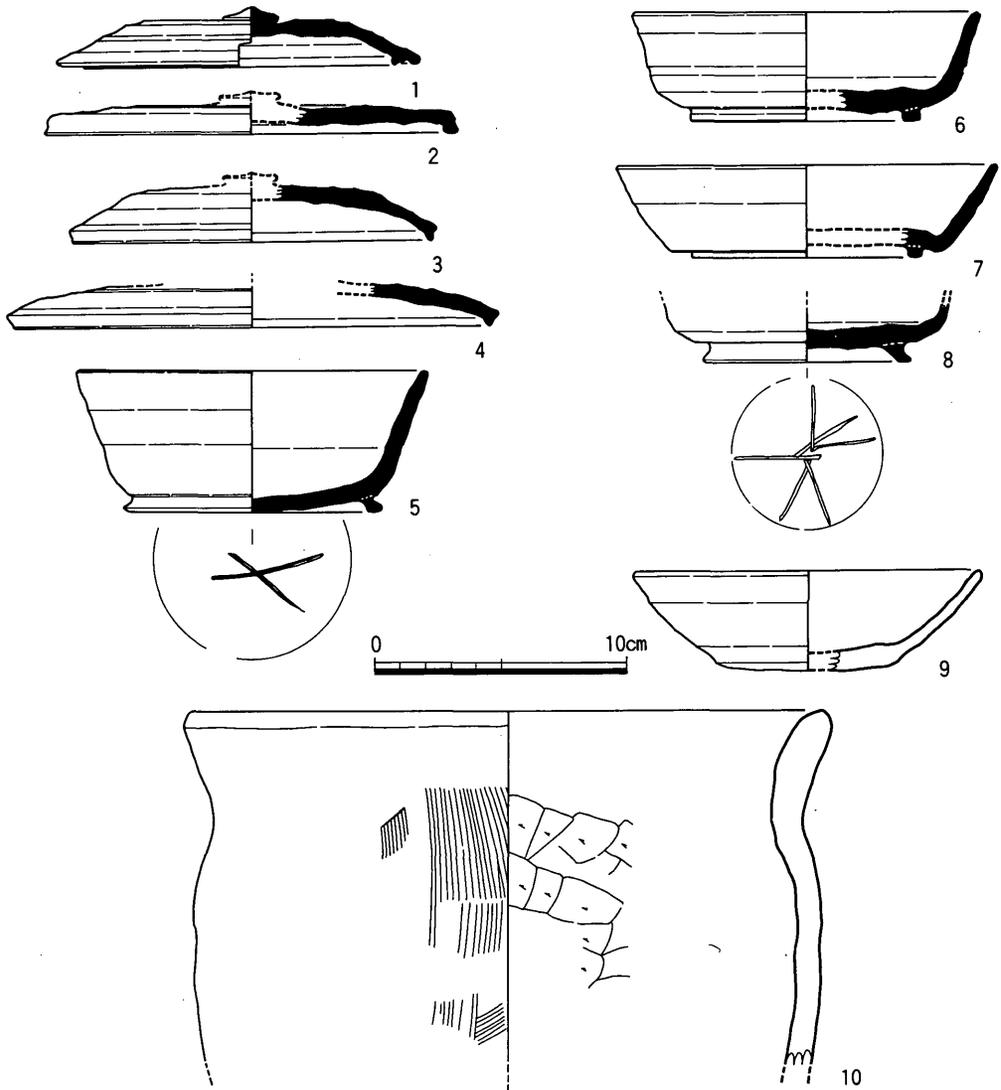


Fig. 128 淡灰色土出土遺物実測図(1/3)

他に坏 a の底部小片がある。Ⅶ～Ⅷ期のもと思われる。

緑釉陶器

椀(3) 口径14.6cm。口縁端部外面には沈線が一条めぐる。内面には体部中位に段をもつ。全面に施釉をする。釉は灰色味のある黄緑色で不透明。胎土は灰色で硬質。

越州窯系青磁

椀(4) 底部径11.0cm。底部は回転ヘラ削りをおこなう。見込みと外底端部に目跡がつく。施釉は内面と外面体部下半までおこなう。釉は灰色味のある黄緑色で不透明。Ⅱ-3 a 類。

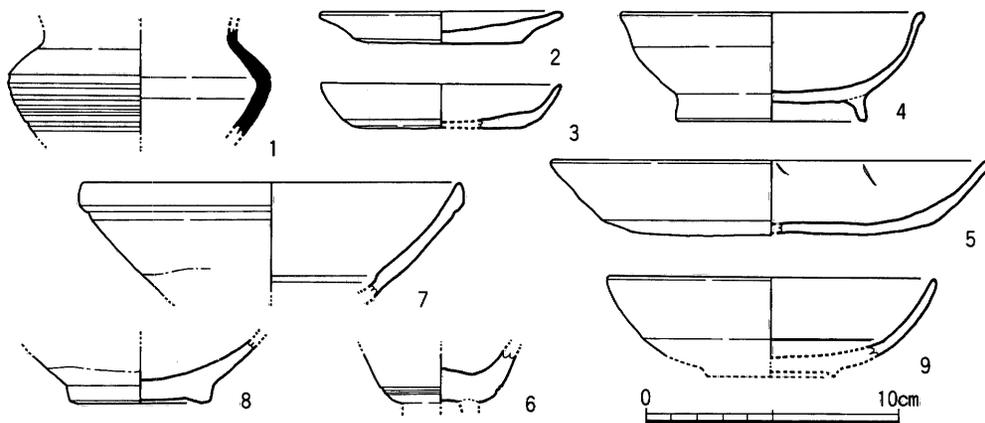


Fig.129 暗黒茶色土出土遺物実測図(1)(1/3)

碗(4) 底部径11.0cm。底部は回転ヘラ削りをおこなう。見込みと外底端部に目跡がつく。施釉は内面と外面体部下半までおこなう。釉は灰色味のある黄緑色で不透明。II-3 a類。

淡灰色土出土遺物 (Fig.128、Pl.38)

須恵器

蓋c 1 (1) 口径12.4cm、器高2.3cmを測る。天井部は回転ヘラ削り、他はナデをおこなう。口縁のかえりは口縁端部より少し突き出る。

蓋 2 (2) 口径16.5cm。天井部は回転ヘラ削り、他はナデをおこなう。つまみの接合痕が大きく、高坏の坏部になる可能性もある。

蓋c 3 (3) 口径14.4cm。天井部は回転ヘラ削り、他はナデをおこなう。天井部にはつまみの接合痕がある。

大蓋 3 (4) 口径19.0cmを測る。天井部は回転ヘラ削り、他はナデをおこなう。

坏c (5~8) 口径14.0~15.3cm、器高3.6~5.5cm、高台径8.3~10.4cm。高台を外へ張り出す5・8と断面四角形を示す6・7がある。5は体部が直線的にのびやや深い。底部処理は5がヘラ切り後ナデ、他はヘラ切りと思われる。5・8には外底部にヘラ記号がある。5は先端が鋭利な工具、8は平坦な工具でつけている。

土師器

坏 a (9) 口径14.9cm。底部はヘラ切り、他はナデで仕上げる。形態は坏dに類似するが、回転ヘラ削り、ミガキaが施されていない。

甕 a (10) 口径25.4cm。口縁部と体部は少しくびれるだけで、稜をもたない。体部外面は縦方向のハケ目跡が残る。内面は雑なヘラ削りを施す。外面体部下半には煤が付着している。

暗黒茶色土出土遺物 (Fig.129・130)

須恵器

小壺(1) 小型の短頸壺と思われる。胴部最大径10.6cm。胴部下半にカキ目を施す。他は横ナデをおこなう。

#### 土師器

小皿a(2・3) 口径9.7・9.8cm。ともに底部はヘラ切り。3は器高がやや高い。口縁内外に油煙が付着する。

坏a(5) 口径17.7cmとかなり大きい。底部はヘラ切り。内面にミガキb痕が残る。押し出しが不十分な丸底坏aとも考えられる。

中碗c(4) 口径12.2cm。底部はヘラ切り後ナデ。他はナデを施す。高台はやや高めで少し内湾している。体部は中位で少し屈曲する。

#### 灰釉陶器

小壺(6) 底部付近の破片と考えられる。外底部には接合痕があり、高台が剥離したものであると思われる。釉は全体にかかっており、黒灰色を呈する。二次的に熱を受けたと考えられる。胎土は灰白色から淡褐色である。

#### 白磁

碗(7・8) 7は口径15.0cm。IV類。黄色味をおびた灰白色の不透明釉がかかる。8は高台径5.6cm。IV-1類。灰白色の不透明釉がかかる。

皿(9) 口径13.3cm。VII-2 a類。体部は内湾し内面には段をもつ。わずかに空色がかかる透明釉がかかる。

#### 金属製品 (Fig. 130、Pl.38)

分銅(1) 青銅製の鋳造品と考えられる。側面は笠形を示す。頂部に扁平な方形の鈕がつく。笠部は断面三角形の稜で6分割され、その間にさらに小さな断面三角形の稜が二つずつはいる。上面からはほぼ六角形に見える。笠部の下は短い円柱状を呈する。器高2.3cm、笠部の最大幅2.9cm、円柱径2.05cm、円柱高0.3cm、鈕高0.35cm、重量は46.5gを測る。鋳造後の加工痕は不明である。内部は中空で円柱状の部分に重心がある。鈕は中心を少しずれて取り付けられている。

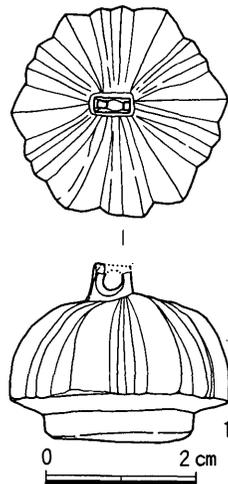


Fig. 130 暗黒茶色土出土遺物実測図(2)(1/1)

## 5) 小結

今次調査では南北の道路状遺構とその両側の様相を一部検出した。遺構面は二面で8～11世紀の遺構群が展開している。下層が8世紀代で上層が9～11世紀代のものと考えられる。

遺構群は道路状遺構のすぐ西側一帯は大小の土塊群で占められている。その密度は高く、選地するにあたり物理的または習慣的規制があったと考えられる。井戸の底の標高はいずれも約

次調査より1mほど低くなっている。

道路状遺構（89SF150）と下層遺構を覆う淡灰色砂質土の関係は、側溝がその上面から掘り込まれていることから上層遺構面で機能していたことは確実である。一方淡灰色砂質土を除去すると路面が盛り上がった状態に取り残される。このことは地山を削り盛り上がった路面を構築したのか、路面をのぞき整地をおこなったかであろう。その際の整地は客土をするのではなく、現状での凹凸を一度起耕して均す方法によるものと考えられる。いずれにしろ路面は淡灰色砂質土堆積以前から機能していたと考えるのが妥当であろう。

遺物では金属製の分銅、焼塩壺が注目される。金属製の分銅は大宰府では初例である。出土層位が包含層なので時期の限定が難しいが、他の例から古代のものと考えられる。

調査区北西部で焼塩壺が集中して出土している。これは大宰府史跡第70次調査のSD1830、第120次調査のSX3600の例のように厨的性格の施設を考えてよいのかもしれない。

Tab.1 溝任意中点座標値

遺構番号	P* 位置	遺構中点座標値		方位	南門からの距離**	
		X	Y		X方向 (m)	Y方向 (m)
89SD090	北P	55,951.00	-45,015.90	N-0° 35' 48" -E	-759.595	-187.578
	南P	55,941.40	-45,016.00		-769.196	-187.581
89SD100	北P	55,954.40	-45,019.90	N-0° 00' 00" -E	-756.236	-191.611
	南P	55,942.10	-45,019.90		-768.534	-191.490
89SD105	北P	55,943.40	-45,018.50	N-6° 42' 35" -E	-767.221	-190.101
	南P	55,941.70	-45,018.70		-768.923	-190.285
89SD125	北P	55,952.30	-45,017.70	N-1° 13' 08" -E	-758.313	-189.393
	南P	55,947.60	-45,017.80		-763.014	-189.443
89SD151	北P	55,947.30	-45,019.40	N-0° 00' 00" -E	-763.329	-191.043
	南P	55,946.20	-45,019.40		-764.430	-191.031
89SD152	北P	55,947.60	-45,020.00	N-4° 23' 55" -E	-763.035	-191.645
	南P	55,946.30	-45,020.10		-764.337	-191.732
89SD153	北P	55,952.40	-45,020.10	N-8° 39' 09" -W	-758.237	-191.793
	南P	55,947.80	-45,019.40		-762.829	-191.047
89SD154	北P	55,952.40	-45,019.00	N-7° 25' 53" -E	-758.226	-190.692
	南P	55,945.50	-45,019.90		-765.135	-191.552
89SD155	北P	55,952.30	-45,019.50	N-1° 23' 50" -W	-758.332	-191.191
	南P	55,948.20	-45,019.40		-762.430	-191.049
89SF150	北P	55,952.30	-45,017.70	N-1° 04' 15" -E	-758.313	-189.393
	南P	55,941.60	-45,017.90		-769.014	-189.485

\* 北Pは溝検出北端に近い位置の任意中点  
南Pは溝検出東端に近い位置の任意中点

\*\* X方向の-値は政庁から南へ移動したことを示す  
Y方向の-値は中軸線から西へ移動したことを示す

### Ⅲ 調査のまとめ

今回報告をおこなった地域はいずれも8～11世紀に展開し、その間に8世紀末から9世紀初頭の地山に似た整地層を挟む。この状況は通古賀の集落から鷲田川にかけてかなり広範に存在している。しかし一方では道路状遺構89SF150のように整地をされない部分もある。これはこの時期に道路などの部分を除き大きく改変されたことを示している。その理由は不明であるが、なんらかの強制力を考えざるをえない。

遺物はイスラム陶器、金属製分銅、焼塩壺をはじめ、各時代の公的施設や輸入陶磁器を入手・使用できる階層の人々の住居で出土するといわれるものである。

これらのことは、筑前国府の存在を含め、当該地の土地利用を知る手がかりになるが、現状では国府や邸宅に直接関わるような遺構は確認できておらず、今後の調査を含め検討していかなければならない。

#### 1. イスラム陶器について

第81次調査では5点のイスラム陶器が出土したが、いずれも類似した胎土・釉をもっている。これらはその特徴から初期イスラム陶器（8世紀中頃～11世紀前半）に区分される。日本での初期イスラム陶器の出土例はTab. 8<sup>1</sup>のとおりでいずれも北部九州での出土である。器種もすべて大壺と考えられ、これは東アジアへの貿易品とされているが、一方で容器として渡ってきた可能性も指摘されている。また、日本に持ち込まれたのは、直接イスラム世界からなのか、中

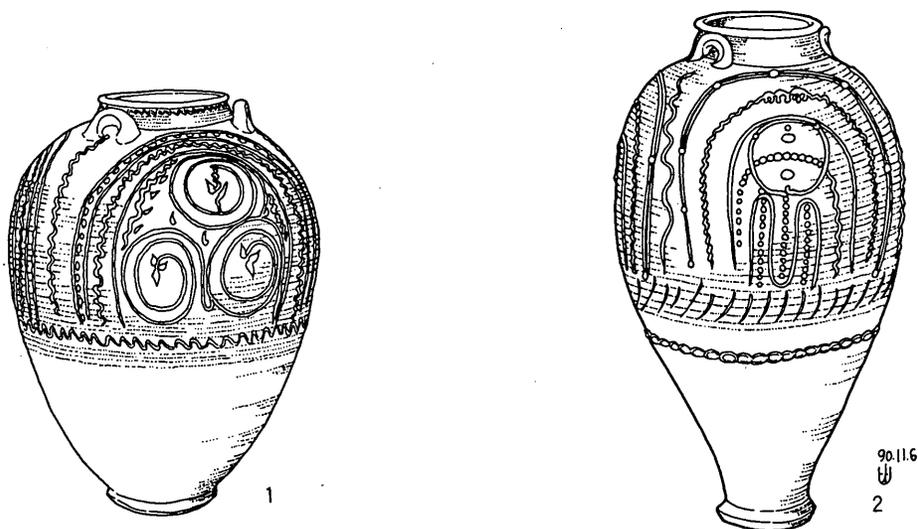


Fig.131 初期イスラム陶器大壺復原図（山本信夫 作画）

Tab. 8 初期イスラム陶器出土地一覧

遺 跡 名	調査年	文 献
大宰府条坊跡第19次	1981	『大宰府条坊跡Ⅲ』太宰府市教育委員会 1984
大宰府条坊跡第34次	1982	未報告
大宰府条坊跡第81次	1989	未報告
筑後国府跡第69次	1986	『筑後国府跡』久留米市教育委員会 1987
筑後国府跡第86次	1989	『筑後国府跡・国分寺跡』久留米市教育委員会 1990
福岡市多々良込田遺跡	1983	『多々良込田遺跡Ⅲ』福岡市教育委員会 1985
鴻臚館跡昭和62年度調査	1987	『鴻臚館跡Ⅰ』福岡市教育委員会 1991
鴻臚館跡平成2年度調査	1990	『鴻臚館跡Ⅰ』福岡市教育委員会 1991
博多築港線第1次	1982	『博多』(築港線Ⅰ)福岡市教育委員会 1988
博多築港線第3次	1985	『博多』(築港線Ⅲ)福岡市教育委員会 1989

国を介して間接的に伝わったのかは不明である。いずれにしても現状での出土例は極端に少なく、大量に選択的に搬入したとは考えにくい。

大宰府条坊跡では3地点、10点を出土している。第19次調査は観世音寺の前面にあたる。Ⅲ期の大きな窪みの上層からと11世紀後半～12世紀前半の井戸の可能性のある土壌からそれぞれ1点出土している。第34次調査は第81次調査の東隣にあたり11世紀後半～12世紀前半の土壌と溝、9世紀後半～10世紀初頭の井戸からやはり1点ずつ出土した。第81次でも同一遺構からは複数出土していない。大宰府以外では鴻臚館で複数出土した他はやはり単独で出土している。第34・81次調査のものはいずれも大型の壺と考えられ (Fig. 131<sup>2</sup>)、胎土や釉調が酷似しており同一個体の可能性が考えられるが、時期的には約3世紀の幅がある。

## 2. 分銅について

金属製の分銅は畿内を中心に全国から12例ほど出土している。形態は大きく3種類ある。有蓋壺を模したもの(1)<sup>3</sup>。楕円球を2ヶ所で切断し、広い断面に紐をとりつけ、球面には縦方向に断面三角形の畝をつくりだすもの(2)<sup>4</sup>。短い円柱に笠形を取り付けるもの。この笠形には丸いもの(4)<sup>5</sup>と数条の断面三角形の畝を持つもの(3)<sup>6</sup>とがある。どの形態にも紐が付いてい

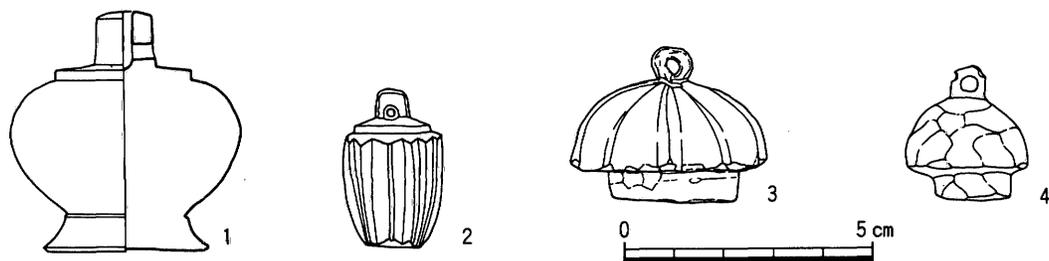


Fig. 132 金属製分銅の形態 (2/3・各報告書より再トレース)

Tab. 9 金属製分銅法量表

番号	重量g	高さcm	幅cm	出典
①	—	3.1	3.9	『出雲国庁跡発掘調査概報』松江市教育委員会 1970
②	—	—	—	『日本の考古学』東京国立博物館 1988
③	140	3.2	4.1	京都新聞 1993.5.7付 夕刊
④	134.68	3	3.9	『長岡京市埋蔵文化財センター年報』同センター 1994

る。

今回出土したのは短い円柱に畝を持つ笠形を取り付けたものである。類例は①鳥根県松江市出雲国庁、②静岡県袋井市坂尻遺跡、③滋賀県野洲町下々塚遺跡、④京都府長岡京市長岡京跡がある。笠形に施された畝の構成は各々に違いがみられる。①には鈕に環が付いている。重量は③が約140g、④が134.68gで当時の3両と発表されている。第89次出土の分銅は46.5gであり当時の一両の約42gより重い、③例の1/3に近似している。

このように考えると今回出土した分銅は包含層からの出土からであるが、周辺の調査地点を含め、遺構群はほぼ11世紀で終焉し、①②③④とも奈良～平安時代のものと考えられていることから、古代の分銅である可能性が強い。

1. 山本信夫「日本出土のイスラム陶器資料をめぐって—最近の調査研究成果より—」第44回中近東考古学研究会 発表資料 1994.5 による。

2. スケッチを描いた山本信夫氏は器形・編年について次のように解説している。

日本の例は復原不可能であり、海外出土例から形態を知る。初期イスラム大壺は青緑釉の色調、独特な器形、造形において後の時代の作品と容易に区別が可能と言われる。1はサマラ出土品で高さ70センチ。8世紀とされる。2は伝ビシャブル出土で高さ78センチ。この2例の器形、文様に対比されるような変化をもって1→2へと編年する。つまり卵球形から下部の細くなる長胴形へと捉え、胴上半の貼付文弧線内に3、4個のバルメット渦文を配する整美な1から、単純な1個の渦文へ、さらに単に輪と曲線、細かな波状文の連続する2への文様の粗略化をあげる。ところで口縁部、底部について詳細を報じたものはあまりない。1の口縁部は稜を有し、2は稜が鈍く外側に肥厚する。1の高台形は不明で平底か低い高台形と思われ、2は外側面のみを高く誇張する八字形に開く角高台である。編年要件の可能性として今後注意する必要がある。2例に通じる特徴は主として装飾法にある。肩上位に逆U字形の三耳を有し、耳中央から垂下する貼付波状文を境として三単位の貼付文様を胴上半に施す。一単位は弧線で外側の輪郭を取りその内部に円、線、縄状網文などを配する。胴中位には線刻帯を設け1は鋸歯状、2は斜行連続文となる。1は口縁部下にも鋸歯文帯がある。胴上半は多層のロクロ目状の凹凸を残すが下半は無文とする。2の胴中位下には粗く太い貼付縄文がある。2の耳は頸部に密着し隙間がなく機能的ではない。

3. 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和63年度』奈良市教育委員会 1989
4. 『小谷城清水谷遺跡発掘報告書』湖北町教育委員会・小谷城清水谷遺跡調査団 1978
5. 『平安京右京8条1坊10坪発掘調査概報』大和郡山市教育委員会 1990
6. 『長岡京市埋蔵文化財センター年報』長岡京市埋蔵文化財センター 1994

(城戸康利)

### 3. 条坊関連遺構の検討

#### はじめに

大宰府条坊跡の研究は、鏡山猛以来様々な研究者によって続けられている。ここではその研究史を詳細に紹介する余裕がないので、簡単に主要なものを紹介しておきたい。まず、鏡山猛は「大宰府都城の研究」において南北22条、東西各12坊で一辺約108mの条里地割りを基調とした条坊が施行されていたと考えた(鏡山1968)。条坊の推定は観世音寺文書に残された条坊呼称が決め手となり、その当時残されていた周辺の地割りから具体的な復原を行った。当時は発掘調査の成果は皆無の状態であったが、地上に残された考古学的資料と歴史地理学的手法を駆使して研究された成果は大きく、現在我々が行う行政的な発掘調査の一側面に大きな影響を与えている。つまり鏡山の論がなければ、大宰府条坊跡という遺跡の名称は与えられていなかったであろうし、住宅の建て込む範囲さらには行政区を飛び越えた範囲まで周知の遺跡として理解されることは少なかったものと思われる。我々は鏡山の意見の当否を発掘の成果の一部として扱うことが多いが、それ以前にこの論の恩恵を計り知れないほど受けていることを認識すべきであろう。

鏡山以来二十年余りを経た最近では金田章裕の論が注目される。条坊区画の復原はもちろんのことながら、観世音寺文書の再検討は重要な視点として理解できる。金田は同文書を子細に検討することによって、大宰府条坊が施行された年代を10世紀後半に求めると説いた。また、都城に施行されていた条坊区画とは異なり、一区画の面積が8反を基準にしていることも指摘した(金田1989)。のちにも報告するが、この二つの指摘は考古学の成果とも合致する重要な所見であり、見逃すことはできない。

筆者は、これらの重要な論を受けて条坊について発表する機会を得た(狭川1990)。詳細は論文を参照されたいが、本稿はこの論に発表した内容の再検討と、発表当時未整理であったデータや資料を参考にして検討し直したものである。したがってデータに若干の変更が生じている部分があるが、その部分は本稿をもって正式なものとした。また、本稿は報告書としての性格から今回報告したエリアの資料を中心とし、それに若干の未報告資料を加えて整理した

ものであり、条坊全体の復原は将来報告が進んだ段階であらためて実施することにした。

### 条坊遺構の距離計算

関係する遺構を一定の基準で整理するために国土座標を用いた遺構の実測を行っているが、各遺構間の距離を知るうえでは、推定される条坊設計基準線からの換算が必要となってくる。都市部分の設計は、政庁部分の基準線と同一とは限らないし、また最近の成果を整理すると若干ながら異なった数値で設計されていることが明らかになりつつある(狭川1994)が、ここでは従来通り政庁中軸線(N-0° 34' 24"-E/以下中軸線とする)を基準とし、政庁南門中点からの距離を提示することとした。

### 検出遺構の距離関係

報告の部分では、計算で導き出された細かな数値をそのまま掲載しているので、ここでは各地点別に簡単に整理することから始めたい(Fig.133)。なお検討する遺構の埋没時期は、すべて大宰府編年のⅫ期(山本1988)を中心とするもので、概ね11世紀後半～12世紀前半に考えられているものである。

また、このデータのみでは見えない部分も多いので、次の条件で検討を加える。1)片側の側溝が未検出の道路の規模は、これまでの多くの調査結果から路面幅を約3mとする。2)その両側に取り付く側溝は幅約1mとして考える。3)したがって側溝を含めた道路占有空間は幅約5m、側溝心間間は約4mとみたい。

### 第44次調査

条坊関連遺構として44SD005・025が掲げられる。両者を道路の側溝と見做した場合、路面の中心線は中軸線から99.99mとなる。また、条坊区画内法の東端までは推定で103.13mという数値が得られる。

### 第81次調査

検出した81SD045を東西道路の北側溝と考えた場合、溝中心までの距離は南門中点から818.68mで、道路幅を先の条件で推定すると条坊区画内法の北端までは823.18mという数値が得られる。なお路面中心までは820.68mという数値になる。

### 第89次調査

多くの溝を検出したが南北道路の東側溝を89SD090、同じく西側溝を89SD100として考えると、中軸線から路面中心までが189.56m、条坊区画内法の西端までは187.08mという数値が得られる。なお、整地の状況からここに言う路面の中心は、道路の構造は異なるものの奈良時代まで遡る可能性が高い。

これ以外にここで使用する他の地点のデータを整理しておく。

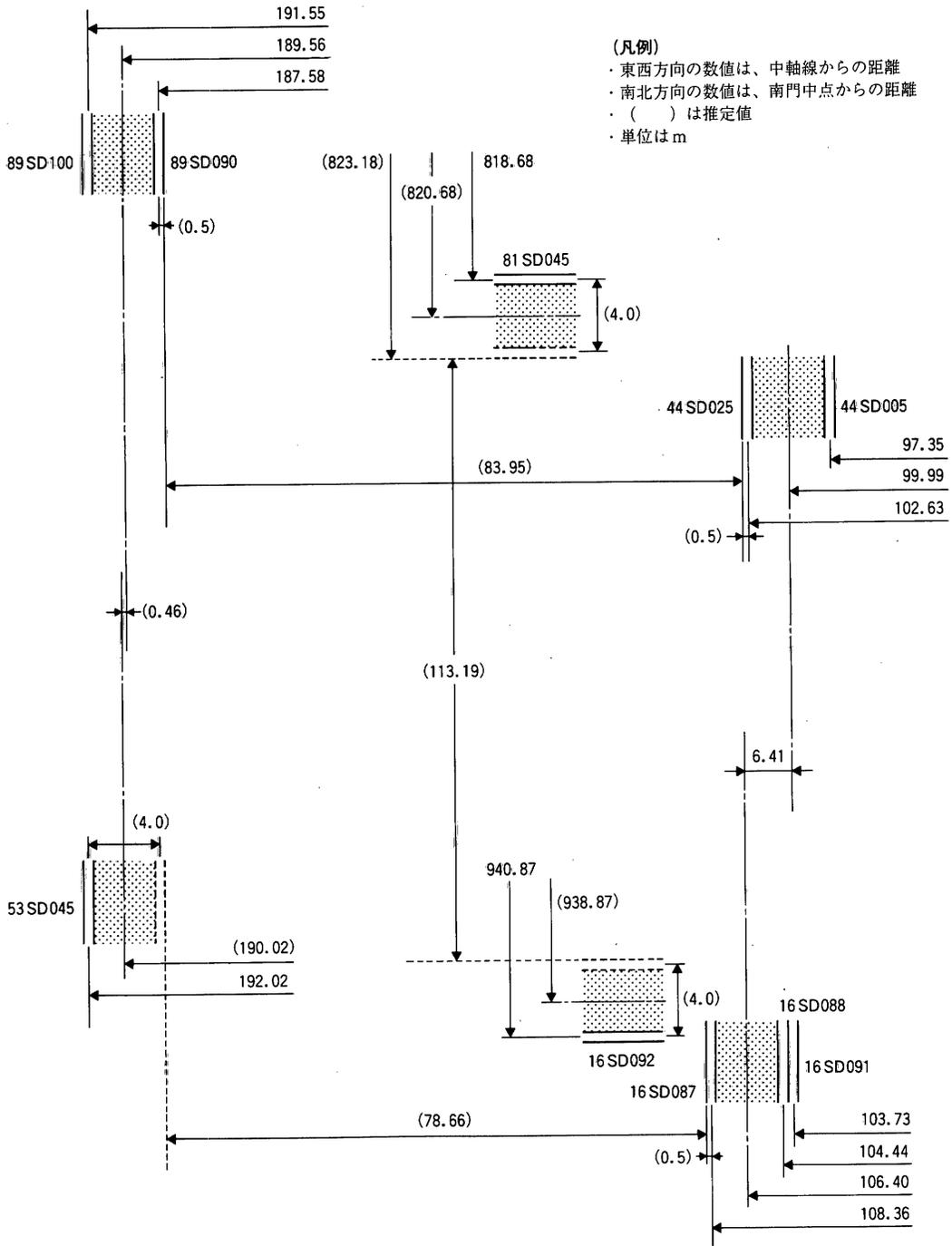


Fig.133 条坊関連遺構距離関係概念図

Tab.10 第16・53次調査検出溝任意中点座標値

遺構番号	P* 位置	遺構中点座標値		方位	南門からの距離	
		X	Y		X方向 (m) **	Y方向 (m) **
16SD087	北P	55,770.35	-44,938.40	N-1° 50' 42" -E	-939.460	-108.275
	南P	55,762.90	-44,938.64		-946.913	-108.440
16SD088	北P	55,770.00	-44,934.30	N-3° 36' 18" -E	-939.769	-104.171
	南P	55,760.00	-44,934.93		-949.775	-104.702
16SD091	北P	55,763.95	-44,933.85	N-2° 28' 37" -E	-945.814	-103.662
	南P	55,760.02	-44,934.02		-949.746	-103.790
16SD092	西P	55,769.07	-44,945.43	N-92° 10' 23" -E	-940.811	-115.290
	東P	55,768.90	-44,940.95		-940.935	-110.812
53SD045	北P	55,848.20	-45,021.31	N-2° 26' 35" -E	-862.445	-191.958
	南P	55,844.45	-45,021.47		-866.195	-192.084

\* 北Pは溝検出北端に近い位置の任意中点  
南Pは溝検出南端に近い位置の任意中点

\*\* X方向の-値は政庁から南へ移動したことを示す  
Y方向の-値は中軸線から西へ移動したことを示す

### 第16次調査 (山本1983)

東西方向の溝16SD092は、条坊関連道路の南側溝と考えられる。溝中心までの南門中点からの距離は940.87mを測る。また先の条件で北側溝の位置を想定した場合、条坊区画内法の南端までは推定で936.37mという数値が得られる。なお推定される路面中心までは938.87mである。

南北方向の溝は3条検出されている。16SD087は西側溝とみられ、中心までの距離が中軸線から108.36m、16SD088・091は掘り直しのある東側溝と考えられ、それぞれ中軸線から104.44m・103.73mを測る。路面の中心(16SD087~088)までは106.40mである。また、条坊区画内法の東端までは推定で108.86mという数値が得られる。

### 第53次調査 (狭川1992)

南北溝1条を検出したのみであるが、第89次の成果からそれと同じ道路の南延長部分に該当するものと判断した。つまり西側溝と判断したことになる。中心までの距離は中軸線から192.02mで、条坊区画内法の西端までは推定で187.52mという数値が得られる。

以上の成果に基づいて、全ての遺構を連結させる作業から始めたい。

まず、区画の東西距離は44次道路心と89次道路心によって求められ、89.57m内外であることがわかる。同じことを16次道路心と53次推定道路心で行うと83.62mという数値になり、若干の違いが出てくる。これは53次と89次がおそらく直線に近い形で結ぶことができるのに対して、44次と16次では直線で結ぶことができない状況であることによる。しかしながら、これまで調査されてきた条坊痕跡を見るかぎり、大宰府の条坊は小さく段違いになるかわずかに斜めになるような形で施行されていることが多く、ここでもその現象が見られるものと理解される。例をみると、第34次では北上するとともにわずかに東へずれているし、第60・61・75次の各調査

成果では東西道路の北側溝ながらおよそ50m西に進むと3m程度南にずれることが判明している(狭川1992)。この結果からみると16次と44次の間(南北距離約105m)にみられる差約6.4mは大宰府条坊を考えるうえでの許容範囲内にあるとってよからう。

次に南北の区画についてみると、第81次と第16次の成果が援用できる。いずれも片側の溝のデータであり不安な要素も残されているが、両者を東西道路の側溝と認めて計算すると道路心間間は118.19mという数値になる。

ところで、金田が論じた大宰府条坊の区画は8反が基準となっているとされるが、面積を中心に考えるならば道路の心間距離ではなく、内法の距離を求める必要がでてくる。その距離を先の道路の条件に照らし合わせて計測すると、南北距離は113.19mとなるが、東西距離は南端に近いあたりで78.66m、北端に近いあたりでは83.95mという数値になる。このデータは次に検討するように、きわめて重要な数値であると考え。

そこでこの区画によって示される面積を計算してみたい。現状では南側が狭くなった台形状を呈しているとみて計算すると、区画の面積はおよそ9202.91㎡になる。ここで金田が論じた一区画8反という面積が気になることである。この時代の基準尺が不明なので、仮に天平尺と曲尺の両者で計算を試みた。天平尺は0.297m/尺とし、曲尺は0.303m/尺とする。1反(段)は360歩、1歩は6尺四方として計算すると、天平尺では8反が9145.51㎡となり、曲尺では8反が9518.76㎡となる。当時の尺の長さがこの両者の間に求められるなら、今回計測できた9202.91㎡という数値は、当時の8反を示していると言って差し支えなからう。つまり今回提示できた条坊区画は、一区画8反であることを示していることが理解できる。

なお、将来これらの延長部分が検出されるとやはり若干のずれが認められる可能性があり、数値については若干ながらも変更せざるを得ない状況になることは間違いなからう。しかし大筋では今回の結果は動かないものと信じる。

さて、以上の結果に基づいて作成した条坊一区画のモデル図はFig.134である。これまで条坊が施行されている地域ではみられない、変形した歪な形状を呈していることがわかる。

最後に年代について述べておきたい。ここに報告した遺構から出土した土器群は、大宰府編年のⅪ期を示しているが、これはあくまでも遺構の埋没年代の一端を示しているにすぎない。そこでこれらの遺構によって切られている遺構、つまり前後関係の明確な遺構を抽出すると、16次調査で検出された土壙16SK089・090が挙げられる。直接的な切り合い関係にはないものの、土壙は推定される路面に位置しており、道路が建設される以前に穿たれたものと考えられる。この土壙の時期は、大宰府編年のⅧ～Ⅸ期(10世紀第Ⅱ四半期頃)とみられることから、これ以降に道路の建設を考えることができよう。

そこで注目したいのが観世音寺文書である。金田も指摘するとおり、同文書に記載される条坊呼称の初出は天延三(975)年であり、以後12世紀中頃まで確認される。これは今回発掘され

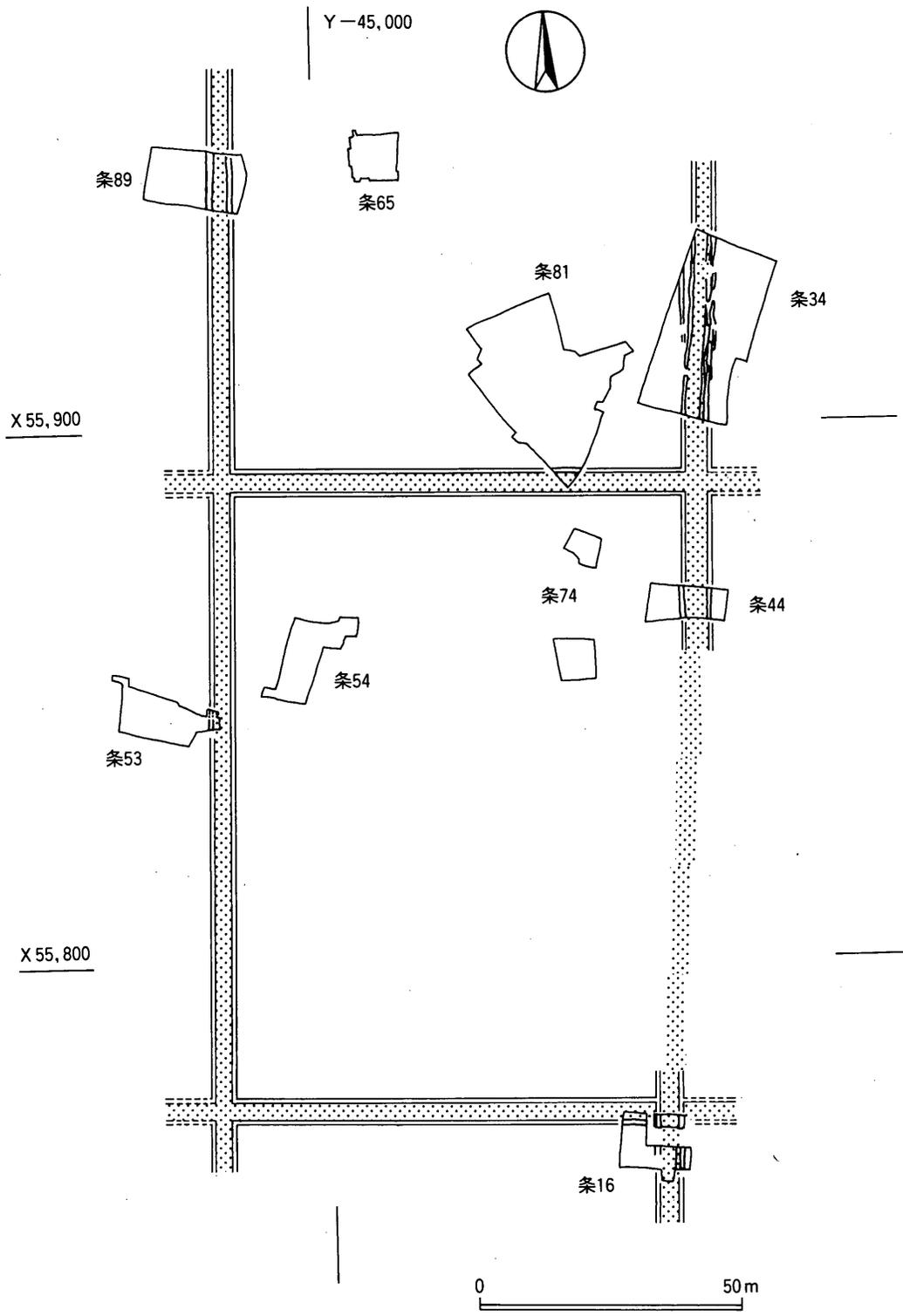


Fig.134 大宰府条坊一区画のモデル (1/1250)

た各遺構の所見とうまく合致するものといえる。この一箇所の所見のみではまだ不安な部分も残るが、観世音寺文書に記載される大宰府条坊は、10世紀中頃以降に建設され、11世紀後半から12世紀中頃までに廃絶したものと考えたい。将来、調査箇所が増加によってさらにこの年代は絞られてくるものと思われる。

この地区の調査をまとめることによって、大宰府条坊の復原に関わる興味あるデータを提示することができた。しかし、大宰府条坊推定全域にわたってこの形状の区画が広がっているとは考えられない。すでに調査した膨大な地点は未だ諸事情で未報告であるが、これらの地点を報告する折に詳細に検討を加えて行きたいと考えている。なお、1989年度までの大宰府条坊の復原については、拙稿（狭川1990）にその概略を示したので参照されたい。

（文献一覧）

- ・鏡山 猛 1968『大宰府都城の研究』 風間書房
- ・金田章裕 1989「大宰府条坊プランについて」『人文地理』41-5
- ・狭川真一 1990「大宰府条坊の復原」『条里制研究』6号 条里制研究会 なお、ここでは条坊区画モデルの内法を111m×84mとしていたが、本稿をもって正式なデータとする。  
1992「天下の一都会」『太宰府市史一考古資料編一』 太宰府市  
1994「大宰府の朱雀大路」『文化財学論集』 文化財学論集刊行会
- ・山本信夫 1983『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財 第7集）太宰府市教育委員会  
1988「大宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究Ⅳ』日本中世土器研究会

（狭川真一）

# 別 表

別表には各調査次数ごとの略測図・遺構番号対照表・土師器の法量表・出土遺物一覧表を掲げる。

## 凡 例

### 土師器の法量表

A：実測番号 B：挿図番号 C：内底のナデの有無 D：板状圧痕の有無 単位：cm

### 出土遺物一覧表

- ・（ ）の中の数字は破片数を示す。
- ・ [2] = 2 個体 ② = 同一個体 2 片 (= [1] 個体) (3) = 別個体 3 片
- ・ IV × V は IV または V 類の意。
- ・ IV ~ VI は IV ・ V ・ VI 類のうちどれかの意。

遺構番号対照表

第44次

S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号
1	SK001	49	SK049
2		50	SE050
3		51	SX052
4		52	SX052
5	SD005	53	SK053
5E	SD060	54	
6			
7			
8			
9			
10	SD010		
11			
12			
13			
14	SX014		
15			
16			
17			
18			
19			
20	SX020		
21			
22	SX022		
23			
24			
25	SD025		
25E	SX035		
26	SX020		
27	SX020		
28	SX040		
29	SX029		
30	SK030		
31			
32			
33			
34	SD034		
35	SX035		
36			
37			
38	SX040		
39	SX040		
40	SX040		
41	SX040		
42	SX040		
43	SX040		
44			
45	SX045		
46			
47			
48			

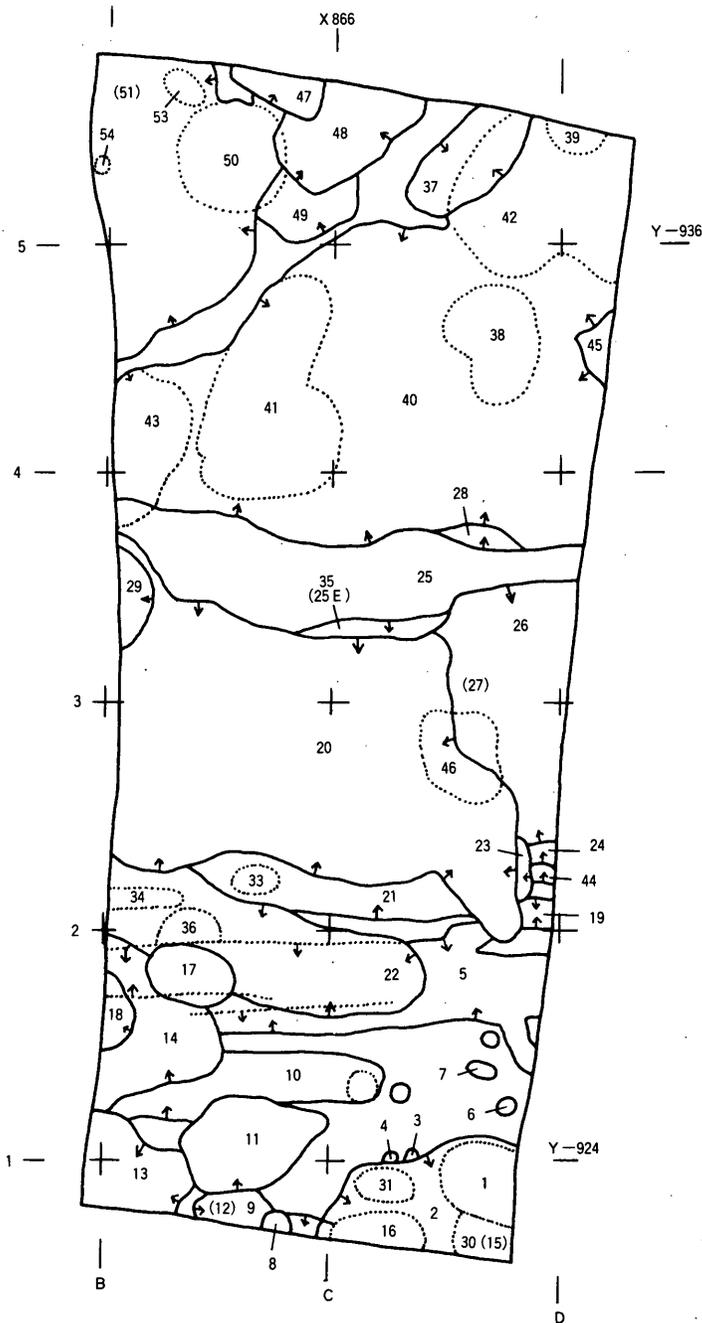


Fig. 135 第44次調査略測図 (1/100)

# 法 量 表

第44次

44SD005

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a(ヘラ)	R-001	2	16.0	3.5			

44SX022

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a(ヘラ)	R-001	1	14.0	3.6			

44SD025

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	碗c	R-001	6	15.3	5.7	8.4	○	○
2	小皿a(ヘラ)	R-002	4	10.0	1.3	7.3	?	○
3	〃	R-003	3	10.4	1.0	7.0	?	×
4	〃	a-1		10.6	1.1	8.0	?	×
5	〃	a-2		11.0	1.7	7.6	?	○
6	〃	a-3		11.0	1.4	8.6	?	×
7	小皿a2	R-004	5	10.0	0.8	7.8	○	×
8	黒B 小皿a	R-005	7	11.2	2.0	-		

44SD025下層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(糸)	R-001	10	10.2	1.4	7.2	×	×

44SD035

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-001	5	15.6	3.6			-
2	〃	R-002	4	15.0	4.0			○
3	小皿a(ヘラ)	R-003	3	9.6	1.5	7.0	○	?

44SX040

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-001	9	13.0	3.5+			-
2	〃	R-001	10	16.2	3.1			
3	〃	R-002	11	15.4	3.4+			
4	小皿a(ヘラ)	R-002	7	9.0	1.4	5.7	○	○
5	〃	R-003	8	8.8	1.4	6.6	○	

44SX045

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	13	-	-	6.3	○	○

44SE050

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	10.6	1.0	8.8	?	○
2	〃	R-002	2	10.4	1.5	7.8	○	○
3	〃	R-003	4	9.8	1.8	6.0	○	○
4	〃	R-004	9	10.4	1.3	6.8	?	?
5	〃	R-020	5	10.6	1.5	7.7	○	-
6	〃	R-021	6	10.2	1.5	7.1	○	○
7	〃	R-022	7	10.0	1.4	7.7	○	○
8	〃	R-023	8	10.0	1.4	6.6	○	○
9	〃	a-1		10.0	1.5	6.8	○	○
10	〃	a-2		10.2	1.2	7.6	○	○
11	〃	a-3		9.8	1.3	7.4	○	?
12	〃	a-4		10.0	1.5	7.0	○	○
13	〃	a-5		10.2	1.2	7.8	○	-
14	〃	a-6		10.2	1.6	7.6	-	-
15	小皿a2	R-019	3	10.0	1.3	6.8	○	○
16	〃	R-024	10	9.8	1.0	7.5	○	○

17	〃	a-7		10.0	1.1	7.7	○	×
18	坏a(ヘラ)	R-007	11	14.4	2.9	10.4	○	○
19	〃	a-1		15.0	3.0+	12.2	-	-
20	丸底坏a(ヘラ)	R-008	12	15.2	-			
21	〃	R-009	13	14.8	-			
22	〃	R-012	14	15.6	3.7			○
23	〃	R-025	15	15.0	3.7+			○
24	〃	a-1		14.8	3.1+			
25	〃	a-2		15.4	3.6+			
26	〃	a-3		15.0	3.4+			
27	〃	a-4		15.6	3.2+			
28	〃	a-5		15.6	3.4+			
29	丸底坏c?	R-005	17	-	-	7.9		×
30	〃	R-006	16	14.8	4.5	7.0	?	×
31	黒B 碗c	R-011	18	-	-	6.7	-	-

44SK053

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	土師器 蓋c3	R-001	1	13.0	2.2			
2	須恵器 大蓋3	R-002	2	21.8				

44SD060

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	11	11.0	1.8	9.0	?	○?

# 出土遺物一覽

第44次

S-1

須 惠 器	甕、坏
土 師 器	小皿、甕
白 磁	椀 XI-1、V-2
緑釉陶器	片
中国陶器	A'b(VIII-6?)
瓦 類	片

S-3

土 師 器	甕、片
-------	-----

S-5

須 惠 器	甕、坏c、蓋c
土 師 器	甕、小皿a(へら)、丸底坏a、坏a、器台、椀c
瓦 器	椀c
黒色土器A	片
黒色土器B	片
越州窯系青磁	椀 I-2
白 磁	椀 IV、V-3 皿 II-1a
中国陶器	無袖?；甕E
国産陶器	近世片 染付片
瓦 類	片
石 製 品	砥石、磨製石斧、安山岩
そ の 他	動物骨

S-5E

須 惠 器	甕、高坏
土 師 器	丸底坏a、小皿a、小皿a2?、甕
白 磁	椀 II
瓦 類	片

S-7

須 惠 器	片
土 師 器	坏

S-8

須 惠 器	坏a?、甕、蓋c
土 師 器	小皿a、甕
黒色土器B	片

S-9

須 惠 器	片
土 師 器	甕
白 磁	椀 XI-1×IV

S-10

須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	丸底坏a、坏a、甕
瓦 類	片

S-11

須 惠 器	高坏、皿、甕
土 師 器	丸底坏a? 小皿
黒色土器A	椀
黒色土器B	椀c
白 磁	椀 II、XI、V、V-1
輸入陶磁器	朝鮮無袖陶器
瓦 類	片

S-12

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	片
白 磁	椀 片

S-13

須 惠 器	蓋c、甕
土 師 器	坏c、坏
黒色土器B	椀c
白 磁	椀 IV~VIII?
瓦 類	片

S-14

須 惠 器	蓋c、蓋3、坏、甕
土 師 器	丸底坏、小皿a、坏、椀c、甕
越州窯系青磁	椀 I、I-2
龍泉窯系青磁	龍泉?片
同安窯系青磁	椀 片
白 磁	椀 II、IV、V、V-1、V~VIII 皿 VIII?
国産陶器	近世片
国産磁器	近世?白磁片
瓦 類	片(文字)
石 製 品	砥石、軽石

S-15

須 惠 器	蓋3、甕、高坏、蓋c、坏c
土 師 器	大坏c、坏、甕
白 磁	椀 II、II-5、IX
瓦 類	片
石 製 品	砥石?

S-16

瓦 類	片
-----	---

S-17

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	坏c、甕、坏
白 磁	椀 IV~VIII 染付片
瓦 類	片

S-18

須 惠 器	坏a、高坏
土 師 器	小皿a、椀c
黒色土器B	片
越州窯系青磁	その他 水注I
白 磁	椀 片
瓦 類	片

S-20

須 惠 器	坏c、壺、坏a、蓋3、甕、壺(耳付)、蓋×坏
土 師 器	丸底坏a、椀c、甕、坏a
越州窯系青磁	椀 I-1b、I-2イ、II-2、II-3
龍泉窯系青磁	椀 I-5b
同安窯系青磁	椀 片
白 磁	椀 IV、II-1、VIII?、IV-b、V-4a×VIII、XI IV~VIII、XI×青白 皿 II-1a(I)、II、II(灯臺?)、VIII-1a
緑釉陶器	片
瓦質土器	鉢
中国陶器	甕E
国産磁器	近世染付片、近世白磁片
瓦 類	丸(文字)、片
石 製 品	砥石?
そ の 他	動物骨

## S-20下層

須 惠 器	坏、甕
土 師 器	小皿a(へラ)
黒色土器A	碗c
越州窯系青磁	碗 II
輸入陶磁器	朝鮮無軸陶器
瓦 類	片

## S-21

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	碗c、甕 焼塩壺
白 磁	碗 II、IV、XI?
瓦 類	片

## S-22

須 惠 器	坏、壺、甕
土 師 器	丸底坏a、坏、甕
越州窯系青磁	碗 I
白 磁	碗 II、V-1(タテクシ)、V-3、V?、片
土師質土器	片口
瓦 類	丸、平
石 製 品	石器?(偏平)

## S-22下層

須 惠 器	坏、壺、甕
土 師 器	丸底坏?、坏、甕
越州窯系青磁	碗 I-2
龍泉窯系青磁	龍泉?片
高麗青磁	片
白 磁	碗 II、IV、V、V-2b(タテヘラ)
瓦 類	片

## S-23

須 惠 器	蓋3、蓋c、甕
土 師 器	甕
白 磁	碗 片
瓦 類	片
石 製 品	片

## S-25

須 惠 器	甕、蓋1、坏c、壺、壺b、坏
土 師 器	小皿a、丸底坏a、碗c、脚付鉢 甕、小皿a2、
黒色土器A	碗c
黒色土器B	碗c、小皿a
越州窯系青磁	碗 I、I-2、I-2b、II、II-3、I(タテヘラ)、V その他 水注×壺I
白 磁	碗 V、II系?(XIII?) その他 片(森田D)
青 白 磁	青白?片
緑 釉 陶 器	片
灰 釉 陶 器	壺
中国陶器	甕A'b
瓦 類	片(文字)、片

## S-25 下層

須 惠 器	坏、蓋c、壺、甕
土 師 器	小皿a(へラ)、丸底坏a、碗c、小皿a(糸)、甕 焼塩壺
黒色土器A	碗c
黒色土器B	片
越州窯系青磁	碗 II?
緑 釉 陶 器	片
中国陶器	黄釉;甕?
瓦 類	片(文字)、丸
石 製 品	滑石製石鍋

## S-25E

須 惠 器	高坏、甕
土 師 器	丸底坏a、小皿a、碗c、甕
瓦 類	碗c
黒色土器B	片
越州窯系青磁	坏 III(1)
瓦 類	片

## S-26

須 惠 器	坏c、壺、坏a、甕
土 師 器	小皿a(糸)、丸底坏a、丸底坏?、甕、器台
越州窯系青磁	碗 I、I-2ウ、II、II-3、II-3? I×III その他 水注×壺I
白 磁	碗 II、IV-1a、IV×V、IV~VIII、V-1、V XI-3(タテヘラ) その他 水注×壺
灰 釉 陶 器	碗 染付片
瓦 類	片

## S-27

須 惠 器	蓋c、甕、坏c、壺
土 師 器	坏a、丸底坏a、碗c、鉢、甕
黒色土器B	碗c、片
白 磁	碗 IV、IV-1b、V-2、V-2(輪花) 皿 VI-2
青 白 磁	青白?片(施文)
緑 釉 陶 器	碗c 染付片
国産磁器	近世染付
瓦 類	丸、片
石 製 品	砥石

## S-29

須 惠 器	坏a、坏c、甕
土 師 器	碗c、小皿、坏a、甕、カマド?
黒色土器B	片
越州窯系青磁	碗 II-3
瓦 類	片

## S-29下層

須 惠 器	坏c
土 師 器	坏

## S-31

須 惠 器	甕、坏c
土 師 器	坏
国産磁器	近代片

## S-33

須 惠 器	壺、蓋、蓋3、坏
土 師 器	坏c、甕

## S-35

須 惠 器	甕、坏、蓋
土 師 器	丸底坏、甕
越州窯系青磁	碗 I、I-2、II-2
同安窯系青磁	坏 III-c
白 磁	碗 XI、IV 染付片
瓦 類	平(文字)

## S-35下層

須惠器	甕、坏
土師器	甕、片
越州窯系青磁	碗 I
白磁	碗 IV、XI
瓦類	片

## S-36

須惠器	甕
土師器	小皿a(ヘラ)
白磁	不明片

## S-37

須惠器	甕、坏c、坏
土師器	碗c、坏、甕
越州窯系青磁	碗 I
白磁	碗 II、IV
	染付片
瓦類	片
石製品	砥石

## S-38

土師器	片
-----	---

## S-39

須惠器	坏、蓋3
土師器	甕
白磁	その他 水注×壺III系

## S-40

須惠器	蓋3、坏c、甕e、大坏c、蓋2、壺b、高坏
土師器	丸坏a、碗c、甕、小皿a(ヘラ)、大坏c、坏a、小皿c 把手
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 I、I-1、I-2、II-2 坏 II(褐彩)
龍泉窯系青磁	碗 I-5 皿 I 不明片(新しい時期) 同安×高麗
白磁	碗 I、I-1、II-5、IV、V-1、V-2、V-1×VIII-2 V-3、I×XI、IX、XI-1、XI'-1、IV×皿II 皿 III その他 水注×壺II系(瓜割I)
灰釉陶器	片
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器
国産陶磁器	近世片
国産磁器	近世染付片 染付片
瓦類	平
石製品	石器?(偏平)、黒曜石、滑石

## S-41

須惠器	甕、坏a、坏c
土師器	甕、坏a(ヘラ)、丸底坏a、小皿a(ヘラ)
越州窯系青磁	碗 I
白磁	碗 V-2
瓦類	平

## S-42

須惠器	甕、坏、蓋a、蓋3
土師器	坏、甕
黑色土器A	碗c、片
白磁	碗 V×VIII
瓦類	片

## S-43

須惠器	甕、鉢、坏c、坏
土師器	坏、器台
須惠質土器	鉢(篠)
白磁	碗 I-1、IV

## S-44

瓦類	片
----	---

## S-45

須惠器	片
土師器	坏a(ヘラ)、碗c、甕
黑色土器A	碗c
瓦類	丸、平、文様埴
土製品	埴塙?

## S-46

須惠器	甕
土師器	小皿、甕、高台
越州窯系青磁	その他 水注×壺II系
瓦類	片

## S-47

須惠器	坏c、甕
土師器	坏a、甕
白磁	碗 V

## S-48

須惠器	坏、壺、蓋c3、甕
土師器	小皿a、蓋c、把手、坏a、甕 焼塩壺
白磁	皿 II
国産磁器	近世?染付碗

## S-48下層

須惠器	坏c、坏、蓋3、甕
土師器	丸底坏、坏a、碗c
越州窯系青磁	碗 I、I-2、II
白磁	不明片
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器
瓦類	片

## S-49

須惠器	坏a、坏c
土師器	坏c、坏、甕
緑釉陶器	碗
灰釉陶器	片

## S-50

須惠器	坏c、蓋c、蓋3、甕、坏、皿a
土師器	碗c(ヘラ記号)、小皿a(ヘラ)、小皿a2、器台、坏c 坏a(ヘラ)、丸底坏a、丸底坏c、甕
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗c、片
越州窯系青磁	碗 I、I-2、II、III
白磁	碗 IV、V-2?、XI-5、XI×IV 皿 XI-3
灰釉陶器	碗、壺
中国陶器	中国産?B'a
瓦類	平
土製品	焼土塊

## S-51

須惠器	坏c、蓋3、甕
土師器	蓋c、坏a、坏d、碗c、甕 焼塩壺
瓦類	片

## S-52

須惠器	蓋1、蓋3、坏a、坏c、壺、小壺、壺b、甕
土師器	碗c、甕、小皿a、丸底坏c、坏d、皿a、カナエ、把手
黒色土器A	片
越州窯系青磁	碗 I-2、I
	坏 I、II
	その他 壺II
	碗 IV-1a、IV、V、IV×XI-1、V-2、II?
白磁	皿 XI? II×III、II
	その他 壺III系
	不明 片
緑釉陶器	碗
灰釉陶器	壺
土師質土器	火鉢
国産磁器	近世染付片
	染付碗(明?)
ベトナム	ベトナム?壺?(黄緑釉)
瓦類	丸、平
石製品	滑石
土製品	土鍾

## S-53

須惠器	大蓋3、壺
土師器	蓋c3、甕

## Z

須惠器	坏c、甕、蓋c、蓋3
土師器	丸底坏a、小皿a、小皿a2、坏、碗c、把手、甕
黒色土器A	片
越州窯系青磁	碗 I-2
龍泉窯系青磁	碗 I-5b
白磁	碗 V-1、XI-1×IV
灰釉陶器	碗
瓦類	丸、平

## 側溝

須惠器	坏c、壺b、蓋3、壺、甕
土師器	碗c、坏a、小皿a、甕、
越州窯系青磁	碗 I-1、II
	碗 IV?(輪花)、II
白磁	皿 IV-1b
	その他 水注×壺II系
緑釉陶器	碗、片
瓦類	片

## 排土

須惠器	坏c、蓋c3、甕、蓋1、高坏、鉢、片
土師器	丸底坏a(小)、丸底坏c、甕、片
越州窯系青磁	碗 I-2、I-2b(タテヘラ)
白磁	碗 II、IV、IV-1a、V、V-4b
瓦類	丸、片
石製品	滑石製蓋

## 茶褐色土

須惠器	坏c、甕、蓋c、坏、坏a、蓋a3、壺、皿a、高坏、壺b
土師器	小皿a(ヘラ)、丸底坏a、丸底坏(古手)、坏c、碗c、坏d、甕、皿a
瓦器	碗c
黒色土器A	碗
黒色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I-1、I-2ウ、I、I-2b、II、II??(大型品)、II-3
	皿 III
龍泉窯系青磁	碗 I-5b、III'
同安窯系青磁	碗 片
高麗青磁	I

白磁	碗 I-1、II、II-1、IV、IV×XI-1、V、V-1c V-1×VIII-2
	皿 IV-2(タテヘラ)、VII、VIII×青白
	その他 水注×壺(II系)
緑釉陶器	碗、皿
灰釉陶器	壺、片??
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器
中国陶器	茶褐釉;合子?(青白磁タイプ)
国産陶器	瀬戸?? 片
国産磁器	近世片
瓦類	片
金属製品	鏡片?
石製品	石器(偏平)、滑石

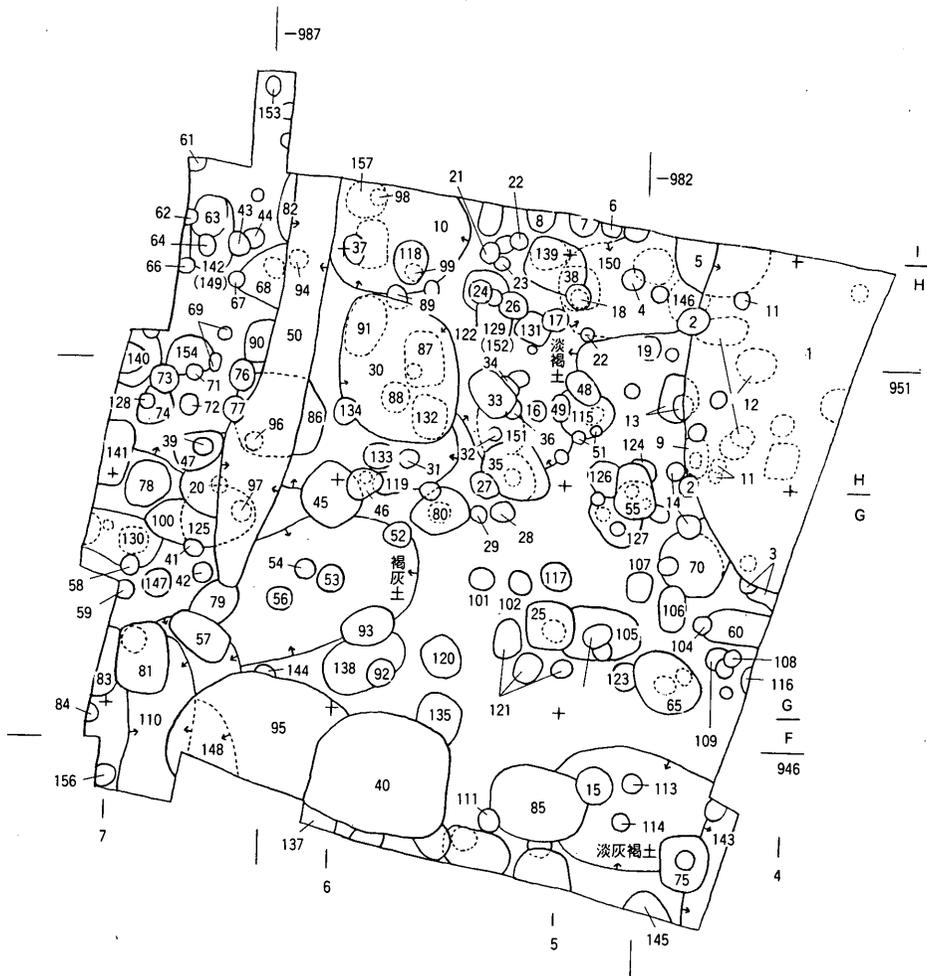


Fig. 136 第65次調査略測図 (1/100)

遺構番号対照表

第65次

S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号
1	SX001	51		101		151	
2		52		102	SX102	152	
3		53		103	SX103	153	
4		54		104		154	
5	SK005	55	SB065a	105		欠番	
6		56		106		156	
7	SX007	57		107	SX107	157	SX157
8	SX008	58		108	SX108		
9	SB100e	59		109			
10	SK010	60	SK060	110	SK110		
11		61		111			
12		62		112	SX112		
13	SX013	63		113			
14		64		114			
15	SX015	65	SB065b	115	SX115		
16		66		116			
17		67		117			
18	SX018	68		118			
19		69		119			
20	SX020	70	SB070d	120			
21		71		121	SX121		
22	SX022	72		122			
23		73		123			
24		74		124			
25	SX025	75	SB065c	125	SX125		
26		76		126			
27		77		127	SX127		
28		78	SX078	128			
29		79		129			
30	SX030	80	SB070c	130	SX130		
31		81	SB070a	131			
32		82		132			
33		83	SK083	133			
34		84		134	SX134		
35	SB100d	85	SK085	135	SX135		
36		86	SK086	136			
37		87	SX087	137	SX137		
38		88		138			
39		89		139	SX139		
40	SE040	90		140	SB100a		
41		91		141	SX141		
42		92		142			
43		93	SX093	143			
44		94		144			
45	SB100c	95	SK095	145			
46		96		146	SX146		
47	SB070b	97		147			
48	SX048	98		148			
49		99		149			
50	SD050	100	SB100b	150	SK150		

# 法 量 表

第65次  
S-1上層

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	68	12.2	3.7	9.6	○	○
2	小皿a(ヘラ)	R-002	1	10.2	1.4	8.0	○	○
3	〃	R-003	2	9.8	1.4	7.0	○	○
4	〃	R-004	3	10.0	1.2	8.0	○	○
5	〃	R-005	4	10.1	1.5+	7.4	○	○
6	〃	R-006	5	10.8	1.4	8.7	○	○
7	〃	R-007	6	10.8	1.2	6.8	○	○
8	〃	R-008	7	10.2	1.2	7.4	○	○
9	〃	R-009	8	10.6	1.3	8.0	○	○
10	〃	R-010	9	10.5	1.4	7.8	○	○
11	〃	R-011	10	10.6	1.2	8.4	○	○
12	〃	R-012	11	10.4	1.2	8.4	○	○
13	〃	R-013	12	10.7	1.2	8.2	○	○
14	〃	R-014	13	10.6	1.4	8.1	○	○
15	〃	R-015	14	10.2	1.4	7.9	○	○
16	〃	R-016	15	11.2	1.7	8.4	○	○
17	〃	R-017	16	10.6	1.3	8.0	○	○
18	〃	R-018	17	10.6	1.6	7.4	○	○
19	〃	R-019	18	10.5	1.5	7.2	○	○
20	〃	R-020	19	10.2	1.3	7.7	○	○
21	〃	R-051	20	10.2	1.3	8.1	○	○
22	〃	R-052	21	10.3	1.2	7.6	○	○
23	〃	R-053	22	9.8	1.1	6.9		
24	〃	R-054	23	9.6	1.3	6.6		
25	〃	R-055	24	10.3	1.4	7.5	○	○
26	〃	R-056	25	9.6	1.5	6.3	○	○
27	〃	R-057	26	10.0	1.4	7.8	○	○
28	〃	R-058	27	10.2	1.4	7.1		
29	〃	R-059	28	10.8	1.4	7.7	○	○
30	〃	R-060	29	10.4	1.3	7.1	○	○
31	〃	R-061	30	9.6	1.4	7.2	○	○
32	〃	R-062	31	10.7	1.5	7.7		
33	〃	R-063	32	10.2	1.6	8.1	○	
34	〃	R-064	33	10.4	1.2	8.0		○
35	〃	R-065	34	10.5	1.4	8.7	○	○
36	〃	R-066	35	11.0	1.7	8.2	○	○
37	〃	R-067	36	10.4	1.3	7.4	○	○
38	〃	R-068	37	10.4	1.3	7.9	○	○
39	〃	R-069	38	10.8	1.5	7.2	○	○
40	〃	R-070	39	10.5	1.3	8.3	○	○
41	〃	R-071	40	10.8	1.7	8.4	○	○
42	〃	R-072	41	10.0	1.4	7.1	○	○
43	〃	R-073	42	10.0	1.2	8.2		
44	〃	R-074	43	10.4	1.4	7.3	○	○
45	〃	R-075	44	9.6	1.4	7.0	○	
46	〃	R-076	67	9.8	2.1	7.8	○	
47	〃	R-077	45	10.6	1.3	7.0	○	
48	〃	R-078	46	10.2	1.4	7.8	○	○
49	〃	R-079	47	9.6	0.9	8.0		
50	〃	R-080	48	10.6	1.6	8.4	○	○
51	〃	R-081	49	10.7	1.3	8.6	○	○
53	〃	R-082	50	10.4	1.5	7.9	○	○
54	〃	R-083	51	10.0	1.1+	7.7		
55	〃	R-084	52	11.0	1.3	9.0	○	○
56	〃	R-085	53	10.8	1.2	8.4	○	○
57	〃	R-086	54	10.6	1.7	7.8	○	○
58	〃	R-087	55	10.4	1.5	8.1	○	○
59	〃	R-088	56	10.0	1.5	6.6	○	○

60	〃	R-089	57	10.5	1.0	7.5	○	○
61	〃	R-090	58	10.4	1.3	7.7	○	○
62	〃	R-091	59	10.0	1.3	7.5	○	○
63	〃	R-092	60	10.0	1.3	7.8	○	○
64	〃	R-093	61	11.0	1.1	7.8	○	○
65	〃	R-094	62	10.2	1.2+	7.3	○	○
66	〃	R-096	64	10.8	1.3+	8.2		
67	〃	R-097	65	10.1	1.3	7.7	○	○
68	小皿a2	R-044	66	10.4	0.9	8.0		
69	丸底坏a	R-021	69	15.4	3.9			
70	〃	R-022	70	15.6	3.7			
71	〃	R-023	71	14.5	4.9			
72	〃	R-024	72	14.7	3.9			
73	〃	R-025	73	16.2	4.2			
74	〃	R-026	74	16.0	3.9			
75	〃	R-027	75	15.6	3.6			
76	〃	R-028	76	15.6	3.7			
77	〃	R-029	77	15.8	4.0			
78	〃	R-030	78	15.8	3.9			
79	〃	R-032	79	15.0	4.3			
80	〃	R-033	80	16.2	4.2			
81	〃	R-034	81	15.2	3.8			
82	〃	R-035	82	15.8	4.1			
83	〃	R-036	83	15.0	3.6			
84	〃	R-037	84	15.2	4.3			
85	〃	R-038	85	15.6	4.3			
86	〃	R-039	86	15.6	4.5			
87	〃	R-040	87	15.2	3.8			
88	〃	R-041	88	16.8	3.4+			
89	〃	R-042	89	15.2	3.9+			
90	碗c	R-031	92	14.8	5.2+	-		
91	小碗c	R-043	90	11.2	4.5	5.4		
92	〃	R-045	91	12.3	4.7	6.5		

## S-1下層

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	102	10.8	1.2	8.8	○	○
2	〃	R-002	104	10.6	1.4	7.6	○	○
3	〃	R-003	103	9.8	1.0	7.4	○?	○

## S-5最上層

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-001	3	15.0	3.2	6.7	○	×
2	坏e	R-004	4	-	2.8+	6.0	○	?

## S-5褐色土層

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-002	15	-	2.5+	9.2		

## S-7

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏c	R-001	1	14.4	4.1	9.0	○	×

## S-8

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-001		16.0	2.3	11.5	?	?

## S-10最上層

	器 種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	16	9.0	1.5	6.4	○	○
2	〃	R-002	17	9.1	1.3	7.0	?	○
3	〃	R-003	18	10.0	1.3	8.4	?	○
4	〃	R-004	19	9.8	1.3	7.9	○	○

## S-18

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-001		-	1.8+	7.6		

## S-22

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.5	1.3	8.4	○	○

## S-25上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-001		-	2.1+	7.6		

## S-30

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	2	-	3.4		○	○
2	小皿a(ヘラ)	R-002	1	9.4	0.9	7.0	-	-

## S-40上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	12	14.6	2.5	9.5	○	○
2	丸底坏a	R-002	14	15.0	3.5			
3	〃	R-003	15	15.8	3.2			○
4	〃	R-004	16	15.4	3.3			○
5	〃	R-005	17	16.4	3.4			
6	〃	R-006	18	16.8	3.2+			
7	〃	R-007	19	18.0	3.1+			
8	〃	R-008	20	17.0	3.0+			
9	〃	R-009	21	16.4	2.9			○
10	〃	R-010	22	15.2	2.8			
11	小皿a(ヘラ)	R-013	1	9.7	1.4	7.0	○	○
12	〃	R-014	2	9.6	1.3	7.0	○	○
13	〃	R-015	4	9.2	1.2	7.3	○	○
14	〃	R-016	3	9.6	1.1	7.2	○	?

## S-40中層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	13	16.0	3.3	9.8	○	○
2	丸底坏a	R-002	23	15.6	2.9+			
3	〃	R-003	24	15.0	2.8+			
4	小皿a(ヘラ)	R-004	11	10.0	2.0	8.0	○	○
5	〃	R-005	5	9.6	1.2	7.1	○	○
6	〃	R-006	6	9.4	1.5	7.3	○	○
7	〃	R-007	7	9.6	1.1	7.3	○	○
8	〃	R-008	8	9.4	1.2	7.0	-	-
9	〃	R-009	9	10.0	1.0	7.0	○	○?
10	〃	R-010	10	9.4	1.2	7.2	○	-

## S-45柱痕

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-001	20	-	2.2+	7.7	?	-

## S-45掘り方

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-001	21	18.8	1.9	16.0		
2	坏d	R-002		-	1.4+	6.7		

## S-50上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	2	16.2	3.6			○
2	〃	R-002	3	15.6	2.8+			
3	小皿a(ヘラ)	R-003	1	10.4	1.3	8.5	-	-

## S-50下層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	4	16.7	3.5			?
2	〃	R-003	5	15.7	3.9			?

## S-55上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-004		-	2.0+	8.7	-	-
2	坏a	R-007		-	1.5+	8.1	-	-
3	〃	R-008		-	1.7+	8.4	-	-

## S-60

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-002		-	1.3+	6.2		
2	〃	R-003		-	1.9+	7.9		

## S-85上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-001	22	-	1.9+	7.1		

## S-86

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏(搬入)	R-001	23	-	2.5+	6.2	?	-

## S-87下層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	大坏c×大皿c	R-005		-	1.5+	17.4	-	-

## S-93

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	2	15.0	3.6			○
2	坏×丸底坏	R-002	3	15.0	2.0+			

## S-95上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		15.4	3.1+			
2	〃	R-002		15.4	2.5+			
3	小皿a(ヘラ)	R-003		10.0	1.5	7.1	○	×
4	〃	R-004		9.6	1.1	7.3	?	-

## S-103

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001		-	1.5+	8.2	?	-
2	小皿a(ヘラ)	R-002		9.2	1.0	6.6	○	-

## S-110上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-009	3	16.0	2.1	12.9		

## S-121

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	4	14.6	3.3+			

## S-125上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏	R-001	9	14.0	2.1+		-	-

## S-137

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-001	5	15.4	3.8	8.1		

表土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	9.6	1.5	7.0	○	○
2	〃	R-009	2	9.1	1.5	6.0	○	○
3	〃	R-010	3	9.4	1.7	6.6	○	○
4	〃	R-011	4	9.5	1.2	7.4	○	○
5	〃	R-012	5	9.8	1.3	6.0	○	○
6	〃	R-013	6	9.3	1.3	6.9	○	○
7	〃	R-014	7	9.0	1.2	6.7	○	○
8	〃	R-021	8	10.2	1.4	7.4		
9	〃	R-022	9	9.7	1.5	7.7		
10	〃	R-028	10	9.6	1.7	8.1	○?	○
11	坏d	R-002	11	14.8	3.0	7.1		
12	〃	R-003	12	14.0	3.3	7.6		
13	丸底坏a	R-005	17	15.2	3.3			○
14	〃	R-006	18	18.4	4.2			○
15	〃	R-015	13	14.2	4.1			
16	〃	R-016	14	14.8	3.2			
17	〃	R-017	15	15.2	3.3			
18	〃	R-018	16	14.2	3.0			
19	碗c	R-024	21	12.7	4.5	8.2		
20	〃	R-025	22	14.4	5.1	7.4		
21	〃	R-026	20	11.4	3.3	5.7		
22	小碗c	R-027	19	7.8	3.3	4.3		
23	碗c	R-001		18.6	6.5+	-		

淡褐色土上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-001	3	-	2.0+	7.0	○	○

褐灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-008	12	15.0	2.8+	-		

第65次  
S-1上層

出土遺物一覽

須 惠 器	坏c、蓋1、蓋3、皿a、蓋、坏a、坏、甕、平瓶 坏×皿
土 師 器	坏a[1]、丸底坏c(1)、小椀c[2]、丸底坏a[34](11)、椀a 蓋3、椀c[1]、小皿a(へラ)[77](67)、皿a、小皿a2[1](1) 高台(5)、甕(58)、器台[1]、把手、鉢?(2)
黒色土器A	椀c(2)、片(1)
黒色土器B	椀c(5)、小皿a?片(24)
越州窯系青磁	その他 片(2)
高麗青磁	III類(1)
白 磁	椀 V(1) 皿 XI-3[1]
緑釉陶器	片(2)
灰釉陶器	皿?(1)、甕?(1)
須惠質土器	鉢(東播?) (3)
瓦	類 丸(斜格子)、平(縄目、斜格子)、文字[1]
金属製品	釘[1]

S-1下層

須 惠 器	坏c、蓋3、甕
土 師 器	丸坏a[1](4)、小皿a(へラ)[2](12)、高台(1)、片(23) 焼塩壺
黒色土器A	椀(1)
黒色土器B	椀
緑釉陶器	片(1)
瓦	類 平(縄目)

S-2

土 師 器	丸底坏、椀c
越州窯系青磁	椀 I(1)

S-3

須 惠 器	蓋c、坏
土 師 器	坏、甕

S-4

土 師 器	甕、丸底坏、片
-------	---------

S-5最上層

須 惠 器	蓋3[1]、蓋c3[1]、坏a、蓋4、甕
土 師 器	坏d[1]、坏c[1]、小壺、蓋3、丸底坏、小皿a(へラ) 甕
黒色土器B	椀c
瓦	類 平(斜格子)、片

S-5黒色土

須 惠 器	椀c[1]、皿a[1]、坏c(2)、蓋3(1)、甕
土 師 器	坏a、蓋3、小皿a(へラ)(混入)、高台、甕[1]
瓦	類 平(縄目)

S-5褐灰色土

須 惠 器	坏c(3)、蓋c、坏a[1]、蓋3(5)、壺蓋(1)、蓋4、壺、甕 坏(2)、大坏×大皿
土 師 器	坏d[1]、甕、蓋3(1)、蓋c、蓋4、坏c、片(2) 焼塩壺(16)
瓦	類 平(縄目)
土 製品	焼土塊

S-5淡褐灰色土

須 惠 器	椀a[1]、坏a[1]、皿a[1]、甕(1)、坏(2)、蓋1、片(3)
土 師 器	坏d[1]、甕[1]
黒色土器A	椀
瓦	類 片

S-6

土 師 器	片
-------	---

S-7

須 惠 器	坏(1)、甕
土 師 器	坏c[1]、蓋3、甕

S-8

須 惠 器	片
土 師 器	坏a、甕、皿a(1)

S-9

須 惠 器	坏(1)、壺、蓋3(2)
土 師 器	坏(1)、甕

S-10最上層

須 惠 器	壺、甕、坏×皿、蓋3
土 師 器	坏c、坏a、甕、小皿a(へラ)(4)
瓦	類 平(縄目?)

S-10下層

須 惠 器	坏、蓋3(1)、蓋、壺b、高坏×坏a、甕
白 磁	椀 IV?(1)

S-11

須 惠 器	片
土 師 器	片

S-12

須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	坏a、甕、高坏(1)、小皿a(へラ)

S-12下層

須 惠 器	坏、蓋c、甕
土 師 器	坏、蓋c、甕 焼塩壺

S-13

須 惠 器	坏(1)、甕
土 師 器	坏、甕、片
土 製品	焼土塊

S-14

土 師 器	片(4)
黒色土器A	坏a(1)

S-15

須 惠 器	坏、蓋3(2)、甕、高坏
土 師 器	坏、甕

S-16

須 惠 器	皿a、甕
土 師 器	坏a(へラ)(1)、小皿a(1)、丸底坏?(2)、甕、片(2)
白 磁	椀 II(1) 皿 V-2(1)

S-17

須 惠 器	蓋3、片
土 師 器	坏、丸底坏、甕
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀 I(1)
白 磁	その他 II系(1)

## S-18

須惠器	甕、蓋3(2)、坏、蓋1、坏c(1)、片
土師器	小皿a、丸底坏a(1)、坏d(1)、坏、皿、高台、甕、片 烧塩壺(4)
緑釉陶器	片(1)
瓦類	片
土製品	烧土塊

## S-19

須惠器	蓋
土師器	坏、甕
越州窯系青磁	碗 II(1)

## S-20

須惠器	皿a1(1)、蓋c、蓋3、蓋4(1)、坏c、甕、大甕b(1)、片
土師器	蓋3(2)、蓋c、坏(1)、甕、高台、カマド
灰釉陶器	片(1)
石製品	石斧×敲石[1]

## S-21

須惠器	甕
土師器	坏
白磁	碗 XIII(1)
瓦類	片

## S-22

須惠器	坏、甕
土師器	小皿a(へラ)(1)、片

## S-24

須惠器	蓋3、壺、蓋c、皿
土師器	甕、碗c
瓦類	平(斜格子)

## S-25上層

須惠器	蓋3(1)、坏
土師器	坏a(1)、碗a? 甕 烧塩壺(1)

## S-25

須惠器	坏c、坏、蓋、甕
土師器	坏、小甕?(1)、甕

## S-25柱痕

須惠器	蓋3(2)、坏
土師器	甕、坏(1) 烧塩壺(1)

## S-25埋土

須惠器	片
土師器	甕

## S-26

土師器	片
-----	---

## S-27

須惠器	甕、坏
土師器	小皿a(へラ)(1)、丸底坏、甕、高台

## S-28

須惠器	片
土師器	甕、坏
黑色土器A	片

## S-29

土師器	片
-----	---

## S-30

須惠器	坏c、壺、甕、蓋2、蓋3、鉢、坏
土師器	丸底坏a1(1)(1)、小皿a(へラ)(3)、甕、高台
黑色土器B	碗c、片
白磁	その他 II系(1)
青白磁	皿(1)
瓦類	丸(縄目)
金属製品	不明鉄製品(2)

## S-31

須惠器	片
土師器	坏a(へラ)、坏d
瓦類	平(縄目)

## S-32

須惠器	坏
土師器	甕、片
黑色土器B	片

## S-33

須惠器	坏、蓋
土師器	甕、坏c、碗c、器台、蓋c

## S-33下層

須惠器	甕
土師器	片

## S-34

須惠器	甕、蓋3、坏
土師器	甕、片

## S-35上層

須惠器	蓋3×高坏(1)、皿?(1)
土師器	甕、碗c、片

## S-35柱痕

土師器	坏×皿、坏
-----	-------

## S-35埋土

須惠器	蓋4(1)、甕
土師器	坏、甕

## S-36

土師器	甕
-----	---

## S-37

須惠器	坏a、甕
土師器	坏a、小皿a(へラ)、甕
黑色土器A	片
黑色土器B	片

## S-38

須惠器	坏c、坏、蓋c
土師器	甕、坏
瓦類	平(縄目)

## S-39

須惠器	片
土師器	片

## S-40上層

須 惠 器	坏c、蓋3、壺、坏a、鉢、高坏、甕
土 師 器	丸底坏a[2](7)、小皿a(へラ)[2](3)、坏a(1)、碗×坏 高台(1)、脚、三脚付鉢(1)、皿a、甕 烧塩壺(2)
黒色土器A	碗c、片
黒色土器B	碗c、片
越州窯系青磁	碗 I(1)、I-2(1)
	皿 II(1)
白 磁	碗 II-1(2)、II-5(1)、II系(4)、XI-1?(1)、IV(1) IV×XI-1(1)、IV-c(1)、IV~VIII(1) その他 II系(3)片(2)
緑釉陶器	皿(1)
灰釉陶器	山茶碗?(1)
瓦 類	平(斜格子? 格子)
土 製 品	管状土錘(1)
そ の 他	炭

## S-40中層

須 惠 器	坏c、蓋c、蓋3、甕、壺、坏
土 師 器	小皿a(へラ)[4](3)、坏a(1)、丸底坏a(3)、甕、蓋4 高台、火舎、把手 烧塩壺(1)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
白 磁	碗 II-1(3)、IV(2)、V-2(1)
中国陶器	四耳壺II; E?a'b'(1)
石 製 品	オハジキ(1)

## S-40下層

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	高台、碗c、丸底坏、甕
黒色土器B	片

## S-41

須 惠 器	坏a、甕
土 師 器	坏、甕、片

## S-42

土 師 器	片
-------	---

## S-43

須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	片
白 磁	碗 XII(1)
	皿 II(1)

## S-44

土 師 器	片
越州窯系青磁	碗 I-2(1)
白 磁	碗 IV(1)

## S-45上層

須 惠 器	坏、甕、蓋3、蓋4
土 師 器	坏、甕
瓦 類	平(縄目)

## S-45柱裏

須 惠 器	甕、壺、皿、蓋4
土 師 器	坏a(1)、坏
黒色土器A	片

## S-45掘り方

須 惠 器	坏、蓋3、蓋c、壺、甕
土 師 器	坏d(1)、皿a(1)、甕
瓦 類	片(縄目)

## S-46

須 惠 器	坏a、短頸壺、片
土 師 器	坏、甕

## S-47

須 惠 器	蓋3、坏×皿、片
土 師 器	蓋、甕、坏、片(1) 烧塩壺(4)

## S-48

須 惠 器	坏、蓋c3(1)、蓋3(3)
土 師 器	碗c、甕

## S-48下層

土 師 器	坏a
-------	----

## S-49

須 惠 器	坏
土 師 器	甕

## S-50上層

須 惠 器	蓋1、蓋3、坏c、高坏脚、甕
土 師 器	丸底坏a(2)、小皿a(へラ)(1)、小皿c、蓋c、碗c、甕 烧塩壺(1)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I(1)
白 磁	碗 II(1)
瓦 類	平(斜格子、縄目)

## S-50下層

須 惠 器	蓋3、蓋4、蓋c、壺、坏c、坏、甕
土 師 器	甕、丸底坏a(3)、高台、坏、蓋3、坏d、坏c×皿c
黒色土器A	高台
黒色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 I(1)、I-2(1)、I-2ア(1)、I-2イ(1)
瓦 類	丸(斜格子)
石 製 品	砥石?(1)、滑石鍋の再利用品?(1)

## S-51

土 師 器	甕、片
-------	-----

## S-52

土 師 器	丸底坏、片
-------	-------

## S-53

土 師 器	丸底坏、小皿a
白 磁	その他 片(1)

## S-54

土 師 器	甕、片
-------	-----

## S-55上層

須 惠 器	甕、坏a、蓋3(1)、壺(1)、皿a(1)、坏d、蓋c
土 師 器	皿×坏a(1)、蓋3(1)、坏d(3)、坏a(4)、丸底坏(1) 高台、小皿a(1)、坏(3)、甕(1)、片(6)
石 製 品	オハジキ?

## S-55柱痕

須惠器	蓋、片
土師器	坏×皿、甕

## S-55埋土

須惠器	坏
土師器	甕、片

## S-56

須惠器	甕、片
土師器	大坏×大皿、甕、坏a(ヘラ)

## S-57

須惠器	大坏c×大皿c、坏a、坏c、蓋2、甕
土師器	甕、片
瓦類	平(縄目)

## S-58

須惠器	坏c
土師器	片

## S-59

土師器	坏
-----	---

## S-60

須惠器	壺、鉢b(1)、坏×皿、甕
土師器	坏d(2)、甕、片
	燒塩壺
瓦類	平(縄目)

## S-61

須惠器	皿a、甕
土師器	坏×小皿a

## S-62

須惠器	片(1)
土師器	丸底坏(1)、片(14)

## S-63

須惠器	坏、甕
土師器	丸底坏、甕、片
	燒塩壺

## S-64

須惠器	甕、坏×皿
土師器	甕、坏
	燒塩壺

## S-65柱痕

須惠器	蓋3
土師器	坏

## S-65埋土

須惠器	皿a(1)、坏c(1)、甕、蓋3、蓋c、蓋1、皿×坏
土師器	甕、坏
瓦類	片(縄目、斜格子)
土製品	燒土塊

## S-65上層

須惠器	坏、甕
土師器	坏d、甕、坏
黑色土器B	片

## S-66

須惠器	片
土師器	片

## S-67

須惠器	坏d
土師器	片

## S-68

須惠器	坏a、蓋3、甕
土師器	坏、甕
	燒塩壺
瓦類	片(斜格子)

## S-69

土師器	片
-----	---

## S-70上層

須惠器	坏×碗(1)、蓋、小壺
土師器	皿b(1)、甕
瓦類	平(斜格子、縄目)
石製品	オハジキ

## S-70

土師器	坏、甕
-----	-----

## S-71

須惠器	甕
土師器	丸底坏a、坏

## S-72

須惠器	甕
土師器	片
越州窯系青磁	皿 II(1)
白磁	碗 IV(1)

## S-73

須惠器	甕
土師器	坏、坏a(1)、甕、高台(1)、片(3)
瓦類	片(縄目、斜格子)

## S-74

須惠器	坏×皿、甕
土師器	坏、甕

## S-75

須惠器	坏c(1)、皿a、蓋3(4)、甕、坏
土師器	大坏c、坏d(1)、坏、甕
	燒塩壺
瓦類	片
土製品	燒土塊

## S-75柱痕

須惠器	坏×皿、片
土師器	甕、片

## S-75埋土

須惠器	坏c
土師器	坏×皿、甕、片

## S-76

須惠器	片
土師器	甕、片

## S-77

須 惠 器	坏、坏a×皿a、高坏脚? 甕
土 師 器	坏c、甕
黒色土器 B	碗c?

## S-78

須 惠 器	坏c、壺、蓋4、碗c(1)、甕、坏×皿
土 師 器	坏a、坏d(1)、皿a、甕、蓋?(1)、蓋3、碗c
黒色土器 A	片
越州窯系青磁	碗 I(1)
灰釉陶器	壺(1)

## S-79

須 惠 器	甕、長頸壺、坏×皿
-------	-----------

## S-80上層

須 惠 器	小坏a(1)、坏、蓋3
土 師 器	坏?

## S-80柱痕

須 惠 器	坏×皿、片
土 師 器	坏c、甕

## S-80埋土

須 惠 器	蓋3(1)、坏、甕、坏×皿
土 師 器	蓋3、蓋、甕、片

## S-81

須 惠 器	鉢(1)、蓋(1)、坏、蓋3(3)、壺、甕
土 師 器	坏c、坏a×皿a、カマド、丸底坏a、甕
	焼塩壺(2)

## S-81上層

須 惠 器	甕、坏、坏c
土 師 器	坏、碗c、甕

## S-81下層

須 惠 器	坏d?、坏c、坏
土 師 器	壺、坏、甕
瓦 類	片

## S-82

須 惠 器	蓋1、甕
土 師 器	丸底坏、坏d、甕
白 磁	碗 II-4×5(1)

## S-83

須 惠 器	坏(1)、甕
土 師 器	高台、甕
土 製 品	焼土塊

## S-84

土 師 器	甕
-------	---

## S-85

須 惠 器	壺(1)
土 師 器	焼塩壺

## S-85上層

須 惠 器	皿a(2)、蓋c、蓋3、大皿c
土 師 器	坏d、甕
	焼塩壺(3)
そ の 他	炭

## S-86

須 惠 器	蓋c、蓋3、坏
土 師 器	坏

## S-86中層

須 惠 器	坏c、蓋2、壺、甕
土 師 器	甕、把手、皿×坏
	焼塩壺

## S-86下層

須 惠 器	坏、甕
土 師 器	坏、甕、高坏脚(赤色顔料塗布?)
石 製 品	安山岩

## S-87

須 惠 器	坏(1)、蓋3、壺
土 師 器	坏(1)、甕、片(4)
	焼塩壺(1)
白 磁	碗 IV~VIII(1)

## S-87柱痕

土 師 器	片
-------	---

## S-87埋土

須 惠 器	坏(1)、蓋
土 師 器	甕、片
	焼塩壺(2)

## S-87下層

須 惠 器	坏c(2)、蓋3(1)、皿a(1)、坏
土 師 器	坏、大坏c×大皿、甕
	焼塩壺(1)

## S-88

須 惠 器	坏a、蓋3
土 師 器	片
瓦 類	平(縄目)

## S-89

須 惠 器	壺、蓋3、甕
土 師 器	碗c、小皿a、坏、甕、片
瓦 類	平(縄目)

## S-90上層

須 惠 器	坏(1)、壺(1)、甕、坏×皿
土 師 器	片
瓦 類	平(縄目)

## S-91

須 惠 器	甕、坏×皿
土 師 器	小皿a、丸底坏、坏a、甕
黒色土器 B	碗c
瓦 類	丸(斜格子)、片(縄目)

## S-92

須 惠 器	甕、坏×皿
土 師 器	坏×皿、高台
黒色土器 A	片

## S-93

須 惠 器	坏c、蓋3、甕、坏
土 師 器	丸底坏(2)、皿、小皿a、甕、高坏脚、坏
黒色土器 B	片

S-94

土師器	坏、甕
-----	-----

S-95上層

須惠器	坏a、蓋3、蓋c、坏、鉢(1)、皿
土師器	丸底坏(2)、坏a、小皿a(へラ)(3)、坏d、大皿×大坏高台、高坏脚?、坏、甕
黑色土器A	片
黑色土器B	高台、片
白磁	碗 IV~VIII(1)
	皿 II×III×VIII(1)
瓦類	平(細目)

S-95下層

須惠器	坏a、坏c、坏(1)、蓋、蓋3、蓋4、壺、甕、皿×大坏
土師器	坏、甕、高坏、蓋4、蓋c、皿×坏、蓋3(1) 焼塩壺(3)
白磁	碗 IV(1)(混入?)
瓦類	片
石製品	オハジキ(1)、黒曜石(1)

S-96

須惠器	片
土師器	甕、坏

S-97

須惠器	片
土師器	坏a×小皿a、蓋1、片
黑色土器A	碗c

S-98

須惠器	蓋2、坏×皿、蓋
土師器	甕、片 焼塩壺

S-99

須惠器	坏、甕、蓋
土師器	坏a、甕、壺
瓦類	片

S-100上層

土師器	坏a
-----	----

S-100柱痕

須惠器	坏(1)、皿(1)、壺(1)
土師器	甕(1)

S-100埋土

須惠器	甕
土師器	片

S-101

須惠器	高台
土師器	甕、坏

S-102

須惠器	坏c(1)、坏(1)
土師器	甕、坏

S-103

須惠器	坏c、甕
土師器	小皿a(へラ)(1)、坏a(へラ)(1)、甕、片

S-104

須惠器	蓋3、坏
土師器	高台、片

S-105上層

須惠器	蓋3、坏
土師器	甕、片

S-105

須惠器	蓋c
土師器	片

S-105下層

土師器	坏×皿、甕
-----	-------

S-106

土師器	片
白磁	碗 II-5(1)

S-107

須惠器	坏c(1)、坏(1)、鉢
土師器	坏、蓋c、甕
黑色土器A	片

S-108

須惠器	坏
土師器	碗c、片
金属製品	刀子(1)

S-109

土師器	片
-----	---

S-110上層

須惠器	坏a、坏c(2)、皿a(1)、蓋2、壺、蓋3(4)、鉢a(1)、蓋1 甕
土師器	坏a、蓋?、大坏c×大皿c、坏、皿a(1)、壺(1)、蓋3(1) 蓋4(1)、高台、カマド、高坏×皿a(1)甕、大坏×大皿 焼塩壺(3)
瓦類	平(斜格子)
石製品	オハジキ(1)
土製品	焼土塊

S-110

須惠器	蓋c、坏c(2)、坏(1)、甕
土師器	片

S-110下層

須惠器	蓋3、坏、甕、坏d?
土師器	坏a、坏d、カマド、皿×坏、高坏? 蓋c、甕
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器片(1)

S-111

土師器	片
-----	---

S-112上層

土師器	甕
-----	---

S-112

須惠器	坏
土師器	片

## S-112埋土

須惠器	小蓋a(1)、皿a(1)、坏c
土師器	高台(1)、甕、片(1)

## S-113

須惠器	蓋2
土師器	片

## S-114

須惠器	壺
土師器	片

## S-115上層

須惠器	片
土師器	片

## S-115柱痕

須惠器	蓋3(1)、坏(1)、片(1)
土師器	甕(1)、片(2)

## S-115埋土

土師器	甕
-----	---

## S-116

須惠器	甕
土師器	甕、片
瓦類	片

## S-117

須惠器	片
土師器	片

## S-118

須惠器	蓋、甕
土師器	坏
瓦類	片

## S-119

須惠器	坏c、甕
土師器	坏、坏×皿、甕

## S-120上層

須惠器	片
土師器	片

## S-120下層

須惠器	片
-----	---

## S-120

土師器	坏
-----	---

## S-121

須惠器	壺、甕
土師器	丸底坏a、高台、坏、片

## S-123

須惠器	片
土師器	片
	燒塩壺

## S-124上層

須惠器	甕、片
土師器	鉢、甕、坏

## S-125上層

須惠器	片
土師器	坏(1)、甕

## S-125

須惠器	蓋c(1)、蓋3(1)、器台×鉢(1)、蓋1(2)、壺(1)
土師器	甕、片
越州窯系青磁	椀 II-1b(1)
土製品	燒土塊

## S-126上層

須惠器	蓋3、片
-----	------

## S-126

須惠器	坏a、坏c、蓋3、蓋c、甕
土師器	坏、甕
	燒塩壺

## S-127

土師器	坏、片
-----	-----

## S-128

須惠器	坏a、高坏
土師器	丸底坏
瓦類	平

## S-129

土師器	片
-----	---

## S-130上層

須惠器	壺、片
土師器	坏(1)、甕、坏×皿、蓋3(1)、片(2)

## S-130柱痕

土師器	甕、片
-----	-----

## S-131

土師器	甕
-----	---

## S-132

土師器	甕
-----	---

## S-133

須惠器	坏、甕
土師器	甕、片
白磁	椀 IV(1)

## S-134

須惠器	甕
土師器	高台、片
金屬製品	釘(1)

## S-135

須惠器	坏(1)
土師器	甕[2]、片(1)
瓦類	片(斜格子)(1)
その他	炭

## S-136

須惠器	片
土師器	片

## S-137

須 惠 器	坏
土 師 器	坏d(1)、坏(1)、甕
瓦	類 平(縄目)、片
石 製 品	軽石(1)

## S-138

須 惠 器	坏
土 師 器	碗c×坏c、甕
瓦	類 片

## S-139上層

須 惠 器	坏a
土 師 器	坏、甕、片

## S-139

須 惠 器	蓋3、皿a(1)
土 師 器	坏、甕、坏d? 片
	焼塩壺

## S-140

白	磁	その他 II系片(混入)(1)
---	---	-----------------

## S-140上層

須 惠 器	坏c(1)、皿、片
土 師 器	坏d?(1)、坏(2)、甕、片
瓦	類 平(斜格子)

## S-140埋土

須 惠 器	蓋、蓋1(1)、甕、坏×皿、片
土 師 器	碗c(1)、甕、片

## S-141

須 惠 器	蓋3、蓋c
土 師 器	片
石 製 品	石鱗、黒曜石(1)

## S-142

土 師 器	甕、坏
-------	-----

## S-143

須 惠 器	皿
土 師 器	坏、甕
瓦	類 片

## S-144

須 惠 器	蓋3、壺
土 師 器	皿×坏、片

## S-146

須 惠 器	蓋3(1)、坏×皿、坏
土 師 器	小壺(1)、皿、甕、坏×皿

## S-147

須 惠 器	蓋1
土 師 器	甕、片

## S-148

須 惠 器	甕、坏×皿、坏、壺、蓋
土 師 器	丸底坏、坏×皿、坏、甕、脚付鉢?
	焼塩壺

## S-149

須 惠 器	甕
土 師 器	坏

## S-150

須 惠 器	蓋1(3)、坏(1)、皿(1)、壺(1)、坏a(1)、壺×甕(1)
土 師 器	坏(2)、甕、皿(1)、皿×碗(1)、甗(1)、片(9)
瓦	類 平(斜格子)(1)
石 製 品	砥石(1)

## S-150上層

須 惠 器	蓋1(1)
土 師 器	片

## S-151

須 惠 器	蓋3、坏、片
土 師 器	蓋、甕、坏、蓋1、片

## S-152

須 惠 器	坏
土 師 器	坏、片

## S-153

須 惠 器	片
土 師 器	坏、甕

## S-154

土 師 器	片
-------	---

## S-156

須 惠 器	坏c、蓋、坏
土 師 器	蓋4、甕、高台、坏a×皿a

## S-157

須 惠 器	蓋3(1)、蓋2(1)、坏、片
土 師 器	甕、片
	焼塩壺(2)

## 淡褐色土

須 惠 器	坏c(1)、壺、甕	
土 師 器	大坏×大皿、甕	
白	磁	その他 II系片(1)

## 淡褐色土上層

須 惠 器	蓋c、蓋3(5)、坏(2)、壺、坏c(1)、蓋(1)、坏a×皿a
	甕(1)、碗a(1)、蓋1
土 師 器	坏a(1)、蓋3(1)、甕、坏d(1)、碗c(1)、高坏、坏
	大皿×大坏、蓋4(1)
	焼塩壺
瓦	類 平(縄目、布目)、片
石 製 品	滑石(1)、オハジキ[1]
そ の 他	炭

## 淡褐色土

須 惠 器	坏、甕、蓋、蓋3、片
土 師 器	甕、坏、カマド? 高台、皿c×坏c

## 褐色土

須 惠 器	蓋3(5)、蓋4、坏c(2)、碗c(1)、小壺、坏×皿(1)、甕
土 師 器	坏d?(1)、甕、高台?
	焼塩壺(1)
瓦	類 平(縄目)
そ の 他	炭

表土

須惠器	坏c[1]、蓋1、蓋2、蓋3、蓋4、皿a、坏a[1]、坏(1) 壺[1](1)、壺b(2)、蓋c3[1]、壺d、小壺蓋、短頸壺、鉢 把手、甕(1)、高坏
土師器	小皿a[10](10)、碗c [3]、坏c、坏a(へラ)、坏d、碗 丸底坏a[6]、カマド? 火舎、大皿×大坏、高坏、皿a 把手、小皿a2、蓋c、坏d[2]、小碗c[1]、鉢[1]、蓋2 器台、小壺、甕、皿b、丸底坏c、碗[1] 焼塩壺(5)
黒色土器A	碗c、片
黒色土器B	碗c、坏a、小皿a、片
越州窯系青磁	碗 I(19)、I?(1)、I-1a(2)、I-1(1)、I-2(2)、I-1b(1) II(4)、II-1b(1)、II-3(1)、II?(1) 皿 II(1) その他 坏(1)、壺I(1)、蓋(1)
龍泉窯系青磁	碗 I(3)、I-5b(1)、IV?(1)、片(3) その他 III×近世?(1) 碗 III(2)
同安窯系青磁	皿 I(2)、片(1) その他 片(白磁的)(1)
長沙窯系青磁	長沙?壺類(1)
高麗青磁	I?(1)、III(3)、象嵌(1)、片(1)
白磁	I?(1)、I(14)、I-1(1)、II(7)、II-1(19)、II-3(1) II-5(7)、IV(40)、IV?(2)、IV-1a[1]、V(5) V?(1)、V-1(7)、V-1?(3)、V-2(5)、V-2?(1) 碗 V-2b(4)、V-3(3)、V-4(1)、IV×V(1)、XII?(1) IV~VII(4)、IV~VIII(18)、IV×XI-1(1) V~VII(1)、V~VIII(3)、V-2×VII(1)、XII(4) VIII(2)、VIII-2(1)、XI-1(1)、XIII(4) XIII-1b(1) 皿 II(1)、II?(1)、II-1a[1](2)、II-3?(1)、XI-1(1) XI-3×4(1)、IV(1)、V(1)、V-2(2)、V~VII(3) VI(2)、VII(1)、VII-2(2)、VIII(1)、VIII?(1) IX(1) その他 I壺(1)、II系片(20)、III系水注×壺(1) 水注(1)、片(64)
青白磁	片(1)
緑釉陶器	片(1)
灰釉陶器	小碗c(1)、皿(1)、灰?片(1)、片(4)
土師質土器	鉢?(1)
須惠質土器	鉢(東播)(4)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器片(9)
中国陶器	耳壺; XII-2(1) 壺類; A'ab(1) 黒褐釉; 小壺(1) 褐釉; 国産×中国?(3)
国産陶器	常滑; 鉢?(1)、常滑?片(2) 唐津; 唐津?片(1) 近世; 片(甕、壺、摺鉢、蓋)(19)、近世?片(3) 不明; 片(1)
国産磁器	近世肥前系磁器(染付、白磁、多色)(13)
瓦類	平(斜格子、縄目)、丸
金属製品	釘(8)、鉄斧[1]、不明(2)
石製品	砥石(2)、黒曜石、滑石(7)、磨り石(1)、石器、軽石 砥石?(1)、その他石片(2)
土製品	管状土錘(須惠器)、権(瓦転用?) (2)、紡錘車(1)
その他	炭

## Z

須惠器	坏a、蓋3、皿a、蓋2、壺、甕、坏c、蓋1、蓋c、鉢
土師器	甕、坏d、小皿a(へラ)、丸底坏、碗c、蓋c 焼塩壺(1)
黒色土器B	片
国産陶器	近世片
瓦類	平(斜格子、文字(1))、丸(斜格子)
土製品	焼土塊

遺構番号対照表

第81次

S-番号	遺構番号								
1	SE001	51		101		151		201	
2		52		102	SX102	152		202	
3		53	SX053	103	SX103	153		203	
4		54		104	SX104	154		204	SX204
5				105	SE105	155			
6		56		106		156		206	
7		57	SX053	107		157		207	
8		58		108		158		208	
9		59	SX059	109		159		209	
		60	SE060	110	SD110	160	SE160	210	SX220
11		61	SK061	111		161		211	
12		62		112		162		212	SX212
13		63		113		163		213	
14		64	SK064	114		164		214	
15				115		165	SD165		
16		66	SE066	116		166		216	
17	SX017	67		117	SX117	167		217	SX217
18		68		118		168		218	
19		69	SX069	119		169		219	
		70	SK070	120	SK120	170	SK170	220	SX220
21		71		121		171		221	
22		72		122		172		222	
23	SX023	73		123		173		223	
24		74		124		174		224	
25	SK025			125	SE140	175	SX175	225	SX225
26		76		126		176		226	
27		77		127		177		227	
28		78		128		178		228	
29		79		129	SX129	179		229	
30	SD030			130	SK130	180	SX180	230	SX230
31		81	SX081	131		181		231	
32		82		132		182		232	
33		83		133		183		233	
34		84		134		184		234	
35				135	SK135	185	SD110	235	SX235
36		86		136		186	SK170	236	
37		87		137		187		237	
38		88		138		188		238	
39		89		139		189		239	
		90		140	SE140			240	SE240
41		91	SX091	141		191		241	
42	SX042	92		142		192		242	
43		93		143		193		243	SX243
44		94		144		194		244	SX244
				145				245	SD245
46		96		146		196		246	
47	SX047	97		147		197		247	
48		98		148		198		248	
49		99		149		199		249	
		100	SD100	150	SX150	200	SX200	250	

S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号
251		301		茶褐色土	
252		302		暗茶色土	
		303		灰褐色土	明灰色土
254		304		明灰色土	
255				表土	
256		306			
257		307			
258		308			
259		309			
260		310			
261		311			
		312			
263	SX263	313			
264		314			
265		315	SK315		
266		316			
267		317			
268		318			
269		319			
270					
271		321			
272		322			
273		323			
274		324			
275	SD275				
276		326			
277		327			
278		328			
279		329			
280					
281		331			
282					
283					
284		401			
285	SD285	402			
286		403			
287		404			
288					
289		406			
		407			
291		408			
292		409			
293					
294		411			
295		412			
296					
297		414			
298		415			
299		416			
300		417			

# 法 量 表

第81次

S-1暗灰色土

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	5	10.1	1.5	7.5	○	○
2	〃	R-002	1	9.1	1.3	5.7	○	○
3	〃	R-003	12	9.9	1.5	6.8	○	×
4	〃	R-004	10	9.8	1.1	6.8	○	○
5	〃	R-005	6	9.7	1.2	7.4	○	○
6	〃	R-006	4	9.8	1.5	6.3	○	○
7	〃	R-007	3	9.6	1.6	7.1	○	○
8	〃	R-008	13	10.0	1.5	7.9	○	○
9	〃	R-009	8	9.6	1.4	6.7	○	-
10	〃	R-010	16	10.2	1.2	7.7	○	○
11	〃	R-011	2	9.6	1.4	6.8	○	○
12	〃	a-1		9.6	1.0	7.6	○	○
13	〃	a-2		9.8	1.4	6.8	○	?
14	〃	a-3		10.4	1.3	7.4	○	?
15	〃	a-4		10.4	0.8	7.2	?	?
16	〃	a-5		10.4	1.5	8.4	○	○
17	〃	a-6		9.8	1.0	6.8	?	○
18	〃	a-7		10.0	1.0	7.6	?	○
19	〃	a-8		10.2	1.2	7.8	○	○
20	〃	a-9		10.2	1.7	7.6	○	○
21	〃	a-10		10.4	1.3	7.8	○	○
22	〃	a-11		10.2	1.2	7.8	○	○
23	〃	a-12		10.4	0.9	8.0	○	○
24	〃	a-13		11.2	1.2	9.2	○	?
25	〃	a-14		10.0	1.1	7.6	?	○
26	〃	a-15		10.2	1.1	7.8	○	○
27	〃	a-16		10.6	1.2	8.2	○	?
28	〃	a-17		10.2	1.1	7.8	○	?
29	〃	a-18		10.6	1.1	8.0	○	○
30	〃	a-19		10.2	1.2	7.4	○	?
31	〃	a-20		9.8	1.2	7.2	?	?
32	〃	a-21		11.2	1.2	7.6	○	?
33	〃	a-22		10.4	1.3	8.2	○	○
34	〃	a-23		10.0	1.2	7.0	○	?
35	〃	a-24		10.2	1.4	7.6	?	?
36	〃	a-25		9.8	1.2	7.8	○	?
37	〃	a-26		10.2	1.2	8.2	○	?
38	〃	a-27		10.0	1.3	7.4	?	?
39	〃	a-28		10.2	1.0	7.2	?	?
40	〃	a-29		10.4	1.6	8.0	○	○
41	〃	a-30		10.0	1.4	7.4	○	?
42	〃	a-31		9.6	1.1	6.8	?	?
43	〃	a-32		10.4	1.0	7.4	○	○
44	〃	a-33		10.2	1.1	7.8	?	?
45	〃	a-34		9.8	0.9	6.8	?	?
46	丸底坏a	R-012	17	15.4	3.4		○	
47	〃	R-013	25	18.8	4.7		○	
48	〃	R-014	21	16.0	3.2		○	
49	〃	R-015	20	15.6	3.8		?	
50	〃	R-016	24	16.8	3.9		○	
51	〃	R-017	19	15.6	3.6		?	
52	〃	R-018	18	15.6	3.8		○	
53	〃	R-019	22	16.8	3.7		○	
54	〃	R-020	23	17.0	3.7		○	
55	〃	a-1		16.2	3.4+			
56	丸底坏c	R-021	26	15.0	4.5			
57	〃	R-022		16.8	5.4			

S-1灰茶色粘土

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	碗c	R-001	27	-	4.3+	7.0		○
2	小皿a(ヘラ)	R-002	14	10.0	1.4	7.3	○	
3	〃	R-003	11	10.0	1.2	7.4	○	○

S-1暗茶灰色土

A	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	7	9.6	1.1	8.0	○	×
2	〃	R-002	9	9.8	1.0	7.6	○	○

S-1暗灰色土

A	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	15	10.2	1.4	7.6	○	○

S-5

A	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿c	R-001		11.7	2.4	7.0	?	
2	小皿a(ヘラ)	R-002		9.6	1.3	7.2	○	○

S-17

A	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	2	9.6	1.4	7.4	○	○
2	〃	R-005	1	9.0	1.0	7.2	○	-
3	〃	a-1		9.6	0.9	7.6	○	
4	小皿a2	R-006	4	11.8	0.8	8.4	×	×
5	小皿a(糸)	R-007	3	9.4	0.8	7.4	○	×
6	丸底坏a	R-002	5	14.8	3.1			-

S-23

A	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-001	9	12.0	2.6			-
2	小皿a(ヘラ)	R-002	8	10.0	1.5	7.4	?	○
3	〃	a-1		10.0	1.0	7.6		
4	〃	a-2		10.2	1.0	7.8		

S-25

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-009	10	11.4	2.0	6.6	?	×
2	〃	R-011	9	10.4	1.6	8.2	?	×
3	〃	R-012	5	9.6	1.6	7.1	?	×
4	〃	R-013	3	9.8	1.6	7.7	?	○
5	〃	R-014	1	9.5	1.4	7.4	○	○
6	〃	R-015	8	10.0	1.4	8.0	○	○
7	〃	R-016	7	9.6	1.4	7.1	○	○
8	〃	R-017	2	9.6	1.1	6.5	○	○
9	〃	R-018	6	9.6	1.3	7.5	○	○
10	〃	R-019	4	9.6	1.3	7.1	?	○
11	〃	a-1		9.6	1.1	7.0		
12	〃	a-2		10.0	1.1	8.0	○	○
13	〃	a-3		9.6	0.9	7.6		
14	〃	a-4		10.0	1.1	7.4		
15	〃	a-5		10.0	1.1	7.2	○	○
16	〃	a-6		10.2	0.7	8.2		
17	〃	a-7		10.0	0.9	7.2	○	○
18	〃	a-8		10.2	1.2	7.8	○	○
19	〃	a-9		10.4	0.9	8.2	○	○
20	〃	a-10		9.0	1.0	6.0		○
21	〃	a-11		10.0	0.8	7.6		○
22	〃	a-12		10.8	1.0	8.6	○	○
23	〃	a-13		9.0	0.7	6.8	○	○
24	〃	a-14		10.0	1.2	7.4	○	○

25	〃	a-15	10.0	1.3	8.0			○
26	〃	a-16	9.0	0.7	6.4			
27	〃	a-17	10.4	0.8	8.2			
28	〃	a-18	11.0	1.4	8.4			
29	〃	a-19	11.6	1.2	9.0			○
30	〃	a-20	9.6	1.0	8.0			○
31	丸底坏a	R-004	11	15.0	3.6			○
32	〃	R-005	12	15.4	3.7			-
33	〃	R-006	13	15.6	3.7			○
34	〃	R-007	14	15.6	3.8			-
35	〃	R-008	15	17.0	3.3			○
36	〃	a-1	15.4	3.2				
37	〃	a-2	15.0	3.2				
38	〃	a-3	15.4	3.5				
39	〃	a-4	16.0	3.7+				
40	〃	a-5	15.0	3.8				
41	〃	a-6	16.0	2.8+				
42	〃	a-7	15.0	2.9				
43	〃	a-8	16.0	3.8				
44	〃	a-9	14.6	3.7+				
45	〃	a-10	15.4	3.2+				
46	〃	a-11	16.0	3.7+				
47	〃	a-12	17.0	3.4+				
48	丸底坏c	R-010	16	15.7	4.9	7.0		

S-30

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	14	10.6	1.7	7.5	?	○
2	〃	R-003	13	10.0	1.2	7.7	?	-

S-36

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		14.6	3.3			×
2	〃	R-002		14.8	3.4			○
3	〃	R-003		16.0	3.3+			-
4	小皿a(ヘラ)	R-004		9.8	1.0	7.0	○	-

S-37上層

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.8	1.2	7.8	○	○
2	〃	a-1		10.0	1.0	8.2		
3	〃	a-2		8.8	1.0	7.0		
4	〃	a-3		11.2	1.5	9.2	○	○

S-41

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		9.8	2.1	7.7	○	?
2	〃	a-1		9.6	1.4	7.0		

S-42

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	10	9.6	1.3	7.2	○	○
2	〃	a-1		9.0	1.6	6.8		
3	〃	a-2		9.0	1.1	6.6	○	○
4	〃	a-3		9.6	1.1	7.6		
5	〃	a-4		10.6	0.9	8.4		
6	丸底坏a	R-002	11	15.6	3.3			-

S-43

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-002		9.8	1.3	7.8	○	○
2	〃	R-003		9.4	1.0	7.0	○	○

3	〃	R-004		9.6	1.5	7.0	○	○
4	〃	R-005		9.6	1.0	6.6	○	×
5	〃	R-006		10.6	1.1	8.4	○	○
6	〃	R-007		9.6	1.2	6.8	○	○
7	〃	a-1		9.6	1.2	7.6		
8	〃	a-2		9.6	1.2	7.6	○	○
9	〃	a-3		10.6	1.6	7.6		○
10	丸底坏a	R-001		14.2	3.8			-
11	〃	a-1		12.4	1.7+			

S-44

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		9.6	1.4	7.1	○	○

S-47

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-003	14	9.6	1.0	7.0	?	×
2	丸底坏a	R-002	15	15.0	3.3			-

S-53

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-005	4	10.0	1.2	7.2	○	○
2	〃	R-006	3	9.4	0.8	5.8	○	○
3	〃	R-007	2	9.6	1.2	6.4	○	○
4	〃	R-008	5	10.0	1.1	7.5	○	○
5	〃	a-1		9.4	1.1	7.6	?	?
6	〃	a-2		9.0	1.1	6.8	○	○
7	〃	a-3		9.4	1.0	7.0	○	-
8	丸底坏a	R-004	10	15.0	3.3			○

S-57

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-008	6	10.2	1.7	6.6	○	×
2	〃	R-009	1	9.2	1.2	7.1	○	○
3	〃	a-1		10.0	1.5	7.0	○	-
4	〃	a-2		9.6	1.0	7.0	○	-
5	〃	a-3		10.2	1.3	6.8	-	-
6	丸底坏a	R-003	9	15.0	3.0			×
7	〃	R-004	12	16.0	2.8			×
8	〃	R-005	11	15.6	3.3+			×
9	坏a	R-006	8	14.8	3.2+	9.1	○	○
10	〃	R-007	7	15.6	3.1	9.0	○	-

S-58

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.6	0.8	8.4	?	○
2	〃	R-002		10.4	1.0	7.2	○	×
3	小皿a2	R-003		11.8	1.2	7.9	?	-
4	小皿a(ヘラ)	a-1		10.0	1.1	7.9	-	-
5	〃	a-2		9.8	1.2	6.5	-	-

S-60茶灰色土

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-002	12	15.8	4.4	7.9		
2	〃	R-004	10	14.8	3.7	7.4		
3	〃	R-005	14	14.0	3.7	6.3		
4	〃	R-007	15	16.6	3.6	8.9		
5	〃	R-008	11	15.4	3.4	6.4		
6	〃	R-013	13	12.8	3.1	6.4		
7	坏a	R-006	8	13.6	3.2	8.6		
8	皿a	R-003	18	16.3	1.6	13.5		
9	〃	R-009	17	16.2	1.6	13.3		
10	蓋c	R-010		16.6	2.6+			
11	蓋	R-011		20.6	2.0+			
12	碗c	R-012		-	4.0+	10.4		

## S-60暗灰色土

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-003	19	17.4	1.0	13.2		
2	椀	R-004	9	-	-	9.6		

## S-61暗褐色土

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-005	7	11.0	2.6	6.0	-	-

## S-62

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	a-1		9.8	1.2	7.4	-	-

## S-63

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		9.2	1.3	6.6	○	?

## S-64

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	10	9.2	1.6	7.6	○	○
2	〃	R-002	2	9.2	1.1	6.8	○	○
3	〃	R-003	5	9.6	1.2	7.2	○	○
4	〃	R-004	9	10.0	1.4	8.2	○	○
5	〃	R-005	4	9.4	1.5	7.3	○	○
6	〃	R-006	7	9.0	1.6	6.9	○	○
7	〃	R-007	8	9.4	1.4	6.9	○	○
8	〃	R-008	3	9.3	1.2	6.9	○	○
9	〃	R-009	6	9.6	1.0	7.6	-	-
10	〃	R-010	11	9.4	1.3	7.0	○	○
11	〃	R-011	1	9.4	1.0	7.4	○	○
12	〃	a-1		8.4	1.0	6.6	○	○
13	〃	a-2		9.6	1.4	7.4	○	○
14	〃	a-3		9.0	0.9	6.8	○	?
15	〃	a-4		9.6	0.9	7.0	-	-
16	〃	a-5		9.6	1.5	7.0	○	○
17	〃	a-6		9.0	1.1	6.7	○	○
18	〃	a-7		8.8	1.2	6.4	○	○
19	丸底坏a	R-012	14	15.0	3.3			○
20	〃	R-013	15	15.0	3.9			○
21	〃	R-014	13	14.6	3.1			○
22	〃	R-015	12	14.0	3.2			○
23	〃	R-016	17	15.8	3.0+			-
24	〃	R-017	16	14.8	3.1			○
25	〃	a-1		16.0	2.9			-
26	〃	a-2		15.8	3.2			?
27	〃	a-3		14.6	3.1			-

## S-66黒褐色土

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	8	10.1	1.2	7.5	?	○
2	〃	R-002	9	10.4	1.2	8.1	-	-
3	〃	a-1		10.4	1.3	8.2		
4	〃	a-2		10.2	1.2	7.2		
5	小皿a 2	R-003	10	11.4	1.0	8.3	×	○
6	丸底坏c	R-004	17	15.6	3.9+	8.2		
7	丸底坏a	R-005	14	16.2	2.9+			

## S-66黒灰色土

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	7	10.2	1.1	8.2	?	×
2	丸底坏c	R-004	18	-	3.9+	8.0	×	-

## S-66

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	9.4	1.1	6.7	○	○
2	〃	R-002	5	10.1	1.2	7.9	?	○
3	〃	R-003	4	9.9	1.1	7.5	?	?
4	〃	R-004	3	10.1	1.1	7.6	○	×
5	〃	R-005	2	9.4	1.1	7.2	○	○
6	〃	R-006	6	10.0	0.9	7.5	○	○
7	中丸底坏a	R-007	12	13.3	3.3			×
8	〃	R-008	11	14.0	3.1			×
9	丸底坏a	R-009	13	16.0	4.1+			×
10	丸底坏c	R-010	15	14.7	5.4	6.6		-
11	〃	R-011	16	15.0	4.8+	-		-

## S-69

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-002	7	10.2	1.1	7.6	?	?
2	〃	a-1		9.6	1.2	7.3	?	○

## S-70

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	大椀c	R-003	29	19.0	8.0	10.2	?	○
2	坏a(ヘラ)	R-004	17	13.4	3.5	6.8	?	○
3	〃	R-005	23	13.0	3.9	7.5	○?	×
4	〃	R-006	4	13.0	3.0	6.8	○	○
5	〃	R-007	26	13.0	3.0	6.9	○	○
6	〃	R-008	24	13.0	2.9	7.4	?	×
7	〃	R-009	15	13.4	3.1	7.4	?	×
8	〃	R-010	6	13.4	2.9	7.4	×	○
9	〃	R-011	20	12.5	3.1	7.0	○	×
10	〃	R-012	21	12.6	3.1	6.7	?	×
11	〃	R-013	25	13.0	3.6	6.3	○	×
12	〃	R-014	22	12.8	3.2	7.4	?	×
13	〃	R-015	16	13.0	3.6	7.1	?	○?
14	〃	R-016	1	12.8	3.3	6.9	?	×
15	〃	R-017	18	12.8	3.3	6.7	?	×
16	〃	R-018	7	13.6	3.0	6.7	?	×
17	〃	R-019	8	13.6	3.3	8.0	○?	○
18	〃	R-020	3	12.8	3.3	7.4	○	×
19	〃	R-021	5	12.8	3.4	6.9	○	×
20	〃	R-022	13	13.2	3.5	6.9	○?	×
21	〃	R-023	11	14.0	3.3	8.8	?	×
22	〃	R-024	12	13.0	3.2	7.4	?	×
23	〃	R-025	19	12.2	3.8	6.2	?	×
24	〃	R-026	2	12.0	3.3	12.8	?	×
25	〃	R-027	10	13.0	3.6	8.0	?	×
26	〃	R-028	9	15.6	3.5	7.9	○	○
27	〃	R-030	14	13.0	3.0	6.0	-	-
28	坏d	R-029	27	14.3	3.9	7.2		
29	皿a	R-031	33	16.0	2.0	12.7	?	×
30	〃	R-032	31	14.8	1.6	10.6	?	×
31	〃	R-033	30	14.0	1.4	9.1	○	×
32	〃	R-034	32	16.0	1.5	12.8	?	×
33	椀c	R-035		-	-	9.4		

## S-74

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		14.1	3.2+			-

## S-77

A	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		16.6	3.2+			-
2	〃	a-1		16.6	2.5+			-
3	小皿a(ヘラ)	a-1		10.0	1.2+			-

## S-78

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		13.0	4.0			-

## S-79

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	碗c	R-001		-	3.9+	9.5	-	-

## S-81

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-002	10	13.2	1.8	9.3	○	-

## S-88

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		16.0	3.8			-

## S-94

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.6	1.7	8.1	?	-

## S-99

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-001		12.4	3.1+	-	-	-
2	皿a	R-002		13.0	1.6	10.1	-	-

## S-100

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-007	12	16.8	1.5	13.8	×	×

## S-102

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	7	15.9	3.5			○
2	〃	R-002	4	14.8	3.5			○
3	〃	R-003	5	15.4	3.5			○
4	〃	R-004	6	15.6	3.6			○
5	〃	a-1		14.2	3.2			-
6	〃	a-2		15.0	3.0+			-
7	小皿a(ヘラ)	R-005	3	10.4	1.3	7.6	?	?
8	〃	R-006	2	9.2	0.9	6.8	?	○
9	〃	R-007	1	8.8	1.2	5.0	○	○
10	〃	a-1		9.2	1.1	6.8	?	×
11	〃	a-2		9.0	1.1	5.6	○	○
12	〃	a-3		9.0	0.9	6.4	?	○

## S-103

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	9	9.8	1.4	7.8	?	○

## S-104

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	11	14.2	3.5			?

## S-110

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-004	11	15.0	3.8			○
2	〃	R-005	10	15.0	2.6			×
3	〃	R-006	13	15.6	3.4			○
4	〃	R-007	14	15.6	3.8+			×
5	〃	a-1		11.4	2.0+			-
6	〃	a-2		14.6	3.5+			-

7	小皿a(ヘラ)	R-008	3	9.8	1.5	7.3	○	○
8	〃	R-009	5	10.0	1.1	8.0	?	○
9	〃	R-010	4	10.0	1.2	7.7	?	○
10	〃	a-1		10.0	1.5	7.6	○	○
11	〃	a-2		10.0	1.5	7.6	○	○
12	〃	a-3		10.2	1.1+	7.7	-	-
13	〃	a-4		9.6	1.2+	7.2	-	-
14	丸底坏c	c-1		16.0	4.2+	-	-	-
15	〃	c-2		15.6	4.1+	-	-	-
16	碗c	R-011	16	15.4	5.6	6.9	-	×

## S-110下層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	12	15.0	3.3			×
2	〃	a-1		15.6	3.3+			-
3	坏a(ヘラ)	R-002		13.6	3.5	7.3	○	○
4	小皿c	R-003	9	10.2	1.4+	-	○	×
5	小皿a(ヘラ)	R-004	7	10.8	0.9	9.5	○	×
6	〃	R-005	8	10.6	1.0	8.9	○	○
7	丸底坏c?	a-2		16.6	3.5+	-		-

## S-120黒灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	16	11.0	1.5	8.3	○	○
2	〃	R-002	2	9.0	1.2	6.0	○	○
3	〃	R-003	11	11.4	1.0	8.5	○	○
4	〃	R-004	7	10.0	1.3	7.4	○	○
5	〃	R-005	5	10.0	1.4	8.0	○	○
6	〃	R-006	1	8.8	1.2	5.7	○	○
7	〃	R-007	10	11.4	1.3	8.7	○	?
8	〃	R-008	8	9.8	1.0	7.6	?	?
9	〃	R-009	15	10.4	1.4	8.3	○	○
10	〃	R-010	9	10.4	1.2	7.6	○	○
11	〃	R-011	12	10.2	1.5	8.0	○	○
12	〃	R-012	13	10.2	1.4	7.5	○	○
13	〃	R-013	3	9.4	1.5	7.5	○	○
14	〃	R-014	14	10.2	1.2	6.8	○	○
15	〃	R-015	4	9.6	1.4	7.0	○	○
16	〃	a-1		9.8	1.0+	7.5	○	-
17	丸底坏a	R-016	21	15.0	3.6			○
18	〃	R-017	27	16.4	3.9			○
19	〃	R-018	20	14.6	3.8			-
20	〃	R-019	31	16.0	3.8			○
21	〃	R-020	34	16.0	3.4			○
22	〃	R-021	22	15.6	3.8			-
23	〃	R-022	23	15.6	3.8			-
24	〃	R-023	33	16.0	3.4			-
25	〃	R-024	25	14.0	2.4			○
26	〃	R-025	37	15.0	3.3			-
27	〃	R-026	30	16.4	3.1+			-
28	〃	R-027	39	16.0	3.2+			-
29	〃	R-028	24	15.8	3.7+			-
30	〃	R-029	29	16.0	3.7+			-

## S-120暗茶灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	28	16.2	3.6			○
2	〃	R-002	19	14.8	3.9			-
3	〃	R-003	38	15.0	3.7			-
4	〃	R-004	17	13.4	3.7			○
5	〃	R-005	18	14.0	3.7			-
6	〃	R-006	35	16.6	3.4			-
7	〃	R-007	32	16.2	3.7			-
8	〃	R-008	26	16.2	2.9+			-
9	〃	R-009	36	17.2	2.9+			-
10	小皿a(ヘラ)	R-012	6	9.8	1.2	6.2	○	○?

## S-130

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	中坏c	R-028	38	13.5	4.5	10.0	×	
2	皿b	R-029	40	15.0	2.2+			
3	皿a	R-030	39	15.6	2.1+	13.1		

## S-135

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-008	39	14.6	3.8	7.7		
2	〃	R-009	40	14.0	3.0	6.6		
3	皿a	R-011	33	20.4	2.1	16.8	-	-
4	〃	R-012	31	18.0	2.5	14.4	-	-
5	〃	R-013	32	18.6	2.6	15.4	-	-

## S-140茶黑色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	2	9.0	1.3	6.4	?	○

## S-140黒色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	5	15.0	2.9			○
2	〃	a-1		16.6	3.2+			
3	小皿a(ヘラ)	R-002	3	9.6	1.2	7.4	○	○
4	〃	R-003	4	11.0	0.9	8.2	○	○

## S-160黒灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	3	15.0	3.1			

## S-160黒灰色粘質土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	5	15.4	3.4			○
2	〃	R-002	4	15.2	3.2+			-
3	〃	R-003	2	14.8	3.7+			-
4	小皿a(ヘラ)	R-004	1	10.4	1.5	8.6	○	○

## S-165

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	碗c	R-003	2	-	2.7+	7.6	-	-

## S-170暗灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	37	14.0	3.2	8.7	○	×
2	〃	R-002	13	13.2	3.5	8.8	○	×
3	〃	R-003	17	12.8	2.6	8.0	○	×
4	〃	R-004	28	13.4	2.7	7.5	○	○
5	〃	R-005	35	13.6	3.2	8.0	○	○
6	〃	R-006	18	12.2	3.0	7.3	○	○
7	〃	R-007	23	13.6	3.8	7.4	○	○

8	〃	R-008		-	-	7.3	○	×
9	〃	R-011		-	-	9.6	○	-
10	坏d	R-009	41	13.6	3.0	9.9	○	
11	皿a	R-010	48	16.0	1.6	12.8	○	

## S-170黒灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	11	12.4	3.1	7.0	○	○
2	〃	R-002	29	13.8	3.6	8.2	○	○
3	〃	R-003	12	12.5	3.3	7.0	○	○
4	〃	R-004	21	13.5	2.9	7.6	○	-
5	〃	R-005	14	13.2	3.1	8.3	○	○
6	〃	R-006	20	12.8	3.1	8.4	○	○
7	〃	R-007	27	13.8	3.2	7.3	○	○
8	〃	R-008	34	13.4	3.0	7.4	○	-
9	〃	R-009	32	15.4	4.1	7.6	○	-
10	〃	R-010	22	13.2	3.0	7.6	○	○?
11	〃	R-011	25	13.4	3.6	7.1	○	-
12	〃	R-012	15	13.8	3.5	8.5	○	-
13	〃	R-013	31	13.8	3.0	8.5	○	-
14	〃	R-014	33	13.8	3.1	8.6	○	-
15	〃	R-015	30	13.4	3.3	8.4	○	○
16	〃	R-016	24	13.2	2.9	9.1	○	○
17	〃	R-028	38	16.0	3.7	9.5	○	
18	〃	R-029	16	13.6	3.0	7.0	?	?
19	〃	R-030	26	13.8	3.3	9.0	?	×
20	坏d?	R-017	39	16.6	3.0	10.4	-	-
21	坏d	R-031	40	14.0	3.0	7.0	○	
22	皿a	R-018	46	14.8	2.0	11.6	○?	○
23	〃	R-021	47	15.4	1.7	12.1	○	-
24	碗c	R-019	44	16.4	5.2+	-	-	-
25	〃	R-023	43	14.8	5.3	7.7	-	-

## S-170暗灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-003	19	13.0	3.1	7.5	○	?
2	皿a	R-004	49	15.0	1.8	12.0	○	×

## S-175

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	13	10.4	1.3	7.9	○	○
2	〃	R-002	9	9.9	1.7	8.4	?	○
3	〃	R-003	10	10.2	1.2	8.3	?	?
4	〃	R-004	11	10.4	1.3	8.4	?	○
5	〃	R-005	8	10.0	1.3	7.4	○	○
6	〃	R-006	12	10.4	1.4	8.8	?	?
7	〃	R-007	7	9.8	1.1	7.9	?	?
8	〃	R-008	6	9.6	1.3	7.8	?	?
9	〃	a-1		10.2	1.1	7.6	-	○
10	〃	a-2		10.6	1.0	8.0	-	-
11	〃	a-3		10.0	1.0	7.0	-	○
12	〃	a-4		10.4	1.1	7.8	-	-

## S-182

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏?	R-001		14.8	2.7+			

## S-185

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	6	11.2	1.8	8.7	?	○
2	〃	R-002	1	9.6	1.3	7.4	?	○
3	〃	R-003	2	9.4	1.3	7.7	?	○
4	丸底坏a	R-004	15	15.8	3.8			

S-186

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-001	42	14.2	3.4	8.1	○	
2	坏a	R-002	37	13.8	3.3	8.0	○	
3	皿a	R-003	45	15.1	1.2	11.2	?	○

S-200

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	16	14.1	4.5+			○
2	〃	R-002	15	14.0	3.8			×

S-204

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-002	19	14.0	3.0+			-
2	小皿a(ヘラ)	R-003	18	10.2	1.1	7.6	○	-

S-210

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	13	10.3	1.7	7.7	?	×
2	〃	R-002	9	10.0	1.6	7.6	○?	○
3	〃	R-003	6	10.0	1.4	7.2	○	○
4	〃	R-004	7	10.0	1.3	6.9	?	×
5	〃	R-005	8	10.0	1.3	7.5	?	×
6	〃	R-006	10	10.2	1.2	7.6	○?	○
7	〃	R-007	15	10.6	1.1	8.2	○?	?
8	〃	R-008	11	10.2	1.0	8.0	○	×
9	〃	R-009	12	10.2	0.9	7.3	○?	○
10	〃	R-010	16	10.6	1.4	9.0	○	○
11	丸底坏a	R-011	20	16.0	3.8			×
12	〃	R-012	19	15.8	3.7			○
13	〃	R-013	17	14.8	3.1+			-

S-212

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-004	33	18.6	2.0	15.0		
2	〃	R-005	32	17.4	2.2	13.7		

S-214

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.4	1.1	8.2	-	○

S-217

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	35	9.9	1.6	7.7	?	○
2	〃	a-1		10.2	1.2	-	○	-
3	〃	a-2		9.6	1.7	-	○	-

S-220

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	4	9.8	0.9	7.8		○
2	〃	R-002	3	9.8	1.2	7.7	○	○
3	〃	R-003	2	9.8	1.3	6.5	?	×
4	〃	R-004	14	10.2	1.2	8.0	○	○
5	〃	R-005	5	10.0	1.4	7.8	○	○
6	〃	a-1		10.2	0.8	8.2	○	○
7	〃	a-2		10.4	1.0	8.6	○	-
8	丸底坏a	R-007	18	15.0	3.5			○
9	〃	R-008	21	16.4	3.1+			-

S-224

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.0	1.1	7.8	○	?

S-225

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-002	6	10.2	1.3	6.8	○	○
2	〃	R-003	9	10.3	1.2	7.0	○	○
3	〃	R-004	8	10.1	1.5	7.5	○	○
4	〃	R-005	4	9.9	1.2	7.5	-	-
5	〃	R-006	12	10.6	1.4	8.5	○	○
6	〃	R-007	3	10.2	1.4	8.2	○	-
7	〃	R-008	2	10.2	1.2	7.4	○	○
8	〃	R-009	10	10.4	1.0	7.8	○	○
9	〃	R-010	5	10.0	1.0	7.1	○	-
10	〃	R-011	13	10.4	1.0	8.6	○	○
11	〃	R-012	7	10.2	1.1	7.4	○	-
12	〃	R-013	11	10.4	1.3	8.1	○	-
13	〃	a-1		10.2	1.1	6.9	○	○
14	〃	a-2		10.0	1.3	6.9	○	-
15	〃	a-3		9.6	1.0	7.3	○	?
16	〃	a-4		10.2	0.9	7.8	○	○
17	〃	a-5		10.0	1.2	7.3	-	-
18	〃	a-6		10.6	1.2	8.0	?	?
19	〃	a-7		9.6	1.1	7.4	○	○
20	〃	a-8		10.0	1.0	7.5	○	-
21	〃	a-9		10.4	1.0	7.0	○	-
22	〃	a-10		10.0	1.0	7.8	○	-
23	〃	a-11		10.0	1.0	7.7	-	-
24	〃	a-12		10.8	1.3	8.8	-	-
25	丸底坏a	R-014	21	15.3	3.8			-
26	〃	R-015	19	15.4	4.1			-
27	〃	R-016	17	15.4	4.1+			○
28	〃	R-017	16	15.6	3.5			○
29	〃	R-018	18	15.6	3.3+			-
30	〃	R-019	15	15.8	3.5			○
31	〃	R-020	14	15.6	3.1+			-
32	〃	R-021	20	15.6	3.0+			-
33	〃	a-1		15.8	3.0+			-
34	〃	a-2		16.0	3.0+			-
35	〃	a-3		15.8	3.2+			-
36	〃	a-4		14.6	2.8+			-
37	〃	a-5		15.6	3.0+			-
38	丸底坏c	R-022	24	15.0	4.5+	-		-
39	〃	R-025	25	-	2.5+	7.7		-
40	坏	R-023	26	17.0	3.5+	-		-
41	碗	R-029	23	15.4	3.4+	-		-
42	小皿c	R-030	22	11.1	2.1	7.1	○	×

S-226

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001		11.6	2.1	8.9	○	○
2	小皿a(ヘラ)	a-1		10.6	1.0	8.0	○	-
3	〃	a-2		10.2	1.4	7.8	?	-
4	丸底坏a	a-1		15.6	3.8			-

S-239

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-001		15.2	1.7	12.0	-	-

S-240暗灰色粘質土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	11	9.6	1.2	6.8	○	○
2	〃	R-002	2	8.8	0.9	6.6	○	○
3	〃	R-003	8	10.4	1.3	6.7	○	×
4	〃	R-004	10	9.6	1.0	6.8	○	○
5	〃	R-005	7	9.2	1.2	7.5	○	○
6	丸底坏a	R-006	12	14.4	2.9			○
7	〃	R-007	17	17.0	3.1+			×
8	〃	R-008	15	14.6	2.9+			-
9	〃	R-009	16	15.0	3.8			×

S-240暗茶色砂

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	3	9.0	1.3	6.6	○	○
2	〃	R-002	9	9.5	1.5	7.7	○	-
3	丸底坏a	R-003	13	14.6	2.9			○

S-240黒茶色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	6	9.4	1.2	6.6	○	-
2	〃	R-002	5	9.4	1.2	7.0	○	○
3	〃	R-003	1	8.8	1.0	7.1	-	-
4	〃	R-004	4	9.2	1.3	6.5	○	-
5	〃	a-1		10.0	1.3	8.4	?	?
6	〃	a-2		9.6	1.0	7.6	?	?
7	〃	a-3		9.0	1.1	6.8	?	?
8	〃	a-4		8.8	1.3	6.2	○	○
9	〃	a-5		9.8	1.1	7.8	-	-
10	〃	a-6		8.8	1.2	6.8	?	-
11	〃(糸)	a-7		9.2	1.5	6.0	○	×
12	丸底坏a	R-005	14	14.8	3.1			-
13	皿a	R-006	18	15.6	2.2	12.2	○	?

S-243

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	中碗a	R-001	1	13.4	3.7			

S-244

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	5	12.4	3.7	7.1	?	-

S-245

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	7	11.0	2.0	6.0	?	?
2	小皿c	R-002	9	10.8	2.0	7.6	○	-

S-245暗茶色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿c	R-001	8	10.9	2.2	7.5	×	×
2	〃	R-002	10	11.2	2.0	7.6	○?	○
3	中碗a	R-003	12	13.0	3.8	8.9		×
4	坏a(ヘラ)	R-004	11	10.4	3.3	9.0	?	○

S-245黒灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	5	10.8	1.8	7.1	○	○
2	〃	R-003	4	10.3	1.7	7.6	○	○
3	〃	R-002	6	10.8	1.4	7.3	○?	×

S-263

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	碗c	R-001	7	15.8	4.3+	-		

S-275

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-002	17	18.0	1.9	14.8		

S-295

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		15.6	3.2			○

S-310

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001		10.2	2.2	7.3	-	-

S-314

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001		10.6	1.2	8.3	-	○

S-315

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	3	10.2	1.4	7.1	○	-
2	〃	R-003	1	9.8	1.8	7.2	○	○
3	〃	R-004	2	10.0	1.1	7.9	-	○

茶褐色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	20	9.4	1.4	7.4	?	○
2	〃	R-002	13	9.2	1.7	6.8	○	○
3	〃	R-003	17	9.2	1.5	5.4	○	○
4	〃	R-004	10	8.8	1.5	6.7	○	○
5	〃	R-005	9	9.0	1.4	6.7	○	○
6	〃	R-006	8	8.6	1.2	6.8	○	○
7	〃	R-007	19	9.5	1.4	7.5	○	○
8	〃	R-008	21	9.6	1.4	7.2	○	○
9	〃	R-009	18	9.2	1.4	7.0	○	○
10	〃	R-010	15	9.2	1.6	6.6	?	○
11	〃	R-011	16	9.3	1.5	6.7	○	○
12	〃	R-012	14	8.9	1.6	6.7	○	○
13	〃	R-013	24	10.1	1.7	7.3	○	○
14	〃	R-014	22	9.6	1.4	7.2	?	○
15	〃	R-015	27	11.5	1.8	9.0	○	○
16	〃	R-016	11	9.0	1.6	6.4	○	○
17	〃	R-017	25	10.6	1.5	7.8	○	
18	〃	R-018	77	9.2	1.3	6.7	○	○
19	〃	R-019	12	9.0	1.5	6.5	○	
20	〃	R-020	26	10.4	1.5	8.2	○	
21	〃	R-021	23	10.2	1.3	7.6	○	○
22	小皿a(糸)	R-026	7	6.6	1.6	6.2		
23	皿b?	R-022	33	13.0	2.5	11.2		
24	皿b	R-023	34	16.0	3.4+	-		
25	坏a(ヘラ)	R-024	29	12.8	3.7	7.4		
26	〃	R-025	30	-	-	5.8		
27	碗c	R-027	32	-	-	9.0		
28	〃	R-031		16.4	4.5	7.0		
29	中碗c	R-036	31	11.8	4.2	7.1		
30	丸底坏a	R-029	35	12.8	2.7			
31	〃	R-030	36	14.8	3.4			
32	〃	R-032		16.2	2.6			
33	小皿c	R-035	28	11.4	2.4	6.6		

暗茶色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(へラ)	R-005	4	8.8	1.5	6.1	?	○
2	〃	R-006	6	9.0	1.3	6.8	?	○
3	小皿a(糸)	R-007	5	9.0	1.1	7.0	○	×
4	〃	R-008	7	9.4	1.2	6.8	?	×

明灰色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿b	R-004	7	13.8	2.4+			

## 出土遺物一覽

第81次

### S-1 暗灰色土

須惠器	坏c、蓋c、蓋3、壺、甕(1)、高台
土師器	碗c、坏a、丸底坏a[3](10)、小皿a[9](34)、小皿a2(1) 甕、高台(1)、丸底坏c(2)、皿a、高坏 焼塩壺(2)
黒色土器A	碗c、碗
黒色土器B	碗c[1]
越州窯系青磁	碗 III(1)(S-25と接合)、I(1)
白磁	碗 I-2(1)、XI?(2)、XI(1)、X-1×II-1(1)、IV(1) V~VII(1)
緑釉陶器	片(1)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	平(斜格子、縄目)、丸
石製品	滑石製品(1)、砥石(1)、滑石(2)

### S-1 暗灰色粘質土

須惠器	坏c、甕、蓋3、坏、蓋、壺
土師器	小皿a2(1)、小皿a[1](3)、甕、碗c、坏d、蓋c カマド 焼塩壺(1)
黒色土器A	碗
黒色土器B	片
瓦類	平(縄目)

### S-1 灰茶色粘質土

須惠器	甕、坏a、坏c、壺、鉢、蓋c3、蓋3、蓋4、皿a蓋1
土師器	碗c[1]、坏d、小皿a(2)、片(2)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
白磁	碗 XI×IV(1)
緑釉陶器	片(1)
瓦類	平(縄目、格子)

### S-1 暗茶灰色土

須惠器	坏c、蓋3、蓋4、甕、壺、蓋?
土師器	小皿a(5)、碗c、高台、丸底坏a(2)、坏a、鉢(片口)、甕
黒色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 I
白磁	碗 V-1a×VIII-2(1)
須惠質土器	鉢(東播?)(1)
瓦類	片
土製品	羽口(2)、焼土塊(1)

### S-2

須惠器	甕、坏
土師器	甕、小皿a、丸底坏a
瓦類	平(縄目)

### S-3

須惠器	甕、坏c
土師器	坏a、丸底坏a、皿a、小皿a、器台
白磁	碗 IV(1)
金属製品	スラゲ

### S-4

須惠器	坏
土師器	丸底坏a、甕、碗c、小皿a
瓦類	片

### S-5

須惠器	坏、甕、蓋3
土師器	丸底坏a(2)、坏a(糸)(1)、小皿a(3)(墨痕-1)、小皿c(1) 碗c、甕 焼塩壺(1)
黒色土器A	碗c
黒色土器B	片
瓦類	片(格子)
金属製品	スラゲ

### S-6

須惠器	坏、甕
土師器	丸底坏a、甕、坏a、小皿a、高台
瓦類	平

### S-7

須惠器	坏、甕
土師器	丸底坏a、小皿a、甕

### S-8

須惠器	片
土師器	片

### S-9

須惠器	坏c、甕
土師器	碗c、坏

### S-11

須惠器	蓋、坏、皿a、坏c
土師器	碗c、小皿a、甕、坏
瓦類	平(斜格子)

### S-12

須惠器	蓋c、甕
土師器	丸底坏a、高台、坏
瓦類	片

### S-13

須惠器	蓋3、甕×壺
土師器	小皿a、丸底坏a、碗c

### S-14

須惠器	坏、蓋3、甕
土師器	坏、碗c、甕 焼塩壺(1)
瓦類	片

## S-15

須惠器	坏c、蓋3、蓋1、甕、坏
土師器	坏a(1)、碗c、甕、皿a、丸底坏a(1)、小皿a(1)、坏d 燒塩壺(3)
白磁	皿 II×III(1)、IV~VII(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
瓦類	片

## S-16

須惠器	甕、蓋3、蓋×坏a
土師器	甕、丸底坏a(1)、碗c
石製品	黒曜石(1)
土製品	土鏝[1]

## S-17

須惠器	坏c、壺、皿a、蓋3、甕
土師器	小皿a(糸あり)[1](7)、丸底坏a[1](1)、坏c、甕(1)、蓋c 小皿a2(1)、碗c、皿a 燒塩壺
黒色土器B	碗c
白磁	碗 IV(3)、II(4)、II-1(2)、II-5(1)、V-2(1) V-4VIII(1)、XIII-1b(1)、II(小碗)(1)、片(1) 皿 II-1a(1)
緑釉陶器	片(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(2)
瓦類	平(縄目、斜格子)
石製品	滑石鍋(1)、滑石(1)

## S-18

須惠器	坏c、壺、片
土師器	坏d、丸底坏c、甕、片

## S-19

土師器	小皿a、片
-----	-------

## S-21

須惠器	坏c、皿a、蓋3、蓋、甕
土師器	小皿a、坏、甕
黒色土器A	碗c、片
黒色土器B	片
灰釉陶器	碗(1)

## S-22

須惠器	坏c
土師器	坏a、丸底坏a、碗c、甕
白磁	碗 片(1)

## S-23

須惠器	坏c、皿a、蓋3、蓋c、甕、高坏
土師器	坏a、丸底坏a(2)、碗c、小皿a(4) 燒塩壺(1)
黒色土器B	片
白磁	碗 XI-5?(1)
緑釉陶器	皿(1)
瓦類	平(格子)
土製品	瓦玉(1)

## S-24

須惠器	蓋3
土師器	丸底坏a、甕a
瓦類	片

## S-25

須惠器	坏c(1)、蓋1、蓋2、蓋3、蓋4、蓋c、壺、甕、平瓶(1) 広口壺、鉢(篠)(2)
土師器	坏a(1)、坏c(1)、小皿a[9](51)、小皿a2(2)、坏d、高坏 碗c、小皿c(2)、小皿a2、丸底坏a[2](19)、丸底坏c(1) 甕、坏c×皿c 燒塩壺(2)
黒色土器A	碗c、碗、片
黒色土器B	碗c(3)
越州窯系青磁	碗 I(3)、I-2(1)、I-1a(2)、II-1b(1)、II(1) その他 水注×壺I(1)、瓜割(2)、坏I-3(1)
高麗青磁	III(1)
白磁	碗 I(1)、II(1)、XI-3(1)、XI-4(1)、XI-5(1)、IV(3) XI×IV[1]、片(5) 皿 XI-3?(平底?)(1)
緑釉陶器	片(5)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(7)
瓦類	平(縄目、格子、斜格子)、丸、片
石製品	滑石加工品(1)、オハジキ(1)、滑石鍋(4)、黒曜石(1) 砥石(1)
土製品	瓦玉

## S-26

土師器	高台、坏
-----	------

## S-27

須惠器	坏c、壺、蓋3、甕、小壺
土師器	碗c、甕 燒塩壺(4)

## S-28

須惠器	蓋
土師器	小皿a、丸底坏、高台、甕
黒色土器B	片
瓦類	片

## S-29

須惠器	蓋3、蓋4、皿、坏c、壺、甕、坏
土師器	坏d、皿a、大皿c×大坏c、甕 燒塩壺(1)
瓦類	平(縄目、格子)
土製品	カマド?

## S-30

須惠器	坏c、高坏、小壺(1)、蓋3、皿a、甕、蓋c、蓋、坏
土師器	坏a、碗c、小皿a(2)、高台、甕、坏d×皿a 燒塩壺(2)
黒色土器A	碗
黒色土器B	碗
越州窯系青磁	その他 鉢I(1)
白磁	皿 V-2(1)
灰釉陶器	片
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器?(1)
瓦類	平(縄目、格子)
石製品	滑石

## S-31

須惠器	甕、蓋、蓋4、坏
土師器	甕、小皿a
瓦類	片

## S-32

須惠器	蓋1
土師器	坏d、片
白磁	碗 片(1)

## S-33

須惠器	甕、坏、坏c、蓋3
土師器	丸底坏a、甕、坏d
白磁	碗 II-1(1)
瓦類	平(縄目)
石製品	軽石加工品(1)

## S-34

須惠器	蓋4、坏
土師器	丸底坏、小皿a、坏d、甕
黒色土器A	碗
越州窯系青磁	碗 I(1)
瓦類	平(縄目、斜格子)

## S-35

須惠器	蓋、蓋4、坏、壺? 蓋3、甕、坏c
土師器	甕、坏d、小皿a(2)、小皿a2(1)、蓋c 焼塩壺(1)
白磁	碗 XI?(1)
瓦類	片(斜格子)

## S-36

須惠器	甕、坏c、蓋3、皿a?
土師器	碗c、小皿a(2)、丸底坏a[1](4)、坏d 焼塩壺
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	平(縄目)

## S-37上層

須惠器	坏c、壺、長頸壺(1)、甕、蓋3
土師器	碗(ミガキ)、甕、小皿a[1](4)、丸底坏a、高台
黒色土器A	片
越州窯系青磁	碗 I-1(1)、II(1)
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	平(縄目)
石製品	滑石(1)
土製品	焼土塊(1)

## S-37

須惠器	甕、壺、坏c、壺d×f、蓋3、蓋c、高坏脚、坏a
土師器	坏a、小皿a、坏d、甕、把手、高坏脚、蓋c
黒色土器A	片
緑釉陶器	片(1)
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	平(縄目)、丸
土製品	羽口

## S-38

須惠器	蓋3、坏、甕、壺
土師器	丸底坏、碗c、甕、小皿a
瓦類	平(斜格子)

## S-39

須惠器	甕、坏×皿、坏
土師器	甕、坏c 焼塩壺(1)
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	平

## S-41

須惠器	甕、坏a
土師器	丸底坏a、小皿a[1](2)、坏d、碗c、小皿a2(1)、高坏脚 高台、甕
黒色土器A	碗c
黒色土器B	碗
白磁	碗 II(1)、II-1(1)
灰釉陶器	片?(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器?(1)
瓦類	平(縄目)

## S-42

須惠器	甕、皿a、坏c
土師器	坏d、小皿a[1](4)、丸底坏a(1)、甕、坏c×皿c 焼塩壺(1)
黒色土器A	片
黒色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 I(1) その他 水注×壺(瓜割1)(1)
白磁	碗 II-1(1)(S-44と接合)、IV(2)、IV-1b(1)、II(1)
瓦類	平(斜格子)

## S-43

須惠器	坏c、甕、坏
土師器	小皿a[3](8)、丸底坏a(2)、坏d、碗c、坏a、甕
黒色土器B	片
白磁	碗 IV③(4)、V-3?(1)、片(2)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器?(1)
石製品	滑石鍋(1)
土製品	カマド片

## S-44

須惠器	坏c、甕、壺
土師器	小皿a[1]、高台、坏×蓋、甕
黒色土器B	片
白磁	碗 II(1)、II-1
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	片(縄目)
土製品	スラグ?

## S-46

須惠器	蓋、坏c
土師器	壺、碗c、片
瓦類	片
石製品	黒曜石(1)

## S-47

須惠器	坏c、蓋3、甕、壺、蓋、皿a
土師器	坏d、丸底坏a[1](1)、小皿a(1)、小壺[1]、把手
黒色土器A	碗
黒色土器B	碗
高麗青磁	III(1)、片(1)
白磁	碗 II-1(1) 皿 V-1(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
瓦類	平(縄目)

## S-48

須惠器	坏、坏c、蓋、蓋3、甕
土師器	小皿a、坏c、把手、坏d、甕
黒色土器A	片
黒色土器B	片
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦類	平

## S-49

須 惠 器	甕
土 師 器	坏、高台 烧塩壺(1)

## S-51

須 惠 器	片
土 師 器	甕、片

## S-52

須 惠 器	蓋3、片
土 師 器	片 烧塩壺(1)

## S-53

須 惠 器	坏c、蓋c、甕(1)、壺、坏、蓋2×高坏、鉢b、高坏
土 師 器	碗c、小皿a1(12)、丸底坏a(8)、鉢?、坏(2)、高坏片
黑色土器A	小皿a?(1)、片
黑色土器B	碗c、皿、片
越州窯系青磁	碗 I(5)、I-2(1)、II(2)、初期高麗×越I(1)、 その他 水注×壺I(1)、水注II(褐彩)(1)、坏I(1)
長沙窯系青磁	黄釉(1)
白 磁	V-1a1(2)(1)、V-1(1)、V-2(1)、V-2a(2)、II(5)
	碗 II-1(2)、II?(1)、XI-4(1)、XI?(1)、IV(2) V-1×VIII-2(1)、V-1×VIII-2×XI(1) IV~VII(1)、XII(1)、片(3)
	皿 II-2a(2)、V-2(1)、V~VII(1)
	不明 片(3)
青 白 磁	片?(1)
緑 釉 陶 器	壺(1)、片(1)
灰 釉 陶 器	片(2)
須 惠 質 土 器	鉢(東播)(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(4)
瓦 類	平(格子、斜格子、縄目)
石 製 品	烧石(1)、滑石(5)、砥石(1)、不明(2)
土 製 品	管状土錘(1)

## S-54

須 惠 器	坏
土 師 器	蓋c、坏、甕 烧塩壺(1)
黑色土器B	片

## S-56

須 惠 器	蓋3、坏a
土 師 器	碗c、甕

## S-57

須 惠 器	坏c、坏、蓋2×高坏、甕、鉢b、高坏
土 師 器	丸底坏a(3)、小皿a1(1)(5)、坏(2)、碗c、高坏片
黑色土器A	小皿a?(1)、片
黑色土器B	碗c、片
白 磁	碗 II(3)、II-1(1)、II?(1)、IV~VII(1)、IV-1a1 V-2(1)、XII(1) V-2a(1)、片(3)
瓦 類	平(斜格子)
石 製 品	砥石(1)、滑石(2)

## S-58

須 惠 器	甕×壺、坏c、坏、片(1)
土 師 器	甕、坏(糸)(1)、小皿a、小皿a2
黑色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I-1(1)

## S-59

須 惠 器	甕、高坏脚、坏c、蓋3、蓋4、蓋c、大坏c×皿c、脚? 大坏c、鉢? 壺、坏a×皿a
土 師 器	火舎(1)、碗c、小皿a1(1)(4)、甕、丸底坏、小皿a(糸)(1) 小皿a2(1)、蓋3、坏a 烧塩壺(3)
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗c、片
越州窯系青磁	碗 I(1)、I-2b×坏I(1)
白 磁	その他 水注×壺I(1) 碗 I(1)、XI×IV×VI(1) 不明 片(1)
灰 釉 陶 器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
瓦 類	平(縄目、斜格子)、丸
金属製品	スラグ
石 製 品	滑石(1)、石製品片(1)

## S-60 茶灰色土

須 惠 器	坏c(1)、甕(1)、坏a×皿a、壺d(1)、蓋c、蓋3、蓋4、鉢 蓋1、皿a(1)
土 師 器	坏d(2)(6)、皿a(2)、碗c(1)、坏a、蓋3(1)、蓋c3(1)、甕 烧塩壺(4)
灰 釉 陶 器	短頸壺[1]
瓦 類	平(縄目)、丸
石 製 品	石製品[1]、滑石(1)
土 製 品	カマド

## S-60 灰褐色土

須 惠 器	坏c、片
土 製 品	カマド

## S-60 暗灰色土

須 惠 器	壺、蓋3、坏a×皿a×蓋、坏c(1)、甕、蓋1、蓋c、鉢 鉢(篠?)(1)、小壺、皿a
土 師 器	大皿a1(1)、碗(1)、甕(1)、坏d、坏、碗(筑後?)(1) 烧塩壺(3)
灰 釉 陶 器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
瓦 類	平(縄目、格子)
石 製 品	安山岩(1)、砥石(1)、不明石製品[1]
土 製 品	カマド、烧土塊(2)

## S-61 黄褐色土

須 惠 器	坏c(1)、坏d(1)、蓋3
土 師 器	坏c、蓋3、把手、甕a(3) 烧塩壺(3)
瓦 類	片(縄目)

## S-61 暗褐色土

須 惠 器	蓋c3(1)、甕、壺、皿a(1)、大坏c、蓋3、高坏坏a 坏c(1)、円面碗(1)
土 師 器	甕(4)、鉢(1)、坏d(1)、坏a、坏c、小壺、皿a、蓋3 碗×坏 烧塩壺(14)
瓦 類	平(斜格子)

## S-61 灰褐色土

須 惠 器	長頸壺、蓋3、坏c、蓋、坏a
土 師 器	甕、坏a、蓋3、把手 烧塩壺
瓦 類	片(縄目)
土 製 品	カマド

## S-62

須惠器	蓋3、坏c
土師器	高台、丸底坏a、小皿a(1)、甕 燒塩壺(1)
黑色土器A	片
黑色土器B	片
白磁	碗 IV(2)、II(1)、XI?(1)、V-1×VIII-2(1)
瓦類	片(格子)

## S-63

須惠器	坏
土師器	小皿a[1]、丸底坏a、片

## S-64

須惠器	坏c、蓋1、蓋3、坏×碗、甕
土師器	坏a、小皿a[8](10)、丸底坏a[4](6)、碗c、高台、蓋c 甕
黑色土器B	碗、片
白磁	碗 XI-5(1)、II(4)、II-1(1)、IV-1a[1]、V-2a(1) 片(2) 皿 II-1a(1)、片(1)
瓦類	平(格子)
土製品	燒土塊(1)

## S-66

須惠器	壺、蓋c、蓋3、坏、甕(1)
土師器	丸底坏a[1](2)、小皿a[2](3)、丸底坏c[1](1)、小皿c 小皿a(糸)[1]、碗c
黑色土器B	碗c[1]
越州窯系青磁	碗 片?(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器?(1)
瓦類	平(斜格子)

## S-66 黒灰色土

土師器	小皿a[1]、碗c[1]
黑色土器A	碗c[1]
黑色土器B	碗c[1]
越州窯系青磁	碗 I-1(2)、I(1)、II-2(1)
白磁	皿 片(2)
緑釉陶器	片(4)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)

## S-66 黒褐色土

須惠器	坏c、蓋3、小壺、長頸壺、坏a、高坏、蓋2、甕
土師器	丸底坏c、丸底坏a(2)、坏a、小皿a[2](3)、小皿a[2][1] 碗c、坏d、甕
黑色土器A	碗
黑色土器B	片
長沙窯系青磁	片?(1)
須惠質土器	甕(2)
中国陶器	褐釉；壺×水注?(1)
瓦類	丸(斜格子)、軒平(1)

## S-67

須惠器	甕、坏c、蓋3、皿a
土師器	坏c、甕、坏
瓦類	平

## S-68

須惠器	甕
土師器	片
黑色土器A	片
白磁	皿 II-1a(1)

## S-69

須惠器	甕、坏a、坏c、鉢a3
土師器	小皿a(2)、甕、坏a 燒塩壺(2)
黑色土器A	片
黑色土器B	片
越州窯系青磁	その他 小壺(1)
白磁	皿 I-1?(1)、XI?(1) 不明 片(1)
瓦類	平(縄目)

## S-70

須惠器	坏c、蓋3、壺、小壺、蓋a4[1]、長頸壺、皿a、坏a 高坏、蓋c、転用硯(1)、甕
土師器	坏a[23](4)、碗c(3)、蓋3(1)、甕[6](17)、壺、鉢[1](1) 坏c、坏d[1]、大碗c[1]、大坏a、皿a(4)、鉢?[1] 燒塩壺(2)
黑色土器A	碗c、片
緑釉陶器	皿(1)、片(1)
瓦類	平(タタキ)
石製品	剥片尖頭器(安山岩)[1]、玉(砂岩)[1]

## S-71

須惠器	甕、蓋3
土師器	小皿a、丸底坏、甕、片
黑色土器B	碗

## S-72

須惠器	蓋1、片
-----	------

## S-73

須惠器	蓋3、坏c、壺、坏、転用硯(1)
土師器	蓋3、坏c 燒塩壺(1)
黑色土器A	片

## S-74

須惠器	蓋3、蓋c、壺c、高坏
土師器	小皿a、丸底坏a、坏a、碗c、甕 燒塩壺
黑色土器A	片
黑色土器B	碗
瓦類	平(斜格子)
石製品	滑石

## S-76

須惠器	坏c、甕、壺、蓋3
土師器	蓋c、脚(1)、小皿a、器台、碗c、甕 燒塩壺(1)
黑色土器A	片
黑色土器B	碗c(1)
越州窯系青磁	碗 I-2(1)
白磁	碗 XI-1(1)、IV-1b(1)
灰釉陶器	碗c(1)
瓦類	平(縄目)
石製品	滑石(1)

## S-77

須惠器	壺、甕、坏、蓋3、坏a
土師器	丸底坏a(3)、小皿a(1)、甕
黑色土器A	片
瓦類	丸、片(斜格子)

## S-78

須 惠 器	坏c(1)、甕(2)、蓋3(1)、蓋1(1)、坏(3)、片(4)
土 師 器	丸底坏a(1)、甕(2)、高台(7)、坏(1)、片(21)
黒色土器A	椀(2)
黒色土器B	片
縄文土器	片
瓦 類	平(1)

## S-79

須 惠 器	坏a、蓋3、甕
土 師 器	甕、椀c(1)、坏d、蓋c、坏(1)
瓦 類	片
石 製 品	焼石(1)

## S-81

須 惠 器	甕、坏c、蓋c、坏a、皿a、小壺(1)、蓋3、壺
土 師 器	椀c、壺、坏d、皿a(2)、甕、坏a(1)、蓋3 焼塩壺(1)
灰 釉 陶 器	片(1)
瓦 類	平(縄目)、丸
土 製 品	生産用具?(2)

## S-82

須 惠 器	高坏、蓋3、坏
土 師 器	甕 焼塩壺(1)

## S-83

須 惠 器	坏、甕
土 師 器	小把手、蓋4、甕、坏 焼塩壺(1)

## S-84

須 惠 器	蓋c
土 師 器	甕
瓦 類	片

## S-86

須 惠 器	坏c、甕、蓋3、壺、椀
土 師 器	坏c、椀c 焼塩壺(2)
縄文土器	片
瓦 類	片

## S-87

土 師 器	坏
黒色土器A	片
緑釉陶器	椀(1)

## S-88

須 惠 器	坏c、壺、甕
土 師 器	丸底坏a(1)、甕、器台、椀c、小皿a(1)
黒色土器B	片
白 磁	椀 V-1×VIII-2(2)

## S-89

須 惠 器	蓋3、甕、坏c、壺、坏
土 師 器	坏c、甕 焼塩壺(2)
土 製 品	カマド

## S-90

須 惠 器	坏、壺、壺蓋、甕、蓋3
土 師 器	坏a(1)、甕(1)、皿c、椀c(1)、器台(1)、高坏 焼塩壺
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀 I(1) その他 壺I(1)
瓦 類	平(縄目、斜格子)、丸
石 製 品	安山岩(1)

## S-91

須 惠 器	壺e[1]、甕、坏c(1)、大坏c、椀?(1)、坏a(1)、皿a、蓋c 壺、蓋3
土 師 器	坏c、甕、蓋3 焼塩壺(10)
瓦 類	平(斜格子)

## S-92

須 惠 器	坏c、壺(1)、蓋、甕、鉢(篠)(1)
土 師 器	高坏、小甕、甕 焼塩壺(3)
瓦 類	平(斜格子)

## S-93

須 惠 器	坏c(1)、甕
土 師 器	甕、片

## S-94

須 惠 器	坏c、蓋3、壺、甕、皿a
土 師 器	小皿a[1]、坏c、甕 焼塩壺(2)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
緑釉陶器	片(6)

## S-96

須 惠 器	甕、片
土 師 器	片
瓦 類	片

## S-97

須 惠 器	甕
土 師 器	片

## S-98

須 惠 器	坏c、坏
土 師 器	坏、皿、甕
黒色土器A	椀
越州窯系青磁	その他 水注×壺I(1)
瓦 類	片

## S-99

須 惠 器	甕、蓋、坏c
土 師 器	椀c、甕、皿a(1)、坏a(1)、坏c(1) 焼塩壺(1)

## S-100

須惠器	蓋c3(1)、坏c(4)、甕(1)、坏、蓋1(2)、壺c(1)、壺e(1)
土師器	皿a(4)、蓋c(1)、高坏脚(1)、平瓶?(1)坏a(4)、鉢a(1) 高坏、鉢b、短頸壺(1)、蓋、円面硯(1)、片(1)
土師器	甕(2)、坏、皿a(1)、蓋3(1)、把手、蓋c、坏a(1)、坏c 坏d、大坏c 烧塩壺(8)
白磁	碗 I・II以外の片(1)
灰釉陶器	壺(2)
瓦類	平(縄目、格子)、丸
石製品	烧石
土製品	烧土塊(1)、羽口(1)

## S-101

須惠器	坏、壺、蓋
土師器	坏c、坏a、甕 烧塩壺(2)
黑色土器A	片
瓦類	片
土製品	羽口

## S-102

須惠器	甕、皿a、坏c、坏a、蓋3
土師器	丸底坏a[4](6)、小皿a[1](12)、碗c、坏a 甕
瓦器	碗(1)
黑色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I-1?、I(1) 皿 III(1)
白磁	碗 II(1)、II-1(1)、IV(2)、IV~VII(1)、片(2) 皿 V-2(1)
灰釉陶器	短頸壺(S-60茶灰色土と接合)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
肥前系陶磁器	片(混入品)(1)
瓦類	平(縄目、格子)

## S-103

須惠器	坏c、蓋3、蓋4、坏、甕、壺×鉢
土師器	坏a(1)、小皿a2(1)、丸坏a、碗c、皿a、器台、小皿a[1] カマド 烧塩壺(2)
黑色土器A	片
黑色土器B	碗、小皿a?
越州窯系青磁	碗 II(1) その他 合子I(1)
白磁	碗 IV(2)
イスラム陶器	片
肥前系陶磁器	片(混入品)(1)
瓦類	平(格子)、丸
石製品	烧石(1)、滑石(1)

## S-104

須惠器	坏c、坏a? 蓋3、蓋1、小壺、甕、甕×壺
土師器	丸底坏a[1]、坏a、碗、器台、甕 烧塩壺(1)
黑色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I(1)、片?(1) その他 水注I
龍泉窯系青磁	碗 I-1~3(1)
高麗青磁	片(1)、高麗×長沙(1)
白磁	碗 IX?(1)、IV(5)、IV-1b(1)、V-2a(1)、II(2) V-1a(1)、片(5) その他 水注II(1)、小壺II(1)
青白磁	片(1)

灰釉陶器	碗(1)
中国陶器	盤; Ea(1)
肥前系陶磁器	片(10)
瓦類	平(斜格子)
金属製品	スラグ(1)
石製品	滑石(2)
土製品	羽口

## S-105

須惠器	蓋c、坏c、坏、蓋3、長頸壺、高坏、坏a(1)、壺、甕 鉢?
土師器	坏c、小皿a(1)、坏a(1)、高台、甕 烧塩壺(1)
黑色土器A	坏d(1)
白磁	皿 XI-6(1)
瓦類	平(縄目、格子)
土製品	烧土塊

## S-106

須惠器	蓋3、坏c
土師器	坏a、高台、小皿a
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器?(1)
瓦類	片(格子)

## S-107

須惠器	甕、蓋3、蓋
土師器	坏d、高坏、甕

## S-108

須惠器	坏、甕
土師器	蓋3、甕
越州窯系青磁	碗 I-2(1)
瓦類	片

## S-109

須惠器	坏、蓋
土師器	甕
瓦類	片

## S-110

須惠器	坏a(赤色顔料塗布あり)、皿a、坏c、高坏、蓋c、蓋3 蓋、蓋1、壺、鉢b×壺、甕
土師器	丸底坏a[1](14)、小皿a[1](13)、碗c[1]、大坏c、坏a(2) 皿c、小皿c(1)、坏d(1)、蓋c、高坏、坏c、器台、皿c カマドつば、小皿(糸、口縁沈線)(1)、甕(1)、片(1) 烧塩壺(3)
瓦器	片?(1)
黑色土器A	碗c[1](2)
黑色土器B	碗c(16)、皿
越州窯系青磁	碗 I(1)、I-b(1)、II(2)、II-3(1)、III(1) その他 壺×水注II(瓜割)(1)
白磁	碗 II-1(1)、I-4×XI-1(1)、XI-3(1) V-1×VIII-2(1) 皿 XI-3(1)
青白磁	片(1)
緑釉陶器	碗(1)、皿(1)、片(7)
瓦類	平(格子、縄目、文字)(1)
縄文土器	晚期片(3)
石製品	安山岩(1)、滑石製品(1)、滑石鍋(3)、チャート?(1) 砥石
土製品	烧土塊(1)

## S-111

須惠器	高坏、高台
土師器	片
黑色土器B	片
石製品	オハジキ(1)

## S-112

須惠器	甕
土師器	甕、片
白磁	碗 II-1(1)

## S-113

須惠器	片
土師器	片
瓦類	平(斜格子)

## S-114

須惠器	甕、蓋、蓋3、蓋c、片
土師器	甕、片
	焼塩壺(1)

## S-115

須惠器	蓋1(1)、高台、坏c、蓋c、甕
土師器	高坏、蓋c、皿c、碗c、甕
	焼塩壺(3)
瓦類	平(1)、片(1)
石製品	砥石(1)

## S-116

須惠器	片
土師器	碗c、片
瓦類	片(細目)

## S-117

須惠器	坏c(1)、甕、長頸壺[1]、蓋c、壺、蓋3
土師器	蓋c、高台、蓋3、甕、皿c、蓋4、高坏、把手
瓦類	平(斜格子)、丸

## S-118

須惠器	蓋3、坏c、甕
土師器	片
黑色土器A	片
黑色土器B	片

## S-119

須惠器	坏c、甕
土師器	蓋c、甕、片
	焼塩壺(2)
瓦類	片

## S-120 暗茶灰色土

須惠器	坏c、蓋、甕(2)、短頸壺、蓋c、蓋2
土師器	丸底坏a[2](10)、小皿a(9)、把手、高台、坏a(1) 片(31)
黑色土器B	碗c(5)、片(2)
白磁	碗 II-5?(1)、V-1a(1)(浅形)
瓦類	平(斜格子)、丸(細目)

## S-120 黒灰色土

須惠器	甕、長頸壺、蓋、蓋c、蓋3、坏c、皿a
土師器	鍋[1]、小皿a[10](8)、丸底坏a[5](9)、鉢、壺、器台
	甕
黑色土器A	片
黑色土器B	碗c[1]
白磁	碗 IV(3)、II(1)、IV-1a[1]
緑釉陶器	片(2)
瓦類	平(細目、格子)
石製品	砥石
土製品	瓦玉、焼土塊

## S-121

須惠器	蓋、甕
土師器	甕、坏
黑色土器A	高台
白磁	碗 IV~VIII(1)
瓦類	丸(細目)

## S-122

須惠器	坏、甕×壺
土師器	坏a×小皿a、甕
	焼塩壺(2)
同安楽系青磁	碗 片(1)
石製品	オハジキ(1)

## S-123

須惠器	蓋3、坏a、高坏、片(1)
土師器	小皿a? 甕
	焼塩壺(1)
石製品	黒曜石(1)

## S-124

須惠器	甕
土師器	小皿a
	焼塩壺(1)

## S-126

須惠器	坏、甕、蓋3、坏c、壺
土師器	坏a、甕、小皿a、碗c、坏d?
	焼塩壺(1)
黑色土器A	高台
黑色土器B	片
瓦類	平(格子)

## S-127

須惠器	坏a、坏c、蓋3、蓋、甕
土師器	坏c、甕

## S-128

須惠器	坏c、蓋3
土師器	片
瓦類	平

## S-129

須惠器	高坏
土師器	托付碗?(1)、丸坏a、坏a、甕、鉢? 碗
	焼塩壺(1)
黑色土器A	片
黑色土器B	片
石製品	滑石(1)

## S-130

須惠器	壺c(1)、壺④、大甕④(2)、長頸壺、蓋c3[4]、鉢b(1) 蓋3(4)、小甕a[1]、中坏c3[9]、小坏c(2)、甕蓋、甕b 鉢a3(2)、皿(1)、鉢(1)、高坏(2)、大坏c(1)、小坏a(1) 蓋c2(1)、甕、蓋1、甕(3)
土師器	甕a(4)、坏c(1)、蓋3(2)、甕a2、短頸壺②、皿b(1)蓋2 蓋4(1)、皿a(1)、高坏(1)、坏d 燒塩壺(88)
白磁	碗 XI-4(S-180黒灰色土と接合)
灰釉陶器	壺(2)
瓦類	平{斜格子}[1](1)、縄目、丸、軒平(1)
土製品	不明(1)

## S-131

須惠器	坏c、蓋、坏a、壺、蓋3、蓋c、甕
土師器	カマド、高台
瓦類	平(縄目)、丸

## S-132

須惠器	片
土師器	片

## S-133

須惠器	片
土師器	甕、片

## S-134

須惠器	蓋、甕、坏c、壺
土師器	高台、小皿a、小皿×坏
黒色土器B	片
瓦類	片

## S-135

須惠器	坏a[6](3)、坏c[7](5)、大坏c(1)、蓋c4、蓋3、壺蓋 鉢b[1](6)、皿a(10)、蓋c(6)、蓋4、甕(1)蓋c3(5)、蓋1 高坏[1](1)? 壺(3)
土師器	坏c、高坏、蓋c3[1]、坏d(2)、甕a[1](13)、壺、蓋3 坏a、皿a[1](3)、鉢[1]、大蓋c3[1]、把手、大蓋3(5) 鉢[1]、大坏a×大皿c(2) 燒塩壺(11)
白磁	碗 V(1)
瓦類	平(縄目、斜格子)

## S-136

須惠器	蓋3、蓋c、高坏?
土師器	坏a、坏d、甕
弥生土器	片
瓦類	片(縄目)

## S-137

須惠器	坏
土師器	甕、片

## S-138

須惠器	坏c、蓋4、高坏
土師器	甕、片
緑釉陶器	片?(1)

## S-139

須惠器	壺×甕、片
土師器	高台、壺? 片 燒塩壺(2)

## S-140 黒色土

須惠器	甕、坏×皿
土師器	丸底坏a(2)、小皿a(2)、高台
白磁	碗 IV-1b(1)、瓦玉(1)

## S-140 黒茶色土

須惠器	甕、壺(1)、蓋、蓋1、坏c、蓋3、風字硯?(1)
土師器	小皿a[1](2)、丸底坏a(2)、器台、坏a 燒塩壺(1)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
白磁	碗 II-1(1)、片(1)
瓦類	平(斜格子)
石製品	砥石[1]

## S-141

須惠器	甕、坏、坏c、蓋、蓋3、壺?(1)
土師器	甕、坏、片(1) 燒塩壺(5)
瓦類	丸

## S-142

須惠器	坏c、蓋3
土師器	坏、甕 燒塩壺(1)

## S-143

須惠器	片
土師器	片

## S-144

須惠器	坏c、蓋、碗c、蓋3、甕
土師器	碗c×坏c 燒塩壺

## S-145

須惠器	坏c、壺、甕、蓋3、坏
土師器	皿a、甕、高台
瓦類	丸、平
石製品	滑石

## S-146

須惠器	甕、壺、坏
土師器	高台、甕、坏 燒塩壺

## S-147

須惠器	甕、坏
土師器	甕、片

## S-148

土師器	高台、片
黒色土器A	片

## S-149

須惠器	坏c、坏a×皿a、蓋、坏、高坏脚、蓋4
土師器	甕、坏d、高台、片
瓦類	平(縄目、格子)、丸

## S-150

須惠器	小壺③、蓋3、坏c(1)、高坏、皿a(1)、甕、壺
土師器	坏a(2)、坏c、坏d、甕、碗c(1)、甕2
黑色土器A	坏a(2)
長沙窯系青磁	片?(2)
白磁	碗 II(1)
綠釉陶器	碗(1)、片(4)
瓦類	平(繩目)
土製品	燒土塊(1)、紡錘車(1)

## S-151

須惠器	碗c、坏c、甕、蓋3、蓋1、坏
土師器	蓋c、坏c、坏、甕

## S-152

須惠器	蓋3、坏c、壺、甕
土師器	甕、坏 燒塩壺(1)
白磁	碗 片(1)
瓦類	片(斜格子)

## S-153

須惠器	壺、甕、蓋3、皿、蓋c、蓋4
土師器	坏c、坏、甕 燒塩壺(1)
瓦類	片(格子)
金属製品	スラグ
土製品	瓦玉(1)

## S-154

須惠器	蓋、蓋c、坏、甕
土師器	高坏? 甕、坏a 燒塩壺(3)
瓦類	片
金属製品	スラグ

## S-155

須惠器	蓋、片
土師器	片

## S-156

須惠器	坏、甕、片
土師器	甕、片
土製品	玉

## S-157

須惠器	甕
-----	---

## S-158

須惠器	蓋
-----	---

## S-159

須惠器	片
-----	---

## S-160 黒灰色粘質土

須惠器	甕、坏c、壺、大坏c、高坏、蓋c、円面硯脚(2)
土師器	丸底坏a(8)、丸底坏c、小皿a(3)、坏a[ヘラ、糸(1)] 蓋b? 蓋3、小皿a2(1)、甕
黑色土器A	片
黑色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 II(1)、II-2(1)
白磁	碗 II-1(1)、IV(4)、XI-4(1)、V-1×VIII-2(1)
瓦類	平(繩目、格子)(1)
土製品	燒土塊(2)

## S-160 黒灰色粘質土

須惠器	甕、壺、坏、蓋3、坏c、長頸甕、鉢、蓋c
土師器	丸底坏a(5)、碗c、小皿a(5)、器台、羽釜?(1)、高台(1) 甕 燒塩壺(2)
黑色土器A	碗c
黑色土器B	坏×小皿(2)、碗(3)
越州窯系青磁	碗 I(大型)(1)、I-2?(1)、I-1a(1)
白磁	碗 I-1(1)、IV(1)、IV~VIII(1)、V-1×VIII-2(1) 片(2)
綠釉陶器	片(1)
瓦類	平(繩目、格子)
石製品	安山岩(1)、扁平打製石斧?(1)、滑石(1)、燒石(1)
土製品	燒土塊(1)

## S-161

土師器	片
-----	---

## S-162

須惠器	蓋3
土師器	坏? 片
黑色土器A	片

## S-163

須惠器	甕、蓋3、坏c、皿a
土師器	甕、小皿a、片 燒塩壺(1)
越州窯系青磁	碗 I(1)
瓦類	平
土製品	燒土塊(1)

## S-164

須惠器	坏c
土師器	坏d、甕 燒塩壺(1)

## S-165

須惠器	坏c(2)
土師器	碗c(1)、坏d(1)、大碗c、碗(1)、鉢(1)
灰釉陶器	皿c(1)

## S-166

須惠器	甕、碗c、坏c、高坏、蓋3、鉢b、壺、坏a、蓋c
土師器	碗c、甕、高坏、坏、大碗c? 蓋c、坏×丸底坏、片 燒塩壺(2)
黑色土器A	碗c、甕?
瓦類	平(繩目)

## S-167

須惠器	高坏(1)、蓋c3(1)、坏c
土師器	甕、坏a、片 燒塩壺(3)

## S-168

須惠器	坏
土師器	甕、坏c、坏a

## S-169

須惠器	蓋、坏
土師器	カマド、甕、碗、坏a 燒塩壺(3)
瓦類	平(繩目)

## S-170

須 惠 器	壺、蓋、碗、蓋3、甕
土 師 器	坏d②、坏a[1]、甕(1)、皿a(1)、蓋4(1)、丸底坏a(1) 片(2) 焼塩壺(1)
越州窯系青磁	碗 I-2ウ[1]
緑釉陶器	碗c[1]
土 製 品	焼土塊(1)

## S-170 茶灰色上層

須 惠 器	甕、坏c(2)、高坏脚、短頸壺、碗c(ミガキa)(2)、蓋3壺
土 師 器	坏d[1](2)、坏a[2](1)(墨書あり)、甕(3)、坏c、蓋3 皿a[1](3)、小皿a(1)、蓋4、大皿a×大坏c、丸坏a(1) 焼塩壺
黒色土器A	碗c
黒色土器B	碗c
緑釉陶器	皿(1)、片(1)
瓦 類	平(斜格子)
石 製 品	安山岩(1)
土 製 品	焼土(スサ入り)(1)、土錘[1]、カマド

## S-170 黒灰色土

須 惠 器	甕、坏c(1)S-130と接合、壺e、鉢b、蓋、蓋c、蓋3 坏a、高坏脚、蓋a4(1)、壺
土 師 器	坏a[12](8)、皿a[2]、蓋3、中碗c[1](1)、坏d(2)、坏c 蓋a4[1](1)、高台(2)、甕a(4)(墨書あり)、坏(1)、片(1)
黒色土器A	碗c[1](3)
白 磁	碗 I-1(1)、XI?(1)
緑釉陶器	碗×皿(2)
灰釉陶器	碗×皿(1)
瓦 類	平(縄目、斜格子)、丸
石 製 品	黒曜石(1)
土 製 品	焼土塊(5)、環状土製品(1)

## S-170 暗灰色土

須 惠 器	坏a(墨書あり)(1)、甕、坏c(1)、蓋2、蓋3(1)、蓋4 鉢a3、蓋c、長頸壺
土 師 器	坏c、坏a(2)、皿a(墨書あり)[1](1)、甕a(1) 焼塩壺(4)
瓦 類	平(斜格子)

## S-171

須 惠 器	甕、蓋4、蓋c
土 師 器	高坏、甕、坏

## S-172

須 惠 器	坏、甕、坏c、蓋c、蓋3、坏a、蓋c 3、皿a
土 師 器	甕、碗c、坏d、蓋3 焼塩壺(13)
黒色土器A	片
黒色土器B	片
瓦 類	片

## S-173

須 惠 器	片
土 師 器	片

## S-174

須 惠 器	蓋3、小壺、坏
土 師 器	甕、坏 焼塩壺
瓦 類	片

## S-175

須 惠 器	鉢b、蓋3、長頸壺、甕、坏c、壺e、蓋1、蓋c、壺蓋 坏a
土 師 器	丸坏a(2)、小皿a[5](7)、坏a(1)、皿a、高台、蓋3、甕 坏d、把手、片 焼塩壺(1)
黒色土器A	碗
黒色土器B	碗c、片
瓦 類	平(縄目、格子)、丸(斜格子)
土 製 品	焼土塊(5)

## S-176

須 惠 器	蓋3、坏×皿
土 師 器	甕、坏c、碗c
白 磁	碗 IV(1)
瓦 類	片
土 製 品	焼土塊(1)、土錘[1]

## S-177

須 惠 器	蓋3、坏c、片
土 師 器	蓋3、甕、坏d、片
黒色土器B	片

## S-178

須 惠 器	把手(1)、坏? 坏a、壺×甕
土 師 器	片
瓦 類	片

## S-179

須 惠 器	甕、蓋3
土 師 器	片
瓦 類	片

## S-180

須 惠 器	坏c、蓋c、甕、小壺、長頸壺、蓋3
土 師 器	坏c、蓋c、坏a、甕、皿a、坏d、高台 焼塩壺(2)
黒色土器A	片
黒色土器B	碗c(1)
白 磁	碗 XI-4(S-130と接合)[1]
瓦 類	片(縄目)

## S-181

須 惠 器	坏c、坏a、壺、甕、片(1)
土 師 器	碗c、甕、蓋3 焼塩壺(1)
瓦 類	片
縄文土器	晩期?片(1)
石 製 品	オハジキ?[1]

## S-182

須 惠 器	壺、甕、蓋、坏
土 師 器	碗(1)、小皿a? 坏d
黒色土器A	片
黒色土器B	碗
緑釉陶器	碗(1)
瓦 類	平(格子)、片
土 製 品	瓦玉

## S-183

須 惠 器	甕、蓋、坏、壺
土 師 器	甕、坏a、蓋4、坏d
灰 釉 陶 器	片(1)
瓦	類 平(縄目)
石 製 品	オハジキ(1)

## S-184

須 惠 器	蓋3、坏c、皿a、甕、壺、片(1)
土 師 器	坏、甕
黒色土器A	片
瓦	類 片

## S-185

須 惠 器	蓋3、甕、壺、坏c、坏a(赤色顔料塗布)、皿a
土 師 器	小皿a(1)(2)、丸底坏a(1)、甕?(1)、坏c、坏d(1)、器台 カマドつば、椀c、小皿(1)、坏a
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c(1)、皿
緑釉陶器	類 椀(1)
瓦	類 平(格子)
石 製 品	滑石鍋(1)

## S-187

須 惠 器	坏c、片
土 師 器	片

## S-188

土 師 器	片
-------	---

## S-189

須 惠 器	坏a、甕、蓋3、坏c
土 師 器	高坏、高台

## S-191

須 惠 器	蓋4、坏a、壺、坏c、片
土 師 器	器台(高坏?)(1)、甕、椀c、坏a、坏a×皿a 高坏脚 焼塩壺(1)

## S-192

土 師 器	甕
緑釉陶器	片(1)

## S-193

須 惠 器	小蓋3、坏
土 師 器	甕、坏

## S-194

須 惠 器	甕
土 師 器	甕、片
石 製 品	安山岩(1)

## S-196

須 惠 器	坏、甕
土 師 器	甕

## S-197

須 惠 器	坏、蓋3
土 師 器	片
瓦	類 片

## S-198

須 惠 器	皿a(1)、坏c、蓋3、甕
土 師 器	甕、坏a? 蓋 焼塩壺(1)
緑釉陶器	片
瓦	類 平(格子)
石 製 品	黒曜石

## S-199

須 惠 器	蓋
土 師 器	片
瓦	類 平(格子)

## S-200

須 惠 器	甕、坏c、蓋3
土 師 器	蓋c、丸底坏c、椀c、丸底坏a(2)、甕
越州窯系青磁	その他 水注×壺II?(1)
イスラム陶器	片(1)
瓦	類 平(斜格子)

## S-201

須 惠 器	甕、坏c、蓋3、坏
土 師 器	甕、坏
灰釉陶器	片(1)
瓦	類 平(格子)
石 製 品	安山岩(1)

## S-202

須 惠 器	壺、坏c、甕、蓋3、坏、鉢(1)
土 師 器	小皿a(へら)(1)、甕、坏d、高坏脚 焼塩壺(2)
黒色土器A	椀c
緑釉陶器	片(1)

## S-203

須 惠 器	甕、坏
土 師 器	甕、片

## S-204

須 惠 器	甕、坏
土 師 器	鉢(1)、把手、丸底坏a(1)、椀c、小皿a(1)
瓦	類 片(1)
黒色土器B	椀c②(2)、小皿a(1)
白磁	椀 IV(2)
瓦	類 平(斜格子、格子)

## S-206

須 惠 器	坏c、坏a×皿a
土 師 器	甕、坏a、高台
瓦	類 片

## S-207

須 惠 器	坏c、甕、蓋3、坏
土 師 器	坏 焼塩壺(1)
黒色土器A	高台
黒色土器B	片
瓦	類 片(縄目)

## S-208

須 惠 器	坏c、蓋3、壺蓋?
土 師 器	蓋c、坏、坏d

## S-209

須惠器	甕、蓋
土師器	甕、坏
黑色土器A	片
瓦	類平

## S-211

須惠器	蓋2、坏a、甕、高坏脚、蓋3(1)、坏×椀(1)
土師器	蓋3③、甕、椀c(1)

## S-212

須惠器	坏a(2)、皿a(2)、蓋3(2)、坏c(1)
土師器	皿a [1](1)、甕(1)、片(2) 燒塩壺(2)
土製品	羽口(1)

## S-213

須惠器	坏c、壺
土師器	丸底坏a、甕
黑色土器B	片
瓦	類片

## S-214

土師器	小皿a(へラ)(1)、丸底坏a、坏d、高台、片
黑色土器B	椀c(2)
緑釉陶器	片(1)
中国陶器	無釉；鉢(1)
土製品	燒土塊(1)

## S-216

須惠器	蓋3、鉢、甕
土師器	甕、蓋3、椀c、坏
瓦	類平
土製品	瓦玉

## S-217

須惠器	甕、蓋3、蓋c、坏、坏c、蓋
土師器	小皿a(へラ)1(3)、丸底坏a(3)、甕、坏a、皿a
黑色土器A	片
黑色土器B	椀(1)
瓦	類片

## S-218

須惠器	片
土師器	甕
白磁	椀 I-1(1)

## S-219

須惠器	蓋3、甕、坏c、坏a
土師器	皿a、坏d、甕 燒塩壺(1)

## S-220

須惠器	蓋c3[1]、甕、坏c、壺、皿a、坏、蓋3
土師器	丸底坏a[1](5)、小皿a[6](5)、坏a(3)、甕、椀c、把手
黑色土器A	椀c(2)
黑色土器B	椀c(5)
越州窯系青磁	椀 I-1a(1)、I-2(1) 皿 III(2)、III(皿×坏)(1)
高麗青磁	III(1)
白磁	椀 I-4(1)、II(1) 皿 II-1a(1)、II×III(1)、III?(1)
青白磁	片?(1)
緑釉陶器	皿(2)
灰釉陶器	片(2)

瓦	類平(布、斜格子)
石製品	滑石製品(1)、滑石(1)
土製品	燒土塊(2)

## S-221

須惠器	蓋3、皿a、壺
土師器	坏a、蓋3、甕、高台
石製品	黒曜石(1)、安山岩(1)

## S-222

須惠器	蓋3、片
土師器	坏a

## S-223

須惠器	蓋3(2)、壺、蓋2、甕
土師器	坏(1)、椀、蓋3、甕、高台、丸底坏a?(1) 燒塩壺(1)
越州窯系青磁	椀 I(1)、I-2ウ(1)
緑釉陶器	片(1)
瓦	類平(縄目、格子)

## S-224

須惠器	甕(1)、坏a、坏c(1)、坏、蓋3(1)
土師器	中椀c1(1)、小皿a(1)、坏a(1)、丸底坏a、椀c(2)、甕
黑色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀 I(1)
緑釉陶器	壺(1)
瓦	類平(斜格子)

## S-225

須惠器	甕[1]、蓋3、坏、高台、坏c、壺、蓋4、皿a
土師器	丸底坏a[2](19)、椀c(1)、坏a(1)、小皿a[6](23)、椀 高台(2)、甕、甕b、丸底坏c(2)、皿c、小皿c[1]、坏(2) 器台、片(8) 燒塩壺(2)
黑色土器A	椀c(1)
黑色土器B	椀c(3)
越州窯系青磁	椀 I(1)、II(2)、II-3(1)
長沙窯系青磁	水注×壺(1)
白磁	椀 IV-1b×XI-I(1)、V~VIII×XI(1) IV~VII×XI(1)
緑釉陶器	片(1)
灰釉陶器	片(1)
中国陶器	無釉；鉢I(古タイプ)(1) 壺；A'b(1)
瓦	類平(縄目、斜格子)
石製品	砥石[1]
土製品	燒土塊(2)

## S-226

須惠器	甕、坏c、皿a×高坏
土師器	把手、丸底坏a(6)、小皿a(3)、坏a、椀c(1)、坏a[1] 甕、片(3)
黑色土器B	椀c(2)
瓦	類平(斜格子)
石製品	砂岩(1)
土製品	燒土塊(1)

## S-227

須惠器	甕、蓋4
土師器	椀c、片

## S-228

須惠器	片
土師器	片

## S-229

須惠器	坏c、蓋2、高坏、
土師器	甕、片
黑色土器A	碗c(1)

## S-230

須惠器	甕、坏、坏c
土師器	小皿a、甕、高坏×器台 烧塩壺
黑色土器B	碗
瓦類	平(布目)

## S-231

須惠器	壺、蓋3、坏c、蓋2、高坏
土師器	坏d、坏a、高台、甕 烧塩壺(6)
黑色土器A	碗
越州窯系青磁	碗 I(1)
瓦類	片

## S-232

須惠器	甕、壺、蓋c、坏c
土師器	甕、坏a、碗c、坏a 烧塩壺(2)
瓦類	平(縄目)
石製品	滑石(1)

## S-233

須惠器	坏
土師器	丸底坏a、甕 烧塩壺(1)
黑色土器A	片
黑色土器B	片

## S-234

須惠器	坏c、蓋、皿a×坏a、蓋c、高坏、甕、壺、蓋3
土師器	甕、坏a 烧塩壺(2)
土製品	烧土塊(2)

## S-235

須惠器	坏c、甕、皿、蓋、蓋3、蓋4
土師器	把手、甕、高坏、坏d、坏a(1) 烧塩壺(1)
瓦類	平(縄目)
金属製品	スラグ
土製品	カマド

## S-236

須惠器	坏c、蓋、蓋3
土師器	坏a、丸底坏a? 甕
黑色土器A	碗
瓦類	片(斜格子)

## S-237

須惠器	坏c、甕、皿a、坏a
土師器	甕、小皿a? 坏a

## S-238

須惠器	蓋3
土師器	坏、片

## S-239

須惠器	甕、坏c、坏a
土師器	甕、坏a、皿a(1)
瓦類	片
土製品	烧土塊(3)

## S-240 黒茶色土

須惠器	壺、坏c、坏a、蓋3、壺蓋?
土師器	小皿a(へら)(10)、小皿a(糸)(混入)(1)、丸坏a(3)、坏d 碗c、皿a(1)、甕 烧塩壺(3)
黑色土器A	碗c(1)、片
黑色土器B	碗、片
越州窯系青磁	碗 I(1)
白磁	碗 IV(2)、II-1(1)、II(1)、V-1×VIII-2(1)、V-3(1) 片(3) 皿 V-2(1)、IV~VII(1) その他 水注×壺II(1)
青白磁	皿(1)
灰釉陶器	片(1)
イスラム陶器	片(1)
瓦類	平(布目)、片
石製品	黒曜石(1)、砥石(1)
土製品	烧土塊

## S-240 暗茶色砂

須惠器	甕、蓋4、坏c、蓋3、壺
土師器	小皿a(へら)(4)、丸底坏a(2)、碗c、坏a(1)、丸底坏c 甕 烧塩壺(1)
黑色土器B	碗
白磁	碗 II(2)、II-1、IV?(1)、V~VIII(1)、V-2(1) V-3a(1)、V-1×VIII-2(1)、片(1) その他 水注×壺II(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
瓦類	平(格子、文字(1))
金属製品	スラグ
石製品	滑石(1)

## S-240 暗灰色粘質土

須惠器	坏c、蓋3、蓋c、皿a、坏a×皿a、碗×坏(糸)(篋?) (1) 壺、甕
土師器	坏a、丸底坏a(5)、小皿a(9)、甕、碗c、高坏 烧塩壺(5)
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗、小皿a?(1)
白磁	碗 II(1)、II-1(3)、V~VIII(1)、V-4×VIII(1) IV(2)、IV?(1) 皿 V-2(3)
緑釉陶器	皿(3)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	片(縄目、格子)
石製品	滑石鍋(2)

## S-241

須惠器	甕、蓋
土師器	皿a、甕
黑色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 II(1)

## S-242

須惠器	高坏脚、坏c、蓋3、蓋c
土師器	甕、高台、底部(平底)、坏a×皿a 烧塩壺(1)

## S-243

須惠器	甕、蓋3、短頸甕蓋(1)
土師器	碗c、甕、中碗a②、小皿a×坏a
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗c(1)
越州窯系青磁	碗 I(1)、II(1)
	その他 水注×甕II(褐彩)(2)
瓦類	平(斜格子)、丸(格子)
石製品	滑石鍋(1)

## S-244

須惠器	坏c、甕r④
土師器	碗c、坏a[1]、皿、蓋c、甕
黑色土器A	碗c、甕
黑色土器B	碗c
緑釉陶器	皿c[1]
瓦類	平(文字)(1)
石製品	滑石製品(1)

## S-245

須惠器	高台、甕、蓋、坏、坏c
土師器	小皿c(1)、碗c、坏a、小坏a(1)、丸底坏、高台、坏甕
	燒塩壺
黑色土器B	片
瓦類	片
土製品	紡錘車[1]、燒土塊(1)

## S-245 暗茶色土

須惠器	甕、坏c、甕、蓋3
土師器	小皿c[2]、坏a(1)、碗c、坏d、高台、中碗a[2]、甕
黑色土器A	碗
黑色土器B	碗c(1)
越州窯系青磁	碗 I-1×III(1)、II-2f(1)、II-3(1)
緑釉陶器	片(1)
瓦類	平(縄目、斜格子)、丸
石製品	滑石鍋(2)、黒曜石(1)、安山岩(1)

## S-245 黒灰色土

須惠器	蓋b、甕、蓋c、坏c、蓋3、高坏、鉢(籬)(1)
土師器	小坏a[2]、碗c、大碗c、坏a、甕、小皿a(1)、坏c×皿c
	蓋3
黑色土器A	碗c[1]
黑色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 I-2b(1)
白磁	碗 I?(1)
瓦類	平(格子)、丸

## S-246

土師器	坏a、甕
黑色土器A	片

## S-247

須惠器	蓋b3、坏c、蓋3、甕
土師器	甕、器台
	燒塩壺

## S-248

須惠器	坏c、蓋3、甕、坏a
土師器	片
	燒塩壺

## S-249

須惠器	甕、坏c、高坏脚、甕、蓋3、坏a×皿a
土師器	甕、坏d、坏
	燒塩壺
黑色土器B	片
瓦類	片
土製品	カマド?

## S-250

須惠器	皿a、蓋、坏c、甕、蓋3、高坏脚(1)、蓋c(1)甕、皿?
土師器	甕、坏d(2)、蓋3、皿、坏c
	燒塩壺(8)
黑色土器A	片
瓦類	平(縄目)、丸
石製品	黒曜石(1)、砥石(1)

## S-251

須惠器	甕、蓋3、蓋、皿a、甕、坏c、高坏脚
土師器	甕、皿a、坏a、坏c
黑色土器A	碗c
瓦類	片(斜格子)

## S-252

須惠器	蓋3、鉢、坏c、甕、小甕、皿
土師器	甕、坏c、坏a、大坏c×大皿c、碗、蓋3、皿
	燒塩壺(3)
黑色土器A	片
黑色土器B	碗
瓦類	平(縄目)
石製品	黒曜石(2)
土製品	カマド?

## S-254

須惠器	片
土師器	坏
黑色土器A	片
土製品	燒土塊

## S-255

須惠器	坏c、坏a、皿、蓋3、甕、甕、蓋c、甕蓋
土師器	坏c、鉢?(1)、坏、碗c(3)、甕、坏(搬入品)(1)
	製塩土器(玄海灘式?)、燒塩壺(1)
黑色土器B	碗
緑釉陶器	片(1)
瓦類	片
石製品	安山岩(1)

## S-256

須惠器	甕、甕
土師器	碗c、甕
	燒塩壺(1)
黑色土器A	碗c
越州窯系青磁	皿 I(1)
	その他 坏(1)
瓦類	片
石製品	黒曜石(1)

## S-257

須惠器	蓋3、甕、高坏、坏
土師器	碗c、坏a、甕
黑色土器A	碗c
越州窯系青磁	碗 I(1)
緑釉陶器	高台(1)
瓦類	平(縄目)
石製品	滑石(1)

S-258

須惠器	坏c、甕、蓋3、蓋2、甕、坏、高坏?(1)
土師器	坏d、甕、坏a、蓋3、碗c
石製品	黑曜石(1)

S-259

須惠器	坏c、蓋3、坏a、甕
土師器	碗c、甕、坏d、皿、坏a
	烧塩壺(1)
瓦類	片
土製品	烧土塊(1)

S-260

須惠器	甕
土師器	甕、片
石製品	滑石製品(1)

S-261

須惠器	蓋3、坏c、耳皿(1)、蓋1、甕、皿a
土師器	坏a(1)、甕、坏
	烧塩壺(2)
黑色土器A	片
青白磁	片(1)
瓦類	片
石製品	石鉄(1)、安山岩(2)

S-263

須惠器	甕、坏c
土師器	坏、蓋c、碗c④、甕、坏a(2)、片(1)
越州窯系青磁	碗 II(1)
瓦類	片

S-264

須惠器	蓋3、坏c、甕、坏a
土師器	甕、坏
白磁	碗 I-1(1)

S-265

須惠器	蓋3、甕
土師器	片
黑色土器A	碗c
瓦類	平(斜格子)

S-266

須惠器	坏、蓋、短頸壺
土師器	高坏脚、坏

S-267

須惠器	坏c、甕、蓋3、皿×坏a
土師器	甕、坏a

S-268

須惠器	坏、坏c
土師器	甕
瓦類	片

S-269

須惠器	蓋3、甕
土師器	甕、坏、坏c、小皿a
黑色土器A	片
黑色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 I-1(1)
瓦類	片

S-270

須惠器	坏c、甕、甕、坏a、蓋3、甕e
土師器	甕(1)、坏a、碗c、皿(1)
越州窯系青磁	碗 I-1×II(1)
瓦類	片

S-271

須惠器	坏c、甕、蓋1、蓋3
土師器	甕、坏、坏a
	烧塩壺(3)
瓦類	片
石製品	安山岩(1)

S-272

須惠器	蓋c、蓋3、甕、坏
土師器	甕、碗c、坏d、坏a、碗
	烧塩壺(3)
黑色土器A	片
黑色土器B	片
越州窯系青磁	碗 I-2(1)

S-273

須惠器	蓋3、坏a、甕、甕、坏、小甕
土師器	甕、高坏、九底坏a、坏d、高台、坏a? 蓋c
瓦類	片

S-274

須惠器	甕、甕、高坏? 甕、蓋3
土師器	甕、坏、高台、坏a
	烧塩壺(1)
黑色土器A	片
瓦類	平(細目)
石製品	滑石(1)

S-275

須惠器	坏a(1)、坏c、蓋c、甕、蓋3、甕
土師器	碗c、甕、蓋、坏a、皿a(1)、蓋4
瓦類	片(細目)、セノ(1)

S-276

須惠器	坏
土師器	甕、坏、蓋4、カマド(1)
	烧塩壺(2)
黑色土器A	碗c
瓦類	平(細目)

S-277

須惠器	甕、坏、蓋3、坏c
土師器	高台(丹塗)(1)、甕、坏a
黑色土器A	碗
瓦類	片(細目)、平(格子)

S-278

須惠器	甕、坏、坏c、蓋、蓋3
土師器	碗c、甕、坏
	烧塩壺(5)
越州窯系青磁	碗 I-2b(2)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	片(斜格子)

## S-279

須惠器	坏a、坏c、蓋3、甕
土師器	坏
黑色土器A	片
瓦類	平(縄目、格子)

## S-280

須惠器	甕、蓋3、蓋
土師器	坏a、甕
石製品	燒塩壺(1) 黒曜石(1)

## S-281

須惠器	坏c、坏、蓋c、甕、坏a、蓋3
土師器	甕、坏
	燒塩壺(2)
越州窯系青磁	椀 II(1)
長沙窯系青磁	壺×水注(1)

## S-282

須惠器	蓋c、壺、蓋3
土師器	皿a、甕、坏、蓋4、高台
黑色土器A	片
白磁	椀 II(1)

## S-283

須惠器	坏c、蓋3、壺?
土師器	坏、片
黑色土器A	片
緑釉陶器	片(1)

## S-284

須惠器	蓋3、片
土師器	甕、椀c、坏
	燒塩壺(3)
瓦類	平(格子)
石製品	安山岩(1)

## S-285

須惠器	蓋1
土師器	片

## S-286

須惠器	甕、蓋
土師器	甕、坏
瓦類	平(斜格子)
石製品	滑石

## S-287

須惠器	甕、把手、坏、坏c、蓋3
土師器	甕、坏
	燒塩壺
黑色土器A	椀

## S-288

須惠器	壺蓋、蓋、坏a、甕、蓋3、壺
土師器	椀c、坏、片
白磁	椀 V~VIII(1)

## S-289

須惠器	片
土師器	高台、甕、片
黑色土器A	椀
瓦類	平(格子)

## S-291

須惠器	坏c、甕、坏、蓋3
土師器	甕、小皿a、坏a、椀c、蓋
	燒塩壺(8)
黑色土器A	椀
瓦類	平(縄目)

## S-292

須惠器	片
土師器	甕、坏

## S-293

須惠器	坏c、坏、蓋3
土師器	甕、坏、蓋3、坏a×坏d

## S-294

須惠器	坏、蓋、蓋3
土師器	坏、片
	燒塩壺(2)
瓦類	丸
金属製品	鉄釘?
土製品	焼土塊

## S-295

須惠器	坏a、蓋3
土師器	丸底坏a[1]、坏、小皿a?
黑色土器B	片

## S-296

須惠器	甕、蓋3、坏c、蓋c、皿a
土師器	坏a、甕、高台、坏
	燒塩壺(1)
黑色土器B	椀
緑釉陶器	片(1)
瓦類	平(斜格子)

## S-297

須惠器	蓋3、蓋、甕e、坏、壺、坏c
土師器	甕、小皿a、高坏
	燒塩壺(3)
黑色土器B	椀c
瓦類	片
石製品	滑石

## S-298

須惠器	甕、蓋、壺、坏c、高坏
土師器	甕、坏a
	燒塩壺(4)
黑色土器A	椀c
石製品	安山岩(1)

## S-299

須惠器	甕、壺、坏、蓋3
土師器	甕、片
	燒塩壺(1)
越州窯系青磁	その他 水注×壺(1)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	平(縄目)

## S-300

須 惠 器	坏c(1)、甕、碗c(1)、小蓋3(1)、横瓶、坏a、蓋c、蓋4 坏a×皿a
土 師 器	甕、蓋c、坏c×碗c、皿a(1) 焼塩壺(6)
石 製 品	石鐵(黒曜石)[1]、軽石(1)、オハジキ[1]

## S-301

須 惠 器	蓋3、片
土 師 器	高台、甕

## S-302

須 惠 器	広口壺、坏c、坏a、蓋3、小壺、甕、蓋2
土 師 器	蓋c、甕、坏
瓦 類	片(斜格子)

## S-303

土 師 器	片
-------	---

## S-304

須 惠 器	坏c、蓋c、甕、蓋3
土 師 器	甕、坏c、坏、器台×高坏
瓦 類	平(斜格子)
土 製 品	焼土塊(1)

## S-306

須 惠 器	甕
土 師 器	甕、碗c、片

## S-307

須 惠 器	蓋3、蓋×坏
土 師 器	蓋4、甕
瓦 類	平(斜格子)
石 製 品	安山岩(1)

## S-308

須 惠 器	片
土 師 器	甕、坏
瓦 類	片

## S-309

須 惠 器	片
土 師 器	片
黒色土器A	碗

## S-310

須 惠 器	甕、蓋3、坏
土 師 器	坏a、甕、坏、坏d、高台
黒色土器B	片

## S-310

土 師 器	坏a(へラ)(1)
白 磁	皿 V-2(1)

## S-311

須 惠 器	坏
土 師 器	片 焼塩壺(1)
瓦 類	片

## S-312

須 惠 器	坏c、蓋3、壺
土 師 器	甕

## S-313

須 惠 器	蓋3、坏
土 師 器	甕、蓋3

## S-314

須 惠 器	蓋3、坏c、甕
土 師 器	小皿a(1)、甕
黒色土器A	碗
黒色土器B	片
白 磁	碗 XI?(1)
瓦 類	片

## S-315暗茶色土

須 惠 器	坏c、甕、蓋3、壺、蓋c
土 師 器	小皿a(糸)(混入?)(1)、小皿a(へラ)③(3)、坏a(糸)(1)、 丸底坏a、坏d、甕、壺c、碗c 焼塩壺
黒色土器A	碗c
黒色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 II(特殊)(1)、I(1)、II(2) その他 水注×壺(1)、合子蓋?(1)
高麗青磁	片(1)
長沙窯系青磁	片?(2) 碗 IV(4)、XII-1?(1)、XI-5(1)
白 磁	皿 II-I(1)、III-1(1)、V~VI(1)、II?(1) 不明 片(5)
緑釉陶器	皿c(1)
瓦 類	平(斜格子)
石 製 品	滑石(1)
土 製 品	焼土塊(1)

## S-315黒灰色土

須 惠 器	皿a、坏c、甕、蓋3、壺
土 師 器	碗c、高坏、蓋c、甕、坏d
黒色土器B	碗c
瓦 類	平、丸

## S-316

須 惠 器	蓋3、皿a、壺、坏a
土 師 器	丸底坏a、坏a、皿a、甕

## S-317

須 惠 器	蓋3(1)、蓋c、坏c(2)、甕、蓋2
土 師 器	高坏、坏d、壺、甕b、蓋3、坏、丸底坏(混入?)、甕 焼塩壺(2)
瓦 類	平(縄目、格子)
金属製品	スラグ

## S-318

須 惠 器	坏c、皿a
土 師 器	甕

## S-319

須 惠 器	甕、坏
土 師 器	小壺、甕 焼塩壺(1)
瓦 類	片

## S-321

須 惠 器	甕、蓋3、坏a
土 師 器	甕、皿b? 碗c、坏a
黒色土器A	片

S-322

土 師 器 甕、坏

S-323

須 惠 器 坏c、甕  
土 師 器 片

S-324

須 惠 器 蓋3、坏  
土 師 器 高坏、甕  
瓦 類 平(斜格子)

S-326

須 惠 器 坏c

S-327

須 惠 器 坏  
土 師 器 坏、甕、坏a  
黑色土器A 片

S-328

須 惠 器 甕、坏c  
土 師 器 蓋b、坏a、甕  
瓦 類 平(斜格子)

S-329

須 惠 器 坏c  
土 師 器 坏

S-331

土 師 器 片

S-401

瓦 類 平(格子)

S-402

土 師 器 甕

S-403

須 惠 器 坏c(1)、蓋3(1)  
土 師 器 片  
瓦 類 片(格子)

S-404

須 惠 器 蓋3(1)

S-406

須 惠 器 甕、坏c、蓋3、蓋、皿a  
土 師 器 甕、片  
瓦 類 平(格子)

S-407

須 惠 器 坏?  
土 師 器 甕、坏、坏d? 皿a?  
瓦 類 平(縄目)  
石 製 品 安山岩(1)

S-408

須 惠 器 片  
土 師 器 碗c、坏a  
瓦 類 丸

S-409

須 惠 器 蓋3、坏  
土 師 器 片  
黑色土器A 片

S-411

須 惠 器 甕  
土 師 器 坏

S-412

土 師 器 丸底坏a(混入)、甕

S-414

須 惠 器 甕、坏  
土 師 器 片

S-415

須 惠 器 蓋3、坏  
土 師 器 片

S-416

須 惠 器 脚?(1)  
土 師 器 片

S-417

須 惠 器 坏c  
土 師 器 片

茶褐色土

須 惠 器	坏a、坏c(3)、甕(3)、蓋c、蓋4、皿a、小皿a(2)、脚(1) 蓋3、蓋2、蓋1、甕、甕(2)、小甕(1)、大坏a、浅鉢(1) 高坏、蓋b、鉢b(1)、平瓶、横瓶、円面硯、篠?(6) 片(2)
土 師 器	壺[1]、器台、坏d、丸底坏a[3](1)、小皿a[16](5)、高坏 坏a(3)、碗c(6)、小皿a2、蓋2、皿b(2)、甕2、皿、甕a 大蓋c3、皿c[1]、甕b、小皿a(糸?)(1)、鍋、鉢(1)、蓋3 製塩土器(玄界灘式)(1)、焼塩壺(32)
黑色土器A	碗c[1](1)、甕
黑色土器B	碗c(4)、小皿a(2)、罎付碗c(1)
越州窯系青磁	碗 I(16)、I-1b(3)、I-2(1)、II-2(2)、II(3)、II-3(1) II-2f(1)、II-3b(1)、I(輪花)(1)、片(1)
長沙窯系青磁	その他 水注×壺I(2)、水注×壺片(越?)(1)
高麗青磁	黄釉(1)、黒褐釉(1)、II-1a(1)
白 磁	III(3)、II(1)、越×高麗(1) I-1(1)、XI(2)、XI-3(1)、XI-4(2)、XI-5(2) XI-1×IV(1)、II(4)、II-2(1)、II-5(1)、II?(3) 碗 II-1(1)、V[1](5)、V-1(4)、V-2(4)、II~VIII(1) VI-1×VIII-2(4)、IV~VIII(8)、IV~VII(4) VI?(1)、IV(11)、IV×V(2)、IV-1a(3)、片(16) 皿 VI~VIII(1)、V-2(2)、IV~VII(1)、II系?(1) II-2×IV×V(1)、V~VII(1) その他 片(透かし?)(1)
青 白 磁	青白×XI(1)
緑 釉 陶 器	碗c[1]、碗(1)、皿(3)、耳皿(1)、片(7)
灰 釉 陶 器	碗(2)、片(6)
瓦 質 土 器	片(1)
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)(4)
中 国 陶 器	壺A(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(6)
弥 生 土 器	片(丹塗り)
瓦 類	丸、平(縄目、格子、文字)(3)、軒丸
石 製 品	滑石鍋(12)、砥石(3)、黒曜石(6)、軽石(5)、石鏝?(1) 安山岩(10)、滑石、その他(2)
土 製 品	土鏝[2]、焼土塊、カマド、羽口、片(1)

暗茶色土

須惠器	坏c(1)、甕(1)、甕(1)、蓋3、蓋2、坏a、長頸甕、高坏 大蓋c3[1]、皿a、甕蓋、大皿×大坏c、蓋b、広口甕、鉢b、蓋4、横瓶[1]、転用硯[1]
土師器	蓋c、坏a(1)、大蓋c、小皿a[1](2)、小皿a(糸)(2)、皿a 丸坏a、大碗c、大坏c×皿c、坏d、鍋、碗c、蓋3、甕 甕、小甕 焼塩甕(3)
瓦器	碗(楠葉)(2)
黒色土器A	碗、坏a(1)
黒色土器B	碗c
越州窯系青磁	碗 I(4)、I-2[1](3)、II-1b[1]、II-2(2)、II-3(2) III(1)、III?(1) その他 水注×甕I(3)
白磁	I(1)、I-1(2)、XI(3)、XI-1(2)、XI?(1)、II-3(1) II-1[1](2)、II[1](7)、II-5(1)、IV(15)、IV?(3) IV-1[1](1)、IV-1a[1](4)、IV-1b(2)、IV-2(2) 碗 V(10)、V-1(2)、V-2(1)、V-2a[2](1)、V-2c(1) V-3(3)、V-3a(1)、V~VIII(9)、V~VII(1) IV~VII(1)、XI×IV[1]、V-1×VIII-2(5) XII-1(2) 皿 XI-4?[1]、V~VII(2)、VII-2b[1]、II-1a[1] V?(1)
灰釉陶器	甕、碗c(須惠器?)(2)
須惠質土器	鉢(東播)(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(3)
国産陶器	瀬戸；片(1) 近世；片(2)
肥前系陶磁器	小甕(1)、片(7)
瓦類	平(縄目、斜格子)、丸(格子)
石製品	滑石製鍋(1)、滑石加工品(1)

灰褐色土

須惠器	甕、甕、蓋1
土師器	碗(ミガキ)、坏、高坏、甕
石製品	黒曜石

明灰色土

須惠器	蓋3(4)、甕(2)、坏c(2)、坏a(1)、小甕、蓋2(1)、皿a(1) 蓋c、蓋c3[1]、甕b、高坏?(1)、坏(1)、大蓋c3[1] 甕(2)、片(2)
土師器	甕a(1)、皿、坏c、碗、皿b(1)、蓋4、甕、皿×坏c 高台、坏a 焼塩甕(2)
白磁	碗 片
瓦類	平(斜格子、格子)、片
石製品	黒曜石(6)、安山岩(3)、砥石?(1)

表土

須惠器	甕、坏c、甕(1)、蓋
土師器	丸底坏a、坏a、小皿a(穿孔あり)、碗c 焼塩甕(1)
瓦器	碗
黒色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 I(3)、I-2(1)
同安窯系青磁	皿 I?(1) II(2)、XI(1)、XI-1、IV×XI(1)、IV-1(1)
白磁	碗 IV-1b[1]、IV(1)、V(1)、V-1a(1)、V-2(2) V-2a(1)、V-3a(2)、V~VIII(1)、片(1) 皿 II-1a[1](1)、IV~VII(1)
緑釉陶器	碗×皿(輪花)
肥前系陶磁器	白磁；紅皿(1)、皿(1)、片(1)
瓦類	平(縄目、斜格子)、丸

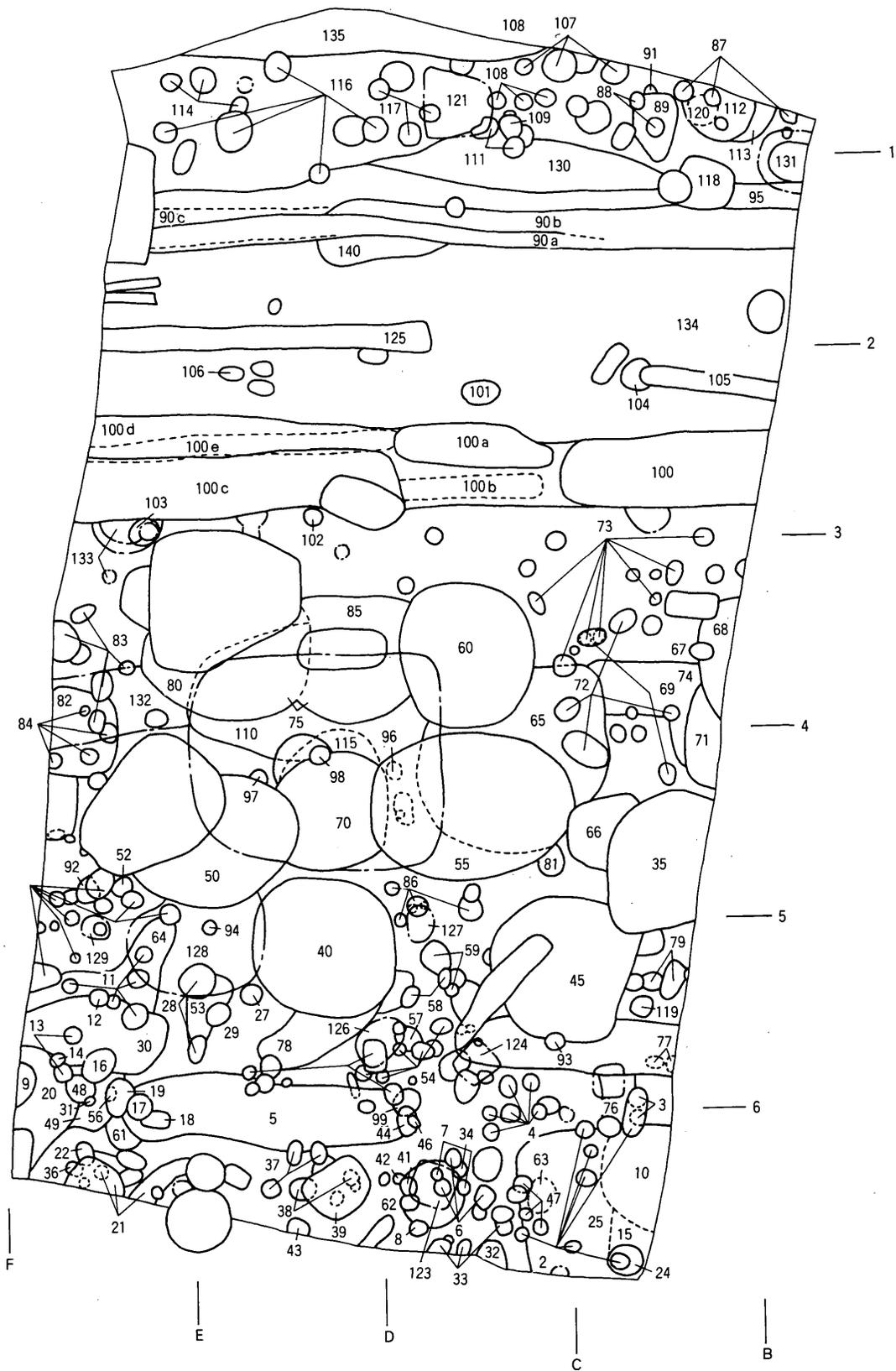


Fig. 137 第89次調査略測図 (1/100)

## 遺構番号対照表

第89次

S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号	S-番号	遺構番号
1	SK001	51		98	
2		52		99	
3		53	SX053	100	SD100
4		54		100a	SD151
5	SK005	55	SK055	100b	SD152
6		56		100c	SD153
7		57		100d	SD154
8		58		100e	SD155
9		59		101	
10	SK010	60	SK060	102	
11		61	SX061	103	
12		62	SX062	104	SX104
13		63	SX063	105	SX105
14		64		106	
15	SK015	65	SK065	107	
16		66	SX066	108	
17		67		109	
18		68	SK068	110	SK110
19		69		111	
20	SK020	70	SK070	112	SX112
21		71	SK071	113	
22		72		114	
23		73		115	SK115
24		74	SX074	116	
25	SK025	75	SX075	117	
26		76	SX076	118	SX118
27		77		119	
28		78		120	SK120
29		79		121	
30	SK030	80	SK080	122	SK122
31		81		123	
32		82	SK082	124	
33		83		125	SD125
34		84		126	SX126
35	SE035	85	SK085	127	
36		86		128	
37		87		129	
38		88		130	
39		89		131	
40	SE040	90	SD090	132	SX132
41		90a	SD090A	133	
42		90b	SD090B	134	SF150
43		90c	SD090C	135	SX135
44		91		136	
45	SE045	92			
46		93		140	
47		94		暗黒茶色土	
48		95	SD090D	淡灰色砂質土	
49	SX049	96		黒褐色土	SK055
50	SK050	97		黒茶色土	SX075

# 法 量 表

第89次

S-1

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏d	R-016	22	10.6	3.4	5.3		
2	〃	R-017	25	13.9	3.3+	8.2		
3	〃	R-018	28	15.4	4.0	8.4		
4	〃	R-019	27	15.0	3.2	8.0		
5	〃	R-020	26	14.6	3.3	7.7		
6	〃	R-021	24	13.6	3.3	6.8		
7	〃	R-039	23	12.0	3.1	6.3		
8	坏a	R-026	30	13.4	3.7	7.8	○	○
9	坏c	R-041	36	14.6	3.5	10.5	?	
10	坏e	R-025	19	-	-	6.1	○	○
11	〃?	R-031	18	11.8	4.7	5.0	?	?
12	皿a	R-022	34	19.0	2.4	14.2		
13	〃	R-023	33	19.2	1.9	14.8		
14	〃	R-024	31	15.4	1.7	12.2	○	×
15	〃	R-033	29	10.4	2.1	7.5	○	○
16	〃	R-040	32	17.0	1.7	13.8	×	
17	〃	a-1		21.8	2.3	18.0	?	×
18	皿c	R-028	21	16.4	4.2	5.0	○	?
19	小皿a(ヘラ)	R-034	39	10.0	1.1	6.4	○	○
20	〃	R-035	38	9.0	1.4	6.6	○	?
21	碗c	R-027	35	-	-	8.7		
22	〃	R-032	37	14.6	5.3+	-	?	?
23	丸底坏c	R-038	20	13.0	3.6	7.5		

S-5

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-010		14.7	4.0			○
2	坏d	d-1		13.0	3.5+	6.6		

S-10

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	碗c	R-006	15	15.2	6.3	7.8	○	×
2	〃	R-011	12	15.0	6.6	8.5	○	×
3	〃	R-012	11	14.2	6.0	8.2	○	×
4	〃	R-013	14	14.6	6.6	9.4	○	×
5	〃	R-020	13	-	-	7.2	○	?
6	坏a(ヘラ)	R-007	7	13.3	3.7	7.6	○	?
7	〃	R-008	6	13.1	3.9	7.6	-	○
8	〃	R-009	9	12.8	3.4	7.4	-	×
9	〃	R-010	10	13.0	3.5	6.4	○	×
10	〃	R-019	8	14.6	3.7	8.6	○	?

S-12

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-001		14.8	3.3			○
2	〃	R-002		15.0	3.9			○

S-16

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	〃	11.2	2.6	6.8	○	-

S-25

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏c	R-004	5	13.1	4.3	7.0		
2	坏a(ヘラ)	R-005	4	13.0	3.7	9.1	-	-
3	坏d	R-006	6	11.0	-	-		

S-27

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	丸底坏a	R-001		15.0	3.8			○

S-30

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏d	R-009	8	-	-	8.4		

S-35上層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	3	9.8	1.4	7.8	○	○
2	〃	R-002	1	9.0	1.3	7.5	○	○
3	丸底坏a	R-003	15	15.0	3.9			?
4	〃	R-004	16	15.4	3.7			○

S-35下層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	12	10.4	1.2	7.3	○	○
2	〃	R-002	11	10.2	1.3	7.6	○	○
3	〃	R-003	6	9.6	1.4	6.5	○	○
4	〃	R-004	4	10.0	1.7	7.2	○	○
5	〃	R-005	10	10.4	1.7	7.7	○	○
6	〃	R-006	9	9.8	1.1	7.5	○	-
7	〃	R-007	2	9.2	1.0	7.5	○	-
8	〃	R-008	7	9.8	1.2	7.0	○	-
9	〃	R-009	5	9.8	1.2	7.6	○	-
10	〃	R-010	8	10.0	1.1	8.2	○	○
11	丸底坏a	R-011	14	15.0	4.2			×
12	〃	R-012	13	14.6	3.2			○

S-40上層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	碗c	R-001	11	-	-	7.4	?	○
2	〃	R-002	12	-	-	7.4	○	?
3	〃	R-003	13	15.3	5.3	7.4	?	?
4	坏a(ヘラ)	R-004	1	10.8	1.8	7.0	?	×
5	皿c	R-005	10	12.4	1.7	7.0	-	-
6	鉢	R-006	16	-	-	18.0	○	-

S-40下層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-002	2	11.2	1.9	7.3	○	○
2	〃	R-003	4	11.2	1.9	7.5	○	○
3	〃	R-004	6	11.5	2.4	7.1	○	×
4	〃	R-005	8	11.2	2.0	7.7	○	○
5	〃	R-006	5	11.0	2.0	9.6	○	○
6	〃	R-007	7	11.4	2.2	7.9	○	○
7	〃	R-008	3	11.2	2.0	8.0	○	○
8	〃	a-1		11.2	2.4	7.2	○	?
9	碗c	R-009	15	15.3	6.9	9.0	?	
10	〃	R-010	14	-	-	8.0	○	?
11	皿c	R-011	9	12.0	1.3+	-	○?	○

S-45上層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	中碗c	R-001	3	13.8	4.8	7.6	-	-
2	丸底坏a	R-002	2	15.6	3.7	×		○
3	坏a(ヘラ)	R-003	5	10.4	2.3	7.0	○	?
4	小皿a	a-1		9.6	1.3	7.0	○	○

S-45下層

	器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
1	碗c	R-001	4	14.0	5.7	7.4	○	?
2	〃	R-003		-	-	8.9	○	?
3	丸底坏a	R-002	1	13.4	3.5	×		-

## S-50

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	9.6	1.3	5.4	○	○
2	〃	R-002	5	10.2	1.5	6.0	×	×
3	〃	R-003	7	10.6	1.7	8.2	○	○
4	〃	R-004	9	11.2	1.7	7.8	○	○
5	〃	R-005	3	10.1	1.8	7.6	○	○
6	〃	R-006	6	10.2	1.5	7.4	○	○
7	〃	R-007	8	11.7	1.7	8.0	○	○
8	〃	R-008	2	10.0	1.6	7.5	○	?
9	〃	R-011	4	10.4	1.8	6.0	○	×
10	〃	a-1		11.4	1.5	7.8	○	○
11	〃	a-2		10.8	1.8	7.0	○	○
12	〃	a-3		10.6	1.2	7.2	○	○
13	〃	a-4		10.6	1.1	7.6	○	○
14	〃	a-5		9.4	1.4	7.0	?	○
15	〃	a-6		10.8	1.1	8.0	?	?
16	〃	a-7		10.0	1.3	7.8	?	○
17	小皿a2(ヘラ)	R-009	11	11.0	0.9	7.6	○	○
18	〃	R-010	10	11.0	1.0	7.5	○	○
19	小皿c	R-012	12	11.6	2.3	6.9	○	×
20	中碗a	R-013	13	12.5	2.9	9.2	×	×
21	〃	R-014	15	12.4	4.0		○	×
22	〃	R-015	14	12.3	3.9		○	×
23	〃	R-019	16	13.0	4.0		-	-
24	碗c	R-020	20	15.4	5.4	7.8	-	-
25	〃	R-021	21	15.6	5.2	7.8	-	-
26	〃	R-026	17	12.8	4.6	6.5	-	-
27	〃	R-036	23	-	-	6.9	-	-
28	丸底坏c	R-023	18	15.0	5.2	7.4		-
29	〃	R-025	19	15.2	5.3	8.1		-
30	〃	R-035	22	15.4	4.0+		-	-

## S-55

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	7	14.8	3.7	11.0	○	○
2	〃	R-002	8	14.6	3.9			×
3	〃	R-004	10	16.4	3.3+			-
4	〃	R-005	11	16.8	3.6+			○
5	〃	R-006	9	15.8	4.2			×
6	碗	R-003	12	16.4	5.1+	-	?	?
7	皿×碗	R-007	13	-	-	5.1	?	×
8	小皿a(ヘラ)	R-008	5	10.2	1.2	7.6	○	×
9	〃	R-009	2	10.0	1.2	8.0	○	×
10	〃	R-010	3	10.0	1.2	7.2	○	×
11	〃	a-1		10.0	1.2	7.5	○	-
12	大碗c	c-1		17.8	-	-		

## S-60

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏c	R-002	11	14.4	5.6	8.4		-
2	碗	R-003	10	14.2	4.5+	-		-
3	〃	R-007	5	-	-	7.2	○	×
4	中碗a	R-005	7	13.0	3.6	8.2	○?	○
5	丸底坏a	R-004	9	13.8	3.6+			○
6	中丸底坏a	R-009	8	12.4	3.4+			×
7	坏a	R-006	6	11.0	2.1	8.2	○	○
8	小皿c	R-008	4	11.4	1.7	7.2	○	×
9	小皿a(ヘラ)	R-010	3	10.6	1.1	9.0	○	○
10	〃	R-011	2	10.0	1.2	7.4	○	×
11	〃	R-012	1	9.6	1.1	6.8	○	?
12	〃	a-1		10.2	1.5	7.2	?	○

13	〃	a-2		10.0	1.2	7.0	○	-
14	〃	a-3		9.8	1.1	7.3	○	○
15	〃	a-4		10.2	1.1	6.4	○	

## S-65

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-005	2	11.7	3.8	6.9	×	×
2	〃	R-006	3	12.8	4.0	7.4	×	×
3	〃	R-007	4	13.1	3.9	8.6	×	×
4	〃	R-008	1	11.2	3.2	7.0	×	○
5	〃	R-011	5	13.0	3.6+	8.2	○	○
6	〃(柱状高台)	R-001	10	12.4	5.4	5.5	×	×
7	〃	R-002	9	12.0	5.5	5.7	×	×
8	〃	R-003	11	12.0	5.5	5.4	×	×
9	〃	R-004	8	-	3.3	5.1	×	×
10	〃	R-012	12	11.8	4.2	-	×	×
11	〃	R-013	13	-	-	5.4	×	×
12	〃	R-014	17	-	-	5.4	×	×
13	〃	R-015	15	-	-	5.2	×	×
14	〃	R-016	14	-	-	5.6	×	×
15	〃	R-017	16	-	-	5.6	×	×
16	〃	R-018	19	-	-	5.4	×	×
17	〃	R-019	18	-	-	5.5	×	×
18	〃	R-020	20	-	-	5.5	×	×
19	碗?	R-021	7	13.0	4.1+	-	-	-
20	坏c	R-009	6	-	4.8	8.5	×	?

## S-68

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	1	16.0	3.5			○

## S-70

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	10	15.3	4.0			○
2	坏a(糸)	R-002	9	13.0	3.9	8.0	?	○
3	小皿a(ヘラ)	R-004	7	10.3	1.5	8.2	○	○
4	〃	R-005	6	10.2	1.2	7.0	○	○
5	〃	R-006	4	10.0	1.0	6.7	○	○
6	〃	R-008	5	11.0	1.5	6.6	?	×
7	〃	a-1		9.8	1.5	8.0	-	○
8	小皿a2(ヘラ)	R-007	8	11.0	0.9	6.0	○	○
9	碗c	R-003	11	14.1	5.2	6.6	×	×
10	〃	c-1		15.0	3.5+	-		

## S-71

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	碗c	R-001	13	15.0	4.5+	-	-	-

## S-74上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	1	11.0	3.3	6.2	○	×
2	皿a(ヘラ)	R-002	4	12.4	1.2	9.4	?	?

## S-74下層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	3	12.4	3.6	6.7	?	?
2	〃	R-002	2	11.4	2.9	7.3	?	○?

S-75

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	14	14.4	3.7			?
2	〃	R-002	15	15.0	3.5			×
3	小皿a(ヘラ)	R-003	4	10.0	1.5	7.6	?	×
4	〃	R-004	10	10.8	1.3	7.9	○	○
5	〃	R-005	5	10.0	1.1	6.6	?	×
6	〃	R-006	1	9.6	1.4	7.0	?	?
7	〃	R-007	13	11.2	1.5	7.2	-	○
8	〃	a-1		10.0	1.0	7.4	-	○
9	〃	a-2		10.0	1.2	7.8	-	-
10	〃	a-3		9.4	1.0	7.8	-	-

S-80

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	6	14.5	3.3			
2	〃	R-002	8	15.5	3.7			
3	〃	R-003	5	15.5	3.6			
4	〃	R-004	7	15.4	3.6			
5	小皿a(ヘラ)	R-005	3	9.8	1.3	7.0	○	○
6	〃	R-006	4	9.6	1.4	7.4	○	?
7	〃	R-007	1	10.9	1.0	7.5	?	○
8	〃	R-008	2	10.2	1.6	6.9	○	○
9	〃	a-1		9.6	1.3	6.5	?	○

S-82

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001	14	12.0	3.7	6.8	○	○
2	〃	R-002	12	12.0	3.7	6.8	○	○
3	〃	R-003	15	14.4	2.9	9.8	○	○
4	〃	R-004	13	12.6	3.3	8.3	○	○

S-84

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001		16.0	4.0+			×

S-85

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	4	14.0	3.4			×
2	〃	R-002	7	14.6	4.7			×
3	〃	R-003	6	15.4	4.2			×
4	〃	R-004	8	14.6	3.4			?
5	〃	R-005	5	14.4	3.3			○
6	小皿a(ヘラ)	R-006	1	9.7	1.4	7.0	○	○
7	〃	R-007	2	10.0	1.5	7.7	○	○
8	〃	R-008	3	9.4	1.4	6.7	○	○

S-90

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	10.4	1.2	7.3	○?	○
2	〃	a-1		9.6	1.5	6.9	○	-
3	〃	a-2		10.0	1.2	7.5	?	-

S-100最上層

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-002	9	9.1	1.1	7.6	○	×
2	〃	R-003	1	8.7	1.3	7.2	○	×
3	〃	R-004	2	8.6	1.2	7.4	○	×
4	〃	R-005	4	8.6	1.1	7.1	○	?
5	〃	R-006	5	8.6	1.3	6.9	○	○
6	〃	R-007	3	8.6	1.6	7.6	○	○

7	〃	R-008	10	9.6	1.2	7.3	○	○
8	〃	R-009	8	9.0	1.0	7.8	○	○
9	〃	a-1		8.8	1.0	7.2	○	○
10	〃	a-2		8.8	0.9	7.4	○	○

S-100

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	15	15.2	3.3			○
2	〃	R-002	19	15.1	3.2			○
3	〃	R-003	17	14.6	3.1			○
4	〃	R-004	16	14.8	3.0			○
5	〃	R-005	20	15.0	3.6			○
6	〃	R-006	18	14.8	3.6			○
7	小皿a(ヘラ)	R-007	7	9.5	1.5	6.5	○	○
8	〃	R-008	13	9.8	1.2	7.3	○	○
9	〃	R-009	12	9.8	1.6	7.7	○	○
10	〃	R-010	11	9.6	1.4	7.1	○	○
11	〃	R-011	6	9.4	1.4	6.2	?	○
12	〃	R-012	14	10.2	1.2	7.9	○	○

S-100a

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	28	10.2	1.5	7.6	×	×
2	〃	R-002	29	10.2	1.2	7.3	○	○
3	〃	R-003	30	10.1	1.5	7.5	○	○
4	〃	R-004	27	9.6	1.7	7.3	○	○
5	〃	R-005	31	10.3	1.3	7.3	○	○
6	〃	R-007	32	11.0	1.4	8.7	○	○
7	丸底坏a	R-006	33	14.4	3.4			○

S-100c

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	碗c	R-001	45	15.3	5.8	6.4		×
2	丸底坏a	R-002	44	15.7	3.5			○
3	〃	R-003	42	14.7	3.5			○
4	〃	R-004	43	15.3	3.2			○
5	〃	R-005	41	14.4	2.9			?
6	〃	a-1		14.2	2.8+			
7	小皿a(ヘラ)	R-006	36	8.8	1.2	7.1	○	○
8	〃	R-007	40	9.9	1.4	7.3	○	○
9	〃	R-008	34	8.6	1.3	7.2	○	○
10	〃	R-009	38	9.2	1.0	6.8	○	○
11	〃	R-010	37	8.6	1.1	7.6	○?	○
12	〃	R-011	35	8.8	1.3	7.7	○	○
13	〃	R-012	39	9.0	1.1	7.6	○	○
14	〃	a-1		8.2	1.0	7.2	○	○
15	〃	a-2		9.0	0.9	7.2	○	○

S-100d

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-002	47	8.6	1.0	7.2	○	○
2	〃	R-003	49	8.9	1.2	7.4	○	○
3	〃	R-004	48	8.6	1.4	7.5	○	○
4	〃	a-1		10.4	1.1	8.0		
5	丸底坏a	R-005		11.0	2.0+			

S-104

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-001	1	9.0	1.2	6.5	?	○

## S-110

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-002	13	20.0	2.4	16.5		
2	坏d	R-003	12	16.5	2.9	8.8		
3	〃	R-004	11	-	3.0+	9.0		

## S-112

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(糸)	R-002	5	-	-	6.2		

## S-115

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏d	R-003	12	16.0	3.7	8.9		
2	坏c	R-004	11	10.2	4.3	6.2	?	
3	皿a	R-005	13	20.0	1.9	17.0		
4	〃	a-1		20.2	1.8	15.8		

## S-116

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a(ヘラ)	R-001		12.2	3.6	7.4	?	○

## S-120

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-002	1	20.8	2.9	18.3		

## S-122

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏c	R-012	15	10.2	4.4	5.7		
2	皿a	R-013	17	21.6	2.0	18.0		
3	皿b	R-016	16	17.7	3.0+		○?	×

## S-125

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	5	14.3	3.6			
2	〃	R-002	6	15.7	3.6			
3	〃	R-003	4	14.3	3.4			
4	小皿a(ヘラ)	R-004	2	9.2	1.4	7.1	○	○
5	〃	R-005	1	8.9	1.3	6.9	○	○
6	〃	R-006	3	9.8	1.3	7.4	○	○

## S-135

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	皿a	R-002	2	13.6	1.6	10.1	-	○
2	坏a(ヘラ)	R-005		8.5+	1.7+	7.1		

## 暗黒茶色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	小皿a(ヘラ)	R-004	3	9.7	1.7	7.0	?	?
2	〃	R-005	2	9.8	1.3	6.8	?	×
3	坏a(ヘラ)	R-006	5	17.7	3.0	13.5		○
4	中碗c	R-007	4	12.2	4.3	7.7		

## 黒褐色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏	R-001	14	11.8	4.3	4.4		
2	小皿a(ヘラ)	R-002	1	9.6	1.3	6.7	?	×
3	〃	R-003	4	10.0	1.7	6.9	○	○
4	〃	R-004	6	11.4	1.0	9.0	○	○
5	〃	a-1		11.0	0.9	6.9	?	?
6	〃	a-2		10.2	0.8	6.8	?	?
7	〃	a-2		10.0	1.4	7.6	○	○

## 淡灰色砂質土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	坏a	R-010	9	14.0	3.9	7.3	?	

## 黒茶色土

	器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
1	丸底坏a	R-001	16	15.7	4.2			
2	〃	R-002	17	15.0	4.5			
3	小皿a(ヘラ)	R-003	9	10.2	1.2	8.2	?	○
4	〃	R-004	3	10.0	1.5	7.6	?	×
5	〃	R-005	6	10.2	1.3	7.4	○	○
6	〃	R-006	2	9.8	1.0	8.2	?	×
7	〃	R-007	11	10.6	1.2	7.5	×	○
8	〃	R-008	7	10.0	1.1	7.2	○	○
9	〃	R-009	12	11.0	1.3	8.8	○	○
10	〃	R-010	8	10.0	1.4	8.5	○	○

# 出土遺物一覽

第89次

S-1

須 惠 器	坏c(3)、蓋c4[1](2)、蓋3(2)、皿a(2)、壺b、坏a(4) 円面硯(1)、鉢(1)、坏×皿a、短頸壺(1)、片(2)
土 師 器	坏a[1](1)、坏c(1)、坏d[2](7)、坏e[1]、丸底坏c(1) 坏(搬入)(2)、丸底坏a(2)、蓋3(1)蓋c3(1)、碗c[1](3) 碗c2、小皿a(ヘラ)(8)、皿a[1](4)、皿c(1)、高坏 獸足(1)、甕、鉢(1)、片(2) 製塩土器(3)、焼塩壺(67)
黒色土器A	碗(1)
黒色土器B	碗(3)、高台(1)
越州窯系青磁	碗 I-2aア(1)
高麗青磁	III-1a?(1)、III-2a(1)
白磁	碗 VI(1)、IV(2)、XI4(1)、XI×IV②、片(1)
緑釉陶器	碗②(2)、片(2)
灰釉陶器	片(1)
瓦	類 丸(縄目、格子)、平(縄目、格子)
土 製 品	カマド(1)、焼土塊(1)
石 製 品	滑石鍋(1)、オハジキ(1)

S-2

須 惠 器	坏c、蓋3、甕、高坏(1)、壺、円面硯(1)
土 師 器	坏a、碗c(1)、甕、蓋3、坏d(3)、小皿a2(1)、坏(1) 製塩土器(1)、焼塩壺(1)
瓦	類 平(縄)

S-3

須 惠 器	皿a(1)
土 師 器	甕
黒色土器B	皿?(1)

S-4

須 惠 器	甕、坏
土 師 器	坏a、坏d、坏c?、甕 焼塩壺

S-5

須 惠 器	坏a、坏c、蓋c、蓋3(1)、甕、壺、皿、鉢(1)
土 師 器	坏a、坏c、坏d(1)、甕a(2)、甕2、高坏、丸底坏a[1](1) 蓋c、甕2 製塩土器(1)、焼塩壺(1)
黒色土器B	片(1)
瓦	類 丸(縄目、縄目擦り消し)
土 製 品	焼土塊(1)
石 製 品	焼石?

S-6

須 惠 器	蓋3(1)、坏c(1)
土 師 器	甕a、皿a(1)
瓦	類 平(縄目)

S-7

須 惠 器	壺
土 師 器	坏a、坏d、小皿a(混入?)(1)

S-8

須 惠 器	甕、皿a
土 師 器	丸底坏? 坏a、坏d、碗?(1)
白磁	不明 片(1)
石 製 品	黒曜石(1)、白碁石?(1)

S-9

須 惠 器	坏c、蓋2、甕
土 師 器	坏a、甕(2)、碗×坏c、片(1) 焼塩壺(4)、製塩土器
黒色土器B	碗c(1)
瓦	類 平(ハケ目)(1)
土 製 品	焼土塊(5)

S-10

須 惠 器	坏c②、皿a(1)、壺(4)、甕、円面硯(1)、甕底部、蓋3 小壺(2)、鉢?
土 師 器	坏a[4](1)、坏c、坏d、皿a、碗c2[1](4)、甕(8)、高坏 短頸壺(1)、坏(5) 焼塩壺(3)、製塩土器(6)
黒色土器A	碗c(4)
瓦	類 平(縄目)

S-11

須 惠 器	坏c、蓋2、甕、壺
土 師 器	蓋3、甕、坏 焼塩壺

S-12

須 惠 器	蓋4、皿a
土 師 器	丸底坏[1](1)、坏?、甕
黒色土器B	片

S-13

須 惠 器	坏c、蓋3、坏×皿a、甕×壺
土 師 器	甕、皿? 焼塩壺

S-14

須 惠 器	坏c(3)、高坏(1)、壺、甕
土 師 器	甕 焼塩壺
土 製 品	焼土塊(1)

S-15

須 惠 器	壺、鉢(2)、坏(1)、皿a、坏c、蓋c(1)
土 師 器	碗c(1)、坏a、甕、蓋3 焼塩壺
黒色土器A	碗c(1)
瓦	類 平(縄)
金属製品	刀子
石 製 品	焼石

S-16

須 惠 器	坏c
土 師 器	坏a(2) 製塩土器
黒色土器B	碗c(1)
瓦	類 平(縄)

S-17

須 惠 器	甕×壺
土 師 器	小皿a

S-18

須 惠 器	蓋c
土 師 器	坏c、碗c 焼塩壺

## S-19

須惠器	坏a、坏c、蓋3、壺×甕
土師器	坏c、坏d 焼塩壺

## S-20

須惠器	坏c[2](2)、蓋c3(4)、皿a[2](1)、甕(2)、壺(4)、高坏[1] 蓋b(1)、蓋3(2)
土師器	坏c、蓋3、坏d、甕(3)、大鉢(1)、高坏(1)、片(1) 焼塩壺[3](254)、製塩土器
瓦類	平(縄目)、丸(スリ消し)
石製品	砥石[1]
土製品	焼土塊(1)

## S-21

須惠器	坏、蓋3、甕×壺
土師器	坏c、小皿a?、碗c

## S-22

須惠器	坏、壺
土師器	坏a、坏c、甕
黒色土器B	片(1)
越州窯系青磁	碗 1(1)

## S-23

須惠器	坏c、蓋、甕、壺
土師器	坏a、甕、皿?(1)

## S-24

須惠器	鉢、壺×甕
土師器	坏a、坏d、坏×碗
緑釉陶器	小碗(1)(S-1と同一個体と思われる)
瓦類	平(縄目)

## S-25

須惠器	坏c(1)、皿a(1)、坏a(1)、壺、甕 蓋3
土師器	坏c(3)、蓋3、坏a(4)、坏d(17)、蓋c、甕、高坏、碗(4) 皿a(8)、坏×皿(8)、小壺(1)、片(3) 焼塩壺
黒色土器A	碗?(1)
瓦類	平(縄目)、丸(縄目)

## S-26

須惠器	坏c、皿
土師器	坏、甕
龍泉窯系青磁	碗 1-5(1)
瓦類	平(格子)

## S-27

須惠器	甕、蓋3
土師器	小皿a、丸底坏a(1)
瓦類	平(縄)

## S-28

須惠器	坏a、蓋c
土師器	坏a、甕、片(1) 焼塩壺(2)
瓦類	平(縄)

## S-29

土師器	丸底坏a、片
-----	--------

## S-30

須惠器	坏a[2](1)、坏c[1]、皿a(3)、蓋c、蓋3、甕、壺(2)
土師器	坏a、坏c(1)、皿a、蓋3、坏d(墨書)(1)、甕(3)、蓋b(1) 焼塩壺(11)、製塩土器
瓦類	丸(縄目)、平(縄目)
土製品	焼土塊(1)
石製品	焼石

## S-31

須惠器	蓋3
土師器	小皿a(ヘラ)、坏×碗、片

## S-32

須惠器	甕
土師器	坏a、蓋c、甕
瓦類	片(縄目)

## S-33

須惠器	坏c、坏
土師器	坏a、坏c

## S-34

須惠器	片(1)
土師器	甕、片
土製品	焼土塊(1)

## S-35上層

須惠器	坏、甕
土師器	小皿a(ヘラ)[2]、丸底坏(2)、甕、片
白磁	碗 1-4×XI(1)
瓦類	軒丸(1)、平(縄目、格子)

## S-35中層

須惠器	甕、壺、坏c、蓋3
土師器	丸底坏a(2)、小皿a[4](6)、甕、蓋4、坏×碗c、坏c
瓦器	碗?④
黒色土器A	碗[1](2)
黒色土器B	片(5)
越州窯系青磁	碗 II-3(1)
白磁	碗 V-1?(1) 皿 片(1)
灰釉陶器	甕?(1)
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器(1)
瓦類	平(斜格子)
石製品	石鍋、安山岩(1)

## S-35下層

須惠器	甕
土師器	坏a
黒色土器A	碗
瓦類	丸(格子)
土製品	瓦玉?(1)

## S-35最下層

土師器	甕、坏
-----	-----

## S-36

須惠器	壺
土師器	坏×碗c、甕

## S-37

須惠器	坏a×皿a
土師器	碗c、甕、坏a×皿a

## S-38

須 惠 器	片
土 師 器	坏a、小皿a
黒色土器 B	碗c

## S-39

須 惠 器	蓋、坏、甕×壺
土 師 器	坏、蓋4、甕
黒色土器 B	碗?
瓦 類	平(縄)

## S-40上層

須 惠 器	大甕、壺b、壺、坏c、坏a、甕(1)
土 師 器	甕、坏c、碗c(3)、坏a(3)、大皿c×大碗c(1)、蓋b 小皿、丸底坏?
黒色土器 A	碗c(1)
黒色土器 B	碗c(1)
越州窯系青磁	その他 水注×壺(1)
緑釉陶器	皿(2)、片(1)
瓦 類	平(斜格子、文字(1)、二重格子、スリ消し、縄目) 丸(文字(1)、斜格子)
石 製 品	石鍋(2)(S-35中層と接合)

## S-40下層

須 惠 器	甕、壺(1)、蓋2、蓋3、坏c、皿a
土 師 器	坏a(6)(1)、皿c(2)、坏c、碗c(2)、甕、鍋の脚
黒色土器 A	碗c(1)、甕?(1)
黒色土器 B	碗c(1)
越州窯系青磁	碗 1-2aウ(1)、1-2(1)、1(1)
白 磁	不明 片(1)
緑釉陶器	片(1)
瓦 類	平(斜格子、縄目)
石 製 品	滑石製品(2)

## S-41

須 惠 器	片
土 師 器	坏、甕
緑釉陶器	片(1)
石 製 品	石鍋

## S-42

土 師 器	片
-------	---

## S-43

須 惠 器	片(2)
土 師 器	坏a、坏d、甕 焼塩壺(1)、製塩土器(1)

## S-44

須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	坏a
緑釉陶器	片(1)
石 製 品	方形焼石

## S-45上層

須 惠 器	坏c、蓋3、蓋4、蓋c、壺(1)、甕(1)
土 師 器	坏a(1)、碗c、中碗c②、丸底坏a(1)、小皿a(1)、鍋? 托?(2)、蓋?(1)、甕 焼塩壺(1)、製塩土器
黒色土器 A	碗c
黒色土器 B	碗c(1)
越州窯系青磁	碗 1-2ウ?(1)、II(1) その他 把手II系(1)

緑釉陶器	片(2)
中国陶器	片?(2)
瓦 類	丸(斜格子、文字(1))、平(文字、斜格子、縄目)

## S-45下層

須 惠 器	坏a、坏c、蓋c、蓋3、皿a、高坏(小)、壺(1)、甕(3)
土 師 器	坏a(穿孔あり)(1)、小皿a、碗c③②、丸底坏④、坏d 焼塩壺(1)
黒色土器 A	碗、鉢?(1)
黒色土器 B	碗
越州窯系青磁	碗 II(1)
長沙窯系青磁	碗 片(1)
緑釉陶器	片(2)
瓦 類	平(斜格子、縄目、文字)、丸(斜格子、文字①)
石 製 品	石鍋(3)

## S-46

須 惠 器	片
土 師 器	片

## S-47

須 惠 器	坏、甕
土 師 器	甕、坏c、坏、蓋3
瓦 類	平(縄)

## S-48

須 惠 器	坏c(1)、蓋3、壺×器台(1)(S-5と接合)、脚(1)
土 師 器	坏、甕
瓦 類	平(縄目)

## S-49

須 惠 器	坏c(1)、蓋c3(1)、甕、壺、高坏、鉢×甕(2)
土 師 器	坏c、坏、甕(1) 焼塩壺(18)
瓦 類	平(縄目)
土 製 品	焼土塊(1)

## S-50

須 惠 器	蓋3、坏c、甕(1)、壺、平瓶
土 師 器	小皿a(へら)(5)(10)、小皿c(1)、小皿a2(1)(2)、器台 碗c(2)(4)、丸底坏c(1)、坏a(1)、中碗a(1)(2)、丸底坏a 甕、高坏 焼塩壺
瓦 器	碗
黒色土器 A	碗c(3)、鉢
黒色土器 B	碗c(3)
越州窯系青磁	碗 1-2aア②
白 磁	碗 XI-5?×IV(2)、II(1)、IV-b(1) 皿 XI-7(1)
緑釉陶器	片(3)
灰釉陶器	片(1)
中国陶器	片?(1)
瓦 類	軒平(老司)(1)、軒丸(1)、丸(文字、格子) 平(斜格子、格子、二重格子(文字))、埴(1)
石 製 品	硯(1)、石鍋(1)、片(2)

## S-51

須 惠 器	蓋2、蓋3、蓋c、坏c
土 師 器	丸底坏×碗、坏(外黒)(1)、蓋3
土 製 品	不明(1)

## S-52

須 惠 器	甕、皿
土 師 器	坏、小皿a(へら)
黒色土器 B	碗

## S-53

須 惠 器	坏c、坏、蓋1、蓋3、皿a、壺
土 師 器	坏a、坏c、蓋c、甕
	焼塩壺(3)

## S-54

須 惠 器	甕、壺、坏c
土 師 器	坏、甕
	焼塩壺(2)、製塩土器(1)

## S-55

須 惠 器	坏a、坏c、皿a、蓋c、甕、蓋3、壺、高坏
土 師 器	椀(1)、丸底坏a(4)、坏a(搬入あり)㉔(1)、甕、小皿a(7) 椀c㉔、皿×椀(1)、甌、坏c、大坏c、片(2)
黒色土器A	椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀 II(1)、II-2c(1)
	その他 壺(1)
白 磁	椀 XI?(1)、XI-4(1)、III×IV(1) 皿 XI?(1)
灰 釉 陶 器	椀(1)
中 国 陶 器	盤III×四耳壺E'c?(広東)(1)(S-100と同一個体)
瓦 類	平(縄目、格子、文字(1))、丸
土 製 品	羽口(1)(S-60と接合)

## S-56

須 惠 器	坏c(1)、片(2)
土 師 器	片(2)
	焼塩壺(1)

## S-57

須 惠 器	坏c、片
土 師 器	坏c、小皿a
	焼塩壺(1)

## S-58

須 惠 器	甕
土 師 器	片
黒色土器B	椀c

## S-59

須 惠 器	甕
土 師 器	片
瓦 類	平(斜格子)

## S-60

須 惠 器	坏c、蓋c、蓋1、蓋3、皿a
土 師 器	丸底坏a(2)、坏a[1]、皿a、皿c[1]、椀c[1]、椀?(2)、甕 小皿a[2](5)(豊前タイプあり)
黒色土器B	椀c(2)、片(1)
灰 釉 陶 器	椀(1)
瓦 類	平(斜格子)、丸(格子)
土 製 品	羽口(S-55と接合)
石 製 品	滑石

## S-61

須 惠 器	坏、壺
土 師 器	大椀c
	焼塩壺(1)

## S-62

須 惠 器	壺、坏
土 師 器	甕、片
土 製 品	土錘[1]

## S-63

須 惠 器	蓋4、片
土 師 器	片

## S-64

須 惠 器	蓋3、蓋、甕
土 師 器	甕、鉢?

## S-65

須 惠 器	坏c、蓋c、蓋3、鉢、短頸壺、壺(1)、甕(1)
土 師 器	坏a(1)、坏c(1)、坏d×皿a? 椀c、高坏、甕、椀(2) 柱状高台椀[2](10)(搬入) 焼塩壺
黒色土器A	椀c(1)
黒色土器B	椀、皿
越州窯系青磁	椀 I-2㉔、I(1)
白 磁	椀 I-1×2(1)
緑 釉 陶 器	椀(1)
瓦 類	丸、平(縄目、斜格子、文字(1))
土 製 品	カマド

## S-66

須 惠 器	壺、片
土 師 器	坏
瓦 器	椀c(1)
白 磁	椀 IV?(1)、IV2(1)

## S-67

須 惠 器	壺×平瓶、甕
土 師 器	坏

## S-68

須 惠 器	坏c、蓋c、小壺、壺
土 師 器	丸底坏a(1)、甕
黒色土器B	椀
白 磁	皿~(1)
瓦 類	平(格子)、丸(格子)
石 製 品	滑石

## S-69

須 惠 器	甕、片
土 師 器	丸底坏、片
	焼塩壺

## S-70

須 惠 器	坏a、坏c、皿a、蓋c3、蓋4、鉢a(1)、壺、甕(2) 大蓋
土 師 器	小皿a[1](1)、小皿a2、丸底坏a③、椀c②(1)、鉢(1) 坏a(糸・搬入品)[1]、蓋c、皿a、甕 焼塩壺(9)
黒色土器A	椀、甕×鉢(1)
黒色土器B	片
越州窯系青磁	椀 II(1)
白 磁	椀 I-2(1)
灰 釉 陶 器	壺(1)
瓦 類	丸(二重格子)、平(斜格子、縄目)
石 製 品	砥石(1)

## S-71

須 惠 器	甕、壺、坏c
土 師 器	坏a、丸底坏c(1)
瓦 類	平(格子、斜格子)

## S-72

須 惠 器	坏c、蓋3、甕
土 師 器	坏a、坏c、碗c、器台、甕 燒塩壺
黑色土器A	片
瓦 類	平(格子)

## S-73

須 惠 器	坏c、蓋3、高坏
土 師 器	小皿a、坏a?、蓋4、甕
黑色土器A	片
瓦 類	平(格子、縄目)

## S-74上層

須 惠 器	蓋4、蓋c、坏c、坏、皿、鉢(2)、甕
土 師 器	坏a[1]、小皿a(1)、碗、甕(1)、片(2) 燒塩壺、製塩土器(玄海灘式)(2)
黑色土器A	碗
白 磁	碗 V?×XII×XIII?(1)
瓦 質 土 器	鉢?(1)
瓦 類	平(格子)
石 製 品	黒曜石(1)

## S-74下層

須 惠 器	蓋3、坏c、甕
土 師 器	坏a(2)、坏(ヘラ)、甕(1) 燒塩壺、製塩土器
瓦 類	平(縄目、格子)、丸

## S-75

須 惠 器	坏c、坏、蓋c、蓋3、蓋4、大坏c(1)、高坏、壺b、甕
土 師 器	小皿a[2](6)、丸底坏a[1](1)、坏a、碗c、甕、大甕
黑色土器A	碗②
黑色土器B	碗
白 磁	碗 XI?(1)(S-100と接合)、II(1) 皿 IV-VI(1)
緑釉陶器	皿(1)
灰釉陶器	碗(1)
瓦 類	平(格子、斜格子、縄目)、片(2)
石 製 品	安山岩?(1)

## S-76

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	坏c(1)、甕、坏(1)
瓦 類	平(格子、縄目)
土 製 品	埴塼?

## S-77

須 惠 器	壺×甕
土 師 器	坏、甕、鉢?
瓦 類	平(斜格子)

## S-78

須 惠 器	坏、高坏、壺、蓋2、蓋3、甕
土 師 器	大坏c(1)、甕、把手(1) 燒塩壺(3)

## S-79

須 惠 器	甕×壺
土 師 器	碗、坏
瓦 類	平(縄目)、片

## S-80

須 惠 器	坏c、蓋c、蓋3、壺b? 甕
土 師 器	坏a(1)、坏d、小皿a[2](3)、碗c、丸底坏a[4] 高坏×器台、甕 燒塩壺(2)
黑色土器A	碗
黑色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 III-b②
白 磁	碗 XI(1)
瓦 類	平(格子、斜格子、縄目)

## S-81

土 師 器	片
-------	---

## S-82

須 惠 器	坏c、蓋c4、蓋3、甕、壺、甕、短頸壺(1) 高坏
土 師 器	坏a[1](3)、碗c、甕、高台(1) 燒塩壺(1)
黑色土器A	碗、甕
越州窯系青磁	碗 III-b②
	その他 片(3)
瓦 類	平(格子、縄目)、丸(格子)
石 製 品	基石?(1)

## S-83

須 惠 器	坏c、蓋c、蓋1、壺
土 師 器	坏a、蓋3、甕、脚付碗
黑色土器A	片

## S-84

須 惠 器	坏a、坏c、蓋2、蓋c3、壺、甕
土 師 器	皿a、大坏c、蓋2、坏a、坏c、丸底坏(1)、甕
黑色土器A	碗
灰釉陶器	片(1)
瓦 類	片(縄目)
石 製 品	基石?(1)
土 製 品	焼土塊(1)

## S-85

須 惠 器	坏、蓋c、蓋2、壺、甕
土 師 器	丸底坏a[2](3)、小皿a[3]、皿a、坏a、甕、高坏
黑色土器A	碗c
黑色土器B	碗c[1]
白 磁	碗 IV(1)、XI?(1)
瓦 類	平(斜格子)、丸(斜格子、縄目)
石 製 品	石鍋(1)

## S-86

須 惠 器	蓋2、甕、坏
土 師 器	坏c、甕、坏×丸底坏
瓦 類	平(格子)

## S-87

須 惠 器	坏
土 師 器	坏、甕
黑色土器A	片
黑色土器B	片

## S-88

須惠器	坏c、甕
土師器	坏×皿、甕

## S-89

須惠器	坏、蓋、甕
土師器	坏a、坏×碗、甕
黑色土器A	碗

## S-90

須惠器	坏c、蓋c、蓋2、蓋1、蓋4、高坏、壺b、甕 皿×坏a
土師器	小皿a[1](2)、坏a、坏d、脚付碗、甕 烧塩壺(4)
黑色土器A	碗
越州窯系青磁	碗 大碗I-2(1)
白磁	I-1×4(1)、XI-5(1)、IV?(1)
緑釉陶器	碗(1)
瓦類	埴(1)、平(スリ消し、斜格子、縄目)、丸(スリ消し) 軒平(1)

## S-90a

須惠器	坏c、蓋c、蓋c4、蓋3、蓋2、皿a×坏a、甕、壺
土師器	坏c、碗c、坏a、蓋4、器台 烧塩壺(2)
黑色土器A	碗c
瓦類	平(縄目、斜格子)、丸(文字?)(1)

## S-90b

須惠器	坏c、蓋4、甕、高坏、壺
土師器	坏a、碗c、蓋、甕
瓦類	丸

## S-90c

須惠器	坏a、坏c、坏、蓋壺a、蓋c、蓋1、甕、皿?、壺
土師器	坏c、丸底坏a(1)
長沙窯系青磁	片(1)
瓦類	平(斜格子)

## S-91

土師器	片
越州窯系青磁	碗 II(1)

## S-92

須惠器	蓋
土師器	坏d? 片

## S-93

須惠器	皿
土師器	小皿、坏、甕
黑色土器A	片

## S-94

須惠器	甕
土師器	甕 烧塩壺

## S-95

須惠器	坏c、蓋c、蓋4、碗、高坏、甕、坏×皿a
土師器	坏a(1)、坏c、皿、甕 烧塩壺(1)
瓦類	平(斜格子、二重格子(1))

## S-96

須惠器	甕
土師器	丸底坏a、小皿

## S-97

須惠器	甕
土師器	丸底坏、小皿a

## S-98

須惠器	甕
土師器	坏a×皿a、甕、丸底坏? 烧塩壺(1)

## S-99

須惠器	片
土師器	片

## S-100

須惠器	坏c、蓋c、壺、甕
土師器	坏a、小皿a[3](5)、碗c、丸底坏a[6]、器台(1)、甕
瓦類	碗?(1)
黑色土器A	碗c[1]
越州窯系青磁	碗 I-1a(1)
白磁	碗 II-1×II-3 ②、IV-1a (3) ②、IV(3)、片(3) 皿 II-1B(1)、II?(1)
灰釉陶器	碗?(1)
瓦類	平(斜格子、格子、縄目)、丸(格子)
石製品	滑石鍋?
土製品	把手状土製品

## S-100最上層

須惠器	坏c、蓋c、蓋3、甕、皿a、壺、高坏
土師器	小皿a[6](4)、丸底坏、坏a、坏d、碗c(1) 烧塩壺(1)
越州窯系青磁	碗 I-b(1)
白磁	碗 IV(1)、V-2(1)、V-1?(1)、片(1) その他 水注II系(1) 不明 片(2)
中国陶器	四耳壺(2)
瓦類	平(縄目、文字(1))、丸(斜格子)、片

## S-100a

須惠器	皿a、坏、壺、甕
土師器	丸底坏a[1]、小皿a[5](1)、器台、坏(1)、片(2) 製塩土器
緑釉陶器	碗(1)
瓦類	丸(格子)、平(斜格子)

## S-100c

須惠器	坏a、坏c、坏、蓋c、蓋3、甕、壺
土師器	丸底坏a[2](3)、小皿a[5](4)、碗c⑩、坏c、甕、器台
黑色土器A	碗
越州窯系青磁	碗 越×高麗(1)
白磁	碗 II-1②、II-5(1)、V-2 ②(1)、XI-5(1) IV~VI(1)、V×VI(1)
瓦類	皿 II×III 平(格子、縄目)、丸(格子)、鬼瓦

## S-100d

須 惠 器	坏c、坏、壺、甕
土 師 器	小皿a(3)(4)、丸底坏、坏c×碗c、甕、片(1)
黑色土器 A	片
黑色土器 B	碗c(1)、片(2)
白 磁	碗 XI?(1)
中国陶器	四耳壺(2)(S-100最上層と接合)
瓦 類	平(格子)、丸

## S-100e

須 惠 器	蓋、甕
土 師 器	小皿a(1)、丸底坏、坏a、甕
黑色土器 B	片
白 磁	碗 XI?(1)(S-75と接合)
中国陶器	甕(1)
瓦 類	平(格子、縄目)

## S-101

須 惠 器	片
土 師 器	丸底坏、碗×坏c
白 磁	碗 IV?(1)、I×XI(1)
石 製 品	石鍋(2)

## S-102

須 惠 器	片
土 師 器	碗×坏c、甕、片

## S-103

須 惠 器	壺、甕
土 師 器	小皿a、壺、甕
土 製 品	焼土塊

## S-104

須 惠 器	甕
土 師 器	丸底坏、甕、脚付皿?(1)、小皿a(1)

## S-105

須 惠 器	坏c、甕、壺
土 師 器	丸底坏、片(ヘラ)
瓦 器	碗(楠葉)③
龍泉窯系青磁	碗 I-5b(1)
白 磁	碗 IV(1)、I-I(1)
	皿 IV×VI(1)
瓦 類	平(縄目、片)

## S-106

土 師 器	片
瓦 類	片

## S-107

須 惠 器	蓋4
土 師 器	坏c、甕、片 烧塩壺

## S-108

須 惠 器	坏c、蓋、甕
土 師 器	碗c、甕、片

## S-109

須 惠 器	坏?
土 師 器	蓋c、甕、片

## S-110

須 惠 器	坏a、坏c、蓋c、蓋3、蓋4、壺b、壺(1)、甕(1)
土 師 器	皿a(1)、坏c、坏d(3)、坏a(1) 製塩土器、烧塩壺(7)
黑色土器 A	片
黑色土器 B	片
越州窯系青磁	その他 壺(1)
白 磁	碗 I-I(1)
瓦 類	平(格子、縄目)
石 製 品	チャート?(1)

## S-111

須 惠 器	坏c、甕
土 師 器	坏、甕×壺
白 磁	碗 II(1)

## S-112

須 惠 器	蓋4、蓋、壺、甕、鉢?(1)
土 師 器	坏(糸・搬入?)、壺、甕、鉢
黑色土器 A	碗、片
越州窯系青磁	碗 II?(1)
白 磁	碗 I-2(1)
瓦 類	平
土 製 品	焼土塊

## S-113

須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a、坏 烧塩壺(1)

## S-114

須 惠 器	坏a、甕
土 師 器	坏、甕

## S-115

須 惠 器	坏a(1)、坏c(5)、蓋3(1)、蓋4(1)、鉢b(1)、鉢、皿a(1) 甕、壺(1)、碗×坏(1)
土 師 器	皿a(1)(1)、坏c(1)、坏d、碗、蓋c、蓋3、高坏、壺(1) 坏(1)、片(1) 烧塩壺(1)(6)

## S-116

須 惠 器	坏c、碗、蓋c、蓋2、甕、壺
土 師 器	坏a(1)、碗c、甕 烧塩壺(1)
黑色土器 A	碗
瓦 類	平(格子、縄目)
石 製 品	石鍋(1)、烧石(1)
土 製 品	鍾(1)、羽口?(1)

## S-117

須 惠 器	坏c、蓋4
土 師 器	坏a、甕
瓦 類	片(縄目)
石 製 品	サヌカイト(1)

## S-118

須 惠 器	甕
土 師 器	坏、甕
黑色土器 A	片

## S-119

須惠器	甕、坏?
土師器	甕、坏?

## S-120

土師器	皿a、甕
-----	------

## S-121

須惠器	蓋、甕、碗c×坏c(1)
土師器	甕

## S-122

須惠器	坏a(2)、坏c(10)、大坏c(2)、蓋c4[1]、蓋3(7)、蓋1(2) 大蓋、鉢?(1)、壺b、短頸壺(1)、高坏③、耳付壺(1) 壺(1)、甕×甕(1)、蓋c②、甕d(1)、大皿×高坏(1) 皿a(2)
土師器	小坏c[1]、大皿a⑨、高坏、蓋、坏d、甕、壺(1) 皿b(1) 烧塩壺(1)
弥生土器	片(中期)
瓦類	丸(縄目)
石製品	滑石製紡錘車[1]

## S-123

須惠器	蓋c、坏、壺
土師器	蓋4、甕

## S-124

須惠器	坏、蓋2
土師器	片

## S-125

須惠器	坏c、蓋c、蓋3、甕、壺
土師器	小皿a[3]、丸底坏a[2](3)、器台、高坏、甕
黑色土器A	碗c[1]、片(2)
瓦類	丸、平(斜格子、縄目)

## S-126

須惠器	片
土師器	片
石製品	黒曜石(1)

## S-127

須惠器	蓋3、坏c、甕
土師器	片

## S-128

須惠器	片
土師器	皿a? 片

## S-129

須惠器	甕
土師器	甕

## S-130

須惠器	坏c、蓋c、蓋4、壺蓋、甕、壺
土師器	坏c、皿a、碗c、甕
瓦類	平(斜格子、縄目)

## S-131

須惠器	坏、壺
土師器	皿×坏d、甕
瓦類	平(スリ消し)

## S-132

須惠器	坏c、蓋、鉢(1)、高坏、甕
土師器	坏a(2)、坏c、坏、大坏c、高坏、甕 烧塩壺(2)
瓦類	片(格子、縄目)

## S-133

須惠器	片
土師器	片

## S-135

須惠器	蓋c、蓋c2、蓋3、蓋4、皿a(1)、坏c、高坏、甕、壺(1) 片(1)
土師器	坏a(1)、坏c、坏d、碗c、皿a(1)、小壺(1)、高坏、甕 鉢?(1) 烧塩壺(2)
黑色土器A	碗
越州窯系青磁	碗 II-3a(1)、碗I-4×5×皿I-2(1)
緑釉陶器	碗×皿(1)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	平(縄目、斜格子、格子)、丸(縄目、斜格子、格子)

## S-136

須惠器	甕、片
土師器	甕、片

## S-140

須惠器	坏a②、坏c、蓋2(1)、長頸壺、甕
土師器	甕 烧塩壺(1)

## 暗黒茶色土

須惠器	蓋1(1)、蓋2、蓋3、蓋4、蓋c、坏c、高坏、壺(1) 甕?、鉢b(2)、大甕、甕(1)、小壺(1)、鉢(1)
土師器	坏a(1)(搬入品)、坏c、坏d、丸底坏[1]、蓋3、碗c[1] 大坏? 高坏、器台、甕(1)、皿×高坏(暗文あり)(1) 小皿a[1](1)、壺 製塩土器、烧塩壺(17)
瓦器	片(1)(搬入)
黑色土器A	皿、片
黑色土器B	碗、片
越州窯系青磁	碗 I②(1)、I-2b(1)、II-f(1)、大碗I(1) その他 壺?I(1)、越×高麗(1)
白磁	碗 II-1(1)、II? (1)、XI-4(1)、IV-1c×2c(2) III?(1)、IV-1(1)、小碗XI×皿II系(1) 小碗?IV(1)、片(1) 皿 VI(1)、VII-2a?②
緑釉陶器	片②、(1)
中国陶器	四耳壺(1)
瓦類	平[格子、斜格子、縄目、文字(4)]、丸(縄目、片)
土製品	土錘[1]、羽口(2)
石製品	石鍋(6)

## 淡灰色砂質土

須惠器	蓋2(1)、蓋3(2)、蓋4、蓋c1(1)、蓋c、坏c[2](2)、鉢(2) 高坏、長頸壺、皿a、甕、蓋1(1)、片(2)
土師器	坏d、坏(1)、蓋3、小皿a(1)、皿a、甕(1)、坏a③脚(1) 烧塩壺⑤(20)
瓦類	片

黑茶色土

須惠器	坏c、大蓋c、壺、甕
土師器	丸底坏a[1](3)、小皿a(9)、蓋3、小皿c、坏×碗c 蓋?(1)、甕 焼塩壺(3)
黑色土器A	碗
黑色土器B	碗
越州窯系青磁	碗 I(1)
灰釉陶器	片(1)
瓦類	平(細目)

出土地点不明

須惠器	蓋3、蓋4、蓋c、坏、壺、甕
土師器	小皿a、丸底坏、碗c
黑色土器B	碗
白磁	碗 IV(1)
瓦類	平(斜格子)

## 付 編

### 大宰府条坊跡抽出試料残存脂肪分析

中野寛子・明瀬雅子・長田正宏 (㈱ズコーシャ総合科学研究所)

中野益男 (帯広畜産大学生物資源化学科)

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解していく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと<sup>1</sup>、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子<sup>2</sup>、約5千年前のハーゼルナッツ種子<sup>3</sup>に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した<sup>4</sup>。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のはコレステロール、植物性のはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って、出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

このような出土遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて大宰府条坊跡から出土した遺構および遺物の性格を解明

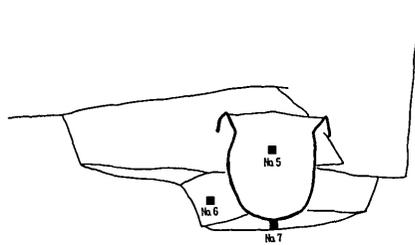


図1 89SK120内での土壌試料採取地点

しようとした。

## 1. 土壌試料

大宰府条坊跡第89次調査で検出された土壌は8世紀から12世紀にかけてのものと推定されている。土壌試料はこのうち土壌89SK120内から採取した。試料採取地点を図1に示す。試料No. 5は土壌89SK120内の甕内から、No. 6は掘り方から、No. 7は甕下部掘り方から各々埋土を採取した。大宰府条坊跡第89次調査の試料番号は前回の報告書からの通し番号である<sup>5</sup>。

## 2. 残存脂肪の抽出

土壌試料91～262gに3倍量のクロロホルム—メタノール（2：1）混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム—メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は0.0009～0.0016%、平均0.0013%であった。この値は前回分析した大宰府条坊跡の平均抽出率0.0022%や前田遺跡の0.0016%と同率であり、全国各地の遺跡から出土した土壌試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂肪から構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド）、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

## 3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪に5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分離し、ヘキサン—エチルエー

表1 土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No.	採取地点	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
大宰府条坊跡遺跡				
5	条坊89次S-120①	179.7	1.6	0.0009
6	" 20②	236.9	3.7	0.0016
7	" 20③	203.7	2.9	0.0014

テル酢酸 (80:30:1) またはヘキサン—エーテル (85:15) を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した<sup>6</sup>。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2に示す。残存脂肪から11種類の脂肪酸を検出した。このうちパルチミン酸 (C16:0)、ステアリン酸 (C18:0)、オレイン酸 (C18:1)、リノール酸 (C18:2)、アラキジン酸 (C20:0)、エイコサモノエン酸 (C20:1)、ベヘン酸 (C22:0)、ドコサモノエン酸 (エルシン酸 C22:1)、リグノセリン酸 (C24:0)、ネルボン酸 (C24:1) の10種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

一般に考古遺物にはパルチミン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解しパルチミン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。またオレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪では特に根、茎、種子に多く分布する。しかし、一般的には動物性脂肪の方が分布割合が高い。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸などの高級脂肪酸は通常の遺跡出土土壌中で、それら3つの合計で4~10%くらいである。

大宰府条坊跡第89次調査では、炭素数18までの中級脂肪酸のうち主要な脂肪酸はパルチミン酸が、約41~57%分布していた。次に多いのはオレイン酸で約17~25%分布していた。炭素数20以上のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸3つの合計含量は約3~7%であった。

以上のことから、動物性脂肪か植物性脂肪かの判定までできないが、パルチミン酸とオレイン酸が主要な脂肪酸として含まれていることがわかった。

#### 4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサン—エチルエーテル—酢酸 (80:30:1) を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン—無水酢酸 (1:1) を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3に示す。残存脂肪から13~21種類のステロールを検出した。このうちコレ

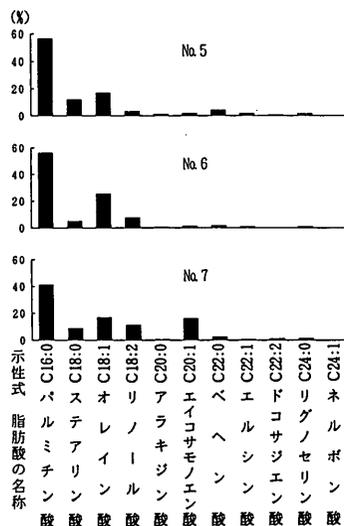


図2 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

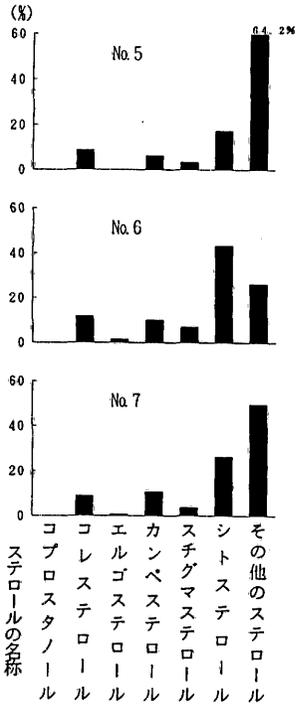


図3 試料中に残存する脂肪のステロール組成

ステロール、エルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロール、シトステロールなど7種類のステロールをガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上、土器・石器・石製品で0.8~23.5をとる<sup>7</sup>。各遺跡中での土壌試料のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。

各試料中のステロール組成を見てみると、動物由来のコレステロールが約9~12%分布していた。植物由来のシトステロールは約17~43%分布していた。堅果植物由来のカンペステロールやスチグマステロールは、カンペステロールが約6~11%、スチグマステロールが約3~7%分布していた。微生物由来のエルゴステロールは試料No. 5で検出されず、他の試料中では約1~2%分布していた。哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールは全く検出されな

かった。一方、コレステロールとシトステロールの分布比は0.3~0.5で、動物遺体の存在を示唆する0.6以上ではないが、コレステロールの分布量からしてもこれらの試料中には動物遺体が存在していた可能性がある。

### 5. 脂肪酸組成の数理解析

表2 土壌試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール/シトステロール
大宰府条坊跡遺跡 5	8.78	17.36	0.51
6	11.79	43.30	0.27
7	8.89	26.34	0.34

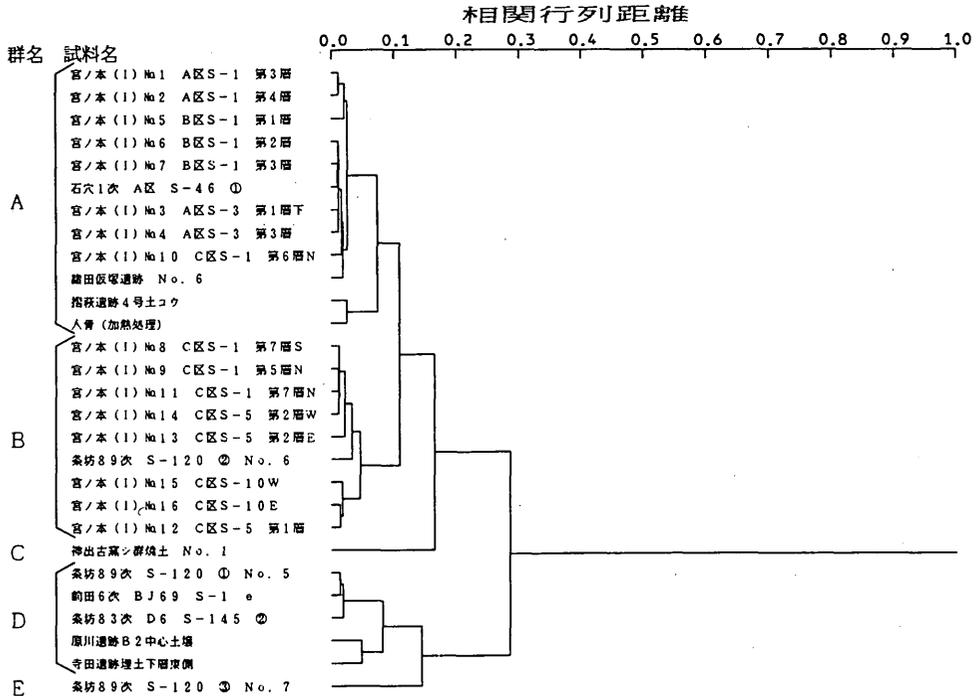


図4 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料間の類似度を調べた。同時に出土土壌を土壌墓と判定した兵庫県寺田遺跡<sup>8</sup>、出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した静岡県原川遺跡<sup>9</sup>、出土土壌を再埋葬と判定した宮城県摺菰遺跡<sup>10</sup>、出土した焼土面およびその周辺で動物遺体を焼いたと判定した兵庫県神出古窯址群<sup>11</sup>、同じ太宰府市内の遺跡で前回出土土壌を土壌墓と判定した大宰府条坊跡第83次調査、前田遺跡および出土土壌を再埋葬と判定した石穴遺跡<sup>12</sup>、宮ノ本遺跡<sup>13</sup>、同じ福岡県内の遺跡で出土土壌を再埋葬と判定した諸田飯塚遺跡<sup>14</sup>、加熱処理した人骨の試料に残存する脂肪酸の類似度とも比較した。

各試料間の脂肪酸組成の類似度をパターン間距離にして表した樹状構造図を図4に示す。図からわかるように、宮ノ本遺跡第5次調査区の試料No.1~7とNo.10は石穴遺跡、諸田飯塚遺跡、摺菰遺跡、加熱処理した人骨試料と共に相関行列距離0.1以内でA群を形成した。宮ノ本遺跡第5次調査区の試料No.8・9、試料No.11~16と大宰府条坊跡第89次調査の試料No.6は相関行列距離0.05以内でB群を形成した。神出古窯址群の試料は単独でC群を形成した。A群とB群は相関行列距離で約0.1の所にあり、非常に類似しているといえる。C群もA、B群とは相関行列距離で0.15の所にあり類似しているといえる。大宰府条坊跡第89次調査の試料No.5は前回の前田遺跡、大宰府条坊跡第83次調査の試料や、原川遺跡、寺田遺跡の試料と共に相関行列距離0.1以内でD群を形成した。大宰府条坊跡第89次調査の試料No.7は単独でE群を形成し、D群とE群は相

関行列距離0.15以内の所にあり類似していた。

以上のことから、大宰府条坊跡第89次調査の試料は、試料No. 5とNo. 7がヒト遺体を直接埋葬した土壌墓の試料と類似していることがわかった。大宰府条坊跡第89次調査の試料No. 6は宮ノ本遺跡第5次調査区の試料と同様の傾向を示した。従って、土壌89SK120内の甕はヒト遺体を埋納したものであると推測される。試料No. 6が宮ノ本遺跡第5次調査区の試料と類似しているため、土壌89SK120そのものも土壌墓なのか、甕内の脂肪の影響を受けて試料No. 7にも動物性脂肪が残存していただけなのかははっきりしない。

## 6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のパルチミン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。

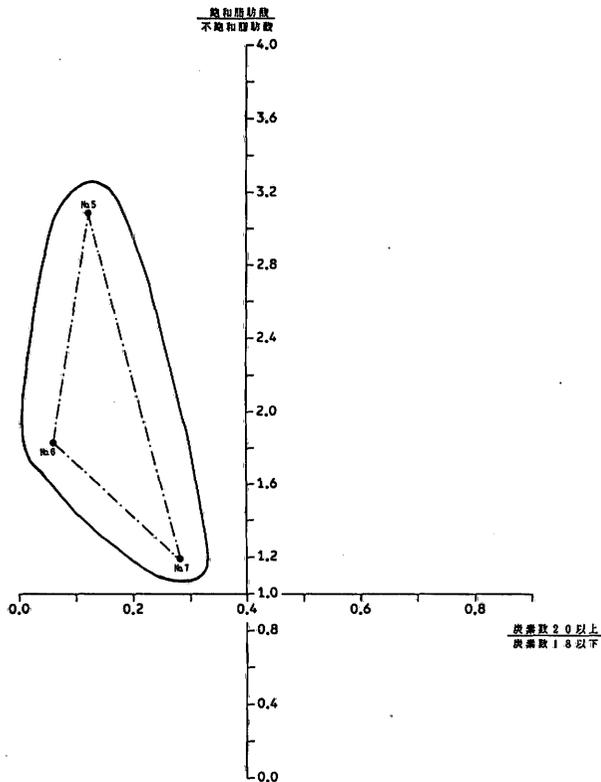


図5 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植土、第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。

土壌試料の残存脂肪から求めた相関図を図5に示す。図からわかるように、大宰府条坊跡第89次調査の試料はいずれも第2象限内に分布していた。従って、大宰府条坊跡第89次調査の試料

には動物の体脂肪や骨油に由来する脂肪が残存していた可能性がある。

## 7. 総括

大宰府条坊跡第89次調査から出土した遺構および遺物の性格を判定するために、遺構および遺物内の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪酸分析の結果、通常一般的な動植物に分布するパルチミン酸とオレイン酸が主要な脂肪酸であった。

残存する脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、大宰府条坊跡第89次調査の試料No. 6は再葬墓と判定した遺構の試料と類似していることがわかった。また試料No. 5・7はヒト遺体を直接埋葬した土壌墓と判定した遺構の試料と類似していることがわかった。

残存するステロール分析の結果、大宰府条坊跡第89次調査の試料には動物性コレステロールが残存していることがわかった。

以上の成績から、大宰府条坊跡第89次調査の土壌89 SK 120内の埋甕はヒト遺体を直接埋葬したものである可能性がある。土壌そのものについては埋甕内の影響を受けたのか、土壌本来の性格かは明確ではないが、土壌にもヒト遺体を直接埋葬した可能性がある。

1. R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle:「Food identification of samples from archaeological Sites」『Archaeo.Physika』,10巻,1979,pp260.
2. D.A.Priestley,W.C.Galinat and A.C.Leopold:「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」『Nature』,292巻,1981,pp146.
3. R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle:「Analyse fruhgeschichtlicher Gefassinhalte」『Naturwissenshaftent』,70巻,pp33.
4. 中野益男:「残存脂肪分析の現状」、『歴史公論』、第10巻(6)、1984、pp124
5. 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男:「前田遺跡抽出資料残存脂肪分析」、『未発表』(一部は「高雄地区遺跡群」、太宰府市の文化財第22集、太宰府市教育委員会、1994、pp59)、太宰府市教育委員会
6. M.Nakano and W.fischer:「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」『Hoppe-Seyler'sZ. Physiol.Chem.』,358巻,1977,pp1439.
7. 中野益男:「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」『真脇遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』、能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団、1986、pp401  
中野益男・根岸 孝・長田正宏・福島道弘・中野寛子:「へロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」、『へロカルウス遺跡』、北海道文化財研究所調査報告書、第3集、1987、pp191
8. 中野益男・福島道弘・中野寛子・長田正宏:「寺田遺跡土壌墓状遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、兵庫県芦屋市教育委員会

9. 中野益男・幅口 剛・福島道弘・中野寛子・長田正宏：「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」、『川原遺跡Ⅰ－昭和62年度袋井バイパス（掛川地区）埋蔵文化財発掘調査報告書』、第17集、(財)静岡県埋蔵文化財研究所、1988、pp79
10. 中野益男・福島道弘・中野寛子・長田正宏：「摺菰遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、宮城県教育委員会
11. 中野益男・福島道弘・中野寛子・長田正宏：「神出古窯地群遺構の焼土に残存する脂肪の分析」、『未発表』、兵庫県多司郡妙見山麓遺跡調査会
12. 中野益男・明瀬雅子・長田正宏・中野益男：「前田遺跡抽出資料残存脂肪分析」、『未発表』（一部は『高雄地区遺跡群』、太宰府市の文化財第22集、太宰府市教育委員会、1994、pp59）、太宰府市教育委員会
13. 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男：「宮ノ本遺跡抽出資料残存脂肪分析」、『未発表』、太宰府市教育委員会
14. 中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男：「諸田仮塚遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」、『未発表』、福岡県教育庁

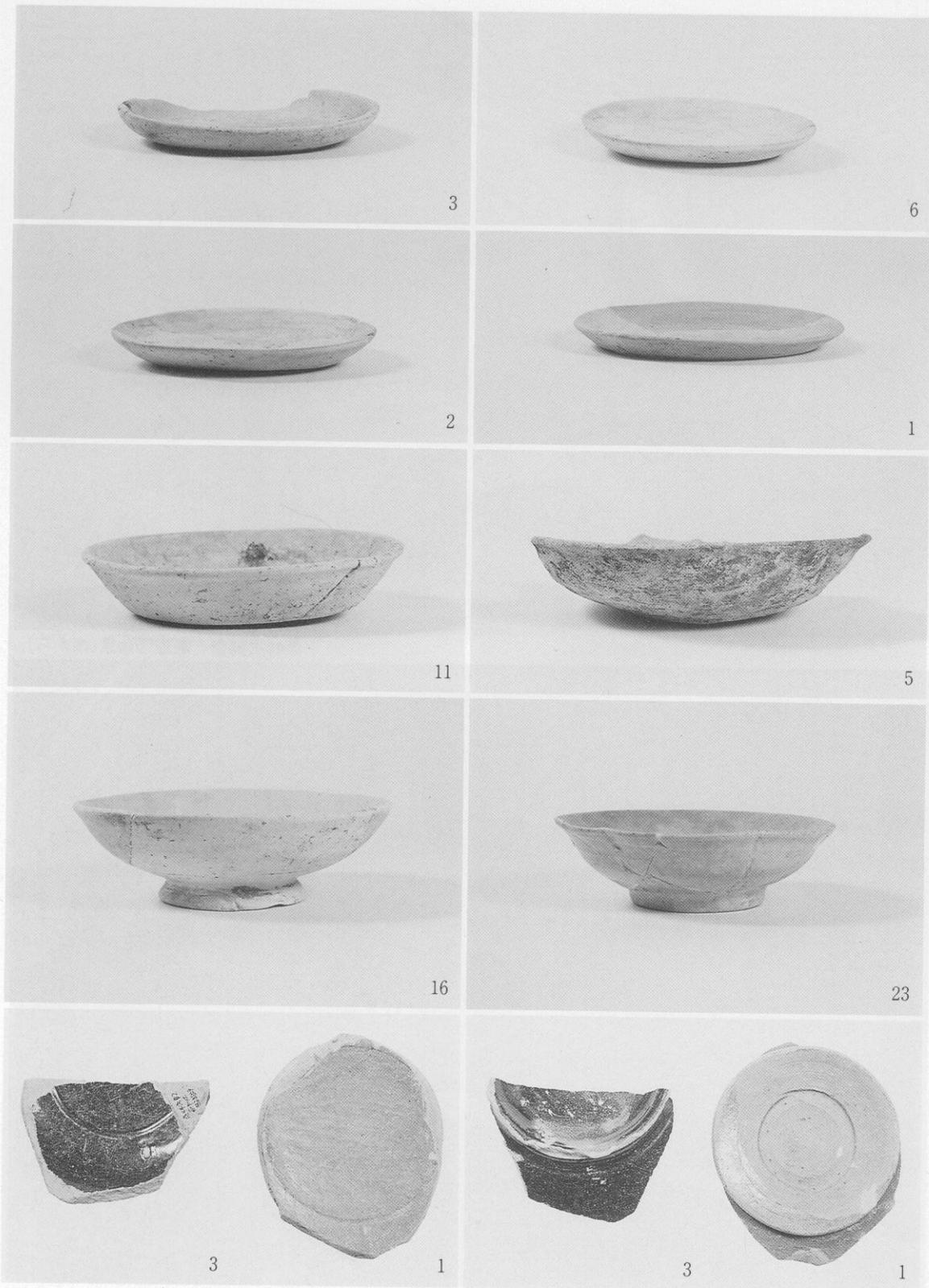
# 写 真 图 版



第44次調査 調査区全景(南から)



第44次調査 調査区全景(東から)



44 SE050 · 茶褐色土 · 表土出土土器 · 陶磁器

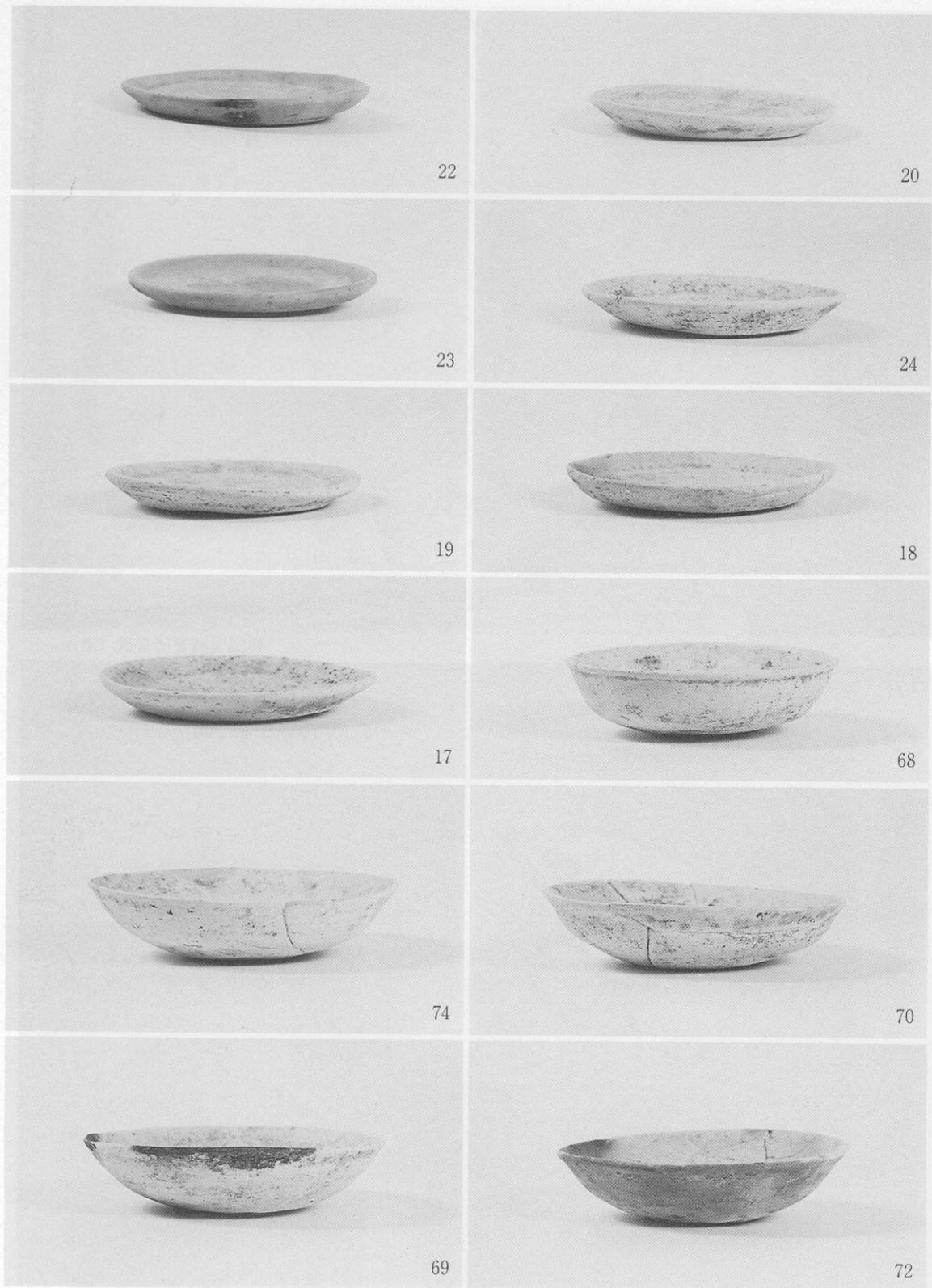


第65次調査区全景（南から）



65 SX 135 甕検出状況（北から）

PL. 4 第65次



65 SX 001



93

65 SE 040



2

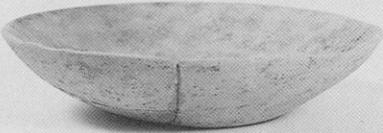


94



4

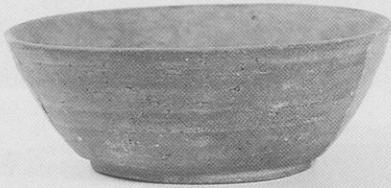
65 SK 005



3

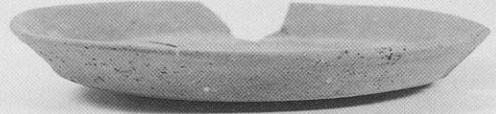


16

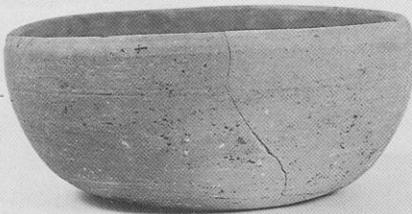


8

65 SX 020

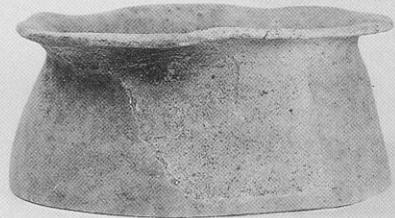


5



12

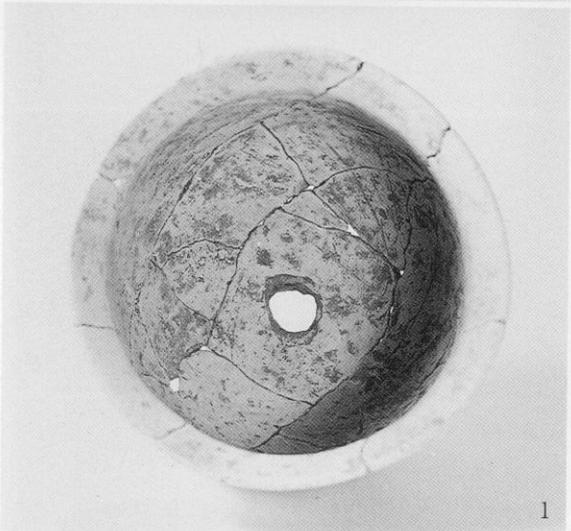
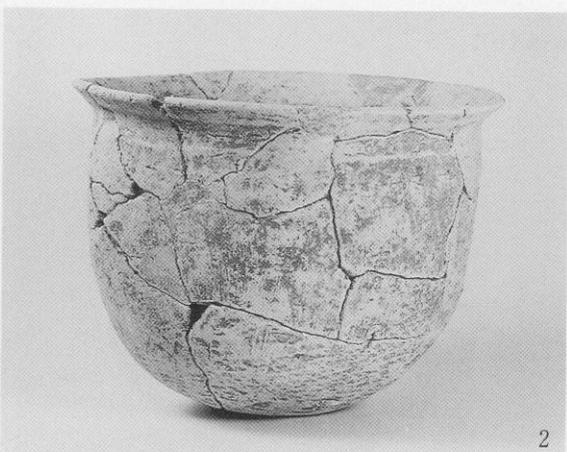
65 SK 005



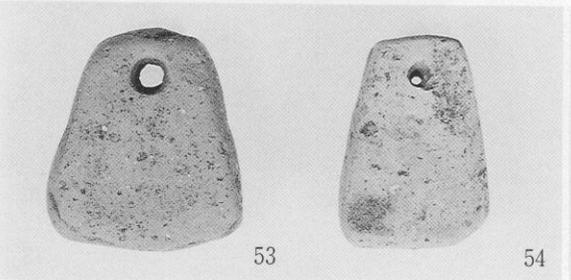
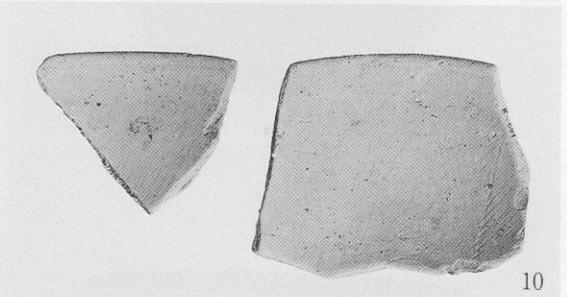
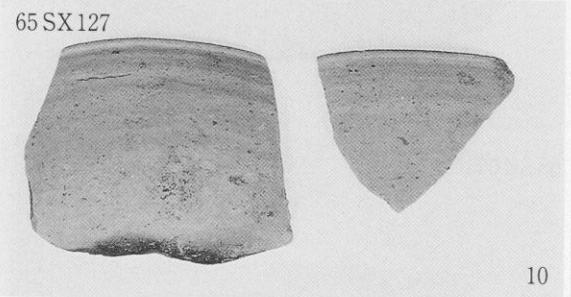
13

PL. 6 第65次

65SX135



65SX127



第65次各遺構出土土器



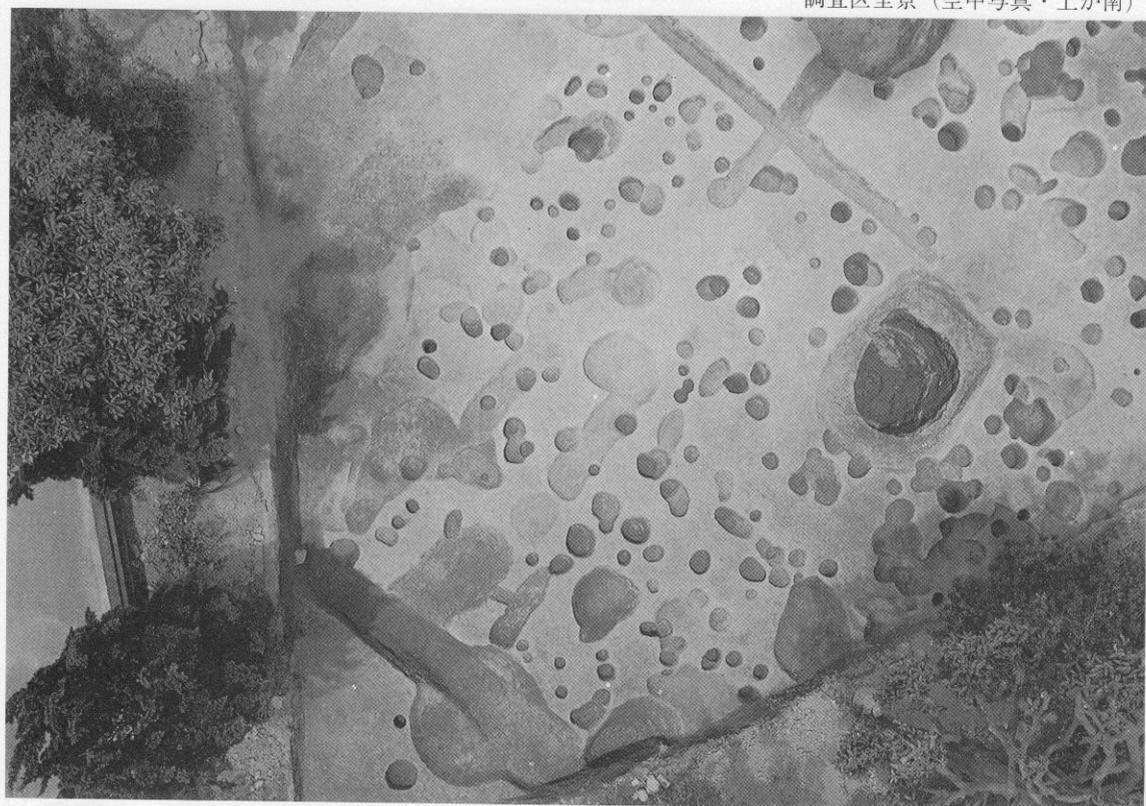
第81次調査地上空より政庁跡・榎社を望む（空中写真・南から）



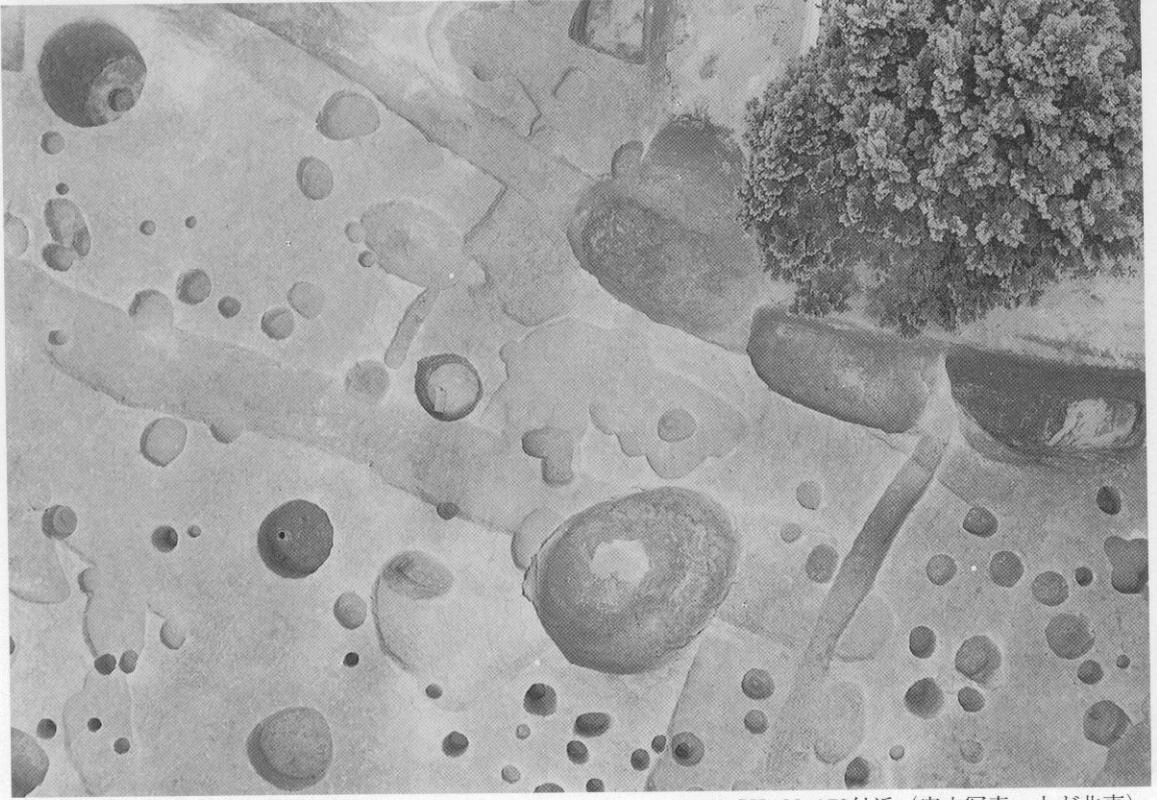
調査区全景（空中写真・上が南西）



調査区全景（空中写真・上が南）



81 SD245付近（左下が81 SD245、空中写真）



81SK130・170付近（空中写真・上が北東）



81SE001完堀状況（西から）



81SK070遺物出土状況（東から）



81SE105完掘状況（北から）



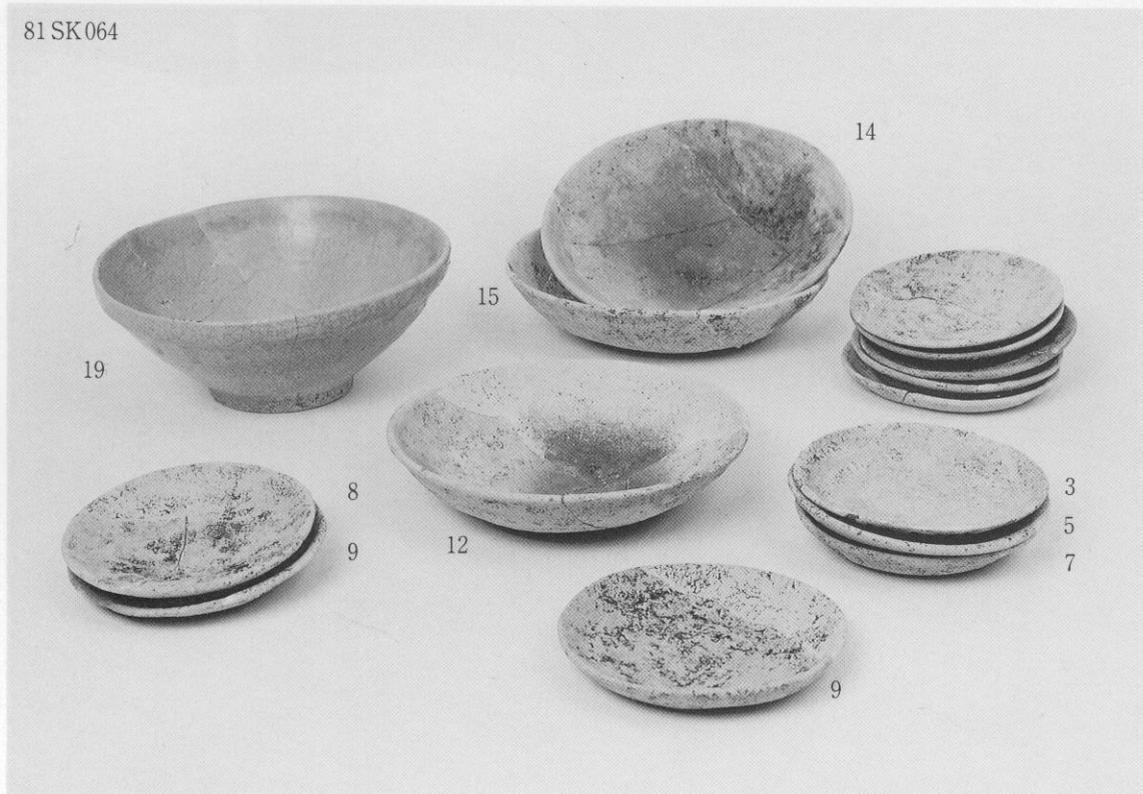
81 SE030土層断面（北から）



81 SE245土層断面（南から）

PL.12 第81次

81SK064

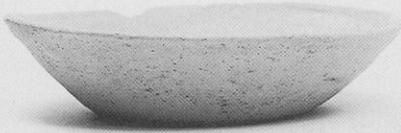


81SK070

29



81SK070



4



17



29



36



39



40

81SK120



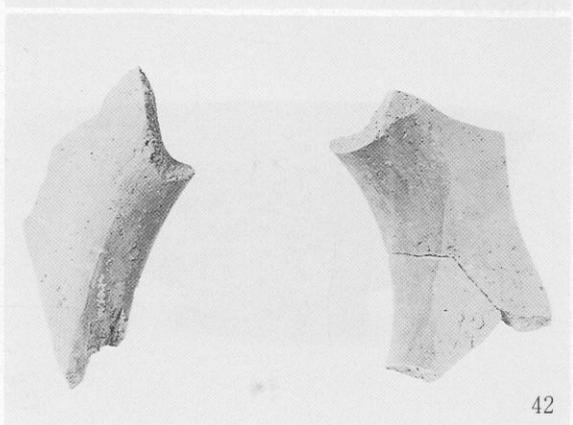
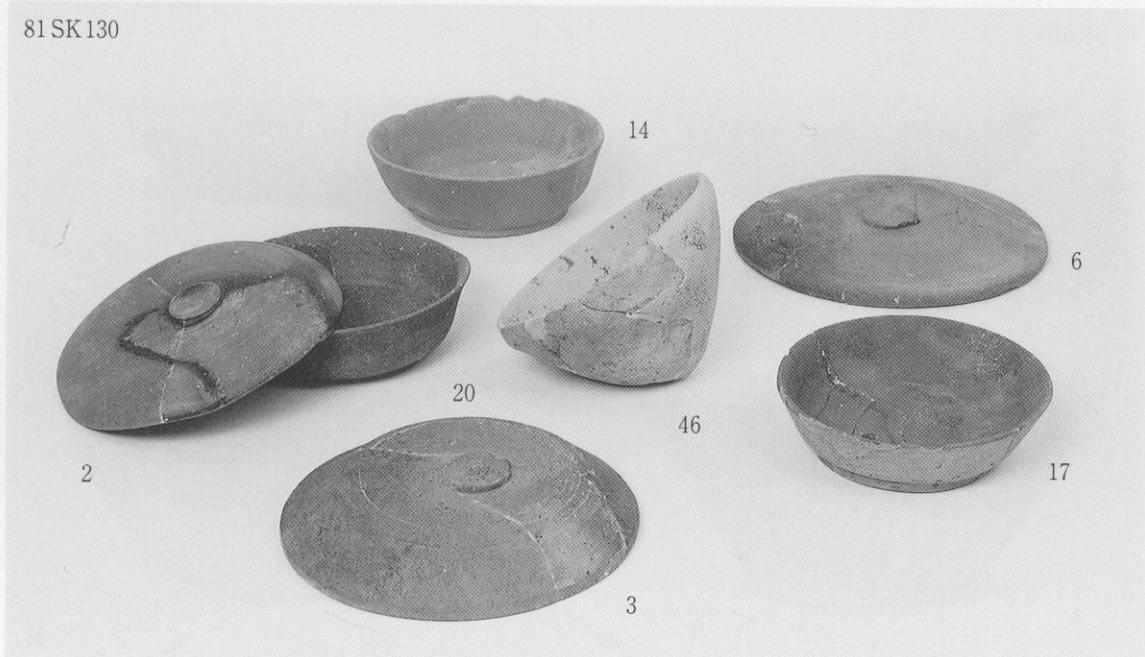
42



40

PL.14 第81次

81SK130



81SK135



81SK170



PL.16 第81次

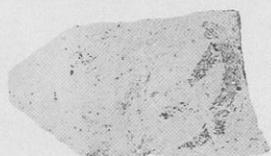
81SK170



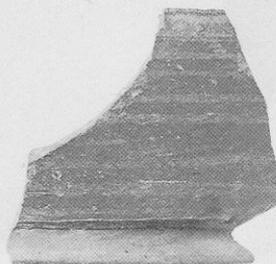
51



50



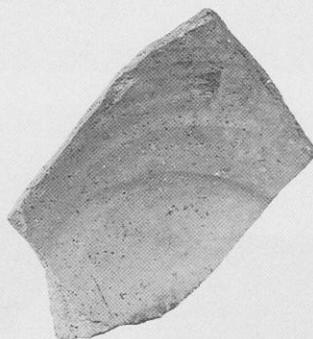
8



6



7



7

81SE060



52



21

81 SE066



81 SD100



1



8



3



2

PL.18 第81次

81SD110



18

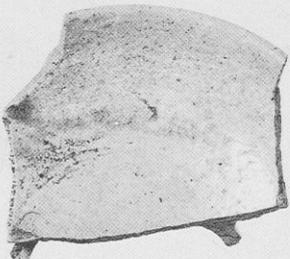
81SD165



3



18



3

81SD245



4



9



12

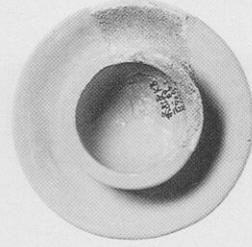


13

81SX069



8



8

81SX129



1



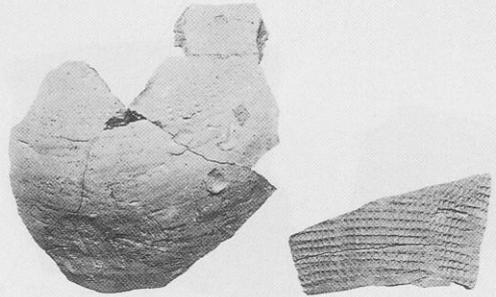
1

81SX180



14

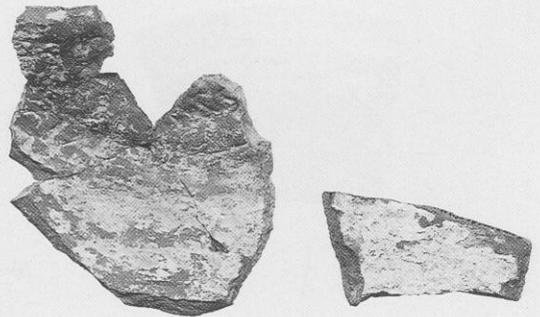
81SX244



4



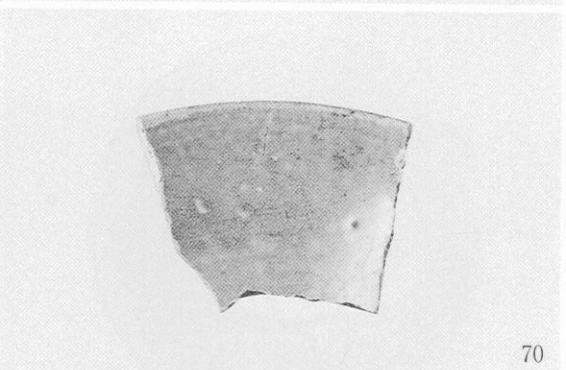
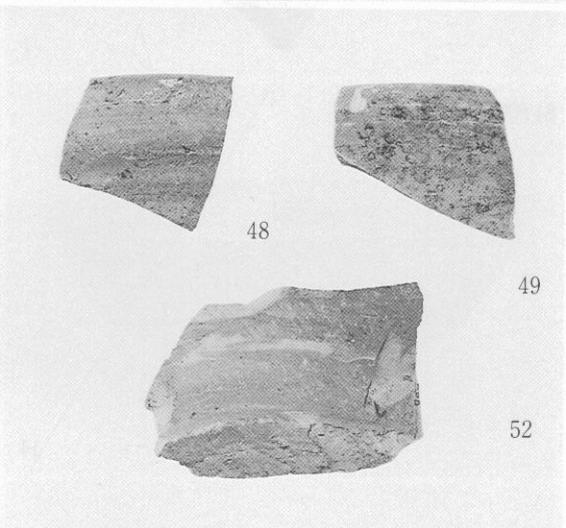
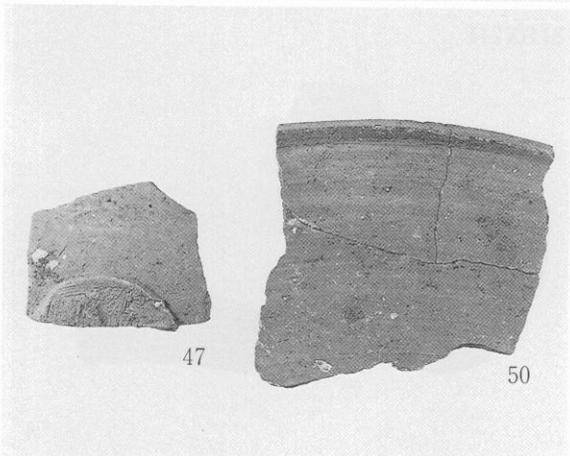
14



4

PL.20 第81次

茶褐色土



暗茶色土



3



3

石製品



4



5



3



2



6



1



1



調査区上層全景（空中写真、東から、正面の森が王城神社）



調査区上層全景（空中写真・上が北）



調査区下層全景（北東から）



89SF150全景（北西から）



89SK120内壺検出状況（東から）



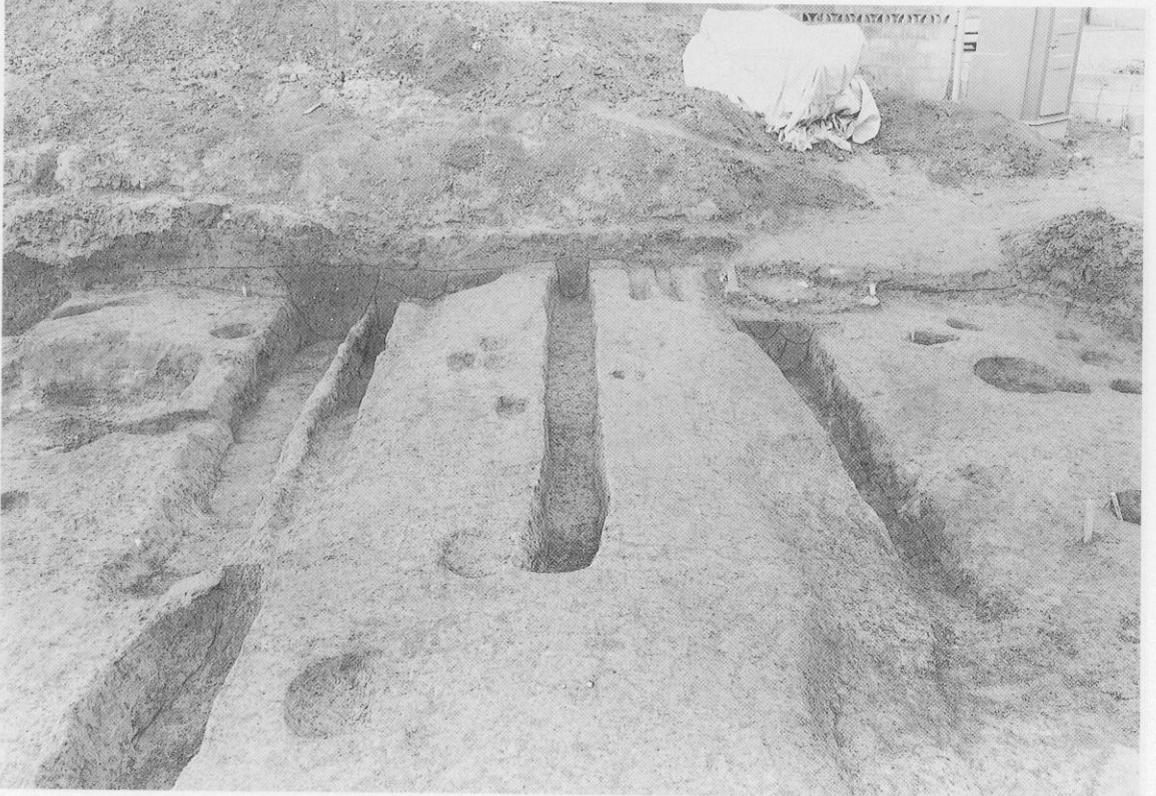
89SK122完掘状況（南東から）



上層遺構面での89 SF150の状況（北から）



下層遺構面での89 SF150の状況（北から）



上層遺構面での89 SF150の状況（南から）



下層遺構面での89 SF150の状況（南から）

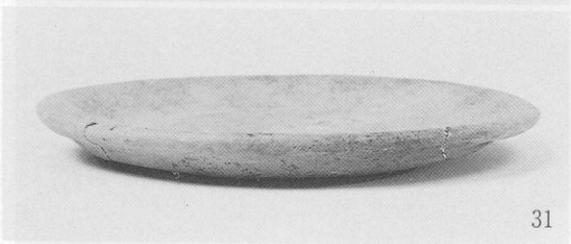
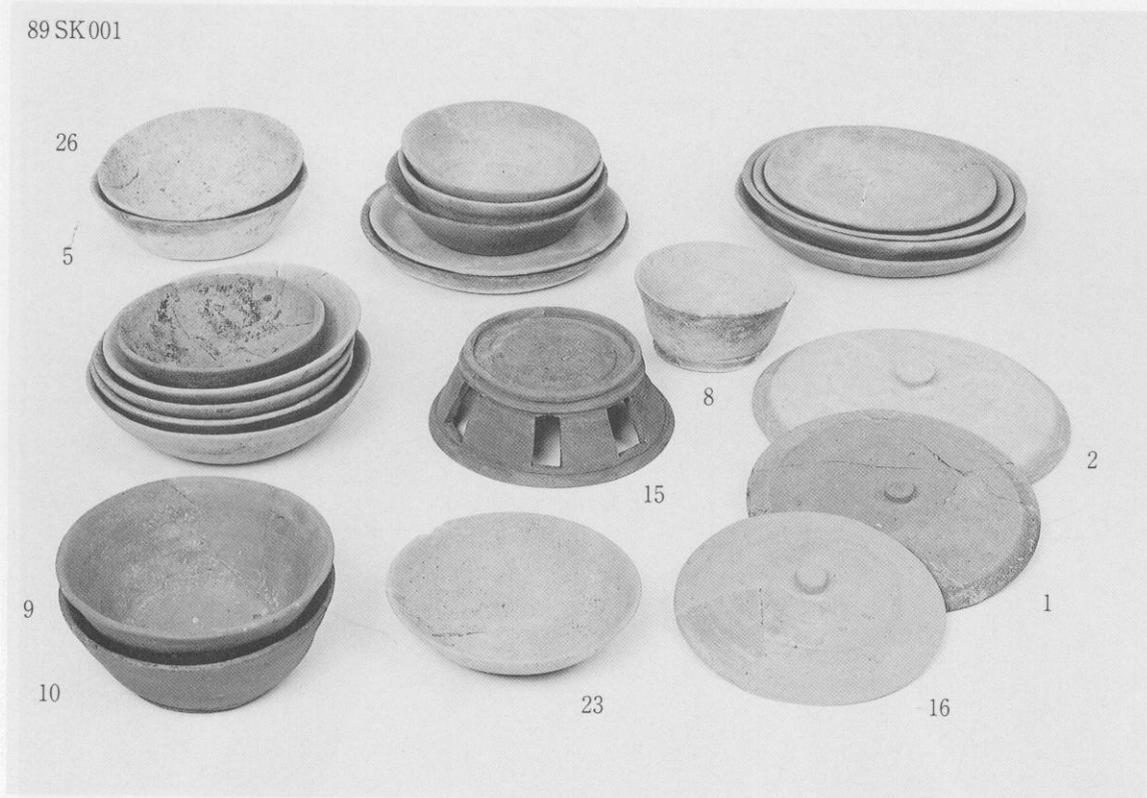


89 SF150切断面上層 (南から)



89 SF150切断面 (南から)

89SK001



89SK001



40

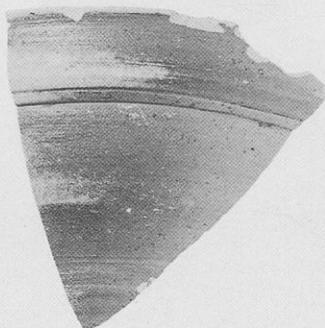


42

89SK005



3



4

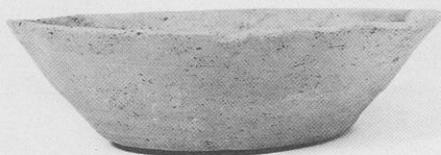


6

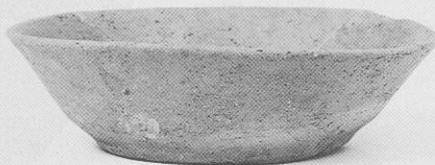


7

89SK010



7



6



1



9

PL. 30 第89次

89SK010



12



15

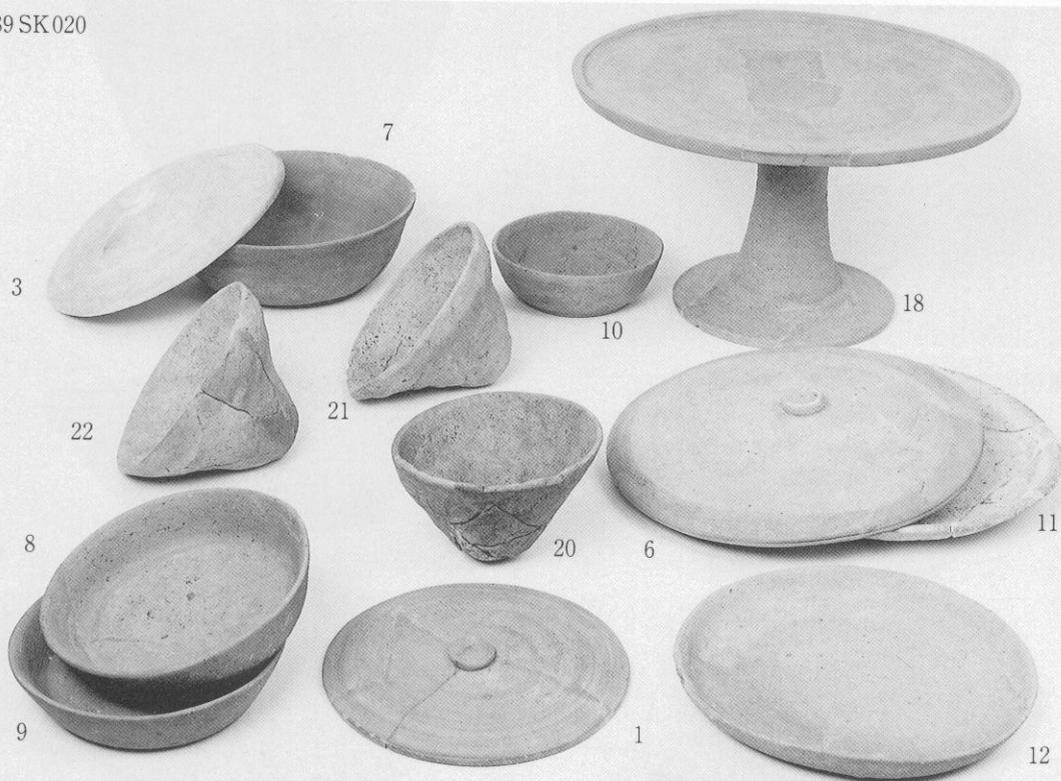


14



15

89SK020



7

3

22

8

9

21

10

20

6

1

18

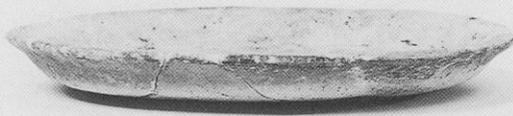
11

12

89 SK 020

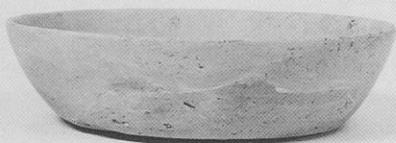


12



11

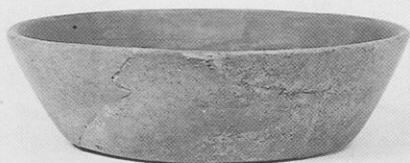
89 SK 025



1



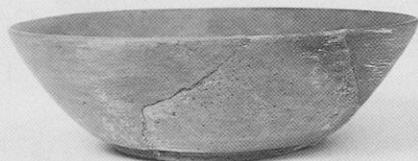
2



4



3



5



6

89 SK 030



1



3

PL.32 第89次

89 SK 030



5



7

89 SK 050



31

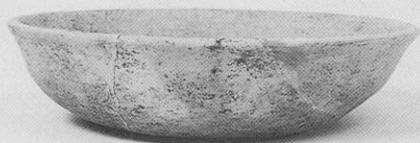


30

89 SK 050



89 SK 060



7



5

89 SK 065



21



12



6



5



11



8



8



12

89SK115



89SK120



89SK122



89SE040



89SE040



9



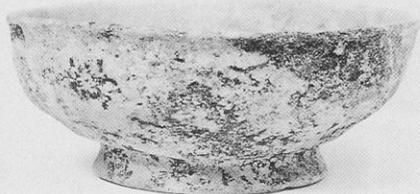
10



2



4



15



6



18



19



21



20

89 SE045



8



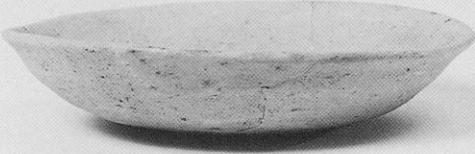
6

89 SD090



2

89 SD100



19

89 SD100



22

89 SD153



46

89 SD154



50

89 SX112



5

89 SX076



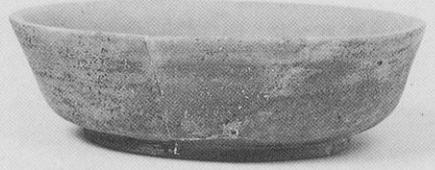
1

PL. 38 第89次

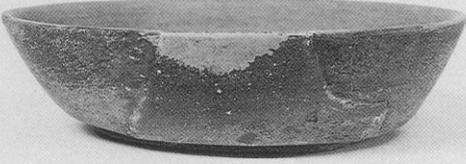
淡灰色土



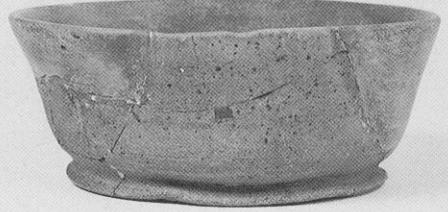
1



6

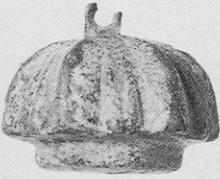


7



5

暗黒茶色土



9



9



9

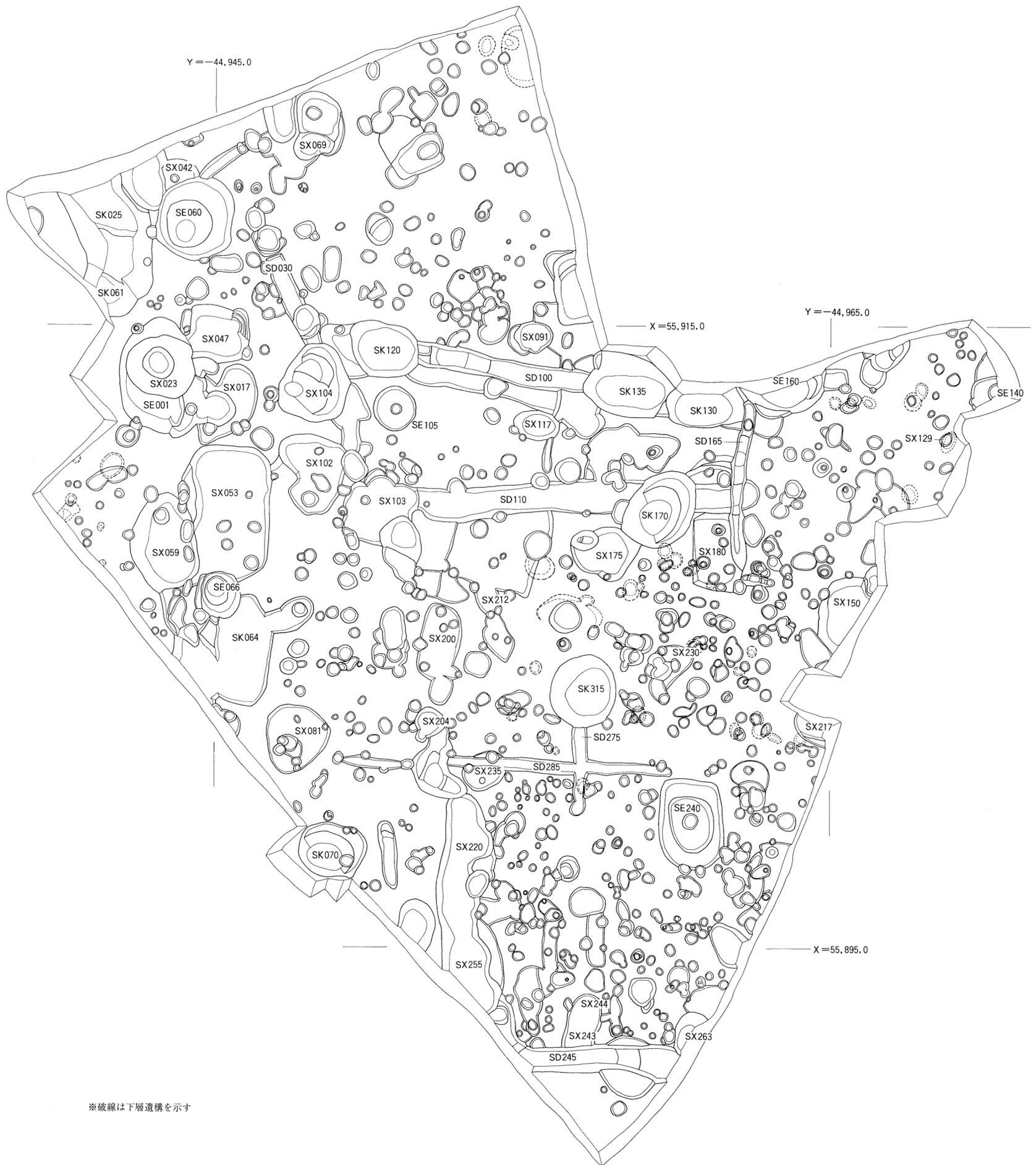


9

太宰府市の文化財 第28集  
大宰府条坊跡Ⅶ

平成7年3月

編 集	太宰府市教育委員会
発 行	太宰府市観世音寺1-1-1
印 刷	大道印刷株式会社
	春日市日の出町6-23



付図1 第81次調査遺構配置図(1/100)



付図2 第81次調査略測図(1/100)